

嘉庆道光两朝上谕档



广西师范大学出版社

ISBN7-5633-2808-4/K.119

定价：25000.00元



中國第一歷史檔案館編

嘉慶朝上諭檔

第七冊（嘉慶七年）

廣西師範大學出版社

《嘉慶道光兩朝上諭檔》編輯委員會

主任：邢永福

副主任：楊繼波

編委：邢永福 楊繼波 趙雄 李守郡

牛平漢 盧經 李平

主編：趙雄

副主編：李守郡 牛平漢

本冊編輯：郭慧

技術支持：董福芝 黎三羊 王海歐

張萍 周玲 張濤

嘉慶道光兩朝上諭檔 第七冊 目錄

嘉慶七年(壬戌 公元一八〇二年)

正月		
初一日	(一)
初二日	(二)
初四日	(二)
初五日	(三)
初七日	(三)
初十日	(五)
十一日	(七)
十二日	(七)
十三日	(七)
十四日	(七)
十五日	(八)
十六日	(八)
十七日	(九)
十八日	(九)
十九日	(九)
二十日	(一〇)
二十一日	(一一)

二月		
初一日	(一二)
初四日	(一二)
初五日	(一二)
初六日	(三四)
初七日	(三四)
初九日	(三五)
初十日	(三五)
十一日	(三五)
十二日	(三六)
二十九日	(三〇)
二十七日	(三四)
二十六日	(三三)
二十五日	(三二)
二十四日	(二〇)
二十三日	(一四)
二十二日	(一二)

三月

十三日	(三七)
十七日	(三七)
十九日	(三八)
二十日	(四〇)
二十一日	(四三)
二十二日	(四三)
二十三日	(四五)
二十四日	(四六)
二十五日	(四九)
二十六日	(五一)
二十七日	(五一)
二十九日	(五二)
初一日	(五五)
初二日	(五五)
初四日	(五六)
初六日	(五七)
初七日	(五八)
初八日	(五九)
初九日	(五九)
初十日	(六〇)
十一日	(六一)
十三日	(六三)

四月

十四日	(六四)
十五日	(六五)
十六日	(六五)
十七日	(六五)
十八日	(六七)
十九日	(六八)
二十日	(六九)
二十一日	(六九)
二十二日	(七一)
二十四日	(七三)
二十五日	(七四)
二十六日	(七六)
二十七日	(七七)
二十八日	(七八)
二十九日	(七九)
三十日	(七九)
初一日	(八一)
初二日	(八一)
初三日	(八四)
初五日	(八四)
初八日	(八八)
初九日	(八九)

五月

初十日	(八九)
十一日	(九二)
十二日	(九二)
十三日	(九三)
十四日	(九五)
十五日	(九六)
十六日	(一〇三)
十七日	(一〇六)
十八日	(一〇七)
十九日	(一一二)
二十日	(一一二)
二十一日	(一一四)
二十二日	(一一五)
二十三日	(一一六)
二十四日	(一一七)
二十五日	(一一八)
二十六日	(一一八)
二十七日	(一二二)
二十八日	(一二三)
二十九日	(一二三)
初一日	(一二四)
初二日	(一二五)

初三日	(一二五)
初四日	(一二六)
初五日	(二二八)
初六日	(二二八)
初八日	(二二九)
初九日	(二三〇)
初十日	(二三二)
十一日	(二三二)
十二日	(二三三)
十三日	(三三五)
十四日	(三三六)
十五日	(三三七)
十六日	(三三七)
十七日	(三三七)
十八日	(三三七)
十九日	(三三七)
二十日	(三三八)
二十一日	(三三九)
二十二日	(三四二)
二十三日	(三四二)
二十四日	(三四二)
二十五日	(四四二)
二十六日	(四四三)
二十七日	(四四三)
二十八日	(四四六)
二十九日	(四四八)

六月

三十日	(一四八)
初一日	(一五一)
初二日	(一五一)
初三日	(一五二)
初四日	(一五四)
初五日	(一五六)
初六日	(一五八)
初七日	(一五九)
初九日	(一六〇)
初十日	(一六〇)
十一日	(一六一)
十二日	(一六一)
十三日	(一六二)
十四日	(一六四)
十五日	(一六四)
十六日	(一六四)
十七日	(一六五)
十八日	(一六六)
十九日	(一六八)
二十日	(一六八)
二十一日	(一七〇)
二十二日	(一七五)
二十四日	(一七六)

七月

二十五日	(一七七)
二十七日	(一八一)
二十八日	(一八一)
二十九日	(一八三)
初二日	(一八六)
初三日	(一八六)
初四日	(一八八)
初五日	(一九四)
初六日	(一九五)
初七日	(一九五)
初八日	(一九九)
初九日	(二〇〇)
初十日	(二〇〇)
十一日	(二〇四)
十二日	(二〇六)
十三日	(二〇七)
十五日	(二〇八)
十六日	(二〇九)
十七日	(二一一)
十八日	(二一三)
二十日	(二一七)
二十一日	(二一八)

八月

二十二日	(二二〇)
二十三日	(二二一)
二十四日	(二二二)
二十五日	(二二三)
二十六日	(二二四)
二十七日	(二二七)
二十九日	(二二九)
三十日	(二三〇)
初一日	(二三二)
初二日	(二三四)
初三日	(二三六)
初四日	(二四〇)
初五日	(二四一)
初六日	(二四三)
初九日	(二四五)
初十日	(二四九)
十一日	(二五二)
十二日	(二五五)
十三日	(二六〇)
十四日	(二六一)
十五日	(二六三)
十六日	(二六三)

九月

十九日	(二六四)
二十日	(二六六)
二十二日	(二六八)
二十三日	(二七一)
二十四日	(二七一)
二十五日	(二七二)
二十六日	(二七五)
二十七日	(二七六)
二十八日	(二七七)
二十九日	(二八二)
三十日	(二八四)
初一日	(二八六)
初二日	(二八七)
初三日	(二八九)
初四日	(二八九)
初五日	(二九二)
初六日	(二九五)
初七日	(二九六)
初八日	(三〇一)
初九日	(三〇二)
初十日	(三〇五)
十一日	(三〇八)

十月

十二日	(三二一)
十三日	(三二四)
十四日	(三二五)
十五日	(三二七)
十六日	(三二八)
十七日	(三三〇)
十八日	(三三〇)
十九日	(三三一)
二十日	(三三四)
二十一日	(三三四)
二十二日	(三三六)
二十四日	(三三〇)
二十五日	(三三一)
二十六日	(三三四)
二十七日	(三三五)
二十八日	(三三六)
二十九日	(三三八)
三十日	(三三九)
初一日	(三四三)
初三日	(三四三)
初五日	(三四四)
初七日	(三四七)

十一月

十一日	(三四八)
十二日	(三四八)
十三日	(三四九)
十四日	(三五五)
十六日	(三五五)
十七日	(三五五)
十八日	(三五七)
十九日	(三五九)
二十日	(三六一)
二十一日	(三六三)
二十二日	(三六六)
二十三日	(三六七)
二十四日	(三六八)
二十五日	(三七〇)
二十六日	(三七一)
二十七日	(三七五)
二十八日	(三七七)
二十九日	(三七八)
初二日	(三八〇)
初三日	(三八〇)
初四日	(三八五)
初六日	(三八七)

初七日	(三九〇)
初八日	(三九二)
初九日	(三九四)
初十日	(三九六)
十一日	(三九七)
十二日	(三九七)
十三日	(三九九)
十四日	(四〇〇)
十五日	(四〇三)
十七日	(四〇五)
十八日	(四〇五)
十九日	(四〇五)
二十一日	(四〇七)
二十二日	(四一一)
二十三日	(四一二)
二十四日	(四一九)
二十五日	(四二二)
二十六日	(四二四)
二十九日	(四二五)
三十日	(四二六)
十二月		
初一日	(四二八)
初二日	(四二九)

初三日	(四三〇)
初四日	(四三一)
初五日	(四三七)
初六日	(四三七)
初七日	(四四〇)
初九日	(四四四)
初十日	(四四八)
十一日	(四四八)
十二日	(四四九)
十三日	(四五二)
十四日	(四五五)
十五日	(四五七)
十六日	(四六〇)
十七日	(四六三)
十八日	(四六四)
十九日	(四六五)
二十日	(四六七)
二十一日	(四七一)
二十二日	(四七二)
二十三日	(四七三)
二十四日	(四七三)
二十五日	(四七六)
二十六日	(四七七)
二十七日	(四七八)
二十八日	(四七九)

嘉慶道光兩朝上諭檔 第七冊 校勘表

序號	頁碼	原檔頁碼	校勘內容
一二	四	二五	調整
三五	一〇	六九	調整
四五	一二	八四	正月二十二日
五六	一六	一一一	調整
五七	一六	一一三	調整
五八	一六	一一五	調整
五九	一七	一一九	調整
六〇	一八	一二一	調整
六一	一九	一二五	調整
六二	一九	一二七	調整
六三	一九	一二九	調整
七四	二三	一五三	調整
七五	二三	一五四	調整
八三	二五	一六一	調整
九五	三二	二一七	調整

序號	頁碼	原檔頁碼	校勘內容
一一一	三八	二六一	調整
一二五	四〇	二五九	調整
一二八	四一	二七五	調整
一四五	四六	二八九	調整
一七八	五八	三七四	三月初七日
二一六	七三	四五三	調整
二二八	七七	四七五	調整
二二九	七七	四七六	調整
二三〇	七七	四七八	三月二十六日
二三八	八一	一	殘缺
二五八	八七	三九	四月初五日
二六九	九〇	五七	四月初十日
三〇〇	一〇七	一五五	調整
三〇一	一〇七	一五七	調整
三〇二	一〇八	一五九	調整

序號	頁碼	原權頁碼	校勘內容
三三三	一一〇	二二九	調整
三三五	一一一	二二七	調整
三七五	一三五	三〇五	調整
三九七	一四四	三六七	調整
四三一	一五六	四二五	調整
四五二	一六四	四七六	六月十六日
四六六	一六九	五〇七	調整
四七五	一七二	五二五	調整
四七六	一七三	五二七	調整
四七七	一七三	五二九	調整
四七八	一七四	五三一	調整
五六〇	二二二	一三九	調整
六〇〇	二二七	二二七	調整
六〇三	二二八	二二六	七月二十七日
六一二	二三〇	二四九	調整
六三七	二四二	三二三	調整
六三八	二四二	三一	調整
六五四	二五〇	三五五	調整
六七三	二五九	三七三	調整

序號	頁碼	原權頁碼	校勘內容
七二二	二七八	八一	調整
七二七	二八〇	八三	調整
七二二	二八二	八四	調整
七五九	二九七	一六五	九月初七日
七九七	三一二	二四五	調整
八三一	三二八	三三五	調整
八三二	三二九	三三七	調整
八三三	三二九	三三九	調整
八七〇	三四三	二	殘缺
八八八	三五〇	六九	調整
八九三	三五三	六八	調整
九三三	三六六	一二四	調整
九五九	三七七	一九六	調整
九九四	三九四	二八四	污迹(將)
一〇一九	四〇五	一	調整·殘缺
一〇四〇	四一四	六三	調整
一〇六九	四二七	一一五	十一月三十日
一〇八五	四三三	一四九	十二月初四日
一一二七	四五五	二五九	調整
一一七一	四七五	三七一	殘缺(欵)
一一九二	四八〇	四一一	調整

1 嘉慶七年正月初一日內閣奉

上諭上年京城附近貧民節經降旨設廠放賑並於常例之外加恩製備棉衣散給窮黎業已均沾實惠此次朕恭謁

裕陵所有鑿輅經過之通州三河薊州遵化四州縣中

雖時交春令氣候尚寒恐貧民猶有衣不蔽體者著加恩賞給棉衣二萬件令順天府送交陳大文轉飭各該地方官於迴鑾後均勻散給以示朕恩施無已至意欽此

2 嘉慶七年正月初一日內閣奉

上諭朕此次恭謁

裕陵行三週年禮所有沿途經過地方著加恩將本年

應徵地丁錢糧蠲免十分之三欽此

3 嘉慶七年正月初二日內閣奉

上諭向來祭

社稷壇應用上戊本年二月初七日係上戊乃欽天監所定祀期擇用十七日次戊於典禮未協仍著

查照向例於二月初六日上丁祭

先師孔子即於次日上戊恭祀

社稷壇該衙門敬謹預備嗣後祭社稷壇俱照用上戊欽此

4 嘉慶七年正月初二日內閣奉

上諭長麟奏調補知縣以裨地方一摺現在甘省成縣禮縣有辦理善後事宜及撫卹災民等事自須酌調勤幹之員以資經理著照所請方聯聚准其調補成縣知縣其所遺王子庄州同員缺即著羅元翁改補孫是蘭准其調補禮縣知縣其所遺環縣知縣員缺即著傅思誠調補該部知道摺併發欽此

5 嘉慶七年正月初二日奉

旨長麟保奏堪勝陸路總兵之安西協副將德成額著准其送部引見欽此

6 嘉慶七年正月初四日內閣奉

上諭上年直隸被水各州縣節經降旨加恩分別蠲免錢糧內文安一縣被水尤重復經降旨令陳大文實力查勘嗣據陳大文奏該縣在河間大城之下游四面環堤形如釜底不獨河水泛溢為灾即雨水稍多常被淹浸查該縣全境三百六十村庄內蘓橋等五十一村庄名為大窪乾隆三十八年曾經欽奉

恩旨將此窪地視積水之多寡定賦糧之等差歷經遵辦在案等語文安縣地勢窪下土瘠民貧殊堪憫念除上年及本年應徵錢糧俱全行豁免外嗣後該縣三百六十村庄每年額徵地糧著加恩照度雲臨之例豁免十分之三永著為令內大窪五十一村庄地糧應徵七成銀兩仍按年查勘視積水之大小分別減免該督等仍當隨時疏濬不致積滯為患以副朕軫念灾區敷錫春祺至意該部知道欽此

7 嘉慶七年正月初四日內閣奉

上諭陝西省興平武功等州縣上年被旱歲收業經加恩蠲緩賑卹小民已無虞失所但念今春青黃不接之時民食恐未能寬裕所有上年被灾六分之興平武功二縣極貧戶口並成灾七分之醴泉乾州二州縣極次貧民著再加恩展賑一個月即於存款銀兩內動支折放其各州縣有應行借給常社倉糧之處並著該撫督率所屬悉心經理務俾閭閻均霑寔惠以副朕軫念編氓春祺著錫至意該部即遵諭行欽此

8 嘉慶七年正月初四日內閣奉

上諭甘肅省皋蘭狄道等州縣上年被旱歉收業經加恩給賑蠲緩小民已無虞失所惟念該處山高土冷節氣較遲今春青黃不接之時究恐民力不無拮据所有上年被灾之皋蘭等四十四廳州縣著再加恩無論極次貧民普行展賑一個月俾窮黎藉資接濟該督等務須督率所屬認真辦理毋任吏胥侵冒以副朕普錫春祺恩施無已至意該部即遵諭行欽此

9 嘉慶七年正月初五日內閣奉

上諭朕此次恭謁

裕陵行三週年禮往來驛路所經及

陵內兵丁等除道巡邏均為妥協念時屆新正且天氣

尚寒所有派出辦差兵丁俱著加恩賞給一月錢糧以示體恤欽此

10 臣等遵

旨詢問陳大文特清額據稱此次辦差兵丁由各鎮

協調到計一千四百零六名馬蘭鎮標亦派出兵

丁三百四十五名在

陵內當差著語此項兵丁應否一體

賞給錢糧之處伏候

訓示且等再擬寫

諭旨進

呈謹

奏

正月初五日

11 嘉慶七年正月初七日內閣奉

上諭朕聞上年江西正考官周興岱前赴該省以侍

直內廷炫耀高興口稱有奉旨查訪地方之事並

擅出告示收受程儀等情恐未盡確實當即親書

硃諭密令張誠基東公詳查並諭此事若虛即差

人覆奏如果屬實即由三百里奏聞倘張誠基查

明實無其事尚當明降諭旨為之消雪乃張誠基

由驛奏到之摺與朕所聞無異當將原摺批交周

興岱明白迴奏茲據伊奏稱與江西地方官接見

時並未提及查訪地方事務惟素聞該省房官多

有舞弊是以於入闈前出示嚴防閱卷時有呈薦

草率者面加駁斥至巡撫司道及房考官向例致

送程儀曾再四堅却始行收受等語朕簡派各省

考官專為檢才大典原不干預外事即周興岱係

內廷行走伊陛辭時亦並未令其兼查地方事件今

伊回奏摺內於此一節雖不敢自行承認而其擅

發告示收受程儀衣服業已屬實各省主考專司

銜校防弊係監臨責任今周興岱擅出告示即係

倍若非周興岱以供奉內廷在外誇張何以該省
官員畏其聲勢饋遺從厚耶周興岱係戶部侍郎
兼管錢局二品大員得項優厚非如翰林部曹等
官職分較小者可比奉命典試自應潔已奉公保
全顏面乃於該省官員餽送銀兩輒行收受並告
以未帶冬衣致撫藩等添送衣裳殊屬卑鄙豈可
復玷內廷清秩周興岱着退出南書房仍交部嚴
加議處至外省地方大吏節經降旨嚴禁餽送今
張誠基等不但仍沿陋習致送主考程儀並因周
興岱係屬內廷增多見好且據張誠基摺內稱該
省彌補虧缺將從前浪費省出歸公似此濫行餽
送非浮費而何況周興岱即向人炫耀亦不過詞
氣之間偶有流露何致通省相率趨承甚至周興
岱口稱未帶皮衣即行餽贈可見張誠基等平日
辦事必非無瑕可指慮其舉發故兩曲意周旋均
建說摺內
屬不食張誠基即洪銜齡俱着交部議處向來正
副考官奉差出京無論官階大小各按省分遠近
賞給盤費並准馳驛前往行走已屬從容其職分
較小之翰林部曹等官出闈後督撫兩司眷慮優

厚或致送土儀補助路費尚屬地主之誼至房考
各官俱係州縣祿入無多嗣後不得私自饋送考
通闈即由主考受房考之餽送何能秉公閱卷
官亦不得輒行收納若考官係三品以上大員即
督撫兩司亦不准致送路費倘經此次訓諭之後
仍有私行餽送收受者一經查出即嚴行懲辦特
此通諭知之欽此

12 臣等遵

旨將上年江西副考官刑部主事陳廷桂傳到詢問
據稱我上年與周興岱到江西省城時係同舟
過江當有知府趙鴻文來見說巡撫各官俱在
接官亭等候恭請

聖安及到接官亭請

安後我與周興岱同進公館並未聞周興岱預先知

會令地方官跪請

聖安亦未令我先進公館至進闈後閱看文藝均係
互相參酌周興岱時時執卷與我評定優劣實
無蔑視之事其房官中有閱卷草率者聞周興
岱屢加詰飭是有的並沒有聽見他向地方官

說有查辦地方事件的話至臨行時巡撫送我贖儀八十兩藩司一百二十兩臬司一百二十兩兩道各一百兩首府三十兩兩首縣各五十兩十四房官共六百兩我因聞向來如此是以冒昧收受等語謹

奏

13 嘉慶七年正月初七日內閣奉

上諭英和著在南書房行走欽此

14 嘉慶七年正月初七日內閣奉

上諭興長現已百日孝滿著仍回馬蘭鎮署理提兵兼管內務府大臣事務俟服闋後再行實授成寬著來京供職欽此

15 嘉慶七年正月初十日奉

旨周興岱典試江西時朕並未令其查訪地方公務若果有之尤應倍加慎密何得向人宣露伊係內廷行走之人即諸凡收斂尚恐有人向伊探聽揣

摩况復自行炫耀擅出告示詞意誇張以致通省官員相率趨承贖儀從厚周興岱始雖辭却後仍收受且因未帶冬衣輒向地方官告及殊為卑鄙部議照溺職例革職本屬咎所應得姑念其供職內廷稍有筆墨微勞著加恩降為四品京堂遇缺即補至巡撫張誠基等平日果能清正即周興岱意氣凌人儘可置之不理何至曲意周旋厚遺路費又添贈衣裘實蹈逢迎陋習本應照部議降三級調用但此事經朕降旨查詢該撫即和盤托出不敢曲為徇隱尚可少從末減張誠基印洪銜齡均著加恩改為革職留任嗣後督撫兩司於三品以上文員奉差典試均遵照昨旨毋得滋生覬送路費違者嚴懲不貸欽此

16 嘉慶七年正月初十日內閣奉

上諭朕於二月初三日臨御經筵所有應行典禮著各該衙門敬謹預備欽此

17 嘉慶七年正月初十日內閣奉

上諭戶部右侍郎員缺著平恕調補平恕現在出學

差著初彭齡兼署管理錢法堂事務其平恕所遺之兵部右侍郎員缺著李鈞簡補授仍留學政任伊未回京以前著潘世恩兼署載均元著管理樂部事務欽此

18 嘉慶七年正月初十日內閣奉

上諭朕於三月初八日啓鑾恭謁

泰陵

泰東陵經由盧溝橋一帶敬詣

龍神廟拈香並閱看永定河工程旋躡由潭柘香山

回圓明園所有一切應行事宜各該衙門敬謹預

備欽此

19 嘉慶七年正月初十日奉

旨上年裕祭

太廟光祿寺御五德因初任未諳儀注獻胙後不即退

回漱向侍郎扎郎阿詢問扎郎阿正當贊禮之時

因將五德推回以致贊讀重複是此次失儀皆由

五德一人舛錯所致五德著照部議降一級留任

扎郎阿雖亦有應得之咎但念其昨在

祈穀壇執事一切贊讀禮儀均屬敬慎妥協其罰俸六

個月之處著加恩寬免欽此

20 山高水長還安擬

加賞朝鮮暹羅使臣物件清單

正使二員

錦各三疋

漳絨各三疋

大卷八絲緞各四疋

小卷五絲緞各四疋

大荷包各一對

小荷包各四個

副使三員

錦各二疋

漳絨各二疋

大卷八絲緞各三疋

小卷五絲緞各三疋

大荷包各一對

小荷包各二個

朝鮮國使臣

正使曹允大

副使徐美修

暹羅國使臣

正貢使呷雅騷滑粒巡段呵叭喇昭突

三貢使廊勃車哪鼻們早突

四貢使坤第匹吹遮辦亨

21 嘉慶七年正月十一日內閣奉

上諭上年京城附近貧民及通州三河等處已散給棉衣窮黎均沾寔惠因思現交春令天氣尚寒此
次朕於三月初八日恭謁

西陵經過地方亦應一體散給所有涿州良鄉易州各發給五千件涿水房縣共發五千件令順天府送交該地方先行均勻散放以普恩施欽此

22 嘉慶七年正月十二日內閣奉

上諭內閣學士員缺著關槐補授欽此

正月初一 上諭蜀道沿道修已以分錢幣十分之三
白費缺此一頁

23 嘉慶七年正月十二日內閣奉

上諭內閣學士員缺著關槐補授欽此

24 昨蒙

發下

味餘書室詩集應行更改各處遵即將板片修改謹

於預備

香山陳設本內改補粘簽進

呈候

發下再請將各處陳設本一體改補謹
奏

正月十二日

25 嘉慶七年正月十三日奉

旨此次經筵著改於正月二十八日還宮辦事後預

備欽此

26 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 嘉慶七年正月十

四日奉

上諭吉慶奏安南貢使請照乾隆六十年由廣東江西安徽江南山東直隸一路進京等語現在大兵即日奉凱湖北沿途支應夫馬差使較餘所有安南貢使自木使再由該省前進著即照乾隆六十

年經由省分妥為經理再前據該督奏安南與農耐構擊夷人農福連帶同農耐打仗三路進攻賊城是阮光緒勢甚危急近日安南與農耐交兵勝負情形若何此次摺內未經提及並著該督察探明確遇便具奏將此諭令知之欽此遵

吉寄信前來

27 嘉慶七年正月十四日內閣奉

上諭惠齡等奏甘肅靖遠協副將齊郎阿年老患病不能動履請令休致回旗調理等語齊郎阿著准其以原品休致回旗調理所遺甘肅靖遠協副將員缺著鍾岳補授該部知道摺併發欽此

28 臣等交禮部查暹羅國乾隆初年

冊立

皇后該國並未遣使具表慶

賀惟例載該國三年一貢

頒賞該國王及王妃錦緞紗羅等物此次暹羅國係

屬例貢應照例

頒賞謹

奏

正月十五日

29 嘉慶七年正月十六日奉

旨朝會大典一切服色豈容僭越昨日派出喜起舞之三等侍衛世泰向伊戚鄭親王烏爾恭阿借用帶版尚無不合但烏爾恭阿不應即將親王朝帶版借給而世泰亦不當輒行借用均屬非是烏爾恭阿著交宗人府嚴加議處世泰著交領侍衛內大臣嚴加議處欽此

30 軍機大臣 字寄

浙閩總督玉 嘉慶七年正月十六日奉

上諭玉德奏追捕洋盜蔡幸幫船在柵嶼洋面擊沉盜船二隻盜匪全行沉溺並生擒黃拱等九十餘名等語此次搜捕洋匪賊夥中傷落海身斃者不計其數盜首蔡幸是否即在沉溺之內或仍行他竄現既拿獲活犯多名無難向其嚴切跟究若玉

德提集各犯訊出蔡亭的確蹤跡據實奏聞一面將各犯分別定擬具奏所有傷斃兵丁李有發首民鄒安二名俱著照陣亡例咨部賜卹欽此將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

31 軍機大臣 字寄

駐藏大臣英 福 嘉慶七年正月十七日奉

上諭英善福寧奏善祥邊界情形一摺蘇班色本係從前作木朗部長之叔當作木朗地方被廓爾喀佔去蘇班色投入科洽邊界時即不應容苗居住乃彼時既准其來藏安置而達賴喇嘛等給與口糧已歷有年今若將伊逼出邊界必遭仇害或致情急自戕且因廓爾喀差人向索即將蘇班色送出亦非天朝體制英善福寧應飭令派出之員^善為開導如蘇班色情愿搬移即聽其便若實無可歸之處即照所奏于前藏另籌地方將蘇班色跟隨隨人盡行散去祇令帶親屬數人妥為安插既可不致滋生弊端且達賴喇嘛本與作木朗素好

即可交伊照管亦足以安達賴喇嘛之心並當曉諭蘇班色以此次乃天朝格外加恩伊惟當安心居住不可少滋事端倘仍有不安本分之處王法具在不能再為寬宥俾知儆惕至另片奏廓爾喀父子內閣情形此事與內地無涉英善等當遵照前旨不必過問惟嚴飭邊界密為防範毋令該部落之人竄入境內為要將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

32 嘉慶七年正月十八日奉

旨德蘇肯著革職交刑部提集人証審擬具奏欽此

33 嘉慶七年正月十九日內閣奉

上諭山西巡撫伯麟奏請晉鹽行銷地界給票驗放以杜偷越一摺晉鹽課歸地丁原以便民茲於晉豫閩津等處層層驗票始令販運誠恐官吏等從中勒索致滋弊端而於稽察私販越境仍無裨益其如何設法嚴禁越販又不致擾累商民之處著該部詳悉妥議具奏摺併發欽此

34 嘉慶七年正月十九日內閣奉

上諭侍郎陳萬全上年因染患痰疾即曾奏懇解任調理特加恩給假醫治不令開缺並令于病痊後專在本衙門辦事不必兼尚書房行走以示體恤本日復據陳全奏稱數月來趕緊調治尚未全愈現在已屆開篆職不安仍懇俯准開缺回籍就醫等語陳萬全著准其解任回籍調理欽此

35 臣等遵

旨派令軍機章京姚祖同往看陳萬全病勢據稱陳萬全所患痰嗽病症較前稍愈惟氣喘未平兩腿浮腫行動不便現在投服補劑尚屬有效但恐一時未能痊愈等語謹

奏

正月十九日

36 嘉慶七年正月十九日內閣奉

上諭李鈞簡著特補兵部左侍郎伊現出學差仍著潘世恩兼署其所遺右侍郎員缺著劉錄之補授莫瞻棗不必兼署兵部事務欽此

37 軍機大臣 字寄

直隸提督特 嘉慶七年正月二十日奉

上諭特清額奏奏玩視公務營員一摺已交部分別議處矣但摺內所稱上年七月赴天津查賑時水陸經過地方多有異言異服之人奔馳絡繹等語該提督上年赴天津查賑屢次奏摺並未提及此事即正月初旬朕恭詣

東陵時途次屢經召見該提督總稱地方安靜今甫經回任忽稱上年伊見有異言異服之人令各營協稽查具報因該員等未經稟報輒以玩視公務叅劾多員殊不可解此等異言異服之人究係穿用何項服色何處語言有何可異該提督何以不及早奏聞至所劾各營員是否因伊等平日廢弛營伍及年力衰邁借此叅劾或止係未經按月稟報著該提督一併據實明白迴奏將此諭令知之欽

此遵

旨寄信前來

38 嘉慶七年正月二十日奉

旨李瀚前經錄事降詞離任袁錫著解任交軍機大臣會同刑部提齊案內人証秉公審擬具奏欽此

御史汪鼎泰奏帶役在袁錫家
字賄滋擾一案

39 嘉慶七年正月二十日奉

旨這所奏玩視公務之遊擊詹廷輝等各員均著交部分別議處欽此

直隸提督博爾濟特

40 本月二十日吏部將左都御史熊枚保奏隨同

辦理賑務出力之刑部郎中劉珏員外郎張鵬

昇二員帶領引

見奉

旨劉珏張鵬昇著交軍機處記名

正月二十一日

41 嘉慶七年正月二十一日奉

旨直隸省三次四次回贖民典奴典三項地畝酌增租銀十三萬三千八百二十九兩零前經降旨全行減免所有公產存退莊頭另業屯莊五項內酌增租銀二萬九千二百四十八兩零與前三項減免之銀事同一律著加恩一併減免俾貧佃均沾實惠經此次減免之後該督務飭各屬實力催徵年清年款毋任再有絲毫拖欠致干重咎餘依議欽此

42 嘉慶七年正月二十一日奉

旨部駁甚是參山禁止私挖例嚴該將軍平日自應實力查辦何得因私參充斥報請歇山況參務業經節次減票並嚴禁饋遺辦理自應裕如若因參苗稀少必須歇山亦應預行奏明豈有正當放棄之時率請停止且秀林摺內將夾帶私人及裁種參苗火干例禁之事公然入奏以掩飾其查辦不力之咎尤為取巧秀林著傳旨申飭本年照部議不准歇山仍遵舊定章程認真查辦俟一年後再將實在情形奏聞請旨餘依議欽此

43 嘉慶七年正月二十二日奉

旨依議嗣後

大祀

中祀如遇過忌辰當以祀典為重不必改移祭祀日

期用昭虔肅欽此

44 嘉慶七年正月二十二日奉

旨朝鮮國陳奏貢物准其留抵下次正貢欽此

45 全日奉

旨知道了欽此

朝鮮例貢

46 嘉慶七年正月二十二日內閣奉

上諭據御史鄭敏行奏請將刑部辦理秋審總冊並呈通行各省臬司遵辦等語向未各直省閱刑衙門俱有律例頒發令其遵辦其罪名輕重因擬時原有一定至于秋審時某項應入情實某項應擬緩決以及可矜留養種種區別之案全在該臬司

衡情準法隨案詳求辦理自無出入若如該御史

所奏將刑部舊定章程通行外省即可畫一遵辦

試思各省每年所辦之案紛紜萬變有同一罪名

而其中情節微有區別即實緩判然不同豈能概

將成式頒行俾無出入况刑部核辦秋審堂議司

議始俱各就所見詳加商酌定議原祇就案折衷

視其情節輕重又焉有拘定章程毫無變通之理

該御史乃稱刑部秋審章程秘藏于總辦司員之

手自圖見長並不通行外省以致各該省臬司無

所遵循辦理多誤殊屬不通達事理鄭敏行所奏

不可行原摺著發還欽此

47 嘉慶七年正月二十二日奉

旨這所奏疎脫絞犯倉差不慎之知縣許恂張京翰把捉王國典著革職留於該處協緝如一年限滿無獲即照例治罪餘照所擬完結該部知道欽此

湖北省恭案

48 嘉慶七年正月二十二日內閣奉

上諭本日軍機大臣會同刑部將審訊袁錫等開圍聚賭案內之家人杜三供詞進呈據供袁錫因被番役查拏曾求過武備院卿鄂羅錫業勒圖事後並給過伊銀票等語鄂羅錫業勒圖現在乾清門行走且係奏事官員於袁錫等聚賭被獲之案豈可公然干預鄂羅錫業勒圖者同供出之中書清昌一併解任歸業嚴行質訊欽此

49 臣等遵

旨會同刑部將御史汪鏞奏袁錫等開圍聚賭案內各人証提到逐一研訊據袁錫李瀚于門鷄被獲一節俱稱係屬家人聚賭伊等並不知情等語與提到步軍統領衙門原卷相同其原卷番役索詐等情各犯供亦俱堅不承認惟袁錫家人杜三將各情節一一供吐雖所供尚係一面之詞但既據供有端緒自應嚴切跟究以成信讞除將杜三供詞錄呈

御覽並將供內應質人証一面提質外應請

旨將杜三供出之武備院卿鄂羅錫業勒圖內閣中書清昌一併解任質訊謹

奏

正月二十二日

50 杜三供我係袁宅家人上年十月未京在宅服役十二月二十日主人在家有李瀚清昌二位老爺各帶鴉鴉到宅與我主人鬪玩並沒賭銀錢旁邊都是我們家人們觀看當有番子金配拏着鴉鴉到主人宅內家人王洪攔阻他說是鬪鴉鴉來的走進二門我隨出去查問有人說是大班我進內告知主人說大班未拏了請老爺們罷罷我主人同李清二位老爺從後門走出去了金配打發他跟來的人叫了四五个千把總帶了四五十營兵把宅門圍住繞把家人韓廷吳陞成珍秦洪李克俊拏住金配要我家人主人我們說主人不在家了金配在家坐等向我們要飯吃我害怕就跑到三眼井袁八老爺宅內躲避隨有李瀚的兒子改為王姓也到袁

八老爺門房內叫人把金配找來向他悄悄的說話我在牕戶外聽見金配要銀六萬李瀚的兒子應許多少他們說話聲音低我聽不見後來只聽金配說一萬也不中用其餘都不曾聽見二十一日晌午金配把家人們挈去是日晚上我纔回宅二十二日金配又來等了一天我主人也沒出去二十三日黎明主人進城求了鄂大人是日將晚時候鄂大人打發家人周姓到宅說有他住着金配就不敢來了二十四日金配果然沒有來周姓仍在家內至二十六日王陞們由提督衙門回家周姓終回去的三十日鄂大人到我主人門首因主人沒在家鄂大人在門首石階上坐着不去後來我主人回家鄂大人向我主人說我白合你好了你不發人叫我露不出人來我主人說是我失信向他陪禮就進入大門內說了幾句話成珍見主人給了鄂大人束來號一千兩銀票一張鄂大人就去了這是成珍告訴我的至給鄂大人的銀子閣宅的人都知道是為鴿騙案的事情給他的

51 軍機大臣 字寄

署直隸總督陳 嘉慶七年正月二十三日奉
上諭陳大文奏同興現丁母憂所有直隸布政使員缺請簡精明幹練熟諳地方人員等語直隸布政使員缺緊要自須熟手經理但京員內一時不得其人因思按察使臆柱係由清河道陞任臬司在直隸有年於地方情形自為熟悉是以將伊簡用其所遺按察使各員缺已明降諭旨遞放矣將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

52 嘉慶七年正月二十三日內閣奉

上諭直隸布政使員缺著臆柱補授所遺直隸按察使員缺著慶章補授團明阿著補授熱河道其所遺承德府知府員缺著景璋補授欽此

53 嘉慶七年正月二十三日內閣奉

上諭山東兗州府知府員缺緊要著該撫於通省知府內揀選一員調補其所遺員缺著百歲補授欽此

54 本月二十二日兵部將署直隸總督陳大文保
舉堪勝總兵之三屯營副將蘇蘇爾通阿帶領

引

見奉

旨著交軍機處記名

55 嘉慶七年正月二十三日內閣奉

上諭本日軍機大臣會同刑部審訊袁錫等開園聚賭一案將袁錫等供詞進呈內有曾托鄂羅錫葉勒圖向明安說情並交給一千兩銀票之語彼時朕以為必係鄂羅錫葉勒圖從中取利抑或明安家人借端勒索俱未可定茲復經承審大臣訊據鄂羅錫葉勒圖供稱因與袁錫素相認識代伊轉求明安並言事後致謝明安當即應允數日後明安向鄂羅錫葉勒圖當面提及伊即赴袁錫家內取得銀票一千兩是日明安正差家人在彼坐索鄂羅錫葉勒圖先將五百交明安家人收去存留多日其餘五封暫存鄂羅錫葉勒圖家迨明安探聽外面風聲不好遂將原銀退還等語是此竟係

明安聽情受賄殊出意料之外明安本係世家舊族向來在乾清門行走尚勤是以節次加恩用為步軍統領原期于世族中成就一可用之材以備任使乃不料其執法營私竟不能全朕用人體面是朕於明安亦非無先見之明也上年曾奏請開採煤窰銅苗等事朕彼時即覺其沾沾言利嗣因欲請獨對矧矧高與袁錫降旨嚴飭莫其後改詎明安於袁錫開園賭博之事竟公然得受賄賂雖先侵後吐實已枉法得贓則伊任提督一年以來似此蓋蓋不飭之事諒復不少就幸及早發覺不至久玷要任此仲蒙

皇考默示啟佑益深欽感明安以提督大員而卑鄙無恥若此實係自取罪戾不能深受朕恩此而不嚴加懲辦何以儆貪黜而肅官方明安著革職等因交軍機大臣會同刑部嚴審定擬具奏鄂羅錫葉勒圖袁錫亦著革職等因李瀚清昌俱著革職一併歸案辦理嗣後大小臣工務當潔已奉公廉隅共矢以明安為戒倘不知檢束自蹈刑章一經發覺朕必執法嚴懲斷不稍貸將此通諭知之欽此

昨臣等會同刑部將提到袁錫家人成珍與家人杜三頂對並將袁錫復行研訊所供均與杜三供詞大畧相同並供出梁姓孫姓係明安家人除一面將梁姓孫姓提實外謹將袁錫成珍供詞錄呈

御覽謹

奏

正月二十三日

袁錫供上年十二月二十日有利部降調員外郎李瀚內閣中書清昌因封印後無事約鬥鴉鴉就在我家二門內西廂房彼此玩鬥並未賭錢是日早飯後尚未玩鬥有人告訴外面有人來尋大家即時散去金配到我家時並未拏住隨將家人等鎖去因家人已經鎖去即叫家人應承玩鬥鴉鴉後金配屢次來家找我並未與他見面因其時常來家吵鬧于二十三日我到鄂大人家告訴番子金配在我家纏擾將家人嚇散家中無人看家伊即打發家人周姓來

我家照看他說我見明公爺時我告訴他不要叫番子在外胡鬧過日你再致謝明公爺是夜我即在他家住宿至年底三十日有梁姓到我家口稱我是明公爺家人差來取那項銀兩彼時我不在家中隨後鄂大人也來我家吵鬧說我應承謝人家原何不謝我後來回家將他讓至二門內將一千兩銀票一張交給梁姓他拏着進城去了本年正月初二日我因到明公爺處賀節明公爺不在家中初三日明公爺差家人孫姓叫我進城說話我就到了明公爺府西廂房親見明公爺明公爺說去年年底為鴉鴉之事鄂大人曾向我說番子在外胡鬧你不許在外聽訛詐我就回家來了

成珍即成泰供我係表家在工上年十二月二十日有李瀚清昌並穿素衣的盛姓到我主人宅內鬥鴉鴉正在二門內鬧圍頑鬥有徐姓馬姓各拏鴉鴉到宅門口說要賭鬥家人王洪攔阻徐姓們說是來鬥鴉鴉的隨走進二門杜三

出來查問因聽見人說是大班來查拿就進去告訴主人們說大班上來拿了各自散了罷我主人同李老爺們都往後門走出金配當即叫人去叫了四五个千把總帶了四五十營兵把宅門圍住就把我們鎖拿金配要我主人我們說主人不在家金配守了一夜到二十一日纔把我們解到提督衙門我們都承認自己頑門鶴鴉主人並不知情二十六日提督衙門把我們發保回家主人賞給我們四人八兩銀子三十日早主人叫杜三到鄂大人家送食物八色鄂大人不收後鄂大人家周姓到宅來我主人沒有在家周姓說替你們完了門鶴鴉的事怎麼樣了隨後就回去了下午鄂大人與梁姓先後到宅內我主人問他鄂大人說係提督府公爺家人梁姓你把銀兩交給他罷並說門鶴鴉的事營兵大班都是要銀子的我給你料理明白把營兵大班都退去了你一點交情都不懂的話我主人即向鄂大人陪禮說是我的不是讓鄂大人坐鄂大人說明日即要打圍沒有進

內坐下當時就走了那時我看見給了鄂大人東來號一千兩銀票一張我告訴過杜三原是有的是本年正月初四日下午有明公爺府門上孫姓到家見了主人說去年門鶴鴉的事聽見曾給鄂大人銀子公爺並不知道叫主人不要混花銀子的話孫姓就走了是日三更時主人叫我到東來號查問給鄂大人的一千兩銀票擊去了沒有東來號說已今兌去了十九日提督衙門又把我們傳去枷號至給鄂大人的銀子問宅人都知道的是實

59 臣等遵

旨會同刑部將鄂羅錫業勒圖嚴加訊問現據供出說合過付情節質之表錫無異查此案表錫等以職官聚賭按例已應革職治罪至賄賂一節情罪重大並恐各供尚有不定不盡均應徹底根究除將鄂羅錫業勒圖等供詞錄呈

御覽外應請

旨將鄂羅錫業勒圖同表錫李瀚清昌俱先行革職

以便嚴審定案至此事干涉明安應一併請
旨辦理謹
奏

正月二十三日

60 鄂羅錫業勒圖供我與袁錫素常相好上年十
二月二十三日我在

內該班袁錫到我家內因我不在家即在我家住
下二十四日我下班回家見了袁錫他告訴說
他因聞鴉鷄的業被番子在家纏擾他躲到他
兄弟家去又被番役少鬧求我替他轉求明公
爺約束番子將來事後他致謝明公爺並未說
出數目我一時糊塗就應允了二十五日我在
五間房

朝房內見了明公爺提起袁錫家門鴉鷄之事現
有番子在外纏擾求公爺約束番子了結此案
事後他必致謝明公爺說現已將番子撤回叫我
告訴袁錫不許給番子錢文至二十六日我到
袁錫家將已托過明公爺的話告訴袁錫我就

走了他的家人就是那日討保出來的二十日
我在

內見了明公爺他向我說你怎麼樣了我說袁錫
必來道謝你只管放心到三十日袁錫並無回
信我因業已應承明公他又向我催逼我隨帶
着親戚西明阿同到袁錫家門口適袁錫自外
回家我們一同走進大門原說袁錫直到此時
尚無回信叫我臉上下不來若要叫明公打發
人來我怎麼見他啞袁錫就取出票來號一千
兩銀票一紙交我我因天晚趕城就將銀票交
給西明阿到號裡取銀趕我到家時明公爺業
已差家人到我家裡等着西明阿也就取銀到
家我見有幾封銀包散亂恐有短少挑銀包齊
整的五封計五百兩先交明公家人拿去其餘
五封暫存我家原并袁錫添足再行送去至四
更時明公爺家人又復到我家裡說銀色跋頭
不足恐公爺說是他們吃去我回說你只管拿
去俟我打圍回來共短多少叫袁錫添補那家
人就將銀拿去了到初七日又打發家人到我

家裡將原銀退還說公爺說外面風聲不好叫我退還袁錫我當時將銀留下原想差人送還袁錫因自初八日起赴

園當差家裡無人尚未給袁錫送去找愛

皇上天恩身列卿員不知自愛因一時昏憤念袁錫多年相好替他說合過付實是我糊塗該死辜負

天恩只求將我從重治罪

正月二十三日

61 李瀚供上年十二月二十日有年誼表姓叫家人來請吃飯並約如有鵝鶉帶來玩關我到彼門口有賣鵝鶉的數人先在那裡隨後又有清姓也帶著鵝鶉走來吃飯大家商量總要開玩並未賭錢不意有人進來吵鬧搶鵝鶉圍大家往後門走散了後來金姓怎樣圍表宅拿人我已回家並不知道到起更後有三眼井表宅差人請我兒子說話當時就去了後回來我問他他說表家托他勸金姓散去金姓問我係表宅

何人我隨口改為王姓當時金姓是要袁錫見面如不見面斷不能散我又哄他明早提叫他見面隨走散了原是一時哄騙他的以後我兒子並沒再與金姓見面是實

62 清昌供我係正紅旗滿洲現任內閣中書上年十二月二十日有素識的袁錫請我到他家吃飯並約如有鵝鶉帶去預聞是日早我先叫家人李克俊拿了鵝鶉到表家去隨後我同家人于陞王柄也到表錫家裡先有李瀚在彼隨一同吃了早飯正要開園聞鵝聽見表錫家人嚷說有大班來拿請老爺們各自散罷我同袁錫李瀚都從後門走出我帶去的家人們都被拿去這聞鵝鶉的事家人李克俊承認並沒供出我來別的事我不知道是實

63 臣等遵

旨會同刑部將明安審訊據明安呈出供詞三紙懇請代奏臣等公同閱看與鄂羅錫葉勒圖所供

情節互異當令與鄂羅錫葉勒圖面質亦係各
執一詞除俟傳到明安家人羅姓再行質訊外
合將明安所呈供單恭呈

御覽謹

奏

正月二十三日

64 嘉慶七年正月二十三日內閣奉

上諭步軍統領印務著恭阿拉暫行署理欽此

65 查軍機處現無

記名應用水師副將人員臣等現在知照兵部查取

應行補放水師副將人員俟兵部送到時再行

擬寫空名

諭旨進

呈謹

奏

正月二十四日

66 昨蒙

發下明安所呈供單三紙臣等會同刑部遵

旨將單內折出之處向鄂羅錫葉勒圖袁錫分別訊

問據鄂羅錫葉勒圖供與明安互異質之明安家

人劉陞西拉哈與明安所呈如出一口至袁錫

所供則與明安有同有異謹將鄂羅錫葉勒圖

袁錫供詞錄呈

御覽伏候

訓示謹

奏

67 鄂羅錫葉勒圖供上年十二月三十日我總從

城外回家有家人們回說明公爺差人來了我就

就叫他進來向他說我總從城外取了一千兩

銀子來因有幾封包皮破碎恐有短少暫存在

我處叫他將包封完整的五封計五百兩帶回

餘銀俟補足再行送去那時因在他家人面前

我不便提出袁錫名姓來原想這事是我兩人

心照的至明安供說他家人劉陞回去告訴他

說這銀子是我替他借來的話我實沒有說過
可以向他家人劉陞質去得的再我去年起身
時並未向明安借銀他亦並無差人送五十兩
銀子與我的事

68 袁錫供本年正月初一日我到明公爺家拜年
並未見面初二日明公爺差人來家道乏並邀
我得空去見有話面說我於初三日午後到明
公爺宅內親見明公爺先問我的家世我告訴
說索守洞是我胞伯明公爺說我們原係世交
隨又告訴我說去年聞鴛鴦的案郭大爺來對
我說的時候我已經辨了聽得有番子們在外
胡鬧你不要叫他們說詐去了明公爺又說上
年不知怎麼合你說的到三十日給我送了五
百兩銀子來我回說郭大爺並未向我說過什
麼不過是事後在公爺跟前盡心明公爺說我
們原係相好不在這個恐怕外頭口聲不好去
年三十日因天晚了沒有給郭大爺送壽果他從
園上回來我就給他送去又問我你幾時去見

郭大爺呢我回說初七去明公爺說我初七
日給他送這銀子去你自然就明白了至我那
日並未對明公爺說過郭大爺向我借銀的話

69 明安供上年十二月二十五日郭羅錫葉勒圖
向我問及袁錫等門鴛鴦一案彼時應即奏
隨後見他給銀五百兩又該奏奏因與郭羅錫
葉勒圖同在一處行走多年一時糊塗瞻顧情
面不行奏奏至三十日我又差人到他家去實
在該死况這五百兩銀子存至七日始行送還
尤屬罪無可逭還有何辨再正月初三日袁錫
來家我因恐有人在外指名撞騙是以叫他見
面查問我並沒向他當面需索究竟我與袁錫
素不認識就與他約見寔是我糊塗該死我受
皇上天恩至為優渥乃糊塗昏亂不自檢束寔在愧
悔無及今蒙傳
旨訊問我如夢方醒若再不據寔供出就是我喪良
昧心甘認欺罔之罪至郭羅錫葉勒圖曾否向
恭阿拉國霖託過人情我寔不知道

鄂羅錫業勒圖供我與索錫相好代他託情已
是我的不是又因索錫有事後酬謝明安的話
後來穩未去謝我于三十日到他家裏去催索
錫就交出銀票我一時糊塗收票取銀寔是該
死迨將一千兩取回又不全行送交明安至本
年正月初七日明安將銀五百兩退還我因
在

因當差家中又無家人未及送去俱是我糊塗昏
憤罪無可逭此項銀兩我前因隨團原挪用過
一百五十兩因就要歸還索錫回團後隨即湊
補現存家內只求查起至此案我並沒託過恭
阿拉國霖二人我受

皇上天恩至為深重乃不知自愛身蹈重譴寔在愧
悔無地今蒙傳

旨嚴訊我何敢虛捏狡賴自蹈欺罔之罪呢

正月二十四日

70 嘉慶七年正月二十四日內閣奉

上諭步軍統領員缺著祿康補授欽此

賞戴花翎

71 嘉慶七年正月二十五日內閣奉

上諭本日祿康具摺謝恩內稱步軍統領與刑部衙
門向有交涉事件懇辭刑部尚書或請另放步軍
統領等語步軍統領衙門其刑名事件應行送部
審理者甚多目不便以一人兼攝祿康所奏甚是
但昨已將伊簡放亦不必再行更換祿康著專辦
步軍統領事務仍兼管正黃旗漢軍都統所遺刑
部尚書員缺著德瑛補授瑚圖靈阿著轉補刑部
左侍郎所遺刑部右侍郎員缺著慶音調補繼善
著調補盛京刑部侍郎所遺盛京禮部侍郎員缺
著多慶補授欽此

72 嘉慶七年正月二十五日奉

旨各省督撫題奏慶賀元旦本章係屬大典自應於
封印前齊到以便內閣呈進何以勒保鐵保汪志
伊慶賀題本遲至封印後始行齊到勒保現在科
理軍務其題奏遲延咎尚可原著交部察議鐵保
汪志伊均著交部議處欽此

73 嘉慶七年正月二十五日內閣奉

上諭福建澎湖水師副將員缺著吳奇貴補授欽此

74 謹將兵部查到應陞水師副將人員開列名單

並擬寫空名

諭旨進

呈謹

奏

正月二十五日

應迴避福建

75 江南吳淞營外海水師參將吳奇貴浙江人由

行伍歷陞參將嘉慶五年十二月題補

廣東平海營外海水師參將蘇大鵬福建人由

行伍歷陞參將嘉慶三年九月調補

76 嘉慶六年十一月二十二日額勒登保奏阿哈

保患病請令回京一摺臣等面奉

諭旨俟阿哈保到京時扶奏加賞欽此現准設旗報

稱阿哈保於本月二十四日到京理合奏

聞並擬

賞單進

呈謹

奏

嘉慶七年正月二十五日奉

旨著照例賞給欽此

77 擬

賞阿哈保

大卷八絲緞二疋

小卷春綢一疋

澤綢一疋

大卷宮紗一疋

黃馬褂六件

大卷五絲緞二疋

小卷宮綢一疋

葛紗一疋

紡綢二疋

78 嘉慶七年正月二十六日內閣奉

上諭吉慶等奏擊獲海洋盜匪審明辦理一摺已交

刑部核擬具奏矣都司許廷桂帶領官兵跳過盜

船生檢盜犯多名頗為奮勇出力著加恩交部議叙欽此

79 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣提督吉 廣東巡撫瑚 嘉慶

七年正月二十六日奉

上諭吉慶等查明兵船在雷白新寧洋面兩次被風淹斃弁兵鄉勇數日據實覆奏此項官弁兵勇在洋遭風致被淹斃情殊可憫除業經該督等咨部卹賞外其未知恩卹者著該督等一體核辦並安南與農耐現雖按兵不動而內地各邊阻仍當嚴密防範顯著留心偵探如情得地方官稟報情形即隨時具奏將此諭令知之欽此遵

寄信前來

80 嘉慶七年正月二十六日奉

旨此案著交觀明金良提集案內人証秉公研審定擬具奏所有原告洪雲海著該部照例解往備質

欽此

81 嘉慶七年正月二十六日奉

旨前賞給明安南誥定寓所著賞給補廩居住欽此

82 嘉慶七年正月二十七日內閣奉

上諭軍機大臣會同刑部將明安等密擬定罪具奏一摺此案潛沒金配探知袁錫等在廈門竊起意往拿希圖詭詐明安係步軍統領竟無見聞已有失察之咎迨鄂羅錫業勒圖向伊代表錫請託許其事後致謝明安並不阻止又不據實奏奉轉曉情將就完結至十二月三十日鄂羅錫業勒圖將銀五百兩交付伊家人劉陞帶回當經明安令劉陞送還自不應仍准家人將原銀携歸即使鄂羅錫業勒圖於初一日起程隨從未克續行送往其家豈無一司事之人可以交代何至遲至初七日探聽外面風聲不好始將銀兩退出是明安既縱後滋擾於前又復聽情受賄于後種種罪無可逭明安前在乾清門行走尚動似有出息且伊係布彥達魯其姪本屬世家舊族朕念布彥達魯在步軍統領任內安前有為

身故後即著明安接印任事者原欲其勉繼家聲克承恩眷詎明安任提督以來炫耀高興所奏事件多涉言利朕屢加嚴飭並數月不予召見若明安能仰体朕教誨矜全之意自應倍加敏飭潔己奉公今伊於關圍門竊案內竟敢聽情受謝雖先侵後吐寔與得財無異所擬發往烏魯木齊之處尚覺稍輕明安著改發伊犁効力贖罪以示懲儆鄂羅錫葉勒圖身列卿員在內廷行走乃敢公然干預外事代人請託並許事後致謝嗣因明安一言提及遂將伊戚西明阿指係明安家人帶往袁錫家索取得銀一千兩又存留一半祇將五百兩交明安家人帶回及至明安將銀退還又不即時送交袁錫並先挪用銀一百五十兩即云入直當差未及將銀送還伊於索銀時既能親往豈此數日內竟無暇給還耶看來鄂羅錫葉勒圖竟思從中全行侵蝕此項情節尤重寔屬卑鄙無恥若照所議僅發往伊犁亦未允着于刑部內先枷號兩個月滿日發往伊犁効力贖罪餘着照所請行又兵部議處左右翼提兵恭阿拉國霖一摺恭阿拉國霖于番役在外訛索未

能查出寔情本應照部議降朝但此案番役初稟本未提及官員賄門明安聽情受賄各情均未知悉咎尚可原奉阿拉着加恩改為革職留任仍註冊國霖着加恩改為革職從寬留任先其降調至左右翼提兵向未輪替一人在南城外住宿彈壓但城外各營官弁因有大員在彼遇事轉存觀望恐漸啓推諉之習嗣後該提兵等俱不必在城外住宿仍隨時出城親往查察以專責成欽此

83 臣 慶 等謹

奏為遵

旨嚴審定擬具奏事掌湖廣道御史汪鏞奏戶部司員袁錫等聚集多人在寓鬪鴉被步軍統領衙門番役金配拏獲索詐等因一摺奉旨軍機大臣會同刑部提集案內人証秉公嚴審定擬具奏欽此 臣等會同審訊當究出原任步軍統領明安武備院卿鄂羅錫葉勒圖有關說受賄之事節次錄取供詞恭呈

御覽欽奉

諭旨將明安等革職拏問歸案嚴審臣等復集犯証
送加研鞫緣袁錫係戶部候補員外郎與降調
刑部員外郎李瀚內閣中書清昌並續經訊出
之戶部郎中順德均係素好嘉慶六年十二月
二十日袁錫因李瀚緣事降調治備酒食為之
道惱當邀李瀚及清昌順德等來家食飯並約
李瀚清昌各帶鷓鴣以備飯後鬪耍消遣李瀚
等携鷓走至飯後一同鬪耍作戲並未賭錢維
時戲旦元寶因餽送冬筭踵至袁宅正值袁錫
等在廂房鬪鷓即在彼坐候時步軍統領衙門
番役金配探知李瀚等在彼鬪鷓起意往拏希
圖訛詐當即帶同在逃之通州回民馬六宛平
縣民徐起周偕至袁錫門首經伊家人王洪攔
阻金配等闖入二門時袁錫家人杜三認係番
役即以番子來拏快些散了之言奔告伊主袁
錫等聽聞害怕均從後門逃出金配等走至廂
房捉住鷓鴣並搜獲鷓鴣二十九隻即通知西
河沿汛守備胡通海令派弁役至彼拏人該守
備因未知所拏係何案犯當派外委張炳帶同

捕役楊昆等六名前往幫拏又派千把總二員
帶同兵丁十名在門外照料金配即將袁錫家
人成珍等鎖交該兵役等管押仍帶同兵役坐
守袁宅逼索袁錫見面至起更後袁錫逃避未
回金配以有人出頭說話可免無事之言向伊
家人鬪說該家人秦景以金配意在索贖思欲
覓人說合希圖無事當晚跟隨元寶之汪文貴
往尋李瀚之子李聯芳懇其調處李聯芳因伊
父先亦在場未敢出名向說當即改稱王姓向
金配說合金配以在場鬪鷓均係職官向索銀
六萬兩李聯芳因其需索太多未敢回答當欲
起身金配以既來說合就不能走開之言挾制
李聯芳欲圖脫身即詐許銀一萬二千兩約於
次日中刻在城內時遇軒茶館見面當即走回
至二十一日金配將袁錫家人成珍等帶赴衙
門因聽信李聯芳許給銀兩之言即將袁錫等
在場鬪鷓情節匿不稟出捏稱係伊家人等在
門房鬪賭稟交該管司員海祥等收審嗣金配
屢往時遇軒找尋王姓未過後至袁錫家連

日少聞逼索袁錫終未見面該犯復至袁錫堂弟袁煦上房門首搜尋經索煦呵斥而散維時袁錫因金配詐擾不休未敢回宅於二十三日往尋素好之武備院卿鄂羅錫葉勒圖懇其轉託明安約束番役並許以事後酬謝鄂羅錫葉勒圖應允袁錫並因家人均被鎖去向借家人周陞帶回看門至二十五日鄂羅錫葉勒圖遇見明安即以袁錫係屬素好懇其了結此案事後致謝明安亦即允許二十六日該承審司員海祥等因成珍等各犯僉供係家人鬪賭伊主並未知情據供擬以枷杖具稿呈堂明安因鄂羅錫葉勒圖先經請託不復深究遂即照議畫行至二十八日明安與鄂羅錫葉勒圖會遇當以你怎樣了之言向問鄂羅錫葉勒圖隨以袁姓必來道謝只管放心之言回答至三十日鄂羅錫葉勒圖因袁錫總未致謝難對明安當即帶同伊戚護軍校西明阿前往催索並指稱西明阿係明安家人袁錫當付給東來號一千兩銀票一紙鄂羅錫葉勒圖轉交西明阿代將銀

兩取回適明安差家人劉陞至家鄂羅錫葉勒圖將取回之銀自留五百餘銀五百兩當付劉陞帶回明安旋令劉陞持銀送還鄂羅錫葉勒圖仍令携歸至本年正月初七日明安因此案大有風聲復將原銀送交鄂羅錫葉勒圖家內令其退還袁錫鄂羅錫葉勒圖將銀暫存家內尚未退還即經該御史汪鏞訪聞具奏

勅交臣等審悉前情查此案袁錫等頑鬪鴉鴉誣令家人承認在明安聽屬受賄是以不復深究而該承辦司員等何以即據該家人一面之供率行定擬恐係明安授意舞弊該司員等有意迎合至番役金配索贓累萬李聯芳既有許給一萬二千兩之言亦恐贓已入手遂加究詰據海祥等僉供金配將成珍等拿獲據稟係家人們鬪鴉我們逐加訊問又據成珍等承認在門房賭鬪我們想鬪鴉係家人常有之事是以即據供定擬實非明安授意亦非有意迎合至金配索贓一節訊據李聯芳堅稱那日番役來拿時我父親業已走脫我因袁錫係屬同鄉且我父

親先曾在場是以改姓出去調處後因金配需索過多當即起身因被他挾制不放只得詐許銀一萬二千兩原是想脫身的意思並非當真許給所以我後來總躲避不出若已經給銀此時正好供出將金配治罪還肯替他開脫嗎只求詳情各等語覆詰不移案無遁飾 查律

載官吏有事先不許財事過之後而受財事若枉者准枉法論註云出錢之人問不應從重又律稱准者罪止杖一百流三千里又例載指稱內外官員名頭誑騙財物犯該徒罪以上者發近邊充軍又步軍統領衙門番役緝拿人犯既經拿獲限即日送官如稽留數日始行送官究明得財縱放照衙役犯贓例治罪又官吏刁蹬用強生事逼抑取受者出錢人不坐各等語此案明安身任提督世受

國恩理應潔清自矢迺於鄂羅錫葉勒圖請託袁錫等關摺一案並不叅奏轉聽從關說不行深究即同枉法雖訊非事前索贓亦無許定銀數且事後收受銀兩旋即退還尚知畏法但先侵

後吐與受財無異明安應依官吏事後受財事若枉者准枉法論罪止杖流律擬杖一百流三千里鄂羅錫葉勒圖身列卿員在

內廷行走迺公然干預公事代人請託並因袁錫有事後致謝之旨即將伊戚西明阿指係明安家人帶往催索取得銀一千兩又不全給明安自行存留五百兩迺明安將銀退回又不即行送還狡猾卑鄙寔與誑騙無異鄂羅錫葉勒圖應比照指稱官員名頭誑騙財物充軍例發近邊充軍該二員以大員犯贓未便照例折枷應請

旨將明安發往烏魯木齊鄂羅錫葉勒圖發往伊犁均各効力贖罪咨送兵部轉發仍咨行該旗在於鄂羅錫葉勒圖家內追起贓銀一千兩送交戶部入官袁錫以現任職官既經關摺事發自應靜候傳審乃既請託於前又復行賄於後按事後受財出錢之人擬以不應重杖尚屬輕罪不議袁錫應於明安流罪上減一等杖一百徒三年劉發順天府定地發配至配所折責充徒

番役金配拿獲官員關鴉之案應即據實稟報
 乃意存訛詐既經獲犯又復任意稽留索賄累
 萬迨李聯芳詐許銀兩即行捏稟預為開脫受
 賕地步應照銜役犯贓尚未入手減等定擬金
 配應於案後詐贓滿貫絞罪上減一等擬以滿
 流該犯以關鴉尋常之案帶領多人連日圍宅
 逼索復至無干之中書袁煦內宅肆行搜拿尤
 屬擾害是釀成巨案該犯寔為罪魁未便容留
 內地應咨送兵部發往伊犁等處給兵丁為奴
 面判外違二字李瀚清昌與袁錫闢鴉戲要訊
 未賭錢即弔驗金配所呈賬單並無銀錢數目
 亦未起獲現錢且查原單內有十一月字樣顯
 係金配捏造不足為該革員賭錢之據未便即
 照賭博例治罪惟該革員等身係職官爾爾邊案之案該革員
 制律杖一百均經奉
 旨革職應毋庸再議李聯芳因伊父亦經在場聞鴉
 出為調處其詐許銀兩訊因金配挾制欲圖脫
 身按逼抑出錢之例應免坐罪惟私向說和應
 照不應重律杖八十係捐職理問照例納贖獲

奏請

軍校西明阿身係旗員跟同郭羅錫業勒圖赴袁宅
 取銀任其指係明妻家人甘心認受雖無撞騙分
 肥情事究屬不合亦應照不應重律杖八十戶
 部郎中順德於袁錫等鬪鴉戲要訊未入場惟
 在旁觀看亦有不合應照不應輕律笞四十均
 係職官犯私罪應分咨吏兵二部照例議處袁
 錫家人成珍等因伊主鬪鴉事發出為頂認罪
 有應得業經步軍統領衙門分別枷責應免重
 科戲旦元寶及家人杜三等訊係無干均應尚
 釋左右翼總兵恭阿拉國霖現經奉
 旨交部嚴議應聽兵部辦理其未能審出實情之步
 軍統領衙門承辦司員應咨行吏部查取職名
 照例議處違犯馬六徐起周緝獲另結所有臣
 等會同審訊緣由謹合詞恭摺具

旨

正月二十七日

84 嘉慶七年正月二十七日內閣奉

上諭郎中錢楷向在軍機處行走今學政任滿回京仍着在軍機處京上行走欽此

85 嘉慶七年正月二十七日奉

旨此案著交費淳提集人証秉公查審具奏所有原告劉玉蘭著該部照例解往備有欽此

86 軍機大臣 字寄

兩江撫費 嘉慶七年正月二十七日奉

上諭本日刑部審訊湖南茶陵州民人劉玉蘭控告在江南蕭縣地方被朱金幅等劫去銀物押禁服役一案已另降諭旨交該督審辦矣此案劉玉蘭控告朱金幅等聚眾劫掠傳習邪教私造軍器等弊均屬大干法紀劉玉蘭以異籍行旅之人與朱金幅等向不相識孰能將人犯姓名逐一指所控似非無因或寔係被劫或該犯挾有嫌怨有意誣扳抑或竟係同為夥匪藉端出首希圖卸罪俱未可定着傳諭費淳將以上情節切實覈究並派

委委員密查蕭縣銅山等處地方有無匪徒聚眾肆行不法之事嚴拿究辦務絕根株為要將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

87 嘉慶七年正月二十九日奉

旨韓修鳳曾任直隸知縣久經告病違例在京居住多年放債牟利挾有餘貲於應交直隸官項銀一千一百二十兩並非力不能完乃久逾定限抗不完交顯係有意拖延韓修鳳著即監禁嚴追以清官項其家屬在京亦不安分著交順天府押令回籍欽此

88 嘉慶七年正月二十九日內閣奉

上諭顏檢奏請將羅山息縣二缺另行派員署理借補一摺據稱現任羅山縣知縣曾濟人尚明白操守亦好息縣知縣徐曰昌操守去得辦事亦知黽勉何以遽請撤回若該員等果有別項劣蹟又何以不據實奏奏至該撫所請署理於補於例俱有未符著交該部查議具奏欽此

89 嘉慶七年正月二十九日奉

旨興奎現丁母憂著來京穿孝所有烏魯木齊都統
印務著札勒杭阿暫行兼署欽此

90 軍機大臣 字寄

直隸總督陳 嘉慶七年正月二十九日奉

上諭熊枚奏採錄原任水利營田觀察使陳儀所著
直隸河道各事宜進呈一摺直隸各屬水利本關
緊要而文安一縣受六十六河之灌注上年被水
尤重自應設法疏消俾資利導熊枚錄呈陳儀所
著各事宜不為無見但地方水利今昔情形是否
相同著陳大文詳悉講求酌量緩急如有亟須堵
濟之處即行妥議具奏所有熊枚抄錄陳儀原著
各條一併發交閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

91 嘉慶七年二月初一日奉

旨勒保奏保舉堪勝總兵之副將富明阿雷仁著俟軍務完竣後給咨送部引見欽此

92 嘉慶七年二月初一日內閣奉

上諭據鐵保奏前任福建學政翰林院侍讀學士錢福昨任滿回京於途次患病具摺懇請開缺交鐵保代奏等語錢福昨著准其開缺就近回籍調理所遺翰林院侍讀學士員缺加恩著周興岱補授欽此

93 嘉慶七年二月初四日內閣奉

上諭現值青黃不接之時京城地方米價不無昂貴閭閻口食維艱自宜量為調劑著加恩於五城設立廠座將倉貯米石減價平糶其應如何分城設廠並撥用何項米石及派員經理之處着該部查照向例速行妥議具奏欽此

94 嘉慶七年二月初五日内閣奉

上諭秦承恩前在陝西巡撫任內因辦理軍務遲延

獲咨發往伊犁効力贖罪茲一年期滿釋回到京念伊本係書生未嫻軍旅其平日辦理地方事件尚為熟悉亦無撻守不潔之處秦承恩著加恩以六部主事用遇缺即補欽此

95 查上年八月初十日保寧秦承恩在伊犁已

滿一年遵

旨具奏一摺奉

旨秦承恩加恩釋回俟到京日提奏欽此茲秦承恩已於本月初五日到京理合奏

聞謹

奏

二月初五日

96 嘉慶七年二月初五日奉

旨顏檢奏補羅山息縣二缺摺內於現任知縣曾濟徐曰昌二員才守均無貶詞何以遽請撤回且所請試用知縣黎重光補授羅山縣揀發知州熊之書借補息縣該二員一係試用在後越次奏補一

條不准借補知縣之員皆屬違例現在該省尚有試用知縣二十餘員俱名次在前其中豈無堪以勝任之員何以不行奏補若皆才具平常不堪補用又何不早行飭令回籍耶倘各督撫於現任各員任意撤回輒將不合例之員紛紛奏補相率效尤殊屬不成政體顏檢本應照部議處分姑念該撫平日辦事尚好所有降一級留任之處著加恩寬免仍罰俸九個月嗣後外省題補人員均當按照成例不得率意奏請干咎欽此

97 嘉慶七年二月初五日內閣奉

上諭保寧覆奏請將伊犁滿營鎮標各兵糧餉仍照舊例分別支放一摺新疆駐劄滿漢兵丁差務繁多向來於應得本色糧石內酌支折色比市價較多原所以示體卹若改支本色兵丁生計既不無拮据且倉貯糧石動支完竣後轉需採買亦屬非計此事昨據興奎奏覆以為多有未便當經批交該部欵俟各處奏到再行降旨今保寧所奏亦與興奎意見相同伊二人在新疆有年所奏自係實

在情形即他處奏到時諒亦相仿竟不必再交部議所有新疆等處兵丁應支糧餉著仍照舊定章程辦理毋庸更張俾兵食倉儲兩有裨益摺併發欽此

98 嘉慶七年二月初五日奉

旨楊焄呂占建荆汝為屈芳璿王璣俱著准其捐復劉毓隨董治燕何其雯董懋潘張輝祖沈逢熙王浩范武李祖望俱不准其捐復欽此

99 嘉慶七年二月初五日奉

旨巴明阿著解任交宗人府嚴審定擬具奏欽此

刑部奏宗人府庫被劫錄兩案

100 嘉慶七年二月初五日奉

旨此案著交貴導提集案內人証秉公審擬具奏原告王國寧著該部照例解往備贖欽此

都察院具奏武生王國寧控告清山

101 嘉慶七年二月初五日奉

旨王士傑善泰俱著加恩釋回祺藉欽此

伊犁將軍公保等奏發遣官犯
三年期滿

102 嘉慶七年二月初五日奉

旨都司九格著交部議處泰將海齡阿遊擊劉明玉
著交部察議所有此案盜犯即飭該營嚴行查拏
務獲究辦欽此

步軍統領衙門奏失舉被盜案

103 嘉慶七年二月初五日奉

旨着交刑部提集案內人証查審定擬具奏欽此

步軍統領衙門奏三河縣民人梁泰竊案

104 嘉慶七年二月初六日內閣奉

上諭保康現已補授步軍統領所有會典館副總裁
著改派德瑛欽此

105 軍機大臣 字寄

欽差工部侍郎那 內務府大臣巴 嘉慶七年二

月初七日奉

上諭據那彥寶等奏報永定河凌汛安瀾一摺覽奏
欣慰此次冰凌泮解順流直下不致衝擊堤根而
正溜徑走中泓引河衝刷益深下流暢利所有各
汛堤埝開壩工程俱屬安穩此皆仰賴

河神默佑曷勝欽感著叢去大小藏香十枝那彥寶
等接奉時先以五枝敬謹祀謝俟本月初十日開
工之時再以五枝虔誠中祀以祈本年河流順軌
工程穩固伏汛秋汛全奏安瀾共荷

神庥方為慶幸至現在將次開工各處應募人夫雲
集那彥寶等尤當派員留心約束妥為經理將此
諭令知之欽此遵

旨寄信前來

106 軍機大臣 字寄

署直隸總督陳 嘉慶七年二月初七日奉
上諭前據陳大文奏請直隸大宛等六十州縣於正

月內開賑煮賑當即降旨將旗租銀二十萬兩留於該省備用自正月以來早行開賑第念該省上年被災甚重而節次所發賑項亦屬不少若能多賑一二月則窮民等益資餬口於生計更為有裨所有前留銀兩約可賑至何月為止及現在各處就食貧民是否安靜其盧溝橋工次應募人夫比上年人數有無增減之處俱著陳大文詳細查明據實具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

107 據候補主事秦承恩具呈懇請叩謁

裕陵理合據情代

奏並將原呈進

呈謹

奏

二月初九日

108 嘉慶七年二月初十日內閣奉

上諭山東沂州府知府員缺著劉珏補授欽此

109 本月初五日臣等面奉

諭旨秦承恩以六部主事補用遇有知府缺出再行提奏欽此現在出有山東沂州府知府一缺理合遵

奏

旨提奏再秦承恩尚未補主事實缺合併聲明謹

二月初十日

110 本月初九日吏部將俸滿之現任浙江金衢嚴

道蔣繼勳帶領引

見奉

旨著交軍機處記名

二月初十日

111 軍機大臣 字寄

欽差工部侍郎那 內務府大臣巴 署直隸總督陳

嘉慶七年二月十一日奉

上諭那那等籌議永定河加培疏濬一摺挑挖淤沙固為治河不易之法但永定河南北兩岸長一

百數十餘里自不能將全河淤沙挑挖淨盡該侍郎等相度形勢裁灣取直疏通枝塞並將卑矮堤身加高培厚添做埽工護堤束水藉以攻河祇可如此辦理惟當督飭工員於新舊埽工定力鑲築以資捍衛其河高仰處亦須間段挑濬俾無阻梗方為妥善至所稱河工水勢大小不同動用銀兩亦應多寡不一每年歲搶修銀兩似難限以定額等語永定河每年歲修搶修銀兩向來定額二萬九千有餘就以目下情形而論雖稱不敷應用但每屆歲修亦須酌定銀數方有限制設遇搶險工程較多年分原不妨據實估計且距京甚近可以隨時奏請辦理所有永定河歲修每年實在需銀若干並動用何項之處仍著那方寶等公同確勘悉心妥議具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

112 嘉慶七年二月十二日內閣奉

上諭向來營汛地方遇有強劫盜案該管官弁俱當據實稟報查拏况京師重地尤應有犯必懲立即

等究辦何得意存諱飾此次都司劉德於南下窪地方民人沈永寧家被竊一梟經巡夜馬兵金士成等撞遇擒拏被賊用刀砍傷情同強劫該兵丁等既經回明本汛都司自當一面報知提督衙門上緊嚴緝乃該都司遲至十日之久匿不稟報而於金士成身受重傷轉借給錢五千文飭令調養顯係有心諱匿葦藪之下尚敢如此朦混若外省地方相率效尤何以戢盜風而靖閭里南營都司劉德即著革職不必復交部議恭將趙全於金士成被毆一事未能預為防範又不即時呈報本應照例議處但念趙全上年查勘盧溝橋一帶水勢尚有奔走微勞著加恩改為交部察議遊擊馬得著交部議處馬兵金士成與同伴兵丁查夜至沈永寧門首見有一賊出門即向前擒捕復見二賊跑出因令張永福等圍拏先出之賊隨又跟賊入門揪住一賊被賊用刀砍傷頭臉受傷甚重尚屬勇往金士成著加恩以外委候補如因傷身故即著照外委例議卹戰兵舒坤同往圍拏亦被賊犯打傷功過尚足相抵著免其責卓至張永福等幫

同軍賊因見金士成受傷即不敢上前擒獲致賊
脫逃實屬畏葸馬兵張永福德存戰兵趙長興杜
洪均著責革並加辦一箇月以示懲儆所有此案
未獲各犯著該衙門會同順天府五城嚴飭官弁
兵役人等上緊查拏務獲究辦毋任一名漏網欽
此

113 嘉慶七年二月十二日内閣奉

上諭前據達慶等奏大通橋車戶轉運漕糧所領脚
價不敷價值請仍照向例准令承買官豆經戶部
以官車官驛久經裁撤議駁所收甚濶據達慶等
奏稱漕糧進倉全賴該橋車輛充足若一有掣肘
則起卸稽遲回空耗現因錢價日貴車價日昂
所領之款不敷應覓專語亦係實在情形著加恩
准令該車戶等仍前承買官豆即在於應領脚價
內扣存以示體恤欽此

114 嘉慶七年二月十二日奉

旨已明阿著革職交宗人府會同刑部嚴審定擬具
奏欽此

115 嘉慶七年二月十二日奉

旨著忠來縣事候補知縣李應均於糾眾毆斃多命
重案能購線諭令紳耆緝送兇犯十四名尚屬出
力李應均著加恩交部議叙以示鼓勵欽此

116 嘉慶七年二月十三日内閣奉

上諭和寧奏請將臨清等處應徵新糧緩至秋後徵
收一摺該省上年被水成災是年應徵錢糧業經
加恩蠲緩但現屆青黃不接之時若將本年新糧
照例開徵民力究不無拮据所有臨清館陶武城
邱縣夏津聊城堂邑清平博平茌平高唐莘縣恩
縣冠縣陽穀朝城東阿平陰長清德州茌平濰縣
州觀城汶上等二十五州縣衛被水成災及勘不
成文地畝應徵嘉慶七年新糧俱著加恩緩至本
年秋後起徵俾得從容輸納以示朕軫念窮黎有
加無已至意該部知道摺併發欽此

117 嘉慶七年二月十七日内閣奉

上諭據常明奏特恭便送錢糧之道員請旨革職當

辦並查抄原籍任所各賞產一摺該道孫文煥於
 賞邱征兵之項胆敢肆意侵蝕且於糧臺委員名
 下虛填銀數朦混請銷並將原具印領冊卷全行
 抽匿貪贖營私莫此為甚藩司百齡甫到黔省即
 能詳細查出殊屬可嘉常明於該道侵冒情弊未
 能覺察於前此時據實叅劾尚非有心迴護孫文
 煥著革職交常明率同藩臬兩司提集應訊人証
 秉公嚴審定擬具奏所有孫文煥原籍任所各賞
 產著併查抄欽此

118 嘉慶七年二月十七日內閣奉

上諭貴州糧儲道員缺著胡鈺補授欽此

119 嘉慶七年二月十九日內閣奉

上諭京師五城現在分廠煮賑以濟貧民刻下正屆青
 黃不接之時聞外州縣來京就賑者較多恐原設
 各飯廠散給或有未周朕心深為軫念著再於盧
 溝橋黃村東壩清河四處添設廠座專派卿員經
 理俾來京就食窮民分投領賑得資果腹以示朕
 恩施無已至意欽此

清河改來黃村沙

清河改來黃村沙

120 嘉慶七年二月十九日奉

旨此次添設飯廠四處盧溝橋著派萬寧范整黃村
 著派徐績邵自昌東壩著派萬星額蔣子蒲清河
 著派長琇周元良分投前往妥協經理欽此

硃 121 副都御使舒 聘

硃 黃村 宗人府府丞徐 績

硃 東壩 大理寺卿富星額

硃 盧溝橋 太常寺卿廣 敏

硃 光祿寺卿范 整

硃 東壩 蔣子蒲

硃 通政司副使廣 興

硃 太常寺少卿哈寧阿

王懿修

曹師曾

太僕寺少卿薩梯圖

黃村 邵自昌

鴻臚寺卿富春

員承寧

通政司叅議長琇

聞嘉言

光祿寺少卿五德

清河 周元良

鴻臚司少卿戴璐

硃清河

硃

硃

122 軍機大臣 字寄

湖廣總督吳 嘉慶七年二月十九日奉

上諭御史喬遠煥奏請調劑楚省釐務以杜積弊一摺據稱楚省行銷兩淮綱引近年管餉道員私立封輪之禁將淮綱先到船隻查驗號數開售其後到船隻均封貯漢河不准搶賣奸商得以居奇壟斷民間有淡食之虞又將已裁漢商匣費復又酌定銀數並逐漸加增致該商等暗扣斬頭濫行開

支等語引益向無輪售之例從前該省於益船抵

漢均係不論先後聽商起售何以近年該管道員

立有封輪名色是否該處銷售情形必應如此辦

理抑係管理鹽務官員私設此例為抑勒地步至

匣費久經裁革該御史摺內所稱已未庚申兩年

共派銀八十餘萬及百萬兩不等之處是否因該

省辦理軍需添奏支用抑係該管官員私行派累

此係前任之事與吳熊光無涉無所用其迴護並

著吳熊光徹底清查一併據實奏聞將此諭令知

之並將喬遠煥原摺抄寄閱看欽此遵

旨寄信前來

123 嘉慶七年二月十九日奉

旨這所叅失察差役誣良斃命匪不具報之署秀山

縣事蒸江縣知縣常天佑著革職署固陽州知州

吳大勳著照例議處該部知道欽此

川增勅保奏奉

124 嘉慶七年二月十九日內閣奉

上諭通政司副使員缺著王懿修補授欽此

125 查本年正月二十一日臣等面奉

諭旨俟有少營事及四品京堂缺出時將王懿修提
奏欽此現在范鑿陞授光祿寺卿所遺通政司副
使員缺係屬四品京堂理合遵

旨提奏謹

奏

二月十九日

126 查原任湖北糧道舒永阿因嘉慶二年剿辦

匪透悞軍糧經額勒登保等奏革職解京審

訊奉

旨舒永阿雖係透悞軍糧但念其實因賊匪轉奔
竄大兵窮追以致不能接濟尚非有心貽悞著從
寬發往軍臺効力贖罪欽此三年五月查辦軍臺

廢員時經軍機大臣議令繳銀二萬兩准其贖

罪釋放回旗五年四月經該旗都統據情奏請

賞差蒙

恩賞給上虞備用盧拜唐阿謹

奏

二月十九日

127 軍機大臣 字寄

署直隸總督陳 嘉慶七年二月二十日奉

上諭上年十二月曾允陳大文奏請賞給旗租銀二
十萬兩交該督於直隸被災之六十餘州縣除大
賑之外自本年正月起至四月麥收時止各按地
方村莊多寡遠近廣設粥廠無論極次貧民一體賑給
乃近日來京就食貧民已多至二萬餘人自係直
隸各州縣並未認真辦理災民無從餬口聞京師
五城各廠散給粥飯較為得實是以扶老携幼相
率來京當此青黃不接之時該州縣不能於所屬
灾黎妥為撫卹則前此賞發銀二十萬兩不知所
辦何事豈此項旗租銀兩並未征解齊全寶領寶
支竟以灾賑為名借詞開銷耶著陳大文詳確查
明如銀兩實有不敷不妨據實奏請若係地
方官玩視民瘼藉端侵蝕即指名嚴叅以示懲儆

轉瞬三月初旬朕恭謁

西陵苦蹕路所過經朕目擊各州縣有灾黎失所之虞

惟陳大文是問將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

128

查添設飯廠四處內清河一帶地方饑民為數
無多其近京之東南一帶距現設各廠較遠且
等公同酌擬應請將清河飯廠移設京城東南
之采育地方俾饑民俱得附近就食更為有裨
謹

奏

二月二十日

129 軍機大臣 守寄

閩浙總督王 前任福建巡撫汪 嘉慶七年

二月二十日奉

上諭上年荆道乾患病解任後新簡安徽巡撫未到
以前荆道乾尚力疾辦事於每次奏事之便俱夾
片聲明病體情形近又奏稱不能即回本籍懇請
在安徽省調養俟痊愈後赴京瞻覲即李殿圖福慶
王汝璧等奏事亦均提及荆道乾近日病狀至汪
志伊於上年冬間因胃氣病發奏請解任朕特簡
調李殿圖回閩而王德巡閱營伍在途聞知亦即
回至省城此後提未將汪志伊病狀奏及本日陳
奏捐監銀數及雨水糧價各摺汪志伊與王德朕
銜伊病體是否向愈亦無一字提及殊屬非是地
方大吏因患病不能辦公懇請解任者自不能不
允其所請伊等身任封疆一經更換於地方殊有
關係即解任後朕惟望其速行調理就痊復邀委
任伊等亦當體朕眷念之意隨時將病體若何據
實陳奏况汪志伊不過舊患胃氣當其初發時雖
形委頓調理旬日即可平復照常辦事尚非荆道

乾之衰病可比何以一經奏准解任即在彼靜候交代不復奏及病狀殊不可解若汪志伊因福建地方難於經理輒思托病引退大臣居心更不應若此著玉德汪志伊各行明白迴奏並將伊近日病體是否痊愈一併奏聞勿稍含混將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

130 軍機大臣 字寄

駐藏大臣英 福 嘉慶七年二月二十日奉

上諭英善等奏本年廓爾喀例進表貢可否令其貴至邊界接收送京一摺所見尚是廓爾喀例遣貢使前經展限一年今秋應行來京瞻覲第廓爾喀國內現在與兵構釁設貢使抵京後有懇請救助等事轉覺難辦而川陝一帶曾遭兵燹地方亦不便令外番經過且該國王年紀幼小自應格外加恩用示體卹著英善等檄知該國王以大皇帝念其年紀尚幼專籍噶箕等四人幫同辦事若於噶箕內派令一人來京則該國王辦事未免又少一人幫助深為憐念是以此次例進貢物著敬謹費

至邊界由內地派員接收代為呈進所有恩賞該國王之件即在邊界地方發交該國王派人祇領此後應遵例貢俟該國王年長能經理國事時再遵照定例仍遣噶箕等貴貢赴京可也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

131 嘉慶七年二月二十日內閣奉

上諭本日據巡城御史明倫等奏拿獲拒捕傷兵案內賊犯一名並聲明文日楊立幹應否量予鼓勵一摺此案緝捕事件原係五城司坊官專責如有拿賊多名並緝獲緊要之犯辦理果能迅速朕加恩或將該員量予議叙或賞給緞疋皆非可從以為例乃自上年以來步軍統領五城多有拿獲尋常案犯輒即奏請恩叙者殊覺過濫即如外省地方官得拿獲隣境盜犯仍須查明本境無承緝未獲之案方准其量予議叙若似此案獲一二尋常案犯乃職分應辦之事遽爾紛紛請請恐啟僥倖之漸且摺內有不分畛域之語尤屬失

當五城近在輦轂之下非外省隣封可比有何吟
賦可分耶楊立幹者不必給予誤叙嗣後遇有拿
獲尋常案犯者俱不准奏請議叙欽此

132 嘉慶七年二月二十日奉

旨該部知道這本內及貼黃將該副將遺寫副字不
合者坊行欽此

汀州鎮總兵李慶雲護理
鎮務一本

133 嘉慶七年二月二十一日內閣奉

上諭宗室會試前經宗人府等衙門會議於三月初
四日點名考試官於初三日預行入闈較常例早
至三日第念宗室應試人數本少若先期另為一
場一切稽察支應較多一番經理不若仍照鄉會
試舊制於初八日入場點名在八旗及各省士子
之前並另編坐號不致混淆頒發欽命試題先行揭曉已足
優示體制而省紛繁考試官仍照定例於初六日入闈所有
本年宗室會試即照此辦理嗣後宗室鄉會試日
期均著為令欽此

134 嘉慶七年二月二十一日奉

旨著吏部於候補候選司坊各員內揀派十員聽候
差委欽此

都察院奏請飯廠平糶添派坊官

135 嘉慶七年二月二十一日奉

旨候補知州曹用荼著照該督所請准其補授狄道
州知州該部知道欽此

惠齡奏

136 查嘉慶五年長麟奏承辦軍需經理未善請

旨革職回旗之原任翠秦階道慶興階州知州慶熙

二員臣等面奉

諭旨俟該員等到京時傳到驗看酌量帶領引見欽
此嗣經該員等本旗先後報稱俱已回旗慶熙
到京後旋即患病現亦據報病痊臣等將該二
員傳到公同驗看慶興年力尚未衰老慶熙年
亦強壯應對均尚明晰可否交吏部帶領引
見之處伏候

訓示謹

奏

嘉慶七年二月二十二日奉

旨著交吏部帶領引見欽此

137 軍機大臣 字寄

署直隸提督陳 嘉慶七年二月二十二日奉

上諭上年賞發旂租銀二十萬而交陳大文於直隸

祇交州縣廣設粥廠是否征解齊全寬力辦理昨

已降旨詢問今該督詳查具奏矣現在近畿一帶

米京就食者多至二萬餘人五六十自係直省所辦賑務

未經得有定濟之明驗是以特派員司於盧溝橋

黃村東風米育四處分設飯廠監放俾得餬口因

恩良鄉涿州房山涿水易州等處為此次彈路所

經該處貧民諒復不少陳大文自己於前賞銀兩

內分撥五州縣開廠賑卹或此五州縣寔有不敷

應用之處不妨先行奏請添撥以資接濟倘該督

等未能督飭各地方官妥為賑給至三月初旬卷

輟經臨時目擊該處飢民流離失所則該督不能

詳答若如朕新正經過地方報將失業貧民閤閉

就近寺觀不許在外曠仰亦不成事該督務當飭

令州縣認真籌辦添粥廠次設法平糶以期寬惠

遠民不致救救待哺為要將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

138 軍機大臣 字寄

欽差工部侍郎那 內務府大臣巴 嘉慶七年二

月二十二日奉

上諭永定河工程節經降旨以工代賑上年那彥寶

等因工次需用人數較多恐其不敷曾經奏明令

該督陳大文招集災民來工傭作本年開工以後

已開旬日間該家募用人夫不過三千餘人而盧

溝橋一帶饑民雲集不獲傭工趨食恐聚集日久

不免滋生事端著傳諭那彥寶等察看情形如工

次或可添用人夫即量為雇傭俾窮黎得資餬口

於工賑事宜兩有裨益仍將該處近日約有饑民

若干據實具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

139 嘉慶七年二月二十二日內閣奉

上諭延豐奏兩浙商人吳康成等懇請公捐銀一百萬兩以備賞恤撫綏之用等語現在大功將屆告竣一切善後事宜需用尚繁均經陸續撥帑接濟但既據該商等抒忱願請清詞懇切實屬急公可嘉著照所請賞收准其於運庫春撥項下先墊解銀三十萬兩其餘銀七十萬兩亦由運庫撥項下陸續墊解於癸亥綱為始分作五綱歸款並著延豐查明該商等姓名咨部議叙以示獎勵摺併發欽此

140 嘉慶七年二月二十二日奉

旨此案疎脫賊犯翟六之把總曾錫福著解任與馬兵斬成功等一併交刑部審訊其餘差不慎之南營守備佟國良著交部照例議處欽此

141 嘉慶七年二月二十二日奉

旨吏部議覆勒保奏補給定府知府等缺一摺內劉佳琦等九員均與陞調補授之例不符但該督係

為新政要缺辦理軍務起見與尋常奏補者不同劉佳琦准其陞署綏定府知府鍾煬雲准其調署太平廳同知余永寧准其調署遼縣知縣顧紹先准其署理大足縣知縣李凱准其陞署忠州直隸州知州徐豐准其署理綏定府經歷朱向隆准其陞署太平廳經歷李暢准其署理遼縣巡檢王良佐准其署理遼縣典史均俟試俸期滿該督分別題咨實授餘依議欽此

142 嘉慶七年二月二十二日奉

旨山東沂州府知府員缺著張鵬昇補授欽此

143 嘉慶七年二月二十三日內閣奉

上諭馬慧裕奏按察使秦瀛現在患病懇請解任回籍調理等語秦瀛著准其解任回籍調理所有湖南按察使員缺著李亨特補授欽此

144 嘉慶七年二月二十三日內閣奉

上諭前據常明奏道員孫文煥侵蝕錢糧一案當

經降旨令常明率同藩臬兩司秉公審訊因思節年辦理銅仁軍需局務常明係該省藩司自必一同經理此案係百齡揭報常明始將該道列款奏奉該撫曾與孫文煥同辦軍需自應迴避況向來原有撫叅督審之例此案着專交琅玕迅速前赴黔省督同百齡張長庚提集應訊人証詳悉覆鞠定擬具奏常明不必會審琅玕於銅仁軍需本末經手更無所用其迴護也欽此

145 嘉慶七年二月二十四日內閣奉

上諭陳大文奏北運河應行建築堤埝挑淤開河各要工繪圖進呈請旨一摺運河堤埝原以保護民居利濟漕運如有河身淤塞及堤岸損壞之處自應隨時挑築茲既據該署督勘明應行開挑河溝六處共計一千五百餘丈建築加培堤埝十三處共計二千餘丈均屬險要着照所請准其照估挑築其所需工料銀兩着即在通永道庫貯備要工項下動用該署督務當督飭工員認真辦理毋任稍有侵冒此外如有似此應行挑淤者仍着該署

督詳查酌辦務於大雨時行之前俾各工均臻完善免致泛溢摺併發欽此

146 嘉慶七年二月二十四日內閣奉

上諭御史王寧焯奏請重軍機大臣責成以肅綸言一摺自雍正年間初設軍機處於大學士各部院尚書侍郎中遠派數人在內行走本為籌辦軍務而各衙門遇有應降諭旨直省寄信事件以及在京各勢不能紛紛令羣

工承繕是以俱由軍機處擬寫交發令事有統繫以昭畫一是軍機大臣承旨書諭並非將臣工翊贊之職盡責之此數人也內外滿漢大臣俱經朕特加擢用誰不宜盡心匡弼必專責之軍機大臣則其權過重若承奉諭旨之事軍機大臣得以力阻不行則外人又將以攬權指摘矣况我朝

列聖相承乾綱獨攬

皇考高宗純皇帝臨御六十年於一切

綸音宣布無非斷自

宸衷從不令臣下阻撓國是即朕親政以來辦理庶務遵皇考遺訓雖虛懷延納博采羣言而至用人行政令出

珠

准行大權從無旁落朕初閱御史所奏以為必有指陳時務臆舉切要者及詳閱摺內乃專指上年停止前往盛京一節語

陵展敬為登極後應行大典朕彼時明降諭旨於六年秋孟啓行事闕禮制豈臣下所可阻止嗣因御史沈琨張鵬展等以軍務未竣懇請展期交王大臣等會同妥議以為應如所請是以降旨暫行停止即至春間曾有旨巡幸木蘭後因夏間雨水過多亦停止秋徧此皆朕臨期的度豈軍機大臣能於春間即逆料夏雨情形預為阻止耶至該御史稱鑾輅所經地方官早為備辦永平一帶糜費已多不能開銷等語

陵諭旨係五年十一月初二日頒發至六年正月二十七日降旨停止為時無幾且距七月啟鑾之期又遠地方官有何預辦不能開銷之處手至該御史所奏前諭已發復行改擬不敬於先遂致不信於後等語試思前史所稱為詔令不信者如思旨已降或應行蠲貸而實未均霑或業已豁免而仍行科歛我國家曾有此等事手至於明發諭旨有

經朕再四思維尚有未盡周妥之處或臣工陳奏未便因而復行停止者此正欲事臻盡善故不厭反覆精詳若必迴護前旨固執已見勢將文過飾非蹈言莫予違之習豈古帝王從善如轉圜之道乎又所稱軍機大臣昧於大體不當僅於語句筆畫小誤始行自請議處所論亦屬非是謾罵諭旨雖係章京之責但軍機大臣於進呈事件理當敬謹校核既有錯誤自應請議况朕亦時加寬免何嘗僅於細務加之責備耶國家設立言官原期於國計民生指陳利弊近日科道陳奏其略有確據者朕無不立加根究即如朕擢用明安因御史汪鏞奏門鴉一案經軍機大臣會同刑部審出明安聽情受賄情節請旨解任當即將明安革職至定擬時承審大臣奏請發往烏魯木齊又經特旨改發伊犁而汪鏞即予陞擢何嘗不獎言路以宏採納但其數奏毫無指據者亦安能概予施行現在邪教餘匪未淨科道等並未將如何設法緝辦如何籌及生計及功竣後如何辦理善後事宜即外省地方倉庫

如何精貯充實等事一一酌籌切要具奏而直隸州縣被災畿民節次發帑設賑及散給棉衣以工代賑近日京城附近地方饑民頓賑者至二萬五六千人現又於城外增添飯廠亦從未有御史一言奏及其境况請奏者如用平恕則王蘇以為不應復任江蘇學政用黃永沛則游光輝以為不應僅借資格用人黜陟為朝廷大柄該御史等予諭旨明發後尚欲奏請撤回而王寧焯于應行改撤之旨轉以為不宜更易若國家用人行政莫是非得失志聽諸言官聽祝勢必假公濟私把持朝政如明季科道劣習亦豈能於朕前嘗試耶王寧焯所奏謬妄著將原摺擲還嗣後科道等遇有應行陳奏者仍直言無隱毋得似此率意妄陳自干咎戾將此通諭知之欽此

147 嘉慶七年二月二十四日內閣奉

上諭陳大文奏請添設河兵以重修防一摺永定河工段綿長原設河兵較少每遇伏秋大汛不敷防護自係實在情形著照所請酌添戰兵六十名守

兵三百四十名分派南北岸酌量工段平險添撥各汛即在於督標投標宣化天津鎮標戰守兵內抽撥其應否添設兵房之處著該署督悉心經理務臻妥協摺併發欽此

148 軍機大臣 字寄

欽差都侍郎那 內務府大臣已 嘉慶七年二月二

十四日奉

上諭那彥寶等履奏永定河工需用人夫並災民定款一摺據稱今歲盧溝橋一帶工程需用匠役居多所有雇用人夫祇可挑水挖土抬運灰石有萬餘人已足敷用等語自係實在情形惟念該處饑民聚集數千其南北兩岸已開工段現據那彥寶等飭令陳鳳翔蔣耀祖派兵將災民分送各汛備作其食力者已屬不少所有未開工段將次興築仍着那彥寶等悉心籌畫能多用一夫即少一饑民嗷嗷待哺也至朕三月初八日親臨盧溝橋閱視堤工那彥寶等應會同陳大文派委員弁將地方聚集貧民預為安頓毋致有環顧乞恩之事方

高妥善將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

149 軍機大臣 字寄

署直隸總督陳 嘉慶七年二月二十四日奉
上諭陳大文奏請添設河兵並北運河應行修築各
摺均照所請行矣現在盧溝橋一帶聚集災民已
諭知那彥寶等分派南北兩岸工次傭作俾窮黎
得資糊口但此等貧民人數衆多三月初旬朕親
臨盧溝橋閱視堤工著陳大文派委員弁將饑民
預為安頓勿致有環額乞恩之事方為妥善將此
諭令知之欽此遵

旨寄信前來

150 嘉慶七年二月二十五日奉

旨此項現存捐款銀七萬二百餘兩著暫貯河庫聽
候撥用餘著該部議奏欽此

貴州吳敬奏河工投効人員

151 軍機大臣 字寄

雲青總督琅 嘉慶七年二月二十五日奉
上諭據琅玕奏維西廳屬徠標夷人糾眾滋擾親往
查辦一摺維西地方向來夷民雜處今恒乍網騰
敢執持器械糾眾生事並聲稱欲燒捨古剎康普
二寨方可甘心似係挾有夙嫌近於仇殺但該匪
夷等既敢抗拒官兵四出焚劫則是有意滋擾非
僅止與古剎康普挾仇已可概見自應嚴加懲辦
此等雖不過烏合夷匪然業已聚至三四千人若
僅空言曉諭令其獻出首逆恐未必即行捨獻且
亦不足示懲應即加以兵威使知震懾現據該督
奏稱提鎮等聞報後業已帶兵七八百名前往堵
剿琅玕亦派撥藤牌兵二百名即馳赴該處查辦
但所帶兵力似尚不敷倘賊多兵少未能即時得
手轉恐賊勢漸張琅玕當於附近營汛內再行添
調兵丁督率將弁奮力勦殺俟該匪畏懼窮蹙再
諭令將首犯縛獻餘黨畏罪投誠自更易於完結
惟在該督相機妥辦以速為要琅玕到邊後著查
明寔在起衅緣由並將近日殺賊得勝情形迅即

馳奏至孫文煥侵蝕錢糧一案昨經降旨令琅玕
馳往黔省密訊今邊西一帶匪夷滋事現需該督
在彼查辦已另有旨令藩司百齡等東公研鞠俟
審出寔情稟明該督再行定擬具奏倘日內夷匪
業已安靜賊事該督仍遵前旨到黔密察可也將
此由五百里諭令知之欽此遵

旨等信前來

152 嘉慶七年二月二十五日奉

上諭前據常明奏道員孫文煥侵蝕錢糧一案因
常明曾任該省藩司與孫文煥同辦軍需應行迴
避復降旨改交琅玕督全百齡張長庚嚴鞠定擬
本日適據琅玕奏報該省雖西廳屬現有標探夷
人糾眾滋擾之事該督已親往查辦是琅玕此時
自未便前赴貴州所有孫文煥侵蝕錢糧一案即
著百齡會同臬司張長庚公嚴審得有確實稟
明琅玕定擬具奏將此諭令知之欽此

軍機大臣 遵

旨傳諭貴州布政使百齡

153 四月十四日

覆試會試中式舉人

十五日

十六日

十七日

十八日

十九日

二十日

二十一日

二十二日

二十三日

二十四日

二十五日

二十六日

二十七日

二十八日

二十九日

五月初一日

初二日

呈覆試卷

進

呈覆試卷

敬館引

試

回宮是日進
程於前十卷引
見程傳是日
寫字圖明圖

朝考

進呈
朝考卷

新進士引

新進士引

新進士引

改初一日

初三日 見

月官引

改初言

二月二十五日

154 嘉慶七年二月二十六日內閣奉

上諭京師城外普濟堂功德林留養貧民向例以清明節為止本年著再展限一月俾窮黎多資果腹以示朕恩施無已至意欽此

155 嘉慶七年二月二十六日內閣奉

上諭昨經降旨於附近京城添設飯廠四處聞盧溝橋一處就食貧民較多且距廣寧門稍遠著於通中之大井地方再增設飯廠一處派副都統白費蔭副都御史劉澗前往督同地方官經理俾窮民分投領賑不致擁擠更為有益欽此

156 嘉慶七年二月二十七日內閣奉

上諭陳大文奏直省被災各屬請大加減糶以濟民食一摺上年直隸被災州縣較多經朕疊沛恩施設法賑恤並預行降旨令奉天山東河南三省採

辦米麥高粱三十萬石以備平糶之用現屆青黃不接之時該省市糧稀少價值增昂小民糶食維艱著照所請將前項糧石按所減價值分別派撥糶賣該署督務須嚴飭各屬實心經理俾市價日就平減毋任胥役人等藉端滋弊摺併發欽此

157 嘉慶七年二月二十七日內閣奉

上諭達慶等奏撥船候運一摺此項撥船原應及早修驗俟漕船一到聽候撥用乃此次東豫二省漕船已抵楊村轉停泊等候撥船其承修督辦各員貽誤之咎實無可辭武清縣知縣朱杰經倉場侍郎節次檄催並無隻字稟覆東路同知莫景瑞藉病推諉均著即革職不必再交部議通州知州潘仁雖遲誤於前現尚趕緊修辦著與督催不力之天津道蔡齊明一併交部嚴加議處莫景瑞朱杰俱已革職若聽其回籍轉得置身事外所有此項撥船仍令其幫同修理其修驗之費不准開銷即著蔡齊明潘仁莫景瑞朱杰四人分別賠出統俟辦竣後再行奏聞所遺東路同知武清縣知縣二缺著陳大文即林負請補欽此

蒙下

硃批台布摺臣等公同敬閱現在五旗卡內地方尚

有貴德猶化番帳潛來居住自由青海蒙古軟

弱所致臣者衆既知震懾兵威較前寧謐而卡外

地方又實在不敷居住誠如

聖諭不必驅之太迫過一二年後再將官兵撤

回責成蒙古設法自衛仰見

皇上於數千里外番部情形

洞若觀火

恩威並濟禮卹備至俾番衆不致頓失生計而蒙古

日漸振作即可永靖邊隅實為正辦臣等不勝

欽服之至謹

奏

二月二十七日

159 軍機大臣 字寄

閩浙總督王 嘉慶七年二月二十九日奉

上諭玉德奏嚴究蔡牽踪跡一摺據稱上年十月溫

林

州鎮委員一船貼近蔡牽盜船被該匪拋下火藥

桶將兵船轟裂後已往東北逃竄等語該犯為積

年盜首每遇官兵輒先逃竄此次貼近官兵又被

轟船免脫殊屬狡惡着玉德飭令該鎮將等上緊

跟踪務須行擒獲勿使再致遠颺漏網為要又另

摺奏擊獲擄劫琉球難夷之盜匪審明辦理請將

許廷進麥鷹揚量加錄用等語許廷進麥鷹揚二

員前經加恩賞給千把總責令擒捕此案盜匪今

此次擊獲陳湯等犯該二員祇係隨同緝捕並非

親自擊獲且經審訊之後始知陳湯等七名係屬

擄劫夷船之犯是該二員於緝捕時亦並未預知

為此案盜匪寔力擒拏不過於洋面海捕偶然弋

獲許廷進麥鷹揚俱著陞一等補用着玉德存記

俟有應陞水師守備十名缺出分別拔補再另片奏稱李殿圖於

二月初六日接印汪志伊交卸後即起程回籍等

語前因玉德等奏事各摺未將汪志伊病狀奏及

業經降旨詢問今摺內仍無一語叙及上年判道

乾於李殿圖到彼交卸時即奏明病未痊愈而李

殿圖摺內亦詳悉叙及並聲明判道乾不能起程

回籍至今伊尚在安省養病可見其患病屬實今汪志伊於交印後即日起程似非病軀未愈艱於跋涉者李敘圖汪志伊交印接印之摺尚未奏到究竟汪志伊是否寔在患病抑或托病引退之處著玉德據寔具奏不可心存袒護稍涉虛飾也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

160 軍機大臣 字寄

盛京刑部侍郎 嘉慶七年二月二十九日奉

上諭本日刑部議覆旂婦華施氏扎傷親夫華三身死一案已照擬辦理矣惟摺內敘稱華施氏自幼許聘公門下壯丁華三為妻殊未明晰向來陳奏事件於王公等應行叙入者皆當出名聲敘豈有但稱為公而不書名之理摺內所敘之公是否即係晉昌抑係在京公爵著該侍郎查明具奏再此等案件向來祇用題本況案內僅有一犯業經審擬明確並無別項緊要情節更可照例題達今該侍郎專摺具奏亦屬非是將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

161 軍機大臣 字寄

雲南巡撫孫 嘉慶七年二月二十九日奉

上諭據戶部奏疏滇省積錢甚撥川省軍餉一摺已依議行矣此項錢文存積滇省錢價太賤多有不便以之就近撥充川省軍需自為有益惟滇省各府貯錢處所距川省水次道路遠近不齊一切運費難以懸定著孫曰秉詳細核算毋令局及運解人負影射開銷俟核定數目即先行具奏一面委員解赴川省備用戶部摺並彙給閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

162 軍機大臣 字寄

欽差工部侍郎那 繼高務奏案已 嘉慶七年二月二十九日奉

上諭那彥寶等奏籌辦永定河土堤加培事宜一摺永定河南北兩岸土堤急須修築除加高培厚之外亦別無辦法其所議現在興工及將來隨時修理各章程俱著照所奏辦理目下各堤既已陸續

開工需用人夫已至二萬餘名若實在敷用則已如尚可增添不妨再為雇募工次多一備作之人即可少一饑民於要工賑務兩有裨益至所稱盧溝橋原設飯廠請移在大井以西拱極城以東一節昨已降旨於大井地方增設飯廠一座所有盧

溝橋原設之廠應於長新店之西南一帶另打並中之地安設散放俾窮民分段就食不至擁聚方為妥協那彥寶即知會陳大文飭令西路同知遵照辦理將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

163 嘉慶七年三月初一日內閣奉

上諭同日據王德愛新泰等^同奏^列李獲聚眾結會異圖謀叛之首夥各犯審明辦理一摺臺灣地方每有結會煽惑之事今該犯白啓等胆敢復結小刀會糾劫滋事均屬罪大惡極該鎮等訪聞後立即帶領兵役拿獲首夥白啓等三十六犯分別凌遲斬梟所辦尚屬妥速其自行投出之白倫等四名訊係被脅入夥現既悔罪投首自應貸其一死白倫林面林強蔡猷俱著發往黑龍江等處給兵丁為奴逸犯王四湖等四名仍著該鎮等派委員并協同地方營隊上緊搜拿毋任漏網至該處地方文武於此案匪徒聚眾本有失察之咎但一經得信旋即查拿究辦功過尚足相抵所有失察處分著加恩寬免欽此

164 嘉慶七年三月初二日奉

旨向來鄉會試時原派有副都統二員入關足資彈壓現在宗室應試既改令與士子同日進場所有原議另請奏派宗人彈壓之處著行停止餘俱照所議行欽此

嘉慶七年三月初二日奉

旨這所奏玩視人命之江夏縣知縣王澍及相驗不實之署江夏縣縣丞候補布政司經歷毛敬事著一併革職交布政使會同按察使提集案內犯証嚴審定擬具奏其會審不能訊出實情之署武昌縣知縣秦錫疇亦著解任質審欽此

165 臣慶桂 臣戴衢亨 遵將

恩旨詳晰開導革職理事官宗室巴明阿令其從實供吐據巴明阿碰頭流涕^跪供稱蒙

皇上如此施恩開導何敢尚有欺^欺此事我實知情無可抵賴等語謹將巴明阿供詞繕錄進

呈 謹 奏

三月初二日

166

巴明阿供張進喜等供說此項挪移庫銀原是家人起意巴明阿委係知情將銀掣回家中放在上屋裏間房靠東山牆的木箱內其銀是我

167 換錢贖取富物以及零星花用因日子已多一

時不能逐細指供這是寔情只求

皇上治罪我並情愿將銀如數措完是寔

168 嘉慶七年三月初四日奉

旨前因提督衙門奏盤獲偷竊倉米一案稱靠倉城

墻所生雜樹易於攀援上下降旨令該管衙門即

行芟除原專指近倉城墻樹株而言並未將各城

墻樹木概行砍伐所降諭旨甚明乃提督衙門咨

會工部將正陽門永定門等內外城墻大小樹株

盡行砍斫並欲連根剷概粘修磚塊此寔明安辦

理錯悞令工部堂官奏稱樹根與土脈相聯應請

停止剷斫其各城墻大小樹株仍請全行砍伐亦

屬非是試思正陽等內九門永定等外七門凡海

墻排垛宇墻雜樹共有一千五百餘株若概令剷

紛砍伐成何事體且與前次諭旨不符此事仍交

提督衙門止將城墻靠近倉庫一帶所生雜樹易

於攀援上下者量為芟除枝葉無庸剷斫根株除俱

不必砍伐欽此

169 嘉慶七年三月初四日奉

旨蔡曾源杜報恩張景芝李偉靈履祥薛見龍俱著准其捐

復章偉章是偕俱不准其捐復欽此

170 嘉慶七年三月初四日內閣奉

上諭長琇周元良奏現在辦理飯廠請將男婦及老

病人口分廠領賑等語采育地方所設飯廠饑民

紛紛就食若年老有病之人同赴一廠恐未免擁

擠不前分廠給賑所奏事屬可行至領賑男婦其

中今有夫妻父女母子等相率偕來者倘分設廠

座令各就各廠領賑勢必概行分開轉恐有遺失

婦女幼孩等事現在盧溝橋黃村東壩等處所設

飯廠俱未如此奏請長琇等惟當督率地方官妥

為經理所有男女分廠給賑一節不必行欽此

171 嘉慶七年三月初四日內閣奉

上諭維善奏請歸併無屬之道丁一摺盛京禮部原設有道

錄司管轄通省道丁該處向有流民及無主家奴充當道

戶逐年加增雖係禮部所轄而部中並無各丁名冊可憑

該丁等散居城村旗民雜處既不屬該旗所管又不歸地方官約束恐不肖之徒恃無管轄未免滋生事端自應妥為查辦著成京將軍奉天府府尹會同禮部將此項道丁作何清查歸併之處酌定章程詳議具奏欽此

172 嘉慶七年三月初六日奉

旨此項應進

谷陵供獻寶花關係

祭祀大典該管司員自應小心看守乃於成造後存貯藥王廟內並不派人專司照看以致燒燬八座之多非尋常疎忽可比即中伍雲泰員外郎富綸吉昌圖^家阿善福俱著解任送交刑部審辦其土花匠及看廟人等著永碩等訊明有應行質証之處均著刑部嚴行審擬具奏永碩私謙與長未能先事預防亦屬疎忽著一併交部議處欽此

173 嘉慶七年三月初六日內閣奉

上諭惠齡奏請將甘省上年被災各屬懇恩緩徵一摺上年甘省被災各廳州縣節經降旨蠲賑兼施

俾資口食現屆青黃不接之際農務最殷所有本年春徵銀兩若照例開徵仍恐民力未免拮据著加恩查照上年奏報被災之皋蘭等四十四廳州縣及勘不成災之河州等九州縣本年春徵銀兩俱緩至麥後徵收以紓民力該部即遵諭行摺併發欽此

174 嘉慶七年三月初六日內閣奉

上諭吳熊光等奏荆宜施道崔龍見患病請解任調理並請將楚南府知府丁雲錦調補首府其遺缺開列在楚候補知府名單請簡放等語崔龍見者准其解任回籍調理所遺荆宜施道員缺著現署岳常澧道之陳蘭森補授至岳常澧道韓蔚現署臬篆所有該道事務著張方理署理丁雲錦著調補武昌府知府所遺楚南府知府員缺著尹英國補授該部知道摺併發欽此

175 軍機大臣 字寄

成京將軍 吉林將軍 直隸河南湖北湖南貴

州各督撫 嘉慶七年三月初六日奉

上諭吉祿奏遣犯王志方在配脫逃該犯籍隸貴州
逃逆後或沿途逗留或潛回本籍俱未可定著俾
諭晉昌秀林及直隸河南湖北湖南貴州各督撫
一體飭令地方官嚴緝務獲毋任日久遠颺又逃
遣嗎海一名係喀喇沁旗蒙古恐該犯脫逃後在
直隸沿邊州縣一帶潛匿著直隸總督一併飭屬
嚴拏將此各諭令知之欽此遵
旨寄信前來

176 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年三月初七日奉

上諭本日李殿圖汪志伊奏到交印接印各摺據汪
志伊摺內稱交卸撫篆後即日起程回籍並稱因
胃氣舊病復發蒙恩即准開缺一俟回籍調養社
症即恭赴闕廷等語看此情形汪志伊所患胃氣
舊病或曾經偶發未致委頓旋即調理平復伊現
於交印後即日起程似非病軀未愈艱于統道者
即如上年荆道乾患病解任不能起程回籍至今

尚在安省調養共見共聞其患病自係屬實今汪
志伊既能迅速歸里其前奏恐未確實伊現已回
籍後是否尚有病狀並現在曾否痊愈之處據實
具奏再荆道乾近日病體如何亦著一併具奏將
此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

177 嘉慶七年三月初七日奉

旨此案著派德瑛馳驛前往秉公嚴審定擬具奏所
有隨帶司員一併准其馳驛欽此

刑部奏霸州武生呈控該州隱匿張米等一案

178 嘉慶七年三月初六日奉

旨陶于厚免其正法餘依議欽此

刑部奏審擬黑龍江逃違為疾

179 嘉慶七年三月初七日奉

旨德瑛現在出差所有刑部印鑰著琳寧暫行管帶
欽此

180 嘉慶七年三月初七日内閣奉

上諭紀昀熊枝已派充會試正考官德瑛現在出差
所有監糧事務着改派張若淳長麟蔣曰綸欽此

181 朱珪

張若淳

縉布

彭元瑞

西成

長麟

英和

莫瞻菴

潘世恩

蘇楞額

蔣曰綸

舒聘

派監糧 請改

182 嘉慶七年三月初八日内閣奉

上諭此次朕恭謁

西陵沿途州縣均係上年被水之區自應格外加恩以

示體卹所有經過宛平縣地方除本年應徵錢糧
業經全行豁免外着再加恩將嘉慶八年應徵錢
糧寬免十分之五其良鄉涿州房山涿水易州五
州縣經過地方着加恩將本年應徵錢糧寬免十
分之五欽此

183 嘉慶七年三月初九日内閣奉

上諭陳大文奏懇請仍將磁州知州王盛清調署涿
州知州一摺涿州知州員缺前此該署督請將王
盛清調署經部臣以磁州本係繁缺以繁調繁與
定例未符該員任內又有降級留任之案該員且朕
聞王盛清聲名平常其磁州任內經該處民人控
告兩次及朕面詢之陳大文瞻柱等均稱該員平
日尚屬能事其在磁州時查知該處向有單頭名
色包攬錢糧相沿已久經王盛清概行裁汰致有
怨言砌詞控訴旋即審虛此外並無別項劣款等
語王盛清莖革單頭為地方除弊起見尚無不合
今既據該督奏稱涿州係衝繁要缺該員自據署

以來辦理一切頗能出力於人地實屬相宜即著
照該署督所請王盛清准其調署涿州知州俾狀
指臂之效但該員究曾被人具控如調任後或有
別項欺誑一經告發得實不但將該員立加懲辦
陳大文臚柱等係保奏之員亦不能辭其咎也欽
此

184 嘉慶七年三月初九日內閣奉

上諭陳大文議奏旂地酌復租銀因冊檔殘缺無憑
仍請勻攤減免一摺直隸旂地拖欠提以從前加
增租額為詞今既加恩減免自應照依原加之數
按冊酌減方為平允今據陳大文飭司查覆增租
冊檔寔已殘缺難稽無憑詳議若必欲令其分晰
開報轉啟該州縣等捏造之弊且旂地散處七十
餘州縣倘另派部員會同地方官逐細履勘亦未
免紛擾兼之曠日持久于租賦更得藉詞延宕所
有豁免三次四次回贖民典奴典等項酌復租銀
十三萬三千八百二十九兩二錢三分一厘及續
免之公產存退莊頭另案屯莊等五項酌復租銀

二萬九千二百四十八兩七錢姑照該署督所請

按額勻攤普減並著該署督轉飭藩司令地方官
將八項地畝原徵銀若干此次減免銀若干于各
戶所佃地畝詳晰註明限兩三月內開造細冊兩
分一分報部察核一分存司備案用昭數實至冊
檔殘缺靈爛該州縣本有應得之咎但事關多年
人非一任姑免深究此次清釐攤免之後陳大文
務當嚴飭各屬年清年款如再有拖延或藉詞冊
檔難稽致滋牽混惟該督等是問該部知道摺得發
欽此

185 嘉慶七年三月初十日內閣奉

上諭京師五城煮賑以三月二十日為止但上
年被水較重現屆青黃不接之時貧民難於得食
自應再為展賑以廣恩施惟五城十廠分設城內
城外刻下農務方殷近郊一帶力作者多若仍令其
進城領賑轉有不便著加恩將五城正副十廠併
作五廠均移至城外廠內開放俱展至四月二十
日止其盧溝橋黃村東嶺采育大井等處飯廠亦

著一體展至四月二十日止以示朕惠濟窮黎有加無已至意欽此

186 軍機大臣 字寄

浙江巡撫阮 嘉慶七年三月初十日奉

上諭據阮元另片奏乍浦汛口外委郎廷槐率同兵役監獲盜船一隻搜出私硝八百餘斤並獲犯沈大庭訊出私販硝觔欲賣給海匪蔡牽等情盜匪在洋行劫所得贓物摠滙上岸銷售况一切食用之物若非有奸民暗中接濟盜匪必不能在洋面存身是欲靖盜源端在嚴查濟盜奸民方為有裨如售買硝磺本干嚴禁果能實力查拏盜匪何從得有火藥而米糧為口食所必需若能禁止出洋則盜夥立形飢窘至上岸銷贓必有一空處所更當密為訪察偵探蹤跡自必易於擒捕著俾諭該撫督飭近各口岸地方營汛各官弁認真巡察嚴拏濟盜奸民務期絕迹所有私買硝觔之沈大庭等實為可惡著阮元提集姚有勳徐永順一併嚴審定擬具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

187 軍機大臣 字寄

兩江總督費 江蘇巡撫岳 嘉慶七年三月

十一日奉

上諭向來江浙等省漕務積弊已久經朕節次降旨整頓清釐嘉慶四五年有漕各州縣於徵收糧石雖不能顆粒無浮而從前加四加五加倍之弊均已革除正望其從此漕政肅清俾閭閻永沾實惠乃近聞江蘇去年徵收新漕蘇州府知府任兆炯藉彌補虧空為名於岳起王汝璧前極言漕難辦懇慮仍復陋規岳起等初以為為不可行後竟受其簧惑將蘇松等四府全漕盡委任兆炯督辦聽其更張照舊加收殊堪駭異漕務係糧道專責該撫自應交該糧道督率經理若該道李奕疇不能勝任即應奏明更換何以將四府全漕專委於向日聲名平常之任兆炯督辦且該督等既以任兆炯請復陋規為不可行何以不即奏奏轉復扶同徇隱以致該州縣等竟敢公然仍復陋規毫無忌憚而為刀生藉此挾制取利故智復萌旗丁等見地方官加收糧石亦欲多索免費任意勒捐而

百弊叢生兩年以來剔除漕弊卹丁患民之事竟廢于一日且該省藉口彌補虧空縱令州縣恣意浮收其實不過為肥己起見陋規既復則上司取之州縣而州縣仍取之百姓層層剝削無非苦累吾民即云江蘇地方倉庫尚有虧缺現須籌補亦宜權當屏除浮費節儉自持以期漸次補苴豈有浮收漕糧刻剝小民之理此事不可不徹底查辦以儆其餘著交費淳奏起各行明由回奏並密為察訪如以上所指各情節一有確定即行嚴恭懲治倘迴護瞻徇稍有不實不盡經朕另派大員前往查訪訊出實情費淳奏起等不能辭咎矣將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

188 軍機大臣 字寄

漕運提督斌 嘉慶七年三月十一日奉

上諭向來江浙等省漕務積弊已久經朕節次降旨整頓清釐嘉慶四五兩年有漕各州縣於徵收糧石時雖不能顆粒無滲而從前加四加五加倍之

弊均已革除正望其從嚴懲辦清保閭閻水沽

實惠乃近聞江蘇去年徵收新漕蘇州府知府任

兆炯藉彌補虧空為名於去起缺保王如篪前極

言清漕難辦懇恩仍復陋規去起等初以為不可

行後竟受其黃卷將蘇松等四府全漕盡委任兆

炯督辦總其吏秩漁蕩加收珠塔駭異漕務係棘

道專責該督自應交該揀道督率經理若該道學

吏時不能勝任即應奏明更換何以將四府全漕

專委於向日聲名平常之任兆炯一人督辦且該

撫等既以任兆炯請復陋規為不可行何以不即

奏奉轉復朕因徇隱以致該州縣等竟敢公然仍

復陋規毫無忌憚而劣監刁生藉此快利取利故

習後前旗丁等見地方官加收糧石亦敢多索兌

費任意勒捐百弊叢生兩年以來剔除漕弊卹丁

患民之事竟廢於一日此事著交該保案為訪查

如以上所指各情節一有確據即行指名嚴恭懲

治倘有瞻顧經朕另派大員前往查辦究出實情

是致保轉貽欺罔之咎該漕督無地方之責更無

所用其迴護也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

189 軍機大臣 字寄

步軍統領祿 左翼提兵恭 嘉慶七年三月十三日奉

上諭昨因近郊一帶力作者多特降旨將五城飯廠十處併作五廠移至城外以就民食現定於何日歸併廠座安設何處及歸併後領賑人數究有若干著祿康恭阿拉查明於朕駐蹕香山時具摺奏聞欽此遵

旨寄信前來

190 嘉慶七年三月十三日內閣奉

上諭安徽學政著汪廷珍去欽此

191 嘉慶七年三月十三日奉

旨番子頭目馬凱前因捕務認真加恩賞給千總又因明安保奏加賞守備職銜茲據祿康等奏稱馬凱自賞守備銜後心存自滿於拒捕要犯並不寬心緝拏僅獲尋常竊賊數名搪塞尚稱南城外安靜無事請將馬凱革去守備銜祇留千總仍令其

專司緝捕等語所奏甚是馬凱著革去守備銜仍留千總以觀後效所有民人沈永寧及丁椿寶家被竊拒捕等案即責成馬凱勒限緝拏如再仍前踈玩並即奏請將千總革去若能於限內拏獲各要犯再行奏明酌量加恩餘依議欽此

192 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 嘉慶七年三月十三日奉

三日奉

上諭吉慶奏確探安南與農耐及保樂交兵大概情形一摺安南農耐彼此搆兵原與內地無涉現在安南招集匪船欲由海道奪取富春想匪船亦必樂為之用該督祇須飭令巡洋將弁如遇有盜船駛至粵東洋面即行上緊拏拿照例辦理其沿邊關隘仍遵前旨留心防範並將安南農耐近日勝負情形隨時探聽遇便具奏將此諭知之欽此遵

旨寄信前來

193 嘉慶七年三月十三日內閣奉

上諭和寧奏查明臨關歷年接拉柳缺寔數分別攤賠勒這一摺關稅正項例應年清年款解部題銷寔容稍有通挪接抵今臨清關衝缺關稅既據和寧等徹查清已歷五任交代共應賠銀三萬四千三百零自當著落經手各員照數追繳除許承蒼名下應賠之項業經伊子許紹錦如數完繳外其餘秦震鈞等四員應交銀兩著戶部行和各該督撫按照應賠數目轉飭催追毋任再有延宕摺併發欽此

194 軍機大臣 字寄

副都御史萬 光祿寺卿范 嘉慶七年三月十四日奉

上諭萬寧等奏放賑情形摺內稱清苑永清新城等縣差人到廠將領賑貧民領回數十人在本處就食萬寧等即飭令西路同知行文各州縣俱令照此辦理等語所辦殊屬非是盧溝橋等處設立飯廠原因附近各州縣貧民外出赴食者多是以

殊

殊

添廠給賑賸資口食乃萬寧等以現在清苑等縣有差入領回本處貧民報欲令各州縣做照辦理勢不能不令派差役紛紛押送竟與遊解人犯無異况其中道路較遠地方非一二日能到途中必致乏食而老弱疾病之人行走維艱又有差役沿途督催更難保無在途餓斃者且各州縣兩差入役豈能於本處饑民概行指識彼此認領徒滋紛擾若各該州縣果能于本境內普編散放何致饑民出外就賑是即使差人領回恐仍未必得食此事斷不可行除業經領回貧民祇可聽其回籍外其餘各州縣如尚未行文即應停止若已經行文即速行撤回萬寧等務當於領賑窮黎妥為散給毋使一夫失所將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

通下時改明發傳抄

195 嘉慶七年三月十四日內閣奉

上諭陳大文奏請勸款修築河間縣高家口漫工淤

令王念孫到彼督辦一摺上年雨水盛漲河間縣高家口堤埝衝決之水自南而下灌注文安致積潦日久未消自應亟為堵築以資捍禦其應需工料銀三千九十五兩零著准于天津清河二道庫貯河淤地租銀兩內動撥至原任永定河道王念孫係履勘原估之員於該處情形自為熟悉著那彥寶等飭令王念孫酌帶永定河歷辦埽工之河兵即赴河間會同地方官趕緊興工堵築務臻穩固欽此

196 軍機大臣 字寄

江西巡撫張 嘉慶七年三月十五日奉

上諭禮部奏有江西義寧縣學正吳吉士到部投卷據稱現年七十八歲經本省提塘報知賞給舉人又貢生王廷柏現年七十三歲亦係本省提塘報知經巡撫補奏賞給舉人當查上年江西省年老諸生奉旨如恩者並無吳吉士王廷柏之名該省亦無補奏賞給舉人之案相應據實奏等語學正吳吉士並無該撫咨文擅離職守無論年歲是否合例已有應

得處分貢生王廷柏如果三場完竣年歲與例相符該撫何以遺漏具奏至該省提塘假報舉人是否屬實亦應詳志根究著張誠基查明有無別項情弊該學正擅離職守及失察各職名一併查奏具奏將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

197 嘉慶七年三月十六日內閣奉

上諭成德現在告假所有戶部尚書事務著慶桂暫行兼署欽此

198 軍機大臣 字寄

監放各餉廠御員 五城御史 嘉慶七年三月十七日奉

上諭本日據台費蔭徐績長瑋等奏餉廠放賑情形各摺所開各餉廠領賑之人自七八千至四五百人不等多係附近貧民其外來者甚少每日按照人數均勻散給俱極安靜辦理均為妥協因思萬寧寺監放盧溝橋賑務於一切散放章程尚無不合

惟今西路同知行文各州縣募派差役將外來顧
賑貧民領回本籍竟與遞解人犯無異且沿途必
致乏食豈非驅令轉於溝壑前已降旨飭諭萬寧
范登著再傳旨申飭至現在各廠散給飯食貧民
等舍哺果腹食稱較之伊等豐收年分家中所食
飯米更為適口其歡欣感激自屬實在情形但愚
民無知恐恃官賑可以常給不思自謀生計及至
屆期停賑轉不免口食無資著各廠鄉員及五城
御史於四月初間每日散賑時即當將四月二十
停賑之期面為曉諭並詳晰出示以近畿一帶上
年被灾較重皇上恩施無已除五城例設飯廠
外又於盧溝橋黃村采育東壩大井各處添設五
廠又因現在青黃不接之時奉旨將五城十廠併
作五廠俱移設城外俾飢民得以就近領賑並與
盧溝橋等五廠一體展至四月二十日停止鴻慈
稠疊無以復加但各廠所給官米皆係倉儲本為
糜祿兵糧之用今皇上逾格施仁賑貧窮黎豈能
頻頻接濟况四月下旬二麥將屆登馮易謀口食
爾等當早自為計各園生業一屆四月二十各廠

俱一律停賑斷不能再為展限爾等切勿心存觀
望如此劉切曉示俾貧民等早知停賑有期自必
陸續散歸也再本日劉酒親赴署宣遞奏摺朕名
見詢問所奏放賑情形與摺內無異豈故欺朕各
員自應在彼時刻照料若俱欲前來親遞奏摺轉
恐於賑務有誤嗣後遇有應奏事件止須繕摺交
隨帶司員賞進不必親身呈遞將此各諭令知之

欽此遵

旨寄信前來

199 嘉慶七年三月十七日奉

旨通州知州潘仁於應修撥船並不及早修驗致悞
撥運一案連慶寺恭奏時即稱該員現在趕緊督
辦較之朱杰等二人尚屬有間是以姑免罷斥僅
交部嚴議茲據部議以降二級調用銷去紀錄四
次批降一級仍降一級調用因屬咎所應得但該
員被忝情節較輕且據連慶寺奏該員績經趕辦
撥船一百餘隻猶屬急公其在通州任內辦理放
賑事宜亦能認真出力潘仁著加恩改為降二級
留任餘依議欽此

200 嘉慶七年三月十八日內閣奉

上諭原任安徽巡撫荆道乾外任有平清拏素著自
擢任巡撫辦理地方事務俱能定心營務去冬因
患胸氣端逆曾降旨准令解任並准即在安徽省調
理以冀就痊茲聞溘逝殊堪軫惜著加恩賜祭一
壇所有任內降罰處分均予開復伊有二子一孫
俟服闋後著伯麟揀選一二人送部引見欽此

201 軍機大臣 字寄

署直隸總督陳 嘉慶七年三月十八日奉

上諭陳大文奏行抵工次有武清縣民百餘人遠來
具稟請將已革知縣朱杰免其離任一摺現已明
降諭旨將朱杰改為革職留任矣朱杰平日官聲
本好今既據該縣民人合詞懇留可見其素得民
心是以加恩特准留任著陳大文曉諭武清縣民
人知縣為親民之官原期慈惠清廉愛民如子朱
知縣到任兩載辦事清正此次經理賑務又能定
力寔心茲因他案罷斥爾等依戀情殷遠來籲請
經本部院據呈入奏蒙皇上俯順輿情仍將朱知

縣留于本任爾等得此好官自宜同深感戴倍加
安分守法勉為良善至該署督前因此岸同知缺
出擬將朱杰奏陞之處且可暫緩朱杰既於武清
地方有裨如遽行陞調仍須離任不妨令其多任
一二年俟該處地方經理有效再予陞擢所有此
岸同知員缺著該署督另行揀員奏補將此諭令
知之欽此遵

旨寄信前來

202 嘉慶七年三月十八日內閣奉

上諭原任武清縣知縣朱杰聞其平日居官聲名尚
好辦理放賑事宜亦能認真出力嗣因修船撥船
貽誤經倉場侍郎達慶等奏奏降旨革職前於
召見熊枚時據稱朱杰辦賑妥協曾經保奏及在
差次面詢陳大文亦稱該參員官聲素好本日又
據奏稱行抵工次有武清縣民百餘人遠來具稟
請將朱杰免其離任眾口同稱好官難得涕泗交
流情詞真切其遲悞撥船之案寔因上年起卸天
津米石運道旋被凍阻本年已趕修五百隻備用

又以接運北倉囤貯米石致不敷豫東漕糧起撥
之用是其遲悞尚屬有因現有該縣民人紛紛透
涉乞留可見米杰居官清正能得民心所有前此
革職之著著加恩改為革職留任欽此

203 軍機大臣 字寄

雲貴總督琅 貴州巡撫常 傳發前布政使百
齡 嘉慶七年三月十九日奉

上諭常明奏審訊孫文煥濫用軍需撥混酒銷屬實
一摺并將從前報銷之督撫司道局員等應行分
賠銀數開單進呈據稱孫文煥前在軍營時節次
經福康安提取實號等件約計用銀二萬一千餘
兩又張繼辛從提局交孫文煥送福康安銀十萬
兩門包二千二百兩俱難開列入冊酒在盤基坊
臺站案內報銷等語福康安因軍營實需提取銀
二萬餘兩或實係彼時分賞兵丁至張繼辛交送
銀十萬兩收用屬實自應請旨查辦乃竟不置一
詞且於各負撤賠單內轉未將應送福康安銀兩
列入是常明至今猶存畏懼推委之見又此項酒

硃

帶冒銷係張繼辛一人何以被令其分賠了事所
有張繼辛名下應賠二款共銀一萬一千五百八
十餘兩俱著落常明如數完繳並著行文湖南巡
撫將張繼辛原籍家產嚴密查抄以抵款項並常
明曾與孫文煥同辦軍需此案自係百齡查出常
明不敢不據實奏奏自應迴避前經降旨令琅玕
督同百齡張長庚審訊今常明於未奉此旨之前
先行訊明大槩情形具奏將濫應餽送及主使冒
銷等弊供按之已故之福康安張繼辛二人叨係
國事無對証有心推卸且一切支銷摺冊殘缺不
全孫文煥必更有抽匿浮冒情弊亦不得任其狡
賴常明所奏恐有不實不盡之處必須澈底跟查
方可定讞常明著不必再行會審仍遵前旨著琅
玕督同百齡張長庚辦理至琅玕所轉據豫費人
一案自必易於完結伊自前月二十五日奏明帶
兵前赴該處辦何以至今尚未據奏報如此時業
已辦竣即赴貴州督同審訊倘一時不能到鄂即
令百齡會同張長庚先行詳細研鞫逐一根訊得
實稟明琅玕定擬具奏再常明另摺奏未將加費

滇黔兵丁銀兩先於司庫內動用按名補給自應
如此辦理其各員應賠銀兩並著分咨各員原籍
迅即就近措繳報部查核毋任稍有延宕至同辦
局務之馮克單明安秦胡旭椿等並著提到案一
併質審將此由四百里諭令知之欽此遵

204 臣等遵

旨傳到德麟令其自行認賠伊父福康安在貴州軍
營得受餽送銀兩當經德麟碰頭跪稱所有應
賠銀兩自當竭力措繳另行具摺陳奏等語謹
奏

三月十九日

205 嘉慶七年三月二十日內閣奉

上諭各省徵收漕糧禁止折色定例恭嚴朕親政以來於清
務事宜大加整頓期積弊漸就肅清乃近聞有漕省分尚
不免有浮收及得受漕規者是積習仍未改並聞各州

縣往往於開倉時通額浮收迄未數既呈遂私行折色竟
公然設局定價並有於開倉之始即先行折色虛報滿厥
自用賤價買補於兌種時兼有折兌之弊而運實旗丁之
勦捐奸胥蠹吏之弊弊劣矜刀民之把持皆由此而起其
受累者惟在安分良民以天庾心供徒為不肯官吏紳士
等牟利之途盛國病民莫此為甚著傳諭有漕省各各督
撫督率司道等官嚴行查禁嗣後州縣官徵收漕糧概以
本色兌收毋得仍前私收折色倘敢仍前婪混一經查出
即照枉法治罪再聞州縣官於徵收本色時往往以米色
平常藉詞挑斥即實係乾圓潔淨者亦必多方勒捐使花
戶等守候需時百端苦累自不得不以折色改交此次中
諭之後伊等咸又陽奉陰違於本色交倉時故意留難刁
頑此風尤不可長並著該督撫等嚴行查察既不得改收
折色亦不得於本色過事苛求違者嚴奉治罪若該督撫
不能實力訪查甚或有意瞻徇徇私察出或被入奏務必
將該督撫等一併懲治決不寬貸欽此

206 軍機大臣 字寄

二品頂戴暫留雲貴總督琅 嘉慶七年三月二十日奉

上諭琅玕奏審辦標匪情形並節次打仗各摺覽奉
俱志標匪本徽外野夷槍掠滋擾不過烏合之衆
無難速為辦理令據琅玕分飭文武員弁在各要
隘處所巡查防禦布置皆尚妥協惟現因兵力不
敷業經飛調兵練到彼協剿琅玕一俟兵練到齊
即當督率員弁迅速進剿或設法分抄後路一鼓
擒渠務將恒乍網反怒念谷諸首逆擊獲辦理或
該匪能將首逆等縛獻投誠亦可酌量完結茲在
剋期速辦使野夷知所畏懼庶可永靖邊隅真家
標標及二教喇嘛本與標匪接壤素相往來今恒乍網等
打鼓念經乘機勾結難保其不與附和琅玕當多張告示諭以
現在野標標滋事爾等惟當各守寨落安分守法慎勿
聽信其言為所淆惑設有附和勾結之事即日官兵痛
剿玉石俱焚彼時悔之無及如此明白曉諭庶不致為
其煽惑辦理較易完結至滇中道路較遠琅玕此
次奏報與前奏相距二十五日已覺稍遲現在督兵
剿辦或能一舉集事或得有勝仗即當隨時奏聞
不必俟歲事後始行具奏但一切情形提當據實
直陳不得蹈欺誑積習致干咎戾也至張永旗一

案業已諭交孫曰秉甘同審辦矣將此由五百里
諭令知之欽此遵

旨寄信前來

207 軍機大臣 字寄

雲南巡撫孫 嘉慶七年三月二十日奉

上諭前據琅玕奏貴州平遠協副將張永旗縱容
容子弟婪索滋事一案當經降旨交琅玕審辦茲
據琅玕奏稱人証業已提齊伊現在維西軍營旋
省遲速未定等語此案人証既經行提到省自未
便久懸不結著交孫曰秉就近督同司道等秉公
審訊按律定擬具奏將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

208 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 廣東巡撫瑚 嘉

慶七年三月二十一日奉

上諭前據吉慶等奏擊獲假官撞騙之許澤一犯供
係從前在傅恒家中教讀曾經奏賞郎中職銜又

從征緬甸加賞三品頂戴花翎等語當交吏兵二部查奏今據該部覆奏檢查檔冊並無其事是該犯所供全屬虛誑或伊曾在傳恒之家人處坐館餉口遂捏詞假冒希圖撞騙亦未可定著吉慶等即向該犯嚴切跟究定擬具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

209 嘉慶七年三月二十二日內閣奉

上諭戶部尚書成德服官有年小心謹飭上年命在軍機處行走勤慎供職前因染患痰症賞假調治曾派御前侍衛軍機章京等帶同太醫前往診視方冀速痊今聞溢逝殊堪軫惜著加恩晉贈太子少保其任內降罰處分悉予開復所有應得恤典著該衙門察例具奏欽此

210 嘉慶七年三月二十二日內閣奉

上諭戶部尚書員缺著祿康補授現在戶部堂官多有在內廷行走者不能每日進署祿康係步軍統

領例應輪班在圓明園直宿今既補授戶部尚書著不必在園輪直俾得時常進署辦理部務欽此

211 嘉慶七年三月二十二日內閣奉

上諭常明奏請將滇銅歸滇省迤東道承運運交鎮雄州接運一摺向來滇省係由尋甸州起運經過黔省威寧州屬地方交鎮雄州轉運至四川廬州水次交笮峒經改由黔省威寧州接運今既據奏稱該州赴滇省藩庫請領運費往返需時諸多不便著照所請改歸滇省迤東道承運運交鎮雄州接運以昭簡易摺併發欽此

212 嘉慶七年三月二十二日奉

旨御史書興奏請慎重倉糧專責巡查一摺京城內外倉廩原有額設弁兵以資巡查今該御史請添設堆撥增派兵丁番役並嚴加處分其應如何酌定章程之處著交步軍統領衙門妥議具奏欽此

213 嘉慶七年三月二十二日內閣奉

上諭據愛新泰等奏福建金門鎮標右營固字六號哨船配兵渡臺於上年十月十一日放洋後陡遇颶風沉礁擊碎漂失弁兵高連登等一十八員名砲械藥鉛等項俱被沉失又提標前營年字五號哨船配兵渡臺於上年十一月初五日放洋後亦因颶風沉礁擊碎漂失水兵黃進福等三名砲位藥鉛多被沉失各等語此項渡臺兵船陡遭風浪人力難施該弁兵等出洋淹斃事屬因公情殊可憫所有金門鎮哨船記載之弁兵高連登等一十八員名及提標哨船配載之水兵黃進福等三名均着加恩照例賜恤其沉失砲位藥鉛等項准其咨部題銷該部知道摺併發欽此

214 嘉慶七年三月二十二日奉

上諭戶部議駁延豐奏請銳銷辛酉綱正引並將未銷積引分限帶銷一摺已依議行矣兩浙鹽引自乾隆五十八年查明節年積壓一百二十餘萬道經部議准銳銷七十萬道其餘五十餘萬飭令於

一二年內掃數全銷該鹽政等自應實力疏銷以清積滯乃距今已及十年尚有未銷引三十八萬餘道可見歷任鹽政並不妥為調劑上緊趨銷寔難辭墮誤之咎况辛酉綱引例於年底奏銷今甫經開綱該鹽政遽將本年鹽引先請銳銷復將應徵課項分作八年之久是節年未循例奏銷竟成虛設而所謂先課後蓋者亦不可信前據延豐奏兩浙商人續請捐輸似商力尚屬裕如今於現年引目猶不能循例行銷與其例外輸將何如將引課實心經理俾得年清年款又何用為此報効虛詞轉將正課及帶銷積引銳銷展限豈核實辦公之道乎况捐輸款項仍係運庫墊發尚須分年帶繳又為將來藉口積壓地步殊屬無謂延豐著傳旨申飭該鹽政務當趕緊悉心籌辦督令商人將本年正引及節年積引設法疏銷毋得再有積滯致干咎戾將此傳諭知之欽此

軍機大臣遵

旨傳諭兩浙鹽政延豐

215 嘉慶七年三月二十四日內閣奉

上諭京師五城地方者賑原於城內城外分設十廠
嗣經降旨展賑時慮及近郊一帶農務方殷若令
力作貧民進城領賑道路未免紆遠是以命將五
城正副十廠併作五廠在於城外安設今據祿廉
等查明五廠領賑人數開單具奏朕詳加檢閱自
併廠以後較前分設十廠時人數少至一半自因
城內老弱貧民又以城外路遠不能前往領賑殊
為惻念因命軍機大臣傳到五城御史面行詢問
該御史等果稱連日領賑俱係城外原領貧民並
無由城內赴領者等語現在施恩展賑原因青黃
不接令災黎得資飽腹自應令京城內外貧民一
律齊需實惠併廠之首係原賑降以改城內貧民是與數
口與從未不詳改過於原設五廠照舊安設毋
庸歸併城外責成該御史等妥速經理勿使一夫
失所欽此

216 臣等遵傳五城御史面加詢問據稱五城飯廠
自歸併城外以後每日領賑人數並不加增御

史等查看領賑人口約畧俱係城外原領之人
并無城內赴彼領賑者五城大畧相仿內丁壯
居十之二三婦女老病幼孩尚有十之七八等
語臣等復以應否將城外廠座酌分二三座仍
於城內相地安設之處面與該御史等悉心商
酌會稱城內原設各廠俱就各城段落居中安
置地勢寬廠領賑貧民俱悉熟識且御史等於查
彈壓各有責成若僅分設二三廠則須別擇地
面難得適中寬廠處所且另起爐灶辦理未免
稽緩若仍於城內原設地方照舊分設五廠章
程較妥協等語臣等謹擬寫仍於城內分設五
廠放賑

諭旨進

呈伏候

欽定謹

奏

三月二十四日

217 嘉慶七年三月二十四日內閣奉

上諭向來四五品京堂內其內閣侍讀學士鴻臚寺少卿二
缺輪值各部郎中等陞用時例由各該堂官保送各一員
交吏部帶領引見聽候簡放後經改為題本開列請簡既
由吏部開列自應按照各該員食俸之年分別先後開單
進呈朕簡放時單內所開各司員其平日各官賢否豈
能如悉自不得不循資錄用但此等歷俸年久未邀陞擢
之員或故係循分供職未必盡皆出色甚或闕冗無能涸
跡郎署亦未可知一旦擢用卿負陞轉有階可異洵至大
僚何以仰副任使嗣後遇有內閣侍讀學士鴻臚寺少卿
缺出輪應將司員開列請簡時吏部先期知照各衙門將
應行開列之員由各堂官出具切實考語及京察等第年
歲若干咨送吏部彙齊後於單內詳悉登註隨本進呈候
朕簡放各堂官等務須秉公甄核據實填註倘所註考語
本優經朕簡放後察其人才其實在平常者惟原保之該
堂官是問欽此

218 嘉慶七年三月二十四日奉

旨禮部奏原任烏魯木齊提督圖桑阿請旨應否賜

卹一摺固屬照例辦理但圖桑阿前在定邊左副
將軍任內獲咎革職嗣經賞給三等侍衛旋復加
恩補放提督本係棄瑕錄用之人今在任病故准
令靈柩入城已屬格外施恩如果應行賜卹則於
圖桑阿病故奏到時朕自早行降旨不待禮部奏
請矣圖桑阿著不必賜卹欽此

219 嘉慶七年三月二十五日內閣奉

上諭福昌等奏京口副都統阿玉什因姦釀命一摺
阿玉什以二品大員輒與僕婦通姦致釀人命可
惡已極阿玉什即著革職交與福昌費淳等嚴審
定擬具奏俟定案後再將阿玉什解京欽此

220 嘉慶七年三月二十五日奉

旨此案張自重因齊月先強姦伊母李氏經李拉拒
喊叫齊月先跑走後李氏向伊子張自重哭訴張
自重氣忿携取棒槌趕往毆打齊月先致傷臙股
骨折越二十七日殞命該撫將該犯援照新例擬
絞監候聲請留養具題刑部照擬核覆固屬照例

辦理但細閱案情張自重因親母被辱向其哭訴為
人子者自當激於義忿趕往毆打較之本夫捉姦
其情更為急切且該犯趕毆時所携祇係棒槌並
非金刃光器核其致死之由實與救母情切者無
異若竟按殺非登時照擅殺例擬絞於情罪究未
允協張自重著仍照舊例改為杖一百徒三年該
犯係孀婦獨子准其照例留養嗣後凡遇此等情
節案件俱著照此核辦除依議欽此

221 嘉慶七年三月二十五日奉

旨劉景昌著准其在京調養俟病痊之日再行錄用
欽此

222 嘉慶七年三月二十五日內閣奉

上諭福建福寧鎮總兵員缺著張見陞補授欽此

223 軍機大臣 字寄

廣西巡撫謝 嘉慶七年三月二十五日奉

上諭謝啟昆奏安南貢使定於五月進京一摺安南
貢使到京例應帶領瞻覲本年朕於七月內啟鑾
巡幸木蘭行圍須九月內迴蹕若該貢使到京在
迴蹕之前轉須守候著謝啟昆傳知該委員等於
伴送該國貢使進京沿途無庸趕緊行走祇須約
計九月底到京即可于萬壽節隨班行禮並預宴
賞也又另片奏現在恭懇陛見俟料理安南使臣
出境後呈馳赴京等語此時安南與農耐正在交
兵邊疆緊要該撫且不必來京當于明歲察看情
形俟安南農耐邊情大局已定再行奏請陛見仍
着將近該國交兵情形隨時探明具奏將此諭令
知之欽此遵

旨寄信前來

224 軍機大臣 字寄

山東巡撫和 嘉慶七年三月二十五日奉

上諭向年泰山進香於節前侍衛乾清門侍衛內派
出一人前往朕思此項人員由內廷派出或不免
有騷擾驛站之事此次著內務府仍照舊例揀派

司官一員將應用香供賫至山東省城交與巡撫
接領於撫藩二人酌量一人親往泰安致祭該司
員交明香供後即行回京嗣後泰山進香俱照此
例辦理將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

225 軍機大臣 字寄

監放各飯廠御員 五城御史 嘉慶七年三

月二十六日奉

上諭台費陰等奏詳查領賑貧民名口請酌給錢文
俾資回籍一摺此事斷不可行各飯廠領賑貧民
人數殊多其附近居民及外來就食之人安能一
一詳細區別周知其姓氏將費即每日放飯已不
能詳加辨識若散給錢文必有今日領錢明日又
詭捏他家籍貫變易姓名重求支領者又豈能逐
一稽查必無舛誤乎且適滋胥役等藉詞稽查擾
及貧民之弊該御員等惟當遵照前旨早行出示
並面行曉諭以現在展賑乃係格外恩施四月二
十日即應停止目下天氣和暖二麥將屆登場爾

殊

等力作傭工謀食較易當早自為計歸家務農一
屆停止之期斷不能再為展限爾等毋恃有官賑希圖觀望
自候生業如此先期剴切示諭貧民等自必陸續
散歸至近日因城外飯廠貧民乏資口食慮及城
內貧民路遠難以赴賑復降旨於城內改回二廠
該御員及御史等惟當妥為經理務使老弱病民
均得人人領食勿致擁擠不前稍有向隅為要將
此各諭令知之欽此遵
旨寄信前來

226 嘉慶七年三月二十六日內閣奉

上諭和寧奏校閱營伍甄別將弁一摺所有老病之
署臨清協副將城守營參將張攀桂因曾經出師
著有勞績著加恩以原品休致其撫標右營遊擊
邵濤著勒令休致因病託故有誤差搵之臺莊營
千總唐成著咨部革職摺併發欽此

227 嘉慶七年三月二十六日內閣奉

上諭福建水師提督員缺著倪定得補其所遺海
壇提督員缺著孫大剛補授欽此

228

臣等查現在水師總兵內並無奉

旨記名以提督簡用之員謹將加提督銜之總兵愛

新泰一員及各省水師總兵人員開列名單並

擬寫空名

諭旨進呈恭候

簡放其所出水師總兵員缺謹將副將保舉堪勝水師

總兵員名單另束進

呈恭請一併

簡放謹

奏

三月二十六日

229

福建省

臺灣鎮總兵加提督銜愛新泰 正白旗滿洲

海壇鎮總兵倪定得 江南人

金門鎮總兵何定江 廣東人

南澳鎮總兵杜魁光 江南人

福寧鎮總兵張見陞 廣東人

浙江省

定海鎮總兵黃象新 福建人

福建本省

福建本省

黃巖鎮總兵岳 鑲藍旗滿洲

溫州鎮總兵胡振聲 福建人

廣東省

左翼鎮總兵黃 標 廣東人

碭石鎮總兵馮建功 江蘇人

230 同日奉

旨蒼保著准其開缺調養俟病痊之日再行錄用欽此

231 嘉慶七年三月二十六日內閣奉

上諭吉慶瑚圖禮奏請將海陽潮陽揭陽饒平等縣

四缺不拘年限揀員調署等語殊屬非是向來外

省督撫往往因州縣員缺緊要將與例未符人員

專摺奏請陞調有發交部議經部臣照例指駁而

朕仍准所請並將該督撫處分寬免者亦有不交

部議當即降旨准行者此朕隨時斟酌並非著為

成例若如吉慶等所奏遇有海陽等四縣缺出輒將年限未符人員保題調署紛更舊例又安用吏部為耶且各省州縣皆有要缺倘俱照與東紛紛陳請是各州縣陞遷調補督撫等皆可任情更易適足開倖進之階至吉慶翔圖禮所奏不可行並著傳旨申飭至所奏陸豐縣甲子司地方僅有巡檢一員濱臨海洋地廣民稠稽察難周請將惠州府通判移駐該處著照所請行該部知道欽此

232 軍機大臣 字寄

兩江總督費 江蘇巡撫岳 嘉慶七年三月二十八日奉

上諭前因江蘇上年徵收新漕各州縣仍復照舊浮收曾降旨特交費淳岳起鐵保等密為查訪嚴恭具奏茲據鐵保奏稱查有松江府屬奉賢等州縣收兌漕糧較上年格外加增外間寔有議論等語可見朕前此所聞該省各州縣逾額加收竟係寔有其事朕於漕政事宜節次大加整頓四五兩年地方官均不敢肆意浮收方冀積弊漸就肅清乃去年該督等聽從蘇州府知府任兆炳德惠仍復陋規

並將蘇松常鎮等四府全漕盡委之任兆炳一人獨辦以致運負旂丁多方勒捐種種弊端由之而起現既查出松屬奉賢等縣寔係格外加收自應澈底跟究著交費淳岳起即將松屬浮收最多縣分嚴訊確情按例懲辦此外各州縣免漕似此者諒復不少即稍有浮收之處亦應一併嚴查參辦不得稍涉迴護徇縱至知府任兆炳官聲本屬平常現在江蘇漕務復收陋規又全係伊一人主見著即解任質審聞該員現已俸滿赴京即令該部押回交費淳岳起提集案內人証秉公嚴鞠治以應得之罪所有鐵保因不能約束旂丁藉端勒索自請嚴議之處俟全案審結時再降諭旨將此傳諭費淳岳起並諭鐵保知之欽此遵旨寄信前來

233 嘉慶七年三月二十八日奉

旨這所奏玩悞幫船之浙江紹興衛守備張維瀚委運安慶前後兩部千總佟攀桂李瑩均著革職並著鐵保查明該備弁等逗遛不前如有需索死費情事即行嚴審治罪欽此

234 辦理軍機處為知會事照得上年奉
旨編輯工賑紀事一書所有各處奏章俱應纂入前

經

貴督將奏摺抄送一次迄今未曾續有送到務
將單頁以後至本年內有關涉工賑各事宜奏摺如
祇係奉有

硃批不由本處寄交者速即逐件照錄註明月日咨
送本處以便彙輯庶免遺漏須至咨者

右 咨

直隸總督

三月二十八日

235 嘉慶七年三月二十九日內閣奉

上諭陳大文奏查明被災各屬懇請緩徵一摺直隸
上年被水成災各州縣節經加恩分別蠲緩但念
災較重之區現在非積水未消即屬差繁地瘠
若將本年錢糧照例於走收後徵收民力不無拮
据除兗平文安二縣應征錢糧業已全行豁免外
所有昌平定興望都高陽滿城故城武清寧河順

義東安寶坻永清清苑安肅雄縣容城新安安州

新城肅寧景州獻縣天津青縣靜海正定新樂藁

城趙州栢鄉定州大興涿州房山良鄉霸州保定

大城河間任邱新河寧晉隆平等四十三州縣本

年應征新舊地糧及各項軍租等款俱著加恩緩

至今歲秋收後應征俾得從容輸納以示朕軫念

災區恩施無已至意該部知道摺併發欽此

236 嘉慶七年三月二十九日奉

旨著交刑部審擬具奏欽此

據康等奏山東民人周宗道呈控運丁

王延棟挾嫌控案由

237 嘉慶七年三月三十日內閣奉

上諭吳熊光奏荆關盈餘短絀著著賠補一摺荆關
盈餘於嘉慶四年核減酌定銀一萬三千兩此次
應徵盈餘較之減定數目計短少銀二千一百餘
兩本應如數追繳但念該關因數匪未平川省未

船木役米楚掃少以致短絀尚屬有因所有短少
銀二千一百五十六兩四分七厘六毫著加恩寬
免銀一千一百五十六兩四分七厘六毫其餘銀
一千兩即著落管關之前任荆宜施道崔龍見賠
補摺併發欵此

238 嘉慶七年四月初

旨這所奏愈差不

州州同

239 嘉慶七年四月初一日內閣奉

上諭惠齡奏請減金廠夫額一摺甘省大通縣屬北馬圍金廠開採年久金苗微弱額設廠夫四百名現因不敷課本多有逃散致課項日形短絀若逐行封閉仍恐奸徒妄生覬覦私自偷挖既經該督委員勘明該廠實在情形自應將廠夫的減以歸核實著照所請於本年開採之時減夫二百名仍留二百名該督務須嚴飭廠員督率採挖毋任偷漏滋弊該部知道摺併發欽此

240 嘉慶七年四月初一日內閣奉

上諭向來外省文武大員由京師簡放者其起程雖無定限但于謝恩請訓時朕諭令料理數日即應速赴新任新授本日江寧副都統田國榮請訓經朕召見詢以行期據稱須于四月二十日起程詎以因何

殊

殊

遲滯之故則云伊有二女隨行尚須遲日是直以家務細故任意逗遛殊不成話田國榮于前月二十五日簡放京口副都統二十七日復將伊調任江寧數日以來于件裝一切諒已完竣何得復將瑣屑之私情行且又稱江寧現無緊要事件大屬非是國家設官各有應辦之事一經簡任職守依專若遲一日赴任即一日之官守虛懸今田國榮未經赴任已存怠忽之見不以公事為重又安望其莅官後罷免辦公耶及經朕訓飭之後伊又云於初三日即當遵旨起程可見伊並非不能克日督行不過藉此滯留耳近來簡放人員每有以依戀關廷虛詞奏請或又以懇求掃墓多住數日者均殊非敬事急公之道嗣後滿漢文武大員簡放之後雖不必定以限期於請訓後總當迅速起程赴任毋得藉詞滯留致曠職守再由國榮原任散秩大臣簡放副都統後例應開缺日前伊謝恩時面求賞帶散秩大臣銜其意不過以兼銜後仍可戴用花翎寔屬取巧田國榮著革退散秩大臣不准戴用花翎並將此通諭知之欽此

殊

殊

241 嘉慶七年四月初一日內閣奉

上諭惠齡奏請將兩當縣知縣誠忠調補奇台縣一摺奇台縣一缺例應在現任旗員內調補誠忠未經實授與調補之例不符若交部議必照例議駁但念新疆地方緊要該省現在並無合例堪調之員既據該督^赫稱該員前任庫車筆帖式有年熟悉口外情形著照所請誠忠准其調署奇台縣知縣仍俟接扣試俸期滿再行實授該部知道摺併發欽此

242 嘉慶七年四月初一日內閣奉

上諭蘇寧阿等奏寧夏滿兵糧餉請仍照舊例支給一摺此事姜開陽條奏時狀即以為難行因交新鐘將軍大臣及陝甘總督等查奏昨據保寧與奎及惠齡等奏到均以為於兵丁生計有碍已降旨將新鐘寺處糧餉令仍照舊辦理矣兵丁應得糧石向來酌給折色原因各該處糧價較賤俾兵丁得資羨餘行之日久若改支本色不但伊等生計頓形拮据且支放本色過多邊儲或因之缺少更

屬非計嗣後內地及新疆兵丁糧餉應支折色者均著照舊例支給俾兵食倉儲兩有裨益摺併發欽此

243 軍機大臣 字寄

二品頂戴暫留雲貴總督琅、嘉慶七年四月初二日奉

上諭琅玕奏即次打仗並籌辦後路各事宜一摺竊匪聞知官兵進剿於各山隘多設樁木滾石抵拒並敢設計撲城邀截糧路以圖令官兵之勢其情即甚為可惡看來必須大加懲創方能使其震懾琅玕現在廣為曉諭散其勾結並安設營卡遏其旁竄之路一俟兵練調齊即督率鎮將相機攻剿自可迅速肅事賊目中如恒乍綢繆者布二逆情罪重大必應於擒獲後凌遲處死即或此時夷人已將該二逆縛獻而賊黨內有主使之漢奸逆匪從中播弄者仍應嚴拏重懲總須趁此兵練齊集之時實力剿辦使附近各山寨獠深知畏懼不敢再滋事端方能寧輯邊隅為一勞永逸之計不

可卓率了事琅玕於何日進兵即將剿辦情形迅速馳奏以慰廬注滇省距京較遠一切軍營奏報惟當據實直陳不可稍有粉飾為要將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

244 嘉慶七年四月初二日奉

旨此案孫才與藥王廟住持道士劉一成以口角微嫌輒敢起意放火烧燬廟宇欲圖洩忿致將廟內所貯寶花焚燬寔屬不法但該犯放火時如果明知此項藏貯寶花係供獻

各陵所用有意燃燒希圖陷劉一成於重辟是則法無可貸即照擬予以立決亦屬罪所應得今細閱案情該犯因劉一成有廟住持意在焚燒廟宇使之無處棲身尚無有心陷害情事且尋常廟宇內佛前亦有花供該犯並不知係供獻

山陵所用不過因一時洩忿起見核其情節尚有一線可原孫才著從寬免其即行正法即照本律應斬監候秋後處決仍入於本年秋審情寔以示法外施仁至意欽此

245 嘉慶七年四月初二日內閣奉

上諭陳大文奏懇請解任調理一摺據稱素有肝氣病症時發時止近更加委頓懇賞假一二年回籍調理等語陳大文自擢任直隸總督以來於地方公務頗能實心整飭茲因患病不能供職朕心深為軫念着派御前侍衛侍郎那彥寶帶同御醫馳驛前往保定診視並准其解任該督自揣可以起程時再行回籍安心調理俟痊愈後來京另候簡用所有直隸總督員缺一時不得其人熊枚上年曾署直隸督篆尚無貽誤仍著暫行署理現在聞務將竣熊枚著先行出場於初三日請訓前往接篆欽此

246 嘉慶七年四月初二日奉

旨御史楊昭奏酌議常平倉穀以裕積貯一摺常平倉存貯穀石原以備平糶賑貸之用必須實貯在倉方能緩急有備該御史所奏各條是否可行著戶部詳悉議奏欽此

247 嘉慶七年四月初二日奉

旨這所奉受賄匿案不報復縱丁書潛逃之署平和
縣事試用知縣張毓齡著革職拿問其通同得賄
之署平和營遊擊事漳州鎮標在營遊擊黎侍舜著
一併革職交玉德李殿圖提同案內人証嚴審定
擬具奏該部知道欽此

248 嘉慶七年四月初二日內閣奉

上諭宜綿前因軍營獲咎發往伊犁當差第念宜綿
歷任督撫有年現已年逾七十精力就衰著加恩
准其回旗欽此

249 嘉慶七年四月初二日奉

旨蕭文言著准其釋回欽此

松筠奏伊犁効力年滿廢員

250 嘉慶七年四月初三日內閣奉

上諭據熊枚面奏現在督署直隸提督一時乏人襄理事務
請飭令御史費錫章前往督署帶辦等語著照所請費錫

章准其暫行隨往該御史現充內場監試茲聞務將竣著
即日出關一同起程俟熊枚交卸後仍著回京供職
欽此

251 嘉慶七年四月初三日奉

旨葉汝蘭劉炳劉光輝胡琨孫鑑錢永剛蕭光浩楊元泗楊
鳳集俱著准其捐復于凱李焯霞劉大呂傅鎮源鈕汝桂
倪象函俱不准其捐復欽此

252 嘉慶七年四月初五日內閣奉

上諭御史王祖武奏屬中書學正等官員缺墮滯請
將新進士多用庶吉士及知縣一摺朕因數科以
未中式進士分部學習及用中書學正學錄者較
多一時補缺不無壅擠思欲量為疏通近日召見
廷臣詢問及此大臣中多有以此為言朕並將本
科新進士欲多用庶常知縣酌加調劑之處向廷
臣面為宣露而本日御史王祖武即以此條奏必
係攪聞朕有此意因作為已見形之章奏既可仰
邀允准又可為士子見好地步殊屬取巧且向來

科場年分例不准條陳科場事宜該御史於本科會試榜發屆期執陳請疏通仕路顯違例禁王祖武著交部察議欽此

253 嘉慶七年四月初五日內閣奉

上諭本日召見新選江西監道宋兆奎人甚平常舉止應對亦俱粗率難勝監司大員之任若准其到任必致貽誤公事自蹈愆尤為督撫所舉刻姑念該員業經銓選得缺著加恩對品以各部郎中改用遇缺即補所遺江西監道員缺著吏部另行銓選欽此

254 嘉慶七年四月初五日奉

旨戶部奏奉恩輔國公成寬呈稱伊父興肇在和闐辦事資斧維艱請將奉身在京每季應領公俸銀兩全行移於伊父差所就近支領經部查例載並無明條請旨遵行一摺興肇係獲咎施恩派往新疆辦事之員本無得項可支成寬即欲將本身得項資給伊父何難自行寄往豈有以奉養私情而

越例呈請之理且新疆自備資斧効力之員不少若^{親屬}有子在京當差者俱似此紛紛請將本身得項移支成何事體成寬所請不准行並著傳旨申飭欽此

255

軍機大臣 字寄

兩江總督費 江蘇巡撫岳 嘉慶七年四月初五日奉
上諭據費淳岳起同日覆奏上年江蘇省徵收漕糧情形等摺朕詳加披閱其意擬以江省有漕各州縣徵收時不能顆粒無浮者寔為彌補虧空起見該省即有虧項自應屏除浮費樽節補苴原不得藉此為名於收免漕糧任意加增致閭閻有所腹削但此項漕餘各地方官如果寔係歸補積年虧空尚屬因公與私肥囊橐者有間現在有漕省分亦有如此酌量籌補者然何以外間並無物議而獨於江省噴有煩言可見該省竟藉口彌補虧空

其中不肖州縣寔不克以所得贏餘恣其侵蝕中飽即云各屬將漕餘解交歸公以朕所聞江省原有提取三十萬兩補虧欠之議而岳起片稱借查以後進補銀五萬餘兩外現又陸續解交銀十萬餘兩是否即在提取三十萬之內該省虧空完有若干何時方可補完該馬有任聽州縣以不補為名詳查該收年復一年提無補足之期乎是增補之名巧歸私家與何異耶起摺內稱漕船寔在疲丁若不畧為津潤誠恐遷延水次所聞匪細等語旂丁津貼款項自蔣兆奎鐵保任漕督以來先後奏請調劑經朕節次加恩每船准多帶土宜並劃給晒颺米石撥給漕費錢文多方接濟不一而足是丁力已屬寬裕如各該州縣果無浮收積弊則旂丁等若嘉慶至兩年均照新定章程妥速辦理又何敢向州縣借詞勒指手至該督等所稱有較往年多收一二成不等之處諒必不止此數即如松江奉賢等縣多有浮收此次該督摺內並未見指名奏奏近又聞蘇太寺屬比

上年亦有加增大概提在加二以上何以費淳等竟毫無聞見在費淳岳起平日居官廉潔朕所深知但屬員則未必皆然若大法而小不廉於事何益乃岳起摺內有不但果於自信並可信人之語是不免為人所愚矣看來伊等此次所奏情節仍係輕聽屬員之言被其朦混現在費淳業已前赴蘇松一帶查閱營伍著即會同岳起遵照前旨時浮收最多緣分澈底嚴查並此外各州縣等稱有浮收之處亦應一體查究如有私肥入己情事即據寔奏辦不得稍有徇縱自干咎戾至知府任兆炯雖據該督撫奏稱公同酌委彈壓稽查並非令其督辦全有漕務但該員向日聲名平常仍著費淳岳起等查明如果有別項劣蹟即行奏奏倘有心瞻徇別經發覺恐該督撫不能當其咎也所有岳起自請交部議處之處係全案審結時再降諭旨將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

256 嘉慶七年四月初五日奉

上諭本日吳熊光履奏漢商銷引大概情形一摺據稱接准前任益政書魯來咨漢商回費自己未庚申二年共派銀八十餘萬兩至百萬兩不等恐任意浮冒行提經管匣費岸商帶全支用細賬赴揚核辦當即飭令益道將各岸商解赴揚州聽候查辦等語此事既經書魯將岸商及賬簿調至揚州自必查有端緒何以未據奏聞書魯到京亦未面陳及此是否書魯辦理未竣移交後任抑係並未查辦著傳諭信山赴漢商在揚之時詳查查核務令水落石出至漢岸銷鹽設立封輸之例是否應

旨傳諭兩淮鹽政信山

照舊辦理有無抑勒需索及抬價病民之實現據吳熊光咨詢該鹽政就近體察商情熟思善策信山務當與吳熊光合籌妥議具奏將此傳諭信山並諭吳熊光知之欽此
軍機大臣遵

257 嘉慶七年四月初五日內閣奉

上諭顏檢奏拏獲兇搶拒捕要犯審明定擬一摺已交三法司核議速奏矣此案穆克登佈購線密赴息縣交界處所將要犯陳繩赤馬思等六名立時弋獲尚屬認真出力劉初嚴拏獲鄰境要犯吳勇年又差役赴湖北麻城縣協同拏獲同案吳臣亦屬留緝捕穆克登劉初嚴均著交部議敘以示鼓勵欽此

258 嘉慶七年四月初四日內閣奉

上諭山東曹州府知府員缺著克什納補授欽此

259 嘉慶七年四月初五日奉

旨著該旗查奏欽此

續善奏旗籍革職一案

260 軍機大臣 字寄

盛京將軍 吉林將軍 直隸總督奉嘉慶七年

四月初五日奉

上諭秀林奏遣犯馬德在配脫逃等語馬德係聽從張三行劫張維岳家毆傷事主身死業內免死減等發遣為奴之犯胆敢在配脫逃情殊可惡該犯籍隸直隸脫逃後或潛回本籍或追過在途均未可定著傳諭盛京將軍吉林將軍直隸總督查照該犯年貌清單一體飭屬嚴密緝拿務期弋獲毋任遠颺漏網將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

261 慶桂 董誥 戴衢亨 跪

奏查向來軍機處行走之候補內閣中書有辦事

勤慎未經得缺者節經

奏請補授實缺在案今內閣中書批祖同補授兵

部主事其所遺中書一缺查有候補中書袁熙

在軍機處行走尚屬勤慎可否即以該員補授

之處出自

皇上天恩謹

奏

嘉慶七年四月初五日奉

旨依議欽此

262 嘉慶七年四月初八日內閣奉

上諭前因陳大文患病懇請解任調理當即派令侍

郎那彥寶帶同御醫馳驛前往診視並准解任調

理原冀其速就痊愈仍可回直隸提督任是以僅

令熊枚暫行署理茲據那彥寶覆奏察看陳大文

病勢委頓醫藥不能一時見效等語直隸提督員

缺緊要熊枚年老恐未能經理裕如因思顏檢曾

任直隸藩司護理督篆辦理地方事務尚屬認真

但伊資格較淺著以兵部侍郎銜著理直隸提督

馬慧裕著調補河南巡撫即速赴新任以便顏檢

交代起程所遺湖南巡撫員缺著高杞補授高杞未到之先著通恩暫行護理欽此

263 嘉慶七年四月初八日内閣奉

上諭兵部左侍郎員缺著成書轉補所遺兵部右侍郎員缺著長麟補授仍著兼署吏部左侍郎瑚圖靈阿著管理光祿寺事務欽此

264 軍機大臣 字寄

盛京將軍公晉 嘉慶七年四月初九日奉

上諭盛京

祖陵早應躬親展謁上年因軍務未歲文報恐致紆違是以允王公大臣所請降旨展期刻下軍功將次

告竣明歲自當祇謁

橋山用申瞻慕但啓鑿若在秋令正值大雨時行之後沿途恐不無泥淖因思來歲係閏二月若於春間擇喜程道路尚易行走往返時日亦係寬餘此時尚未明降諭旨着傳諭晉昌將道路橋梁一切應辦事件酌量該處情形是否宜於春令抑或應俟秋

間再行前往之處詳悉陳明由驛馳奏至該處入春以來尚未奏報得雨深為屢注日内曾否得有甘澍麥田是否一律暢茂亦着附摺奏聞將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

265 嘉慶七年四月初九日奉

旨遣犯趙炳因代柴楨售買玉器賤取銀兩係屬庫貯錢糧情節較重著不准其贖罪軍犯李泗源緣向李懷松索欠本屬理直其用火器致傷李懷松亦經平復尚屬可原著加恩准其贖罪欽此

266 軍機大臣 字寄

閩浙總督玉 嘉慶七年四月初十日奉

上諭前因玉德奏事摺內未將汪志伊病勢曾否向愈情形隨時續奏曾降旨詢問茲據玉德覆奏汪志伊自省起程後節據南平光澤等縣稟知汪志伊在途病勢未能平減惟伊前次奏事未經提及難辭疎忽之咎自請交部議處等語汪志伊既係

患病屬實玉德因初奏該撫病勢之摺尚未奉到
硃批是以於具奏雨水糧價各摺內未經附奏尚
屬有因所有玉德自請議處之處著加恩寬免欽

此遵

旨寄信前來

267 嘉慶七年四月初十日內閣奉

上諭和寧奏曲阜縣監犯呂二越獄經歷城縣典史
拏獲請旨分別辦理一摺所有疎防之曲阜縣典
史徐潤着革職照例治罪曲阜縣知縣袁廷鳳着
革職留任一年無過方准開復至歷城縣典史戚
祖茂於隣境脫逃要犯留心緝獲就拏獲尚屬
能事著加恩以該省巡檢即行補用該部知道欽
此

268 嘉慶七年四月初十日奉

旨着交戶部同前次該御史條奏常平倉穀一摺併
議具奏欽此

御史楊昭修奏社會

269 同日奉

旨戶部議奏欽此

御史宋澍籌補倉穀錢糧

270 嘉慶七年四月初十日內閣奉

上諭據知貢舉瑚圖靈阿劉錄之奏本年會試各省
年老舉人自七十以上至九十以上者共一百八
十名俱三場完竣未經中式等語此次會試各省
年老舉子龐眉皓首踴躍觀光洵為盛世嘉祥允
宜特沛恩施所有九十五歲之李東耀一名前已
賞翰林院檢討銜著加恩賞給國子監司業銜其
九十以上之劉珩玉王鷹揚廖賓王汪潤向舒五
名俱著賞給編修銜八十以上之謝煦一名前已
賞檢討銜亦著加恩賞給編修銜其八十以上之
孫錡周起元楊學思李咸賓張清風遠廷獻張煜
邢瑚馬際唐王之榮陳芳杜王其銜王月旦嚴應
魁吳思齊鄭元拔陳書葉芷宣林舒朝茂葉占魁
程銜李思銘王焜王化文朱衡端木炳孫岳羅光
成黃金泰潘杞龔肇元蕭萬昌張煌周萃湯偉吳

焯吳際亨王繼音楊渭綸謝鳳噉劉其深劉仰灝
孟興炎王嘉猷張教寧崔文遠王祖羅李萬清王
九齡李超衆延崙照劉鎰丁廷翰劉靖遠林琅品
蔡進馬見龍李義文杜世禧田天植丁待詔邢文
炳梁金生趙洽袁尚志張泐羅丹楓陳幸祝新錫
光谷希哲陳方揚高文烜魏昉黃雲李清修鍾鵬
飛孔麟書謝天埽黃永弼蘇其章高榮劉國賓洪
韶寬王金聲胡心泰王秉鈞李祖詠黃序才傅泰
昌彭觀張朝清李世範李如純劉奉威曾鴻章尹
襄許淶羅勳胡廷楨李夢鯉曹瑚康注張九疇石
多梅陳錫名楊璽公孫銳楊天祿一百九名俱着
賞給檢討銜七十以上之趙珍白衛玘二名前已
賞國子監助教銜着加恩賞給檢討銜王蘊王錫
田張菊許鴻陸牛元會李儒魁倪銑徐思禹八名
前已賞學正銜着加恩賞給助教銜其七十以上
之李吉昌田中楷董輯瑞曹極溫用光吳春華李
如鑑何清劉起豐于涑劉鳴鈞任煥耀穆得元趙
國俊焦克公潘國柱李原浴劉述宗陳見龍蕭際
清戴繼曾閻宗孟李重錦魏浩公元慶劉士晏劉

文景趙濬盧鉅張綱黃永擢康天顛張文瀚趙惠
時吳際雲鮑學富金琛謝廷燮謝式楊廷楨球安
寬方起鳳王萬齡方琦王之鋒陳鼎吉鍾菁謝步
雲黃奇峰何性黃至剛黃申綸潘鳴岐楊茂五十
四名俱着賞給學正銜以示朕嘉惠耆年宏獎人
文至意欽此

271 查本日未經中式年老舉人內九十五歲之李
東耀前蒙

賞給翰林院檢討銜今遵

旨加賞國子監司業銜八十一歲之謝照前蒙

賞給檢討銜今遵

旨加賞編修銜其九十以上未經

賞銜者謹擬

賞給編修銜八十以上七十以上未經

賞銜者謹查照上次之例分別

賞給檢討學正銜至七十以上有曾經

賞給助教職銜者二名擬加

賞檢討銜又有曾經

賞給學正銜者八名擬加

賞助教銜謹寫入

諭旨進

呈謹

奏

四月初十日

272 嘉慶七年四月十一日內閣奉

上諭向來南糧餘米俱准在通變賣俾資食用今南

糧頭進業於四月初十日抵通其餘各幫亦俱銜

尾前進該旗丁於交足正供之外所有多餘未石

著加恩准其就近於通州糶賣在旗丁等既可藉

以沾潤而於畿輔市價民食亦有裨益欽此

273 嘉慶七年四月十一日奉

旨此項應賠銀兩托恩多現係捐納知府非無力

完繳者可比乃半年之久並未交納實屬有心延

宕托恩多著交刑部監禁勒限嚴追餘依議欽此

274 嘉慶七年四月十二日內閣奉

上諭惠齡合布奏請陞署邊缺同知一摺甘肅循化

貴德同知二缺地處邊外管轄番回自須熟手經

理著照所請准以余景奎陞署循化同知姜有望

陞署貴德同知其新備化同知張桐貴德同知延

豐泰著留于甘省俟有相當缺出奏請補用該部

知道摺併發欽此

275 軍機大臣 字寄

西廣總督曹 嘉慶七年四月十二日奉

上諭本日曹溥由驛遞到審明劉玉蘭誣控朱金幅

一摺已批交刑部核擬具奏矣前此交曹溥審辦

此案諭旨由京茲往彼時該省並無摺復自不得

不交驛遞費溥查辦後如果寔有傳習邪教私造

軍器等事案關重大自應由驛覆奏即五百里亦

不為過乃查重劉玉蘭所控各情節全屬虛誣照

例問擬遠充軍其罪名亦非緣首以上儘可照

尋常案件奏摺差費進乃輕發馬遞煩勞驛站且

只此一摺並無別項緊要事件寔屬不知事體輕

重慶淳著傳旨申飭將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

276 軍機大臣 字寄

浙江巡撫阮 傳諭兩浙益政延豐嘉慶七年
四月十二日奉

上諭本日阮元等由驛奏到撥解陝省備用銀兩一摺已咨部知道欽此爾等接奉諭旨如係無款可動自應由驛撥奏另行籌撥該浙省已如數湊足委員起解又何必由驛馳奏徒勞却延耶况各省奉撥餉項奏湊之摺差人賁逆者甚多阮元延豐何不曉事體若此均著傳旨申飭將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

277 嘉慶七年四月十二日內閣奉

上諭左都御史員缺著普福補授其未到京以前著博興暫行署理欽此

278 嘉慶七年四月十二日奉

旨高杞已授湖南巡撫所有監糶事務著改派紀昀
欽此

279 朱 珪

紀 昀

德 瑛

縉 布

彭 瑞

英 和

莫 臆

潘 世 恩

蘇 榜 額

舒 聘

280 嘉慶七年四月十三日內閣奉

上諭京師五城分廠煮賑向以三月二十日為止前因上年被水較重當青黃不接之時貧民艱於得

硃

食就賑者多是以降旨令於盧溝橋等處添設五
廠復經加恩展賑一月至本月二十日停止近據
各廠監賑卿員等奏到各該處外來貧民因農務
興作陸續回家領賑之人較前日減自係實在情
形但前此酌定停賑日期原以四月中旬以後新麥
將次登場窮民易於謀食無待官為賑給近日以
來雨澤愆期土脉稍形乾燥即日撤當設壇祈禱
叩額

硃

吳恩以期迷沛甘膏慰茲農望而於加惠貧民之舉特
行停撤朕心實有不安除續添之盧溝橋黃村東
壩采育大井五廠本係例外增設毋庸再展外其
五城內外原設各廠著加恩再行展賑俟至甘霖
大沛之後方酌量裁議停止該御史等其妥為經
理以副朕軫念民艱恩施格外至意欽此

硃

281 嘉慶七年四月十三日内閣奉

上諭伯麟奏查閱大同鎮屬營伍一摺晉省兵丁技
藝向屬平常前次調赴軍營領兵大員以其不能
得力多不願帶往經朕飭令該撫嚴加整頓茲據

伯麟奏稱較之上屆畧有起色此次考驗將弁有
候推守備大同鎮標前營千總崔兆鳳懶惰誤差
應行斥革崔兆鳳著即革職該撫仍當隨時查核
督飭各鎮將實力訓練各營伍痛改積習咸成
勁旅以副朕整飭戎行至意摺併發欽此

282 嘉慶七年四月十三日奉

旨王朱氏著凌遲處死該犯婦現在懷孕俟產後一
月期滿正法其為從之巴全亦與王朱氏姦淫
復聽從已有倉同謀殺死本夫與尋常加功者不
同即問擬斬候秋審時亦必予勾新疆地方此等
兇淫惡犯不可不嚴行懲創且起意謀命之巴有
倉現已畏罪自縊已全著即處斬該部知道欽此

283 軍機大臣 字寄

山西巡撫伯 嘉慶七年四月十三日奉

上諭本日伯麟奏勘明五臺山廟工請動項興修一
摺已依議行矣又據另片奏臺山上年山水暴發
洶沱等河同時漲溢各處行宮尖營多被冲損現

在估計興修需銀九萬餘兩請在巡撫司道等官
養廉內今年攤捐等語此舉斷可不必伯麟之意
自因上年衝損現湏修理遂將各行宮座落一律
修葺以備巡幸可謂不急之務至所請率同司道
以下捐廉辦理尤屬非是試思伊等所得養廉原
以資辦公之用若以之捐辦工程勢必藉稱辦公
不敷勒索屬員而屬員仍取之百姓其弊何所不
至况朕一二年內並不臨幸該處何容藉此又開
派累之端所有伯麟奏請捐廉修葺行宮尖營之
處不准行此內如有必不可緩工程應即修葺者
著酌量動項辦理不可糜費將此諭令知之欽此
遵

旨寄信前來

284 嘉慶七年四月十四日奉

旨軍機處大學士會同該部議覆直隸省清查積欠
旗租一摺此項旗租原應按年徵解乃自乾隆五
十八年至嘉慶五年積欠至一百二十五萬餘兩
之多此內官欠役侵者自應按照分別著追至民

欠銀七十一萬四千餘兩亦係地方官經徵不力
所致但既據查明實欠在民歷年已久且上年直
隸地方被災較重戶口不免流亡若一一照數追
繳不但小民輸納維艱並恐日久仍歸懸宕有名
無實所有民欠旗租銀七十一萬四千四百餘兩著
加恩全行豁免嗣後旗租項下已無絲毫民欠地
方官無所藉口且應徵租銀前已降旨酌減該督
等務當督飭所屬上緊催徵毋許再有拖欠倘此
次加恩之後仍不能年清年款明係各州縣經徵
不力即當據實奏或不肖官吏有於徵收時任
意侵挪作為民欠尤當嚴行叅辦治罪以示懲儆
餘依議欽此

285 嘉慶七年四月十四日奉

旨這所叅疎脫監犯之丹徒縣典史胡樸著革職交
該撫提同刑禁人等嚴審定擬具奏知縣靳金鼎
著革職留任戴罪勒緝其逃犯張順沅著飭屬嚴
拏務獲至該撫請將新疆人犯越獄處分改照軍
流查一辦理之處著該部議奏欽此

286

本日覆試中式舉人各卷應請

簡派大臣閱看除總裁知貢舉及應行迴避各員例

不開列外謹開列名單進

呈伏候

欽照再查上年閱看新進士覆試卷

欽派九人謹

奏

四月十四日

287 王杰

劉墉

董誥

劉權之

朱珪

彭元瑞

錢樾

英和

莫騰棗

潘世恩

成書

長麟

祖之望

初彭齡

劉躍雲

蔣曰綸

那彥成

戴映奎

闕槐

陳嗣龍

此本

派出王 董 劉權之 朱珪 彭元瑞 錢樾 英和 潘世恩 初彭齡 那彥成 人 奏

288

臣王杰 臣董誥 臣劉權之 臣朱珪 臣彭元瑞 臣

錢樾 臣英和 臣潘世恩 臣初彭齡 臣那彥成 謹

奏蒙

發下覆試卷二百四十四本 臣等公同詳閱分別等

第擬一等三十名 二等六十名 三等一百五十

四名 謹於卷面粘簽進呈

御覽俟

發下後再行拆閱彌封另繕名單進

呈並將試卷發交磨勘大臣查對筆蹟其列在三

等末之五名俱有疵謬擬各罰停

殿試一科是否伏候

訓示謹

奏

四月十五日

289
一等

一名朱琦

二名呂兆麒

三名潘謝霖

四名顧統

五名殷長福

六名程壽齡

七名徐必觀

八名程邦憲

九名蔡德淳

十名黃錫祺

十一名趙遠

十二名瞿昂

十三名楊元亮

十四名林紹龍

十五名王廷

十六名萬永福

十七名胡開益

十八名費蘭墀

十九名穆隆阿

二十名蓋運長

二十一名何丙炎

二十二名孫讓

二十三名孫世昌

二十四名宋庚

二十五名張希瀟

二十六名呂子班

二十七名善慶

二十八名鄧士憲

二十九名賴澤霖
三十名鄭丕欽

二等

一名葛方晉
二名吳椿
三名朱士彥
四名夏修恕
五名李振齋
六名梁本恭
七名李可蕃
八名陳永圖
九名陳司燿
十名陳聲道
十一名金式玉
十二名霍樹清
十三名王慶長
十四名徐潤
十五名朱鴻
十六名黃茂

十七名胡周詢

十八名劉長孺

十九名潘人炳

二十名程贊寧

二十一名李炳文

二十二名吳廷琛

二十三名張元樸

二十四名海齡

二十五名劉大瑄

二十六名王百齡

二十七名黃德衷

二十八名李長蓁

二十九名邱樹棠

三十名洪耀

三十一名黎燮

三十二名張元宰

三十三名林鈺

三十四名賴華鍾
三十五名董桂新

三十六名王評
三十七名陸樟
三十八名李蟠根
三十九名葛宗祖
四十名任英
四十一名李成蹊
四十二名吉士瑛
四十三名何蘭汀
四十四名張元長
四十五名張步虛
四十六名劉晉泰
四十七名王青蓮
四十八名楊維謚
四十九名寧古齊
五十名黃中傑
五十一名卿祖培
五十二名洪占銓
五十三名梁章鉅
五十四名艾肇端

五十五名莫斯芳
五十六名鄒孝喬
五十七名謝學崇
五十八名吳禹
五十九名盧炳濤
六十名施彰
三等一百五十四名
一名王楚堂
二名陳岱
三名李宗昉
四名楊芝
五名王篤慶
六名孫汶
七名沈惟綺
八名韓島天
九名王廷元
十名劉毅萬
十一名陳徽芝
十二名周保純

十三名徐藤
十四名鄒觀光
十五名焦劍照
十六名金菁莪
十七名馮起龍
十八名張佑
十九名葉銘齡
二十名李金藻
二十一名阿應鱗
二十二名陶澍
二十三名莊詵男
二十四名安佩蓮
二十五名易元善
二十六名周毓麟
二十七名高廷魁
二十八名蔣鏞
二十九名鄧彬
三十名李文耕
三十一名向序

三十二名汪本
三十三名章道鴻
三十四名董齊光
三十五名林青
三十六名劉丙
三十七名胡朝瑞
三十八名崔秉鍊
三十九名陸景華
四十名汪百川
四十一名田樵
四十二名朱玉林
四十三名滕嘉棟
四十四名韓保萬
四十五名李鍾壁
四十六名王渠亭
四十七名李仲昭
四十八名蔡以成
四十九名孔繼侯
五十名葉申榮

五十一名鄒瑤
五十二名鍾慶
五十三名林春溥
五十四名蔣榮
五十五名劉兆恭
五十六名葉雨清
五十七名吳夢華
五十八名黃恩培
五十九名李約
六十名王元樑
六十一名達清阿
六十二名林文竹
六十三名齊承慶
六十四名左章照
六十五名申啟鑣
六十六名張本枝
六十七名鐘秀
六十八名蒲忭
六十九名謝蘭生

七十名袁珏
七十一名黃沛
七十二名葉際春
七十三名曹基中
七十四名劉開誠
七十五名王崇本
七十六名侯濂
七十七名杞來田
七十八名鍾德賓
七十九名歐陽儁
八十名吳超
八十一名柳體青
八十二名嚴芝芳
八十三名鄧自申
八十四名劉朝祚
八十五名冉中通
八十六名尹佩紳
八十七名林朝陽
八十八名宋潢

八十九名申啟賢
九十名林軒開
九十一名翟德先
九十二名司為善
九十三名李中淑
九十四名陶斯咏
九十五名馬倚元
九十六名吳謹儀
九十七名董正揚
九十八名吳蔭松
九十九名朱廷慶
一百名閻登雲
一百一名柯光蔚
一百二名甯自學
一百三名周玉梁
一百四名蔡文增
一百五名喻宣孝
一百六名卓秉恬
一百七名孫世封

一百八名吳崇紳
一百九名何應杰
一百十名施鸞坡
一百十一名凌鳴喈
一百十二名魏邦彥
一百十三名龔正調
一百十四名哈晋
一百十五名陳銘
一百十六名齊敦敏
一百十七名關元儒
一百十八名魏德琬
一百十九名隆安
一百二十名羅中錦
一百二十一名周煥
一百二十二名彭斌
一百二十三名黃元軒
一百二十四名劉德銓
一百二十五名湯達
一百二十六名洪運開

一百二十七名 朱德淵
 一百二十八名 李發英
 一百二十九名 張如相
 一百三十名 李成芳
 一百三十一名 謝幹
 一百三十二名 徐一麟
 一百三十三名 溫秉貞
 一百三十四名 易鳳庭
 一百三十五名 李成鐸
 一百三十六名 劉銘鼎
 一百三十七名 李職桓
 一百三十八名 常山
 一百三十九名 王果
 一百四十名 耿維祐
 一百四十一名 萬鼎琛
 一百四十二名 張振德
 一百四十三名 戴名沅
 一百四十四名 楊增思
 一百四十五名 任廊祐

一百四十六名 傅鵬飛
 一百四十七名 龔守正
 一百四十八名 陳敬
 一百四十九名 尚沖翰
 一百五十名 翟鳳翔
 一百五十一名 吳玉堂
 一百五十二名 吳松
 一百五十三名 覃學海
 一百五十四名 柴德茂

290

軍機大臣 字寄

二品頂戴暫留堂首摠督琅 嘉慶七年四月

十六日奉

上諭琅玕奏派兵各處搜剿猺匪肅清後路夥黨以
 備進剿一摺此次琅玕探得維西附近剿殺之賊
 一半由山後潛赴原普與恒乍網惜者布二逆匪
 惡拒守一半折回樹苗吉尾一路乘空燒掠當經
 飭令永明宗錚等帶領兵勇擊殺多人其山內藏
 匿之賊未經日逐搜捕後路可漸肅清所辦尚好

惟恒乍綱措者布二人盤踞康普特險負隅並向
結江內江外探探蔓延滋擾情罪重大必當上緊
剿辦此時該二逆隨從不過二千餘人琅玕一俟續
調之兵齊集後即當分路進攻務將恒乍綱措者
布二人擒戮以快人心而靖邊圉至其餘附和夷
人及各寨中伏而未動者據摺內稱近回屢被官
兵剿殺已知恒乍綱從前不怕鎗炮之言盡屬虛
誑大半逃散且有曾經順賊之探探撥與各寨潛
出投營情愿助力殺賊等語琅玕正當趁此機會
設法解散並廣為曉諭以恒乍綱措者布二人糾
眾肆擾眾在不敵爾等俱係邊境夷民自應各安
生業何苦聽從該逆煽誘自取滅亡現在堆西附
從夷人經官兵節次剿殺甚多是恒乍綱不怕鎗炮
之言靈誰已見將來大兵進剿指日殄除爾等玉石不
分噬臍何及不如及早悔悟保全自家如能助力
殺賊或擒獻首逆必當奏明重加恩賞似此惶切
曉諭不但現在從逆之人可以解散並附近夷寨
有伏而未動者亦可自消反側至所稱探探夷人
喃珠將家存米麪牛羊呈送軍營謝勞被賊匪搶

去並將喃珠綱縛經官兵救出賞給銀牌以示鼓
勵等語夷人喃珠因官兵在彼駐防心存感激將
食物謝勞兵丁致被賊匪搶擄其忱悃實屬可嘉
琅玕僅賞給銀牌不足以示獎勵喃珠著賞給金
頂藍翎又賊逆頭目念谷帶同家施措泥與黑苗
三人前往拖頂夷寨糾約入夥經該處夷人假意
順從款留酒飯密報官兵將念谷等拿獲殊屬可
嘉亦應優加獎賞著琅玕查明夷人姓名賞給頂
戴藍翎棍之此等夷人見利易動如能自行解散
或竟有殺賊立功者該督即當一面奏聞一面賞
給翎頂俾知錫瓊綢仍恬惡不悛則當痛加剿殺
使之知所畏懼如此恩威並濟庶可易於集事再
另摺奏探黑渡江滋擾一節該匪想係風聞維西
探探滋擾乘間搶掠現已降旨飭令提督烏大經
速赴普洱督同提兵書成等投剿自不難剋期肅
事琅玕不必分心兼願惟當專注探探一手剿盡
彼時探探想亦辦竣即應回省辦理審案及地方
事務以資坐鎮至另片奏維西現辦軍務請自石
鼓站作為出口即照出口之例辦理一節向來軍

需則例口內外各有一定章程若定係內地地方僅以村寨稀少山路崎嶇難於供運為詞即欲照出口之例辦理此端一開外省偶有用兵之處皆將援以為例此時若交部議部臣必照例指駁况該省跬步皆山又何以分別口內外乎所奏不可行琅玕惟當將猱猱夷匪趕緊剿竣俟將來報銷時據實聲明候朕揆度情形再行核辦可也
搃兵永明聞賊匪攻擾我底寨即帶兵趕往殺賊一百餘人該寨得以保護又將賊人渡江之筏全行拆毀未令搶渡殊為出力著該督存記俟辦完猱猱後奏請加恩所有此剿捕猱猱匪陣亡之千總徐成龍把搃高以福外委馬朝鑿均著咨部賜卹將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

291 軍機大臣 字寄

雲南提督烏 嘉慶七年四月十六日奉

上諭本日據琅玕奏江外猱猱匪竄入威遠廳屬搶掠

滋擾一摺從前猱猱滋事時即經官兵剿撫兼施籌辦完結此次復敢糾合匪眾二三千人在威遠之猛撒江踞淺偷渡肆行焚掠經搃兵書成等帶兵追捕逃出江外者有千餘人尚有一千餘人潛匿岩洞窺伺應即上緊剿辦提督烏大經於二月內來京陛見時因猱猱夷匪滋事特令伊馳驛前赴維西幫同琅玕辦理但此時威遠地方既有猱匪聚眾搶掠之案琅玕不能分身兼顧烏大經想已馳抵滇省著即速赴普洱一帶統領弁兵將江內竄擾之賊痛加剿殺俾夷匪等知所懲創其逃業經逃出江外之賊自不值重勞師旅深入窮追至訊獲賊供出賊首楊金羅小二兩名想係漢奸從中主使寔為可惡亟須設法擒獲或即曉諭猱夷等將賊首及早獻出免致株連更可迅速集事烏大經馳赴該處搃須於瘴氣未盛以前趕緊籌辦剋日嚴事綏靖邊陲一有捷音該提督即自行由驛具奏以慰厯注琅玕摺着抄寄閱看將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

292 嘉慶七年四月十六日內閣奉

上諭王汝璧奏鳳陽縣脫逃絞犯王升於限內拏獲請將協緝各員開復原官一摺所有倉差不慎之代理鳳陽縣事壽州州同沈毓麟添差不慎之定遠縣知縣張旋旋俱著准其開復沈毓麟即留於該省另行補用張旋著該督撫出具考語送部引見摺併發欽此

293 嘉慶七年四月十六日內閣奉

上諭蘇寧阿奏請暫辦甘肅提督事務俟卸事後再接署寧夏將軍印務一摺現在寧夏將軍有龔喜在彼護理毋庸再行更替蘇寧阿著專署甘肅提督印篆俟楊遇春勦賊完竣赴提督之任蘇寧阿即交代來京聽候簡用欽此

294 嘉慶七年四月十六日內閣奉

上諭甘肅西寧府知府員缺著沈清補授欽此

295 嘉慶七年四月十六日奉

旨著交刑部審訊具奏欽此

祿康等奏直隸民人伏歲有呈控高振遠匪哄伊父伏葆光封鎖毀傷身死由

296 嘉慶七年四月十七日內閣奉

上諭熊枚奏請再減平糶價值以益民食一摺直省上年被災較廣現在麥收分數豐歉未定所有未麥高糧等項雖經各按市價以次遞減尚恐民食維艱著再加恩照該署督所請將各項價值再行遞減以示朕軫恤災黎有加無已至意摺併發欽此

297 嘉慶七年四月十七日內閣奉

上諭沈清已補授甘肅西寧府知府其所遺涇州直隸州知州員缺著色布星額補授欽此

298 軍機大臣 字寄

陞署直隸總督河南巡撫顏 嘉慶七年四月

十七日奉

上諭顏檢奏息縣獄囚潛謀糾結將各犯全行拏獲
審辦一摺此案杜三牛等膽敢糾夥在息縣彭家
店等處潛藏等候伊兄杜大牛起解時在途劫奪
不法已極經縣役董洪義店戶高應科探知該犯
等預謀情事即赴署口稟該州縣等親帶丁役將
首夥各犯先後全行拏獲並起獲刀械等項所辦
尚為妥速光州知州台倫息縣知縣徐曰昌於潛
謀劫囚重犯迅即按名擒捕甚屬能事著於審案
案完竣後奏請加息縣役董洪義店戶高應科留
心覺察得以破案著顏檢量加獎賞或飭縣將董
洪義派充頭役用示鼓勵至杜大牛一名本係故
殺擬斬應入本年秋審情寔之犯復敢於伊弟杜
四牛進監探視時潛囑回家糾人劫奪情罪重大
審明後即當改為斬決立即正法其餘案內各犯
俱著嚴審定擬具奏再息縣土棍杜大紅杜二紅
二犯前曾密諭顏檢查拏今此次所獲杜三牛等
既係該縣人氏或即是同黨亦未可定顏檢當督
飭司道向其嚴切跟究並詳加察訪無難得寔也

將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

309 嘉慶七月四月十八日奉

旨清書散館卷著派慶桂德瑛閱有漢書散館卷著
派董誥那彥成劉權之錢樾劉鏞之初彭齡閱看
欽此

300

查上次散館共七十三員除一甲三名業經授
職外其清漢庶吉士內留館授職者三十二員
用為部屬者二十七員用為知縣者十一員謹
奏

四月十八日

301

臣慶桂 臣董誥 臣劉權之 臣德瑛 臣錢樾 臣初
彭齡 臣劉鏞之 臣那彥成 跪

奏謹將散館庶吉士試卷公同閱看清書內擬列
入二等者二卷漢書內擬列入一等者十三卷
二等者二十三卷三等者三十六卷謹粘籤呈

覽恭候
欽定俟

發下後再拆彌封開單進

呈謹

奏

四月十八日

302

清書

二等一名查勳勤

二名王 璽

漢書

一等一名杜 堦

二名陳嵩慶

三名席 煜

四名吳熙曾

五名方 振

六名崔問余

七名徐賡颺

八名鄧廷楨

九名顧 阜

十名王鍾吉

十一名鄭錫琪

十二名葉紹本

十三名陳 杲

二等一名汪 庚

二名楊懌曾

三名朱方增

四名姚 璽

五名沈 酉

六名徐 煥

七名余正煥

八名王 澤

九名劉彬華

十名陳用光

十一名遠 麟

十二名李鴻賓

十三名劉 澍

十四名孔昭虔

十五名倪 琇

三等

- 十六名張廷鑑
- 十七名蔡任
- 十八名聶錫敏
- 十九名傅崇
- 二十名鄒家燮
- 二十一楊惠元
- 二十二名劉士茶
- 二十三名汪潤之
- 一名劉奕煜
- 二名陳廷達
- 三名竇心傳
- 四名黃士觀
- 五名黃任萬
- 六名徐心田
- 七名袁名曜
- 八名朱澄
- 九名齊鯤
- 十名吳杰

- 十一名蔡德符
- 十二名姚建訓
- 十三名凱音布
- 十四名許紹宗
- 十五名王達
- 十六名秀寧
- 十七名陳中孚
- 十八名商載
- 十九名佟景文
- 二十名常英
- 二十一名張文鳳
- 二十二名普保
- 二十三名徐華嶽
- 二十四名吳毓寶
- 二十五名蔡行達
- 二十六名陳煦
- 二十七名馮輔
- 二十八名王利亨
- 二十九名王以鋸
- 三十名嚴昌鈺
- 三十一名樊如杞
- 三十二名胡長慶

三十三名黃孟甫
三十四名梁中靖
三十五名黃中位
三十六名廖方彥

303 嘉慶七年四月十八日內閣奉

上諭福昌等奏審擬革職京口副都統阿玉什因姦
釀命請發新疆効力一摺此案阿玉什與家人王
添幅之妻喬氏通姦姦王添幅撞過一時氣忿當
將喬氏扎斃若依平人姦所獲姦將姦婦殺死本
例姦夫應擬絞候今王添幅係阿玉什契買家奴
雖與平人有別而阿玉什身為二品大員輒與僕
婦通姦無恥已極且復釀成人命即照平人例問
擬予以縲首亦屬罪所應得但細閱供單姑念阿
玉什之父伊陞阿前在伊犁軍營陣亡伊母孀居
守節情殊可憫阿玉什著姑照福昌等所擬發往
新疆効力贖罪此係格外施恩嗣後如有大員不
顧廉恥與僕婦通姦釀命者竟當照平人一例定
擬欽此

304 嘉慶七年四月十八日內閣奉

上諭吉慶等奏出洋兵丁口糧請於閩稅盈餘內動
支一摺粵東出洋兵丁益菜口糧向係在於藩庫
米耗盈餘等款內支領既據該督撫稱米耗盈餘
及公用火耗存銀無多而太平閩稅羨又係報撥
正項惟閩稅盈餘銀兩係備粵省修造兵船之用
每年俱有多餘等語著照所請此項出洋兵丁口
糧准其在於閩稅盈餘銀內動支俟海洋寧靜即
行停止摺併發欽此

305 嘉慶七年四月十八日奉

旨存柱著照該督等所請准其調補麗江府知府其
琅玕孫曰秉罰俸處分均著加恩寬免欽此

306 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 署廣東巡撫瑚 嘉慶
七年四月十八日奉

上諭吉慶等密奏探提兵黃標稟稱差線人赴雷州
洋面招安於盜船拾獲賊匪傳單逆詞抄錄呈覽

粵東洋面為盜匪出沒之所近聞陸路奸民亦有天地會匪拜盟糾結等事今於盜船內拾獲傳單語多悖逆在盜匪等自因官兵追捕嚴緊是以編造逆詞希圖煽惑愚氓乘機劫掠其單內既有高溪字樣諒必定有其人從中勾結不可不速行查究該督等務須飭督務獲嚴辦示懲並詳細察訪有無勾通內地會匪之事但當不動聲色密之又密以消萌芽而靖人心仍於各海口整配兵船隨時防範毋少疎懈至雷州三面環海陸路稍覺兵單吉慶等自應酌量添撥官兵嚴飭將弁認真巡緝以清洋面將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

307 嘉慶七年四月十八日內閣奉

上諭據磨勘大臣將本科會試中式覆勘應議試卷粘簽進呈內二百二十四名龔正調一卷簽出文義疵謬詩句粗鄙數處且字畫訛誤甚多首篇半係錄舊其素不能文已屬顯然前此鄉試取中亦必有鎗冒等弊特事隔多年姑免深究此等行險

微俸之徒豈可令其濫廁科目該大臣等僅請將該貢士先行扣除停其殿試仍由禮部照例核辦具題聲叙殊未明晰龔正調不但應革去進士伊係由附貢生中式舉人並捐納員外郎俱著全行斥革永不准再行應試其字句應議之處考試官未能看出著該部照例議處餘依議摺單併發欽此

308 軍機大臣 字寄

署廣東巡撫瑚 嘉慶七年四月十八日奉
上諭瑚圖禮奏借款湊撥關稅銀兩解往河南一摺前因各路軍營善後需費降旨將各關稅銀每收足十萬兩即解赴河南原以此等稅銀本係籌米解京之款令其預行解豫以便就近撥支陝楚脩用並非迫不及待今據瑚圖禮奏稱太平關續收額羨銀祇有一萬一千八百餘兩何妨稍寬時日俟湊足十萬之數再行起解乃於藩庫內借銀八萬八千一百餘兩先行湊撥似豫省有急需撥餉銀之事殊可不必除此次業經派員解往外嗣後關稅

銀兩俟收足十萬兩始行解豫世庸借款動撥俟
事紛煩將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

309 嘉慶七年四月十九日內閣奉

上諭此次敬館之修撰顧阜編修鄒家燮業經授職
其清書二甲之庶吉士王堃漢書二甲之庶吉士
杜瑯陳嵩慶席煜吳熙曾方振崔問余徐慶颺鄧
廷楨王鍾吉業紹本陳景汪庚楊懌曾朱方增余
正煥王澤劉彬華陳用光孔昭虔倪琇聶錫敏傅
崇楊惠元汪潤之劉奕煜黃任萬袁名曜朱登齊
親秀寧陳中孚高載佟景文俱著授為編修清書
三甲之庶吉士查訥勤漢書三甲之庶吉士李鴻
賓凱音布常英俱著授為檢討鄭錫琪姚堃達麟
吳杰普保蔡行達俱著以部屬用沈函徐煥劉澍
張廷鑑蔡廷劉士業陳廷達寶心傳黃士觀徐心
田黎德符姚廷訓許紹宗王達張文鳳徐華嶽吳
毓寶陳煦俱著以知縣即用馮輔王利亨王以錕
嚴昌鈺樊如杞胡長慶黃孟甫梁中靖黃中位廖
方彥俱著歸原班銓選欽此

310 嘉慶七年四月十九日奉

旨此案著交新任河南巡撫馬慧裕提同人証秉公
審擬具奏所有原告李瀛交該部照例解往備質
欽此

311 軍機大臣 字寄

四川總督三等男勒 嘉慶七年四月二十日

奉

上諭朕本日恭閱

高宗純皇帝實錄乾隆十六年欽奉

諭旨據尹繼善奏稱川省樂山縣老洞溝銅廠自清釐
之後每年可獲銅六七十萬觔等語向來京外鼓鑄
洋銅而外惟仰給滇銅艱於採運誠令多得數處旺
廠廣資接濟地方窮民得以傭工覓食於民生大有
裨益惟在經理有方不致生事滋擾俾銅觔充裕鼓
鑄有資錢價亦可漸平著交該部速議欽此當經部
議准行因思川省近年來銅觔短缺鼓鑄稀少現
於滇省撥給錢文以資接濟若本省尚有未開銅
廠儘可就近採辦且無業貧民得以藉茲糊口亦

辦理善後之一端上年曾經降旨令該督查明地方如有可興之利似銅鹽等項可以資藉謀生者奏明辦理至今尚未據勒保覆奏著將

實錄內恭載

諭旨抄錄發往閱看該省銅廠共有幾處其樂山縣老澗溝地方是否尚有銅廠每年產銅可獲若干並此外或尚有產銅之處著勒保飭屬查明妥為籌議一併覆奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

312 嘉慶七年四月二十日內閣奉

上諭朕恭閱

高宗純皇帝實錄乾隆十六年考試戊辰科散館庶吉士內有林明倫一員曾再留館教習三年因思此次散館之庶吉士王以錕考列名次居後引見時着歸原班銓選但念其會試中式第一名平日文理尚優昨日散館試卷祇係字畫拙率文義尚無大疵王以錕着加恩仍以庶吉士留館教習三年
欽此

313 嘉慶七年四月二十日奉

旨董誥已派充殿試讀卷官所有戶部三庫印鑰著交慶桂暫行佩帶德瑛昨派閱繙譯試卷所有董誥現帶之刑部印鑰著交張若溥暫行佩帶張若溥著入城居住數日欽此

外道

諭旨係大人們口傳不廷不交

314 嘉慶七年四月二十日內閣奉

上諭上年各省奏到年老諸生並和寧補奏山東省年老諸生均經降旨分別加恩茲據禮部將王汝璧張誠基瑚圖禮奏安徽江蘇江西廣東八十七以上諸生核與新定之例相符開單具奏除江西省貢生吳吉士一名係現任教職前經該部以擅離職守奏應行扣除外所有安徽者八十以上之生員韋廷佩汪文易趙况劉岡格汪中孚趙有恒呂景福張敦厚七十以上之貢生蔡天球陳士爰濮陽州岑錫德汪文萱江蘇者八十以上之貢生吳慶雷生員吳甸英毛德產吳當同姜紹鑿

七十以上之貢生李美大馬起江西者八十以上
 之生員陳任玉宋開繅熊元泰慶以真胡嶸七十
 以上之貢生王廷栢羅敷吳廷芝張銘陳鼎陳考
 人等三十一名俱著加恩賞給舉人准其一體會
 試安徽者七十以上之貢生張振霖生員劉健陳
 璇董世湖王清胡高吳振藻王壽昌洪爰於輝光
 李本敬潘亭祖章珍柯允曹維敷江蘇者七十以
 上之監生俞圻徐兆魁生員李春臺祁汝為郝才
 揚陳南冠黃廣颺查樹德曹衣振劉聯張逢辰吳
 登泰汪文鈺朱昕戴桂薛夢麟寶雲門林兆崇屈
 新李葆清荆夢惠江西省七十以上之貢生鄧錚
 生員張繼戴宏禧黃光宇陳兆傑王敬密王以清
 涂萃齡陳金瑞鍾蘭吮張焜羅波張惟寅江伏都
 得為李文密謝再揚曾鼎銘劉子兆羅福鉅吳江
 李掄元甘學禮聶起潛蔣進取周金洪楊其瓊胡
 權鄒光輔廣東省七十以上之生員曹賓古朝瑞
 魏雲峰等六十八名俱著加恩賞給副榜用示嘉
 惠者儒至意欽此

315 嘉慶七年四月二十一日內閣奉

上諭據砥柱奏署直隸總督熊枚請將御史費錫章
 隨往在署幫辦事務殊屬冒昧請嗣後嚴飭在京
 大臣奉命署理督撫者不得援以為例等語所奏
 甚是御史係屬言官本非大臣可以隨帶之員前
 熊枚面奏懇將費錫章隨往朕即覺其所奏未協
因伊係著任
 暫時姑允所請嗣熊枚到任後旋據奏稱先令費
 錫章回京供職業經批諭該署督奏請帶往原屬
 冒昧並令費錫章即行回京今砥柱適有此奏與
 朕批諭正相符合國家設官內外各有體制督撫
 身任封疆自司道而下皆係幫同辦事之人至署
 中一切案牘自有幕友襄理若由部院簡放督撫
 者皆得各帶所屬司員前往辦事恐司員等揣知
 該堂堪膺外擢預為趨奉一經簡放督撫即可帶
 往辦事補用道府易啓屬官營求之弊亦不可不
 防其漸嗣後在京部院大臣除有兵差審案等事
 仍准隨帶司員外其簡放督撫及署理督撫者不但
 不准請帶御史即所屬官員亦均不准奏請隨帶
 如有違例陳請者即當交部議處以肅政體而杜
 弊端將此通諭知之欽此

316 嘉慶七年四月二十一日內閣奉

上諭本日奏事處呈遞膳牌首列朱珪彭元瑞之名

朕以伊二人昨經派充殿試讀卷官現任紫禁城內本日自不應

復行赴園或係筆帖式等誤為呈遞當令軍機大

臣查詢竟係奏事處該班員外郎阿爾綱阿將昨

日所寫之膳牌姓名未經擦去徑行呈遞殊屬疎

率膳牌係每日遞奏之件該班官員自應按日繕

寫敬謹查對何得漫不經心率將昨日繕就膳牌

輒行添寫進呈非尋常疎忽可比內務府員外郎

阿爾綱阿著逐出奏事處並去十五善射花翎仍

歸本衙門以主事降補奏事處領班孟住於遞奏

事件未能留心查看亦著交部察議欽此

317 軍機大臣 字寄

陝甘總督惠 嘉慶七年四月二十一日奉

上諭惠齡奏請將候補知府朱紱補授西寧府知府

等語西寧府知府係例應請旨之缺前經吏部奏

請簡放已降旨將沈清補授著惠齡於沈清朱紱

二員內察其才具孰為相宜先行奏補西寧府缺

其未補之員即留於陝甘俟續有知府缺出奏請

補用將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

此一道既明登注

318 嘉慶七年四月二十一日奉

旨高凌霄於林芳種誣告張熊晏等毆斃伊兄林芳

湖一舉驗傷錯誤淹禁無辜其失入人罪尚屬非無

心高凌霄着准其援減其該撫所擬准減各官犯

內蘇見陞一犯因所管兵丁江湖毆傷駱德明身

死該犯恐干泰處囑令地保捏報曹標毆斃寶屬

有心作孽蘇見陞着不准援減餘俱着照例減釋

欽此

刑部題覆廣東省徒罪官犯減等奉

319 嘉慶七年四月二十二日奉

旨陳喬逞忿故殺連斃男婦二命情殊可惡本應即

照所犯斬罪予以立決姑念該犯係自行投首仍

依擬斬監候著趕入本年秋季審情實辦理除依議

欽此

刑部題覆四川民陳壽龍刑案陳堂今一本

320 嘉慶七年四月二十二日內閣奉

上諭吏部具題直隸省商民捐輸銀米照例議叙一本已依議行矣此事係乾隆五十七年直隸省被災時該商民等捐輸接濟經梁肯堂奏明欽奉

恩旨交部議叙該地方官奉准部文時即應查明捐賑姓氏開單咨部核議有何難辦之處乃輾轉延宕已及十年經該部節次行催竟置不覆直至上年朕降旨飭查始據該督查明各紳士姓名咨部辦理其中即有先經身故未蒙恩叙者摠由外省積習疲玩恬不為怪而直隸為尤甚似此特行文辦理之事尚敢任意玩延此外延擱不辦者更不知凡幾若地方錢糧命盜案件亦似此延緩其廢弛尚可問乎嗣後各直省督撫凡遇地方應辦事件務須依限完結不可遲逾至奉旨特文之件尤當迅速辦理若再有似此延玩定當嚴行懲治不貸欽此

321 軍機大臣 字寄

左都御史暫署直隸總督熊 嘉慶七年四月二十三日奉

上諭昨據熊枚奏稱保定省城於本月二十一日得雨頗為深透並稱被澤之處必廣現在各府州所屬是否同時均霑溼澍著熊枚查明速奏以慰屢注至近京一帶近日尚未得雨朕心甚為焦切業經設壇祈禱以冀速霽甘膏因思上羊直隸地方被水之後本年晴霽日久其未經得雨地方恐地氣蒸鬱蝗蝻萌發之處即一面派委妥員迅速撲捕一面據實奏聞熊枚不可因上年畿輔曾被水災目今即有被蝗之處輒意存隱飾不行具奏自誦譴災不報之咎並將未經得雨之各州縣一併查明具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

322 嘉慶七年四月二十三日內閣奉

上諭據劉鳳誥奏濟寧州屬金鄉縣縣考時有生員李玉璣等攻告童生張敬禮張志謙徐皂隸曾孫泚考知縣汪廷楷並未詳查率准考送迨州試時該州王彬又不據控審明扣除致闔邑童生不肯

進場未考者多至四百餘人等語堂試為士子進身之階原應區別流品難卒子孫不准與考者在學政全書遵行已久該州縣考試時遇有紳衿等攻訐混考之案自應即時澈底清查照例扣除即或紳衿等有挾嫌誣控情事亦當審訊明確以服其心今知州王彬知縣汪廷楷於此案攻訐之初並不核實查辨以致閭閻童生赴考寥寥殊屬不成事體濟寧州知州王彬金鄉縣知縣汪廷楷教諭黃維璧訓導楊价俱著解任交與和寧提齊案証秉公審辦毋得稍有偏徇至該縣童生未赴州考者四百餘人其中即有一二刁健之徒敢應執業懲辦豈可因此汲累閭閻文章著加恩准其補行考試該學政奉到諭旨即飭知遵照辦理倘補試童生內審明後果有把持扛幫之人何難按例治以應得之罪俾^刑懲取進仍可斥革辦理也欽此

323 嘉慶七年四月二十三日奉

旨此項雲南省解交工部銅劬進局逾限皆因錢法堂劉諭遲延以致在橋守候多日前此錢法堂侍

林
即並不將承辦司員查明據實參處轉請之該委員及監督等奏請察議殊屬非是著查明承辦司員交部議處其管理錢法堂之工部侍郎^{亦著}併察議欽此

324 軍機大臣 字寄

盛京將軍直隸河南山東各督撫 嘉慶七年四月二十

三日奉

上諭秀林奏違犯溫添保胡九王三禿即李十兒等在配脫逃等語溫添保等原犯罪名或係窩盜分贓或係聽從行劫均因情有可原免死發遣乃敢在配同日脫逃情殊可惡該犯等逃後非潛回本籍直隸河南山東等處即在途逗遛著傳諭盛京將軍直隸河南山東各督撫查照該犯年貌清單一體飭屬嚴密緝拿務獲毋任逃漏網將此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

325 嘉慶七年四月二十四日內閣奉

上諭山東兗沂曹道員著王朝梧補授欽此

326 軍機大臣 字寄

盛京將軍公晉 嘉慶七年四月二十四日奉

上諭據晉昌履奏奉天正二月間地氣凝凍道路平

坦易于行走寺語盛京

祖陵早應躬親展謁今既據奏稱春令易于行走朕當

于明歲正月間擇吉啓鑿計有間二月往返時日

甚屬寬餘所有一切應辦事宜著晉昌先行預備

且不必聲張朕七月間明降再明降諭旨也將此

諭令知之欽此遵

旨寄信前來

327 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年四月二十四日奉

上諭本日注志伊迴奏患病情形一摺據稱向未氣

體虛弱本有胃痛之疾上年解任回籍後愈加沈

重至今不能起坐尚在調理惟從前未將病中情

形隨摺附奏實屬疎忽請交部議處等語注志伊

自解任之後節次與王德聯銜奏到之摺未將患

病情形隨時附奏是以前經降旨詢問令其明白

迴奏茲閱注志伊奏到情形患病委無虛飾注志

伊身任封疆受恩優渥如果心存規避其獲咎甚

重豈僅加以議處今患病既無捏飾則其未經奏

聞之處止係病狀私情並非地方公事所有自請

處分著加恩寬免並著該撫傳知注志伊令其上

緊醫治供病體大愈後再行來京另候簡用轉不

必亟於起程或致致途間舊恙復發也將此諭令知

之欽此遵

旨寄信前來

328 嘉慶七年四月二十五日內閣奉

上諭山東兗州府知府貧缺著沈清直補授欽此

329 嘉慶七年四月二十六日奉

上諭信山覆奏查明岸商浮用銀兩一摺據稱提到

該商等面加研訊已未庚申兩年岸費加增皆由

各商等親友瓜葛又有礙於情面虛得平俸之人

不能擲節所致實無地方官藉端需索情事等語

從前和坤攬權納賄肆意包苴該商等逢迎餽送

殊

自所不免經朕嚴加懲治功令肅然現在內外臣工諒不敢有所妄索致蹈故轍此事既經信山訊明並無從中需索陋規濫行支用情事何以已未庚申兩年尚有加增銀八十餘萬兩至百萬兩不等該商等即有親友瓜葛酌應開銷亦斷不至如此之多是尚否有別項浮費或因公提用之處著

據實陳奏不可諱飾

傳諭信山查明此二年因何匪費加增並自平酉年為始將一切岸費需用銀數酌定章程妥議具奏將此諭令知之欽此

軍機大臣遵

旨傳諭西堆鹽政信山

330 嘉慶七年四月二十六日奉

旨總管內務府大臣等奏文淵閣武英殿御書處御藥房咸安宮御船處樂部清字經館等八處向係欽派王大臣管理其各該處承辦司員遇有缺出請改由內務府衙門於司員內酌量事務繁簡擇派咨送並將各處兼攝之員開單酌擬裁減等語

殊

殊

殊

朕詳閱單內武英殿御書處並無內務府大臣兼管等語其兼攝司員率請裁減其御船處咸安宮等處現有內務府大臣兼管其事務並不甚繁而兼攝之員仍今照舊並未聲請酌減所擬未免偏私且該管王大臣需用司員如必向內務府咨取

近於傳理弄權此等技倆竟敢在朕前當面欺詐

內務府大臣又豈肯將得力之員派往於公事殊

屬無益着內務府大臣會同各該管之王大臣悉心詳核或將內務府兼攝司員量為裁減或將各

該管王大臣所屬之員派令兼攝之處悉心詳核

具奏欽此

331 嘉慶七年四月二十六日內閣奉

上諭本日御史張鳳枝奏新科中式張本枝係伊胞弟伊現派朝考監試應否迴避一摺朕覺其所奏非是而都察院果即具摺奏該御史不早呈明迴避請將張鳳枝交部議處此次會榜於本月初十日揭曉翰林院咨取監試御史銜名係在十六日張鳳枝豈尚未知伊弟業經中式乃並不呈請

扣除開列及至派出後始繕摺陳明顯係聞知本衙門堂官欲行參奏自佔地步張鳳枝著交部照例議處欽此

332 嘉慶七年四月二十六日內閣奉

上諭上年四月內綿德等因福長安告病具呈冒昧代奏曾經降旨將綿德成林等交宗人府兵部分別議處嗣以綿德當差勤慎將罰俸寬免半年因思福長安現已加恩用為驍騎校綿德等前此陳奏冒昧之處尚可量為寬貸所有綿德應罰王俸二年之案著加恩全行寬免成林革職留任之案亦著加恩准其開復欽此

333 遵

旨查嘉慶六年四月內綿德等因福長安告病具呈

冒昧代奏奉

旨綿德著革退都統管圍大臣成林著拔去花翎改補威京副都統仍交部議處欽此放經宗人府兵部將綿德等分別議處具

奏奉

旨福長安所遞之呈係綿德接受殊傷非是著依議罰即王到^體二年弘謀僅係隨同具奏其議以罰俸二年之處著寬免一年仍罰貝子^體對一年永碩到任將福長安業已遞呈其議以罰俸一年之處著寬免半年仍罰貝子^體對半年成林之罪惟在不能阻止隨同列銜其議以降三級調用之處着改為革職留任欽此嗣於十一月內奉

旨綿德近來當差尚屬勤慎前罰王俸二年之處著加恩寬免半年欽此謹

奏

334 嘉慶七年四月二十六日內閣奉

上諭昨因陞殿傳臚新進士行禮參差不齊儀節舛錯隨傳詢鴻臚寺禮部各堂官因何不預行演習據該堂官等均稱臚唱演禮向無成例及聞都察院衙門奏奏一摺內稱凡遇傳臚大典由鴻臚寺派出序班等官三員先期將一甲三人認明分班帶引俟鳴贊時即在旁密為宣導俾弗愆儀今該

寺官直至三名全唱後始引其就位旋即退遠並不在旁押班密宣以致參差不齊拜跪無節等語是歷屆傳臚諸進士行禮惟以鴻臚寺官在旁尊引為準不致錯誤此次該寺堂官並未先期選派爛習之員敬謹導引殊屬疎忽所有鴻臚寺承值帶領一甲進士行禮之員着交部議處該堂官着交部察議欽此

335 臣等遵

旨傳到阿隆阿等詢以二十五日傳臚新進士行三跪九叩禮參差不齊何以鴻臚寺未經預行演習據阿隆阿等稱向來凡遇官員謝

恩贊引係本衙門職事並無演習禮儀之例隨詢之禮部尚書紀昀等據稱舊例新進士於

朝考後引

見俱前期在翰林院演禮其傳臚演禮向無成例伏

思檢材大典禮宜嚴肅臣等沿襲舊規未能等及致草茅新進惶遽失次實切愧悚今擬請嗣後凡遇傳臚亦照翰林院演禮之例臣部先期

會同鴻臚寺一體傳齊演禮屆臨期不致參差朝儀益昭整肅等語謹

奏

336 嘉慶七年四月二十六日內閣奉

上諭熊枚奏請將現署固安縣知縣田宏猷陞署北岸同知一摺田宏猷由縣丞陞署知縣尚未保題實據遽請陞署同知若文部議必照例駁飭但念永定河現有應修要工非熟諳河務之員不能勝任既據該署督奏稱田宏猷由永清主簿歷陞今職均係永定河要工之缺自必人地相宜所有北岸同知員缺即着加恩以田宏猷陞署欽此

337 嘉慶七年四月二十六日內閣奉

上諭熊枚奏前因催修剝船遲悞革職之東路同知莫景瑞懇請留任一摺莫景瑞承催通州武清等處派修剝船既據熊枚查奏其遲悞尚屬有因並稱該員歷任繁劇素能奮勉且同案被革之朱杰潘仁等均經加恩留於本任所有莫景瑞革職之案亦著加恩改為革職留任欽此

338 軍機大臣 字寄

直隸江南浙江江西山東河南湖廣各督撫

漕運總督 嘉慶七年四月二十六日奉

上諭御史喬達燠條奏各衛屯田請旨清查一摺各
衛設立屯田原以濟運從前該屯戶等即有私行
典賣情事曾於乾隆三十七八等年清查嚴禁但
為時既久恐仍蹈舊習零星盜賣以致丁力漸
疲辦運竭蹶今該御史所奏不為無見著交直隸
江南浙江江西山東河南湖廣等省督撫及漕運
總督即將各衛原額屯地飭屬查明有無私行典
賣如何贖歸原額之處會商妥辦喬達燠原摺著
抄寄閱看將此各諭令知之欽此遵
旨寄信前來

339 嘉慶七年四月二十六日內閣奉

上諭熊枚奏民人孫遇隴呈控承德府知府景璋妻
父盧三指工撞騙一案景璋由京員簡放乃於未
經到任之先即聽從盧三說合批准孫遇隴認辦
工程並令借給銀兩迨孫遇隴至熱河時景璋不

令進見或係景璋先因妻父盧三請托業經批准
後知事干功令復加之拒絕亦未可定但既經批
准予先又令借給銀兩將來審明後景璋若有應
得之咎景璋即著解任來京備質盧三一犯著交
該旗飭等交部先行提訊所有孫遇隴一十人証
俱著解交刑部嚴審定擬具奏摺併發欽此

340 嘉慶七年四月二十六日內閣奉

上諭直隸承德府知府員缺著叢森布補授欽此

341 嘉慶七年四月二十六日奉

旨著交刑部欽此

都察院奏順義縣民人李李氏控李正國一案

342 嘉慶七年四月二十七日內閣奉

上諭堂仲濟倫漢文平常不必充當武英殿摠裁所
遺之缺著英和充補欽此

343 軍機大臣 字寄

署直隸總督熊 嘉慶七年四月二十七日奉

上諭連日設壇祈禱雨澤昨二十六日卯刻雲陰四
布雨點飄灑午後漸次稠密至亥時始止本日據
順天府奏報得雨入土實四寸有餘又據那彥寶
等奏稱盧溝橋地方同日得雨薊州一帶亦經永
碩等奏報於二十三日得雨深透當此農田待澤
之際獲沛甘膏麥穗秋禾均有裨益此皆仰賴

昊蒼眷佑靈澍應時倍深欽感但直隸通省各屬是否

一律普霑朕心尚為廛切著熊枚仍遵前旨將現
在各府州屬得雨分寸即速詳查隨時具奏將此
諭令知之欽此遵

旨寄信前來

344 嘉慶七年四月二十八日內閣奉

上諭前曾降旨將京城內外飯廠加恩展賑俟甘霖
大沛後令監放御史再行酌量情形奏請停止茲
據五城御史奏稱本月二十六日得有透雨四野
霑足赴廠領賑貧民歡欣踊躍倉棉及時播種力

作傭工均資度日請於五月初一日停止給賑等
語該御史等體察輿情遵旨奏請本應即行停止
但念端午已近若遽行撤廠恐貧民度節口食尚
艱著再加恩展賑至五月初五日為止並著五城
御史曉諭領賑貧民此係格外恩施現在獲沛甘
膏農田均資耕作其有可自謀生業者日內不妨
先行散歸自初六日停賑之後不復再行展賑務
各安靜營生以副恩加無已至意欽此

345 嘉慶七年四月二十九日奉

旨色克精額讀祝有年尚屬穩妥前曾賞給五品翎
頂茲該員銓選同知據太常寺堂官代奏懇請留
京供職著加恩以禮部員外郎遇缺即補仍在太
常寺讀祝官上行走欽此

346 嘉慶七年五月初一日內閣奉

上諭新科進士一甲三名吳廷琛李宗昉朱士彥業業經授職外李仲昭朱琦吳椿章道鴻何丙成碩菴董桂新梁章鉅呂兆麒金式玉朱鴻費蘭埤洪占銓陶澍何應杰胡開益程壽齡張源長易元善饒向榮鄧士憲黃錫綬張鑑任英謝學崇謝蘭生李振翥施嵩坡何蘭汀劉加封黃中傑李鍾璧李可蕃朱廷慶瞿昂邇邇程邦憲沈維鏞霍樹清張元宰萬林琛黎燮卿祖培洪燿陳聲遠程贊寧蔡以成寧古齊盧炳濤朱玉林張元樓龔守正黃茂張本枝宋潢周毓麟林春溥葛方晉蓋運長孫汶隆安林文竹魏邦彥陳永圖孫世昌莊詵男劉敷萬高廷魁徐驥王百齡王青蓮哈晉鍾慶王珽吉士瑛宗室果齊斯歡中啓賢卓秉恬任郁祐李燭根達清阿柳體青馬倚元宗室德明河陳銘海齡宗室慧端李成芳謝幹夏修恕常山著改為翰林院庶吉士潘澍霖林紹龍善慶邱樹棠穆隆阿孔繼瑛著分^部學習徐必觀楊廷潘人炳王廷元宗廣吳林魏德琬凌鳴喏洪運開劉丙陳徵芝楊增思

余保純李成蹊湯達張佑蔣鏞林鈺劉大璵劉德銓梁本恭葉申葉喻宣孝阿應麟蔡德淳甘家春柯光蔚曾基申劉晉泰劉長孺林朝陽汪百川康黃中李中淑鍾德賓葉際春王崇本傅鵬飛安佩蓮崔秉鍊黃德表鄒孝嵩李嘉祐魏來田董齊光向序瞿德克耿維祐王慶長魏士俊徐潤王霖澍趙子璟易鳳庭徐一麟王楚堂鄭瑤騰嘉棟齊承慶鍾秀萬永福^依陸步虛李約孫世封黃恩培黃沛周煥尹侃神閔登雲金菁莪王篤^光孫李文耕齊敦敏溫秉貞鄭丕欽及補行朝考之彭昌運著以知縣即用餘著歸班錄^欽此

347 嘉慶七年五月初一日內閣奉

硃

上諭王德素營伍操演鎗箭請除去鎗上所釘星斗並請射靶俱改用梅針箭一摺所奏大屬^此非是施放為鎗全憑鎗上所釘星斗為準若平素演習精熟自能便捷命中今王德因閩浙營兵放鎗遲慢手顫欲將星斗除去殊不思兵丁等執鎗手顫自因演習生疎所致應即將^該兵丁等責懲豈除去星

斗即不手顛手至所撰軍管用箭皆係梅針管兵操練射靶所用鏢子箭頭輕闊大不過架勢鋒銳應改用梅針箭等語亦不成話箭枝式樣種種不備及過於用其箭鏢翎羽之輕重總視弓力為準如射鵞則用龍頭射靶則用鏢箭射靶則用披箭臨陣則用梅針隨地異宜總在發矢有準如果將鏢箭演習純熟即易用梅針必能一律命中若平日操演必須改用梅針方能射賊則樹候設正亦非臨陣所用豈有以人為的竟將應死罪囚試演射藝之理真所謂無知督說矣我朝武備整齊弓矢鎗礮家為軍營利器法制精良百世不易乃玉德還其鹿兔報恩變改舊章此奏若出於提鎮漢員內已為不經況玉德係滿洲總督竟於本朝武備成法懵然不知率議更張尤為謬妄玉德著拔去花翎侍衛嚴行申飭仍交部議處嗣後各督撫提鎮等惟當將營官兵勤加訓練以期技藝嫻熟志成勁旅毋得輕改舊制自取咎戾將此通諭知之欽此

348 嘉慶七年五月初二日內閣奉

上諭陳霞蔚著補授都察院左副都御史仍留山西學政之任其所遺通政使司通政使員缺著曹振鏞補授欽此

349 嘉慶七年五月初二日內閣奉

上諭山西朔平府知府員缺著廣玉補授欽此

350 軍機大臣 字寄

二品頂戴暫留雲貴總督琅 嘉慶七年五月初三日奉

上諭琅玕奏攻克緊要賊寨官兵打仗情形一摺覽奏俱悉康普賊巢全恃各處賊寨阻隔官兵不能全進今琅玕督同署提督張玉龍等分派弁兵先將阿喃多寨屯聚之賊前後夾攻鎗砲轟擊賊斃標匪三百餘人滾岩落水無數復將諾別古山內屯聚之賊設伏進攻又殲擒三百餘人并將漢奸禿樹擊斃其餘滋擾之處均有斬獲且有畏懼來投者看此情形事機極為順利不難剋期蕩事

現在續調兵勇即日調齊琅玕當督率鎮將等乘
勝進攻直抵康普賊寨痛加剿辦并將為首各犯
一鼓成擒緝靖邊圉勉之望之至頭人禿樹出身
二犯既據哇木供出該二犯于康普滋事時曾分
投糾約同恒乍網賭者布合夥燒搶且欲乘官兵
進攻康普之時希圖搶劫其兇惡寔為可恨現在
禿樹一犯已經官兵臨陣殲斃并經訊係漢奸所
有出身一犯厥罪維均不可任今漏網琅玕等務
將該犯同恒乍網賭者布二逆一併擒獲于訊明
後即行正法以示懲儆再摺內稱該處粘棕攪棍
及別種夷人聞官兵進剿標匪時俱能幫同截拿
而紅黃二教喇嘛並團集鄉勇與賊打仗等語見
該喇嘛夷人等恭順畏法應即量加獎賞其喇
嘛中居首出力者並著琅玕查明保奏一二人酌
量加恩以示獎勵又另片奏威遠標匪已大半逃
出江外經官兵屢次剿捕遁入巖洞潛匿等語威
遠標匪滋事一案前據琅玕奏到後已降旨令烏
大經馳往剿辦日內烏大經想已抵滇著琅玕飭
該提督上緊搜捕務將首逆擒獲於瘴氣未感以

前迅速辨竣為要所有此次陣亡把總陸兆宗著
咨部賜卹將此由五百里諭令知之欽此遵
旨寄信前來

351 嘉慶七年五月初三日奉

旨趙宜霖陳夢蘭魯兆聖佟大有殷傑張宗黃時和
俱著准其捐復程大川繆汝和舒國培孫廷振殷
曰連何其震沈慶榮張遠俱不准其捐復欽此

352 嘉慶七年五月初四日內閣奉

上諭吏部察議內務府大臣一摺前此豐仲濟倫召
見時曾奏及伊係武英殿總裁於武英殿御書處
司員不能管轄司員彼時朕即覺其司員嗣據內務府
衙門奏請將各處兼攝司員開單酌擬裁減內武
英殿御書處並無內務府大臣兼管伊等即欲將
兼攝司員裁減其有內務府大臣兼管之御船處
咸安宮等處所有兼攝之員並未聲請酌減寔屬
偏私近于專擅是以降旨將藝臣等文部察議此
事顯係豐仲濟倫一人主見眾人隨從附和從前

殊殊殊

和坤兼管部院各衙門事無鉅細俱聽伊指示其餘各堂官不過隨同函諾最為惡習近年以來稍知悛改各部院中派出管理之大學士及尚書侍郎等秩分雖殊凡遇陳奏事件俱應互相商確不得獨出己見况內務府大臣分位相若並無正副之分豐仲濟倫乃敢率意^大而衆人亦隨同具奏是內務府衙門尚不免沿向來^起積習^此部議擬以降二級調用均屬咎所應得但念豐仲濟倫等所管部旗各衙門事務輒多若紛紛盡行降調一時更換之人豐仲濟倫著加恩改為革職留任緡布明德英和額勒布蘇楞額均著加恩改為降三級從寬留任欽此

353 軍機大臣 字寄

陝甘總督忠 嘉慶七年五月初四日奉

上諭本日據松筠等奏現在大功將次告竣所有綠營及各營應補缺額馬匹必須動項實補松筠現與貢楚克扎布商酌該二處可用之馬甚多請於伊犁牧場辦解二千匹塔爾巴哈台牧場內辦解

一千匹由烏魯木齊提督巴里坤總兵等派委營員運送至甘肅接收等語陝西軍務將次蒞功所有各營調用馬匹自有缺額今伊犁塔爾巴哈台等處牧場既可辦馬三千匹解甘應用著傳諭忠齡現在陝省各營是否必需三千匹抑或留用一半或竟無需此項馬匹添補之處該督惟當察看情形一面奏聞一面知會松筠等照辦可也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

354 軍機大臣 字寄

伊犁將軍松 嘉慶七年五月初四日奉

上諭松筠等奏營兵故殺人命審明定擬請旨正法一摺此案精河營馬兵蕭奉先與步兵羅一存口角細故該犯輒起殺機持刀疊扎斃命新疆地方非內地省分可比似此情罪兇惡之犯即奏聞請旨亦必立予正法而摺奏往返在途有需時日未免稽誅自應於審明後一面正法一面奏聞俾該處兵丁等咸知懲儆所有蕭奉先一犯著即處斬

將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

355 嘉慶七年五月初五日內閣奉

上諭本日節屆端陽王公大臣等俱呈遞膳牌朕於
早膳前先召見兩起膳後復召見十起惟王杰劉
墉紀昀范建豐廣泰恭阿拉以次進見而德瑛祖
之望初彭齡蔣曰綸俱先行回城其時尚未交辰
刻即紛紛早散殊屬疎懶該大臣等呈進膳牌原
係預備召對即與陳奏事件無異豈有不候膳牌
發下輒先行散歸之理伊等如此刻不能待又何
必來遞膳牌耶亦太非靖共之道矣德瑛祖之望
初彭齡蔣曰綸俱著交部議處欽此

356 嘉慶七年五月初六日內閣奉

上諭阮元奏請將浙省候補道員程國璽補授金衢
嚴道一摺金衢嚴道缺出例應歸部銓選本月吏
部將新選道員舒慶雲帶領引見業經依擬補用
並經召見令其前赴新任所有程國璽一員仍著
留於該省嗣後遇有閩浙兩省道員缺出即行奏
請補用欽此

357 軍機大臣 字寄

吉林將軍秀 嘉慶七年五月初六日奉

上諭秀林履奏查明劉夫夾帶私人及栽養參苗各
緣由一摺辦理參務總在嚴禁私參若該將軍平
日能實力查辦嚴絕偷漏之弊官參自無虞缺額
如謂因近年山深路遠參苗較前稀少則私行剽
挖之人不能獲利即不應復有入山偷挖之事今
摺內稱年來已拿獲私挖人犯一百六十餘名之
多可見山內參苗並不至于稀少該將軍惟當遵
照定例認真搜拿禁絕私參為要至另匣呈進大
參一節從前原無此例因福康安任吉林將軍意
圖飾觀揀選大枝參裝匣進呈遂致有栽養偽交
之事此時山內如果偶獲大枝人參自應另備呈
進如無此項大參即據實聲明不必仍前栽養轉
似近於作偽也其劉夫夾帶私人僕果勒明阿額
勒恒額搜查回時再行核定奏辦將此諭令知之
欽此遵

旨寄信前來

358 嘉慶七年五月初六日奉

旨祿康等奏番子頭目馬凱於交派嚴拿各重案並未認真緝致三轉橋地方復有賊匪恐嚇事主之案請革去千總並自請議處一摺番子頭目馬凱前於明安任步軍統領時奏賞千總並加守備職銜遂心存自滿並不寔心緝捕皆明安縱容所致本年三月外城下窪子等處曾有行竊拒捕及傷兵丁事主二案經祿康奏請將馬凱革去守備職銜仍留千總責令勒限緝拿乃馬凱仍復因循疎懈並不將正犯上緊緝拿而近日三轉橋地方又有竊賊恐嚇事主之案祿康等據寔嚴奏開奏尚是馬凱著革去千總仍留番子頭目如果能認真出力將各案正賊迅速全獲尚可酌量加恩倘仍前疎玩必當嚴治其罪至祿康等統轄京營於外城地方屢有賊盜重案本有應得之咎今伊等自行奏請議處尚可量子從寬祿康恭阿拉圖霖著加恩改為交部察議其南營恭將遊擊及專訊守備等均著查取職名著交兵部分別嚴加議處欽此

359 本月初七日吏部將卓異俸滿之甘肅甘州府

知府王榮榮一員帶領引

見奉

旨交軍機處記名

五月初八日

360 嘉慶七年五月初八日奉

旨戶部奏查明直隸省前^三次清查旗租積欠項下分賠各員未完銀數開單請旨一摺此內第三次清查項下未完各員多係提督藩司道府應賠之款伊等身為大員於旗租銀兩不能寔力督催以致積欠累累遂分別著賠後又不能依限清繳殊屬怠玩但念伊等究係督催不力與經徵之州縣有間所有三次清查項下未完銀二十六萬三千五百餘兩著再展限三年飭令各該員等照數完繳如仍限滿不完該部即指名奏分別嚴懲^{不准再延恩宥}其^不二兩次清查項下未完各員則係州縣居多此內或有尚在直隸服官或已遷調他省該員等均係經徵不力與督催之各上司本有不同且歷年較

久輟轉運逾所初二兩次未完銀三萬七百餘兩著再展限一年飭令照數完繳毋得再有延玩致干罪戾至賠繳官項原以警侵挪而杜冒濫乃近來外省辦理此等欠項往往將本員應追之款率議攤賠及攤賠無着又復輟轉分攤以致年深月久帑項虛懸而私肥囊橐之劣員轉得置身事外是於事理既不平允而於國帑仍無實濟部中舊例原有一定章程自和坤管理戶部循私專擅意為輕重以致承追款項或有彼此歧異轆轤不清殊非核實之道前經降旨令各該省八旗查明官員賠項分別立限催繳除俟限滿時該部再行奏明請旨外至現行事例其中有與舊例不符之處著該部逐一詳查聲明修輯分別條款酌議具奏務使帑項不致虛懸而辦理統歸畫一方為妥善餘依議欽此

361 嘉慶七年五月初八日奉

旨王德於營伍操演鎗箭成法妄逞臆見率議更張本應照部議革任姑念伊在總督任內辦事尚無貽誤王德著從寬免其革任仍註冊欽此

362 嘉慶七年五月初八日奉

旨戶部奏閒散回子艾莫忒霍卓應否賞給錢糧請旨遵行一摺在京入旗回子向無賞給派子錢糧之例但艾莫忒霍卓年僅五齡其父喀舍霍卓業已身故伊母先經回至喀什噶爾並無依靠情殊可憫著加恩照八旗之例賞給派子錢糧一分以資養贍嗣後此等入旗回子身後所遺孤孀如原處尚有依賴或伊親戚前來領回者著該旗查明具奏准其各回原處居住如本人並無錢糧產業又別無依靠不願歸原處者即照此次艾莫忒霍卓之例辦理至艾莫忒霍卓現年僅止五歲將來或伊母及伊親戚情願領回至喀什噶爾原處亦聽其便欽此

363 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督 署廣東巡撫 嘉慶七年五月初九日奉

上諭本日遞到吉慶等由驛馳奏之摺朕以為必有緊要事件乃披閱摺函祇係審明假官并澤問擬

充軍並非案內有重大罪名急須請旨遵行之事
其夾片二件一則查明鄭七等盜船因各口岸防
範嚴密並未登岸搶掠業已竄往英洋一則查明
吳咭喇與佛喇晒各國保已和好均屬巡常事件
儘可差人費遞何必由驛專發即前據吉慶等密
奏於雷州洋面盜船內搜獲傳單語多悖謬因單
內有高漢字樣自必實有其人曾降旨令吉慶等
詳細察訪審飭嚴拏此係該省緊要事件乃吉慶
本日摺報又並無一語奏及殊不可解著傳諭吉
慶等即遵照前旨嚴密查訪高漢二字著落據實
具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

364 嘉慶七年五月初九日內閣奉

上諭那彥寶等奏報永定河大工告竣並將出力人
員開單請旨一摺永定河大工現在一切全竣但
此時伏秋大汛將至所有新築各工尚當加意防護
熊枚於辦理河工一事本未經手現在新任總督
顏檢須俟馬慧裕抵豫後方能赴任尚需時日熊

枚著駐紮省城辦理地方事務那彥寶巴寧阿在
工督辦已久於工段情形較為熟悉所有本年防
汛事宜即著伊二人輪流前往在於長安城盧溝
橋往來督察敬慎巡防或半月或兩旬遞相更換
俟秋汛安瀾後再一同回京供職本年朕秋稱木
蘭那彥寶即無庸隨往至姜晟前在直隸總督任
內上年永定河兩岸決口四處下游各州縣民廬
田舍多被淹浸伊未能督率屬員先事豫防并於
盛漲之時具奏遲延其得咎較重非尋常疎防可
比當經降旨將姜晟及該管道廳等一併革職拿
問但念姜晟到直隸接任未久於河工事務本未
深悉上年雨水過大河流漲發不時人力難施尚
非有心玩愒姜晟簡任督撫有年且本係刑部
司員出身於刑名尚能諳習前已賞給主事在部
行走著加恩以刑部員外郎用遇缺即補至己革
道員王念孫同知翟崇雲陳煜自發往工次効力
後均尚勤勉現在大功已竣王念孫著賞給六品
頂戴翟崇雲陳煜均著賞給七品頂戴仍著留於
工次隨同那彥寶巴寧阿防汛俟秋汛平穩該員

等如果始終出力再行奏聞候朕酌量施恩又據
另片奏兵部主事誠安自帶往工次以來於稽查
工作均屬詳慎請加鼓勵等語誠安著以本部員
外郎用遇缺即補此外調赴工次差委出力各員
著加恩照那彥寶等所請永平府經歷范溱盛武
清縣主簿孫慶寰以應陞之缺陞用候補知縣陳
上理吏目俞石麟從九品席世綏未入流陳頌雅
周開訓劉_謙遇有相當缺出先儘補用州判彭元
英李家言縣丞何員劉垓主簿吳炳着改撥河工
留於永定河差遣遇有本省河工缺出次第補用
其餘州判鄭淮等十三員及汛員鄭澄川等六員
著交部議叙又那彥寶等帶去書吏謝肇瀛等六
名亦着分別給予議叙獎勵該部知道摺併發欽
此

365 嘉慶七年五月初十日內閣奉

上諭前歲睿恭親王_{溥穎}逝世朕心甚深為軫惻特親
臨奠醴疊加恩賚優予飾終寶恩係津穎嫡長子
人亦甚有出息即降旨令伊承襲王爵並補放領

侍衛內大臣方期教育成才永承恩眷昨聞伊在
園卽患病當經賞假令其安心調理並派御前侍
衛公博啓圖帶領御醫前往診視以冀速痊茲遽
聞溘逝實深悼惜著輟朝三日派大學士慶桂親
賁陀羅被賞給並派榮郡王綿億帶領侍衛十員
前往賜奠加恩於例賞外由廣儲司庫加賞銀三
千兩准其入城治喪以示優卹伊弟喜恩惠恩著
給假穿孝前因淳穎身後加恩將喜恩挑充乾清
門侍衛並令惠恩在尚書房讀書今寶恩又已薨
逝伊兄弟期滿後後喜恩仍照舊在乾清門當差
至惠恩若仍令在內廷課讀朕心轉增振觸可即
在家中讀書勉副朕意欽此

366 嘉慶七年五月十一日內閣奉

上諭上年畿輔被水成災河堤漫溢經朕多方拯卹
工賑並興昨永定河工修築完竣曾將在事出力
大小臣工分別甄叙其疎防各員亦一體施恩矣
因思荒擾出於天災補救則全資人力若地方官
不實心經理玩視民瘼即應治以應得之罪今直

殊

隸辦賑各州縣自去夏至今並無困賑被人控告之事即間有一二飭查之案亦全屬虛誣可見該州縣官辦理認真尚無侵蝕等弊並聞此次停賑之後尚有自出已費仗助災民回籍者地方官果能盡心民事亦不可不量加錄叙以示鼓勵所有直隸辦賑各州縣著熊枚秉公詳查據實保奏擇其實心撫卹與情愛戴並能捐貲惠及窮黎者為最其於賑務經理得宜災民均受實惠者次之其循分辦理並無貽悞者又次之熊枚上年曾經周歷各府州見聞自為確切即着分別開單具奏候朕酌量加恩欽此

367 嘉慶七年五月十一日奉

旨這所奉年老病粟之先化縣知縣孫彥碩著勒令休致該部知道欽此

368 嘉慶七年五月十一日奉

旨這所奉疊次諱竊之吏目楊立幹著革職留於該城地方協緝宗愆做欽此

都察院卷七城吏目

369 嘉慶七年五月十一日奉

旨著交刑部嚴審辦理欽此

都察院 具奏 雲南 故直 欽定 王 控門 後 宮 錄

370 軍機大臣 字寄

二品頂戴暫留雲貴總督琅 嘉慶七年五月

十二日奉

上諭琅玕奏官兵攻克傑匪小維西賊卡擒獲主謀助惡之巨逆腊者布審明正法緣由一摺傑匪恒乍綱盤踞康普糾眾滋擾腊者布膽敢助惡主謀勾結多人據守小維西抗拒官兵經署提督張玉龍署總兵永安帶領將弁分路進剿斬戮多名並經投出之夷民木聰披結等乘該逆敗竄回時假意款留到家設計縛獻琅玕審明後即將腊者布凌遲處死所辦尚好腊者布雖係從逆之犯但傑匪屢次肆擾均屬該犯主謀並有帶兵惡管之號是該犯兇頑藐法定為罪大惡極今既殲除恒乍綱本無伎倆失所倚恃無難即行殄滅夷民木聰披結能將巨魁擒獻定屬可嘉除業經給予重賞

外著琅玕傳旨再行賞給祀繼頂戴以示獎勵並
 傳諭未聰披結以此次爾等將賸者布縛獻蒙恩
 賞頂戴爾等與康普夷人自必素相熟識首送恒
 乍細既在彼潛匿何不前赴該處趁恒乍細勢孤
 之時再將該逆設法擒拿必將未聰披結二人出
 力之處奏明陞賞頂戴並諭各寨夷人如能將恒
 乍細擒獻亦一體奏明加恩如此惶切跪諭該夷
 民等自必希冀賞踴躍從事琅玕仍一面督兵進剿
 即未聰披結等不能將恒乍細擒獻而該處賊黨聞
 知自必互相猜忌紛紛解散首逆更易於擒獲恒
 乍細一經就縛則元惡既除其餘附從之樹苗吉
 尾一帶賊匪自必聞風震懾相率投誠更可不煩
 兵力琅玕便當妥為安撫就事完結不必因該夷
 人等曾經抗拒官兵均須逐一搜捕以致株連無
 已但亦不可稍涉草率總期辦理完善一帶永遠
 方為妥協至琅玕前因伊桑阿辦理苗匪欺飾各
 情有心徇庇曾降旨從寬拔去花翎降為二品頂
 戴今督兵勦辦猱獠已將首逆賸者布生獲辦理
 尚為迅速琅玕著先行賞還花翎俟恒乍細擒獲竣

事後再行加恩其署提督張玉龍署總兵永安帶
 兵打仗甚為出力已用殊筆圍出著琅玕存記此

外隨同出力之將弁等均俟猱獠匪辦完應如何分
 別加恩之處琅玕即酌擬具奏候朕另降恩旨再
 威遠探匪滋事前已令烏大經馳赴該處勦辦現
 在尚未據該提督奏報吳否已到威遠總兵書成
 等在彼如何勦辦琅玕一得稟報即行奏聞並飭
 該提鎮等上緊搜捕勿致稽遲為要將此由五百
 里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

371 嘉慶七年五月十二日內閣奉

上諭廣東右翼鎮總兵員缺著蘇蘇滿通阿補授欽

此

372 嘉慶七年五月十二日內閣奉

上諭直隸三屯營副將員缺著額爾德額補授欽此

373 嘉慶七年五月十三日內閣奉

上諭熊枚奏查明直屬辦賑各員賢否分別勸懲一摺上年直隸被災較廣一切放賑事宜均需地方官實心經理曾降旨諭令該署督詳查於賑務完竣後承辦賑務各員分別舉劾茲據熊枚覆奏查明東安縣知縣金鳴琴天津縣知縣沈長春定興縣知縣趙錫蒲玉田縣知縣倪為賢冀州知州吳兆熊清苑縣知縣孔傳金良鄉縣知縣李元林平鄉縣知縣江淑渠官聲素好於辦理災賑均能妥速不辭勞瘁懇請量加鼓勵金鳴琴等八員著加恩即以應陞之缺陞用不必送部引見至所稱寶坻縣知縣王鎧容城縣知縣章德溥香河縣知縣沈封沈永清縣知縣李光緒四員辦賑拘泥未能妥協著照該督所請交部分別議處此外如尚有實力辦賑之員仍著熊枚遵照昨旨秉公確查再行分別開單具奏倘尚有辦理不善不妥與論者並著詳查續奏俟奏到時再降諭旨欽此

374 嘉慶七年五月十三日內閣奉

上諭上年京畿猝被水災分發州同何際會捐貲賑給貧民曾經降旨將該員存記俟賑務完竣交部量給加級紀錄凡官民內有似此樂善好施者均酌量加恩茲各處賑務已畢據軍機大臣查奏刑部司員查有圻盛時序二員於被災時即倡捐辦賑又有戶部候補員外郎王大先兵部候補員外郎王佩工部候補員外郎鄒文瑛王鳴球光祿寺候補署正素煜俱各捐湊銀兩均堪嘉尚著將以上各員一併交部議叙以示獎勵欽此

375 臣等查上年六月二十九日欽奉

諭旨朱珪等奏分發州同何際會呈請捐銀八百兩稍補災民不足等語何際會以捐納微員樂善好施殊可嘉尚現在官民內似此尚復不少將來事畢後當按其捐數酌量加恩自不致沒入之善其何際會一員即著存記俟賑務完竣通行交部量給加級紀錄示獎欽此現在賑務完竣所有州同何際會一員應請

飭交吏部遵照

諭旨量予加級紀錄以示獎勵再此外查部寺司員
內尚有捐銀一千兩二千兩者六員除袁錫一名
緣事革職問徒外其餘五員應否一併交部酌
獎之處謹開單進

呈恭候

諭旨遵行再查刑部司員查有圻盛時彥二員倡捐
辦賑尚屬認真第該員等所出銀數並未呈報
是以未經叙入單內合併陳明謹

奏

戶部候補員外郎王大光捐銀一千兩
兵部候補員外郎王珮捐銀二千兩
工部候補員外郎郭文瑛捐銀二千兩
工部候補員外郎王鳴球捐銀二千兩
光祿寺候補署正袁煜捐銀二千兩

五月十三日

376

嘉慶七年五月十四日內閣奉

上諭顏檢奏審擬息縣獄囚潛謀糾劫一案將杜四

味殊

牛杜三牛二犯均照聚眾打奪為首擬絞請旨即
行正法其聽糾各犯內任青照一名以該犯情尤
兇橫亦擬絞決所辦尚未允協細核此案情節杜
大牛犯罪監禁伊弟杜四牛進盤探視經杜大牛
潛囑杜四牛與杜三牛商同糾人在途劫奪若彼
時杜四牛回家後稍知畏法即不至有此巨案乃
杜四牛竟聽從伊兄之言與杜三牛商同糾夥潛
謀要劫若論其起意糾約杜四牛實為此案首犯
杜三牛係聽從杜四牛轉糾與主謀究屬有間若
與杜四牛一律問擬未免漫無區別至聽糾十七
犯情罪均屬相同若云任青照一犯較眾兇狠或
另有拒捕傷人情節自當從重問擬今並無其事
祇以該犯情狀兇悍在必奪輒予絞決揆諸情事亦未平
現據而本行與已行有兩節即字之犯之情狀兇悍者未必如此一犯
允著交刑部悉心詳核速議具奏其光州知州台
倫息縣知縣徐日昌於潛謀劫囚重犯按名檢獲
甚屬能事著交部議叙欽此

377 嘉慶七年五月十四日內閣奉

上諭范建豐現穿母孝所有吏部右侍郎事務著成
書暫行署理欽此

378 本月十三日戶部將解運鉛斤之貴州永寧州知州南炎曾一員帶領引

見奉

旨交軍機處記名

379 嘉慶七年五月十六日內閣奉

上諭廣東右翼鎮總兵著^{勇缺}楊世華補授欽此

380 查新放廣東右翼鎮總兵蘇蘇爾通阿據兵部

知照接據直隸總督咨報該員現經病故謹擬

寫空名

諭旨進

呈恭候

簡放謹

奏

五月十六日

381 嘉慶七年五月十七日內閣奉

上諭浙江樂清協副將員缺著德海補授欽此

382 嘉慶七年五月十八日內閣奉

上諭河南汝寧府知府員缺著噶爾炳阿補授欽此

383 嘉慶七年五月十八日內閣奉

上諭惠齡奏大學士公保寧已於本月十一日自西
安起程約計月內即可到京日今天氣漸次暑熱
保寧可按程前進不必趨行著加恩派伊子乾清
門侍衛慶惠馳驛往迎並賞賜小荷包二個鼻烟
二瓶以示眷注欽此

384 嘉慶七年五月十九日奉

旨戶部議駁吳熊先奏請於各直省捐納職銜封誥
一摺所駁甚是近年開設捐例原屬一時權宜之
法即外省捐納監生亦因各直省封貯銀兩動用
較多是以准令就近收捐補足額數至捐職捐封
等項部中均須稽察自應赴部報捐前次費淳吉
慶均曾奏請於各直省捐職捐封節經飭駁令吳
熊先復有此奏伊三人平素居官操守尚好自不
疑其有假公濟私之事諒係屬員等以外省收

捐銀數寬裕便於挪用希圖沾潤因在督撫前飾詞懇恩伊三人遽以入告殊不知屬員等辦理不善設有營私舞弊之事轉致罪及上司伊三人不轉受其累乎現在永定河工程告竣畿輔地方賑務已畢捐例業將停止其外省報捐監生一俟封貯銀款補足後亦即當飭令停止若將封職等項准於楚省報捐則各省俱必紛紛奏請成何事體况現在各省士民赴部捐封捐職者均准其轉托親友代為呈納又豈有憚于遠涉未能踴躍之事耶除照部駁不准外嗣後各省督撫等設有再以此為請者不必再交戶部核議即著吏部將該督撫議處不貸將此通諭知之欽此

385 軍機大臣 字寄

調任河南巡撫馬 嘉慶七年五月十九日奉

上諭前因直隸總督陳大文患病懇請解任調理降旨將顏檢陞署直隸總督馬慧裕調補河南巡撫

令其將湖南撫篆交通恩暫行護理馬慧裕即赴河南新任此旨係於四月初八日由四百里發往

迄今四十餘日馬慧裕自應早經接奉何以此時不惟該撫起程赴任日期未據奏報即謝恩之摺亦未遞到殊不可解著馬慧裕將因何遲滯緣由速行覆奏並即馳赴新任將此由軍報之便諭令知之欽此遵

旨寄信前來

386 嘉慶七年五月十九日奉

旨著交刑部審訊辦理欽此

步軍統領奏河南臨漳縣民郭泰來控告淨收漕糧一案

387 軍機大臣 字寄

雲貴總督琅 嘉慶七年五月二十日奉

上諭琅玕奏官兵攻克康普起事賊寨將此路獠匪勒淨一摺此次獠匪盤踞康普窩怒塘等處經琅玕督飭張玉龍等分路進攻痛加勒殺共計殲擒匪黨六七百人北路全數肅清所辦好前因琅玕帶兵勒辦將首逆腊者布生獲曾加恩賞過花翎

殊

殊

茲復督率鎮將攻克康普一帶辦理尚為迅速琅玕著賞還頭品頂戴署提督張玉龍署總兵永安泰將成文帶兵打仗甚為出力著交部議叙所有此次隨同勦賊出力將弁著琅玕查明擇其奮勇尤著者據實保舉數員奏請不才謹將上于另摺詳請加恩現在辦理標隊夷匪大局已藏惟恒乍緬一犯首先起事糾夥滋擾最為可惡今潛逃江外恐又輾轉勾結必當設法擒拿懸賞購獲不可任其漏網至維西地方尚有未淨餘匪琅玕現留烏大經在彼彈壓搜捕如該匪等仍復抗拒滋擾自應志力殲除倘已畏威解散亦無必遇事搜求至吉尾樹苗等處該督現已移營劍川通甸一帶駐兵勦捕或恒乍緬即藏匿在內亦未可定該督唯當示以兵威令其震懾如果將恒乍緬獻出投誠輸款亦即可班師藏局又另片奏威遠江外保黑現因瘴氣正感暫將官兵撤回防堵一節此時江水漲發兼以瘴氣熾盛徠匪既不能外出滋擾我兵亦不值冒昧輕進惟應於各要隘嚴為防範統俟秋深瘴退之後再行設法搜勦如彼時該匪等畏罪不敢出外滋事亦

不必重煩師旅也所有此次陣亡之署把總武舉畢萬春著咨部照把總例賜卹將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

388 嘉慶七年五月二十一日內閣奉

上諭前聞江蘇省上年徵收漕糧時知府任兆炯倡言懇恩照舊浮收特降旨交費漕鐵保岳起等查辦旋據鐵保奏查出松屬奉賢等縣是有格外加收之事復經降旨令費漕岳起澈底跟究彼時任兆炯因係滿到京引見當即飭部押回歸業審訊今據該督等奏上年蘇州松江太倉三府州所屬各縣徵收漕糧寔與四五年徵收相仿並無侵肥入已情事任兆炯亦訊無別項情弊仍請送部引見等語任兆炯聲名平常朕久有所聞該督等既未查出劣蹟姑照所請仍將該員送部引見欽此

389 軍機大臣 字寄

兩江總督費 江蘇巡撫岳 嘉慶七年五月

二十一日奉

上諭費淳等覆奏訊明任兆炯於徵收漕務並無營私情弊請仍將該員送部引見一摺已明降諭旨姑准所請矣至另片奏稱因蘇屬積虧不能即時彌補計州縣收漕貼費外尚可盈餘飭令按照缺分大小交出歸公現已提補三十七萬有零等語自屬實情但地方倉庫短少如果係寔欠在民之款一經該督撫等確查具奏朕無不加恩豁免若係官侵吏蝕自當據寔奏著落追賠至設法彌補原係各省推宜辦法豈可公然以此為名令各州縣向百姓浮收漕米設立漕餘名目使百姓等試思正供原有定額今設立漕餘名目使百姓等於額外輸將此非加賦而何况州縣等知本任倉庫有虧可以浮收漕糧彌補勢必將公項私自挪移作為虧空百弊叢生皆由於此所辦已屬非是該督等所稱嗣後設法樽節不復取之漕餘自應如此辦理至所稱蘇松太等屬地處低下米色不純折耗較多收數不能不寬即貼費不能不重等語無此情理東南產米之鄉蘇松尤為沃壤與

殊

殊

浙省杭嘉湖相等從未聞有蘇松米色低下之語即聞因水旱地方偏有青腰白臍米色亦不過百中之三焉有同郡一律低下之理况旗丁等內三處近年並米故水旱之火米色何如低薄且多索貼費自因聞知該州縣浮收漕糧遂爾心存挾制與米色有何關涉若云米色不純即須多加貼費豈旗丁索費先收沿途另買好米到通交納乎且旗丁等向來沿途使費早經降旨裁革復經節次加恩准其多帶土宜並劃給晒晒米石撥給漕費錢文多方接濟不一而足丁力已屬寬裕何至江蘇一省每年尚須貼銀三十餘萬兩之多所奏殊不確實况據奏稱該旗丁等於五年六年間屢求增益似此連年加增伊於何底即各幫情形不同間有一二疲丁尚須略增津貼亦只可另為設法調劑何至欲以貼費之多少為收糧之盈縮若如該督等所奏指稱蘇松太三屬米色低下貼費獨多則收漕亦必較他屬增倍此三屬為江蘇省財賦最盛之區如此巧為立說任聽州縣等明目張膽例外浮收通省漕務尚可問乎至所稱民情日久相安並有情願折色文納等語尤不成話

折色一事最為漕務弊藪各州縣收漕往往於開倉之始恣意浮收數日後額徵之糧業已滿廩即勒令糧戶等折給錢文設有一二花戶載米到倉輒以米色不純駁斥留難刁蹬小民等守候日久不得不聽交錢文是浮收折色二弊相連而致百姓方抱怨之不暇轉謂其情願折色手前經明降諭旨嚴禁折色該督等竟以病民之事為便民之舉於奏摺內顯露其意仍思默前折色伊二人為屬員所愚一至於此且浮收漕糧府州縣等斷無不從中沾潤之理費淳岳起平日捺守廉潔原可信其無他而屬員賢愚不齊豈能盡信即知府中如任兆炯者恐難謀其果無私肥情弊况提補漕餘該督等摺內亦稱該府與各府公同商議可見此議創自任兆炯而各府同贊附和若云毫無染指其誰信之試思江省漕務該督等既經提取盈餘歸公彌補又以旗丁津貼不得不額外加增而各府州縣尚於此內各思肥己層層剝削無非苦累吾民費淳岳起身任封折不思仰體朕懷恣取元至意輕信屬員愚弄公然以六千例

禁之浮收折色諸弊視為不得不行率爾密陳妄為嘗試本應將費淳岳起照例治罪姑念伊二人向來辦事尚屬清慎著傳旨嚴行申飭又另片奏請降諭旨飭禁積棍方矜開倉滋事等語此等色漕滋事生監各州縣開倉之先該督撫等出示嚴禁隨時查察係分內應辦之事今必欲奏懇降旨飭禁汝等平日所司何事又安用此督撫為耶前次降旨諭令各省收漕禁止折色原因刁矜方監色攬把持皆由折色而起乃伊等不審其源而專欲懲治生監土豪以為本有諭旨則地方官即不慮其挾制生監等目覩浮收情弊亦不敢與之計較伊等之意豈能逃朕洞鑒耶此次提取歸公銀三十二萬餘兩業據各州縣解交已屬既注不咎嗣後漕餘折色二事當永行禁止倘陽奉陰違仍前滋弊經朕訪聞或別經發覺必將費淳岳起革職治罪不能再為寬貸也凜之慎之將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

390 嘉慶七年五月二十二日內閣奉

殊

上諭前此兵起鐵保等因上年江蘇徵收漕糧辦理不善及不能約束旗丁藉端勒索均經自請議處曾降旨俟全案審結後再降諭旨茲據費淳岳起等覆奏查明各屬徵收漕務尚無侵肥入己情事惟據稱各州縣因運丁有需貼費徵收時不無津潤等語可見該省收漕不能無弊旗丁仍有需索殊非整飭漕務之道試思旗丁運費經朕節次加恩准其多帶土宜劃給晒魁米石撥給漕費錢文已屬寬餘何至丁力尚形竭蹶即間有一二疲幫亦應奏明量加調劑豈得藉口貼費不敷報於收漕時私行津貼總由不肖州縣未能收元清漕各幫幫丁等遂爾意存挾制任意勒索而州縣等又得以此藉口至知府任兆炯漕務本非專責何以岳起派令攬越鐵保亦令其親赴淮安面加委任以致外間噴有煩言岳起係本省巡撫當此肅清漕弊之時尚不能實力整頓又復委用非人鐵保管轄全漕於旗丁需索貼費並不留心約束且將漕務彈壓委之知府致滋物議亦屬不合岳起鐵保

俱著交部嚴加議處費淳係統轄大員漫無覺察亦難辭責著交部議處欽此

391 嘉慶七年五月二十三日內閣奉

上諭多永武上年因請祝錯悞予以革職仍准其於祭祀時戴用六品頂戴承值差使一年以來尚屬小心勤慎念其於一切典禮承辦有年較為諳習著加恩賞給六品贊禮郎過缺即補欽此

392 嘉慶七年五月二十四日內閣奉

上諭睿親王寶恩亮遊業經優加恩卹茲於本月二十七日發引着派御前侍衛公博啓圖帶領侍衛十員前往賜奠並於邸第目送以示朕恩施無已至意欽此

393 臣等遵

旨查親王郡王朝服應用顏色會典內並無明文惟禮器圖式所載親王郡王朝服藍及石青諸色隨所用曾

賜金黃者亦得用之謹將禮器圖式一本粘簽恭呈御覽謹

奏

五月二十五日

394 嘉慶七年五月二十六日奉

旨戶部奏常明報銷興義軍需口內程站不及七十里現駁至三次請旨遵辦一摺此案該部查照定例口內程站至減以七十里為率與常明所報程站里數不符疊次議駁固屬照例核辦但該處山澗險仄其設站處所必擇寬平之地是以各站間有多寡不能盡如七十里之數亦係寔在情形所有與例不符支過夫價回空銀二萬三千八百兩零口糧米二千三百八十二石零著加恩准其報銷餘依議欽此

395 嘉慶七年五月二十七日奉

旨禮部奏伊犁春秋致祭格登山等處山河乾隆二十六年原頒祭文十六

道應否增改請旨遵行一摺

皇考高宗純皇帝平定新疆版圖式廓懷柔河蕲祀典

殊昭垂自應億萬年遵守原文用彰偉烈所有前頒祭文

殊內原書朕字俱敬謹改書

高宗純皇帝尊稱其餘字句概無庸更改該部即行文

犁將軍永遠欽遵入於交代其烏魯木齊等處亦

照此畫一辦理欽此

396 嘉慶七年五月二十七日奉

旨禮部奏伊犁春秋致祭

格登山等處山河乾隆二十六年原頒祭文十六

道應否增改請旨遵行一摺

皇考高宗純皇帝平定新疆版圖式廓懷柔河蕲祀典

昭垂自應億萬年遵守原文用彰偉烈所有前頒祭文

內原書

朕字俱敬謹改書

高宗純皇帝尊稱其餘字句概無庸更改該部即行文

伊犁將軍永遠欽遵入於交代其烏魯木齊等處

亦照此畫一辦理欽此

397 本日 臣等擬寫敬謹啟書致祭伊犁等處山川

諭旨內於應行擡高之處一時思慮不及未經擡高

實屬疎忽仰蒙

硃筆批出不勝惶悚請

旨將臣等文部察議謹

奏 奉

旨依議欽此

五月二十七日

398 嘉慶七年五月二十七日內閣奉

上諭御史王寧焯奏山東高密縣徵收錢糧每銀一

兩折收制錢一千四百五十文昌邑縣折收一千

六百五十文其餘改折之處尚復不少請旨嚴禁

等語州縣徵收糧賦原應遵照定例令糧戶封銀

投櫃間有零星小戶聽從交錢者亦以便民若將

額糧銀概行改折錢文則各州縣官以錢無之額

勢必任意增浮收虐取朘削小民伊於何底著

通諭各直省督撫嚴飭徵糧州縣將以銀折錢之

弊永行禁革並著和寧將現在高密昌邑二縣折

錢滋弊之處秉公確查如果屬實即名嚴奉勿稍

徇隱欽此

399 軍機大臣 字寄

左都御史暫署直隸提督熊 嘉慶七年五月

二十七日奉

上諭向來巡幸熱河聞直隸地方官不無派累但思

驛路所經一切橋梁道路等事動用俱有經費何

以尚須累及閭閻若果有其事於經費之外究竟

高需幫貼若干著查明具奏至需用車輛向例由

順天府承辦茲聞順天府上年近京一帶地方被

災較重不能僱覓已咨商直隸總督派外府州縣

幫辦惟直隸地方上年被災有九十餘州縣之多

此項車輛若係通省攤派則同係災區辦理必竭

竭蹶若專責之未經被災之處則州縣無幾所派

車輛為數必多且非京道路遙遠更為不便著熊

收一併確查有無碍難辦理之處據實覆奏將此

諭令知之欽此遵

旨寄信前來

400 嘉慶七年五月二十七日內閣奉

上諭熊杖奏請查辦賑出力人員分別開單呈覽一

摺著照所請知府朱應榮同知蔣耀祖吳輝祖方
其昀李宗蕃吳之勳知州顧賓臣知縣胡永湛陳
祖彝張力勤錢復胡遜莊允治顧翼林煜堂縣丞
張進忠巡檢徐會雲典史陳維張鳳歧等十九員
俱著加恩交部分別議叙候補河工縣丞席壽豐
候補河工從九品司馬庠二員俱著加恩遇缺先
儘補用又據奏原任大城縣知縣錢桂上年因開
報大賑戶口遲延被參現據確查該委員捐急
賑逐戶親查並非玩視民瘼且平日官聲尚好等
語錢桂復著該署督出具考語送部帶領引見該
部知道摺單併發欽此

401 嘉慶七年五月二十七日內閣奉

上諭陸有仁奏查明陝省二麥歉收各州縣請分別
緩徵並酌借籽種口糧一摺陝_省涇陽三原興平醴
泉鳳翔麟遊涇陽永壽岐山扶風隴州乾州武功
等十三州縣得雨較遲麥收歉薄民力不無拮据
所有本年應徵錢糧著加恩緩至秋收後起徵並
一體借給籽種其被旱較重之岐山扶風隴州乾

州武功等五州縣著再借給口糧以資接濟餘俱
照所請行該部知道摺併發欽此

402 嘉慶七年五月二十七日內閣奉

上諭費淳等奏請將丁家集槍堵及卽工各借款展
限攤徵一摺徐屬銅山等六州縣自卽工合龍後
小民元氣未能驟復該州縣帶徵攤徵各款未完
銀數尚多若將此二款同時並徵恐民力不免拮
据所有丁家集卽工共應攤徵銀四十二萬九千
一百十三兩零前經奏請自嘉慶七年為始分作
十年徵完_各款著加恩緩至嘉慶十二年俟別項
攤帶各款全完後再行接徵分限十年完納以紓
民力該部知道摺併發欽此

403 嘉慶七年五月二十七日奉

旨永碩著銷去紀錄一次仍罰職任俸三個月弘誼
著罰職任俸六個月興長著銷去尋常紀錄一次
免其罰俸至善福係承辦之員於成造
各陵寢花完竣後如果派人專司看守何致有被焚之

事是該員漫不經心，復咎較重，部議降二級留任，准抵不足以示懲儆。善福著改為實降一級，調用。餘依議。欽此。

404 嘉慶七年五月二十八日內閣奉

上諭：前將馬慧裕調任河南巡撫，令將湖南巡撫印篆交與通恩護理。伊即速赴新任。諭旨係於四月初八日由四百里發往，直達至本月中旬尚未見遞到。謝恩奏摺，朕方疑發去，諭旨驛遞或有耽延，否即係伊賈摺家人在途阻滯。曾經降旨詢問，令其將因何遲滯緣由據實覆奏。本日遞到該撫奏事各摺內，附有謝恩摺，件始知該撫於四月十八日早經接奉調任諭旨。彼時即因查勘堤圍未竣，亦當於途次先行繕摺奏謝，聲明不能即日起程緣由。至交印時再行具摺陳奏，方為得當。乃途間竟不發摺，至二十五日回省後，又復遲延旬日。於五月初五日起程時，始附審案奏事之便具摺謝恩。其意不過欲少發一摺，吝惜盤費，殊不思具奏遲遲，徒令人猜疑。莫釋馬慧裕實屬見小不知事體，著交部議處。仍傳旨嚴行申飭。欽此。

405 嘉慶七年五月二十八日內閣奉

上諭：據馬慧裕奏，秋審舊案官犯朱舜愷翻供提證，另審一摺。此案朱舜愷踢傷劉占鰲，殞命上年勾到時核其情罪，因係劉占鰲私扣船價，又復強辯頂撞，是以未將朱舜愷予勾。今該犯從前錄供時，賄囑家人王昇、項亢、王昇曾到官頂認，旋經審明定案。此次秋審時該犯希圖藉此翻案，狡狀稱冤，及提訊王昇堅供，劉占鰲實係朱舜愷踢斃，並將兩次賄囑各情節供吐不移。現在案內一干要證尚未提集，著交高杞於人證到齊日，偕同李才、韓昇等秉公嚴審定擬具奏摺併發。欽此。

406 嘉慶七年五月二十八日奉

旨：這所奏玩視控案，庇丁不解之知縣，嚴維著解任。交高杞提同案內人証審擬具奏。欽此。

湖南石門令

407 臣綿恩、臣慶桂、臣董誥、
臣戴衢亨、
謹

奏據步軍統領衙門將侍衛花山傳到等面行

詢問據花山稟稱我於二十五日蒙

皇上天恩挑在

乾清門行走二十六日即應該班緣我親母自四

月間染患傷寒病症正在沉重我係獨子家中

止有我女人妹子均在患病無人看視是以二

十六日清晨赴園遮摺謝

恩後午間即私自回家我因路上受熱發悶嘔吐又

見我母親抽搐痰湧勢已危急因念家中貧苦

隨即扎掙出外設措衣具並往安定門外墳園

覓人到家幫同料理維時天色已晚不及進城

就在墳丁王姓家住宿次日黎明進城到家知

我同院居住之堂叔忠德因我誤班找尋不見

就將我出外未回不知去向的話赴園面稟

御前大臣我心甚着急原思到園稟明實因母親病

重一時著急糊塗未經前來告假並非敢於有

心曠誤今蒙傳訊只得據實陳明等語臣等詰

以你既因母親患病欲思歸家看視自應稟明

告假何以私進城據稱我二十六日進城時天

方晌午原思看視母親後仍可起回該班是以

未向

御前大臣前稟明告假不料母親病甚沉重實緣是

日走到墳園路遠以致不能進城次日一早我

即趕回家內等語臣等復以你堂叔既與同院

居住你欲往墳園自應向你叔告知何以你叔

又稱你不知去向自係藉詞搪塞再三詰問據

稱我是日出外時適堂叔為我母親買藥未回

是以未經告知我原想即日趕回亦未向家中

說明後來我叔叔因我誤班就向左近尋我不

見一時害怕即以不知去向的話具稟擬是我

因母親病重心急糊塗致誤差使只求

皇上將我治罪等語並據伏地碰頭言詞咽塞臣等

復傳到伊叔忠德詳細質對據稱花山於二十

六日晌午回家受暑嘔吐神氣昏迷彼時我正

出外為伊母親買藥回家後不見花山候至晚

間不見回來我就在左近尋找不着因思花山

向來不常出外現在冒暑受病恐怕他發迷胡

亂行走又以其誤班恐得不是所以就將花山

出外不知去向的話冒昧稟知

御前大臣求為告假實在並無別故等語且等復再
三開導據稱係屬寔情不敢隱飾查該侍衛花
山當差有年雖據稱因母患病情急歸家但未
向該管大臣前回明告假實屬昏謬應請

旨將花山革退

乾清門仍交該部照例治罪伏候

訓示遵行謹

奏

五月二十八日

諭旨

此件所奉係清字

408 軍機大臣 字寄

駐藏大臣英 福 嘉慶七年五月二十九日奉

上諭英善等奏布魯克巴第巴更換接管請照例頒

賜勅書一摺布魯克巴第巴住納木結據該番

衆人等報稱因病身故其從前噶布倫等密稟該

處新舊第巴構絆之事原不必過問今索諾木堅

泰既據達賴喇嘛及該處大胡圖克圖頭衆僧俗

人等公稱伊從前曾經辦理第巴事務衆人悅服

公保伊仍舊坐床管事咨稟駐藏大臣懇求奏請

施恩賞給勅書著照所請交理藩院查照向例頒
給飭令祇領可也將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

409 嘉慶七年五月三十日內閣奉

上諭王德阮元奏請仍以平陽縣知縣楊鐸調補仁

和縣知縣一摺楊鐸前經吏部題駁以繁調繁與

例不符業經旨依議茲既據該督等復以省會

首邑較之外郡繁缺更為繁要現在通省實無合

例勝任堪以選調之員專摺奏懇著照所請仁和

縣知縣員缺准其以楊鐸調補該部知道摺併發

欽此

410 嘉慶七年五月三十日內閣奉

上諭據晉昌等奏奉天省旗民自首私墾地畝請旨

展限一摺奉天旗民私墾餘地前經定限二年令

其盡數首報今將屆限滿除報出地二萬一千七

百九十餘畝外其餘尚有未經查明及首報不實

不盡之處該將軍等摺內所稱租佃隱欺業戶不

能周知及本身外出家無次丁不能及時呈首自
皆係實在情形著加恩再展限二年該將軍等即
飭知該管員弁愷切曉諭旗民人等務於限內據
實盡數呈報如再逾期不首一經查出定當按例
治罪不貸該部知道摺併發欽此

411 嘉慶七年五月三十日奉

上諭信山奏查明岸商浮費酌定章程一摺據稱已
未庚申兩年楚岸派費共計浮開銀五十二萬餘
兩請責令該商等認賠退還即作為壬戌年應扣
岸費等語朕閱摺內所列浮開各款惟僱募鄉勇
支用銀十一萬八千餘兩係因保護漢鎮防守地
方起見事屬因公著加恩准其入於匣費項下開
銷其餘銀兩實屬任意浮開著照該益政所議責
令該商等退出作為壬戌年應扣岸費嗣後仍照
原定限數開報不得浮濫將此諭令知之欽此

軍機大臣遵

旨傳諭兩淮益政信山

412 各衙門捐賑銀兩支存數目

五城各廠賑賑共支銀五千四百六十四兩定開
除五千三百六十四兩餘銀一百兩

順天府共支銀三萬二千六百九十兩零剩錢一
千八百串除錢文全數開除外其盧溝橋等五
處飯廠開除二萬一千零四十餘兩並普濟堂
功德林育嬰堂等處開除六千七百六十兩實
共開除二萬七千八百五十九兩現存銀四千
八百三十餘兩今據順天府咨稱大興縣自行
刪減銀三百四十九兩零約尚存銀五千一百
八十兩

以上二項餘剩銀五千二百八十餘兩均
於七年五月十三日發片行知解交內閣
收貯

未領

工部除支用外餘銀三百八十一兩

錢八百八十七串

翰林院餘銀五百五十一兩

都察院
太僕寺
餘銀十五兩

國子監 六百十兩

太常寺 四百兩

以上各項均尚存各本衙門 五月三十日

嘉慶七年十一月初九日奉
旨撥給普濟堂生息銀五千兩

413 嘉慶七年六月初一日內閣奉

上諭曹振鏞著充補

實錄館總纂欽此

414 嘉慶七年六月初二日奉

旨內閣行走中書由新進士簡用及翰林大考改授者其未經得缺以前著加恩一體給與公費餘依議欽此

軍機大臣 字寄

漕運總督鐵 江南河道總督吳 巡視南漕御史多 嘉慶七年六月初二日奉

上諭鐵保等奏河口淤淺糧船遲滯情形一摺據稱夏令以來因風燥無雨清水未增黃水消落以致江西在後九幫未能催渡鐵保等公同商酌不便因後九幫遲逾轉致前九十餘幫稍有阻滯鉄保當即先赴前途開填緊要處所督催吳璣與多隆武暫駐河口催催在後九幫等語本年糧艘已渡黃者九十餘幫無難限抵通其未渡黃者僅餘九

殊

幫刻下因水淺不能接續前進亦係實在情形鉄保等通盤籌計分投設法催催所辦尚是惟黃河水勢大小總以甘省上游兩澤多水準上年甘省夏秋被旱水勢較減下游工掃普慶安瀾今春甘省春雨優足收成豐稔現即據吳璣奏交夏令後河水略有增長各工間有掃段整修並溜勢移注提根之處誠恐夏間雨水盛行之際上游萬錦灘一帶水勢增長下游即不免漲感此亦盈虛消息之道不可不先事預防現在將屆伏汛吳璣等惟當督飭道將等加意巡防慎之又慎務使各工掃段俱臻鞏固此為最要至借黃濟運之法從前間亦行之但此時清水過弱若借黃浮送糧船幫是引之使成倒溜漕之勢日後必至淤淺轉甚所利小而所害大斷不可行鐵保等自應俟清水長發時將在後九幫催行速渡即稍遲一二旬抵通於回空尚無妨礙不必冒險求速也將此各諭令知之欽此道

旨寄信前來

416 辦理軍機處為知會事照得上年奉

旨編輯工賑紀事一書所有各處奏章俱應纂入前

經

貴督將奏摺抄送二次迄今未曾續有有送到
現在書籍業已陸續進

呈務即將本年三月以後至五月底有閱涉工賑

各事奏摺如祇係奉有

硃批不由本處寄交者速即逐件照錄註明月日並

所奉

硃諭咨送本處彙輯以免遺漏切勿稽遲須至咨者

右 咨

署直隸總督

六月初三日

417 軍機大臣 字寄

山東巡撫和 嘉慶七年六月初三日奉

上諭和寧奏准咨截解應庸道員由浙赴點一摺所

辦非是捐陞道員馮克鞏係孫文煥濫用軍需案

內應行肅訊庸訊之員該撫於馮克鞏行抵濟寧

時既經截留應派員解赴點省備庸即據伊稱隨

營辦事未及二旬於銅仁局支收銀兩並未經手

有歷次委牌可憑現存本籍家內亦應一面將該

員解點一面知照浙江巡撫派員前赴伊家查取

委牌即由浙咨送點省以憑庸對方為正辦何得

聽信該員懇請由浙行走順取委牌再行赴點此

不過該員欲藉詞回冀將原籍家產巧為寄頓隱

匿而和寧漫不加察遽令由浙行走實屬錯謬和

寧著傳旨申飭馮克鞏此時業已由浙赴點亦無

庸追回著傳諭該撫即飛咨阮元於馮克鞏行抵

浙省時不准其濫行回家一面派員至伊家取委

牌交解員帶往點省備庸將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

418 軍機大臣 字寄

都察院左都御史暫署直隸總督熊 嘉慶七

年六月初三日奉

上諭朕聞新城縣地方現有蝗虫尚未撲滅故具奏

是否係該縣諱匿不報抑係稟知該督而熊故尚

未奏及此時正值禾苗長發之際蝗虫最為為害

地方大吏應隨時留心一面奏聞一面撲捕不得稍存諱飾著熊枚即查明新城縣地方蝗蝻起自何時該縣是否稟報現在多寡若何並此外州縣是否尚有滋生之處據實具奏至捕蝗之法若專委地方官撲捕恐帶領多人踐踏禾稼致滋擾累不如曉諭百姓令其自捕或募以官米小民自更樂于從事再京師晴霽旬餘昨晚陰雲密布本日且刻得有陣雨疎密相間至午刻甫經放晴係定距京不遠是否同日均霑其餘各屬有無得雨之處並著隨時查奏再上年七月內該署督將趙州知州薛學詩帶赴工次摺奏以該員熟悉例業奏請加知府職銜當經降旨交軍機處存記俟辦工完竣該員如果奮勉出力再行加賞此時永定河工告竣業經那彥寶等將出力人員保奏薛學詩並未列入其各州縣賑務均已辦畢該署督兩次保奏人員內亦未提及薛學詩該員於工賑事宜是否始終承辦抑或早回本任著熊枚查明一併覆奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

419 嘉慶七年六月初三日奉

旨穆克登額奏請將盛京兵部堂主事改為題缺一摺著照所請該部堂主事缺出准該堂官於各司筆帖式內揀員題補欽此

420 嘉慶七年六月初三日內閣奉

上諭林國良著照吉慶所請准其陞補廣東大鴨營叅將欽此

421 嘉慶七年六月初三日奉

旨通惠河工程應否挑挖之處著派長麟會同莫瞻萊前往查勘欽此

422 嘉慶七年六月初三日奉

旨張景運何粹文李煒霞俱著准其捐復于凱張景芝曹秉義張輝祖俱不准其捐復欽此

423 臣慶臣董臣朱臣豐臣彭臣戴謹

奏竊臣等欽奉

諭旨纂輯辛酉工賑紀事謹率同纂修等自嘉慶六年六月起次第編纂茲將卷首之

諭旨

天章及纂出之卷一至卷十共十二冊繕寫裝潢恭呈

御覽其以後各卷臣等督同該纂修等上緊趕辦陸

續進

呈謹

奏

六月初三日

424 嘉慶七年六月初四日奉

旨著派初彭齡富尼善馳驛前往雲南有查辦事件

所有隨帶司員亦著一併馳駟欽此

425 嘉慶七年六月初四日內閣奉

上諭初彭齡現在出差所有戶部右侍郎及錢法堂

事務著錢樾暫行兼署欽此

426 軍機大臣 字寄

雲貴 摺

摺

琅 嘉慶七年六月

初四日奉

上諭琅玕奏官兵剿辦康普葉枝夷匪兩面會合兜捕維西北路全境疏通各情形覽奏俱悉琅玕自攻克康普之後派委守備李上林由葉枝向前攻逼沿途俱有新獲摺兵張玉龍由康普前進遇賊即剿亦有擒獲兩路官兵於洛道塘會合一處將投出難民妥為安撫現在維西北路疏通並將首逆恒乍緝之父母孥獲自不難迅速肅事惟恒乍緝為起事首犯現雖逃出江外其父母被擒勢已窮感務當飭張玉龍等上緊搜捕將該犯嚴孥務獲勿使漏網至另摺奏吉尾樹苗等處分股之賊尤頑狡詐若不盡行剿滅恐難防範提督馬大經在魯甸一帶搜捕必須數全掃犁等語此則不必該處夷匪如果怙惡不悛抗拒官兵自當嚴行剿殺倘知震懾兵威或悔罪投誠或自行解散琅玕即可就勢完結毋得過事株連其威遠探黑既據稱人數無多尚易肅事現值瘴氣之際賊匪不能

再出滋擾我兵亦未便冒瘴進攻自宜撤兵防堵俟秋深再行設法剿辦至遊擊永明殺賊出力迤西道薩榮安叅將成文督兵打仗擒獲巨逆腊者布奮勇爭先不辭勞瘁俱著加恩照琅玕所請准其賞戴花翎都司善朋明和守備李上林土守備濃布土把提木良斗節次攻剿賊卡俱屬勇往出力均著加恩賞戴藍翎以示鼓勵又另摺奏懇留熟諳邊情軍務之丁憂知州經歷以資委用等語現在剿辦標匪將次告竣一切善後事宜需員經理所有知州史紹登經歷熊方訓既經琅玕聲明該二員練習邊務即著准其留於軍營差遣事竣後遇有滇省相當之缺另行題咨請補將此由五百里諭令知之欽此遵
旨寄信前來

427 嘉慶七年六月初四日奉

旨刑部議駁直隸省具題史八因史黑強姦伊妻未成毆傷史黑身死一案將原擬流罪改照擅殺罪人例將史八問擬絞候一本細核此案情節史八

因史黑強姦伊妻王氏未成往找史黑未遇嗣史黑持鎗赴史八門首辱罵史八用棍將鎗格落臺毆史黑殞命該督將史八減擬流與例未符經部臣以史黑所執之鎗已被該犯格落迨毆傷倒地又有史博聞在旁助毆史八等不難將史黑拘送乃輒致致死寔屬擅殺將史八依例改擬絞候因為允協但死者始則強姦婦女繼又持鎗登門辱罵有欲殺死史八強佔伊妻之語淫兇已極史八激于義忿將史黑毆斃情尚可原將來核辦秋審時著歸入可矜餘依議欽此

428 臣等遵

旨檢查乾隆五十七年舊存檔冊所有原任廣東巡

撫郭世勳密查高溪寺會匪及覆奏寔無其寺

原摺二件並兩次所奉寄信

諭旨一併恭錄進呈

御覽謹

奏

六月初四日

429 軍機大臣 守寄

雲南巡撫孫 嘉慶七年六月初四日奉

上諭孫曰秉奏原任貴州糧道孫文煥差人投遞呈詞各情即現已欽派大員前往查辦該撫惟當於本省地方事務及交審案件認真辦理不可坐視此事至威遠保黑盤踞江外不敢渡江滋擾現當瘴盛之時官兵自不便深入前已有旨諭知琅玕所有雲南邊界與保黑毗連之處該撫均當一體留心防範為要將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

430 嘉慶七年六月初四日內閣奉

上諭本日孫曰秉奏已革道員孫文煥差人呈控藩司百齡勒派鴉狗控飾欺妄各款並將原呈進呈現派初彭齡富尼善馳驛前往貴州查辦初彭齡等到彼後東公嚴鞠如果孫文煥呈內所控各情節審訊屬實則百齡假公虐屬貪縱不法應即先行革職嚴密巡撫常明甘受藩司挾制臬司張長庚聽從百齡勒繳銀兩預備養廉回撫藩挾優飲

酒登場充脚均應辭任贖訊所有貴州巡撫印務即著富尼善暫行署理其藩臬兩司印篆並著初彭齡富尼善於通省道員遴選奏明委署另候簡用其案內各員應得罪名著初彭齡富尼善嚴訊定擬具奏初彭齡于事後回京即將案內人犯押帶前來倘孫文煥所控俱屬虛誣伊冒銷軍需已有應得之罪今又挾仇誣告獲罪更重即著初彭齡等澈底跟究按律擬罪不必再令百齡張長庚審辦琅玕遠駐軍營亦毋庸會核在擬此旨著交初彭齡富尼善二人親賫前往遵照辦理孫曰秉原奏著抄錄同孫文煥原呈一併發交帶往欽此

431 本日擬寫交初彭齡等賫往

諭旨俟審明覆奏到日再交內閣發抄謹

奏

六月初四日

432 嘉慶七年六月初五日内閣奉

上諭木蘭行園為秋棚大典我朝

味

家法

昭垂舉行已久所以習勞肄武款洽外藩非若前代之盤游畋獵可比若以行圍為從事游觀則朕

行圍不過十

駐蹕圓明園如附近之靜明靜宜各園較之避暑

山莊更為清樞人情好逸惡勞孰不樂深吾簡出

朕特因典禮所闕

祖

宗成憲具在不敢自朕而稍形怠曠是以本年春間即

降旨舉行秋獮乃汪承霈於前日召見時面奏順

天府屬僱車掣肘咨商直隸提督協濟車輛已露

為難之意昨又具摺奏請停止行圍據稱本年麥

收分數稍減民力不無拮据並稱

高宗純皇帝臨御六年始舉秋獮今親政甫及四年即

再緩一二年舉行亦不為遲等語殊不成話向來

蹕路所經除道成梁等事均有例給經費從無累

及問閭之事此次直隸麥收據熊枚奏稱通省牽

莫定有七分不為歉薄若如汪承霈所言則必待

如何豐收方可舉行秋獮乎上年偶因雨水盛漲

道路橋梁間多衝塌降旨停止此係屬不得已之

事豈可引為常例再事展期且摺內有本年春間

味 味 味

味

兩次謁

陵差務已形竭蹶之語尤屬非是豈有愛惜勞費併欲

朕將春秋展謁大典亦因之踈曠乎至協濟車

輛一節汪承霈面奏後當即降旨詢問熊枚本日

據熊枚覆奏此次順天府應僱長車直隸各屬除

照向例幫價四千兩外加增銀一千兩解交宛

兩縣就近僱備等語是順天府此次僱雇車輛直

隸又增貼銀一千兩自不至辦理維艱而朕於應

行裝載物件已飭所司大加刪減更可節省况從

前順天府按例僱辦車輛本有舊定章程所有此

次行圍應用車輛著順天府照例僱辦若實有碍

難辦理之處著汪承霈等詳細分晰據實覆奏倘

經費不敷亦不妨奏明請旨毋得再有推諉欽此

味

味

433 軍機大臣 字寄

都察院左都御史督署直隸總督熊 嘉慶七

年六月初五日奉

上諭熊枚奏查明直省辦差情形一摺據稱直隸辦理圍差除經費之外約總需幫貼銀十萬兩現

殊

在除此項銀兩尚須籌議外所有南天門髻髻山盤山行宮座落廟宇等工尚在籌費興修未經估有成數等語上年雨水較大各處行宮座落廟宇間被衝塌皆係地方應辦之事自當隨時上緊修葺現在巡幸未闌督鑿之期已近而該督摺內尚云勘估未辦可見直隸積習玩諸務懈弛著熊杖即派委委員趕緊興修勿任藉詞推諉至備辦車輛一節直隸州縣與順天各屬同係被災之區其餘未經被災州縣又屬無幾勢難均攤辦理自係寔在情形熊杖于原摺順天府車價之外復加增一千兩交大宛兩縣催備自屬通融籌辦之法照該督所議飭知順天府辦理矣將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

434 嘉慶七年六月初五日內閣奉

上諭給事中汪鏞奏請查關口俾商運糧載流通一摺向來京師糧食全藉俸米甲米振轉流通其資於商販者本少至奉天豫東商運襍糧在京外各

處售賣例不徵稅本年該三省麥收豐稔水陸運載自必源源而來所有近京一帶經過關津隘口毋許留難需索該管官尤當隨時查察務令商運流通京畿糧石日增以平市價而裕民食欽此

435 軍機大臣 字寄

欽差侍郎那 內務府大臣巴 嘉慶七年六月初

六日奉

上諭前經降旨令那彥寶已寧阿二人輪流在長安城廬溝橋往來防汛昨於初二日召見已寧阿據奏初三日伊即赴工替換那彥寶回京至二十三日那彥寶再赴工次與已寧阿輪流駐工常川巡防伏汛乃已寧阿於初三日到工後迄今已閱四日並未見那彥寶回京亦未具有摺奏或因現在工次不能遽離或那彥寶偶因冒暑未能起身殊為屢念那彥寶等接奉此旨著即行覆奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

436 嘉慶七年六月初六日內閣奉

上諭達椿奏患病日久未痊懇請^開管各衙門事務開缺簡放等語達椿著加恩賞假調理不必開缺所有禮部尚書著琳寧署理戶部三庫事務著保寧署理翰林院掌院學士著英和署理欽此

437 軍機大臣 字寄

盛京將軍公晉 嘉慶七年六月初七日奉

上諭晉昌等覆奏清查道丁章程一摺據稱前任道錄李義興將曾給私照之道丁等花名單冊呈報共有一千八百三十三名現在按戶稽查分晰辦理等語所辦尚是此項道丁因道錄等私行收錄逐年加增遂至如許之多不但流民及無主家奴等藉此圖避差徭且恐匪犯濶迹其中不可不分晰清查著晉昌等即按照名冊詳細飭查如果寔係住廟及服役道丁自當分隸各城寺觀換給盛京禮部執照以歸核實其無著之丁即應編入丁冊令其充當

陵寢祭祀等項差使至該道錄濫給執照業經斤革毋

庸置議嗣後該處寺觀即係真實道丁亦必須官為給照毋許道錄等私自給照收錄任意增添並出示曉諭該處民人使知私充道丁不足護身庶不致有逃匿流亡及躲避差徭之弊將此諭令知晉昌等知之欽此遵
旨寄信前來

438 嘉慶七年六月初七日內閣奉

上諭永定河石堤工程所用灰斤較成例多至一倍有餘前經該部照例核駁已依議行矣今那彥寶等奏稱永定河一帶石堤每次歲修不過零星粘補上年工程係通身修砌加灌汁漿所用灰斤因較常例倍增所奏自係實在情形著加恩將此次多用灰斤加銀二萬一千一百餘兩准其照數開銷並著工部存記如保固例限內致有損漏仍著落承辦之員賠補此後永定河歲修工料俱照部中成例辦理即他項工程亦不得援以為例欽此

439 嘉慶七年六月初九日內閣奉

上諭朕前聞直隸新城一帶間有蝗虫降旨詢問熊
枚曾據覆奏該處並無蝗蝻萌動茲又據熊枚續
奏與新城相近之張家莊河北村等處間有飛蝗
停集而容城安肅定興等縣亦先後稟報俱有飛
蝗並據稱景州任邱等處間亦有之可見朕前此
所聞不為無因而外地方積習只顧圖免目前處
分隱匿不報殊不知諱匿更干嚴議避輕罪而轉
獲重譴矣所有該署督奏不肯據實查覆之新
城縣知縣胡永湛着革職候補知縣林煜堂於前
次奉委查勘時疎實無蝗蝻現在飛蝗停集係該員
起程回省以後之事尚無扶同匿飾情弊着免其
議處保定府知府朱應榮清河道傳修於所屬地
方生蝗未能及早查出均有應得之咎著交部議
處膽柱係本任藩司雖疊次札飭委勘未能確實
亦着交部察議熊枚係暫署直隸總督且經朕垂
詢後即已據實查奏著加恩免其察議現在顏檢
不日到任著熊枚於交代後即前赴景州任邱一
帶親行詳細查勘不可任聽委員等扶同捏飾如

查有蝗蝻仍遵前旨令該處百姓自行撲捕或易
以官米或買以錢文務期迅速搜除淨盡勿致損
傷禾稼欽此

440 嘉慶七年六月初九日內閣奉

上諭多福等奏內務府養育兵缺出請照八旗之例
由該管大臣當堂挑補一摺所奏尚是此項養育
兵既照八旗定例添設自應做照八旗挑補章程
一律辦理何得僅令都虞司司員指名回堂補放
並不呈送該管大臣等逐名閱看致啟營求之漸
現在總管內務府大臣甚多於此等挑中事宜何
難輸出一二人前往乃該堂官等並不認真辦理
難為思構不以軍事為重
均著傳旨申飭嗣後遇有養育兵缺出著該司員
將應挑幼丁呈報該管大臣於挑甲之日親往挑
補倘該管大臣竟無人前往即著稽查御史據實
奏奏欽此

441 嘉慶七年六月初十日內閣奉

上諭佳山奏請將海州境內竈戶積欠折價錢糧分

年帶徵一摺海州板浦中正臨興三場上年間有
被水之處業將歷年因災通緩折價錢糧分作兩
帶徵茲據稱海州所屬各場係積歉之區本年新
賦於九月間開徵新舊並納竈丁未免拮据著照
所請所有乾隆六十年及嘉慶二三五等年分積
欠銀一萬九千七百三十二兩零加恩自壬戌年
起展分四年帶完以紓竈力該部知道摺併發欽
此

442 軍機大臣 字寄

盛京吉林將軍 直隸總督 嘉慶七年六月初

十日奉

上諭秀林奏遣犯溫金魁在配脫逃等語溫金魁係
聽從張駱駝行劫案內免死減等發遣為奴之犯
膽敢在配脫逃情殊可惡該犯籍隸直隸脫逃後
或潛回本籍或逋避在途均未可定著傳旨吉林
盛京將軍直隸總督查明該犯年貌清單一體飭
屬嚴拏務獲毋任遠颺漏網將此諭令知之欽此
遵

吉寄信前來

443 嘉慶七年六月十一日內閣奉

上諭松筠等奏主事銜署伊犁撫民同知德泰現在
患病懇請解任調理一摺德泰由臬司緣事發往
伊犁有年前經加恩賞給主事銜署理同知今既據
查驗患病屬實著准其解任回旗調理欽此

444 軍機大臣 字寄

雲貴總督琅 嘉慶七年六月十二日奉

上諭琅玕奏勦辦探匪後路以次肅清並分兵進勦
吉尾樹苗各緣由一摺此次探匪在獨村坪一帶
劫搶經琅玕督派將弁奮力追勦斬獲多名肅清
後路並將恒乍綑之父四攷擒獲後審明正法所
辦尚為妥速其恒乍綑一犯現逃至江外勢已窮
蹙尚欲勾結該處夷人希圖滋事可恨已極經琅
玕先已明白曉諭江外夷人是以未敢聽從糾約
惟因恒乍綑帶有吉尾賊匪二百餘人在彼屯集
該夷人等畏其强悍不敢動手但恒乍綑係起事
首逆自不可任其漏網現在琅玕已帶同副將永
安等自維西移營進攻吉尾應再行出示宣諭夷

人以首犯恒乍緝竄匪康普對面江外爾等不聽其勾結尚知安靜畏法但因其隨帶吉尾賊匪二百餘人未將恒乍緝擒獻究無出力之處今大兵正在進剿若能仗此聲威及早將恒乍緝法擒獲投營縛獻必奏請將爾等施恩如此剴切曉諭該夷人等果能將首逆獻出即可就事完結其隨同恒乍緝之吉尾賊匪二百餘人拿獲後訊取確情按例分別辦理至另摺奏滋事保匪痛加勦辦一節保匪在土地塘栽樂一帶窺伺經提兵書成督率將弁兵線先後殲斃六七百人餘匪遁逃無多不敢再未滋擾此事係書成一手承辦尚能安速藏事書成著交部議叙此外如有在事出力人員著琅玕查明據實具奏候朕另降恩旨惟賊首羅小二楊金二犯是否臨陣轟擊或渡江淹斃抑或潛逃未獲著琅玕飭屬嚴查務得該逆等下落如尚在脫逃必當上緊搜拿斷不可任其遠颺為要所有此次追賊被鎗陣亡之千提龔俊伍著咨部賜恤將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

硃

445 嘉慶七年六月十二日內閣奉

上諭吏部議奏御史周廷森奏請將現任府尹飭令

移居公署辦事一摺前准是順天府尹設立專員管理地

方刑名錢穀等事非各部門衙門可比自應住居

官廨以專責守如外省督撫藩臬以下等官皆係

在公署居住辦即順天府屬之大興宛平等縣亦

然其文書卷案等件皆應在公署存貯豈有隨府

尹私宅轉移之理現據該部查明自乾隆四十年

以後歷任府尹俱在私宅居住辦事違例顯然若

其事始自閻泰和必當將該府尹交部議處今既

相沿舊習姑免查究嗣後除兼理之尚書侍郎仍

准在宅居住外其本任順天府尹著遵照舊例在

署居住辦公以符體制欽此

硃

446 軍機大臣 字寄

四川提督三等男勒 嘉慶七年六月十三日

奉

上諭本日據楊揆奏到我眉雷波兩處夷匪滋事現在籌辦緣由一摺與前日勒保所奏情形相同但

摺內祇稱該廳縣銅鉛各廠多與夷地毗連此次緣漢夷爭界並有附近厥分貿易凡人在彼影射私墾夷地因而該匪等生心燒搶等語其寔在因何起衅焚掠時曾否傷害民人及滋事夷衆共有若干人為首者係屬何人仍未詳晰聲叙著勒保卽遵照前旨查明據寔速奏至該夷匪等竊擾邊界肆行焚搶固不可將就了事但此等微外保夷一經董教增等帶兵赴彼該匪等卽已退回卞外可見尚如畏懼卽摺內所稱夷性畏熱恐交秋後復出竄擾亦尚係懸揣之詞此時豐紳帶兵前往若徑行掘其巢穴恐該處沿邊夷種不一轉致驚惶失措勒保接奉此旨後當酌量情形飭知豐紳等相機妥辦如該匪業已退避歸漢豐紳等祇須在卞內帶兵駐紮示以聲威諭令將為首之犯自行縛獻究明起衅首犯正法示衆卽可完局如查係漢民理曲搆營亦卽對衆將該犯正法使該夷等心知畏服可期日久寧謐豐紳卽帶兵回至川北一帶辦理搜捕餘匪事宜其峨眉雷波邊界就近交與該協管將領等督兵駐紮彼彈壓以靖邊

隔將此由晉星報便傳諭勒保呈諭楊揆知之茲此遵旨寄信前未

447 軍機大臣 字寄

閩浙總督王 福建巡撫李 嘉慶七年六月

十三日奉

上諭本日由驛遞到王德等奏摺一件朕詳加披閱係蔡牽盜夥登岸搶去汛砲及何定江追捕盜船擒獲盜犯劉帮等六十名審擬辦理二事此內審辦盜犯係應發交刑部核擬之件自應另為一摺以便批發今該督等將二事牽混入奏殊屬不曉事體除將劉帮等案供節錄發抄外其辦理盜匪登岸搶砲一事僅稱訊取該弁兵等確供按例定擬亦屬非是大担門距廈門祇三十里立有專汛安建砲臺原為巡防洋盜而設黑夜之中遇有盜船近岸卽應用砲轟擊何以轉被該盜夥舍舟登陸將汛砲搶去其傷斃弁兵僅止一人自係在汛弁兵人少致有疎失看此情形沿海所設墩汛竟屬具文並聞該弁兵平日全不在汛地防守且有

私將砲位埋藏者海疆重地若營汛如此廢弛何以戢盜安良著玉德等確切查明如有前項情弊即據實奏嚴行懲治毋得僅照尋常疎防按例辦理將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

448 嘉慶七年六月十三日奉

旨新疆勝因寺住持喇嘛蘭爾金巴札巴窩咱爾現屆年滿例應更換茲據楊揆奏堪布喇嘛情願保留著准其再留三年欽此

449 嘉慶七年六月十四日奉

旨那啟泰奏擊獲逃遣韓四請旨定奪一摺韓四係盜案內夥同行劫免死改遣為奴之犯膽敢在配脫逃本應即行正法但該犯於五月十五日脫逃十七日擊獲係在五日以內且即在左近贓匿尚非有意遠颺韓四姑從寬免其正法著枷辦三個月改發黑龍江墨爾根等處為奴相併發欽此

清字摺漢字紀年

450 嘉慶七年六月十五日奉

旨御史舒昇阿奏舊太倉收兌米石該監督未到書役花戶家丁等擅開廩座等語倉廩收放米石例應該監督親自查驗開倉方足以昭慎重此次舊太倉兌收米石即滿監督偶值患病何以漢監督未到之先任聽書役人等擅行收兌且該御史面詢書役人等據稱此項兌收大通橋運米係八百石而次日該倉稟報又稱收米九百九十餘石數目不符其中恐有弊混俱著交倉場侍郎據實查叅嗣後各倉收放米石務須飭令該監督等遵照定例親自查驗毋得任聽書役人等擅開廩座違者著查倉御史嚴行叅辦欽此

451 嘉慶七年六月十五日內閣奉

上諭軍機大臣現在人少吏部尚書劉權之刑部尚書德瑛俱著在軍機處學習行欽此

452 本日奉

旨著閱看欽此

453 查劉權之德瑛現俱奉

旨_在軍機處學習行走應否一體閱看奏摺之處伏

候

訓示謹

奏

六月十六日

454 嘉慶七年六月十六日內閣奉

上諭禮部尚書達椿持躬謹飭前在尚書房行走多

年尚屬勤慎昨因患病賞假調理方冀就痊茲聞

溘逝殊堪軫惜著加恩派奕純帶領侍衛十員前

往奠醑其任內降罰處分悉予開復伊子薩彬圖

著加恩補授內閣學士俟百日孝滿後再行供職

欽此

455 嘉慶七年六月十六日內閣奉

上諭禮部尚書員缺著長麟補授兼管太常寺鴻臚

寺事務翰林院掌院學士員缺亦著長麟補授所

遺兵部右侍郎員缺著那彥寶調補蘇楞額著轉

補工部左侍郎其工部右侍郎員缺著吉綸補授營

錢法事務吉綸等導閣學士員缺著薩福圖補授長麟原署之

吏部左侍郎著瑚圖靈阿署理欽此

456 嘉慶七年六月十六日內閣奉

上諭保寧著管理戶部三庫事務紐布著管理太醫

院御藥房事務英和著管理成安宮欽此

457 嘉慶七年六月十六日內閣奉

上諭恭阿拉已放正黃旗漢軍都統其左翼總兵員

缺著國霖調補所遺右翼總兵員缺著廣泰補授

欽此

458 嘉慶七年六月十七日奉

旨大學士保寧尚書劉權之德瑛俱應在圓明園住

宿著加恩將佟府住房一所賞給保寧居住菜庫

住房一所賞給劉權之居住槐樹街住房一所賞

給德瑛居住欽此

軍機大臣 字寄

江南河道總督吳 嘉慶七年六月十七日奉
上諭吳璣奏黃河水勢驟漲搶護各工穩固一摺黃
河水勢消長總視甘省上游為準上年甘省被旱
下游河水較減普慶恬瀾今春甘省雨水優足朕
即慮及萬錦灘一帶水長下游恐不免漲盛當即
降旨諭令吳璣加意巡防茲據奏江境沿河各屬
自交夏至後大雨時行河水驟長溜勢奔騰睢南
等廳屬工段均因河勢側注刷塌堤身大溜湧激
勢甚吃緊當即漏夜搶廂抵禦幸保無虞等語此
皆仰賴

河神垂佑各工得以穩固敬慰之餘益深乾惕著發

459 去大小藏香各五枝交吳璣敬謹祀謝並著吳璣

虔心默禱仰祈

靈護俾伏秋二汛獲奏安瀾此現在尚未入伏水已

增長即日大汛便臨所有應用物料俱須購貯充

足其廳汛各員務當輪流在工小心防守遇有風

雨尤當不辭勞動隨時保護以期有備無患至上

游之毛城鋪天然開兩處宣洩河水原係萬不得

已之一策若率意輕啓恐下游一帶民田轉受其
害吳璣將此兩處不令啓放留俟察看伏秋水勢
再為酌辦所見甚是再為後幫糧船現因清水增
長陸續渡河餘七帮旬日內諒已全數渡竣均
堪志慰此時總以防汛為第一要務慎之又慎勿
稍疎懈將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

460 軍機大臣 字寄

兩廣總督吉 廣東巡撫瑚 嘉慶七年六月
十八日奉

上諭前據玉德等奏報蔡牽盜夥在大担門地方登

岸搶去汛砲十三位旋往東南外洋竄逸等語該

盜匪膽敢糾夥上岸搶劫砲位不法已極實為可

惡自須嚴拿懲辦茲據吉慶等片稱南澳鎮提兵

杜魁光稟報五月二十日探有大小匪船二十餘

隻在閩省銅山洋面遊奕自即係蔡牽盜船乘風

竄至該處吉慶等既經派令該鎮杜魁光帶領米

艇兵船前往閩洋協捕務當傳諭該鎮上緊緝拿

並於閩粵洋面交界處所督飭營汛不分畛域一體巡緝勿令漏網如將盜首蔡章弋獲即着吉慶由驛馳奏其現獲之閩盜三十餘名即應審明是

旨寄信前來

461 遵

旨交禮部查明前三科

朝考拔貢

欽命四書詩題開單呈

覽再已酉科以前係三次分考已酉科始奉

特旨覆試合並聲明謹

奏

六月十八日

462 酉科拔貢

朝考

初次題

子曰二三子以我為隱乎吾無隱乎爾吾無行而不與二三子者

桐始華

二次題

對曰然非與曰非也

麥隴風來餅餌香

三次題

如或知爾則何以哉

日華川上動

丁酉科拔貢

朝考

初次題

仲尼亟稱於水曰水哉水哉

詩書敦夙好

二次題

揜其不善而著其善人之視已如見其肺肝然

槐日午陰清

三次題

女器也曰何器也

遊思竹素園

己酉科拔貢

朝考

原場題

拔乎其萃

詩題

思不出其位

覆試題

如有所立卓爾

詩題

玉壺冰

463 嘉慶七年六月十九日奉

旨三法司衙門議覆湖北省左中義將伊父左士湖存錢買穀致伊父忿恨自盡照原擬違犯教令例定以絞候一本細核此案情節左士湖將賣牛錢文欲行湊買棺木伊子左中義因先要買穀防饑經左士湖向阻不聽並將舊存錢文一併買穀以致左士湖忿恨莫釋投縲頌命試思製備棺木原

係為子者分應盡心之事今該犯不但為伊父

早行備辦並將伊父自備買棺錢文忍心挪用先

買食穀致伊父抱忿自盡是其平日必不能孝順

其親非僅一時違犯教令可比將來核辦秋審時

亦必予勾左中義中義着即行處絞餘依議欽此

464 嘉慶七年六月二十日內閣奉

上諭和寧奏請將蓬萊縣知縣楊續時調補單縣一摺

楊續時歷俸未滿三年與調繁之例不符前經吏

部議駁茲復據和寧奏稱該員於乾隆五十一年

曾任單縣於地方情形尚能熟悉與初任未經俸

滿者不同著照所請楊續時准其調補單縣知縣

該部知道摺摺發欽此

465 嘉慶七年六月二十日內閣奉

上諭前據正藍旗都統豐仲濟倫等原任已故直隸

布政使祥鼐應賠銀兩應否於伊孫慶齡名下照教

監追等語當令軍機大臣交戶部及該旗查明

祥鼐前在直隸藩司任內因驛站工料等項銀兩

在藩庫借支未經報部經部議請限四年著落歷任督藩分賠一半祥鼐名下應賠銀四千七百八十八兩零續准^註加恩減免十分之三昨冬因四年限滿經該部開單具奏降旨再予限二年此項銀兩雖應按限勒追歸款但念祥鼐早經病故伊子又因疾迷身故伊孫年尚幼穉無項可繳且究係因公著落分賠之項與本身虧欠者有間所有祥鼐名下未完銀三千三百五十一兩零著加恩全行豁免欽此

466 臣等遵

旨將原任直隸布政使祥鼐應賠銀兩交查戶部茲據覆稱祥鼐前在直隸藩司任內因驛站工料等項銀兩在藩庫借支未經報部嗣經部議前項銀兩均係循例應支正款但借墊既不報部咎有應得統限四年一半在地糧耗羨盈餘內撥補一半著落歷任督藩名下分賠祥鼐名下共應賠銀四千七百八十八兩零前次清查官項欠案内減免十分之三銀一千四百三十六

兩零寔應交銀三千三百五十一兩零又於嘉慶六年十一月內四年限滿經部開單具奏欽奉

諭旨再予限二年著各該辦按限勒^註在案至伊子筆帖式瑞書因何自縊身故交查正藍旗現據該旗覆稱前據貴州巡撫常明咨稱據筆帖式瑞書家人張福等呈報伊主於六年八月內差赴雲南賫送

恩詔路過河南因渡河水漲受驚疾速行至貴州都勻府清平縣在行館病發自縊身死當經清平縣知縣金綬驗訊^係緣因疾迷身^自縊並無別故等情彼時該撫並未具奏所有跟從張福等五名查明均係僱工家人現俱散去無從傳訊各等語謹

奏

二十日

467 嘉慶七年六月二十日奉

旨係字著加恩准其開復欽此

吏部題請伊孫筆帖式任內病故歸案應得革任案內

468 嘉慶七年六月二十日奉

旨德楞泰着照例承襲餘依議欽此

469 臣等謹將前次奉旨辦理各案內應行更正之處開列於左

奏竊臣等欽奉

諭旨纂輯辛酉工賑紀事謹率同纂修等上緊纂輯

所有卷一至卷十業經繕寫正本呈

覽茲復將纂出之卷十一至卷十五續繕正本謹

呈謹

奏

六月二十日

470 軍機大臣 字寄

河南巡撫馬 嘉慶七年六月二十一日奉

上諭馬慧裕奏江水驟漲荆紫關土城被水冲塌飭

屬勘撫一摺荆紫關城垣逼近丹江本年五六月

連次大雨江水驟漲刷進城牆民舍均有坍塌雖

據該府縣查明稟報人口尚無傷損田禾亦無妨

碍但該處民人猝被冲淹廬舍資財均遭漂蕩其

沿江一帶田禾及上下游經過地方是否實無淹

損之處均應確實查勘不得因係一隅中之一隅

稍存玩忽致民人或有失所該撫即督率地方官勘

明實力撫卹有應行加恩之處迅速奏明候朕降

旨加恩毋得少有諱飾至荆紫關城垣屢被水冲

議請移建一節亦係應辦事宜俟妥議後另行具

奏再黃河兩岸擬工現據搶護幸餘保無虞但本日

甫交初伏大汛接臨該撫務嚴飭各河員加意慎

重所有應備搶廂各料物俱須儲積充裕其應凡

各員均令常川在工小心防護遇有風雨尤當時

刻留心不可稍存惜費惜勞之意將此傳諭馬慧

裕並諭王秉韜知之欽此遵

旨寄信前來

471 嘉慶七年六月二十一日內閣奉

上諭保寧著兼管兵部事務欽此

472 嘉慶七年六月二十一日奉

旨這所奏諱飾命案之蕭山縣知縣李廷蘭著解任

交該撫提同案內人証審明定擬具奏欽此

473 嘉慶七年六月二十一日奉

硃

旨向來外省辦理侵虧之案釐定例恭嚴原因該員等在任時肆意侵貪莫肥身家而潤子孫其情最為可惡是以將本員監追治罪其未完之項並著落伊子孫賠繳即其子孫困苦流離亦所不惜原以懲貪墨而儆官也至因公核減及分賠代賠各項或因限於時地與例不符或係代人受過此等賠項究屬因公與侵挪入己者有間此在立法之始未鑿概無區別嗣因奉行日久辦理參差時重時輕轉不足以昭情理之平前因戶部具奏清查直隸旗租未完銀兩一摺曾降旨令將現行事例其中有與舊例不符者詳查修釋分別條款具奏茲據該部將修改條例開單進呈朕遂加詳核所議尚屬平允蓋著賠之款擬以本員為重其例應分攤者即應於分攤之員分別核辦若不顧事理率行攤派或波及同僚或累及上官甚或輟轉攤賠又於攤賠各員子孫名下著賠是案外之官本身已代人賠累子孫復受追呼之苦而本任應賠之員及其子孫早已置身事外不獨事不公平且

幫項終歸無著此不過外省巧為拖延之計耳况分賠之項不得於他人名下攤派及於同案各員重復攤追並兄弟未經析產者祇准將本人名下應分財產入官又八旗綠營兵丁坐扣餉銀概行豁免即經我

皇祖

皇考申諭詳明仁至義盡免宜永遠欽遵即朕親政之

初亦早經明降諭旨將分賠代賠分別減免此內應扣繳養廉之員如琅玕伊桑阿職分最大皆請將養廉全繳朕恐其無以辦公又復派累屬員第次諭令每年僅交一半於著追幫項之中仍寓俸卹下情之意所有此次戶部擬修各條俱著照議行至兵丁餉銀原屬有限若再行坐扣伊等得以為生者將一切扣餉之例永行停止其文武各官賠項有應扣繳者此後每年祇須坐扣一半不必另行扣交著為令其吏刑二部條例及兵工等

硃

等議賠各例均照此分妥修具奏欽此

474 嘉慶七年六月二十一日內閣奉

上諭上年永定河土石各堤沖決多至三千數百餘丈難係雨水異漲究因下游高仰不能宣洩所致直隸歷任管河各員因循玩愒經理不善各無可辭是以降旨令那彥寶等查明土石各工用過銀數統照河工銷六賠四之例著落歷任管河各員分別攤賠以示懲儆令據那彥寶等查明此項應賠四成銀三十八萬八千五百二十八兩零請著落自乾隆三十八年起至嘉慶六年六月止歷任各員賠繳經軍機大臣會同吏部工部議准並將歷任各員應賠銀數分別開單進呈請按限催追本應即照所請分別著賠但閱單內各該員在任遠近不同本身存歿亦異若一律分攤未免漫無區別如乾隆五十年以前已故各員離任既久原難盡將辦理不妥之處責之年久各員所有此項應賠銀八萬二千四百八十兩零著加恩全行豁免其乾隆五十一年以後已故各員在任年月較近于下游挑濬事宜若能先時籌辦何至上年有潰決之事是該員等獲咎較重但業經身故比之

現存各員亦尚有區別所有此項已故各員應賠銀二十一萬四千三百七十兩零著加恩照各該員應賠之數俱寬免一半餘著照承^欽定限完繳至現存各員^{在任}直隸居官者居多該員等^{經辦}河務既未能疏濬于前又未能防護于後其咎無可寬免著即照數攤賠如限完繳此內原任同知楊奕^續賈惠李炳原任通判曾成勳沈鶴^源五員^著行文各該原籍查明存歿年分照此一律辦理至歷任各員既經著落分賠所有應行查議各職名著加恩寬免摺單併發欽此

475 臣等遵

旨將直隸歷任總督河道及廳汛各員交吏部查明自乾隆三十八年起至五十年已故者為一單自五十一年起至嘉慶五年已故者為一單現存者為一單將應賠銀兩分別註明錄呈

御覽現存各員單內楊奕^續李炳^賈惠^曾成^勳沈^鶴源^五員業經革職休致告病回籍該員等離任年月較久是否存歿部中無從稽查應請仍交

吏部行查各該員原籍俟覆到之日再行請
旨辦理謹
奏

六月二十一日

476 乾隆五十年以前已故歷任河工各員

總督周元理 應賠銀二萬八千六百五十五兩零

英 蕪 應賠銀二千三百八兩零

楊景素 應賠銀二千八百六十八兩零

朱守伺 應賠銀一萬九千八百八十一兩零

鄭大進 應賠銀四千十五兩零

河道滿 保 應賠銀二萬三千二百一兩零

同知阮芝生 應賠銀四千三百七十二兩零

徐敬儒 應賠銀一千九百八十八兩零

王榮勛 應賠銀三千六百四十七兩零

劉 楸 應賠銀二百五十九兩零

通判張士仕 應賠銀一百九十六兩零

以上共應賠銀八萬二千四百八十二兩零

477 乾隆五十一年以後已故歷任河工各員

總督劉 綦 應賠銀三萬二千九百兩零

梁肯堂 應賠銀三萬八千六百八十八兩零

胡季堂 應賠銀一萬三千六百三十一兩零

河道沈鳴皋 應賠銀九十四兩零

蘭第錫 應賠銀二萬四千九百四十五兩零

陳 琮 應賠銀三萬二千四百七十一兩零

羅 瑛 應賠銀一萬七千五百九十九兩零

王 銳 應賠銀一千八百二十五兩零

嵇承孟 應賠銀三千一百十九兩零

同知王湘若 應賠銀八千五百六十七兩零

李光理 應賠銀八百一兩零

周震榮 應賠銀二千三百七十七兩零

宋德鴻 應賠銀二百二十六兩零

汪廷樞 應賠銀二千五百六十七兩零

李騰蛟 應賠銀二百六十八兩零

劉樹芳 應賠銀二百十二兩零

賴邦本 應賠銀七百五十三兩零

董 杰 應賠銀六千六百四十七兩零

朱曾敬 應賠銀一萬一百十四兩零

黃碧海 應賠銀三千一百八兩零

何裕球 應賠銀一萬三千四百二十五兩零

通判顧三秀 應賠銀五十六兩零

以上共應賠銀二十一萬四千三百七十六兩零

478

曾任直隸總督河道漣汎現存各員

總督劉 攄 應賠銀三百九十六兩零

顏 檢 應賠銀一千二百二十九兩零

姜 晟 應賠銀一千二百二十九兩零

河道王汝璧 應賠銀四百四十六兩零

署道劉 斌 應賠銀一萬五千一百九十八兩零

歸朝照 應賠銀一千九百六兩零

喬人傑 應賠銀二萬七千五百一兩零

王念孫 應賠銀六千六百二十兩零

同知楊奕紳 應賠銀一萬三千六百四十七兩零

張 顏 應賠銀二百九兩零

田 怡 應賠銀二百二十五兩零

方其昉 應賠銀九十八兩零

現任北路同知

賞給五品戴望行汎

賞給七品戴望行汎

乾隆甲午年古病

乾隆甲午年古病

乾隆甲午年古病

乾隆甲午年古病

現任丁邊回籍

現任兩岸同知

現任蘇州州司

現任雲南主簿

現任雲南主簿

現任雲南主簿

現任雲南主簿

現任雲南主簿

現任雲南主簿

現任雲南主簿

盛悖復 應賠銀一百三十七兩零

翟芳雲 應賠銀七千八百五十八兩零

陳 煜 應賠銀四千二百五十五兩零

賈 惠 應賠銀六千三百十四兩零

李 炳 應賠銀二千四十一兩零

沈鶴嶸 應賠銀三百九十九兩零

鄒 試 應賠銀一百九兩零

李逢享 應賠銀九百二十四兩零

沈員陳起鴻 應賠銀十九兩零

宋大甌 應賠銀六十兩零

吳士泓 應賠銀三百九兩零

聶 恭 應賠銀五十二兩零

劉 蕃 應賠銀五十六兩零

張樂昌 應賠銀一百八十九兩零

張士鑑 應賠銀五十五兩零

以上共應賠銀九萬一千六百二十三兩零

現任保定府同知

現任保定府同知

現任保定府同知

現任保定府同知

現任保定府同知

現任保定府同知

現任保定府同知

現任保定府同知

現任保定府同知

現任保定府同知

現任保定府同知

現任保定府同知

現任保定府同知

479 嘉慶七年六月二十一日奉

旨戶部奏核議陝西省題報嘉慶三年以前收過軍需銀數一摺該省辦理軍需前後請撥帑餉甚多自當劃定年限分別核銷是以上年正月間即經降旨令該撫將嘉慶三年以前願發軍需銀兩先行按數報銷迄今一年有餘始據將收過銀數題報立案殊屬遲緩至軍需報銷一切總當核實辦理其實在用過銀兩即稍有與例不符之處或限於時地或別有情節亦不妨據實聲明奏請定奪君臣之間相接以誠豈可稍事虛捏致蹈浮冒飛洒之弊其官兵出境入境日期尤關緊要此次川楚陝三省剿辦教匪以來官兵分路兜圍連擊所向無定或朝楚而暮川或出境而復入歷年既久不特部中無可查核即帶兵大員等亦不能一一記憶在該督撫等惟查照從前奏報原案逐一詳細核算分別題銷以歸核實至部議立限一月未免稍覺迫著加恩於接奉此旨後勒限兩個月將嘉慶三年以前動用軍需銀兩速行遵照查明官兵勇練數目及出境入境月日造具各項清冊

先行咨部備查仍即分集題銷倘再有延宕或局員及承辦各員稍有弊竇即當指名嚴奏究辦該督撫等不得扶同捏飾致干重戾其嘉慶四年以後報銷各款現在大功不日告成亦應上緊陸續咨部核辦毋得任意延宕欽此

480 嘉慶七年六月二十二日內閣奉

上諭伯麟奏查明雲騎尉承襲錯誤檢舉更正並請交部議處一摺此案誤將張錦富抱養之胞姪張溫承襲雲騎尉世職係伊家屬不諳律令結報弊端經該縣訪聞張錦富現有親子張灝例應承襲自行檢舉詳請更正除俟該撫另行具題交部改襲外至該縣從前辦理疎忽各寔難辭所有右玉縣知縣吳德輝著交部照例議處伯麟既經奏明更正其一併交議之處著加恩寬免該部知道欽此

481 嘉慶七年六月二十二日內閣奉

上諭上年辦理護城河等工經高杞莫瞻棠等奏將

隨帶司員留工幫辦曾降旨令其察看該員等如
果始終奮勉工竣時奏明酌量加恩此項工程早
經辦畢現在通惠河挑工業據奏請緩辦所有辦
理護城河出力之戶部郎中朱爾賡額員外郎齡
椿英忠工部郎中徵保員外郎鄒文瑛主事謝斌
俱著交部議叙欽此

482 嘉慶七年六月二十二日內閣奉

上諭本日召見湖南衡州府知府巴哈布詢係臬司
李亨特胞叔例應迴避巴哈布著發往湖北其衡
州府知府員缺著該督於湖北知府內揀選一員
調補所遺員缺即著巴哈布調補欽此

483 軍機大臣 字寄

湖北巡撫全 嘉慶七年六月二十二日
奉

上諭全保奏沿江各屬堤坑漫溢查勘疏消一摺本
年五六月即陽宜昌一帶連次大雨水歸下游以
致萊南水漲鍾祥京山天門潛江沔陽漢川六州

縣臨河堤坑多有漫溢民舍田廬間有浸塌雖據
勸報人口先經遷移高阜尚無傷損但被水者已
有六州縣坑田漫淹小民不免失業著該撫即督
率地方官妥為撫卹有應行加恩之處即據實奏
明請旨不可稍存諱飾其被衝堤坑亦令趕緊修
築設法疏消積水以期及時補種晚禾居民復業
不致失所為要至襄陽之老龍堤荆州之萬城堤
最關緊要該撫務嚴飭該管員弁加意防護毋稍
疎懈將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

484 嘉慶七年六月二十二日奉

旨著交刑部審擬具奏欽此

御史王蘇奏自稱宗室舒大等夥開飯
舖踴鬻無名車夫一案

485 嘉慶七年六月二十四日內閣奉

上諭內閣為綜綸重地大學士均應常川到閣閱看
本章其中有在軍機處行走者每年春夏在圓明

軍營定無需該鄉勇等在彼幫同出力即速行撤
回又另摺奏參負孫文煥繕寫親供技遞到營奏
明請旨等語此事業已特派初彭齡富尼善前往
查審即孫文煥原參濫用軍需一案定擬罪名之
實亦已交初彭齡等會辦該督儘可不必分心如
日內已將恒乍網擒獲邊境寧謐琅玕係本省撫
督即可回至省垣辦理地方事務亦無庸馳赴黔
省會審此案也將此由五百里諭令知之欽此遵
旨寄信前來

488 軍機大臣 字寄

湖北巡撫全 嘉慶七年六月二十五日奉

上諭全保奏湖北被水各州縣酌籌撫卹一摺據稱
漢陽府屬之漢川沔陽安陸府屬之潛江天門京
山鍾祥荊州府屬之公安松滋江陵監利等州縣
經各該地方官陸續稟報或因連日大雨或因江
水驟漲堤埝俱被漫淹等語查各縣被水情形公安
一縣較重該縣地處下游江陵松滋二水並瀉城

硃

內水深至丈許衙署民房城牆倉廩多有倒塌尚
云人口幸未損傷殊不可信外者據該縣不齊據定推原委或當由
抽庄員自先奏起見或思二人之名與字全與命相整難行查實據
重之公安潛江二縣先行撫卹一月口糧自應如
此辦理此外如再查有被水較重應行撫卹之處
即著全保等據實奏聞不可諱飾如地方官有匿
災不報者即行指名嚴參至另片奏全保及孫玉
庭均出省查災所有撫藩衙門日行事件飭委成
寧等代辦一節該省猝遇水災自須親往履勘隨
時撫卹但省城重地不可無大員彈壓一俟水災
查明之後全保孫玉庭即着二人回駐省城以重
職守再武漢一帶現在曾否得雨並着遇便覆奏
將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

489 軍機大臣 字寄

山東巡撫和 嘉慶七年六月二十五日奉

上諭前聞直隸河間一帶間有蝗蝻特諭令熊枚前
往查勘督率地方官上緊捕淨朕以直隸山東接
壤即慮其越入東境茲據和寧奏報濟寧州南鄉

卽庄地方及金鄉縣屬等處俱有蝻孽滋生均卽撲捕淨盡而近日山東省城見有飛蝗過境又長清縣亦有飛蝗集落旋飛等語果不出朕之所料該省萌生蝻孽之區雖據奏稱業經撲滅其自直隸河間等處飛入東境者現已合力趕撲亦尚不至成災但恐飛蝗經過之處於秋禾雜糧究不無稍有傷損著和寧再為詳細確查如有被蝗較重地方卽當據實奏請加恩不可稍存諱飾至捕蝗之法若專委地方官撲捕恐帶領多人轉致擾累不如曉諭百姓令其自捕或易以官米或買以錢文小民自更樂於從事該撫惟當不時查訪遇有飛蝗集落嚴飭各屬上緊撲捕勿令滋蔓如各該州縣有諱匿不報之員並著卽行指名參奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

490 臣慶桂臣董誥臣劉權之臣朱珪臣豐紳濟倫臣德瑛臣彭元瑞臣戴衢亨謹

奏竊臣等面奉

諭旨令於

欽定辛酉工賑紀事書後恭撰跋語今敬謹撰就恭呈

訓示俟

發下後再行繕入卷末隨書進

呈謹

奏

六月二十五日

491 欽定辛酉工賑紀事後恭跋

竊聞堯水湯旱盛世不免而荒政之設惟周官大司徒約舉十有二事自是而降賑卹蠲除之令偶一舉行史冊傳為盛事若夫以民為

心應

天以實

味

此二語實愧之

德意所敷旁皇周浹如造物之薰冒使無一夫不獲

其所蓋未有如我

皇上辛酉工賑之舉之廣大悉備也是歲六月京師

大雨西北諸山水下注永定河驟漲衝決堤岸

直隸被災州縣凡九十有九奏入

皇上惻然動念

命京兆尹撫輯流民給屋栖止並

簡卿員分往四路查勘及時賑卹繼以

發帑錢開倉廩截漕粟免租賦資絮衣掩帶賂減價

平糶疏濬河渠

發政施仁同時並舉自朝至晷

詔書頻仍全活生靈奚啻億萬計先是京師五城

冬月歲有賑廠各一所以次年二月為限至此

特命於郊外增設五所並展賑至次年五月乃罷而

永定河堤亦先於秋冬間

命大臣親往督視頒帑興修俾臻完固其無業貧民

又得以工代賑之益

恩膏浥覆

睿慮周詳而猶兢兢業業刻以

敬

天

省躬為念

咨傲勤於宵旰痾瘵形於

詠歌

實心

實政洵足以感名休和轉歎為豐矣事竣

勅臣等慕輿盛書將以頒示中外使牧民之吏恭讀是編

仰見

皇上遇災而懼之心共知極濟斯民之道雖有旱乾

水溢不敢玩視以瘵厥官則海隅蒼生罔不阜

成咸若大哉

王言豈非萬世保赤之良規哉抑日等日侍

禁廷竊見年來剽辦邪匪軍書旁午自

命將出師以來凡決策制勝轉饟峙糧以及信賞必

罰擒渠訊馘之機宜無不仰勞

睿算指示遵循而畿輔偏災猶復如傷在抱

康濟勤施滋液滲漉至周且悉若此是以

荃絳訢合休徵叶應風雨時年穀成而草澤餘氛不日

迅掃成功祗告宙合教寧詩曰綏萬邦屢豐年

武有七德備見於茲則此書之作實

帝德

皇猷之金鑑非特敷利薄征媮媮周典已也臣等曷

勝悅服欣幸之至臣慶桂臣董誥臣劉權之臣

朱珪 臣 豐仲濟倫 臣 德瑛 臣 彭元瑞 臣 戴衡亨
拜手稽首恭跋

492 軍機大臣 字寄

西寧辦事大臣台 嘉慶七年六月二十七日

奉

上諭據英善等奏班禪額尔德尼差人報稱上年十
二月內達木先降及甲里兩處地方有夾埧七十
餘名搶去牛厰百姓牛馬等物甚多現在查明為
首夾埧姓名及開明失單懇祈查辦等語朕詳閱
摺內該處民人被搶至四十餘戶其所開失物單
內馬五十餘匹牛七百餘隻羊一千八百餘隻此
外尚有衣服綉緞繒緡及珊瑚蜜蠟松石珍珠並
食物等件為數甚多恐非七十餘人所能搶劫其
呈報夾埧人數尚有不實且將該處百姓傷斃二
名現尚有帶傷未愈者情罪甚重與白晝搶劫財
物傷殺事主之盜犯無異邊陲重地不可不嚴辦
示懲惟摺內據稱夾埧七十餘名係西寧地方頭
人所管其總管頭人又係四川地方土司所管現

已咨西寧辦事大臣及四川總督查拏等語著

弗搶劫重情倘該處地方大臣以事涉兩省不免

互相推諉辦理焉能迅速此案夾埧查係西寧地

方番族之人該處番族等向多出外滋事前此青

海蒙古地方曾被肆擾經朕飭令該處大臣嚴行

整頓始行驅出界外現在該處設有卡座並有官

兵駐守賊番不敢再至蒙古滋擾又向毗連之衛

藏地方肆其劫奪實為可恨著台布即查明該夾

埧等名姓住址人數派委妥辦之員按名弋獲並

將贖物如數追出照律嚴辦示儆勿令漏網原摺

著抄寄閱看將此傳諭台布並諭英善福寧知之

欽此遵

旨寄信前來

493 軍機大臣 字寄

欽差兵部侍郎那 內務府大臣巴 嘉慶七年六

月二十八日奉

上諭那彥寶等奏永定河北岸上下頭工搶竣平穩

一摺此次北上頭工并下頭工無碍處所因河水

驟派變為迎溜頂衝刷近堤根那方寶已寧阿等督率河員分投加培搶獲得以平穩此皆仰賴神靈默佑敬慰之餘倍深凜畏著發去大藏香十枝交那彥寶巴寧阿二人於各

河神廟

龍神廟代朕拈香敬護祀謝以荅

靈護現在伏况經臨秋汛方長諸宜極力防守慎之又慎此時雨水調勻不致感派第恐上游一帶或因雨多水勢增長必須隨時探視早為籌備務臻鞏固那彥寶等斷不可因此次堤工業已搶護平穩稍涉大意將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

494 臣等遵

旨將內務府筆帖式林復所述各條詳加閱看其中語多迂謬尚無悖逆字樣但林復身係微員越職言事寔屬冒昧應請

旨將林復交內務府照例議處謹

奏 嘉慶七年六月二十八日奉

旨知道了欽此 六月二十八日

495 嘉慶七年六月二十八日內閣奉

上諭給事中魯爾枝奏本年木蘭行圍請旨展期一

指寶屬不曉事體行圍之典為本朝一故日

家法昭垂舉行已久凡以習勞肆武款洽外藩

祖

宗成憲具在朕所以必當遵守非好逸喜就遊畷之

建前經降旨甚明無庸一一申諭即就該給事中

摺內指陳各條而言亦斷不能因此遽停秋獵大

典也如所稱本年麥收不足六七分之數現在麴

價仍貴等語直隸麥收前據熊枚奏通省實有七

分即間有歉薄之區率算不滿七分亦指在六分

以上若如該給事中所言豈必待十分豐收之歲

方可行圍乎又據稱物價倍之又倍物力艱且益

艱一節國家生齒日繁物力艱難勢所必至固不

因行圍而物價頓增亦豈因停圍而遠能平減耶

再該給事中慮及近日錢價增昂此事朕未嘗不

多方調劑或加印鼓鑄或搭放俸餉總未能減落

推原其故皆由年來貯蓄內帑過多輾轉流通以

致銀價日賤錢價日增即現在有軍務省分因鼓鑄

稀少錢價亦多昂貴此近日情形大率如此亦必
不因停園即驟能平價至隨園官員兵丁向例俱
賞給銀並預支俸餉以示體恤宜伊等隨從常
珠費而家居即無需用即至謂革價稍貴此乃瑣
屑細故致即因此降旨停園有是理乎該給事中

野梅展至明歲或展遲一月於中秋節後放
鑿其時秋氣晴霽道路橋梁易于集事等語上年
秋間因雨水過多降旨停止秋獮本年七月內若
果雨勢稍大差探道路橋梁艱于行走自必改期

殊

八月倘八月內仍復陰雨泥濘亦必降旨停止
無執意必行之事又何待該給事中總總慮耶總

殊

之魯蘭枝此摺不過藉此謬附于昔人諫獵章奏
而並不據事理之能行與否若不降旨宣諭伊等

殊

又必以為疏入留中不報去魯蘭枝原摺著擲還
將此通諭知之欽此

496 臣烏爾恭阿等謹
奏本日蒙

發下

殊筆改定諭旨一道

命臣等閱看臣等公同敬謹詳閱竊思秋獮為
本朝大典

列祖

列宗

家法昭垂

皇上恪遵

成憲諏吉舉行所以習勞肄武致洽外藩

訓諭煌煌至明且悉今給事中魯蘭枝不知

國家典故率請展期選譽沽名實難逃

聖明洞鑒臣等伏見我

皇上虛衷延納凡遇臣工章奏一言可採無不立見

施行至如魯蘭枝以替說瀆陳此即立于嚴懲

亦屬所應得乃蒙

聖恩寬宥不加譴責僅將原摺擲還益仰

聖德如天不肯加罪言官以期廣開言路臣等實不

勝欽佩服之至謹

奏

六月二十九日

497 軍機大臣 字寄

山西巡撫伯 嘉慶七年六月二十九日奉

上諭伯麟奏安邑等四縣被水一摺據稱安邑倚氏夏縣聞喜四縣因本年六月初十一等日天雨連綿涑水漫溢以致沿河地方村庄間有被淹居民房屋亦有浸塌等語現在正屆秋禾雜糧播種出土之時該四縣猝被水淹將來又須補種但房屋坍塌小民無可棲身殊堪惻念該撫已飭派道員等前往查辦務須飭令該道員等悉心詳勘將有無淹斃人口及應行撫恤事宜查明趕緊辦理如有應行^請加息之處迅即據實奏聞不可稍有諱飾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

498 嘉慶七年六月二十九日奉

旨這所奉挪移錢糧之新淦縣知縣趙增著革職交該撫提同經胥人等嚴審定擬具奏欽此

499 嘉慶七年六月二十九日內閣奉

上諭據愛新泰等奏內營哨船載兵過臺換成在洋遭風淹斃弁兵沉失軍械一摺此次水師營哨船配帶日兵放洋出口於澎湖地方陡遇颶風舵桅折壞隨風漂至外洋衝礁擊碎淹斃弁兵並一百四十餘名之多情殊可憫現據愛新泰等防屬查勘督率打撈祇撈獲屍身一十六具此外軍械及弁兵等屍身實係外洋潮流湍急無從撈獲愛新泰等業已移知內地各原管查取撥戍點配名數及沿海廳縣營汛確查有無哨船失水及弁兵漂流到境得生情事如果實無著落即係淹斃無疑除軍械等項准其照例題銷造補外所有淹斃弁兵著愛新泰等於查明後即行陸續造冊咨部均著加恩照陣亡例賜卹該部知道摺併發欽此

500 嘉慶七年六月二十九日內閣奉

上諭愛新泰等奏密辯續獲匪案逸犯及聞等自首匪夥一摺^{據稱}白尊一犯本係被脅隨往並未跟同行劫且能悔罪自首自應量從末減白尊著從

寬發往黑龍江等處給兵丁為奴該部知道摺併
發欽此

501 嘉慶七年六月二十九日奉

旨此案工部失去嘎嘎燈屜時該司官當令皂役陳
玉私賠補數曾否回堂辦理著刑部傳詢明確如
未經回堂即係該司員徇隱該堂官亦有失察之
咎其賊犯果大偷竊情節及開攤押買之金大是
否知情交刑部一併審訊具奏欽此

502 嘉慶七年七月初二日內閣奉

上諭鐵保奏查明備弁優劣分別應陞應劾請旨一摺向來漕務積弊州縣違例浮收亦由運弁等勒索克費所致自應查明操守廉謹辦事實力者量加陞擢其素日聲名平常不能辦事之員尤應分別斥休以示懲勸所有鐵保此次保奏劾奏各員均照所請揚州二幫千總徐京著加恩賞給守備職銜仍留千總本任候補衛守備馬連成王允中俱著加恩于本班遇缺先補其聲名平常之儀徵幫千總吳騰蛟著斥革年力衰頹之蘇州衛守備劉廷宣廬州頭幫千總高林宿州二幫千總王宗鏊均著勒令休致該部知道摺併發欽此

503 嘉慶七年七月初二日內閣奉

上諭鐵保奏查明備弁優劣分別應陞應劾請旨一摺向來漕務積弊州縣違例浮收亦由運弁等勒索克費所致自應查明操守廉謹辦事實力者量加陞擢其素日聲名平常不能辦事之員尤應分別斥休以示懲勸所有鐵保此次保奏劾奏各員

均照所請揚州二幫千總徐京著加恩賞給守備職銜仍留千總本任候補衛守備馬連成王允中俱著加恩于本班遇缺先補其聲名平常之儀徵幫千總吳騰蛟著斥革年力衰頹之蘇州衛守備劉廷宣廬州頭幫千總高林宿州二幫千總王宗鏊均著勒令休致該部知道摺併發欽此

504 嘉慶七年七月初三日內閣奉

上諭大學士王杰自乾隆辛巳年以廷對第一通籍供職詞垣入直南書房洊升卿貳

皇考高宗純皇帝知其持躬清介種品端方可資倚任是以鄉會試掄才大典及各省視學疊次

簡畀持衡未經協辦大學士印

擢任綸扉贊襄樞務老成更事數歷多年平定臺澎廓爾喀大功告成曾圖彤紫光闕

賜贖養嘉復

命充尚書房總師傅朕在藩邸時曾資啟沃自親政以來常時召對恩禮有加凡其年近八旬精神尚未衰減眷庇方殷茲以夏間屢嬰疾病具

念老臣宿望未肯令其驟離左右當經召見再四
慰留王杰以年衰氣弱深恐應職悞公堅詞求退
情意懇誠在王杰並非家有田園思耽林泉之樂
而朕眷懷耆舊體綏彌深豈忍契然遽令歸去王
杰著不必開大學士秩毋庸開內閣本章其各
館所纂書籍亦毋庸閱看以便安心願養如調理
即可就痊自應照舊供職倘一時未能即愈自揣
精力難勝再行陳奏另降諭旨欽此

505 據禮部知會各直省彙考取錄一二等拔貢生

本日於

保和殿覆試應請

簡派大臣閱看試卷除應行迴避各員扣除外謹開

列名單恭候

欽派七八員於明日傳知謹

奏

七月初三日

506 劉墉

董

劉

紀昀

戴

蔣曰綸

玉麟

戴聯奎

關槐

507 臣慶桂臣董誥臣劉世安臣朱珪臣崇海臣德瑛臣彭元瑞臣戴衢亨謹

奏竊臣等欽奉

諭旨纂輯辛酉工賑紀事謹率同纂修等上緊纂辦

所有卷一至卷十五業經繕寫正本呈

覽茲復將纂出之卷十六至卷二十繕寫正本呈

呈謹

奏

七月初三日

508 臣劉墉臣董誥臣劉權之臣紀昀臣戴衢亨臣孫星衍臣劉世安

奏旨等遵將各省拔貢履試卷三百四十三本分同

閱看各就省分擇其文理較優者四十九本列為

一等詩文清順者一百二十本列為二等按省分

粘簽進

呈

欽定發下臣等折去彌封開列名單呈

覽後交禮部張榜曉示照依省分等第名次分日帶

領引

見其餘不取各卷即照例作為各省三等前列與原取

三等之卷一併填入榜內謹

奏

七月初四日

509 八旗

一等一名

雙興

二等二名

彥璧

吉昌

奉天

二等二名

王錫齡

戴宗儒

直隸

一等二名

王啟文

趙盛奎

二等九名

吳邦杰

尚玉成

張志廉

黃炬高

張祖璠

馬其倬

楊振麟

王家植

孫清

江蘇

一等六名

韓俊杰

袁渭鍾

吳信中

張允垂

丁鈺

嚴北麒

二等八名

董梁

王景安

張培

黃嘉銓

唐大沛

胡炳

胡靜之

袁潔

安徽

一等三名

謝菘

金應城

唐大年

二等八名

楊有恒

宋國寬

劉錫麟

龔文虎

楊殿邦

朱璣

路廷楹

梁偉業

江西

一等五名

周念祖

張啟駿

顧堃

萬方雍

劉俊哲

二等八名

邵孟峻

劉種桃

杜枚

陳佐

朱霞

陳希孟

黃通

賀其珂

浙江

一等五名

徐受登

徐受顯

劉肇淦

錢駉

二等十二名

王夢庚

載聘

潘國詔

吳瀛

毛鳳五

周濬

王元輔

陳鴻壽

王堃

羅燿

周澍

王映青

袁怡芬

福建

一等二名

楊黃

王所

二等六名

黃宗元

鄭賜圖

周鼎新

傅孝基

羅河嶽

湖北

宋天柱

一等二名

程懷璟

袁應惇

二等三名

陳作琴

帥承洙

陳中履

湖南

一等三名

譚 鼇

何凌漢

聶鏡敏

二等六名

劉光洋

徐正林

蕭大卒

瞿元復

河南

徐畫堂
朱怡錕

一等二名

張 玗

戴聖教

二等六名

張 昕

姬 銓

張 碩

劉雁庚

喬大儒

栗 誦

山東

一等三名

李湘篋

徐學時

王維誠

二等十二名

朱玉藻

魏學山

韓寶鈺

李庭禧

宋開勳

范榆策

王 栢

馬船援

楊聲振

張大蕓

侯子魯

宋璇

山西

一等二名

高 禮

李士元

二等六名

李徽典

栗毓美

徐寅第

甯湘傳

衛鍾元

劉博五

陝西

一等二名

雷東郊

韓 綬

二等六名

同功元

劉 賓

党 楠

田 溥

劉 圭

李文羅

甘肅

一等二名

李致中

張恕

二等五名

孫海觀

劉養鋒

張思訥

蔡天藻

梁熊

四川

一等二名

楊庚

劉萬選

二等八名

馮國柱

魏象高

張柱

曾彰泗

白萼聯

黃翰文

梁再元

李璿

廣東

一等三名

黃玉衡

黃章

劉世培

二等六名

鄧方皆

陳玉成

麥登

符其珍

莫瑞堂

黃廷選

廣西

一等一名

朱聚

二等三名

朱廷楷

王璿

嚴鍾球

雲南

一等二名

李天壽

樊鍾英

二等三名

鄭吉士

歐聲振

何其峻

貴州

一等一名

李同楷

二等五名

陳仁智

王廷葵

龔安楫

邱文熙

朱鳳翔

510 嘉慶七年七月初五日內閣奉

上諭原任直隸布政使同興係滿洲世僕於百日孝滿後尚未賞給差使數月以來伊在家閑住日久現值朕啟鑿之期不遠伊原係直隸地方官獨不當懇請派差隨往手著軍機大臣傳旨申飭即著同興於日內由南石槽至熱河將沿途橋梁河道查勘明確回至蘭溝接駕每日仍先赴前站察看隨至熱河居住聽候差遣伊甫離直隸辦差各員皆其舊屬呼應自靈務當督率妥為照料倘一路橋梁有貽誤之處惟同興是問欽此

511 嘉慶七年七月初五日奉

旨貴州興義第十一案軍需報銷押解軍火弁兵關箱外加給益菜銀兩經該部嚴查三次節據該撫聲明滇黔兵丁及黔省屯軍連年効力疆場即滇省土練亦係外省遠夷隨同官兵征戰自應量加體卹且安站里夫與粵西兵勇俱照口外加給則滇黔兵練亦不便兩歧所有此案押解軍火弁兵自關箱以外加給益菜銀九十兩零及各案滇

點兵練口外加給銀兩俟着加恩准其報銷餘依
議欽此

512 嘉慶七年七月初五日奉

旨此案著交顏檢將守備應卓然就近訊問錄取確
供送部核辦所有高時升原領勅軸及戶部司務
咨付一紙一併發交該督閱看欽此

513 嘉慶七年七月初五日內閣奉

上諭惠齡等奏哈密通判王湖熟習吏情辦事尚能
周妥現在五年俸滿若調回內地未免驟易生手
且該員有年職留任之案未經開復一時不能遽
邀陞擢等語着照所請准其留於哈密通判本任
俟二次俸滿再行奏聞該部知道摺併發欽此

514 嘉慶七年七月初六日奉

旨內閣供事與各衙門書吏無異保寧甫經到京因
考試供事外間頗有浮言請在貢院扁試經朕發
交禮部議奏以貢院為掄材重地考試吏胥於體

制未合所議固是但議請欽派內閣學士及監試
御史並獲軍統領等員仍與考試士子相等辦理
尚覺過當嗣後內閣供事仍在天安門外考試即
令稽查內閣之御史會同內閣承辦官負在彼監
試其閱卷之內閣學士著大學士指派滿漢各一
員臨期奏聞不必請旨簡派餘依議欽此

515 嘉慶七年七月初七日內閣奉

上諭日前召見新授右翼總兵廣泰曾在朕前奏及
步軍統領衙門一切事件並無章程必須另為酌
定復經召見又稱伊職係總兵該衙門司員俱
存輕視之見朕即覺其有意紛更欲佔身分殊為
不滿自誤又誤用人定屬不能交託本日召見祿康因將廣泰近日行為面加詳
詢據祿康奏稱廣泰自到任以來於公事每故更
張且以總兵究係武職闔署司員呼應不靈曹向
祿康商懇代為奏請加賞兵部侍郎虛銜等語當
即令軍機大臣傳詢廣泰係定有其事伊亦自認糊
塗冒昧軍機大臣奏請交部嚴議寔屬咎所應
得國家設官分職俱有定制豈有臣下妄思干請

殊

殊

殊 殊

之理廣泰甫經擢用總兵自應循分盡職和衷共濟乃急於見長諸事輒欲紛更又復希冀加賞卿貳文銜批抄平反已極廣泰著交兵部嚴加議處伊現在園該班即著回家閉門待罪聽候部議國霖即著在園該班此次不必隨從本蘭伊射布靴中箭三枝應得例賞仍著賞給恭阿拉子即親向經派出隨園伊曾任總兵於步軍統領衙門事宜尚為熟悉所有行圍管轄營員番役等事即著恭阿拉暫行管理欽此

516 臣等遵

旨傳到廣泰面加詢問據廣泰跪稱從前步軍統領衙門因刑名案件較多原有另派侍郎一員協理刑名事務我蒙

皇上天恩擢授右翼總兵究係武職所有本衙門司員及筆帖式各官俱屬文員我恐呼應不靈是以前在公所曾與祿康等談及此事並欲代為奏請加

賞兵部侍郎虛銜似於辦公不致掣肘此是我一時

糊塗主見定屬冒昧等語臣等查廣泰新授總兵自應循分供職越副

任使乃輒思加

賞侍郎銜顯係欲佔身分殊為狂妄相應請旨將廣泰交兵部嚴加議處並擬寫

諭旨進

呈謹

奏

七月初七日

517 臣董 臣劉 臣戴 謹

奏 臣等遵

旨將

發下考選御史卷八本公同閱看的擬名次先後粘

奏呈

覽恭候

欽定發下關單交吏部帶領引

見謹

奏

- 第一名趙慎吟
- 第二名韓克均
- 第三名陸泌
- 第四名邱勳
- 第五名吳邦慶
- 第六名朱桓
- 第七名張錦枝
- 第八名狄夢松

七月初七日

518 嘉慶七年七月初八日內閣奉

上諭盛京

祖陵朕早應躬親展謁恭查

皇考高宗純皇帝曾於乾隆八年舉行朕以大典攸關

明歲自^當謁

橋山用申瞻慕因與軍機大臣論及來歲係閏二月若

於春間擇吉起程道路較易行走當即降旨密諭

晉昌令其將該處情形是否宜于春令抑或應俟

秋間再行前往之處詳志陳奏嗣據晉昌覆奏奉

天正二月間地氣凝凍道路平坦易於行走朕猶

以本年近畿雨水調勻秋成可卜豐稔而奉省地

方未知是否一律有秋正深屢注原欲於迨幸木

蘭時傳旨詢問晉昌令伊將關外秋收物價實在

情形據實查奏酌定行止且現在軍務未竣即係

大功全歲後再降明發諭旨亦未為遲乃^{明歲是年}繼善村

未奉明旨之前^{名在案}輒奏請展期伊係滿洲世僕於關

係典禮之事不應^{擬格}率陳臆見即欲將該處情形具

摺陳明亦應與晉昌等聯銜會奏何得一人出名

且伊所遞之摺係繕寫漢字乃照清字摺繕寫通

體右行實從未奏牘所未有殊堪詫異試思各衙

門進呈題本偶有違式及字畫錯誤者俱當分別

飭行議處今繼善具摺奏事乃任意錯謬^{皇非表二}著與實

非尋常疎忽可比繼善著即解任來京候旨仍交

部嚴加議處原摺著一併發抄欽此

殊

殊 殊

519 軍機大臣字寄

盛京將軍公晉 嘉慶七年七月初八日奉

上諭本日繕善奏來歲盛京謁

陵懇請屆期酌量情形一摺伊係滿洲世僕於展謁

橋山大典竟敢率行阻止已屬冒昧又將漢字奏摺照

清字摺書寫顛倒不成體式已另降諭旨令繕善

來京候旨並交部嚴加議處矣朕前以來歲係閏

二月曾降旨詢問晉昌該處道路是否春間易於

行走旋據晉昌覆奏奉天正二月間地氣凝凍道

路平坦復經諭令晉昌將應行事宜先行預備擬

于來年正月諏吉啟鑿因思直隸本年雨水調勻

秋收雖可卜豐稔而奉天各屬是否一律有秋恐

虞辦理差務或形竭蹶未能預定著傳諭晉昌查

明該處收成究有幾分其道路橋梁及一切應行

事宜如有辦理掣肘之處不妨據實直陳朕必曲加

體察酌量改期不可因繕善已被嚴議即年歲稍歉

物力拮据亦意存粉飾逆合逕行奏請于來春展謁

屆期辦理未能妥協轉屬不成事體也繼善之將此諭令

知之欽此意謂清漢字體格其定不可開至其言指事原無修深之處亦前旨所定

旨寄信前來

520 嘉慶七年七月初八日內閣奉

上諭盛京刑部侍郎員缺著穆克登額調補其盛京

兵部侍郎員缺著花尚阿補授花尚阿未到任以

前仍著穆克登額兼署欽此

521 軍機大臣 字寄

西寧辦事大臣台 嘉慶七年七月初八日奉

上諭台布奏現在蒙番情形並將蒙古呈遞各條及

台布歷次曉諭之詞臚列進呈朕詳閱指駁條款

尚為得當惟納漢達爾濟等懇請賞給官兵千數

名幫勸番子一節台布既以官兵不能常為蒙古

調派駁斥而摺內又稱蒙古果帶兵驅逐可否賞

派官兵以壯聲威等語是台布尚茫無定見此次

納漢達爾濟等所呈各條其意棍欲內地官兵將

番族痛加懲治殊不知足台布當明白曉諭以蒙

古為我朝臣僕雍正年間於青海設立辦事大臣

隨時保護至為優渥嗣因爾等所設卡倫不能自

衛致有蒙古勾引番子入卡搶奪之事不值頻勞

內地兵力

高宗純皇帝屢降

諭旨如再有番子搶奪等事斷不能替伊等辦理仍重

治其罪原欲爾等振作有為弗為番族欺壓自大

皇帝親政以來憐念爾等生計艱難特加賞養其

遊牧地方俾被番族搶括特派大臣帶兵前往諭

令番子將搶奪各物交還出卡居住已屬格外天

恩及番子出卡後爾等又不能自防復蒙大皇帝

賞給卡兵代為守護恩施稠賚無可復加今爾等以

卡內偶有番賊偷竊小事輒請天兵幫助寔為無

厭之求試思窮民鼠竊狗偷即內地亦所不免爾

等惟慮防卡倫遇有番子入卡偷竊即時追捕

懲辦窮番等自必日漸敘述宜有內地官兵僅為

爾等辦此偷竊細故耶况天朝既駁外藩甚多即

額魯特吐爾危特烏黎海等孰非臣僕該處地方

豈無彼此盜竊之事徒未懇請天朝發兵搜捕何

獨爾等頻頻煩瀆大皇帝覆載寬仁念爾等臣附

日久豈轉不加軫恤向來派出大臣等在此辦事

遇爾等陳請事件從不擱不奏若該處情形前

此未經具奏何以節次奉有恩旨乎但番衆亦久

殊

殊

殊

緣邊懷徒無干犯天朝之事若因一二盜竊蒙古

之賊遂欲請兵痛加勦殺必無是理且近來番子

搶劫之案較之從前減少可見伊等亦漸知收斂

即窮者等潛入卡倫偷竊一二牲畜將來亦難其

必無爾等惟當嚴守疆界勉力自衛毋得待侍內

地官兵為爾等懼亦不可與番衆有心構釁致啟

爭端方不負大皇帝垂慈愛護之至意若爾等不

知自強惟思構兵滋事將來天朝不但不能相助

并當治爾等之罪如此愷切曉諭俾蒙古等咸知

懷德畏威自不敢再行請至台布摺內稱蒙古

等既湊兵一千五百名即可自行驅逐等語亦屬

非是國家撫馭中外遐邇一體斷無任聽蒙古與

番衆互相讐殺之理設因此構成大釁又將如何

辦理再另摺奏番目遠呈懇求借給蒙古空地遊

牧一節蒙番交錯地面各有界址其偷入

卡倫潛住者尚應驅逐豈可令其借給牧地無辦

法至請添設卡兵六十名及移設卡座諸事台布

當酌量該處情形妥為辦理可也特此諭令知之

欽此遵

旨等信前來

殊

522 軍機大臣 字寄

四川提督豐 傳諭四川按察使董教增 嘉慶

七年七月初八日奉

上諭董教增奏查辦雷浪夷匪起釁緣由及現在籌辦情形一摺覽奏俱悉據稱雷浪夷人查因漢奸張華李逢春等鼓煽夷目若底五茂婦結黨家屬六人復有劉萬林等垂涎夷地與挑邊釁以遂其私擅行殺斃劉立威計焚燒夷人房屋致探夷糾約涼山生番二千餘人將雷屬之東寧鄉等處屏山縣屬之西寧鄉等處疊次焚搶等語看此情形竟係內地奸民有欺壓夷人之事定屬可恨必須嚴拿懲治以服其心董教增馳赴該處查明起釁之由業將漢奸李逢春張華劉萬林等犯先後拿獲審明後應將為首之犯分別凌遲斬決以儆兇頑餘犯枷號示懲但祇須在內地辦理不必傳示夷衆轉致啟該夷人力抗之心該臬司將各犯分別辦理後應即嚴切曉諭該處探夷此次漢奸李逢春等構釁誣捏已奏明皇上將首犯凌遲斬決明正其罪爾等夷人久經歸化遇有奸民焚殺等

事理應赴官伸訴代為究辦何得糾約生番報行報復並致無辜居民橫遭焚掠現在大兵已經雲集皇上念爾等夷人愚蠢不忍遽加誅戮著爾等將為首滋事夷人速行縛獻聽候嚴辦尚可曲邀寬貸如再違抗不遵定即進兵勒辦悔之何及如此惶切曉諭該夷人自當感恩畏罪一一遵凜倘倘夷匪竟敢將為首滋事之犯匿不獻出自應懾以兵威痛勒一二次俾該夷人畏懼投誠將首犯縛送亦可完事至豐紳此時諒已到彼伊向在軍營打仗最為奮勇巴結節次加恩此次派令辦理探夷斷不可有意邀功必欲帶兵進勒穩當與董教增和衷共濟妥為籌辦一經擒獻首逆即速行馳奏將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

523 嘉慶七年七月初九日內閣奉

上諭兵部議將右翼總兵廣泰照違制例奏請革職一摺廣泰前任御史時曾屢經派令巡漕看其人似尚能辦事量加陞用擢至卿員旋授內閣學士

昨右翼總兵缺出將伊補授廣泰本係文職出身特因步軍統領衙門有審理事件伊或能通曉案牘可以幫同祿康辦事乃廣泰器小易盈於未經到任之先即向祿康商懇代奏加賞兵部侍郎虛銜而於本衙門歷辦章程復有意^{欲為弄權小人}更其寔並未見別有籌辦之處不過圖占身分而已試思祿康本係刑部尚書經朕簡任提督伊因刑部典步軍統領衙門有交涉事件再四辭退尚書朕當即允其所請嗣因戶部尚書缺出復將祿康補授是祿康本係尚書並非因簡任提督俾兼部銜^{七條前}即歷任提督綿恩以親王管理和坤以大學管理^{七條前}若如廣泰謬見則簡任提督者豈亦可引以為例耶廣泰狂妄無知寔屬紕謬乖戾著即照部議革職欽此

524 軍機大臣 字寄

雲貴總督琅 嘉慶七年七月初九日奉

上諭琅玕奏樹苗通甸小川各路官兵連獲勝仗現在合兵進剿吉尾一摺覽奏俱悉猱猱夷匪經官兵屢次剿殺尚敢勾結潞擾此次琅玕督飭各路

將弁分投搜捕在於樹苗通甸小川各處痛加剿洗共計殲擒賊匪六百餘名滾巖落菁者不計其數附近一帶賊巢盡行燒燬奪獲騾馬器械甚多并將賊目樣黑等擒獲分別斬屍梟示諒夷匪等經此懲創自必共知畏懼現在惟恒卡綑一犯尚逃匿江外此係起事首逆必當擒拏務獲琅玕當飭令負弁等設法嚴拏勿令漏網恒卡綑一經拏獲之後其餘匪黨即可設法安撫尅期肅事至另摺奏威遠潞事據匪復行剿辦一節此事前據琅玕奏稱經官兵痛加剿辦之後已逃出江外各處並無賊匪踪跡乃此次復又稱有賊匪數百人竄入香鹽井^{此等}潞擾與前奏不符或係書成前次稟報^{數匪}遠遁之言不無粉飾琅玕於猱猱一案辦理完畢後即著前赴威遠一帶確查倘查明前次稟報有虛捏情事應即據實奏至琅玕摺內有秋深漲退如有仍須剿辦之處再行奏明辦理等語該匪等現已逃出江外若秋深瘴退之後該匪等竟敢渡江潞擾自應帶兵剿辦倘畏懼不出即可不煩師旅該夷人等賦性兇頑劫掠是其長技遇有潞

殊

殊

事之時自當隨衆懲創原不能保其日久剛良至
 既經備伏之後亦惟有就事完結即兵力有餘亦
 斷無將此種夷人誅戮務淨之理有六籍武非吉武尚及兵官無知之夷人雖功見特即琅玕當查明為
 首滋事之楊金羅小二兩犯寔在下落如此時職
 戮淹斃則已若果逃回江外或誘夷人有意潛匿
 祇須憚以兵威勒令誘夷人等速將此二犯縛獻
 即可完局無庸過江搜剿務欲邀功至不可不嚴查之時務成疑足矣均
 之舉也所有此次摺內陣亡之告休千總馬志融
 著加恩照現任千總陣例賜卹其餘陣亡兵勇均
 照例咨部賜卹將此由五百里諭令知之欽此遵
 旨寄信前來

525 嘉慶七年七月初九日內閣奉

上諭馬慧裕奏請將內黃武陟二縣本年帶徵錢漕
 懇恩分別展緩一摺據省內黃武陟二縣上年秋
 禾被水成灾節經降旨准予緩徵第念該二縣本
 年新舊帶徵錢漕為數較多若同時併徵輸將未
 免竭蹶著照所請加恩將內黃縣六年緩徵漕糧
 四千六百餘石於本年帶徵一半餘俟八年徵完

武陟縣六年緩徵地丁銀四千四百七十餘兩耗
 羨銀七百十五兩零漕糧一千五百餘石一併展
 至八年麥後故徵俾民力且臻寬裕該部即遵諭
 行摺併發欽此

526 嘉慶七年七月初九日內閣奉

上諭琅玕奏請陞補叅遊守備等缺一摺著照所請
 雲南廣南營叅將員缺著永明陞補提標左營遊
 擊員缺著富謙補授普河鎮左營遊擊員缺著什
 通阿補授督標右營守備員缺著羅倫陞補提標
 右營守備員缺著劉應祥陞補鶴麗鎮中營守備
 員缺著劉懷志陞補普河鎮右營守備員缺著王
 子林陞補東川營右軍守備員缺著方振奎陞補
 昭通鎮中營守備員缺著鮑友信署理該員現在
 丁憂俟服闋後再行實授以上各員均俟勒辦標
 匪事竣該督分別給咨送部引見該部知道摺併
 發欽此

527 嘉慶七年七月初九日內閣奉

上諭此以考拔雙興戴宗儒王啟文趙盛奎張志庶楊振麟韓

俊杰袁渭鍾吳信中張允垂謝崧金應城唐大年

李湘莖徐學時王惟誠朱玉藻高禮李士元張玠

戴聖教徐受荃徐養灝劉肇淦錢駮周念祖張啓

駿顧莖萬方雅楊黃玉忻程懷璟袁應懋譚鼇何

凌漢聶鏡敏雷東郊韓綬同功元李致中張恕楊

庚劉萬選李瑋黃玉衡黃章黃廷選朱榮李天壽

李同楷等五十名著以七品小京官分部學習彥

璧王錫齡吳邦杰張祖璣孫清丁鈺董梁王景安

張培表潔楊有恒宋園寬劉錫麟龔文虎梁偉業

魏學山韓寶鈔李廷禧宋開勳范掄策馬紹援李

徽典栗毓美徐寅第張昕張碩喬大儒王夢庚戴

聘滿國詔吳瀛王元輔陳鴻壽周澍劉俊哲卞孟

峻劉種桃陳佐陳希孟黃通黃宗元鄭賜圖周鼎

新陳作琴帥承洙徐正琳蕭大本徐晝堂劉賓田

溥劉圭孫海觀劉養鋒蔡天藻魏象高曾彰泗白

著聯梁再元劉世培鄧萬皆陳玉成符其珍朱廷

楮嚴鍾球樊鍾英鄭吉士歐督振何其峻陳紅智

王庭葵邱文熙朱鳳翔等七十二名著以知縣試

用吉昌尚玉成黃矩高馬其倬王家植黃銓唐

大沛胡昞胡靜之楊殿邦朱璣路廷楹王椅揚聲

振張大蘇侯于魯宗璇寶湘傳銜鍾元劉博五姬

銓劉耀庚栗頴毛鳳五周濬王莖羅耀王映青裘

怡芬杜枚朱霞寶其珂傅孝基羅河徽宋天柱陳

中履劉光泮瞿元捷朱怡鑑黨楠李文羆張恩訥

梁熊馮國柱張柱黃韜文麥登莫瑞堂王璠龔安

楫等五十名交與吏部詢問願以教職用者以教

職用願以佐貳等官用者以佐貳等官用欽此

528 嘉慶七年七月初十日奉

旨德瑛現應隨往木蘭所有刑部印鑰啟鑿後著長

麟暫行管帶欽此

529 嘉慶七年七月初十日內閣奉

上諭據伯麟奏奏防禦巴延善私役旂兵致令脫逃

一摺防禦有訓練約束兵丁之責巴延善輒敢私

差馬甲慶福離營遠出致送禮物以致該兵丁乘

間逃走實屬不職巴延善著即革職馬甲慶福嚴
拏務獲並着通飭各省駐防及營伍官員務須恪
遵功令勤慎檢防不得以私事擅役兵丁有乖職
守違者嚴懲不貸欽此

530 嘉慶七年七月初十日內閣奉

上諭費淳等奏請將推陞刑部員外郎之淮安府外
河同知曹恒暫留工次俟霜降後再行給咨該員
赴京供職等語同知曹恒既據該督等奏稱服官
河壩四十餘年於河務機宜最為熟諳且為人老
成正直歷來辦理工程從未失事是該同知於河
員中實為得力若令赴刑部供職在河工既少一
熟手而刑名事件轉非其所諳習未免人地兩不
相宜曹恒著加恩賞給知府銜仍留江南河工遇
有沿河知府缺出著該督等酌量奏補所有刑部
員外郎一缺歸部另行銓選該部知道欽此
恩格外嗣後不准援此例妄行干瀆有碍吏部發
選成例也

531 嘉慶七年七月初十日奉

旨吏部議將盛京刑部侍郎繼善照違制例奏請革
職一摺盛京恭謁

祖陵原欲查明闕外秋收物價情形俟軍務告歲再降
諭旨行止尚在未定繼善即欲陳請展限亦當與
將軍晉昌等聯銜具奏何得一人出名且以漢字
奏摺通體右行非尋常違式錯誤可比即照部議
革職亦所應得但念伊摺內所言尚無悖謬之處
其咎止於書寫格式顛倒是屬昏憤糊塗繼善著
加恩以六部筆帖補用欽此

532 嘉慶七年七月十一日內閣奉

上諭廣西巡撫員缺著孫玉庭補授孫玉庭前因私給
軍犯書德書信革去頂戴並革職留任嗣念其平
日官聲尚好辦理楚省藩司事務亦屬認真賞給
四品頂戴今擢用巡撫為通省表率著加恩賞還
二品頂戴其革職留任之案仍帶於新任所遺湖
北布政使員缺著同興署理同興現赴熱河即着
來京請訓馳驛前赴新任孫玉庭現往荊州一帶

查勘水灾俟同興馳抵該處接印任事孫玉庭交代後即馳驛赴廣西不必來京請訓俟一二年後再行奏請陞見孫玉庭未到之前廣西巡撫印務着清安泰暫行護理欽此

533 嘉慶七年七月十一日內閣奉

上諭據清安泰奏謝啓昆在任患病身故等語謝啓昆在巡撫中資格雖淺其前任藩司時辦事認真於倉庫錢糧尤能清釐整頓迨擢任巡撫後操守亦稱廉潔茲聞溢逝殊堪軫惜該省得梧兩關盈餘銀兩向未留充公用自謝啓昆到任後陸續節省銀一萬兩存貯藩庫著加恩於此項銀兩內提銀三千兩賞給謝啓昆家屬以資回籍治喪之費其任內降革處分悉予開復所有應得卹典著該部察例具奏欽此

534 軍機大臣 守寄

山東巡撫和 嘉慶七年七月十一日奉

上諭前因直隸河間景州一帶蝗蝻滋生恐山東

接據之區或有蔓延當經降旨令熊枚行知和寧妥為查辦嗣據和寧奏稱濟寧金鄉等處間有滋生已經撲淨其由直隸過境者俱經向南飛去並未傷損田禾等語朕恐該省地方官或有諱飾情事復經降旨令該撫再行飭查尚未據覆試思該省既有飛蝗過境必有停集之處既經得集則該處莊稼豈能毫無損傷其言殊未可信或係地方官稟報不實亦未可定著再傳諭和寧飭屬詳查如前摺所稱向南飛去究竟飛往何處在何處停集何以莊稼並未損傷是否南飛至江南徐州一帶或係該省地方得有透雨已將蝗孽滅除之處均著確切查明據實具奏不得稍有粉飾設地方官有諱匿情事即應據實奏奏其飛蝗停集之處務當督率屬員趕緊撲捕如有被蝗較重地方著遵照前旨奏明酌量施恩將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

535 臣 等遵將本日

發下戶部等部具題本內稟登一件因何遺漏餘依

議之處詢問承辦之內閣侍讀據稱向來此等
本章成式係將依議字樣票寫於各大員處分
之前誠如

聖諭未為明晰賅備謹遵

旨飭令該侍讀等嗣後此等本章均將餘依議三字

票列簽末以歸畫一謹

奏

七月十一日

536 嘉慶七年七月十二日內閣奉

上諭喬人傑著調補湖北按察使所遺福建按察使

員缺即着成寧調補著各赴新任不必來京請訓

欽此

537 嘉慶七年七月十二日內閣奉

上諭京營右翼總兵事務著中營副將台隆阿暫行

護理欽此

538 軍機大臣 字寄

欽差侍郎那 內務府大臣巴 嘉慶七年七月十

二日奉

上諭據那彥寶等恭報伏汛安瀾一摺覽奏寶深敬
慰入伏以來永定河水增長至一丈三四尺所有
南北兩岸堤埝各工間有蟄陷汕刷之處經那彥
寶等督率河員上緊搶護加銀俱為平穩惟是伏
汛已過秋汛方長甚關緊要那彥寶等現未派出
隨園原以大汛防守為重務當督同道廳及各員
弁加倍小心晝夜巡防以期各工均臻鞏固那彥
寶等在工遇有應奏事件即著隨時由驛馳遞一
俟奏報秋汛安瀾再降恩旨將此諭令知之欽此
遵

旨寄信前來

539 軍機大臣 字寄

漕運總督鐵 嘉慶七年七月十二日奉

上諭鐵保奏懇將兗州天津二鎮上年沿河催備漕
船出力員弁飭令該二鎮查明補給議叙等語上

年回空漕船迅速所有沿河催償行走各員弁曹降旨令費淳吳璣鐵保等查明寔在出力文武各員量加恩獎嗣據費淳等開單具奏已照所請將和騰額等員分別議叙該漕督等即應據實詳查奏請議叙乃彼時既未將兗州天津二鎮所屬營員開送即屬伊等遺漏今已隔一年忽欲補請議叙所奏不准行本年重運現將全數抵通行尚為迅速俟漕船回空催償完竣如該二鎮派出員弁果能寔在出力鐵保再當會同該督等詳查具奏候朕加恩將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

540 嘉慶七年七月十三日內閣奉

上諭玉德等奏審擬兵丁高連陞楊海等行劫借寓考棚之候補道員牆見羹衣物銀兩一摺國家設兵原以弭盜衛民豈有兵丁轉行為盜之理且考棚即係官署該犯等胆敢糾夥肆劫及傷家丁實屬目無法紀玉德於審明後即將起意之高連陞正法兩辦尚是至該督以楊海一犯在外贖望接

贓不知強劫情事仍照竊盜為從定擬殊未允協向來核辦盜案原有分別入室不入室問擬之例但楊海身充兵役輒聽從高連陞等行劫衙署非不知情者可比且因該犯開賭起衅是該犯雖未入室搜贓究與尋常為從盜犯不同著交刑部嚴行定擬其餘案內人犯著一併核擬具奏護總兵副將趙日泌失察該管兵丁行劫咎固難辭但該護鎮於踏勘後見高連陞楊海形跡可疑即時盤獲猶屬留心倘非伊該管兵丁當加甄叙今若概予嚴議恐將畧外省迴護處分諱匿不報之弊趙日泌著加恩改為文部議處遊擊田藍玉守備王國清均著革職由於該處協緝把總黃高即著斥革加責示懲玉德顏鳴漢未能先事覺察亦著一併交部議處欽此

541 嘉慶七年七月十三日內閣奉

上諭玉德奏浙江黃巖鎮總兵岳爾因感冒風寒胸膈脹痛一時驟難痊愈請旨休致等語岳爾著准其休致回旗調理所遺員缺著張成補授欽此

542 嘉慶七年七月十三日內閣奉

上諭朕惟求治之道必期明達聰廣為詒厥庶民

隱得以周知古帝王慈鞫設鐸自臣工以逮士庶

悉令各陳所蘊以備採納但必視其言之有當與

否如果指陳確寔有裨國是即無言職者亦當加

之採錄倘率逞臆見妄意紛更甚至莠言亂政雖

係言官之言亦不可輕為聽用近來科道中每有

條奏失當經朕降旨駁斥此係權衡事理隨事訓

訓 並非懈於辦事意情尚安朕亦 朕旨遂爾相率緘默轉非朕廣開

皇考向託馬政不勤政 言路之意矣本日據步軍統領衙門呈遞陝西恩

貢生加捐州同職銜何泰條奏一件朕詳加披閱

其所陳敬

天勤民教崇治本澄叙官方整飭士習以及黜奢崇儉

挽回風化各大端俱能援引古書切陳時事其中

不無可採何泰係恩貢出身加捐州同職銜非齊

民可比伊果有志上進於鄉會試中式後原可臨

軒試策直陳無隱今好陳各款於風俗人心均有

關係且文理亦屬通順何泰著加恩賞給大緞二

疋交祿康將伊傳到領去並諭何泰回家安靜請

書勉圖進取以備將來量材錄用所有原遞各條
留備省覽欽此

543 嘉慶七年七月十五日奉

旨著派刑部侍郎祖之望禮科給事中汪鏞馳驛前

往江南查辦事件所有隨帶司員並著一併馳驛

欽此

544 嘉慶七年七月十五日內閣奉

上諭本日戶部奏將兵丁扣餉之例請自本年八月

起永行停止等因一摺已依議行矣八旗兵丁日

用所需惟賴餉銀資給朕軫念伊等將應行扣餉

之項加恩停止原為伊等生計起見但伊等用度

所以不亞者固由生處日繁物價昂貴亦由平日

不知撙節若能將衣食二者隨時加意省儉即可

免於匱乏乃往往耽於口腹餉銀一經入手不為

度日之計輒先市酒肉以供醉飽不旋踵而費用

業已告竭又支領官未隨即賤價售與鋪家祇願

目前得錢使用不肯稍為儲備而家中食米轉寒

星用賈價向鋪戶糶買此皆夫美之甚者我滿洲
浮樸舊風衣服率多布素近則狃於習俗兵丁等
競尚鮮華多用綉緞以穿著不及他人為恥該思
旂人原以學習清語騎射為本伊等技藝生疎何
以不知愧恥惟於衣飾欲圖體面耶國家恩養八
旂體卹周至即如內城不許開設戲館亦恐旂人
花費銀錢是以特加禁止又旂地一項因伊等屢
行典賣官為贖回將所得租銀於年終普行頒賞
所以加惠伊等者不一而足現又將扣餉之例永行
停止無非欲伊等家計有資漸臻饒裕伊等亦應
仰體朕慈愛懃奉之至意不可習於浮費坐耗物
力著交八旂都統等轉飭叅佐領以下各官傳諭
該管兵丁等敦崇節儉力返淳龐副至家給人足
朕實有厚望焉將此通諭知之欽此

545 嘉慶七年七月十六日內閣奉

上諭大學士王杰中外宣力有年前以老病陳請乞
休經朕降旨令其息心調養決自以來正深注念
茲以病體未能即愈復行奏請開缺情詞懇切若

重違所請轉無以安其心王杰著准其致仕加恩
賞給太子太傅銜並令在籍食俸以示優眷俟來
年春融後自行酌定行期再行奏聞候朕另降恩
旨欽此

546 嘉慶七年七月十六日內閣奉

上諭廣東按察使刑名案件繁多負缺緊要陳文年
逾七十未能經理裕如恐有遺誤著即未京另候
簡用所遺負缺著邱庭澄補授欽此

547 嘉慶七年七月十六日內閣奉

上諭廣東督糧道負缺著章銓補授欽此

548 嘉慶七年七月十六日奉

旨著准其議叙餘依議欽此

國史館奏請議叙對供事

549 嘉慶七年七月十六日奉

旨交兵部照例辦理欽此

吉慶奏請簡放未擇

550 嘉慶七年七月十六日奉

旨着刑部查訊具奏欽此

山東金鄉縣武生李長清控告孫富考一案

551 軍機大臣 字寄

欽差侍郎祖 給事中汪 嘉慶七年七月十六日奉

上諭昨據汪鏞奏金鄉縣皂孫富考一案承審官

將原告刑逼認誣等情當即派令祖之望等前往

查辦今據都察院衙門奏據山東金鄉縣武生李

長清以違旨袒皂強逼認誣等事具控並將原呈

錄呈與汪鏞前奏大致相同看来此事竟屬不虛

前經該省學政劉鳳誥奏此案當即降旨令和

寧秉公審辦據寔具奏自應親提犯証嚴切跟究

速行審結乃迄今三月尚未審訊明確已屬遲延

據李長清供稱承審之負將各要犯概置不問反

濫用非刑逼令原告認誣並據稱解任知縣汪廷

楷仍回縣署坐堂任事是直令該承負得以遂其

報復成何事體和寧豈得諉為不知着祖之望等

提集人証秉公審辦如訊出和寧有授意袒庇情

硃

事即著一併奏奏武生李長清現交刑部訊問後

解往備質所有都察院原摺及李長清原呈並著

抄寄閱看並將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

552 軍機大臣 字寄

盛京吉林將軍 直隸江蘇河南山東各督撫嘉慶

七年七月十六日奉

上諭秀林奏遣犯王大許自富何六在配脫逃等語

王大等均係聽從行劫案內充死減等發遣為奴

之犯胆敢在配脫逃情殊可惡王大籍隸直隸許

自富何六籍隸江寧脫後或潛回本籍或逗遛

在途均未可定著傳諭盛京吉林將軍直隸江蘇

河南山東各督撫查照該犯等年貌清單一體飭

屬嚴拏務獲毋任遠颺漏網將此各諭令知之欽

此遵

旨寄信前來

553 嘉慶七年七月十六日奉

旨這所收盈餘銀六萬四百九十六兩零著賞給百
貴二千四百九十六兩零其餘銀五萬八千兩著
交圓明園欽此

554 查山海關監督上年五誠額任內徵收寔解盈
餘銀五萬九千一百七十五兩零交

圓明園五萬七千兩其餘銀二千一百七十五兩
零

賞給五誠額此次百貴所奏盈餘銀共七萬三千七

百三十六兩零核之嘉慶四年

欽定盈餘定額尚多銀二萬四千二百四十九兩零

除各處支用銀一萬三千二百三十九兩零寔

解盈餘銀六萬四百九十六兩零較之五誠額

任內寔解銀數尚多一千三百二十一兩零應
交

圓明園若干兩

賞給百貴若干兩之處恭候

訓示謹

奏

555 嘉慶七年七月十七日內閣奉

上諭達慶現在患病著賞假十餘日俾得安心調治
此時全漕抵通起卸應辦事件較繁所有倉場侍
即印務著吉綸暫行署理即赴通州任事不必請
訓俟達慶調理就痊吉綸再行回京供職欽此

556 軍機大臣 字寄

江西巡撫張 嘉慶七年七月十七日奉

上諭張誠基奏南昌等十一府被旱情形及現在查
辦緣由一摺現已明降諭旨將南昌等屬本年末
完錢糧及應徵漕米加恩緩徵矣江西省自五月
中旬至七月初旬天氣亢旱風燥日烈總未得有
透雨南昌等十一屬中晚稻業已失望朕心深為
注念此時若得有雨澤尚可趕種雜糧張誠基即
當率屬齋心祈禱向來正一真人求雨有應况該
省係桑梓之邦其住居之廣信府屬現亦被旱應
令襲封正一真人張鈺設壇虔禱以期速霽甘霖
庶蕎麥雜糧等項得以及時播種於民食不無少
補此外如有被旱較重應行蠲免之處著該撫

詳悉查明隨時具奏候朕降旨不可稍有疎漏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

557 嘉慶七年七月十七日內閣奉

上諭張誠基奏江西南昌等十一府屬被旱成災一摺該省自五月內天氣亢旱至七月初旬尚未得有透雨中晚二稻多不能望有收現屆開徵之期不遠若照舊徵收錢漕民力不無竭蹶著照所請將南昌瑞州袁州臨江吉安撫州建昌廣信饒州南康九江十一府屬本年未完錢糧及應徵漕米加恩緩至明年秋收後徵收其南昌等縣帶徵錢漕並著按年遞緩以紓民力該部知道摺併發欽此

558 嘉慶七年七月十七日內閣奉

上諭前據陶麟奏查明猗氏等四縣被水情形當經降旨令該撫悉心詳勘有應行加恩之處即據實奏聞茲據該撫飭委道員勘明猗氏縣共被水地

一十九頃八十四畝聞喜縣共被水地三頃七畝零安邑夏縣查明並無被水地畝至該四縣坍塌房屋淹斃人口均經該撫給予修費並費乏食貧民亦俱照例撫卹小民自不致失所但念該處被水地畝晚禾既經淹損即補種雜糧亦須重費籽種且豐歉尚未可定所有此項被水地共二十二頃九十一畝本年下半年應徵錢糧著加恩緩至來年麥秋後徵收以紓民力該部知道摺併發欽此

559 嘉慶七年七月十七日奉

旨秦承恩著充會典館纂修官欽此

560 頃據保寧告稱本日

召見面奉

諭旨派秦承恩充會典館纂

令臣慶桂董誥書寫

諭旨臣等謹遵

旨擬寫進

呈謹
奏

七月十七日

561 臣等查新陞道員章銓所遺廣東韶州府知府
係屬選缺應歸吏部辦理謹

奏

七月十七日

562 嘉慶七年七月十七日奉

旨著交刑部欽此

祿康等奏湖北民婦張李氏控案

563 軍機大臣 字寄

兩江總督費 河東河道總督吳 嘉慶七年

七月十八日奉

上諭據費淳等奏河水盛漲分投督防各工搶護平
穩伏汛安瀾一摺覽奏實深敬慰此次黃沁兩河
發較其蕭南雁之田家樓舊工以下溜勢尤為

端急直注王家店至丁木集一帶刷去堤坡並有
堤身潰塌數尺及丈許者經吳政督率河員趕緊
搶築竭三晝夜之力始將十五里危急之堤得以
保守無虞所辦尚好刻下正屆秋汛之期較之伏
汛溜勢自稍平緩然亦不可畧涉大意費淳吳政
等仍當督同道將應汛各員小心防守務期各工
均臻鞏固一俟節交霜降普慶恬瀾奏到時再降
恩旨將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

564 嘉慶七年七月十八日內閣奉

上諭和寧奏遵旨查明嘉慶二年曹工漫溢沙壓糧
地內除濟寧鄒縣等八州縣並臨清濟寧二衛沙
壓尚輕惟曹單二縣沙壓熟地積深四五尺難望
開墾其無著錢漕應請豁免以紓積累等語著加
恩將曹單二縣沙壓地八百三頃四分零每年該
糧銀一千九百五十一兩九錢零漕米一百四十
五石二斗零自嘉慶七年為始概行豁免該部知
道摺詳發欽此

565 嘉慶七年七月十八日內閣奉

上諭和寧奏請將東省上年被災地方帶徵錢漕並
應補糧穀分別徵緩一摺該省臨清等處自上年
被水後民氣尚未全舒雖本年麥收最稔秋成亦
可望豐收而以積年帶徵之款同時並徵閭閻不
無竭蹶著照所請臨清館陶武城邱縣夏津聊城
堂邑清平博平茌平高唐莘縣恩縣陽穀朝城東
阿平陰長清范縣濮州冠縣觀城汶工德州平原
等二十五州縣德州臨清東昌三衛除本年錢糧
照例徵收外所有應行帶徵嘉慶二年及五六年
錢糧祇須帶徵一年其餘均著加恩按年遞徵又
德州長清平原東阿平陰汶工陽穀濮州范縣觀
城聊城聊城堂邑博平茌平清平莘縣冠縣高唐
恩縣等二十州縣本年應帶徵六年分米麥豆二
萬九千餘石臨清館陶武城堂邑高唐冠縣恩縣
夏津邱縣等九州縣本年應帶徵買補抵額耗豆
八千餘石均著加恩自本年起分作二年帶徵以
紓民力再東省各州縣本年應行買補運^運割糧及
四分之一漕糧暨缺額穀石若令三項同時採買

未免市價驟昂有妨民食並著加恩將應買割糧
緩至明年再買其水次州縣現須買補四分之一
漕糧者所有缺額穀石亦姑緩其買補以示朕軫
念民依恩施無已至意該部知道摺併發欽此

566 軍機大臣 字寄

欽差侍郎祖 給事中汪 嘉慶七年七月十八日奉

上諭本日刑部奏訊問金鄉縣武生李長清呈控各
情據供此案人証提集到省時巡撫委濟南府德
生候補同知張金榮並運判鍾鳳騰審訊經張
冠三賄屬縣房書吏將從前攻訐買考原卷藏匿
並將李玉燦李玉理等掌責打板擗耳跪鍊加以
刑夾逼令將李涑陽呈出伊祖李文士攻訐買考
底稿証認假捏朦混詳司迨藩臬兩司會審時李
玉燦等供稱呈底實係李涑陽家舊物李涑陽不
敢翻供經兩司將李涑陽夾訊即供明呈底屬實
前日畏刑証指為李玉燦等捏造張同知見李涑
陽等翻供求司發回又晝夜刑求仍逼令証認拖累
紳士一百餘人等語此案原係特旨交和寧秉公

殊

究辦早應親提案証速行審訊乃迄今三月尚未
審結僅假手委員任情誣逼並據供藩臬兩司以
經刑訊而李長清供內並未提及巡撫一語豈和
寧於特交事件竟誣為不知一聽屬負辦理耶並
聞和寧在署惟以文墨為事托於高雅屬負有不
輕易接見恐於地方公務不無廢弛若祖之望等
留心察訪如果屬實即當據實奏奉若此案儲臬
兩司有扶同徇庇情弊並著一併查恭祖之望等
不可因事阻遁者大負有意消弭稍為徇隱倘不
能秉公審出確情剖伸冤抑設案內人証負壓釀
成人命復經來京控告或被他人劾彼時朕另派
大員前往查辦即祖之望等止不能辭咎將此語
令知之欽此遵

旨寄信前來

567 嘉慶七年七月十八日奉

旨此案著交侍郎祖之望等提集案內人証秉公審
訊所有原告李長清著照例解往山東歸案備質
欽此

568 軍機大臣 字寄

山東學政劉 嘉慶七年七月十八日奉

上諭前據劉鳳誥奏金鄉縣皂孫冒考一案當即降
旨令和寧秉公審辦迄今三月尚未審結昨經給
事中汪鏞奏承審此案官員有將原告刑逼認
誣等情因派令祖之望汪鏞前往查辦嗣又據都
察院衙門奏據山東金鄉縣武生李長清以違旨
袒皂強逼認誣等事具控當交刑部審訊令該部
錄取李長清供詞據稱張敬禮係皂隸之孫承審
官任意徇徇將原告人等疊肆刑求逼令認誣該
縣紳衿波累至一百餘人之多顯有袒護情弊此
案既經該學政奏於前其中情節自必訪問確
切或從前李玉燦等所控不實該學政據以入奏
亦尚無不合倘皂孫冒考屬寔而承審各官有心
袒庇延至三月之久波累多人自必衆論沸騰劉
鳳誥豈無所聞務當和盤托出固不可因有前奏
心存迴護更不可瞻顧地方官稍涉含混該學政
此時自必按考外郎即若由驛據寔覆奏將此傳
諭知之欽此遵

旨寄信前來

569 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣提督吉 嘉慶七年七月十日奉

上諭清安奏安南阮藩被農耐侵逼欲叩關投納

一摺據稱接太平府稟報阮藩陪臣大司寇帶兵

駐新州與農耐打仗被農耐截殺殆盡阮藩在昇

隆城督守農耐兵力強盛孤城勢難支持擬率親

臣衛士叩關求投等語想吉慶接到地方官稟報

自必一面具摺陳奏一面馳赴鎮南關督辦一切

現在清安奏已奏明前往該處稽查防範現又諭

令孫玉庭速赴廣西會同安辦吉慶係該省總督

即應迅速赴彼確探情形如阮先續或尚能支持

或被農耐截留不能至關自可置之不問倘伊率

屬內投即應照從前黎維祁之例妥為安置資給

廩食如阮先續籲請助兵吉慶不可遽允所請先

將伊如何聲請之處據實奏聞候旨遵行至農耐

至農耐係何人主事其兵力究竟若何伊素與阮

先續構釁尚知恭順天朝阮先續既投入內地如

農耐不放前來索取則已萬一阮先續入關農耐

硃 硃

或指名求索亦當察其情詞若何倘竟敢稱兵境
上自不可稍為容貸若情詞恭順即當速行馳奏
朕再為囑再為區處吉慶到彼後務當與孫玉庭酌量情
形熟籌安辦並於各關隘酌屬嚴防毋稍疎懈如
吉慶孫玉庭保已到彼即可令清安奏回省以資
彈壓並料理地方事務將此由五百里諭令吉慶
並諭清安泰知之欽此遵

旨寄信前來

570 軍機大臣 字寄

廣西巡撫派 嘉慶七年七月十八日奉

上諭本日據清安奏安南國王阮先續被農耐侵

逼敬關內投等語現已諭令吉慶馳往廣西督同

清安泰妥為酌辦孫玉庭係該省巡撫昨經降旨

俟同興抵湖北接印任事後孫玉庭再馳赴廣西

新任茲該省有阮藩被農耐攻逼懇請內投之事

同興日內即自京起程孫玉庭不必俟同興到有

交代即將布政使印信委員賈文同興接受一面

馳驛如緊速赴廣西與吉慶清安泰面晤會商遵旨安

辦將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

硃 硃

571 查廣西護潯安泰業已

奏明前赴鎮南關而提督吉慶及新任巡撫孫玉
庭亦均奉

旨令其前赴該處廣西省城僅有臬司一人恐不足
以資彈壓臣等謹于

諭旨內擬寫俟吉慶孫玉庭到後令清安泰回省料
理地事務伏候

訓示謹

奏

七月十八日

572 嘉慶七年七月二十日內閣奉

上諭朕此次巡幸木蘭舉行秋獮肆武之典向未蹕
路所經俱將今年應徵錢糧豁免十分之三但思
直隸州縣上年被水較重現在經過地方雖非灾
重之區而低窪地畝亦曾被淹浸且沿途辦理道
路橋梁民力恐不無拮据著加恩將今年錢糧寬
免十分之五以示朕格外施仁至意欽此

573 軍機大臣 字寄

山東巡撫和 嘉慶七年七月二十日奉

上諭前因直隸地方有蝗蝻滋生山東係接壤之區
或恐亦有蔓延當經連次降旨詢問和寧諭令確
查具奏今據和寧覆奏德州等十二州縣果有飛
蝗暫落蝻孽萌生處所等語該處既有蝻孽萌生
宜有不長翅飛騰損傷莊稼之理若非朕降旨詢
問該撫未必即將蝻孽情形據具奏至所稱
泰安以下即無蝗孽聞係由日照縣入海等語朕
亦聞有此說但恐未必盡數入海現在該省有蝻
處所是否撲捕淨盡著和寧嚴飭地方官遵照前
旨趕緊設法撲淨知田禾業有被傷成灾之處著
和寧詳細確查據實覆奏候朕加恩毋得再事諱
飾其不行申飭之地方官亦著查明參奏將此諭
令知之欽此遵

旨寄信前來

574 軍機大臣 字寄

兩江總督費 江蘇巡撫岳 嘉慶七年七月

二十日奉

上諭朕前因直隸境內有蝗蝻滋生即慮及山東接壤之區或有蔓延並恐其飛入江南邊境當即降旨查詢茲據和寧奏稱山東德州迤南一帶州縣均有飛蝗降落並遺生蝻于該省南界即與江南徐州府屬之豐沛蕭場地方毗連和寧摺內現稱聞江南境內亦有飛蝗等語何以該省督撫並未奏聞著貴淳兵起即嚴飭地方官確查查明究係何州縣曾有飛蝗入境木稼有無損傷如有遺蝻萌孽之虞即飭令趕緊撲打或令百姓自行撲捕易以錢米勿令滋蔓一面迅速覆奏不可稍有諱飾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

575 嘉慶七年七月二十日內閣奉

上諭馬慧裕奏疎脫要犯之安陽縣知縣張丕緒請旨革職一摺此案盜犯張三鬍子即張斌係張標案內夥劫要犯罪應斬梟逃竄多年未經弋獲今在安陽縣境內藏匿該捕役尚能留心緝獲旋

被楊二小等搶奪脫逃并將捕役傷斃該縣並不上緊追拿且遲至一月有餘始行詳報實屬怠玩不職除已獲拿犯殺差之楊二小白五二犯著該撫嚴審定擬并將未獲張三鬍子等犯飭屬嚴緝務獲外安陽縣知縣張丕緒著革職留於地方勒限協緝如限內緝獲則已倘逾限不獲即著照例治罪其近在同城不能督緝防範之知府伍靈阿並著文部議處該部知道摺併發欽此

576 嘉慶七年七月二十一日內閣奉

上諭顏檢奏直隸大城縣知縣汪如潮係伊婿汪世柄親叔試用府經歷汪世杓係汪世柄胞兄雖例無迴避明文但迺涉嫌疑懇請迴避另補等語著照所請准其改掣隣省分別補用該部知道摺併發欽此

577 軍機大臣 字寄

雲貴總督琅 嘉慶七年七月二十一日奉
上諭琅玕奏官兵攻克迴龍廠將屯聚賊匪勒散並

殊

擒獲首逆親屬等一摺據傅樹吉吉尼一帶綠林
 當恒乍網滋事之時報糾同江外夷匪將逆龍廠
 燒搶屯聚山內並與附近之白石崖阿羅蓋二廠
 賊寨互相勾結經琅玕督飭將備分路進兵以次
 攻克斬獲夷匪三百餘名並將要犯瓦挖等十名
 擒獲正法現因大竹菁工江二處賊匪尚多皆惟
 進勒等語標標夷匪敢於熱槍居民有心抗拒自
 不得不加以勒辦至吉尼等處夷匪等如果聞風
 震懾悔罪未投獻出首逆即可就此罷兵撤事今
 琅玕以大竹菁及工江二處俱有賊匪藏匿必須
 分投進攻併力圍剿此等處人若係係此把官或成匪者不可不設法剿辦豈欲將夷寨次第勒淨單
 庭掃穴而後已乎此時所重祇在首逆恒乍網斷
 不可任其免脫琅玕惟當密派頭人等設法擒拿
 並曉諭江外順夷幫同縛獻如一經就獲則渠等
 已得其餘夥黨自必畏懼輸誠即可置之不問况
 恒乍網之親屬業經兵勇擒獲明正典刑已足以
 中國威而示懲創琅玕當逆照前旨察看情形妥
 為辦理不可窮兵贖武希冀邀功以致難於罷兵
 轉成蛇足為要又另片所保出力喇嘛三人此等

喇嘛既恭順畏法且肯認真出力自應再加恩養
 除琅玕已賞給外當再查明伊等係黃教紅教賞
 給緞疋各視其教之色此內管事居前者賞給大
 緞四疋其餘各賞給大緞二疋俱著傳旨分賞以
 示獎勵所賞緞疋即由琅玕處給發其摺內陣亡
 十提黃元吉著加恩咨部賜卹將此由五百里諭
 令知之欽此遵

寄信前來

578 嘉慶七年七月二十一日內閣奉

上諭全保奏湖北公安等縣被水情形一摺本年荆
 襄一帶江水盛漲濱江堤垸多有漫溢地畝被淹
 秋成未免歉薄窮黎生計不無拮据殊深軫念所
 有被水成災之公安松滋江陵監利漢川天門潛
 江鍾祥八縣本年秋徵地丁銀兩及應行帶徵錢
 糧俱著加恩緩至明年表收後再行開徵以紓民
 力此內公安潛江二縣業經該撫遵旨先行撫卹
 一月口糧其松滋之下八都三處江陵之六節工
 二處與公安毗連亦著一併加賞一月口糧用資
 接濟該部知道欽此

湖北巡撫全 嘉慶七年七月二十一日奉

上諭全保奏勘明公安潛江等州縣被水輕重分別

一摺所有公安等八縣已加恩降旨緩徵並將

松滋江陵之被水村莊一併賞給一月口糧矣但

此內公安松滋潛江三縣被水情形較重恐緩徵

尚不足以紓民困如有應行給賑及蠲免之虞該

撫即據實續奏再降恩旨又另摺奏德安黃州漢

陽武昌四府屬欠未得有透雨田禾多有黃萎等

語楚省荊州安陸所屬被水成災今漢黃四府又

復苦旱該省現在軍務將次告竣若收成歉薄水旱交侵

黎或致失所所關匪細全保務須詳慎查勘無論

水旱地方體察民情如有應須撫卹之處即多方

籌辦提使窮民不致失業除匪不能為結別滋事端不可存惜費

之見此為至要即如全保摺內務被水各州縣應

修堤垸趕緊修築俾附近居民得以工代賑此即

現在該省應辦急務該撫即督率地方官認真辦

理以收實效其中有民修之工刻下民力拮据即

官為借項興修今年徵還亦無不可將此由四百

里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

580 嘉慶七年七月二十一日內閣奉

旨這所參任聽書役剋扣堤費之知縣張統緒著革

職交該撫提同書役家丁及夫頭人等嚴審定擬

具奏欽此

581 查向例各省參劾屬員遇有督撫同城者係撫

參督審督參撫審如不同城者仍交原參督撫

審辦茲全保奏公安縣知縣張統緒任聽書

役剋扣堤費一案其同城之提督吳熊光現在

房縣一帶辦理軍務是以臣等於擬寫

諭旨內仍交該撫審辦謹

奏

582 臣等遵

旨將乾隆二十三年及二十五年五十年五十九年

因日食所奉

諭旨恭錄進

呈謹

奏

七月二十二日

583 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年七月二十三日奉

上諭本日遞到王汝璧由驛馳奏摺面朕恐該省雨澤稍稀田畝或致被旱正切履懷及披閱奏摺知省城並所屬州縣均已得雨覽之欣慰但據稱省城地方於七月初七日得雨二寸又於初十日得雨二寸有餘等語二寸之雨本未深透且自初七至初十日中間又閱二日恐扶雨之後土脉乾燥前後雨澤未必足資接濟即各屬地方該撫祇稱均於六月杪七月初得雨一二三四五寸及深透不等並未將何處業已霑足何處尚未深透詳細聲叙且摺內先稱六月下旬雨澤稀少而各屬州縣內又有於六月二十八九等日得雨者所奏總未明晰該省得雨本已稍遲茲據奏稱連日雲勢

旨寄信前來

濃厚現在曾否續獲甘霖田禾是否足資滋長者王汝璧即行迅速查明詳悉覆奏倘有一二雨澤不敷之處即應據實陳奏候朕加恩不得稍有諱飾將此諭令知之欽此遵

584 軍機大臣 字寄

江西巡撫張 嘉慶七年七月二十三日奉

上諭前據張誠基奏報江西省南昌等府屬被旱情形當經降旨將被旱各屬應徵錢漕分別緩徵並諭令該撫率屬齋心祈禱以期速霽甘霖本日據王汝璧奏稱安徽各屬於六月二十八九等日及七月初旬先後得雨自數寸至深透不等並稱連日雲氣濃厚尚可續霑膏澤等語內如祁門婺源等處俱與江西接壤該省曾否一律均霑並此外各州縣有無得雨之處著張誠基即行查明迅速馳奏以慰廑注將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

585 軍機大臣 字寄

湖北巡撫全 嘉慶七年七月二十三日奉

上諭前據全保奏湖北武漢黃德四府屬日久未得
透雨田禾不無乾旱朕心深為懸慮本日據王汝
璧奏報安徽省六月雨澤稀少茲于六月二十八
九日及七月初旬宿松等各州縣俱中報得雨數
寸至深透不等並稱連日雲氣濃厚尚可續沾膏
澤等語內如潛山太湖即與湖北之黃州府接壤
是否同時一律均沾及此外武漢各府屬近日曾
否得霽甘霖秋成有無妨礙全保即查明迅速奏
聞以慰朕軫念民依至意將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

586 嘉慶七年七月二十四日內閣奉

上諭新調盛京刑部侍郎穆克登額原係兼管奉天
府尹並威遠堡等六關口事務今思奉天府衙門
及六關口均有與該處刑部交涉案件穆克登額
既經調任刑部自未便仍令兼管所有奉天府府
尹事務著德文兼管威遠堡等六關口事務著花
尚阿兼管欽此

587 嘉慶七年七月二十五日內閣奉

硃

上諭朕前聞廣東博羅縣有重犯越獄知縣劉嘉穎
不行詳報臬司陳文及該管知府扶同徇隱復告
知藩司將該縣典史調補烟瘴示罰又粵東駐劄
銀兩按縣攤派批解臬司作為陋規吳俊在任時
曾經收受陞任起程時又派此項以作路費等事
當經親書密諭令吉慶瑚圖禮密查具奏朕以此
事尚屬風聞虛實未定茲據吉慶等查明覆奏皆
係實事將藩臬府縣等分別奏革並自請嚴議
前來披閱之下殊堪感嘆史源案各省設立督撫原以
糾察屬吏惟在見聞周密有弊必除庶屬員等知
所儆懼吏治自臻整肅若必待朕先有所聞降旨
詢問督撫始行查辦則安用督撫為耶試思四海
之廣臣民之衆為人君者安能一一周知雖以堯
舜之君達聰明目設無九官十二牧為之分職亮
功亦何能從欲以治乎今粵東吏治若此而言慶
瑚圖禮竟情然不覺直至朕指出情節嚴切密詢
伊二人始訪查得實以至類推則各省似此通同
舞弊之事或更有大於此者未經朕聞知查詢因

殊

循不辨又不知凡幾矣知人之明用人之難朕責愧且懼惟法比來治之善也至外省一切隨規早應隨時禁革粵東駐罰為名按缺派送銀兩相沿已久督撫並不查辦一經朕詢問始據實陳奏可見此等隨規未經革除者尚復不少今既經發覺即不能置之不辨所有博羅縣紋犯越獄一案知縣劉嘉穎私稟臬司匿不詳報竟敢有意消弭情殊可惡今案犯業已拏獲姑著照所擬革職發往伊犁効力贖罪典史李清係官獄官並不心防範以致要犯脫逃亦著革職發往軍臺効力贖罪惠州府知府伊秉綬係親臨上司任聽該縣匿報不行揭奏著革職惠湖嘉道胡克家於所屬越獄重案不行揭報著交部嚴加議處藩司常齡經陳文告知此案並不照例揭奏將該典史改調烟瘴地方調停其事著先革去頂戴仍交部嚴加議處臬司陳文於路過惠州時該縣已將監犯越獄之事面稟陳文並不揭奏亦未令其通稟且經收受賄罰銀兩陳文前因年老難勝臬司之任已令其來京候旨即著革職交刑部審訊治罪現在行抵何處即著該省督

撫派員管押來京陞任山東藩司吳俊於廣東臬司任內既經得受賄罰銀兩起程時又復將此項派充路費亦著革職令祖之望委員管押來京交刑部審訊治罪吉慶瑚國禮於所屬匿報重案及收受隨規湯無覺蔡直同木偶均著交部嚴加議處嗣後各督撫於地方吏治務當隨時訪察釐剔弊端如有作奸犯科之事即當據實嚴奏不得徇情袒庇亦不可為屬員朦蔽以期大法小廉副朕澄叙官方至意摺併發欽此

588 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 嘉慶七年七月二

十五日奉

上諭據吉慶奏安南貢使稱奉國王之命欲于抵東境後赴轅致謝並進贄見經吉慶批諭以該陪臣尚未瞻覲天顏未便接見並將贄見駁回所辦尚是安南與農耐現在交兵本月十八日據清安奏到安南之兵被農耐截殺既藩力不能支孤城難守現欲叩關投納等語該陪臣等或即因希冀

天朝業兵幫助故先借此輪款前已諭令吉慶馳往鎮南關督辦一切業經詳悉指示該省到關後一切惟當遵照前旨妥辦現在阮光緒曾否到關並顯請助兵農耐曾否指名求索俱著隨時迅速具奏至另片奏據黃標稟稱現在盜船四十餘隻俱被阮藩羈留防守港口等語安南與農耐交兵借盜船自助此等盜匪或被農耐殺害正可稍戢海氛伊等鑿觸相爭不必置問若盜船闖入內洋則仍當嚴拏按例辦理至黃標現在帶兵在洋吉慶當傳該鎮惟當以緝捕為事不但農耐與天朝素無交涉設有所請不應幫助即安南有乞兵求助之事該鎮亦斷不可輕允又另片密奏查訪高溪字樣一事該省既查安南所屬白龍地方有高溪村又龍門所屬瀨州海島內舊有高溪廟兩處一條荒地一條外洋皆盜匪出沒之處看與前此查獲逆詞或即係該處盜匪編造並有會匪勾結亦未可定自當嚴拏究辦但須飭令該處地方官留心密訪不可稍有宣露致令遠颺為要將此傳諭吉慶並諭瑚圖禮知之欽此遵

此件未做

589 嘉慶七年七月二十五日內閣奉

上諭山東布政使員缺著廉基田補授不必未請訓著即前赴新任將該省倉庫錢糧及一切地方事件清理數月後酌量於冬間再行奏請陛見欽此

590 嘉慶七年七月二十五日奉

旨這所叅支放兵米遲延之署陸豐縣知縣丁芳洲李應均吳川縣知縣曾光綬俱著交部分別嚴加議處其督催不力之各該管上司並著交部議處欽此

591 嘉慶七年七月二十六日內閣

上諭山東金鄉縣皂孫冒考一案前經學政劉鳳誥恭奏降旨交和寧秉公審辦乃三月之久尚未審結旋據給事中汪鏞恭奏冰審此案官員將原告刑逼認証並據武生李長清在都察院衙門控告交刑部訊問錄供具奏朕以此案劉鳳誥恭奏於前今該省地方官挾私偏聽該學政豈無見聞諭令據實查奏茲據劉鳳誥覆奏此案金鄉縣皂孫

張敬禮等冒考經李玉璩攻揭及舉人王朝駒等呈控該學政按試兗州訪問該處生童僉稱是實且乾隆七年二十年張姓子孫冒考曾有兩次斷逐舊案控詞底稿現存至驗乃承審官有心黨庇並不追究被告人證轉將原告刑求控辱誘令將呈稿燬滅威暑咎甚並株連鄉紳士械繫多人衆心飲泣士論沸騰且以奉旨解任之知縣汪廷楷不行質審竟令其借捕蝗為名回縣協同署任提拏人證報復搜求尤堪駭異除此案已交祖之望等秉公嚴審外和寧自任山東巡撫聞其日以文墨為事於屬員亦不輕易接見朕即恐其於地方不無廢弛今以奉旨特交事件並不親提審訊一聽委員偏袒徇私任情誣枉伊若罔聞知直同木偶即此一節已不勝巡撫之任和寧著即解任未京候旨所有山東巡撫員缺著祖之望補授欽此

592 軍機大臣 字寄

欽差侍郎新授山東巡撫祖 給事中汪 嘉慶七

年七月二十六日奉

上諭山東金鄉縣皂孫冒考一案前經給事中汪鏞參奏後復有該縣武生李長清控告降旨令祖之望切實跟究本日據劉鳳誥奏稱此案皂孫冒考核實和寧于奉旨交審後任聽委員張繼榮開脫被告不審轉將原告非刑鍛鍊成逼偽供該學政曾面見和寧囑其勿受屬員蒙蔽又知縣汪廷楷于解任後仍借捕蝗之名公然回縣等語現將劉鳳誥將証審情形詳悉告知和寧何以甘受蒙蔽形同木偶且知縣汪廷楷係奉旨解任之負理應歸案質審乃轉以捕蝗為名令其回縣且署同署任之負搜拏人証肆意吹求致將無辜士民種種折挫是誠何以除已明發諭旨將和寧解任外著祖之望等將以上指出情節向和寧詰訊一面具摺嚴參一而飭令未京候旨又朕前聞東省有飛蝗入境禾稼受傷之事節次降旨令和寧詳查而和寧祇稱濟寧等縣間有飛蝗並不傷損禾稼今據劉鳳誥奏稱禾稼實有受傷之處恐減秋收分數等語省一帶雨澤久稽微露早象等語是和寧竟屬袒庇屬員有心諱飾現在已將祖之望補授

山東巡撫呈著^{均即}向和寧詰訊仍查明何處未稼受傷應否加恩及近省地方現在曾否得有雨澤併據實具奏將此由四百里諭令知之劉鳳誥原摺并著抄寄閱看欽此

593 軍機大臣 字寄

山東學政劉 嘉慶七年七月二十六日奉

上諭據劉鳳誥覆奏金鄉縣皂孫冒考一摺覽奏俱悉此案皂孫冒考經朕發交該撫審辦和寧並不秉公親審任聽承審之員濫刑枉斷挫辱士林即此一端已不勝巡撫之任現已明降諭旨先將和寧解任諭令祖之望等將此案詳細審辦至劉鳳誥摺內稱伊於回省途次知問官非刑鍛鍊面見巡撫即以此案非可刑求囑其勿受朦蔽等語是山審辦此案種種不實甚至械繫株連任情波累劉鳳誥皆所稔知伊既告知巡撫何不據實奏奏非畏懼地方官而何幸朕因給事中汪鏞陳奏及武生李長清控告之詞特派大員前往審究并向該學政嚴切詢問始據該學政和盤托出若無汪

鏞奏奏及該省控告之人朕不降旨詢問劉鳳誥豈遂將黑不一言坐視該處紳士等酷暑受刑晝夜挫辱乎劉鳳誥著傳旨申飭又另片奏飛蝗過境未稼受傷等語亦已另有旨查辦矣將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

594 嘉慶七年七月二十六日內閣奉

上諭姜晟前在直隸總督任內為日未久上年永定河決口因而水成漲人力難施初非有心疎玩而積年辦工貽誤並非始自姜晟其各尚屬可原且伊前任湖南巡撫時經理苗疆事宜頗為妥協前經賞給刑部主事旋以負外郎陞用今祖之望已授山東巡撫所有刑部左侍郎員缺著初彭齡轉補姜晟著加恩賞給四品頂戴補授刑部右侍郎欽此

595 嘉慶七年七月二十六日內閣奉

上諭倭什布前在湖北督撫任內經額勒登保德楞

恭奏辦理糧餉遲悞革職拿問交軍機大臣會同刑部重擬嗣經審明任什布在湖北亦係親身帶兵非專辦糧餉之員其軍營糧餉偶有缺乏祇因經理不善並非有心玩悞量擬發往軍臺効力經朕加恩賞給革帖式發往陝西當差念伊前任陝西藩司時官聲尚好俟什布着加恩賞給四品頂戴補授山東布政使即來京請訓再赴新任其未到任以前山東布政使印務着陳鍾琛署理所遺按察使印務着崔映辰署理欽此

596 嘉慶七年七月二十六日內閣奉

上諭廣東惠州府知府員缺著楊楷補授欽此

597 嘉慶七年七月二十六日內閣奉

上諭廣東布政使常齡現因該省博羅縣匪報越獄一案已降旨革去頂戴交部嚴議將來自應開缺著即來京聽候部議所有廣東布政使員缺著康基田補授不必來京請訓即前赴新任將該省倉庫錢糧及一切地方事件經理教月後再行奏請
陸見欽此

598 查昨日所奉將康基田補放山東布政使諭旨一道係文

行在內閣由明日本報發京交在京吏部行文知照
尚味今已傳抄今已撤回謹

奏

七月二十六日

599 嘉慶七年七月二十七日內閣奉

上諭本年駐蹕熱河綠營兵丁一體當差著加恩賞給一月錢糧欽此

600 查向來

聖駕駐蹕熱河欽奉

恩旨綠營兵丁俱賞一月錢糧此次謹查照向例擬

寫

諭旨進

呈伏候

欽定謹

奏

601 嘉慶七年七月二十七日内閣奉

上諭張若淳現在患病著加恩賞假調治所有刑部尚書著熊枚暫行兼署至張若淳奉沐留京辦事即病勢就痊後亦著專辦刑部事務其留京辦事著改派劉墉欽此

602 嘉慶七年七月二十七日奉

旨崇文門正監督著恭阿拉去欽此

戶部奉

603 同日奉

旨崇文門副監督著巴寧阿去欽此

內務府奉

604 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 廣西巡撫孫

嘉慶七年七月二十七日奉

上諭據清安奏接據太平府知府王撫棠等稟報

本年六月內農耐阮種攻打昇隆城阮光纘敗走

味

被獲阮種入城自立阮光纘之弟康公被追自刎
鎮目恭儒許陣亡其軍士皆已束手投降阮光纘
眷口亦全被擒獲等語前因阮光纘為農耐所逼
欲圖內投兼慮農耐有指名求索之事是以即經
降旨令吉慶孫玉庭前往鎮南會同妥協經理茲
阮光纘業已全家被獲自無敏關求納之事但邊
關緊要尚須大員坐鎮現在清安奏途次得信業
已回省即令其辦理地方事務吉慶孫玉庭仍應
前往鎮南關察看情形督率地方文武各員嚴密
稽查小心防守至外夷自相吞噬原與內地無涉
不但安南失國之事不必過問即農耐佔據以後
是否即行請封聽其自處聽不必預為探問如果
阮種有納款請封之事或有別表再行奏聞請旨辦
理至阮光纘被獲後阮種曾否將伊殺害或仍拘
禁何處吉慶等如得有實在信息隨時奏聞再阮
光纘既經失國其前此齎貢使臣未便再令來京
進貢已降旨諭令沿途督撫于該貢使行抵何處
即轉飭伴送之員告知該貢使以伊國內現在
有事仍令轉回鎮南關面見總督巡撫該貢使到

關時自必知安南失國消息著吉慶等酌量於鎮南關一帶地方暫為安插並看其情形若何有何衆懇之實即行具奏將此由四百里傳諭吉慶孫玉庭並諭清安泰知之欽此遵

旨寄信前來

605 軍機大臣 字寄

直隸山東江蘇安徽江西廣東各督撫 嘉慶

七年七月二十九日奉

上諭據清安泰奏安南與農耐構兵國王阮元繼現被農耐阮種擒獲阮種已入昇隆城自立等語本年阮元繼遣使進貢經吉慶等奏明令該貢使由廣西廣東江西安徽江蘇山東直隸一路行走進京嗣據奏報該貢使已于五月內進鎮南關六月中旬入廣東境令該國業已失守該貢使自未便令其來京現在行抵何處著該督撫即令伴送官傳諭告以該國現在有事爾等不必進京即回至鎮南關面見巡撫聽其指示至該國失守情形且不必詳細告知該貢使於何處轉回並著該督撫邊便奏聞將此由四百里諭令知之欽此遵

殊

旨寄信前來

606 軍機大臣 字寄

署直隸總督顏 嘉慶七年七月二十九日奉
上諭顏檢奏順德府知府一缺請旨于吳兆熊盛悌復孫樹本三員內簡放一員等語所奏非是順德府缺應歸部選部中自有例應銓選之人吳兆熊等三人如實係得力之員直隸自有題缺知府可以保奏今該署督遽以選缺知府請補于吏部銓法殊有妨碍所奏不准行將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

607 軍機大臣 字寄

浙江巡撫阮 嘉慶七年七月二十九日奉
上諭阮元奏浙江省雨澤稀少情形一摺據稱杭州省城自六月初九日以後至七月初旬間得陣雨皆未深透其餘各府屬得雨優絀不齊而衢金嚴處四府尤為缺乏等語朕心深為屛念浙東山田缺而易形乾燥早禾難望有收若此時即得透雨則中晚二禾尚可及時長發並可改種雜糧藉資接濟阮元務當率屬虔誠祈禱以期速沛甘膏並

着察看情形如有被旱成災處所即行詳細查明
據實具奏候朕施恩毋得稍有諱飾至所稱各屬
糧價增長現在酌動倉穀減價出糶自應如此辦
理惟在督飭屬員實心經理以濟民食而平市價
將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

608 嘉慶七年七月二十九日內閣奉

上諭湖北督糧道員缺著張映漢補授欽此

609 嘉慶七年七月二十九日奉

旨這所叅侵虧公項之試用知縣林鳴岡著革職交

該撫嚴審定擬照例辦理欽此

610 嘉慶七年七月三十日內閣奉

上諭刑部尚書張若溥本係世家歷任卿貳供職有年小
心謹慎自擢授尚書以來辦理部務均尚妥協茲
聞溥逝深堪軫惜張若溥著加恩晉贈太子少保
其任內降罰處分悉予開復所有應得卹典仍著
該部察例具奏欽此

611 嘉慶七年七月三十日內閣奉

上諭刑部尚書員缺着熊枚補授汪承霈着調補部
察院左都御史不必兼管順天府府尹事務兵部
尚書員缺着戴衢亨補授兼管順天府府尹平恕
著轉補戶部左侍郎其戶部右侍郎員缺着錢樾
調補兼管錢法堂事務曹斌著轉補吏部左侍郎
其吏部右侍郎員缺着李鈞簡調補劉鏞之著轉
補兵部左侍郎其兵部右侍郎員缺着潘世恩調
補關槐著補授禮部右侍郎曹斌李鈞簡平恕現
俱出差其吏部左侍郎着錢樾兼署吏部右侍郎
著劉鏞之兼署戶部左侍郎着潘世恩兼署欽此

612 啟者本日面奉

諭旨現在京中部院辦事人少所有此次補調各堂
官應赴行在謝恩之熊枚汪承霈錢樾劉鏞之等
俱著不必前來俟回鑾時前迎一二站接駕謝恩
欽此專函佈達不一

拜啟

戴衢 劉鏞 汪承霈

七月三十日

613 嘉慶七年七月三十日內閣奉

上諭御史多福等奏內閣考取供事印結官有一人
出結數百張者請旨飭禁以杜流弊等語所奏尚
是考試取具印結原以杜頂替捏冒等弊今內閣
報考供事司官李肆頌等出結自二百張至七百
張不等斷無一人認識如許多人之理自係希得
酬謝小費遂爾濫行保結但念從前未經設有例
禁此次姑免議供事司官李肆頌等出結自二百張至七百張嗣後遇有考試之事印結官必
須與本人素相識認方准出結其所用印信並令
該堂官留心稽查毋得仍前任意浮多以杜冒濫
欽此

614 嘉慶七年七月三十日奉

旨刑部奏案關留養閱擬情實各犯開單進呈一摺
朕詳加披閱萬明意等四起或倚眾兇毆或刃斃
徒手或毆死老人或負欠逞兇情節較重均著照
刑部所奏歸入情實不准留養欽此

615 嘉慶七年七月三十日奉

旨張景運王臣柱石景彭人傑鄒繹均著准其捐復
欽此

616 嘉慶七年八月初一日內閣奉

上諭本年八月朔日食九分有奇望日又值月食朕

仰維

上天示儆兢兢惕厲抑乾惕時深懼無以格

天佑而弭音災因命軍機大臣恭查乾隆年間日食

皇考節次所降德音內載乾隆二十三年十二月朔日

食八分望日亦值月食恭奉

諭旨省過求言仰見

皇考持盈保泰之盛心今一月之間雙曜薄蝕而日食

至九分有奇視八分殆又過之朕觀省躬惟恐用

人行政或有闕失朝夕寅畏莫敢或違而四海之

大萬民之衆或智慮未周德意未孚心甚歉焉凡

內外大小臣工佐襄邳理各宜勤思職業恐懼俯

省尤當齋心研慮於朝廷政治安內寧外之大者

剴切敷陳諫言無隱即如剿捕川楚邪匪一事七

載于茲現在軍營連次克捷雖已將著名首逆殄

除殆盡而一二敗殘遺孽尚在遁誅或應請以兵

威或應迪以德化諸臣苟有真知灼見不妨據陳

事直陳此外政事措施或有未便于民及一時行

之日久易滋流弊者均當指陳利害朕不逮但

不得毛舉擿拾浮言如條陳更改部院則例等事

試思現行則例皆經前人諮謀審定可垂久遠若

其中有應時因變通者我

列祖

列宗早經斟酌盡善朕監於

成憲不敢輕議更張而在廷諸臣才識又豈能遠越前人

輒思更改舊制乎况近日臣工條奏改例之事文

議後往往有格礙難通仍行駁斥者徒勞奏牘於政

事何補若能於國計民生實有裨益俾朕因言求治

可見施行此乃修德之大者至月食修刑見于載

籍但人命至重總當慎憲于平時原不待月食始

懷矜卹况以肆赦為修刑本非善政昔人亦曾言

之我

皇考明降

諭旨申論甚詳誠以刑以輔德道貴協中若狃于救生

不救死之俗論將行克釀命之犯有心輕縱不顧

死者之銜寃是欲博寬大之名而轉失平允之道

所謂修刑者安在夫修刑之實惟當于慎嚴讞時悉

心研究無枉無縱使死者生者兩無所憾方有合於詳慎庶獄之意即停免勾決一聞一舉行閱歲仍當予勾並非施恩以貸奸宄拯之為人君者克儆

天哉修德修刑惟在本身徵民規乎遠大所謂應

天以實不以文朕與在廷諸臣所當交修共勉自大學

士九卿科道及應行奏事者其詳繹諭旨各抒所

見即時陳奏朕將採納焉欽此

617 嘉慶七年八月初一日內閣奉

上諭上年六月間直隸所屬地方雨水連綿河流咸

漲成災州縣一百餘處節經降旨設廠煮賑發帑

截漕蠲緩頻仍優加軫恤今春復予展賑直至五

月初旬始行停止體察民情實已無虞失所惟念

該省上年災區較多今歲麥收雖稔元氣究難驟

復因諭令署督顏檢詳細查勘如各州縣有應再

行加恩之處據實查奏茲據奏到各情形著加恩

將大城河間新河寧晉隆平新安安州七州縣本

年應徵地丁正耗新糧并各項旗租銀兩俱照完

平文安二縣之例一體豁免大典霸州保定涿州

房山良鄉任邱七州縣前項應征糧銀加恩豁免

十分之五餘俟來歲麥收後開徵其應徵節年帶

徵緩徵錢糧仍照例分年帶徵至上年被災各州

縣因災出借常社義倉穀三萬八千七百七十六

石四升米三千石折色制錢二千五百千文又常

借常社義倉并井田屯穀三萬七千六百九十

石米七百四十三石五斗如照例全數徵還未免

稍形竭蹶亦著加恩准予免繳一半其一半亦俟

來年麥收後徵還俾民力益臻寬裕以副朕惠愛

黎元有加無已至意該部即遵諭行欽此

618 據順天府知會本年八月內舉行宗室及八旗

士子繙譯鄉試應請

欽命題目先期

頒發於八月初八日五鼓順天府尹等赴內閣祇領

送入貢院等語查向來八旗士子繙譯鄉試

欽命四書論題一道其滿洲繙譯題由

南書房翰林等預行恭擬封存屆時進

呈蒙古編譯題由^臣等恭檢清字

上諭數道一併進

呈恭候

欽定封發此次鄉試^臣等謹仍遵照辦理外至宗室

編譯鄉試係初次舉行據順天府知會內稱准

禮部文開尚書長麟面奉

諭旨宗室編譯鄉試另行命題等因欽此應請

旨一併命題統俟密封

奏下於八月初三日本報回京寄文留京王大臣敬

謹收存以便順天府尹等臨期祇領謹

奏

八月初一日

619 嘉慶七年八月初二日內閣奉

上諭朱珪著以戶部尚書協辦大學士仍加太子少

保銜欽此

620 嘉慶七年八月初二日內閣奉

上諭山東濟南府知府員缺緊要著祖之望於通省

知府內揀選一員調補所遺員缺著錢杰補授

欽此

621 軍機大臣 字寄

山東巡撫祖 給事中汪 嘉慶七年八月初

二日奉

上諭前據劉鳳誥奏金鄉縣皂孫冒考一案承審官

有心袒庇將原告刑求控辱械繫多人並令解任

知縣汪廷楷復回本任協等入証等情當即降旨

諭令祖之望等據實查奏本日祖之望等奏到查

訪確情與汪鏞原奏李長清控詞及劉鳳誥續奏

情節俱屬相同和寧身任巡撫於特旨交審事件

並不親提研鞠一聽承審之負偏袒徇私任情誣

枉以致株累鄉民紳士酷暑濫刑且知縣汪廷楷

係奉旨解任之負理應歸案質審乃令其兩次回

至金鄉搜等入犯祇知袒庇劣負竟不遵奉諭旨

尤為乖謬至東省飛蝗入境一事前經朕節次降

旨令和寧詳查而和寧祇稱濟寧等州縣間有飛

蝗並不食稼昨劉鳳誥奏稱禾稼實有受傷恐滅

收成數本日祖之望等摺內稱高粱穀子俱為蝗

蝻所食而和寧且謂蝗不食稼作飛蝗行紀事刊

刷通示閭屬守令等語明係和寧誤聽屬負之言

殊

殊

代為諱匿其咎更無可辭前已將伊解任令其回京俟旨該案據祖之望等查明大概情形和寧著交部嚴加議處所有解任之濟寧州知州王彬金

鄉縣知縣汪廷楷教諭黃維慶訓導楊价於皂孫冒者一案拾級降

庶肆意安為難保無受賄聽屬情事俱著革職鎖革訊其去審之濟南

府知府德生候補同知張繼榮膠萊通判鍾鳳騰開脫被告銀錄無辜

俱著革職交祖之望等一併歸案嚴審定擬具奏

藩臬兩司承審此案並不秉公督辦均有應得之咎藩司吳俊已于另案革審臬司陳鍾琛著祖之

望于定案時一併查叅再行交部嚴議至承審各

員如此偏袒徇私恐有賄囑情事或竟由上司指

使著祖之望察為察訪並向委審之員跟訊確切

究竟撫藩臬三人中係何人授意之處據實具奏

勿任含混將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

旨寄信前來

622 軍機大臣 字寄

江西巡撫張 嘉慶七年八月初二日奉

殊

上諭張誠基奏江西省現得透雨一摺覽奏稍慰但

該省自五月中旬以後天時亢旱直至七月初旬

方得透雨未免稍遲該撫摺內稱西成不致全行

失望是已不無失望之處可知並着該撫查明各

州縣內如實有被旱致收應行撫恤之處仍當據

實具奏不可諱飾至另摺奏江西省有未買倉穀

亟須籌備現派員先責銀十萬兩前赴蘇省採買

等語江西省本年中稻歉收晚稻又未能一律插

時恐來春青黃不接之時有須接濟將倉儲必須

買補足額現在江蘇省早稻豐收糧多價平自可

量為採買但隣省採買過多誠恐本省市集糧價

又復昂貴不可不慮現已降旨岳起令其於江西

省委員到時妥為辦理所有原奏十萬石之數能

照數買運固善否則酌量情形或稍減數萬石亦

可該撫務須督率經手之員妥為經理勿任有浮

開冒銷等弊買補之後尤須顆粒歸倉不可任官

吏等弊混將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

623 軍機大臣 字寄

江蘇巡撫岳 嘉慶七年八月初二日奉

上諭據張誠基奏江西省有未買倉穀亟須買補足額現飭委員賈銀十萬兩赴江蘇省採買等語本年江西省中糶歉收不得不越鄰境採買江蘇省糧價較為平減自可量為接濟但鄰境採買過多恐本省市價又復昂貴著傳諭岳起于江西省委員到時察看情形如能買足十萬石之數固屬甚羨否則稍減數萬石亦無不可總期妥協經理于市價民食兩無妨碍為要該省可置若干石之處一函交委員運往一函奏聞將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

624 軍機大臣 字寄

盛京將軍公晉 嘉慶七年八月初三日奉

上諭晉昌等覆奏奉天省雨水年歲等情形一摺覽

奏俱志朕恭詣盛京祇謁

祖陵原以瞻仰

橋山敬修鉅典蒙古王公及在京王公大臣等扈蹕隨行均當敬謹叩謁

陵寢工程自應先期整贍用肅觀瞻即宮殿為臨御之所亦應一律修整而道路橋梁為鑿輅所經者均當妥為除治茲據稱

陵寢一切工程除例定歲修外尚有應修之處皇城宮殿間有傾圮沿山御路有虛架難行之處必須另開山道等語皆係實在情形以上各項工程既難剋期辦理而道路橋梁等項亦不無有藉民力現在川楚軍務即日告竣七年以來所費帑項甚多而盛京本年間有旱澇地方秋成稍形薄是官帑民力俱未寬裕且朕於乾隆四十八年隨侍

皇考恭詣盛京曾經展謁

祖陵歷前此未奉詔吉之諭祇係詢問晉昌等令其酌量具奏未經明降諭旨定於春正前往即前日繼善所奏其言亦不無所見特因其單銜具摺並未向晉昌等會商而所奏漢字摺又用右行顛倒格式是以將伊降為筆帖式今既據晉昌等合詞奏稱辦理不無竭蹶自當再為展期俟明年七月間

另行降旨詢問伊等彼時再酌量具奏所有目前未辦諸務著概行停止其已辦之木植等項均著暫為存貯屆期候旨辦理此時且無庸汲汲也將此傳諭香昌並諭成林等知之欽此遵旨寄信前來

625 軍機大臣 字寄

四川提督豐 嘉慶七年八月初三日奉

上諭本日豐紳由四百里速到馳抵雷波查明夷務情形一摺覽奏俱悉雷波夷匪滋事前令豐紳帶兵前往會同董教增查辦豐紳到彼按察未見有奏報朕心深為懸厯此等關係軍務事件自應由五百里馳奏今由四百里速發未免遲延聞摺內所奏情形此案肇衅漢奸業經董教增按名弋獲豐紳到後懾以兵威其滋事夷人現據土舍稟稱日內俱可全行縛獻看來此事無煩兵力即可剋期完竣一俟案犯獲齊豐紳會同董教增秉公查訊所有案內漢奸審明後即在內地分別辦理祇須將漢奸業經正法之告知夷人不必令其看視

致長刁風至為首濫事夷人務令全行縛獻審明後傳集夷目眼同正法俾知儆畏並取具該夷目不敢再行滋事甘結或即照裁眉之例用木刻傳諭夷衆全行安帖即可竣事豐紳於審辦取結後將辦理完竣情形由五百里馳奏暫駐數日即帶兵起程不必在彼久駐轉致該夷衆心生疑懼其有地方應行安撫禁約等事令董教增多駐旬日料理妥協再行回省至此時川東尚有楚省竄來零星餘匪豐紳統領原帶官兵即前赴川東至勒保軍營幫同搜捕川東軍務緊要不值因雷波細故久稽兵力豐紳於該處事定後速往協剿於歲大功為要將此由五百里傳諭豐紳並諭董教增知之欽此遵

旨寄信前來

626 軍機大臣 字寄

廣西巡撫孫 嘉慶七年八月初三日奉

上諭孫玉庭奏由武昌省城交代起程一摺覽奏已悉前據清安奏安南被阮種佔據阮光績全家

被獲當經降旨諭令吉慶孫玉庭前赴鎮南關督率稽查妥為經理現在清安泰已回省城孫玉庭由楚起程即著先到廣西省城接印任事探明邊境情形應否前赴鎮南關再定行止此時吉慶獲奏之摺尚未奏到想伊接奉諭旨一面自己起程孫玉庭俟吉慶到彼後更可會商一切妥協辦理至阮光燾被阮種獲去之後曾否遇害抑或尚在拘禁阮種自立後該國情形若何孫玉庭探有確實信息即著先行馳奏將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

627 嘉慶七年八月初三日內閣奉

上諭昨經降旨將直隸大城等十四州縣上年災區分別蠲緩並其餘州縣所有出借常社義倉欠繳穀石均予減半帶徵豫顏檢續奏查明保定屬之定興河間屬之景州等州縣間被蟲患收成不無稍減等語著再加恩將定興安肅清苑滿城景州交河六州縣應徵本年地丁正耗新糧亦照大興霸州等處之例豁免十分之五其應徵五分仍俟

來歲麥收後開徵以示朕愷澤均施惟恐一夫失所至意該部即遵諭行欽此

628 嘉慶七年八月初三日奉

旨盛京監昔牛馬稅務著派穆克登額欽此

629 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 署廣東巡撫瑚

嘉慶七年八月初三日奉

上諭茲據頭奏據西洋人索德超等呈稱近接本國在灣門居住之理事官唛喇家信內稱本年五月間有英咭喇大帆船六隻相近灣門停泊恐有覬覦灣門情事懇求轉達總督地方官嚴慎防範等語並將索德超等原呈進呈英咭喇國夷人向來販載洋貨未與交易尚為安靜今據唛喇家信內所叙情形該國有戰船六隻裝有勁兵數千器械器具停泊灣門多日未返如果實有其事灣門密通省城吉慶湖圖禮及三義助斷無不知之理乃自五月至今為時已久從未見該督等奏及此

信恐未必確實其呈稟有灣門人稟訴總督及各衙門之語是否屬實何以事隔數月嗚嚙哆復寄信在京之西洋人懇求轉達豈此項船隻至今尚未出洋或係嗚嚙哆與嗚嚙喇有挾嫌俾聽等情亦未可知著吉慶瑚圖禮察行查訪如吉慶業已起程前赴廣西湖圖禮接奉此旨即派委委員密查五月間是否有嗚嚙喇國戰船在灣門停泊之事現在曾否駛駕出洋並傳到嗚嚙哆詳細詰問得實迅速奏聞所有索德超等原呈著抄寄閱看將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

630 軍機大臣 字寄

內務府大臣尚書 侍郎額 嘉慶七年八

月初三日奉

上諭額勒布奏匿名呈詞一事與等匿名告言人罪之人竊為可惡額勒布既派飭差役嚴密查拏並察訪素有嫉怨之人比對寫呈筆跡自不難從此跟究得實將投遞匿名呈詞之人迅速拏獲訊明

辦理至三格常有有無剋扣歲修銀兩及聽信子弟把持公事等款著總布額勒布一併秉公詳查如有前項情弊即指名參奏不可稍有袒護額勒布家人潘小既已送文刑部審訊額勒布並無不合之處原呈著還以便查對筆跡將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

631 嘉慶七年八月初三日奉

旨常齡于博羅縣絞犯越獄重案既經臬司陳文告知並不據實揭參已屬徇庇後據將該典史改調烟瘴調停其事實屬胆大妄為著即照部議革職吉慶瑚圖禮于臬司借贓罰為不收受陋規及博羅縣重犯越獄匿案不報俱不恭辦直至降旨詢問始行陳奏均屬徇庇吏部議以革任實降旨咎所應得姑念海疆重地一時未便全易生手吉慶著從寬免其革任仍註冊瑚圖禮著從寬改為革職留任至惠潮道胡克家于所屬越獄之案未經揭報咎止失察亦著從寬改為革職留任欽此

雲貴總督琅 嘉慶七年八月初四日奉

上諭琅玕奏官兵剿竣吉尾一帶餘匪即日會剿工
 江擒拏首逆一摺覽奏俱悉據稱吉尾一路並迴龍
 廠附近山箐已經各路將弁逐處剿竣其工江一
 路賊匪猶拏命抗拒屢次偷撲營盤現在官兵
 併力進剿等語賊匪等聞官兵到後尚敢有心抗
 拒並連次攻撲營盤情殊可惡自不得不加以剿
 辦但此案緊要首逆祇係恒乍綸一犯必應擒獲
 其餘皆附近之輩無關輕重此時該首逆潛逃過
 江琅玕惟應將該犯設法購獲在邊境辦理示懲
 即可完結若因該犯一人在江外潛匿即撤調數
 路之兵紛紛過江會剿則江外夷寨甚多必生驚
 駭亦斷無因一犯潛逃即撤調數路之兵紛紛過
 江會剿則江外夷寨甚多必生驚駭亦斷無因一
 犯潛逃將該處夷民全行洗淨之理^新夷民等疑大
 兵會集欲將伊等寨落剿洗因而負隅抗拒亡命奔逃官兵轉
 窮追又將何所底止將來瘴癘之時自應及早撤兵倘大局未完
 難中止竟至兵連禍結尚復成何事體若琅玕稍有避功之見則不但

無功而獲戾矣此時恒乍綸一犯既在江外嘗內藏匿已派張玉龍在
 江口駐劄示以兵威惟應責成薩榮安等選派明
 白曉事頭人向各寨順夷廣為曉諭並懸賞購線
 令將恒乍綸縛獻該夷人畏懼聲威亦斷無不
 獻出之理該犯一經就獲則其黨與自必紛紛瓦
 相率輸誠違境即可藏事又何待窮兵贖武為耶
 又據另片奏四川雷波夷人有燒搶情事該處難民
 紛紛逃至滇省現在孝順阿帶兵往邊界堵禦等
 語雷波夷民與漢奸因地起釁偶有搶奪此不過
 地方案件別無難逆情事現在豐紳董教增到彼
 後該夷人已畏懼懾伏不日審辦完結違境即就
 寧貼琅玕惟當確探川省辦結此案時轉飭地方
 官曉諭難民隨時照護歸里斷不可紛紛調兵堵
 禦稍涉張皇此為竄要其此次陣亡把總朱國良
 及効力武舉陶正陽俱著加恩咨部賜卹將此由
 五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

633 嘉慶七年八月初四日內閣奉

上諭琅玕奏將隨同剿辦獮匪實在出力文武各員
遵旨查明分別酌擬懇恩鼓勵一摺均照所請進
擊富護六十四同知憚變俱著加恩賞戴花翎都
司王雄知州繆習吉守備安朝聘千總陶凱把總
熊夢祥楊德武舉曹得周門占春外委折慶雲王
廣縣丞孫堽典史王鳳儀俱著加恩賞戴藍翎知
縣孫暹經歷王立煜俱著加恩遇有應陞之缺先
行陞用候補知縣傅翰邦著加恩遇缺先儘補用
候補州同宋御著加恩以經歷縣丞先行借補該
部知道摺單併發欽此

634 軍機大臣 字寄

閩浙總督王 嘉慶七年八月初五日奉

上諭王德奏浙省金衢嚴處等屬田禾被旱受傷現
飭勘辦情形一摺浙省各屬自六月中至七月上
旬雨澤稍稀前經阮元具奏業經降旨飭令虔祈
並令將有無被旱成災之實詳查覆奏本日王德
奏到此摺適阮元已由輝奏據稱金衢嚴三府屬

業於七月初七八十一二等日先後得雨並於十

七八日續得透雨惟處州一府尚未報齊似可一
律霑逮等語各該府屬多係山田現在雖霑沾膏
雨但已屆七月中旬被澤稍遲即稞種等項恐不
能佈種齊全秋成未免仍形歉薄除諭令阮元據
實詳查外著王德一體飭屬查勘如有被旱州縣
應須量加撫卹之實即行奏聞候朕加恩勿以該
處業經得雨遂心存諱飾也將此諭令知之欽此

道
白寄信前來

635 軍機大臣 字寄

浙江巡撫阮 嘉慶七年八月初五日奉

上諭阮元奏通省雨澤浸霑一摺前因浙省雨澤不
齊米糧價貴當經降旨阮元令其虔誠祈禱并查
明實有被旱成災之處據實奏聞茲據阮元奏該
省於七月十七二十二等日大雨滂沱各府均獲
霑足等語覽奏稍慰惟聞該撫摺內杭嘉湖台溫
等府晚禾尚可有收其金衢嚴處及紹屬界連金

郡一帶缺雨更久現在雨澤雖已霽沛恐中既二
 未未能一律蘇轉即補種蕎麥雜糧收成亦不免
 歉薄朕心深為廬注既元仍當遵照前旨詳細察
 看如實有被早成災應行恤卹之處即行奏聞其
 處州府屬是否亦得逾雨一併據實查奏又據另
 片奏近來三鎮兵船獲盜稀少請不如陸路兵勇
 尚有斬獲等語三鎮兵船在洋緝捕是其專責况
 現據玉德奏到蒸宰船隻暨閩省捕魚盜入浙洋
 尤當認真緝拿勿致漏網既元應即會同李長庚
 嚴行督催該三鎮上緊緝捕如查得該鎮等實有
 懈弛之處即著據實奏奉特諭令知之欽此遵
 旨寄信前來

636 軍機大臣 字寄

盛京將軍 直隸總督 步軍統領 鑲藍旗蒙

古都統 嘉慶七年八月初五日奉

上諭秀林奏打牲烏拉當差遣犯達心於本年七月
 初二日脫逃等語達心係因盜賣祖坟樹木不服
 管教發遣當差之犯乃敢在配脫逃情殊可惡該

犯逃後或沿途逗留或竟回本旗在京潛匿均未
 可定着傳諭盛京將軍直隸總督步軍統領鑲藍
 旗蒙古都統一體嚴緝務獲毋任漏網所有該犯
 年貌單並着抄寄將此諭令知之欽此遵
 旨寄信前來

637 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 閩浙總督王

嘉慶七年八月初五日奉

上諭現在記名水師副將人員業已用畢遇有水師
 提兵缺出簡放乏人著傳諭吉慶玉德各于所轄
 水師副將內擇其熟諳海洋實心緝捕堪膺專閩
 之任者各保舉二三員出具切實考語奏聞送部
 引見候朕簡用將此諭令知之欽此遵
 旨寄信前來

638 查阮光緒此次恭進

表貢使日前經奉有

諭旨令沿途截回告以該國有事遣令回至鎮南關

面見督撫並寄信吉慶等

諭令在鎮南關妥為安置今阮光纘既經獲罪奉

旨革去王爵其

貢物應行擲還該使臣似亦無庸照料安置是以

正寺於擬寫寄信吉慶

諭旨內並令將該使臣一併拘禁謹

奏

八月初五日

639 嘉慶七年八月初六日內閣奉

上諭河東河道總督員缺著稽承志署理不必來熟

河請訓即著馳驛前赴新任俟霜降後再行奏請

陛見欽此

640 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 嘉慶七年八月初

六日奉

上諭吉慶奏農耐遣使恭進表貢並縛送莫觀扶等

三犯未粵正法各情形一摺覽奏其悉從前阮光

平欵關內附極為恭順我

皇考鑒其悃忱錫以封土阮光平感被

殊榮躬親詣闕

仰承

皇考恩禮有加駢蕃錫賚原以阮光平克矢畏懷始得

寵遇迨阮光纘嗣服交南復

頒勅命俾其世守勿替乃近年以來閩粵二省洋面盜

船內間有長髮之人聞係該國雖今出洋入夥行

劫祇以阮氏父子世受國恩不應若此朕未肯輕信

遽加詰責尚以長髮匪徒或係該國貧民隨盜入

夥曾降旨諭令飭禁查拏摠未見該國擒獻一人

令阮福映縛致莫觀扶等三名訊取供詞均係內

地盜犯經該國招往投順或封為東海王或封為

總兵等偽職仍令至內地洋面行劫商旅是阮光

纘不但違旨查拏而且窩納叛止竊以官職肆

毒海洋負恩反噬莫此為甚至勅書印信頒自天

朝名器至重尤當敬謹守與國存亡乃阮光纘

不知慎重於阮福映上年攻取富春時輒行捨棄

潛逃其罪亦無可逭至阮福映此次使臣吉慶當諭以爾國長遣使恭進表內所敘各情節業經轉奏蒙大皇帝俯察爾國恭順之誠深為嘉獎阮光平臣事天朝小心恭順

先大皇帝錫之勅命

恩齊優加乃其子阮光績竟敢窩留內地盜犯通同劫掠恩實為

天理所不容是以亡不旋踵今棄國潛逃並天朝所給

勅印不能守是阮光績不特上負

先大皇帝怙冒洪慈抑且為阮光平不孝之子獲罪甚

重爾國長專遣使臣恭繳勅印並縛獻通盜深得事大之禮阮光績恩納叛方當聲罪致討爾國長

現與揖兵天朝豈復加之救助至恭進表貢具見

至誠但天朝每遇外洋諸國遭風船隻無不一視

同仁給資妥送從無因此違納貢獻之事且爾國

長邦家未定並非素備藩封按之天朝體制尚不

應在職貢之列爾等可即恭齎表貢旋回轉向爾

國長告知如此明白檄諭即將該使臣遣回方為

得體若此直到時阮福映已全得安南遣使具表請

封此次貢使可不必遣回即令其隨同請封使臣一併來京其所繳勅印即著吉慶暫為收貯再前據清安奏阮光績於六月十七日在捕隸地方為阮種所獲等語阮種是否即係阮福映未據聲叙本日吉慶摺內稱農耐使臣於六月十二日在該處起程尚在阮光績親獲之前是以未得此信但阮光績究竟被獲與否亦在未定前維和之例妥為安置資給康食原情其失國未投地恩格外今阮光績罪狀昭著實無足惜若故關求納吉慶即當面加訊問將阮福映繳來勅書印信並縛送盜犯莫觀扶等供詞令其閱看並詰以爾受天朝如此重恩乃竟不思感激激圖報轉將內地盜犯窩留肆劫加以官爵豈非喪心昧良至阮福映上年攻取富春時爾尚有昇隆城可守理應敬將天朝所頒勅印奉前注乃棄之如遺毫不知敬謹護惜自問當得何罪吉慶面加詰責後傳旨將阮光績革去王爵即於該處監禁俟旨定奪倘阮光績為阮福映所獲阮福映或不放自專將

伊解送鎮南關六當照此辦理如阮福映業將阮光績殺害即可置之不問阮光績既經獲罪則其前次所遣貢使上應一併拘禁毋庸照料安置其貢物即行擲還再另摺奏吳觀扶等三犯俱照大逆律辦理聞莫觀扶口供內有伊弟莫觀尾曾到安南尋見伊兄當給番銀一百圓之語可見莫觀尾係屬知情非若原籍之牌頭保甲無從查察者可比自應律以緣坐何以吉慶並未辦及此外如各犯家屬有應行緣坐者上應一體查辦此時吉慶當遵前旨迅赴鎮南關嚴飭邊隘勒兵防守持以鎮靜俟阮福映改得安南全境或遣使請封或得阮光績實在下落再行奏聞候旨遵行將此由五百里傳諭吉慶並諭孫玉庭知之欽此遵旨寄信前來

641 本日吏部將俸滿之現任湖南永州府同知鳳鳴一員帶領引

見奉
旨鳳鳴著交軍機處記名欽此

八月初六日

642 嘉慶七年八月初九日內閣奉

上諭本日給事中陳昌齊條奏各款俱不可行據稱各省督撫並無稽察之人行止難免專擅請加學政以稽察之銜遇督撫有遲壓蒙混等弊隨時舉奏等語各省督撫如果有貪劣實蹟及地方事件辦理不公學政有奏事之責原准其據實奏聞候朕核辦若竟以稽察督撫之事委之學政則學政之權豈不重於督撫乎國家設立學政原令其校士衡文若如該給事中所奏倘各省學政情有稽察督撫之名因而於地方公事動輒干預遇有私意不合任情毀譽又豈不開挾制之漸設該學政有營私舞弊之事又令何人稽察乎况督撫俱係一二品大員至各省學政往往有由編檢主事等官簡放者品秩較小若以之稽察督撫亦非朝廷體制前明設立巡按察為有名無實該給事中奏請加銜豈非於督撫之外又添一巡按乎又該給事中奏請確正各督撫奏調首府之例遇有首府缺出請勅下各都院堂官於京察一等人員內保舉聽候簡放等語各省首府關係緊要遇有缺出

之時朕所以降旨令該督撫於通省揀調者原以揀調之員既在該省有年於地方情形必能熟習且平日官聲政治自必較為卓越以之調任首郡則理繁治劇可收駕輕就熟之效至京察各員平日在各部院辦事自屬出色但初擢外任於該省一切吏治民生俱未涉歷該員等到省之後果能留心公事才守兼優將來自堪調任若遽行擢補首府則省會重任委之初任之員既慮貽誤公事且該堂官豈能知所屬司員熟習該省事務將來該員任事之後不能稱職即將該堂官議處亦復於事無益又該給事中請定無稅章程一條尤不成話據稱嗣後各關口士民往來其衣物等箱在五件以內者隨到放行在五件以上者令先報明本處地方官取具印票到關驗放等語各關稅務章程本有刑定則例若如該給事中所奏其原報在五件以內即行放行並不論其是何物件無此辦法且該給事中恐關吏需索令先向州縣起票等不慮

是金原籍先補上稅之票五加項檢去

州縣需吏需索更致苦累士商乎設原報在五件_上迨起程之後中途或有增添又豈能以州縣官印

票為準乎陳昌齊所奏種種迂謬原摺著擲還欽此

643 軍機大臣 字寄

留京辦事王大臣 嘉慶七年八月初九日奉上諭撥給事中宋澍奏本年八月朔日食不及七分復圓六早在京諸臣所共見等語前據欽天監推算本年八月朔京師日食九分有奇今宋澍稱日食不及七分其言是否屬實既云在京諸臣共見何以未據留京王大臣具奏著詢問宋澍伊是否通曉測量其所云不及七分之處有何證據若其言果確則是欽天監推算或有外錯並著詢問在京欽天監堂官一併詳查覆奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

644 軍機大臣 字寄

陝甘總督惠 陝西巡撫陸 嘉慶七年八月初九日奉

味

味

上諭據給事中宋澍奏陝西北邊延綏一帶素稱窮

邊自賊匪滋擾漢中等處居民由漢南逃往延綏

者不下二三萬人北邊生植無多難以存活急宜

設法早為安置而軍興以來延綏道府大員多調

赴軍營吏治幾不可問請旨飭辦等語延綏襟帶

關陝地方最為緊要令驟增流民數萬人土地不

產不足以資贍養地方官早應籌辦何以該督撫

從未奏言及此宋澍甫任陝甘學政回京其見聞

自確著惠齡陸有仁即查明延安綏德一帶現由

漢中等處逃往民人究有若干情形是否安靜日

下陝省賊匪已漸次剿除淨盡應廣為曉諭令其

各歸鄉土復業安居勿致遷流失所其道府以及

州縣各官軍務將竣如無經手緊要事件均即飭

令各回本任使其留心撫輯慈頤史治以安民業

而重邊陲將此邊報便諭令知之欽此遵

旨寄信前來

645 嘉慶七年八月初九日奉

旨額勒登保所封一等伯爵著仍用威勇名號照例

承襲欽此

646 嘉慶七年八月初九日奉

旨此案步軍校奇克騰既經祿康等查明祇係將挖

河兵丁每名飯錢內扣留底子錢一文置買應用

器具眾供僉同實無別項情弊是奇克騰並非藉

端侵蝕其咎止於未經回明辦理祿康等遽請將

伊交部嚴加議處未免過當奇克騰着加恩改為

交部議處至投遞匿名呈詞之犯着即督飭番役

嚴拏務獲照例治罪毋任漏網欽此

步軍統領衙門奏匿名呈詞

647 嘉慶七年八月初九日奉

旨刑部題覆劉張氏被翁劉五揪毆用手遮護致抓

劃劉五成傷劉五失跌身死一案照擬將劉張氏

按毆傷本律擬以斬決因屬按律辦理但細核案

情劉張氏因灾歎與伊翁同住窩棚一間每日帶

領子女赴廠領粥先儘伊翁飽餐該氏始與子女

同食未能飽腹不敢言語是該氏平日尚知侍奉

伊翁迫伊翁欲將窩棚拆賣該氏恐無住處向其

欄勸復被揪髮檢毆該氏情急用手遮護以致抓
劉成傷伊翁即欲將其送官出門後失跌致斃是
伊翁死由自跌其所受傷痕亦係一時失誤情節
稍有可原劉張氏著從寬改為應斬監候秋後處
決入於本年秋審情實辦理餘依議欽此

648 嘉慶七年八月初九日內閣奉

上諭長蘆運使員缺著索諾木扎木楚補授所遺
口北道員缺著和綸調補其霸昌道員缺著阿永
調補秦承恩著加恩以六品頂戴補授通永道欽
此

649 查近年蘆運使缺出俱開列俸深道府各十員
並

記名人員一併進

呈會長蘆運使缺出臣等照例查明俸深道十員

俸深府十員并

京察

記名人員分別開單進

呈恭候

簡放謹

奏

八月初九日

650 俸深道員十員

甘肅寧夏道福

永

鑲白旗蒙古官學生
鑲紅旗滿洲人

山西歸綏道齊布森

鑲紅旗滿洲人

安徽寧池太廣道宋

鎔

江蘇進士
正黃旗滿洲監生

湖南鹽法道達明

阿

鑲白旗漢軍舉人

河南河陝汝道劉同敬

敬

山西貢生

湖北鄖陽兵備道張道源

源

浙江進士

廣東雷瓊道蔡共武

武

正白旗蒙古人

直隸口北道索諾木扎木楚

楚

安徽舉人

山西河東道金應琦

琦

山西舉人

甘肅甘涼道劉大懿

懿

山西舉人

651 俸深知府十員

陝西延安府知府洪

洪

蕙 江蘇捐貢

嘉慶七年八月奉
旨賞給道册

貴州銅仁府知府劉雁題 河南進士

湖北安陸府知府施奕學 錄費旗漢軍人

貴州思南府知府袁純德 江西舉人

甘肅平涼府知府閻曾履 河南進士

山西太原府知府慶格 正白旗滿洲人

甘肅涼州府知府那綰 正白旗滿洲人

雲南臨安府知府江濬源 安徽進士

甘肅鎮西府知府哈達綸 正藍旗滿洲人

甘肅甘州府知府王榮榮 山西廕生

嘉慶七年八月奉
旨記名以選貢用

652 嘉慶七年八月初十日奉

旨知道了此次崇文門徵收關稅正項銀兩比較上年共少至一萬一千餘兩自由該監督辦理不善所致本應交部議處並令照數賠繳惟念上年直隸地方被水歉收貨物運京較少短缺尚屬有因豐仲濟倫祿康均着免其議處亦毋庸照向例賞給所有少收銀一萬一千三百二十九兩零着於伊二人名下每人賠繳三千兩准其在應得養廉內按季扣交一半以清課額其餘銀五千三百餘兩

殊殊

均着加恩寬免其海淀藥材燒酒餘銀著歸入續收錢糧內一併解交戶部欽此

653 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣提督吉 廣西巡撫孫

嘉慶七年八月初十日奉

上諭清安奏農耐遣使詣關稟請納款一摺據稱接到阮福映稟文內稱於六月十七日攻破昇隆城擒獲阮光纘弟兄並已伏誅現當整飭非禮遠選陪价恭詣闕下候旨並先請示天朝禮節等語昨據吉慶奏到阮福映因該國前次遣風船隻內地給寶受送感激天恩於五月內遣使恭進表貢並將內贖洋盜莫觀扶等三犯縛送正法其曾否攻破昇隆城將阮光纘擒獲之處尚未得有確信今閱清安奏所奏情節阮光纘兄弟業被擒殺阮福映已全得安南欲接遣陪臣詣闕候旨稟知撫臣以未諳天朝禮節懇求指示阮福映頗知恭順吉慶等當傳到此次使臣黎正路陳明義諭以前次爾國長遣使恭繳敕印並縛送洋盜各情由本

部堂當經奏聞蒙大皇帝深為嘉獎至所進表貢
緣爾國長邦家未定並非素備藩封尚不應在職
貢之列是以不敢遽將原表呈奏今將爾國長復
行遣使詣闕請命具見小心敬事之忱阮光鑽等負

先大皇帝覆載洪慈窩留內地盜犯通同劫掠反噬忘
恩並將頒賜勅印輕棄潛逃律以天朝法度阮光
鑽本罪在不赦今已伏厥辜可見頌覆之理昭然
不爽爾國長撫有安南全境自應將稱兵得國納

款輸誠各緣由錄叙頗未度修表文另行遣使恭
賚到闕彼時本部堂當代為呈奏恭候聖旨遵行
爾等可即回國向爾國長詳細告知遵照辦理吉
慶等諭知該使臣後看其如何登答即行具奏其
前次所遣使臣吉慶等接奉昨旨後如已諭令賚
貢回國業經起程則已若尚未起程而其表請封
之使臣續已到闕即可令其一同來京至阮光鑽
貢使前經諭令沿途地方截回鎮南關面見昔撫
昨復諭令吉慶等將該使臣與阮光鑽一併監禁
今阮光鑽既為農耐所殺該使臣等途次截回時
自必經過廣東即可於該省地方拘禁不必令其

前赴鎮南關也將此由五百里傳諭吉慶孫玉庭
並諭清安泰知之欽此遵

吉寄信前來

654 查前日所奉寄信吉慶等

諭旨令將農耐恭賚表貢使臣諭遣回國若阮福映

全得安南業已遣使具表請封即不必將此次使

臣遣回可令隨同一併來京等因欽此本日清安泰

摺內稱阮福映來文內稱現當整辦非禮遽遣

陪价恭詣闕下候

旨等語看來該國請

封使臣業已在途是以臣等於擬寫寄吉慶等

諭旨內仍將請

封使臣如續已到闕即可令前次恭進表貢使臣隨

同來京一層叙入謹

奏

八月初十日

655 嘉慶七年八月初十日奉

旨這所恭摺改日期欺飾朦朧詳之前署封川縣事試

用知縣羅含章著革職交與該督撫提同案內犯
証嚴審定擬具奏該部知道欽此

656 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 廣東巡撫瑚 嘉

慶七年八月初十日奉

上諭吉慶等奏封川縣捏報獲犯日期一摺已降
旨將前署封川縣事試用知縣羅含章革職矣此
案賊犯經前署縣胡湘蘭於五十八九年緝獲二
名乃歷任均不詳報審辦但將承緝職名按限開
奏致案犯淹禁多年在監瘞斃迨至嘉慶六年署
縣羅含章續獲逸犯始行報出又迴護前官將前
任獲犯及監犯病故各日期全行捏改勝混具詳
經吉慶等飭查本年新任知縣謝最淳方據實稟
揭是此案前後各任拖延蒙蔽已及十年之久粵
東吏治廢弛已極此番必係因朕宥諭飭查博羅
縣重犯越獄一案通省官吏心懷畏懼始將此事
始末緣由和盤托出想此外似此玩延隱而未發
之事尚復不少著吉慶瑚圖禮即將此案賊犯訊

明究係行竊行強及歷任知縣因何諱匿不報之
屢一併查明照例辦理督撫職司察吏安民若州
縣官於地方應行詳辦案件任意延匿多年經隔
數任尚復成何事體吉慶瑚圖禮務須實力整頓
力除外省疲玩積習庶吏治方有起色無負委任
將此諭令知之欽此

657 嘉慶七年八月初十日奉

旨這所奏濫扣兵餉之廣東提標前營右哨千總王
有高著革職等因著守備馬雄高守備馬入雲著
一併革職交與該督提同案內人証嚴審定擬具
奏該部知道欽此

658 嘉慶七年八月初十日內閣奉

上諭吉慶瑚圖禮三義助奏據洋商潘致祥蓋商溫
永裕等呈稱情愿輸銀四十萬兩以備凱旋賞賚
並懇借款墊解分限四年完繳等語該洋蓋商等
近年來屢次顯備餉項情詞懇切均經降旨酌量
賞收並予議叙茲復因軍營提督踵至即日凱旋

欲感抒忱敬備賞項呈請吉慶等據情代奏若加恩賞收銀二十萬兩准其於粵海關稅課運庫盈課內先行借支墊解自嘉慶八年起分限二年歸款其餘二十萬兩即著賞還並著吉慶等查造該商等名冊報部照例給予議叙摺併發欽此

659 嘉慶七年八月初十日內閣奉

上諭惠齡奏請將知州李榮陞補肅州直隸州知州一摺肅州為邊閩要缺政務殷繁既據該督聲稱該省並無合例堪以陞調之員惟該員辦事認真於地方軍務撫卹事宜均能妥協辦理等語著照所請李榮准其陞補肅州直隸州知州該部知道摺併發欽此

660 嘉慶七年八月十一日內閣奉

上諭本年春間常明奏道員孫文煥濫用軍需賸混酒銷一案降旨令百齡會同張長庚確審實情稟明琅玕定擬具奏嗣經孫曰東奏到孫文煥差人呈控藩司百齡勒派膽徇捏飾欺妄各款並將

殊 殊

原呈進呈當派初彭齡富尼善前往秉公查辦茲據初彭齡富尼善奏到審訊大概情形請將巡撫常明臬司張長庚貴西道呂雲棟候補道員馮先鞏一併革職嚴審等語詳閱摺內所敘情節孫文煥所控百齡假公勒索等款經初彭齡等傳齊人証反覆究詰均屬虛誣而巡撫常明久任黔藩將軍需款項牽混支抵於應撥鉛廠銀兩延宕未繳又將軍需用剩鉛九十四萬餘斤交商鎔化令幕友金玉堂私賣並任聽抽匿報銷卷案各款業據初彭齡等質審屬實常明之罪已無可逭而此內私賣鉛斤一節情罪尤重此項鉛丸既經軍營用剩自應歸入軍需項下報銷乃既不奏明又未報部輒因幕友金玉堂向來販賣白鉛竟將鉛丸鎔作鉛斤與伊合夥運往漢口發賣希圖漁利至藩司百齡查知常明始應允照數買還亂法營私行同市儈且於軍需報銷要案滯不檢查任聽幕友私自抽匿亦難保無侵冒情弊常明著革職交初彭齡等嚴審定擬具奏其所賣鉛斤曾否照數買還或將價銀交官抑係私行入己之處並著查明覆奏臬司張

長庚於署藩司時接收常明交代並未清釐又聽從移藏案卷顯有受囑朦混情弊張長庚亦著革職治罪貴西道呂雲棟於常明應撥鉛廠銀兩代為擔認候補道馮克鞏現據孫文煥供稱濫應提費銀兩係與該員同在餉局經手呂雲棟馮克鞏均著革職交初彭齡等一併歸案審辦至藩司百齡於孫文煥所控各款雖審屬全虛但百齡既經查出常明欠繳庫項並縱令方幕私賣鉛斤各款不即據實奏僅以催追押繳完結意存瞻顧巡撫以致孫文煥心懷不甘控詞呈控寃屬有心袒庇百齡業經解任並令初彭齡等於定案時治以徇隱之罪至已革道員孫文煥著遵照前旨歸案按律定擬具奏初彭齡等摺併發欽此

661 軍機大臣 字寄

山西巡撫伯 嘉慶七年八月十一日奉

上諭伯麟奏酌留新兵教目一摺據稱晉省節年招募額外新兵為數已多現在軍營大功將次造藏所有晉省歷次調赴川陝各路官兵皆陸續回營

歸伍請於太原鎮屬增設兵額一千二百名以新募守兵充補等語所奏不可行直省設立營伍各有定額從前晉省調出征兵較多諭令該省多募新兵以資保障並有賊平之後多留數千名增添餉額亦不為糜費之諭原擬俟征兵歸伍之日出有馬步名缺即先儘此項新兵拔補以漸歸復原額其未經復額之前所餘新兵原不能一時遣散仍應按給守兵月餉遇事故即與開除並非議增兵額今該撫誤會前旨遽請增設額兵一千二百名山西係屬腹地創議添兵若募兵各省多相承效尤國家經費有常安能於定制之外額增如許名糧耶伯麟不曉事體著傳旨申飭該撫惟應將此項新兵陸續補額俟其出缺即與開除以符定制總之兵在精而不在多晉省兵丁技藝向屬平常惟在勤加訓練務使設一兵即收一兵之用毋庸議增名額也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

662 軍機大臣 字寄

兩廣總督 河南巡撫 傳諭兩浙鹽政 粵

海關監督 嘉慶七年八月十一日奉

上諭現在大功將次告竣陝省辦理善後事宜需用尚多着於河南存貯項下撥銀三十四萬兩兩浙商捐項下撥銀二十七萬兩廣東商捐項下撥銀二萬兩海關稅項下撥銀二十萬兩該督撫益政監督等迅即派委妥負解赴陝省交陸有仁收貯備用並飭令沿途地方官留心護送毋致遲誤將此由四百里各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

663 臣等遵

旨籌撥陝省餉銀一百萬兩查河南省現有存貯銀三十四萬兩應令儘數撥解外擬于兩浙商捐項下撥銀二十六萬兩廣東商捐項下撥銀二十萬兩粵海關稅項下撥銀二十萬兩共成一百萬兩解陝備用謹擬寄信吉慶等

諭旨進

呈 謹 奏

八月十一日

664 嘉慶七年八月十一日內閣奉

上諭貴州巡撫員缺普富尼善補授貴州按察使員缺著董教增調補所遺四川按察使員缺著劉清補授所遺建昌道員缺著方積補授其貴州貴西道員缺著張曾敬補授欽此

665 軍機大臣 字寄

留京辦事王大臣 戶部尚書步軍統領祿

禮部尚書長 嘉慶七年八月十一日奉

上諭本日據初彭齡等奏查明貴州巡撫常明在藩司任內將軍需庫項率混支抵及私賣鉛斤各款屬實已降旨將常明革職治罪矣常明久任黔藩因辦理軍需將存貯庫項任意提支互相拉撥以致款目糺緝不清迨百齡接任時藩庫止存銀六千餘兩其平日不能慎重庫貯可知甚至將軍營

用剝鉛九十餘萬斤鎔化商同募友金玉堂運往漢口發賣是常明經手軍需顯有侵肥情事實屬負恩軌法自應查抄家產以示懲儆著留京辦事王大臣即傳到祿康長麟將此旨面交閱看即著伊二人前赴常明住宅嚴密查抄毋任稍有隱漏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

666 軍機大臣 字寄

四川總督一等男勒 嘉慶七年八月十一日

奉

上諭本日貴州按察使缺出已將董教增調補其四川按察使員缺將劉清補授劉清所遺建昌道員缺將方積補授矣董教增現在雷波辦理夷案前據奏到業經辦有頭緒如此旨到時董教增已將夷案辦結自當即赴貴州新任如大局已竣尚須十日半月之期清查一切亦即令伊一手辦完再行起程前往設或辦理需時未能剋期結案著勒保即于劉清方積二員內酌派一人前往幫同豐

紳妥協辦理以便董教增馳驛赴任再方積所遺夔州府員缺例應請旨簡放但該處係川楚邊界濱臨大江現關緊要此時川省候補人員內有無堪以勝任之員並著酌量奏補將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

667 嘉慶七年八月十二日內閣奉

上諭前因川省我眉雷波夷匪與漢奸爭鬪滋事當令豐紳董教增前往查辦董教增先到我眉即將漢奸陳奇等拏獲該夷匪畏懼帖服取具遵依木刻飭令回巢及我眉事竣董教增即馳抵雷波詢明該夷人起衅根由先將漢奸李逢春劉萬林等拏獲並勒令夷目將首惡縛送豐紳亦帶兵馳至會同查辦茲據豐紳董教增奏稱連日示以兵威諭以利害令該土舍等將為首夷匪查明全數縛獻該土舍等深知感激將首犯扭扭等六名陸續獻出並據該府廳續獲滋事漢奸等一併分別正法該夷匪等伏地叩頭認罪並據十三處夷目出

具約束夷衆永不滋事木刻甘結環跪額求情詞極為畏懼等語豐紳董教增辦理此事仰體朕不恐誅戮遠夷之意先將漢奸拏獲以服其心復經示以恩威剴切宣諭俾夷衆共知感畏縛獻兇渠故能不煩兵力邊境教寧所辦實為妥速可嘉豐紳董教增著交部議叙以示獎勵其所擬案內餘犯罪名著交刑部核擬具奏至此次官兵係在本省派調原應照內地捕盜之例止給口糧惟念豐紳自川北帶往者本係征兵著准其仍照征兵分例支給其各營派調及現留彈壓之兵均離營籍較遠亦著一律給予藍糧用示體恤欽此

668 軍機大臣 字寄

四川提督豐 傳諭新調貴州按察使董教增

嘉慶七年八月十二日奉

上諭豐紳等奏查辦雷波夷務完竣一摺所辦俱好已另降諭旨將豐紳董教增交部議叙矣我眉雷波兩處起衅漢奸均先經董教增到彼拏獲豐紳到後會同查辦歲事實為完善但漢奸李逢春主

使殺死夷婦一家七命即律以尋常殺死一家非

死罪三命之條亦應予以凌遲何況以內地民人

逞兇夷境更當從嚴懲辦至厥徒劉萬林等挾夷

人不允開厥之嫌起意激變夷人真開邊釁請兵

勦洗希圖開厥遂將夷人房屋燒燬赴叅將衙門

聲請發兵適遇夷目二人由署走出劉萬林等立

時殺斃以致各夷聞信不平糾衆滋事劉萬林係

首先肇衅之人又復殘斃二命罪大惡極亦當予

以磔誅乃僅與獻出首惡夷匪等一律斬決殊屬

輕縱即云漢奸夷匪厥罪維均若將漢奸處以極

刑恐啟夷人輕視之心則夷匪扭扭等十七犯糾

約生番恣意燒搶荼毒民人即與為首漢奸對夷

衆一律凌遲亦屬情真罪當足以懾伏其心否則

將李逢春劉萬林二犯凌遲時不必令夷人知覺

亦無不可乃意存拘泥轉致輕重失宜董教增現

任臬司此案所定罪名自係伊主見本^殊日奏到竣

事之摺一切妥速可嘉朕原欲賞給董教增花翎

因此事之罪失當是以僅予交部議敘昨因貴州

臬司缺出已將董教增調補令其即赴新任並諭

知勒保如雷波夷案辦理需時董教增未能赴期起程即於劉清方積二員內酌派一人前往幫同豐紳辦理以便董教增馳驛赴黔今雷波一案業已完竣董教增即當迅速起程所有我眉一案人犯現已解赴省城著勒保轉飭楊揆及益茶道姚會儀就近審訊定擬何毋庸董教增辦理至黔省係屬苗疆該臬司到彼後遇有民苗交涉之事儘當嚴辦示懲不可稍有輕縱以期人知畏法邊境永寧為要再據摺內稱豐紳現在帶兵起程一面咨詢督臣勒保何處有賊即往何處搜剿等語所奏正與朕前旨相合現在川省零匪將次剿淨惟川東一帶恐有楚省竄匪闖入防堵較為緊要豐紳即當遵照前旨帶兵前往勒保一路幫同堵剿以期速蕪大功將此由五百里傳諭豐紳董教增並諭勒保知之欽此遵

旨寄信前來

硃

669 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 嘉慶七年八月十

二日奉

上諭吉慶奏農耐攻得安南全境緣由一摺阮光緒負恩篡盜自取滅亡農耐前此表送勅印並縛解洋匪深知恭順今撫有安南全境可見順逆之理昭然不與吉慶摺內稱阮光緒竊盜有罪阮福映擊賊有功所見極是與朕旨相同其阮光緒貢使已入江西境應行截留一節所見亦合前清安泰奏到時朕早已諭令沿途督撫截留遣回粵省矣至農耐應否准其進貢請旨遵行連次所寄吉慶諭旨內業已詳悉訓示俟該國請封使臣到闕即令與前次貢使一同來京一切俱遵照前旨妥辦又另片奏農耐運糧船隻遭風漂至新安海口當即詢明將夷人二十八名交現泊黃浦之貢船收領帶回自應如此辦理至沿海盜匪因農耐攻得安南無處安身均潛竄粵洋該匪等失其窟穴無人接濟資糧正當趁此機會嚴飭各鎮將率領兵船上緊擒拿以除餘孽俟農耐貢使到粵時並當諭以各洋盜前曾幫同阮光緒與爾國打仗今天朝將領督率兵船分路搜擒若逃至爾國邊境亦

必為爾國之患爾等回國可告知爾國長協同檢
捕淨絕根株不特洋面肅清亦與爾國有益大皇
帝聞知必更嘉爾國恭順也將此諭令知之欽此
遵
旨寄信前來

670 軍機大臣 字寄

兩江總督費 江蘇巡撫岳 嘉慶七年八月

十二日奉

上諭前因直隸山東境內皆有飛蝗因念及東省連
南一帶即與江省毗連恐徐州豐沛蕭瑯地方上
不無遺燬苗孽之虞特降旨令費淳岳起詳知確
查茲據費淳等奏據徐州府知府董圖稟稱所屬
銅山邳州沛縣宿遷四州縣本年六月底七月初
曾有飛蝗入境為數無多即趕緊撲捕淨盡未稼
無傷是以未據稟報等語可見江境早有飛蝗經
朕降旨飭查始據費淳等向該府確查具奏設朕
不降旨垂詢不獨費淳等置之不問即董圖等上
若罔聞知夫此次江省蝗燬入境即果如伊等摺
內所叙未稼無傷上早應奏聞以慰屢注况未稼

未必無損乎前東省飛蝗入境朕屢次降旨詢問
和寧履奏摺云並未傷稼續經查明實有傷稼之
實互見地方官稟報之言全不足據豈可受其朦
蔽費淳岳起均著傳旨申飭仍著查明銅山等四
州縣今秋蝗燬入境之時究竟曾否傷稼現在曾
否撲淨不留餘孽據實奏聞其前此不行申報之
府州縣各員並查明奉奏無得徇縱將此諭令知
之欽此遵

旨寄信前來

671 嘉慶七年八月十二日內閣奉

上諭費淳奏原任廣西恭將侯陞副將馬為錦曾在
川楚軍營隨征著績旋因受傷奏准回籍調理嗣
緣傷重未能即回甘肅原籍在蘇州覓醫調治茲
驗明該員傷俱全愈堪以起用並據情代懇免其
回籍領咨請旨遵行等語馬為錦著加恩免其回
籍領咨即著費淳就近給咨送部引見以示體恤
該部知道摺併發欽此

672 嘉慶七年八月十二日內閣奉

上諭廣西慶遠府知府員缺著稽承闈補授其所遺員缺著南炎曾補授欽此

673 查方積所遺四川夔州府知府張曾敬所遺廣

西慶遠府知府二缺均例應請

旨簡放所有慶遠府知府一缺_臣等謹繕寫空名

諭旨進

呈恭候

簡放其夔州府知府員缺該省現當辦理善後事宜

關係緊要應請令勒保查明該省有無候補人

員及應否揀員更調之處酌量奏補恭候

命下俟勒保報到時附便擬寫

諭旨寄往謹

奏

八月十二日

674 嘉慶七年八月十二日內閣奉

上諭前據給事中宋澍奏稱此次京師日食不及七

分復圓亦早在京諸臣所共見等語與欽天監所

推日食九分三十四秒之數少至二分有餘靈臺

職司儀象推測晷度豈可差以毫釐是以降旨詢

問留京王大臣等何以不行具奏並令傳到該給

事中詢伊是否通曉測量所奏有何證據並傳詢

在京之欽天監堂官推算是否舛誤據實覆奏茲

王大臣等奏到據宋澍稱是日救護時就目力所

及似不及七分復圓時刻亦覺稍早並非通曉測

量無從指證而欽天監堂官則稱是日堂司各官

在觀象臺用儀器測量日食分秒用壺漏較量時

刻俱與原奏分數時刻相符各等語並據王大臣

等稱伊等是日俱在公所瞻仰實未能詳辨分數

而同時救護之王公官負等亦未聞有較量七分

九分之說所奏自屬實情前代往往有日食不應

臣下獻諛表賀者其實多因司天之官測量錯誤

如此次日食果不及七分即係欽天監推算不準

必當懲以應得處分今王公大臣及救護官員在

京目覩均無異辭宋澍亦自稱並不通曉測算是

欽天監本無錯誤而該給事中竟以已意揣度妄說

天象其意何居宋澍著交部議處欽此

675 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年八月十三日奉

上諭本年夏間安省雨澤稍稀前因該撫奏到得雨摺內聲叙未明降旨詢問茲據王汝璧覆奏安慶等屬于七月初得雨廬州鳳陽各屬於六月二十八九日得雨嗣於七月初十至三十等日省城連得大雨桐城等之十州縣先後俱已霽足均可有收覽之欣慰惟據稱宿松等二十三州縣雖屢次得雨一二三寸未能深透又宿州等六州縣低窪地畝有因山水下注支河漲溢田禾間被淹浸等語朕心深為屢念著王汝璧飭委委員詳細履勘如以上各州縣有因水旱成災之處即當據實迅速奏聞加恩撫卹不可稍有諱飾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

676 嘉慶七年八月十三日内閣奉

上諭那彥寶等奏報永定河秋汛安瀾一摺覽奏欣慰永定河工程上年冬間甫經合龍初歷三汛開

係緊要那彥寶已奉阿係上年在工一手經理是以將本年防汛事宜即責成伊二人督辦那彥寶等輪流在工督率河道陳鳳翔等認真防護夏間河水或漲時及力搶鑿得臻平穩茲已過白露保護無虞從此堤工鞏固河流順軌可期永慶安瀾此皆仰賴

河神默佑曷勝欽感著發去大小藏香十枝著交那彥寶等敬謹祀謝 用 答

神麻那彥寶已奉阿在工經理妥協着與永定河護陳鳳翔一併加恩交部議叙其隨同在工之員外郎智凝誠安主事徐寅亮候補直隸州知州孫樹本及單開各員俱著加恩交部分別議叙至王念孫程寧雲陳煜三人本係專司河務之員在任已久非如姜晟初列直隸尚且係兼轄者可比上年堤工漫溢伊三人革職之外皆應發往新疆軍台等處効力經朕格外施恩令其留工自効前於工竣時又經賞給頂戴此次且無庸再行加恩著仍留永定河工次俟明年三汛後始終出力再行奏聞請旨該部知道摺單併發欽此

677 嘉慶七年八月十四日奉

旨盛京等處癸亥年官兵俸餉應需銀一百四十餘萬兩着仍於盛京銀庫永遠存貯項下暫行動用
欽此

678 嘉慶七年八月十四日內閣奉

上諭勒保奏川省出有直隸州以下各缺遴員懇恩分別陞補一摺均照所請四川酉陽直隸州知州員缺著英貴陞補所遺重慶府通判員缺著胡青上陞補所遺益亭縣知縣員缺著葉文復補授保寧府經歷員缺著趙秉珞陞補所遺鄰水縣典史員缺著程淳借補南充縣李渡場主簿員缺著沈昭誠陞補所遺內江縣典史員缺著周增福借補成都縣典史員缺著徐柱調補所遺萬縣典史員缺著滿壩補授該部知道摺單併發欽此

679 軍機大臣 字寄

江蘇巡撫岳 浙江巡撫阮 嘉慶七年八月十四日奉

上諭近日刑部議覆外省案件內浙江省嘉湖一帶

竊案甚多嘉湖二府所屬多係濱臨太湖邊界該處地方遼闊沿湖汊港舊係藏奸之藪從前屢經整頓近來必係地方官緝捕廢弛不認真查辦以致匪徒肆竊延入隣境着岳起阮元嚴飭沿湖府廳州縣實力稽查如有窩藏竊盜之家即訪拏究辦其報出各案並飭承緝員弁上緊弋獲以除奸究而靖地方毋得視為具文以至日久因循致滋萌孽將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

680 嘉慶七年八月十四日奉

旨這所奏前署震澤縣現任婁縣知縣李元軾着解任交與該撫提同案內人證秉公審擬具奏欽此

681 嘉慶七年八月十四日奉

旨知道了這所得羨餘銀兩着交內務府(萬五千五百兩其餘銀一千五百二十八兩零賞給常存欽此

枝元○抗格

682 查嘉慶五年分殺虎口監督德慶所得羨餘銀

一萬六千三百一兩二錢五分六釐奉

旨交內務府一萬五千兩其餘銀一千三百一兩零

賞給德慶欽此嘉慶六年分殺虎口監督伊昌阿

所得羨餘銀一萬七千一百一十五兩八錢五分六

釐奉

旨交內務府一萬五千五百兩其餘銀一千五百一

十五兩零賞給伊昌阿欽此今殺虎口監督常存

所得羨餘銀一萬七千二十八兩四錢七分六

釐應交內務府若干

賞給該監督若干之處恭候

欽定謹

奏

683 軍機大臣 字寄

西寧辦事大臣台 嘉慶七年八月十四日奉

上諭台布奏近據王納漢達爾濟等及五旗扎薩克

等呈稱前次所逐番帳於台布等迴去後仍即搬

來佔住並稱自六月以來番子等潛來偷竊牛隻

馬匹及酥油奶渣馬絆繩等零星物件懇求緝拿

等語前因蒙古地方被番子侵佔支帳居住台布

酌帶官兵前往驅逐該番搬移後納漢達爾濟等

自當嚴飭防守乃復任番子搬入並將偷搶酥油

奶渣等項細之事前來控訴實屬怯懦無能台布

當明切曉諭納漢達爾濟及扎薩克等以前次番

族侵侮爾等蒙皇上格外體恤備以兵威番眾咸

知畏懼搬移爾等自應振作自衛豈有內地官兵

長住卡倫隨時保護之理至畜牧等項為爾等生

計所關理當自行照看國家設立大臣駐劄西寧

原為辦理蒙古要務非為爾等身司緝捕乃全不

曉事體甚至以恩竊狗偷之事吶吶訴何不知

輕重若此爾等務當各自嚴防卡倫遇有番子入

卡倫竊即隨時追捕窮番等自必仍日漸斂跡若

仍前懦弱專仗官兵為之防護再以偷竊小物

件類未煩瀆必當據實奏聞嚴加詰責嗣後即有

被番族欺凌之事亦置之不理爾等更無所倚仗

彼時悔之何及如此明白諭知蒙古王公扎薩克

等自當精知激勵奮勉自強也至摺內稱番子偷

竊各業務須緝獲詳辦亦不必台布但當擇其
搶劫牛馬多匹之賊者等飭令所屬嚴拏辦理其
餘偷竊酥油奶渣等案毋庸鈔鈔飭緝即飭令該
者頭人等緝拏亦必無從查獲也將此諭令知之

欽此遵

旨寄信前來

684 軍機大臣 字寄

和闐辦事大臣興 額 嘉慶七年八月初四

日奉

上諭興等奏請添捐紙項以資辦公一摺已依議
矣此等歲需紙筆等項不過循例領銷之件和闐
需用之處既有不敷祇應將實在應添數目照例
開單咨明陝甘提督衙門自可隨時搭解將來即
一併奏銷何用專摺奏請為再四思維之語耶興
等所奏無謂將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

685 嘉慶七年八月十四日內閣奉

上諭松筠等奏伊犁効力靡負張鳳枝三年期滿應
否釋回一摺張鳳枝前在貴州委署興義府時值
神苗滋事不即赴任係因防堵番業及照料兵差
尚非有心規避且亦無贓私情事今在戊巳滿三
年著加恩釋回欽此

686 嘉慶七年八月十五日奉

旨伍士芬著不准捐復欽此

禮部奏甘肅月賑案內伍葆光之
子華監伍士芬呈請捐復

687 軍機大臣 字寄

山東巡撫祖 給事中汪 嘉慶七年八月十

六日奉

上諭祖之望等奏訊據和寧供詞一摺據和寧自寫
供詞內稱審辦金鄉縣冒考一案委員張繼榮等
將原告非刑鍛煉威逼偽供各情皆毫無聞見惟
自認昏憤糊塗等語殊不足信委員張繼榮等承

審此案並不秉公研訊輒敢徇私任情誣枉以致株累鄉民紳士酷暑濫刑若非上司有授意之處焉敢如此妄為况委員等承審此案已經數月豈有不將訊出大概情形先行稟知和寧之理著祖之望等仍向該委員等嚴切跟訊是否實係和寧於委審之時先為授意即非和寧授意或藩臬兩司中何人授意之處務須訊問明確勿任含混先行據實奏聞以便降旨其全案如何審擬之處再隨後奏結可也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

688 軍機大臣 字寄

留京辦事王大臣 刑部堂官 嘉慶七年八月十九日奉

上諭本日據留京王大臣護軍統領扎郎阿提管內務府大臣縉布等奏本月十五日據巡查地面之護軍魁德普登額拿獲偷竊端門樓庫內腰刀梅針箭之徐喜兒一犯移交刑部審訊一摺之珠堪駭異不意門禁懈弛竟至於此此項腰刀梅針箭

殊

殊殊

殊

存貯端門樓庫內封鎖慎密派有稽查巡察各員禁地森嚴人跡罕至該犯徐喜兒胆敢登城盜竊其不法已極且所竊又係軍器不但非尋常盜竊可比即較之宮庭陳設物件被竊之案情節尤重此案甚有關係必應徹底跟訊且據董誥德瑛奏稱據在京刑部司員稟知該犯供出先於七月初一十四曾經兩次偷出梅針箭各二捆每捆二百枚此時現傳買贓之王大成訊等語該犯前後所竊之箭多至一千二百枚並腰刀三把既據供出王大買贓必係知情究竟此項腰刀箭枝賣與何人係何人起意偷竊意欲何為著留京王大臣會同刑部堂官逐一嚴訊務得確情再端門樓上貯有軍器箱櫃非外人所知該犯即起意偷竊亦未必熟悉路徑且該處值班官兵耳目甚多豈能任意出入魚恐者門官兵等有通同盜賣及知情故縱情事現已降旨將十五日端門該班之章京愛明阿革職並將護軍人等先行枷號俟審出實情如有應得罪名再行問擬其該犯上兩次偷竊日期及經由門徑並著研訊確實即將是日之該班官兵一面

傳訊一面奏聞分別革職執歸案審辦再向來
內務府每季派司官二員管領二員帶領人役前
往抖晾此等抖晾人役於端門路運往來熟識且
於存貯刀箭箱櫃處所皆能詳認或竟係抖晾之
人勾引偷竊或該犯徐喜兒即在抖晾人役之內
俱未可定並著向該犯詳細推鞠如有供出之人
即向內務府提到質訊此案情節重大是以交留
京王大臣及刑部堂官會同審辦務將此案原委
確情逐一究明世使絲毫遁飾即徐喜兒王大等
列有攀扯干連人眾亦不可刪減情節存化大為
小之見提應和盤托出俾案無遁情方為信識此
旨到後著先將審訊大概情形迅速具奏若非本
報日期即著并發馳遞將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

689 軍機大臣 字寄

內務府大臣 嘉慶七年八月十九日奉

上諭縉布等奏端門樓被竊梅針箭腰刀一崇同日
據護軍統領等具奏已交留京王大臣會同刑部

嚴切根訊矣此項存貯箭枝腰刀向有內務府官
二員內管領二員值年經管此次拿獲賊犯徐喜
兒偷竊箭二捆每捆二百枝腰刀三把並據刑部
訊出該犯供稱先於七月初一日竊去箭二捆十
四日竊去箭二捆賣錢花用等語是此項刀箭被
竊已非一次恐所尚不止此數此案係在禁地
偷竊軍器案關重大縉布等經該司員呈報即當
一面奏聞一面親赴該處查驗摺內稱係奉有諭
旨再行詳查未免疎緩現在內務府大臣除蘇揚
額常川在圓明園住班著縉布等三人帶領原管
官員即將端門額存各軍器全行查點寔在短缺
若干即行具奏一面知照刑部提犯質訊數目是
否相符再摺內稱每年按照四季抖晾本年五月
十一日抖晾完竣封固則八月秋季又應值抖晾
之期何以七月內兩次所失箭枝未經查出著據
寔查明覆奏再抖晾之時係內務府司員等經管
其所帶人役自必不少或係該役等認識門徑熟
悉存貯處所有勾通偷竊之事或獲犯徐喜兒即
在原帶人役之內均未可定並著密查如有端倪

一併奏聞將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

690 嘉慶七年八月十九日內閣奉

上諭伯麟奏拏獲積年竊盜高家夏承基等犯並究
出十年前該犯等毆斃人命賄捏病故一摺此案
徐溝縣民人夏承基夏承雨係積年偷竊騾馬窩
家經文水徐溝二縣訪查拏獲解省伯麟即飭太
原府知府慶格審辦究出該犯等曾於乾隆五十
六年毆傷李超致斃賄囑書吏等捏報病故前任
知縣金國寶率行詳報以致人命重情日久未能
剖晰此時該撫委令知府慶格于承審窩案內
悉心研究將積年命案訊出覆檢屍骨以平冤獄
均屬可嘉至金國寶于李超凡保回該縣時既未
查出傷重情形又未確驗屍傷竟任聽輔和從輕
完結難保無別項情弊金國寶已還雲南激江府
知府著伯麟行文經過地方將金國寶沿途截留
解省質訊其率准保回李超凡之前任徐溝令楊
廷瑛任聽書役捏造醫生店保供結之署徐溝令

張奇毓以及承委覆審未令開檢僅憑供結率詳
之前署文水令李會觀臨汾令張五倫俱著該撫
于審明此案後照例奏辦欽此

691 軍機大臣 字寄

雲貴提督琅 嘉慶七年八月二十日奉

上諭琅玕奏官兵圍剿工江山等賊匪各情形一摺
覽奏俱悉工江一帶賊寨為各處竄匪屯聚之所
該標匪等胆敢負險抗拒經官兵堵住箐口尚復
潛來撲營不知畏罪投誠自應示以兵威殲其渠
首但使知所懾服即可不必過事誅夷此次琅玕
將為首賊目阿依扒等三名及在前逞兇者痛加殲
戮其餘被脅附和標標跪地乞降均即查明妥為
安插一節所辦甚是若如摺內所稱未能保其淨
盡之語未免過當此等烏合夷匪如果各知斂戢
不敢再滋事端即可就事完結又何必因一二不
法滋事之徒遽將脅從夷眾概予駢誅欲盡絕其
根株耶至維西之梓卜可吉利灣等處標匪有從
前曾經投誠復行入夥滋擾槍劫者殊屬可惡自

應嚴行查辦但亦祇須將糾眾為首之人上緊擒獲懲辦使該處已降夷人心知畏懼不敢再生反側邊境寧帖即可完局此事辦理已逾半載亦不值為窮兵黷武之舉也至恒乍緹一犯逃出江外尚未就擒今據琅玕摺內稱若令官兵過江搜捕恐致激成事端但不示以兵威又恐久獲無期現在設法擒拏等語其如何設法之處摺內並未聲明前因恒乍緹竄至江外屢經諭令琅玕不可過江搜捕恐致該處夷眾驚疑今琅玕欲示以兵威豈竟隔江遙作聲勢夷匪即知震懾乎若派令將弁等過江則與琅玕親自帶兵前往何異且恒乍緹轉得以官兵前來剿滅之語恐嚇夷人藉滋糾紛結豈不激成事端莫若選派明白曉事頭人向各寨順第廣為曉諭懸賞購線令將恒乍緹縛獻並諭以若不行獻出現在總督帶領大兵立即過江剿辦尔等俱為恒乍緹所累悔之無及如此示以利害夷人等果將恒乍緹獻出即可撤兵嚴事琅玕當遵照節降諭旨安速辦理斷不可存邀功見好之見為要又據另片覆奏裁撤鄉勇一節據稱各路

雇募鄉勇係因保護地方應責令地方官自行辦理不復另請開銷等語所奏非是朕前此降旨令琅玕將鄉勇酌撤者原以國家剿捕賊匪自應專仗官兵不應設立鄉勇名目即偶一雇用亦屬可暫而不可常非徒為靳惜費用起見此次賊匪滋擾之初事起倉猝兵練一時未能調齊或該處民人保護身家自行團練亦在所不禁迨各路兵已調齊則鄉勇即應以次撤裁免致日久滋事此項鄉勇既經募用幫同出力其應得益菜。糧自應照例給與豈有令地方官指辦之理且既有指辦名目伊等有所藉口必仍思設法浮開或巧取于民徒滋派累琅玕惟應查明各路鄉勇曾經實在出力者所有應得各例按照隨征月日照例賞給准其作正開銷但不可稍涉冒濫其此次陣亡武舉楊國弼外委彭得元俱著加恩咨部賜卹將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

安徽巡撫王 嘉慶七年八月二十日奉

上諭王汝霖奏碾運楚省兵米委員起解一摺該撫接到楚省米咨即於水次各州縣存倉穀石動碾備撥嗣接奉諭旨以安省本年有缺雨之處倉穀尚應酌留以備賑糶之需現碾運六萬石分起委員迅速解楚應用所辦甚好但摺內稱水次各屬本年缺雨之處較多種價未免稍增等語安徽夏間缺雨各州縣雖據王汝霖前次奏報安徽廬鳳各屬於六月底七月間連得大雨內宿松等二十三州縣尚未霑足此次王汝霖摺內並未續奏如何查辦該處地方從前缺雨日久曾否有被早成災之處得雨之後秋收是否尚有可望著即詳查據實具奏如有收成數薄應撫卹加恩之處迅速奏明請旨該撫不可因已經奏報得有透雨即意存諱飾置之不辦也將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

693 嘉慶七年八月二十二日內閣奉

上諭給事中蕭芝奏陳時政一摺內稱江西受旱十有一府目下雖市糧無缺恐今冬明春無所接濟

請將兩淮鹽義倉穀石碾運江西以資平糶等語此事可行上年因湖北被災曾經將兩淮義倉貯穀二十萬石協濟湖北今江省被旱事同一例且兩淮鹽餉向於該省行銷此時自應周其不急需兩淮鹽政估山即於鹽義倉存貯穀內酌動若干石一面奏稱一面碾運派員押送交巡撫張誠基分撥被災各府屬妥為平糶用資民食毋任胥吏人等從中稍有侵蝕其兩淮所碾穀石估山仍當酌籌歸款至該給事中稱招致米商入川販運沿途闖隘請蠲船稅一節此不可行川省股匪現雖剿淨但尚有零星賊殘之賊希圖潛逃各處設立闖隘原以盤詰奸宄若於販運川米概令放行不加稽察恐邪匪潛迹其中得以遠颺漏網其不稱勸捐一節地方偶遇偏災百姓等誼切桑梓指賞賑卹原屬好善樂施初非強以所難若必地方官諭令捐輸即不免有科派勒捐等弊莫若聽民間殷實之家自行施捨毋須官為經理以免擾累摺併發欽此

協辦大學士兩廣總督吉 嘉慶七年八月二

十二日奉

上諭吉慶奏查拿惠州府屬地方滄弟會匪一事該
會匪等胆敢糾結多人製修器械並造有悖逆布
旗實屬不法已極自應上緊查拏按律懲辦今吉
慶行抵該處據稱陸續拏獲首夥四十餘名並接
出脅從者一百九十餘名等語是匪徒等業已解
散祇須照查拏地方匪犯之案辦理但摺內既稱
拿獲首夥各犯其為首者究屬何人夥眾共有若
干人數自應訊取大概供詞隨摺具奏何無一語
聲叙殊欠明晰現據吉慶奏廣西鎮南關一帶甚
為寧謐同日亦據孫玉庭奏到邊關安靜情形亦
屬相同前曾降旨諭知吉慶孫玉庭如探得鎮南
關並無緊要事件皆撫原不必同往現已諭令孫
玉庭赴太平暫為駐紮如邊關無應辦之事併亦
令其回省此時吉慶竟不必再赴廣西即在惠州
將查拿會匪一案督同地方官妥辦但必須將此
案首夥查拏淨盡勿免迨他處為要如續有拿獲

之犯即當審明為首者凌遲處死其餘夥黨照

例分別定擬具奏再前次所奏高溪逆

詞或即係此等會匪編造吉慶於審辦

訊時即當向該匪等追究高溪下落或能跟訊

得實亦未可定至阮福映既知恭順自必遣使詣

闕請封且俟其使臣到時遵照前旨辦理又據另

片奏六月二十六七等日海風甚大沿海草窠船

隻間有損傷而洋面盜匪不能在安南藏匿潛竄

粵洋被此颶風飄沉大半等語海洋盜匪肆劫商

旅今既無窩藏之所又遇颶風漂沒可見

天道昭然不棄寬奏實深敬畏吉慶當趁此盜匪窮蹙

之時嚴飭員弁實力緝拏如有登岸潛逃者務須

按名弋獲勿任免脫以淨根株其被風之位寮窮

民尤當加意撫卹毋使失所為要至另片請將海

安營游擊何英留粵陞用一節該游擊在粵既據

稱其熟悉海洋巡捕奮勉俟將來應陞缺出吉慶

保題到日再行降旨將此由四百里諭令知之欽

此遵 旨寄信前來

695 嘉慶七年八月二十二日內閣奉

上諭吉慶瑚圖禮恭奏廢法妄斷曲意消弭致縱重犯之道員請旨革審一摺此案肇羅道孫燕翼于恩平縣民人鄭大牲翻控伊子鄭祥蔭被擊徒岑德勝等用藥毒斃一案經總督飭委審辦該道並不秉公研鞫按律擬斬輒稱鄭祥蔭實係病故鄭大牲索詐不遂誣告謀命現在被控之鄭大綸等盡力仗助鄭大牲情願和息免其坐罪等由詳請消釋難保無受賄聽囑消弭重案情弊自應徹底根究方成信獄孫燕翼著革職以便提同案內犯証嚴審辦理此時吉慶現已出省即著巡撫瑚圖禮督同新任臬司印庭濇秉公審擬具奏又據另片密稱孫燕翼于陽江縣丞王率接收署縣丞馮球交代短少米石向藩司代求通融寬免又於高明縣知縣雷際泰審擬絞犯陳亞三中途逃脫一案向臬司央浼免參並據肇慶府知府楊有源函稟孫燕翼于到任時索取陋規等情孫燕翼身任監司輒敢徇庇屬員向藩司臬司請托並于到任時需索陋規顯違功令吉慶等訪徇明確自應秉公恭辦明掛牌革職俾屬員咸知儆惕何所用其密奏

若因孫燕翼係孫曰秉之子豈伊父身任巡撫即應竟存瞻狗乎吉慶等密奏片內有不避嫌怨之語蓋屬謂是等批示所有另奉各款即著該撫等一併嚴審定擬具奏欽此

696 軍機大臣 字寄

廣西巡撫孫 嘉慶七年八月二十二日奉

上諭孫玉庭奏行抵廣西體察邊境情形一摺農耐攻得安南之後業經稟求督撫懇請納款粵西邊境極為寧謐前諭吉慶等赴鎮南關督率經理時原令孫玉庭先到廣西省城接印任事探明邊境情形再定行止今孫玉庭以夷情新定若督撫大吏同至鎮南關駐劄恐反致生疑是所見尚是現在吉慶另有粵東應辦之事已降旨令其不必前赴粵西孫玉庭暫赴太平府督率文武持以鎮靜若邊關實無應辦之事即可回至省城俟阮福映請封使臣到日遵照前旨奏聞辦理其該使臣未到之前不必遣人探問也將此諭令知之欽此

遵

寄信前來

697 嘉慶七年八月二十二日奉

旨刑部等衙門議覆廈門被失砲位分別治罪一案將失察之水師提督倪定得議以降留不准查抵自係按例辦理惟念該提督于是日甫經到任其被失砲位尚非該提督不能先事防範所致所有倪定得降一級留任之案著加恩寬免餘議欽此

698 嘉慶七年八月二十二日奉

旨這所叅派借營弁銀兩之肇慶協副將萬舒著革職發往伊犁効力贖罪其不行阻止轉為湊借之署中軍都司趙興海著一併革職該部知道欽此

699 嘉慶七年八月二十三日內閣奉

上諭高杞奏鳳凰廳同知傅萬丁憂懇留原任一摺各省丁憂人員非承辦軍務概不准奏請在任守制今鳳凰廳係屬苗疆傳羅自嘉慶元年以來辦理該處邊防妥協素為民苗悅服即現在所辦建城築堡設卡均田仍係軍務善後事宜此時未便驟易生手且該員之父向係迎養在署伊等事後自得稍盡人子之情與聞計者亦尚有間傳萬著准

其署理鳳凰直隸廳同知不必開缺該部知道摺併發欽此

700 嘉慶七年八月二十三日內閣奉

上諭陸有仁奏現任陝省寧羗州知州馮裕雲因病後失調精神漸減難勝繁缺該州界連川省軍務殷繁現辦善後事宜亟須幹員經理查有峽陽縣知縣崔五峯前因軍務出力經額勒登保保奏以知州陞用等語著照所請准以崔五峯陞補寧羗州知州其撤回知州馮裕雲著仍留陝省以相當之缺補用該部知道摺併發欽此

701 軍機大臣 字寄

留京辦事王大臣 刑部堂官 嘉慶七年八月二十四日奉

上諭永璇等奏到審訊賊犯徐喜兒偷竊瑞門棧刀箭大概情形一摺覽奏俱悉此案賊犯徐喜兒先於七月初一十四兩日上瑞門樓庫偷竊箭枝由東長安門東關門滑出此二日該班官兵毫無知

覺罪實難追但詳閱徐喜兒供內其七月初一日
初次偷竊時因係祭祀之日於五更時混入又趁
大衆散時背出是日人多擁擠兼有儀仗執事人
役出入該官兵等不能過加查察其跡忽尚屬有
因所有是日各該添兵丁等著於初五日越劫至
半月即行釋放仍議以應得之罪至十四日該犯
偷竊時係屬午後以禁城之內自晝行竊未去自
如是日該班官兵等若罔聞知其罪較重所有是
日該班兵丁著枷至審明定案之日再行奏明請
旨至於買賍之趙甫坡滕文照二犯雖訊據供稱
箭頭作廢鐵使用箭桿作香盤柱實係貪賤向買
不知未歷亦並無別項用處等語但不供恐係避
重就輕且箭枝係屬官物趙甫坡等向買時豈有
不問明未歷之理其滕文照舖內尚有舊箭四百
餘枝又係買自何人俱當詳晰跟究至徐喜兒供
內尚有七月內偷過兩三次之語此兩三次偷竊
究係何日由何門進出訊明後該班官兵等皆有
應得之罪但必須查究明確毫無疑義方可將官
兵等照前一律懲治現在該犯供詞閃爍亦不必

用大刑夾訊轉致信口混供惟當設法推求或仍
擄耳跪鍊從容研究一經訊出買賍之人越出箭
枝訊明買賍日期並查對內務府現存刀箭數目
自可盡得確情該犯等亦無狡賴也將此諭令
知之欽此遵
旨寄信前來

702 嘉慶七年八月二十四日內閣奉

上諭勒保奏原任四川彭水縣知縣江鎮西前因緝捕不力
參革茲呈請捐復原官等語江鎮西原犯案情節屬公罪
既據該督稱該員年力富強歷在軍營著有勞績著照所
請准其捐復原官留川効用該部知道摺併發欽此

703 嘉慶七年八月二十五日內閣奉

上諭前據廣興奏會看本年秋審冊內原擬緩決之
廣東省姚得輝四川省許臻威二犯應改情實一
摺當經批令三法司核擬具奏復經大學士董誥
等面奏請將刑部衙門迴避茲據普福等核擬覆
奏前來朕詳閱情節姚得輝毆傷梁思泗一案係

梁恩泗先拾石塊擲傷姚得輝該犯始用鐵管未
槍連戳梁恩泗肘腿肚均非致命因梁恩泗仍
向撲毆該犯情急復用槍回戳致傷梁恩泗左太
陽項命是死者先行動手回戳委係適傷尚非有
心致死廣興以業內尚有姚華士毆傷梁兆泰身
死一案節今姚華士監斃祇可抵梁兆泰之命若將
得輝問擬緩決與乾隆十八年一命必有一抵欽
奉

上諭不符殊不知一命一抵原指聚眾械鬥等案而言
若尋常鬥殺各斃各命自當酌情理之平分別寬
緩若拘泥一命必有一抵之語則是秋謙囚徒皆
殺傷斃命之案將盡行問擬情實可不必有緩決
一項有是理乎况此案姚華士姚得輝原係各科
各罪姚華士罪應情實如未經監斃自當照擬辦
理姚得輝罪應緩決宜有因姚華士業經監斃遂
將應緩之犯改問情實之理又許臻威鹽滷灌傷
呂大賢身死一案呂大賢曾向該犯之父借欠錢
穀未償轉捏稱欠伊穀價攜帶篋索討上吊恐
嚇該犯將呂大賢反縛欲行送官呂大賢卧地慢

罵辱及父母該犯氣忿順取浸蛋鹽滷灌令止罵
聞伊聲喊難過旋為諸醫用藥解救不愈越三日
殞命是死者負欠本屬理曲又復捏欠訛詐情同
擾害况該犯灌飲鹽滷祇欲止以其罪罵見伊聲喊
即為延醫救治可見並無致死之心辦理秋謙所
以令大學士九卿會議者原以人命至重必當詳
慎研求期合於罪疑惟輕之義若如廣興所奏將
本應緩決之犯有意從嚴改問情實轉失欽恤之
本意矣普福等所駁尚是姚得輝許臻威二犯著
仍照原擬入於緩決該部知道摺併發欽此

704 嘉慶七年八月二十五日內閣奉

上諭御史書興奏請暫減崇文門稅額一摺各省關稅盈餘
於嘉慶四年即降旨量加裁減至徵收正額歷久相沿本
有定數其有實因商賈阻隔以致缺額者無不加恩寬免
即如近年夔渝等關邪匪滋事商販稀少缺額較多節經
降旨量予寬免本年崇文門監督奏徵收稅銀比較上年
短少至一萬一千有零亦經加恩寬免一半原因上年籌
被數收貨物短絀以致缺額可見該監督尚無例外橫征

之事若因此將關稅額徵遽行議減將來物力豐裕商販
充盈又復議增豈不轉同加賦乎該御史所奏無庸置議
欽此

705 軍機大臣 字寄

留京王大臣 刑部堂官 嘉慶七年八月二
十五日奉

上諭縵布等奏查明端門樓庫現存刀箭各數一摺
據稱腰刀一萬八千把計短少腰刀十三把箭十
八萬枝計短少箭一千二百三十二枝等語此案
前據留京王大臣等奏稱徐喜兒偷竊腰刀止係
三把其所竊之箭亦祇供認六百枝本日董誥德
瑛面奏陸據在京刑部司員稟知現在該犯供稱
除七月初一十四八月十五日三次偷竊外七月
內尚有不記日期三次竊刀十把箭六百枝實與
小市不認識人等語與內務府查明所失之數大
致符合著留京王大臣等再將徐喜兒一犯詳細
研鞫所有短刀腰刀箭枝二項除現獲外續行供
出偷竊腰刀十把並箭六百枝該犯究係何日偷

竊賣給何人作何使用務須審訊確實毋任狡展
再據縵布等奏稱端門樓上所貯木箱植皆係木
色用鐵釘色護與該犯前供望見樓上紅油漆箭
植之語不符又端門樓窗外而下肩銅貼金面葉
損落無存者計四十餘塊是否亦係該犯竊去均
應詳加根訊務俾吐露寔情以成信讞將此諭令
知之欽此遵

旨寄信前來

706 嘉慶七年八月二十五日奉

旨據總管內務府大臣等奏查明端門樓庫被竊刀
箭各數並自請與司員等分別議處一摺端門存
貯此項刀箭該司員等係專司抖晾原非在彼防
守惟現被偷竊刀箭如許之多漫無覺察自有應
得處分亦無庸加以嚴議所有該大臣等請將值
年郎中吉祥等嚴議之處著從寬改為交部議處
至總管內務府大臣向無稽察之責查該大臣
有在京及隨園之總管內務府大臣等俱著加恩
免其議處餘依議欽此

707 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 廣東巡撫瑚

嘉慶七年八月二十五日奉

上諭刑部奏審訊巴革藩司吳俊錄取供詞違呈據稱廣東臬司衙門每年公用需銀七八千兩該州縣向有贓罰陋規為津貼公用曾經詳明督撫向年多至二三萬兩伊任內大加裁減每歲以七千數百兩為率伊在任兩年共收過銀一萬四千兩實係作為緝盜懸賞及一切公用並無絲毫入己有首府首縣可問又指辦米艇示挪庫項亦係將此項陋規盈餘補還歸款至陞任藩司臨行時收受贓罰銀一千七百餘兩因贓罰銀兩各州縣未經解到時先將自己所得養廉並挪借他款墊費起身時遠各州縣解到即將贓罰銀一千兩扣歸各款餘銀七百兩補還伊所墊養廉作為路費等供但係一面之詞遽難憑信此項贓罰銀兩吳俊任內既大加裁減且此項銀兩作為臬司衙門公用從前詳明督撫有案即督撫衙門書吏亦以此作為津貼之用吉慶瑚圖禮何得委為不知且

待朕降旨詢問始行奏出乎至粵省從前製造米艇吉慶等奏明督撫司道捐資辦理彼時曾給予議叙今吳俊所供伊名下捐項係動用贓罰銀兩可見捐辦之說並非自出已資不獨吳俊一人為然各省凡有捐處辦公之請朕向來多不准行即恐其假公濟私也至吳俊所供收受贓罰銀兩皆係公用現有首府首縣可問無難一詢而得其起身時收受贓罰銀兩千七百餘兩是否以一千兩歸還墊發款項以七百餘兩扣歸伊墊過養廉作為盤費並著吉慶瑚圖禮秉公核寔查明迅速覆奏以便按律定擬所有刑部奏摺及吳俊供詞俱著發交閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

708 嘉慶七年八月二十六日內閣奉

上諭馬慧裕奏河南候補通判葉大奇呈請就近於河南藩庫交納銀一千四百兩捐復同知留豫差委一摺葉大奇由同知降調並舉出降通判曾經選缺因迴避赴豫候補之員不應捐復原官如該

負有志指陞本年五月以前工賑例尚未停止儘可赴部呈請捐陞同知今捐例已停該員輒向本省巡撫處呈稱指復原官其意不過希圖就近支銀即留於該省候補既可免赴京跋涉之勞又可省加指分發之費殊屬取巧况河南並非現辦軍務省分若以其人高明幹即令就近指陞留於本省談外省紛紛效尤豈不致開俸進之漸乎葉大奇呈請之處著不准行欽此

709 嘉慶七年八月二十七日內閣奉

上諭祖之望等奏審明金鄉縣史孫冒考一案分別定擬一摺此案係朕特降諭旨交與和寧審辦之業和寧並不親提研鞠一任承審之負偏袒徇私將原告刑求性辱以致株累多人况據祖之望等奏稱候補同知張繼榮承審此案時將原告李玉琛掌責藩司面加呵斥伊即告病迨銷假時稟見巡撫和寧亦曾斥其鍛鍊臬司亦加抱怨等語是張繼榮刑訊原告逼令誣認和寧等既知其鍛鍊即當將該員奏親提鞠訊乃仍聽委負等始終

勝庶竟若罔聞豈非有心袒護至飛蝗入境一事

經朕即降諭旨飭令詳查而和寧祇稱濟寧等州間有飛蝗並不食稼封疆大吏諱實不報實屬玩視民瘼前經吏部議奏將和寧照溺職例革職實為咎所應得和寧著照部議革職藩司吳俊除已另案革職外臬司陳鍾琛職任刑名未經秉公督緝著交部嚴加議處餘著交刑部核議具奏摺併發欽此

710 軍機大臣 字寄

刑部堂官 山東巡撫祖 嘉慶七年八月二

十七日奉

上諭本日祖之望等奏審明金鄉縣史孫冒考一案分別定擬一摺已交刑部核擬具奏矣惟詳閱摺內據委員張繼榮供稱伊承審此案時曾因掌責原告李玉琛經藩司大加呵斥後銷病假見和巡撫斥其鍛鍊臬司亦向抱怨等語是此案鍛鍊逼誣竟屬張繼榮自出已見巡撫及藩司兩司尚無授^{實據}樂但藩臬兩司既因張繼榮自出已見刑逼誣

認加以呵斥何以六月內兩司會審時又將被刑
誣認之李涑陽加以夫訊且既知張繼榮等濫刑
屬實何以不據實揭恭著刑部堂官提出已革藩
司吳俊將以上指出各情嚴訊具奏並著祖之望
向臬司陳鍾琛詢問明確由驛覆奏將此各諭令
知之欽此遵

旨寄信前來

711 軍機大臣 字寄

步軍統領祿 左翼總兵國 嘉慶七年八月

二十八日奉

上諭本日據楊揆奏六月二十四日摺差自京旋省
帶到書信一封係駐京提塘交伊轉寄內有款摺
一件係崔福方泰出名大概言楊揆營私受賄等
事令速差內使來京料理如不速來安置方泰等
將各款密稟成親王據實奏奏又七月十三日摺
差到省復接前事來信一件係崔福出名催令遣
人即速來京並開寫方泰住址單內稱問碩四老

爺宅內便知其方泰款摺內並稱川中如有來人
務要住在前門外豬市口大街泰來店內以便找
問信息等因楊揆既稱與方泰等從未認識今兩
次寄信到川臚列楊揆賍私各款令其遣人攜帶
萬金來京找尋方泰等安頓其中顯有恐嚇詭詐
情事自應上緊查拏切實嚴訊此事既有姓名住
址可查無難即時訪獲著祿康國霖即行密派幹
練弁役按照單開姓名住址訪查確實並傳詢四
川提塘該提塘為人寄信必有簿冊登記此二信
究係何人給予轉寄曾否認識其人其所指泰來
店亦應密行派人詳細訪查曾否有北新橋南船
板街衙居住之方泰向伊店內探問四川布政使
楊揆差人到京信息或一明幹番役扮作楊揆家
人到伊店內聲稱自四川來京問伊店主人可有
方姓崔姓留下話語否我有要語必須面見方泰
崔福二人囑其帶領訪找俟見方崔二人後告以
我主人連接來信心甚害怕現在差我來京帶銀
求為安頓方泰等自必吐露實情即可拏獲審辦
祿康等一經詳得大概情即即行奏聞所有楊揆

殊

原摺著發交閱看其方泰崔福稟字款摺亦著一併裁去以便獲犯後查對筆跡再此間已令軍機大臣密詢成親王據稱伊家譜達長史護衛內並無碩字取名之人惟蘇拉內有崔興住崔九崔十崔保壽四人與崔福同姓並著祿康等先行密訪

此四人內是否有崔福其人有無干涉此案之處一併具奏不必即行查傳轉致崔福等聞風遠颺

洩漏亦云

旨寄信前來

也將此諭令知之欽此遵

712 臣等遵將楊揆奏摺並崔福等件件面交成親

王永理察看據稱我在京中並未風聞此事如

果有所聞斷不敢不即時陳

奏至我家有舊時帶出譜達五人及長史護衛人

等內並無以碩字取名之人本日於本報之使

當即將崔福方泰及碩四姓名並方泰住址開

明寄信綿懇令其密為查訪如我家內譜達護

衛等有住居相近北新橋兩船板棚或有認

識碩四及崔福方泰者再查我家蘇拉內有崔

與住崔九崔十崔保壽四人俱與崔福同姓亦令一併密詢即密行寄知面告軍機大臣轉奏查辦等語謹

713 軍機大臣 字寄

留京辦事王大臣 刑部堂官 嘉慶七年八

月二十八日奉

上諭永璇等奏連日審訊賊犯徐喜見偷竊刀箭情

形一摺覽奏已悉此案該犯除七月初一十四及

八月十五日三次偷竊刀箭俱經供認確鑿外其

餘偷竊三次據供棍在七月以內及八月初間陸

續責與不識姓名之人其寔在日期并實與何人

不能詳細記憶等語徐喜見一犯於七月初一等

日三次行竊贓証確鑿其罪已可按律定擬其續

行供出三次偷竊之處即不將日期及買贖之人

據實供吐其罪亦不因此增減况業經熬審數日

仍屬游移若刑求不已伊或將偷竊日期及買贖

之處信口混供因將是日之該班官兵人等分別

查拏懲治設伊又復供吐游移豈不輾轉拖累殊不成事且該犯熟訊多日業經耳爛膝破若再加以刑求或致自斃轉得倖逃法網著傳諭留京王大臣刑部堂官等如此旨到時已將該犯續行偷竊三次日期及買贓之人審訊明確定擬結案如高無確供亦無庸再行跟究即將徐喜見一犯及此案應行問擬之人按律定擬具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

714 軍機大臣 字寄

兩江總督費 江南河道總督吳 嘉慶七年

八月二十八日奉

上諭費淳等奏秋汛水勢異漲酌啓開堤宣洩並各工搶護平穩情形一摺覽奏宜深悚惕敬畏江省本年七月以後水勢異漲黃河節次增長較之五十九年秋水竄旺之年尚高三尺餘寸積至二十餘日甫形消退幸賴先事分路宣洩當埽工危險之時該督等董率廳汛弁兵夫竭力搶護得保

無虞此皆仰荷

河神默佑曷勝欽感著發去藏香二十枝交費淳吳璈敬謹祀謝用答

神庥現在甫屆秋分距霜降尚有一月雖水勢漸次平緩但盛漲甫消各處堤工仍當吃緊之際該督等嚴飭道將廳汛各員晝夜防護不可稍存大意仍不時親身巡歷督率修防務期工皆穩固普慶安瀾以副委任所有在工搶護出力人員統俟霜降後查明保奏再行降旨加恩甄叙將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

715 嘉慶七年八月二十八日內閣奉

上諭全保奏查明被旱被水各州縣將錢漕等項分別展緩一摺此次該省被旱較重之江夏等縣均因受旱稍久收成歉薄所有本年及緩帶節年錢漕自未便仍行徵收著加恩將江夏咸寧嘉魚崇陽通山漢陽黃陂孝感陸雲夢應城等十一縣本年秋徵地丁各項銀兩及應行帶徵節年錢漕並應完本年漕兩二米一併緩至來年秋收後

再行啟徵其被水後復被秋汛瀰漫兼有受旱地方之漢川潛江公安江陵松滋監利等六縣除本年秋徵地丁銀兩及帶徵錢糧前經降旨緩徵外著再加恩將該六縣被水被旱各處一切應徵各款銀兩一併緩至來年秋後徵收其應完本年漕南二米著緩至來歲秋收後再行徵收至受旱較輕之武昌等州縣除隨州應山並無帶徵錢漕外著加恩將武昌蒲圻興國大冶黃岡蘄水蘄州黃梅廣濟麻城羅田黃安荊門等十三州縣緩帶節年錢漕等項均緩至來年秋收後徵收其屯坐各州縣之各衝所被水被旱情形與州縣相同者錢糧漕費等項即照各州縣一體緩徵以示朕軫念災區有加無已至意該部知道摺併發欽此

716 軍機大臣 字寄

四川總督一等男勒 嘉慶七年八月二十八

日奉

上諭本日據楊揆奏審擬瀘州里役方雄等控告羅世新等採買勒派津貼分肥等款一摺已批交刑部核擬具奏矣據摺內稱此案牽涉多人砌列各

欺均係曾經管過局事之朱明亮一人挾嫌逞訟經反覆究詰之後朱明亮種種不能置辯隨將朱明亮該縣押店而該犯旋即畏罪自戕等語朱明亮所控不實罪止充軍何至即行自戕或地方官辦理此案任意刑求其所控採買勒派津貼分肥種種情弊皆所不究因而致充滅口亦未可定著勒保即密行訪查據實具奏又據楊揆另奏太平雲陽大寧等廳縣本年被水情形一摺太平廳被水情形前此業經勒保奏明勘不成災毋庸賑卹此外雲陽大寧二縣既據楊揆奏稱因大雨衝塌城垣民房損壞農田自不無妨礙著勒保迅速飭查如實有成災應行撫卹蠲緩之處務即據實奏報候朕加恩不可諱飾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

717 查四川太平廳被水情形本年六月勒保奏到即奉有諭旨令其據實詳查嗣勒保於七月二十一日覆奏勘不成

灾毋庸請

帑賑卹等語且等謹於本日擬寫寄信勒保

諭旨內祇令將雲陽大字二縣被水是否成災之處詳查具

奏謹

奏

八月二十八日

718 軍機大臣 字寄

江蘇巡撫岳 嘉慶七年八月二十八日奉

上諭岳起奏另籌倉穀協濟江西省一摺前因張誠基奏請委員前赴江蘇採買穀石當即降旨諭令岳起妥為經理務於市價民食兩無妨礙茲據岳起奏江蘇向藉川廣江西等省產米以資接濟近來商販鮮通糧價未能平減該省本年夏秋又間被旱潦亦有歉收之虞若一經鄰省採買米石市價恐復增昂惟江蘇省倉穀現在存貯者尚屬充盈擬酌量撥給較為省便等語自係實在情形著即照該撫所奏於江藩司屬倉穀內動撥二萬石蘇藩司屬倉穀內動撥八萬石令江西委員運回其江蘇動缺倉穀俟江西未歲檢收即照數買運

運蘇歸款此時江西不必移運穀價祇須報銷運脚可也將此傳諭岳起並諭貴淳張誠基知之

欽此遵

旨寄信前來

719 嘉慶七年八月二十八日奉

上諭楊揆奏籌辦糧餉情形一摺川省大功將次告成倉儲最關緊要自應乘時採買其所需穀價若動用銀^兩究恐軍需項下支應不敷現已傳諭信山於兩淮商捐項下撥銀三十萬兩委負迅速解川交該藩司以備採買之用至另摺密陳事件自係不肖之徒有心挾詐與楊揆並無干涉其自請解任之處儘可不必現已在京密飭查拏俟獲犯審記得有端倪再諭知該藩司也將此傳諭知之欽

此

軍機大臣遵

旨傳諭四川布政使楊揆

720 嘉慶七年八月二十五日奉

上諭現據楊揆奏川省採買倉穀需銀接濟著傳諭
估山於兩淮商捐項下撥銀三十萬兩派委妥員
迅解川省交楊揆收貯備用並飭令沿途地方官
小心護送毋致遲悞將此由四百里諭令知之欽
此

軍機大臣遵

旨傳諭兩淮鹽政估山

721 嘉慶七年八月二十八日內閣奉

上諭廣東肇慶協副將員缺著三格補授欽此

722 查廣東肇慶協副將高舒因需索陋規經吉慶奏革其
所遺員缺等謹查明奉

旨交軍機處記名及交兵部記名人員列清單繕寫字名
進

呈恭候

簡放謹

奏

八月二十八日

723 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 嘉慶七年八月二十九日
奉

上諭吉慶奏肇慶添弟會匪徒審明分別辦理一摺已
批交刑部核擬具奏矣又據另片奏稱歸善博羅
二縣地方會匪脅從者竟有一二萬人現在歸善
縣屬百姓安恬博羅縣羊屎山內匪徒藏匿甚多
現已派調官兵前往嚴拏等語所奏殊不明晰此
項會匪聚集至一二萬人之多製有器械旗幟其
蓄謀自非一日何以地方官竟漫無覺察廣東吏
治廢弛已可概見吉慶既赴惠州督辦此案自應
將如何查辦曾否調動官兵該匪等曾否抗拒情形一
一詳叙乃僅稱匪徒聞知提督到彼信息即紛紛
投首拏獲蔡步雲等審明正法結案實屬懈惰將此了事也
思匪徒等既已糾集多人偽稱陳亞本為大王並
有偽元帥偽先鋒等名號執持器械聚集海洲山
勢已兇橫經地方營縣訪聞往拏自必恃眾抗拒
乃一聞提督到彼輒束手就縛恐無此情理况據
摺內所稱拏獲及投首匪徒僅千餘人尚不及十

殊

分之一而首犯陳亞本又被逃逸自即與博羅縣
羊屎山匪徒合夥現在吉慶派調官兵前往查辦
約計該處匪徒尚有萬餘則需調二三萬官兵方
足以資搜捕吉慶所調者究係何處官兵為數若
干亦未提及僅以寥寥數語另片密奏殊不可解
即前次所奏布旗逆詞究從何處搜獲摺內亦未
聲叙如果該匪等胆敢糾眾謀逆定有一二萬人
自當一面設法解散一面帶兵搜捕不可稍存姑
息其為首之陳亞本及博羅縣為首聚眾之犯務
當迅速擊獲勿任漏網但粵省會匪糾集朕早有
所聞節經降旨詢問始據吉慶奏明查辦恐不獨
歸善博羅二縣有之倘會匪中有執係結會飲錢
並無謀逆搶奪情事者或地方官以少報多張大
其詞吉慶亦斷不可輕信遽行帶兵搜捕轉致釀成
巨案如係潛謀不軌自當示以兵威檢捕淨盡不可化大
為小草率了事以致養癰貽患欲惜費而轉致多費也著
傳諭該督將以上指出各情節逐一詳細覆奏毋
得稍有含混現在吉慶既不赴廣西此案著責成
該督即駐劄惠州妥速辦竣為要又據呂摺奏太

平府知府王撫棠稟稱農耐國長阮福映遣使詣
閩恭進表貢其表文表稿未據王撫棠送到無從
恭錄呈覽請將王撫棠交部議處等語阮福映遣使詣
閩一節前據清安奏業經奏到與今日吉慶摺內所叙相
同阮福映因已得安南全境欲遣使恭詣闕下而於天朝典
禮素所未諳是以先行具稟吉慶等望其指示並因前
使費有表文等件前往粵東未得吉慶覆音探問信
息語意顯然此時原有表貢同進至王撫棠稟內所
稱抄呈表文各稿即係吉慶前此奏到七月內
該國長遣使將盜首莫觀扶等縛送時呈進
之表吉慶既抄錄呈覽於前清安奏復抄錄呈覽
於後此次阮福映所寄吉慶稟內聲叙甚明想吉
慶此次接到該國長稟詞未經詳閱王撫棠並無
藐玩情事無庸交部議處吉慶於接收該國長具
稟之後曾否加以指示前曾節降諭旨令吉慶等
以農耐如果續行遣使呈進表貢敬開請封即著
吉慶飭令與該國前此所遣使臣鄭懷德等一同
來京彼時當將該國長縛送盜首莫觀扶及呈繳
敕印並前次擊斃盜首鄭七之處賜以獎諭加恩

錫封吉慶惟當遵照前旨妥為辦理可也至粵省洋盜總未淨盡皆緣地方官不能認真查拏所致今農耐尚能如此實力緝捕將鄭七擊斃而內地轉不加緊巡緝豈不為農耐所竊笑乎吉慶當嚴飭鎮將各員實力緝拏以靖洋面又據另片奏碭石鎮搃兵馮建功辦事軟弱於將弁等俱呼應不靈似不殊搃兵之任等語馮建功在碭石鎮如果人地不宜吉慶自當奏明酌量吏調簡缺如簡缺搃兵六不勝任或有別項劣蹟即當據定劾奉乃僅以一二虛語籠統具奏豈即因此將該鎮降旨罷斥降調乎仍著吉慶另行據實具奏再降諭旨將此由四百里諭令知之欽此遵

吉寄信前來

724 嘉慶七年八月三十日內閣奉

上諭前因直隸景州河間一帶蝗孽滋生該處與山東境壤毗連朕及慮及東省不免亦有飛蝗當經降旨詢問和寧諭令詳查具奏並於和寧摺內再三批示且令能枚於查勘直隸蝗蟲至河間地方

殊

時寄知和寧一體查辦而和寧覆奏摺內祇稱濟寧金鄉等州縣間有飛蝗不傷禾稼復經降旨嚴飭確查和寧仍不行據實奏聞迨和寧辭任後即令新任巡撫祖之望覆加查勘茲據祖之望奏到濟南泰安沂州東昌濟寧等府州屬五十餘州縣均被蝗災是山東全省被蝗處所竟有十之六七此蝗災殊深劇和寧身任巡撫即因地方官不行申報和寧漫無覺察已屬形同木偶及經朕嚴詢批諭和寧竟毫無不知畏懼始終迴護則是有心諱匿封疆大吏於此等民瘼攸關之事竟敢視同膜外寔屬辜恩溺職和寧前於金鄉縣臬孫冒考一案並不遵旨提訊其咎止於袒庇至匿蝗不報其罪更重僅予革職不足蔽辜和寧前已降旨革職著發往烏魯木齊自備資斧効力贖罪欽此

725 嘉慶七年八月三十日內閣奉

上諭祖之望奏查明各屬蝗旱情形一摺本年山東省交夏秋後雨澤稍稀早穀高粱不能暢茂迨蝗蝻生發正將屆刈獲之時晚穀間被殘食收成分

數稍減若將錢漕同時並徵民力不無拮据所有上年本係被水茲又疊受蝗旱之德州長清鄒城堂邑博平清平高唐恩縣在平東昌衛東阿臨清州武城邱縣夏津等十五州縣衛本年應徵漕米加恩緩徵一半俟明年秋收後徵收并將帶徵歷年舊欠錢漕再遞緩一年內東昌衛並無漕糧著將新舊錢糧與德州等處一律分別緩徵又被蝗稍重間有被旱之禹城平原陵縣德平德州衛泰安曲阜嶧縣寧陽泗水費縣蘭山鄒城等十三縣衛加恩將本年應徵漕糧緩徵一半俟明年秋收後徵收內無漕縣衛緩徵本年一半錢糧又被蝗較輕之厓城章邱鄒平濟河齊東濟陽臨邑萊蕪新泰東平肥城平陰惠民商河樂陵海豐青城陽信濱州滋陽滕縣陽穀館陶沂水蒙陰濟寧州金鄉魚臺等二十八州縣應徵漕糧加恩緩徵十分之三俟明歲秋收後徵收內蒙陰沂水二縣並無漕糧著將本年應徵地糧緩徵十分之三俟明歲秋收後徵收又長山博興樂安等三縣雖無蝗蝻第晚禾受旱歉收除有漕之長山縣並應雁城等州縣一律酌緩漕糧十分之三外其博興樂

安二縣並無漕糧即將本年應徵地糧緩徵十分之三俟明歲秋收後帶徵再各屬豆苗受曠收成更薄其應徵漕糧內米豆數目多寡不等若令買豆交納民間未免周章著統計所緩漕糧一半並十分之三先儘豆石緩徵以示朕軫念災區恩施無已至意該部既遵諭行摺併恭欽此

726 軍機大臣 字寄

都察院堂官 順天府府尹 慶年八月日本

上諭上年畿輔被水較重節經加恩多方賑卹本年直隸通省收成尚屬豐稔但河間一帶夏間又有蝗蝻滋生之虞文安薊州等處積水未倉存涸出不能一律耕種恐民間生計未能全復現在已屆秋深著都察院堂官順天府府尹各飭所屬查明附近京師地方是否尚有未京就食貧民若止係隨常乞丐人數無多則已如有百十為羣前未覓食者即行奏聞俟將五城及普濟堂飯廠比照向例移前十日或半月開放以便貧民早資糊口用示恩施將此諭令知之欽此遵

古寄信前未

殊

727 嘉慶七年九月初一日內閣奉

上諭馬慧裕奏河南滿營兵房年久傾圮請借項修理一摺此項駐防兵丁所住兵房年久倒塌自應及時修理但念該兵丁等所得錢糧藉資養贍若將估需銀二萬六千六百餘兩全令該兵丁自行修辦未免力有不支著加恩賞借一年錢糧銀一萬九千九百二十兩其不敷銀兩再令該兵丁自行補足應得趕緊興修俾資棲止至此項借給錢糧即於司庫現存惠濟河歲修銀內照數動撥分作八年扣還以示體卹該部知道欽此

728 軍機大臣 字寄

倉場侍郎 嘉慶七年九月初一日奉

上諭按泰維欵奏稱京城現在米價較增緣官員兵丁多將米粟轉售米舖鋪家魚領好米獲利又須囑託倉中花戶花戶索費自必過多鋪家必將所用使費攤入米價內售賣其昂貴未必不由於此等語官員兵丁應領米石或因食指較少將米粟轉售米舖暗自通融去屬勢所不免但倉中花

戶以米價騰貴為可居奇報向舖戶多索使費以致粮價增昂不可不嚴行飭禁現屆各倉放米之時著倉場侍郎會同查倉御史嚴切查禁花戶等遇有赴倉領米者毋許多索使費以平市價而裕民食將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

729 嘉慶七年九月初一日奉

旨李達泰王鴻運何灝張慎和景璋錢桂謝治河俱著准其捐復程煜萬在街呂雯王鎬陳璜俱不准捐復欽此

730 嘉慶七年九月初一日奉

旨此次著停止筵宴餘依議欽此

禮部題

為壽節禮儀未改恭

731 嘉慶七年九月初一日奉

旨廣東新安縣客籍童生准其歲科兩試文武各取

進二名其原額八名並著加恩免其裁減餘依議

欽此

禮部議覆粵督摺

732 嘉慶七年九月初一日內閣奉

上諭顏檢曾任直隸藩司護理總督於該省地方情形素為熟諳本年夏間直隸總督缺出因顏檢資分稍淺特令其以兵部侍郎銜署理茲抵任以來將及半年辦理公事尚無貽誤顏檢著加恩實授直隸總督並加兵部尚書銜欽此

733 軍機大臣 字寄

左都御史普 倉場侍郎達 嘉慶七年九月

初一日奉

上諭前據達慶於七月內奏因患病請假賞經加恩賞假俾資調理其倉場事務並派吉綸前往暫署達慶自請假以後雖經具摺展假其病體究竟如何現在曾否痊愈迄今已四十餘日總未見伊父子具摺陳奏著傳旨詢問即將現在病勢曾否痊

可之處附本報之便據實奏聞將此諭令知之欽

此遵

旨寄信前來

734 軍機大臣 字寄

陝西巡撫陸 嘉慶七年九月初二日奉

上諭陸有仁奏查明陝省未經緩徵各州縣懇請緩徵一摺已另降諭旨詢問矣同日又據溫承忠奏到勘明本年渭南等屬秋禾被水輕重情形摺內據稱渭南華州華陰潼關四廳州縣被水地方田禾多有淹沒房屋大半倒塌等語看來渭南等處被水較重田禾難望有收小民口食無資深為憫念本年應納錢糧即予以緩徵尚恐不足以蘇民困著陸有仁等迅速查明分別具奏竟當加恩蠲免以卹災黎其朝邑大荔二縣雖據溫承忠奏稱被水稍輕但秋禾六間被沖刷收成不無歉薄並當一律查奏酌量緩徵庶使閭閻生計不致拮据現在該省南山餘匪尚未淨盡該處貧民或因餬口維艱提挈老幼四出覓食設為賊匪知覺恐不

旨寄信前來

克柔機表訪該撫等接奉此旨即當一面飭屬查勘一面辦理急賑妥為撫卹使灾民等口食有資自不至輕棄井里流而為匪也又另摺奏探明各路勒辦餘匪各情形覽奏俱悉此時陝境零匪無多兵勇漸次減少軍需較為易辦前經續撥銀一百萬兩餉項極為寬裕陸有仁當嚴飭局員等撙節辦理無誤供支不可因帑項充餘稍滋糜費為要將此傳諭陸有仁並諭溫承忠知之欽此遵

735 軍機大臣 字寄

陝西巡撫陸 嘉慶七年九月初二日奉

上諭陸有仁奏查明陝省尚有未經緩徵銀糧各州

縣一摺本年五月內據陸有仁奏到寧陝等六十

四廳州縣自元年至六年分民欠未完曾降旨加

恩再予緩徵一年以紓民力本日復據陸有仁奏

到請將各州縣銀糧緩徵并奏稱此次所查未經

緩徵各州縣均不在前此加恩再行緩徵數內等

語閱所開州縣如威寧整屋等三十一州縣係

前次摺內六十四州縣中曾經列入者其年分款

珠

項六與前次摺內開列相同聲叙珠未明晰著陸有仁一面飭屬暫緩開徵仍速將此次摺內州縣款項年分與上次摺內所開州縣款項年分如何分別之處詳晰開單奏明再降恩旨將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

736 查本年五月內陸有仁奏到陝省歷年緩徵銀

糧懇請

加恩一摺奉有

恩旨照單內所開各州縣自嘉慶元年至六年民欠

未完均予再緩徵一年在案本日據陸有仁奏

查明陝省尚有未經緩徵銀糧一摺據稱各州

縣未完銀糧均不在前此所奉

恩旨之內等語臣等詳加核對其單內所開威寧整

屋等三十一州縣均係前次摺內六十四州縣

中曾經列入者其款項年分亦與前單內所叙

相同未經聲叙明晰應請

旨飭令陸有仁一面先將各該州縣暫行緩徵仍將

此次摺內各州縣應緩款項年分與上次摺內
所開州縣款項年分如何分別之處詳晰開單
伏奏到時再降

恩旨臣等謹擬寫詢問陸有仁

諭旨遵

呈謹

奏

九月初二日

737 嘉慶七年九月初四日奉

查樵火巨會同行在戶部議奏回疆市集銀價一
摺市集以銀易錢隨時增減從無官為定價之
例即都城商賈輻輳之區亦不能強立限制富後
前次請定回城錢價即經戶部指駁嗣復行奏請
又經戶部詳查核議以富後等所奏前後自相矛
盾格礙難行奏明行知在案乃托津接准部咨即
照議遵行而富後奉文後並未詳細閱看率行出
示曉諭又復回執已見曉諭清奏僅予交部察議
不足示懲富後著交部議處欽此

738 嘉慶七年九月初三日內閣奉

上諭王德學核圖奏候補道員蔣見漢與藩司其開陽係屬
兒女姻親一切交涉事件藩司有考核之責諸多未便請
令該道迴避等語著照所請蔣見漢即令迴避發往浙江
遇有相當缺出補用該部知道摺併發欽此

739 嘉慶七年九月初三日內閣奉

上諭王德等奏臺灣府知府吳達聖年力就衰請旨
勒休一摺臺灣係海疆要地自須明幹之員方足
以資督飭今吳達聖年老衰頹難以勝任即著勒
令休致仍遣臺灣府知府員缺著慶保調補欽此

740 嘉慶七年九月初四日內閣奉

上諭福建泉州府知府員缺著王紹蘭補授欽此

741 嘉慶七年九月初四日內閣奉

上諭江西贛州府知府員缺著張護補授欽此

742 嘉慶七年九月初四日奉

旨此案著交漕運總督鐵保親提犯証卷宗秉公嚴

審定擬具奏所有原告方南昌著該部照例解往
備質欽此

743 嘉慶七年九月初四日內閣奉

上諭據王寧焯條奏軍營事宜及請除直省壘蔽之
弊並部院修改條例之方一指其所稱請明降諭
旨許各股賊匪能殲賊自贖者盡賞其罪則賊匪
相率求生非降即散等語原屬可行此等邪匪滋
事祇係內地亂民何忍概予誅夷早經節次降旨
凡有脫身賊隊悔罪投誠者無不寬其一線詳詳
訓諭不啻至再至三而賊匪投出者殊覺寥寥即
近日大局業經戡定間有自賊中投首者亦俱免
死安插原期剿撫施多全民命又何待該御史
於此時始行議及耶至所稱鄉勇團練中為首之
人既能倡眾團結自必微有魁桀之才請密勅查
核造冊分別文武授以佐雜偏裨之任等語剿辦
教匪以來凡鄉勇團勇中有能殺賊立功者一經
奏聞即給予職銜頂戴其有願出仕者原准錄用
以獎勞績現當大功將蒞各路鄉勇俱以次裁撤

殊

給資遣送若不論其曾否立功輒將為首義民紛
紛查核遴選授官有是理乎安置鄉勇之法無過
分給叛產絕產及食糧充伍二條亦經屢次諭令
該督撫妥為籌辦但此項田產無多既難遍及而
情願入伍者昨據陝省督撫奏聞現撤之二千四
百名鄉勇內祇有十數名可見伊等於營伍當差
皆非本願亦不能強以所難此時各路鄉勇陸續
裁撤均能安靜歸鄉各謀生計又所稱外省壘蔽
積習固結而不可破即近日之貴州廣東山東各
大案無一發自督撫者請嗣後於各省事有可疑
特交司道辦理等語外省壘蔽積習原難盡免但
祇當隨案懲辦如近日貴州廣東山東各案皆該
督撫自干咎戾之事豈肯由已發覺然或經朕特
加訪察或別經控告俱已澈底究辦亦未嘗任其
壘蔽若如該御史所奏遇有可疑之事特交兩司
或道員查辦試思督撫尚不可恃而司道豈皆可
信之人况道員中朕從未識面者甚多焉有重大
案件交司道素不認識之司道員
之先不以該督撫所取下文不可問矣
將是深情乎且督撫如果有不公不法之事除

兩司例准奏事近年又特准道員具摺陳奏即府縣以下亦有直揭部科之例然國家簡用封疆若遇事輒疑轉交伊所屬之員查辦成何體制至修改則例每定一條期與全例不相牽碍方可久遠遵行歷來皆應如此辦理更不必該御史列款條奏也欽此

744 軍機大臣 字寄

漕運提督鐵 嘉慶七年九月初四日奉

上諭本日據步軍統領衙門奏江蘇民人方南昌呈控趙宗周等霸墾蘆地殺死多命該縣不為究辦等情一摺此案方南昌等因墾濼地與監生趙宗周李亦亭等多競趙宗周等輒帶領私販一百餘人各持鎗刀銃礮等件將縣民周國元等三十人殺死棄屍江中該縣于具控到時開門不准嗣經具控提督批准飭拏撈出五屍并將趙宗周等七人拿獲而該縣又將兇首賄縱至今尚未審結寔出情理之外雖方南昌所控尚係一面之詞然現有撈獲屍身且私販宣化隆等五人業經監

殊

禁是該省現在審辦尚未結案其所案不為無因此案情節較重若照例交該督撫審辦恐該督撫未免迴護屬負有心消弭現已降旨發交鐵保審辦著鐵保即提齊犯証奏宗秉公嚴審務將方南昌所控各情節逐層究訊如所控虛誣自當坐以誣告之罪若情節屬實必當據實參辦不可稍有瞻徇大落外省之故套不令沉寃得雪必欲置原告於死地也所有步軍統領衙門原摺著發交閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

745 軍機大臣 字寄

山西巡撫伯 嘉慶七年九月初四日奉

上諭伯麟奏托克托城地方河水漫溢一摺托克托廳地方土地瘠薄蒙民襁屨現值黃河漲發流入黑河水勢漫溢該撫已飭歸綏道督同該廳上緊堵築護城堤保衛城垣仍親身馳赴該處查勘如有田禾廬舍被水衝淹應行撫卹之處該撫即一面查辦一面迅速奏聞候朕降旨加恩毋得絲毫諱飾致遏地貧民稍有失所為要將此諭令知之

欽此遵

旨寄信前來

746 嘉慶七年九月初四日內閣奉

上諭顏檢奏即鄂縣知縣石飛熊掌獲脫逃免死盜犯請將該盜送部引見等語石飛熊上年掌獲圖刻錢鋪盜犯陳常等十一名曾經降旨交該督存記俟再有出力之處據實保奏茲於脫逃盜犯王三克甫至該縣境內即能捕獲是該員平日於緝捕事宜尚屬認真石飛熊送部引見以示鼓勵

欽此

747 嘉慶七年九月初四日奉

旨這河春派令行戶買物不行給價之懷安縣知縣黃慶昇著革職交該督提同縣內人証研審定擬具奏該部知道

欽此

748 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣撫曾吉 嘉慶七年九月初

五奉

上諭吉慶奏酌調官兵剿補博羅縣羊屎山滋事匪徒一摺該縣民人陳爛屐四胆敢糾結會匪一萬餘人以紅布包頭潛出墟剝村莊擄掠良民其博羅所屬之石灣善政司等處亦有同夥匪徒滋擾鄉村自應調兵剿捕經吉慶派令副將李漢升等前往搜擊尚未至羊屎山即有匪徒十餘迎敵施放鎗砲抗拒官兵竟休謀為不軌不法已極必須趁其初起之時立時撲滅方不致蔓延為患據摺內稱該官兵打死數十名後各匪畏懼迴四山內山口甚窄等語是匪徒俱聚集山內未經寬散況山口路徑祇有一線羊腸更易堵截現調各協營兵丁已有五千名務須先將山口嚴密堵住并周圍分佈使賊匪不能逸出然後奮力進攻無難就途速行殲滅倘稍有遲延或堵截不密致匪徒乘間散出不但焚掠村庄易滋最脅且廣東別屬亦多有會匪鼓煽風接應關係非小吉慶當一面督率進攻一面廣為曉諭以陳爛屐四胆敢偽稱大王糾結夥黨抗拒官兵罪大惡極本部堂統兵進剿

係誅捕叛逆首犯並非查拏會匪伊等為陳爛屐
四所惑聽從入會若不過歛錢吃齋雖干例禁尚
無大罪如能及早悔悟自行投出則從前結會之罪
概不追問若能將為首之犯設法縛獻則不但賞
其前罪并當予以獎賞倘執迷不悟官兵進擊一
律滅除悔之何及如此明白宣諭或該匪等自行
解散不敢仍前團結更可迅速完事至該匪等聚
集至一萬餘人製有旗布器械其蓄謀已久該管
府縣及營弁等竟毫無覺察而司何事吉慶自當
嚴恭示懲何以招內並未奏及惠州距省不遠該
督亦竟無聞見提督孫全謀駐劄惠州耳目更近
不能先事查察伊二人均難辭咎惟有即將此案
匪徒迅速辦淨尚可將功抵罪如稍有稽遲辦理
未能妥善或致蔓延恐伊二人不能當此重慶也
將此由五百里傳諭吉慶並諭孫全謀知之欽此
遵

旨寄信前來

749 嘉慶七年九月初五日內閣奉

上諭廣東高廉鎮總兵張志林前次辦理我眉雷波
事宜甚為妥速該鎮在川省軍營年久熟悉該處
情形著調補四川建昌鎮總兵所遺廣東高廉鎮
總兵員缺即著許文謨調補欽此

750 嘉慶七年九月初五日奉

旨這所奏延案不結差押侵斃命之定安縣知縣靈玉
著革職交該督等提同案內人証審明定擬具奏
該部知道欽此

751 本日和寧已到張三營臣等遵

旨傳到面加詢問據和寧伏地碰頭涕泣口稱金鄉

縣紳士攻訐皂孫張敬禮等冒考一案欽奉

諭旨令我審辦當將原被告及解任該州縣提到省

城緣原呈聯名生童等其時正值學政在兗州

府考試未能一齊到案月底始行到齊先委兩司率領

首府問供我即面告兩司首府以案內皆係讀

書人非命盜案可比當細心研訊切不可濫用

刑求後來委員等用刑威逼株累多人我實在不知兩司首府亦未稟及但據藩司吳俊口稟委員內有同知張繼榮性情急躁當將伊撤回六月間知府德生口稟此案係李玉琛訛詐不遂挾嫌誣告我即當面駁回彼時學政劉鳳誥向我告知此事我又諭令承審官秉公覆審尚未定案我實沒有授意情事解任知縣汪廷楷本在省垣因五月內經我札委署濟寧州李如珩署金鄉縣雷鵬於本境捕蝗首府德生面稟請令汪廷楷作為委員隨同前往捕蝗我問他汪廷楷係冒考案內應記之人曾否錄供德生回稱業已取供我一時糊塗就准其隨往摠之此案係

特交事件我不能迅速提訊審結並於委員用刑威逼及汪廷楷藉差到縣搜琴人証我竟漫無覺察實屬昏憤糊塗形同木偶辜負

皇上天恩至查辦飛蝗一事我於六月內接奉

諭旨即飛札各府飭屬查勘旋據歷城等縣稟稱聞有飛蝗

並不傷損禾稼我冒昧據詳入奏

奏我仍飭屬確查續據德州等十二州縣報稱均有蝻孽

萌生即令趕撲於七月十六日具

奏後又據德平等十四州縣稟報蝗蝻隨飭藩司運司濟

東道等分路確實查勘于八月初二初四等日該司道

陸續回省我已先於八月初一日交印是以未經具奏

六月十八日初次稟報飛蝗不傷禾稼時我親赴城外

查勘果見在稼無損一時誤信該州縣所稟不誣是以

作詩紀事示令各屬員勉做好官古人蝗不為災之

意這是我迂謬之見至屬員等稟見時除祇係一人單

見者不便傳見外凡司道府廳州縣每日稟見時我從

來不敢偷閒不見這是可以查得的至於應辦公事我

亦每日已結趕辦惟是我年已六十二歲精神不能周

到兼之才力本鈍不能辦理裕如皆是我負

恩獲罪無可置辯再藩司吳俊我向來並無交好因他到任

後清查各屬庫項撥解直隸陝甘各省餉銀一百八十

餘萬並協濟直隸米麥籌畫裕如毫無貽誤我見其才

情練達辦事認真是以表行保奏我種種糊塗冒昧蒙

皇上不將我從重治罪並

賞給我効力之地惟有勉力已結以冀稍贖罪愆等語謹

奏

嘉慶七年九月初五日奉

旨知道了欽此

752 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年九月初六日奉

上諭王汝璧奏被旱被水各州縣已成偏灾親往查勘一摺據稱安徽省各屬自七月得雨之後又復兼旬乾旱據委員節次勘報安慶池州寧國鳳陽各府屬被旱被水共十四州縣收成祇有二三分及三四分不等已成偏灾該撫於八月二十六日起程復勘等語該省安慶池州寧國鳳陽等屬自六七月間即有被旱被水處所該撫理應即時馳往查辦速為撫卹使灾黎得早沾恩澤乃直供委員查勘完竣於八月杪始行起程殊屬延緩上年直隸地方因水灾河水浸溢成灾柱狀立派卿員等分投履勘指示撫綏庶小民等不致多有失所若如王汝璧之急緩從事屬員查勘後再行親往又必俟親行查勘事竣始行具奏請加恩相距又需月餘該省灾黎已不知幾許流離實深屢念著傳

諭王汝璧迅速查明一面妥為撫卹如有灾重地方應行蠲緩之灾先行出示停徵即速由驛奏聞以便降旨施恩毋得再有稽緩將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

753 嘉慶七年九月初六日奉

上諭王文湧奏甘省被灾州縣一摺據稱阜蘭河州等十四州縣因七月中大雨時行山水長發河渠不能宣洩以致民田廬舍均有淹浸之處等語該處猝被水灾窮民自多失所朕心深為軫念現在王文湧親赴各屬查勘其應行賑卹之處若候稟報總督再行具奏未免遲延上年直隸地方因永定河水溢成灾經朕立派卿員分投履勘指示撫綏方於窮黎有濟王文湧身任藩司地方是其專責著傳諭王文湧即迅速查明被灾州縣民人妥為撫卹如有應行蠲緩之處著先行出示停徵即速由驛奏報候朕加恩再照例報明總督可也將此由四百里諭令知之欽此

軍機大臣遵

旨傳諭甘肅布政使王文瀾

754 軍機大臣 字寄

內務府大臣 緝 嘉慶七年九月初七日奉

上諭朕此次恭謁

裕陵本擬敬瞻

聖德神功碑樓是以前曾諭令緝布於九月內先行查

明工程再赴監山奏聞茲緝布奏按該處承修監

督等報稱此項工程尚未完竣朕此次自無庸親

往瞻仰緝布亦不必前赴監山竟隨衆至白澗接

駕可也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

755 軍機大臣 字寄

盛京戶部侍郎兼管奉天府府尹德 奉天府府

尹良 嘉慶七年九月初七日奉

上諭德文等奏盛京承德遼陽海城廣寧四州縣因

山水下注河流泛溢低窪田畝間有被淹等語承

德等四州縣俱有被水之實一經稟報德文明志

二人內自應酌分一人親往履勘乃僅派員前往

不知以民事為重殊屬怠緩現在良責業已赴任

著良責即順道親赴查勘如有應需撫卹之實即

一面妥為經理一面奏聞候朕加恩毋得稍有稽

延將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

756 嘉慶七年九月初七日內閣奉

上諭昨因畿輔地方時屆深秋恐有來京就食貧民

是以降旨令順都察院順天府尹查明覆奏茲據

普福等奏稱五城地方間有外來貧民為數無多

順天府屬秋收亦有七八分居民不致失所等語

此雖實在情形但念上年近京州縣被水較重至

今文安霸州積潦未能全消本年河間一帶又有

蝗蝻滋生究恐民間生計未復待食維艱著加恩

將五城普濟堂飯廠移前十日于九月二十一日

開放俾無業貧民得以早資餬口其普濟堂所用

糶粥米石即著賞給小米三百石以示格外體卹

至意欽此

757 嘉慶七年九月初七日內閣奉

上諭昨因畿輔地方時屆深秋恐有來京就食貧民是以降旨令順都察院順天府尹查明覆奏茲據普福等奏稱五城地方間有外來貧民為數無多順天府屬秋收亦有七八分居民不致失所等語此雖實在情形但念上年近京州縣被水較重至今文安霸州積潦未能全消本年河間一帶又有蝗蝻滋生究恐民間生計未復待食維艱著加恩將五城普濟堂飯廠移前十日于九月二十一日開放俾無業貧民得以早資餬口其普濟堂所用糶粥米石即著賞給小米三百石以示格外體卹至意欽此

758 嘉慶七年九月初七日內閣奉

上諭戶部奏予告大學士王杰應支本年秋季二季恩正俸銀因任內有罰俸案件尚未開復該部未經核給並將王杰支食之俸應否恩正俸銀俸米並支及回籍後應否支米之處請旨遵行等語旨經降旨准令王杰致仕並賞給官銜在籍食俸伊

任內所有罰俸案件著加恩均予開復不必仍行坐扣王杰現尚留居京師所有本年秋季二季恩正俸銀俸米准其照常支給俟回籍後仍支領正俸銀兩以示優眷欽此

759 嘉慶七年九月初八日內閣奉

上諭御史瞿曾輯條奏請將秋審時大學士九卿科道簽商各案無論改實改緩俱由三法司核議定擬准駁奏明請旨一摺秋審大典令大學士九卿科道公會議原以重人命而昭欽恤向來遇有改實改緩之案刑部於逾呈黃冊及題本內叙明改擬緣由朕披閱時即可核其情節至大學士九卿科道等簽出各條刑部酌核可否准行之後仍須眾議會同方成定讞若大學士九卿科道等以部議尚未允洽原准其另議陳奏朕裁奪令該御史欲請將簽商各案無論改實改緩逐案開單臚列具奏豈不徒滋煩擾至所稱緩決各案久係刑部題明定案在前之語該御史於秋審事宜全未深悉外著題奏各案刑部先核其情節援例

殊

隨案定擬其題其分別應實應緩之案均俟秋朝審時酌定於大學士九卿科道會議後始將情實人犯繕冊進呈其緩決之案另疏具題豈有刑部先行題定之事惟所稱秋審冊籍遲至會議一二日前始行分送不暇詳閱請定於十數日前送閱一節尚屬可行嗣後此項冊籍著該部飭司於秋審上班數日前分送大學士九卿科道等以便伊等細心研勘用昭詳慎欽此

760 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 廣東巡撫瑚 廣

西巡撫孫 嘉慶七年九月初七日奉

上諭本日據孫玉庭奏遵旨前赴邊關傳諭夷使一摺本年七月內據清安奏到農耐阮福映佔據安南時曾降旨令吉慶迅速馳往鎮南關會同孫玉庭將邊關事宜妥為經理續于七月二十五二十九等日諭知吉慶等如果農耐敢關請封即奏聞請旨旋據吉慶奏稱阮福映于本年七月內未得安南之前遣使鄭懷德等前來廣東恭進表貢

縛送盜犯莫觀扶等並將安南印敕呈繳當經降旨諭令吉慶以阮光纘辜恩納叛輕棄敕書印信罪在不赦而該國長阮福映能如此恭順寔為可嘉惟因該國長向來未備藩封其表貢不便遽納今吉慶將此意傳知該使臣等先行遣回待其敢關請封再為轉奏如初次使臣未回而請封之使續至即令其一同來京昨八月初十日清安奏農耐已得安南續遣使臣黎正路等敢關通款以現在欲遣詣闕未諳天朝禮節懇求指示等情又經諭知吉慶等令其將得國顛末縷晰聲叙具表遣使詣闕即可褒納以上應行辦理各情節經朕節次降旨甚明并皆由駟馳寄吉慶自早應接奉次第遵照辦理昨據吉慶奏到八月十六日在惠州之發之報全未提及農耐之事且並未將節次奉旨辦理之處知會孫玉庭殊不可解此時吉慶在惠州辦理查拏會匪一案自不能前赴廣西而於前此諭令馳赴廣西不能前往之處亦並未奏及於農耐初次使臣鄭懷德等曾否遵旨遣回及農耐續到使臣黎正路等如何指示之處亦均未詳

晰奏明邊關重務該督經朕宣示機宜兩月之久
尚未將辦理情形具奏何玩忽乃爾耶此時博羅
縣查拏會匪一案尚未辦結該匪徒等現在聚集
山內未致蔓延正應迅速圍攻早行撲滅此事關
係緊要吉慶現駐惠州竟著專辦此案無庸兼顧
農耐請封之事且該國使臣亦未便令其前至惠
州所有農耐請封一事著責成廣東巡撫瑚圖禮
廣西巡瑚孫王庭查照節降諭旨如農耐所遣請
封之使現由海道前至廣東即著瑚圖禮妥為經
理令其與前此使臣鄭懷德等一同來京如由廣
西太平關前來孫王庭現在南寧即著前赴太平
傳至昭德臺接見遵照節次諭旨妥協辦理將此
由四百里各諭令知之仍著瑚圖禮孫王庭將辦
理諸事情形隨時由驛具奏欽此遵

旨寄信前來

761 軍機大臣 字寄

步軍統領尚書祿 左翼總兵國 嘉慶七年

九月初七日奉

上諭前據楊揆奏方泰等捏款索詐一案交祿康國
霖密行查辦祿康等接奉諭旨即選差番役將詭
捏方泰崔福姓名之李實拏獲並搜出原稟草底
四紙將前後捏款索詐各情節一一評出所辦尚
為妥速著賞給祿康國霖鮮鹿肉各一盤以示獎
勵其番役邪起鵬高鐸黃桂三人尚屬能事著祿
康等量加賞賚李實一犯即交刑部嚴審定擬其
代寫稟帖之敬姓已飭湖北巡撫拏解歸案質評
至楊揆管門家人袁姓既據李實供稱素不認識
無庸解京已諭令楊揆自行評問其提塘家人韓
陞交刑部覆訊如實不知情再行省釋可也將此
諭令知之欽此遵

旨寄信前來

762 嘉慶七年九月初七日奉

上諭前據楊揆奏方泰等寄稟索詐一案當文步軍
統領衙門查辦茲據祿康等覆奏已將詭捏方泰
崔福姓名之長隨李實拏獲交刑部審擬矣至該
犯前所寄書稟面寫交該藩司家人袁姓開拆該

犯供稱素知楊藩司門上有表姓其人並不認識
書面寫交伊開折伊必轉稟等語李實向在四川
省城居住與表姓是否認識有無商同捏詐情事
著楊揆自行審訊錄供具奏再李實供聞得該省
書文稱藩司衙門解交錢糧每百兩加平銀三兩
六錢果否實有其事或係管庫官負及家人書吏
等需索陋規楊揆曾否聞知著即確實查訪嚴行
禁革慎勿因循舊習自貽咎戾也將此諭令知之
欽此

軍機大臣遵

旨傳諭四川布政使楊揆

763 軍機大臣 字寄

湖北巡撫全 嘉慶七年九月初七日奉

上諭前據楊揆奏有素不認識之方泰等寄東該司
捏款索詐一案當交步軍統領衙門查辦已將說
捏姓名之長隨李實拿獲其李實兩次寄川之票
俱係素識之四川合州生員敬姓代為騰寫敬姓
係湖北嘉魚縣知縣敬博典之姪已於八月十七

日由京起程前赴湖北著全保即派委員役將敬
姓等獲解交刑部歸案實訊如敬姓在中途逗遛
尚未到楚即知照前途一體截拿將此諭令知之
欽此遵

旨寄信前來

764 嘉慶七年九月初七日奉

旨此案捏款訛詐之長隨李實著交刑部嚴審定擬
具奏其副親軍校碩明雖訊不知情但收留李實
在家居住滋事亦有不合著交部議處欽此

步軍統領衙門覆奏等獲說名寄東川藩楊揆列
款索詐案

765 嘉慶七年九月初七日奉

旨徐喜兒著即處斬其七月十四日東關門該班之
護軍普顯保等九名雖於徐喜兒携賍經過漫無
覺察究與端門該班各護軍於看守本處官物被
竊毫無見聞者且該護軍等較之七月初一日該
班護軍等業加枷號半月並鞭責一百亦足示懲

著加恩毋庸概予革退仍留該處當差餘依議欽

此

留京辦事王大臣會刑部奏盜案偷竊 瑞門樓序
刁滑業犯並請處法謹軍字一摺

766 嘉慶七年九月初七日奉

旨吏部議處山東金鄉縣臬孫曾考案內臬司陳鍾
琛降調一摺此案前經祖之望等查明藩臬兩司
因聞委員張繼榮將原告李玉琛刑逼誣認俱曾
將該委員大加呵斥該司等實未先經授意本日
給事中汪鏞未行在復命亦據奏稱該司等並無
主令委員刑求妄斷等情是此案張繼榮濫刑逼
供非由該司等主見自屬可信惟陳鍾琛職任刑
名既知該委員任意刑求乃僅向其呵斥並未立
即嚴參即係徇庇吏部議以降調實屬咎所應得
姑念該臬司究無授意指使情弊所有部議陳鍾
琛降三級調用不准查抵之覆著加恩改為革職
從寬留任以觀後效欽此

767 嘉慶七年九月初七日奉

旨延豐著再留任一年欽此

768 嘉慶七年九月初七日內閣奉

上諭阮元奏海寧州知州一缺地廣政繁非精明歷
練之員難以勝任黃巖縣知縣孫鳳鳴久任海疆
歷俸已滿五年係奉特旨遇缺陞用之員請將該
員陞補等語孫鳳鳴著照該撫所請准其陞補海
寧州知州仍著給咨送部帶領引見該部知道欽
此

769 嘉慶七年九月初七日奉

旨這所恭侵虧庫項倉穀之署瑞安縣知縣蔣光弼
著革職交該撫提同庫書人等嚴審定擬具奏該
部知道欽此

770 嘉慶七年九月初八日奉

旨直隸總督顏檢提督特清額俱著賞穿黃馬褂欽
此

771 嘉慶七年九月初八日內閣奉

上諭張誠基奏江西新城縣地方七月十五日大雨

如注西南鄉會仙峯等處山水陡發水高丈餘河道宣洩不及奔湧入城以致西南鄉一帶淹斃人口多名衝壞村莊田畝城內衙署倉廩亦多有塌塌漂浸等語該縣山水驟發人民逃避不及以致淹斃多名並衝壞田地房屋殊堪憫念該縣先經被旱業已加恩將通縣錢糧緩徵現在又被水災民情更為拮据著再加恩將被縣被水田地一百二十三頃四十九畝本年未完錢糧概予豁免仍著該撫查明現在失業貧民加意撫卹於應給修復田畝房間銀兩務督同印委各員按名親放俾民沾實惠毋致失所其坍塌衙署倉廩並著查明照例動項興修漂失穀石免其賠補該部知道欽此

772 嘉慶七年九月初九日內閣奉

上諭本日據初彭齡奏到貴州巡撫富尼善病故缺出請旨簡放等語貴州巡撫員缺朕本欲即將初彭齡補授但念伊前在雲南巡撫任內曾因親老求改京職此時若將伊簡放黔撫伊必仍前固辭

所有貴州巡撫員缺著福慶補授福慶到任尚需時日著初彭齡暫行署理初彭齡現在審辦孫文煥控案將次完結仍著俟福慶到黔後再行啓程來京福慶所遺安徽布政使員缺著阿林保補授李亨特著調補江蘇按察使其所遺湖南按察使員缺著韓封補授再貴州藩司百齡前因孫文煥控案內有須質審之處是以將伊解任今據初彭齡奏百齡于常明文繳鉛本銀兩等項不即據實參奏其咎止于瞻顧徇隱現在黔省大員無一熟手所有貴州布政使員缺仍著百齡暫署俟全案奏結時再交部議欽此

773 嘉慶七年九月初九日奉

旨知道了其在五月截卯以後陸續具呈之官生等四百餘名准其歸入頭卯一同掣籤欽此

774 嘉慶七年九月初九日內閣奉

上諭湖南岳常澧道普巴哈布補授欽此

775 軍機大臣 字寄

雲青提督張 嘉慶七年九月初九日奉

上諭琅玕奏酌擬官兵分別撤留並設法擒拏首逆恒乍綱各緣由一摺覽奏俱悉恒乍綱潛逃江外據沿江吏民傳說該逆帶同夥黨勾結棍子雖其言未必確定但該逆為滋事首逆自應設法擒拏惟江外地方天氣苦寒人跡罕到不獨官兵不便深入即頭人亦不能前往恒乍綱家屬俱係官兵擒獲辦理該犯祇係隻身竄匿若以提督統領多兵在彼久駐等疾查拏殊屬不值琅玕兼轄雲貴兩省地方事務較繁自應回省料理恒乍綱現未就獲尚須懾以軍威俾江外夷人畏懼傳獻所有前調官兵未便全撤著琅玕酌量挑留交與提督烏大徑提兵張玉龍等駐彼督辦仍當責成頭人上緊擒拏亦不必勒定限期惟應諭以爾等若能將恒乍綱設法擒獲自當優加獎賞願得項戴者給予官職願得賞者給予銀兩等語該頭人等希圖榮利自更奮勉出力不難迅速擒捕倘恒乍綱竟欲過江滋擾則當大加拏勒琅玕當飭知

該提鎮等相機酌辦至所稱此次糧餉等項動用銀五十餘萬兩著琅玕即飭令分款列案報部核銷毋任稍有浮冒將此由四百里諭令知之欽此

776 嘉慶七年九月初九日內閣奉

上諭雲南鶴麗鎮提兵一缺關係緊要前已降旨將蒲尚佐補放但該鎮現在楚省帶兵未能即赴新任該匪即當豫匪甫就肅清之際自須熟悉邊務之員及時經理臨元鎮提兵張玉龍前於攻克康番時曾經交部議叙於邊疆地勢情形尚為熟悉張玉龍著調補鶴麗鎮提兵其原放之蒲尚佐即著調臨元鎮提兵蒲尚佐未到任以前著副將那麟泰署理欽此

777 嘉慶七年九月初九日內閣奉

上諭琅玕奏請將留滇以知州用之史紹登候補州同宗鉞等改著維西通判等缺一摺維西通判及

廉江縣均地畝邊疆現在標匪甫就肅清之際自
須酌調明幹之員以資經理著照所請史紹登准
其署理維西通判宋御准其署理廉江縣知縣其
原署之通判薛夢斌本任知縣李青雲仍各留於
該處辦理報銷事件該部知道相併發欽此

778 軍機大臣 字寄

吉林將軍

盛京將軍 直隸山東江南浙江福建各督撫

嘉慶七年九月初九日奉

上諭秀林奏吉林遣犯嚴仲春於本年七月初七日
脫逃寧古塔遣犯李長青即李二孫榮即孫老漢
王二即王宗亮又名王勇夫于本年七月二十日
同逃等語嚴仲春等均係聽從行劫案內免死發
遣為奴之犯胆敢在配脫逃情殊可惡該犯等逃
後或沿途逗遛或竟回原籍潛匿均未可定著傳
諭盛京將軍直隸山東江南浙江福建各督撫一
體嚴緝務獲毋任漏網所有該犯等年貌單並著
抄寄閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

779 嘉慶七年九月初九日奉

旨此案御史王蕓家人萬升車夫韓得與侍郎莫瞻
萊副都御史陳嗣龍家人鄭三葉三龔大等俱向
民人柴大發控騙錢文均干功令著交刑部審訊
具奏王蕓現據檢舉其自請議處之實著改為交
部察議莫瞻萊陳嗣龍家人在外撞騙既經該城
訊出何以不自行陳奏著先交部議處仍著明白
迴奏欽此

780 嘉慶七年九月初九日奉

旨此案張二等乘夜聚賭雖有干例禁但祇係尋常
賭博案件至該處堆權該班官負兵丁理應晝夜
值守乃騎都尉莫爾根得等竟敢徹夜贖班託人
代替支更實屬怠玩至以堆房坍塌藉詞卸罪尤
不成話莫爾根得著即革職同領催馬甲與現獲
聚賭之張二等四人及看街押段查夜之步甲領
催等一併交刑部審訊具奏其該旗協尉步軍校
不能先時查辦著交部嚴加議處祿康成寬失於
查察咎亦難辭著交部議處欽此

781 嘉慶七年九月初九日奉

旨此幸姚光明因窮苦度(難)向伊胞兄姚光雲求我
舊賣園地借銀姚光雲不肯我給懇求給未數升
姚光雲亦仍不允當即迎令出門姚光明站立不
動姚光雲即持匾擔向毆致傷頂心姚光明負痛
奪獲扁擔往外跑走姚光雲隨後追趕姚光明屢
被追及毆一時情急順舉扁擔反手向後攔抵與
其退回不虞姚光雲撲攏勢急以致扁擔適傷姚
光雲額門倒地姚光明見兄受傷當即幫同屍妻
姚林氏扶進屋內用藥救治詎姚光雲傷重移時
殞命核其情節姚光明尚無逞克干犯致死伊兄
之心姚光明著改為應斬監候秋後處決餘依議
欽此

782 軍機大臣 字寄

吉林

盛京將軍 直隸山東江蘇浙江福建各督撫

嘉慶七年九月初十日奉

上諭秀林奏遣犯沈江於本年六月二十五日脫逃

旨寄信前來

此遵

783 軍機大臣 字寄

等語沈江係聽從行劫案內免死為奴之犯胆敢
在配脫逃情殊可惡該犯逃後或沿途逗遛或潛
回本籍藏匿均未可定著傳諭盛京將軍直隸山
東江蘇浙江福建各督撫一體嚴緝務獲毋任漏
網所有該犯年貌單一併抄寄將此諭令知之欽
此遵

駐藏大臣英 福 嘉慶七年九月初十日奉
上諭英善等奏派員開導蘇班色帶至前藏妥插以
除邊衅一摺覽奏俱悉蘇班色因失去作木朗地
方在邊界逗遛不安本分日後難保其不向廓爾
喀報復滋事令英善等派員賞賜珠爾前住詳
加開導將伊帶回前藏安置並檄知廓爾喀王免
其疑慮以杜邊釁所辦尚安但蘇班色因伊原有
地方為廓爾喀侵佔心搃不甘現在到藏之後欲
堅求向廓爾喀將侵地給還試思廓爾喀臣事天
朝極為恭順蘇班色自失之地豈能代為索還此

時蘇班色安^詳置前藏其狡詐性情恐難憑信若再
逃回邊界滋生弊端不戒事英善等當加意覈
摩隨時稽察防範斷不准仍回舊處尤不得任令
蘇班色屬下之人往來通信並嚴諭蘇班色以此
次將伊安插前藏撥給住房口糧等項皆係大皇帝
格外施恩若不聽約束再有潛逃邊界之事彼時
必行治罪俾安心居住不再滋事為要至達賴喇
嘛濟龍胡圖克圖懇求英善等代表將貢噶班珠
爾賞給世職一節此次貢噶班珠爾將蘇班色善
為闡導帶赴前藏散其人眾所禱因為可嘉但給
予世職則屬過當英善等當轉諭達賴喇嘛以天
朝定例必須立有軍功始能優給世職該噶布倫
現在所辦之事祇應酌加恩賚即傳旨賞給噶布
倫貢噶班珠爾大緞二疋小緞二疋以示獎勵其
緞疋即由前藏發給又據奏收到川省餉銀撥運
前後藏商上階欸一摺此等應用餉銀例由川省
預行撥往自當如期解運方可無誤如川省逾期
不解英善等自應行文嚴催倘嚴催又復不應即
具摺奏奏何必私向喇嘛借銀珠為失體此時川

省軍務將後撥運藏餉自不致仍前稽緩設再有
遲逾即著英善等隨時飭催恭禱可也將此諭令
知之欽此遵
旨寄信前來

784 嘉慶七年九月初十日內閣奉

上諭英善等奏四川馬邊營都司駐防後藏為邊地
要缺現署都司之守備^馬維坤年壯技嫻雖邊俸未
滿三年與例稍有未符但該員在歲年久於夷務
番情較為熟習請陞補馬邊營都司其所道通巴
營守備員缺請以千總楊鈞陞補等語著照所請
馮維坤准其陞補馬邊營都司楊鈞准其陞補通
巴營守備該部知道摺併發欽此

785 嘉慶七年九月初十日內閣奉

上諭高杞奏審明定擬舊案官犯朱舜愷一摺此案
朱舜愷踢傷書識劉占鰲致斃上屆秋審因該犯
身係職官劉占鰲本屬管僱人役既扣短船價又
復強辭頂撞致該犯一時氣忿誤斃人命情尚可

原是以未經予勾至本年秋審即歸入舊案官犯
冊內仍可免死乃該犯希圖翻案投狀稱寃令集
証覆審未甞愷實係踢斃劉占鰲正兇且始則捏
辭誣稟繼則賄囑頂兇種種情節經眾証明確全
行敗露猶復始終狡展情殊可惡可見該犯尊由
自作必至身罹憲典而後已現湖南省將屆勾到
之期未甞愷一犯著即處絞以為職官逞兇挾詐
者戒餘著交該部核議具奏摺併叢欽此

786 嘉慶七年九月初十日奉

旨知道了此項官辦備工木植近來未往往夾帶私
人混入園場偷砍樹木以致此次行園牲畜稀少
慶保已不令兼管園場事務現在添設園場副都
統一員簡放台斐蔭專司其事著董椿移騰額會
同台斐蔭於入園採木時嚴密稽查酌定章程勿
令官役等私帶一人私伐一木其官砍木料每株
或用戳記以杜弊端如查有私自偷砍木植者務
即嚴拿辦理倘伊等不認真稽察經朕查出必一
併嚴懲不貸欽此

787 嘉慶七年九月初十日內閣奉

上諭勒保奏遵旨遠員調補夔州府缺一摺著照所
請周景福准其調補夔州府知府所遺雅州府知
府員缺准其以德昌補授該部知道摺併發欽此

788 嘉慶七年九月初十日內閣奉

上諭湖北衡州府知府員著鳳鳴補授欽此

789 查新放道員已哈布前在衡州府知府任內因

李亨特

簡放湖南按察使係伊胞姪例應迴避曾奉

旨令吳熊光於湖北知府內揀員對調此時尚未據

吳熊光奏到所有衡州府知府一缺例應請

旨簡放巨等謹擬寫空名

諭旨進

呈伏候

簡放謹

奏

九月初十日

編辦大學士兩廣提督 嘉慶七年九月十

一日奉

上諭書慶泰分路進兵攻勦匪徒速復勝仗一摺朕

以為必係擒擒會匪多名可以即日完事及聞摺
內所叙情形種種全謀進攻伯公四山渠鎗砲
齊發打死賊匪多名而打斃賊匪在數日並未聲
叙該提督帶兵回營祇生擒賊匪二名可見打斃
之賊亦必有限何得尚稱速復勝仗至所稱奪獲
賊匪一百餘重鐵砲一門及烏鎗器械數十件等
物該匪糾聚山內不過萬合之眾安得有百餘大
砲非從營中搶得即係自行鑄造自非臨時可以

猝辦該處地方文武官實平日漫無聞見驟或巨
集書慶平日既不能留心整飭而於會匪起事之
時又不即將該處文武各員升擢實如恭己臣朕
降旨查問而書慶此次摺內仍未提及一字是全
不知以事為事廢弛一至於此又據稱添調官兵
三千名以便分投搜擒等語前據書慶奏業將督
標提標等處兵丁調集五千名此次添補之兵係

屬何處標營摺內亦未叙明其東莞交界匪徒標
糧已知會湖圍糧就近撥兵勦捕此項官兵又從

何處調撥况提標官兵業經書慶調往未必留有

多兵可資調再龍門增城亦有匪徒滋擾村莊

是否即係博羅會眾之匪抑係另起匪徒究竟有

數據稱糧兵解學亦未將派委何員之處叙明又

聞進軍圍內羅漢營係屬賊巢其餘現有賊匪者

共有五處該營所標萬餘人係專指羅漢營一處

賊數而言抑統計各處賊數而言亦未明晰聲叙

至另片奏稱全謀等獲會匪葉土生曹亞二兩名

又各處等獲葉亞五等四名說明正法葉示等語

此等匪徒既經擊獲自應詳如何聚眾起事及本

即逆詞是何語向各緣由詳訊取供附摺陳奏乃

僅以說明正法一語了結種種顯疎漏之處不

可勝數現在書慶已前往博羅督辦即將此案專

交書慶會同孫全謀迅速剿辦倘現辦兵力尚有

不敷或於鄰近省分酌量添調一面奏開一面即

飛行咨調不可顧惜小費致滋貽誤摺須趨匪徒

聚集山內之時分兵佈置嚴密勿令他窺併力進

休

廣川是數日為有年之盛迅速辦理究始

攻就地殲滅不致稍有蔓延為要其龍門增城二處既無大貨督辦吉慶或將博羅縣匪徒交孫全謀帶兵剿辦自行督兵前赴龍門增城上緊分捕毋使竄散勾結以期一律肅清方為妥善者來會匪聚集已一萬餘人製有砲位器械負隅抗拒而求覺龍門增城三處又有滋擾之匪其勢不能不痛加剿辦吉慶當自行揣摩若能與孫全謀就現調之兵迅速剿辦固屬甚善倘自問辦理不能裕如即當將寬在情形由驛速奏候朕裁奪毋得稍有因循含混自取咎戾再據另片奏惠州所屬雨水調勻禾苗暢綠可望豐收核價亦平可以仰慰屢注等語該處地方現值會匪滋擾若不速為撲滅即秋水豐稔適足以資盜糧朕方屢念不違高云仰慰耶至所稱黎維和舊臣尚有在京者似毋庸送給農利等語尤屬無謂現在農村尚未具表請封黎維和舊臣等在京安插已久朕亦並未欲將伊等遣令回國不知吉慶何所見而去然該省于現在剿匪重務漫無籌計而轉于此等不急之務總認過慮即此蓋見其心思昏亂輕重失宜吉

慶著傳旨申飭仍著將近日剿辦情形迅速具奏至農耐請封一事已降旨諭令湖團禮查辦吉慶竟可無庸兼顧也將此由五百里傳諭吉慶並諭孫全謀知之欽此遵

旨寄信前來

701 軍機大臣 字寄

廣州將軍吉 署廣東巡撫湖 嘉慶七年九

月十一日奉

上諭本日吉慶奏據東莞縣稟稱有博羅匪徒逃至木小墟等處竄劫村庄查此起賊匪在東莞交界地方雖有一百餘里現已知會撫臣湖團禮就近撥兵勒捕等語東莞地方有博羅匪徒逃往滋事既經吉慶知會湖團禮就近勒辦湖團禮自應將如何勒辦之實一面辦理一面奏聞日內何以未據奏到且現在督撫而標官兵俱經吉慶調撥前往湖團禮所撰又係何項官兵深為屢念現在廣東省城內有駐防滿洲官兵湖團禮或與書故會商量為調撥或書故自行前往或於副都統內酌

令一人帶兵前往務將東莞匪犯迅速查拏淨盡
俾地方早臻寧謐為要再吉慶奏到已將阮福映
初次使臣留粵現在知照廣西巡撫令請封貢使
仍由粵東行走一同進京等語將未該國貢使未
至廣東著瑚圖禮即遵照昨降諭旨妥協經理令
與該國前遠使臣一同進京可也將此由五百里
諭令知之欽此遵

旨寄信前來

792 軍機大臣 字寄

內務府大臣工部侍郎蘇 嘉慶七年九月十

一日奉

上諭前據蘇楞額奏西洋人索德超等呈稱本年五
月內有映咭喇戰船六隻相近灣門停泊恐有覬
覷情事等語因降旨令吉慶瑚圖禮密行查訪茲
據吉慶奏稱映咭喇國護貨兵船前曾來粵灣泊
零丁洋面距灣甚近因該國向未好鬥是以住灣
之波爾都雅國夷人不免驚疑早經吉慶飭令開
行於四五兩月內陸續回國等語是該國兵船祇

因護貨到灣一經地方官飭令開行即駕駛出洋
尚知畏法所有索德超等具呈之語係屬訛傳者
蘇楞額即傳諭索德超等知悉並將吉慶原奏抄
寄閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

793 軍機大臣 字寄

山東巡撫祖 嘉慶七年九月十一日奉

上諭祖之望奏分別彰瘡以資激勸一摺督撫整頓
地方首嚴察吏自應分別勸懲以示趨向但該撫
摺內舉劾各員均係空言並未列入據其所舉四
員內如李如珩劉大紳二員朕久知其素著循聲
此時若遽行加以陞銜頂戴未免無因該員等既
係通省卓出賢員或委辦地方要件經理妥協即
可奏明賞給陞銜否則該省有應行陞擢之缺祖
之望即具摺保奏候朕加恩以示獎勵至張晉善
寶二員如累居官不職自可列款糾劾此時遽以
聲名平常未得民心之言降旨將伊二人革職不
足以服其心祖之望甫經到任於賢否各員豈可

不詳查事實即久任替換中六未有如此陳奏者嗣後舉劾各員俱不得以空言入奏恐替換相率效尤易啓高下其手之漸將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

794 嘉慶七年九月十二日內閣奉

上諭刑部題覆安徽省民人孫登扎傷胞兄孫梅餘限外身死夾簽聲請一本現已依擬將該犯著即處絞矣向來尋常刃傷各案如在保辜正餘限外身死者祇科傷罪至有闕服制之案雖與尋常刃傷案犯不同但限內限外究當示以區別嗣後遇有刃傷期親尊長如在保辜正餘限內身死者仍照舊辦理外若死在餘限之外即照刃傷本律問擬絞決其刃傷期親尊長專屬律應問擬絞決之犯如訊非有心干犯或係金刃誤傷及情有可憫者均著問擬絞候均毋庸夾簽聲請著刑部纂入例冊遵行欽此

795 嘉慶七年九月十二日內閣奉

上諭前據御史王蘇奏伊家人車夫及侍郎莫瞻表副都御史陳嗣龍家人鄭三葉三龔大等俱向民間禁大發撞騙錢文一案經朕降旨將莫瞻表陳嗣龍交部議處仍著各明白迴奏本日業據陳嗣龍奏稱伊於家人在外撞騙未能早行覺察寔屬糊塗現在已將該家人等送部審究謹遵旨明白迴奏等語莫瞻表自己同時接奉諭旨何以尚未明白迴奏殊屬遊玩莫瞻表著傳旨申飭仍著速行覆奏欽此

796 嘉慶七年九月十二日奉

旨和闐設立臺站更歷多年於一切往來差使並無貽誤從未有請增臺站之事即因近年馱運布疋較多亦祇應酌添馬匹牛隻自可敷用乃興肇額勒金布輒請將底臺及綽洛克腰站二處改添正站勢必將回民等紛紛派差當殊多擾累除照議毋庸添設外興肇額勒金布均著傳旨申飭欽此

奏為遵

旨會議覆奏事嘉慶七年八月十七日和開辦事大臣與肇等奏稱竊查和闐至葉爾羌計程八百七十餘里自平定後原設軍台六處每台安設兵五名官馬五匹牛驢各三五隻不等於差回子十戶馬二十匹牛十隻每兩台設委員帖式一員管理一切事務並無設立旅台查依里齊城至頭台遠哈拉哈什城渡船過河相距一百二十里凡遇公文

奏摺俱係凱旋後遺留常川收放倘差馬三十匹內動用遞送至乾隆二十七年餘糧折收布棉運送伊犁所需牲畜均係本處阿奇木等派撥烏拉運至頭台轉運至三十年因派撥烏拉不便經葉爾羌辦事大臣推額里等

奏添底台安設兵十名牛十隻以資運送布棉著把總一員經營彼時餘糧折布多寡不等為無多尚能馱運至三十二年增添購買布一十八百餘匹四十四一兩年定准糧折每購買共布二

萬七千八百餘疋棉花五十勛又至五十七八年貢金折布九千一百餘匹共計布三萬八千八百餘疋棉花五千勛仍係原設牛十隻馱運並未增添牲畜每歲起運待屢經遲漫不能迅速運致再底臺至頭臺一百二十里遞送公文常川馬匹因無料石喂養以致馬力單弱往返須得三日或遇緊急事件更不能依限遞送頭臺至四臺一百里至一百四十里不等均係沙窩惟四臺至五臺相距一百八十里又係戈壁中間雖有原設解洛克腰站一處只有兵二名回子五戶回馬二匹並未設有牛隻實不能按替轉運凡遇遞送文報往返竟至三四日轉運布棉亦遲至五六日方能回臺亦非慎重公事之道合無仰懇

皇上天恩照依各城之例添補底臺解洛克腰站改為一臺之處如蒙

俞允將原設底臺兵十名內留五名在臺供差解洛克補派三名其餘二名撥營歸撥牛十隻撤出

五隻撥補綽洛克所有此二臺應需馬匹就近在於常川收放馬三十匹內動用十匹每臺各給五匹供差應補回子十五戶照例飭令該阿奇木等在於閑散餘丁回子內撥派所需牲畜地畝各按就近撥給底臺回子所需鹽菜馬牛料草就近在本處支領此二臺官馬牛隻倒斃分數俱照各臺之例定額辦理補缺馬牛並綽洛克添補回戶應需鹽菜以及牲畜料草俱照例就近在紫爾先支領其該管兩臺事務亦照各臺之例添補委筆帖式一員各按就近分管兩臺以歸畫一把總應歸營練兵如此辦理不惟於公務牲畜大有裨益亦可免其兩臺賠累之苦是否有當伏乞

訓示遵行其餘添補臺房馬棚等項一切俱照例辦理另文咨部查核等因奉

硃批軍機大臣會同該部議奏欽此臣等伏查葉爾羌南路里和闐原設軍臺六處每臺設兵五名官馬五匹牛驢各三五隻不等供差回

子十戶馬二十匹牛十隻每兩臺設委筆帖式一員管理一切事務查和闐向無底臺乾隆三十年經紫爾羌辦事大臣桂額里等奏添底臺設兵十名牛十隻撥把總一員管理又於三十二年奏定以該處文報不繁酌留和闐備差馬三十匹其倒斃分數照台馬三分報銷除供應採五把卡外過有一切差務即以此項馬匹遞運又和闐軍臺六處各臺均無腰站惟四臺至五臺道路較遠向設有解洛克腰站一處設兵二名回子五戶馬二匹各在紫爾依里齊城至頭臺一百二十里四臺至五臺一百八十里較之每站一百餘里者其程站原覺稍遠若改作兩站則站又太短是以當日設有底臺及綽洛克腰站二處原係酌量情形隨宜安設迄今奉行日久更歷多年於一切往來差使並無貽誤從未有請臺站之事若如該大臣所奏將此二處改為正站未免紛更舊制且查正站向有供差回子十戶為底臺所無今若改為正站必須派出供差回子十戶即綽洛克腰站雖向有供差回子亦

止五戶今若改為正站亦須添派五戶該處回
民素無差徭各安生計今忽紛添派未免擾
累又回戶一經添派勢須給與鹽菜銀兩及撥
給地畝牲口料草等項亦于經費多糜礙雜率
准查該處自設立台站以後除文報往來並無
加增外續于乾隆三十二年增添購買布一千
八百餘疋又四十四一兩年准糧折布二萬
七千八百餘疋棉花五千疋迨五十七八兩年
復又增

貢金折布九千一百餘疋計前後添運布共三萬
八千八百餘疋棉花五千疋而額設牛馬等項
祇有此數未免馭運稍艱該大臣所奏亦係實
在情形臣等公同悉心酌議擬於底臺及綽洛
克腰站地方原設馬匹牛隻之外或量加喂數
隻令該大臣通融籌畫另行

奏明辦理其原奏改添正站之處應毋庸議是否
有當伏候

訓示遵行謹

奏

798 嘉慶七年九月十二日奉

旨此次九江關稅短少盈餘定額銀二萬四千一百
餘兩本年江西省夏間偶值缺兩何至該關缺額
如此之多自係該監督辦理不善所有短少銀兩
著阿克當阿分限四年照數賠繳加恩免其交部
議處欽此

799 嘉慶七年九月十三日內閣奉

上諭本年夏間直隸新成縣地方偶有飛蝗知縣胡
永湛未即稟報經熊枚奏奉職茲據額領檢奏稱
胡永湛上年辦理該縣賑卹事宜頗愜輿情今夏
境內飛蝗立即撲捕淨盡秋收尚有九分其禁止
於未經稟報且該縣百姓於該昔過境時僉稱好
官難得環跪額請赦情轉奏等語上年武清令朱
杰係被劾後經該縣民人合詞稟懇加恩留任今
若再予准行恐各州縣相率效尤或有政績不過
中平於去任時授意所屬士民具呈顯懇其所稱
忠愛及民之事亦未必盡屬確實且熊枚係署任
總督甫經奏劾於前及新任提督過境該民人等

輒復懇留於後以地方官去留之柄拯之百姓其風亦不可長胡永湛著加恩發往直隸以縣丞用該督仍可藉資差委以觀後效欽此

800 嘉慶七年九月十三日內閣奉

上諭王德等奏邵武縣被水情形一摺該縣地方山水陡發宣洩不及以致低窪處所民舍田園間被淹浸現經照例給予修理銀兩並放給一月口糧小民固可不致失所但該處猝被水灾秋收自必歉薄著該督撫查明如有應蠲應緩之處迅速奏聞候朕加恩其現在水冲沙壓不能壅種地畝並著王德等飭屬確勘報部題詔摺併發欽此

801 嘉慶七年九月十三日內閣奉

上諭王德等奏請將上杭縣知縣夏塤調補龍溪縣知縣一摺據稱龍溪為漳郡首邑係海疆要缺政務殷繁現署知縣王宗徽才不勝任惟上杭縣知縣夏塤守潔才明辦事練達堪以調署因歷俸未滿三年罰俸在案以上與例未符仰祈特旨允准並將夏

塤叅罰清單開具呈覽朕詳加披閱夏塤叅罰共有二十五案而於命盜錢糧遲延未完者計十九案該縣如果才具明達何至在任不及三年而遲延不結之案有如此之多是該督等所保未為確實至現署知縣王宗徽該督等既稱其才不勝任而于該員考語內復稱其年力正壯人亦明白豈有年壯才明不能理繁治劇之理王德等所奏均屬自相矛盾閩省漳泉等府為海疆重地如果現任知縣不能稱職又無合例陞調之員原准該督等再摺奏請即部臣照例議駁朕亦可酌量准行但該督等必須核實秉公豈得率意奏請並朕破格准行乎所有王德等請將夏塤調補龍溪縣知縣之處不准行仍著該督等將現署龍溪縣王宗徽詳加察看如寔在不能勝任再遵選合例賢員奏請調補該部知道摺併發欽此

802 軍機大臣 字寄

廣州將軍書 廣東巡撫瑚 嘉慶七年九月十四日奉

殊

上諭瑚圖禮奏剿捕博羅縣羊屎山匪徒著辦兵糧軍械以及毗連各縣應行防捕事宜一摺覽奏俱悉博羅縣匪徒滋事一崇前據吉慶奏稱匪犯陳爛假四糾結會匪一萬餘人肆行搶掠本日瑚圖禮摺內亦稱有一萬餘人分黨四出所有東莞縣交界現在熱劫賊匪係其州何處村庄有無頭日自即係羊屎山一夥之賊但該匪等是否即由羊屎山分起竄出抑係因羊屎山賊匪滋擾聞而接應東莞縣土水墟一帶究竟與羊屎山相距若干里著瑚圖禮查明具奏此時賊匪初起易於撲滅瑚圖禮接到吉慶知會後即將倉穀碾動接濟并將烏鎗鉛子等項趕緊運送惠州並調兵協防一面飛咨江西閩浙等省督撫各於隣近州縣飭屬會營堵緝以防賊匪剽劫他竄所辦皆是至所稱東莞縣稟報賊匪竄近時即帶同鄉勇三百餘名前往擒捕而土水墟於者已募得鄉勇千餘人與賊打仗二次殺死賊十餘名擒獲數名賊即逃散等語該處於者能自募鄉勇擊退賊匪甚為可嘉瑚圖禮當出示并諭以此次賊匪源擾係烏合之眾現在官兵雲集自不難

殊

立時撲盡爾等能於官兵未到之前先行招募鄉勇將賊匪擊退既屬急公且能自護身家保全鄉里尤為義切同仇本部院奏明仰蒙聖恩嘉許并奉有諭旨俟將謀逆會匪等後剋期辦淨之後尚當查明爾等首先出力之人加以恩賞如此明白曉諭庶該處於者人等倍加踴躍人心更為安定其經鄉勇及巡檢成夢龍所獲活賊五名并著瑚圖禮訊明錄供具奏此大案係用三百里味為遠此軍中事至剿捕東莞會匪一事昨吉慶奏到後已有旨令瑚圖禮與書敬商酌於滿洲駐防內派兵前往或書敬自行帶往或於副都統內派令一人前去令瑚圖禮奏報情形書敬身任得軍駐紮省城距惠州甚近豈一無聞見何以並未派兵前往協剿即或係該處可無預備兵亦應將賊匪起事信息詳悉奏聞乃竟安坐省城如無其事殊屬怠玩書敬著傳旨申飭現在東莞縣賊匪如瑚圖禮已派兵剿盡地方俱已安靜書敬又不可因有此次飭諭冒昧帶兵前往惠州以致紛擾如東莞賊匪尚未辦竣書敬仍當遵照昨旨酌量帶兵前往也又另片奏阮光纘貢使已自安撤截

回該貢使回至粵省時朔圖禮即傳諭伊等以該國受天朝厚恩乃阮光縉竟敢窩留內地盜犯通同劫掠並封以偽職該使臣等在國時曾否與聞其事又阮光縉前在富春將天朝所頒勅印全行遺棄經農耐具奏恭繳爾國王負恩背叛無福承受天朝封土今已舉國為農耐所滅爾國貢物業已舉國為農耐所滅爾國貢業奉旨擲還爾等現在是否願回本國看其如何登答如伊願回即遣令出關聽其自去若不願出關可行羈禁奏明請旨將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

803 嘉慶七年九月十四日內閣奉

上諭伯麟奏勘明托克托城薩拉齊兩廳被水地畝勘不成災現已照例撫卹惟薩拉齊本年應徵民糧目下尚未啟徵秋冬之際究恐不無拮据等語著加恩將薩拉齊廳被水糧地一千七百四十餘頃本年應徵糧石並該二廳本年應徵蒙古廠地租銀俱緩至來年秋後徵收俾民食益臻饒裕該部即遵諭行摺併發欽此

804 嘉慶七年九月十五日奉

旨依議此案宗室綿昂既未腰繫黃帶在街與人鬪毆自應照例以凡鬪科斷近來宗室覺羅人負多有不擊黃紅帶侍衛職官不戴翎頂在街市閒遊者其意自以穿用常人服色可以往來自便必非習學正務有志向上之人不可不亟行飭禁嗣後著步軍統領衙門留心稽查如有仍前違制者即行革職所有綿昂折罰養贍銀兩個月著加倍折罰四個月以示懲儆欽此

805 嘉慶七年九月十五日內閣奉

上諭本日閱視古北口官兵操演行陣尚為整齊技藝亦均嫻熟著加恩查照乾隆二十三年之例分別賞賚其馬蘭鎮總兵興長射中帽翅著於例賞外加恩再賞給官用緞一聯又額外委趙秉鑑連中馬箭三枝著加恩以經制外委拔補用示獎勵欽此

806 臣等遵

旨擬

賞古北口操陣官員兵丁等緞疋銀牌等項謹查照

乾隆二十三年分

恩賞酌擬數目開繕清單擬寫

諭旨同原單一併進

呈伏候

欽定謹

奏

807 乾隆二十三年恭逢

御閱古北口操陣

恩賞官兵緞疋銀牌等項清單

總督一員 大緞二聯 官用緞二聯

提督一員 大緞二聯 官用緞一聯

副將二員 各官用緞一聯 彭緞一聯

遊擊三員 各官用緞一聯

都司守備十七員 各官用緞一聯

千把外委三十二員 各一兩重銀牌二面

合操兵丁二千名 各一兩重銀牌一面

馬上技藝弁兵十二名除賞銀牌外各加賞銀二兩

九月十五日

808 此次擬

賞官員兵丁緞疋銀牌等項清單

總督一員 大緞二聯 官用緞二聯

提督一員 大緞二聯 官用緞一聯

總兵二員 大緞各一聯 官用緞各一聯與長緞加

副將一員 官用緞一聯 小卷五絲緞一聯

參將二員 各官用緞一聯

遊擊四員 各小卷五絲緞一聯

都司十三員 守備八員 各小卷五絲緞一聯

千把外委四十五員 各一兩重銀牌二面

合操兵二千名 各一兩重銀牌一面

馬上技藝兵十二名除本會二兩重銀牌二面外各加

步隊技藝兵十四名 各一兩重銀牌一面

雲梯兵四十名 各一兩重銀牌一面

藤牌兵一百六十名 各一兩重銀牌一面

小過堂鎗幼丁十名 各五錢重銀牌一面

九月十五日

809 嘉慶七年九月十六日奉

旨感佳已准未享慶祝萬壽伊所管工程肯辦之人

著汪承霈前往帶管印鑰俟感住回至工所汪承霈再行交代來京欽此

810 嘉慶七年九月十六日內閣奉

上諭前因直隸山東境內皆有蝗蝻念及延南一帶與江省毗連特降旨詢問始據費淳等查明具奏仍未將該管府州縣查奏復經降旨飭詢茲據徐州府知府鰲圖署邳州知州魯沂署銅山縣知縣蕭瑾于本境飛蝗雖經撲捕淨盡俱未及隨時申報究屬不合鰲圖等均著交部議處費淳等未克先事查奏著交部察議欽此

811 嘉慶七年九月十六日奉

旨這所奉承審命案不實捏供勝詳之前署寶應縣事陞署甘泉縣知縣方觀鯉著革職交該省撫寺提同犯內案証審明定擬具奏該部知道欽此

812 軍機大臣 字寄

廣西巡撫孫 嘉慶七年九月十六日奉

上諭孫玉庭奏接印抵省及邊關寧謐情形一摺覽奏俱悉農耐欺關一事節經指示機宜諭令孫玉庭等妥為經理本日孫玉庭奏摺係差人賫遞發摺時自未接奉前旨此時廣東博羅縣等處有會匪滋事吉慶在彼督辦斷不能分身前往所有農耐請封一事著孫玉庭遵照節次諭旨辦理至前此清安泰摺內稱農耐阮種自稱南越國長阮福映遣使啟關是阮種即阮福映本日孫玉庭摺內亦祇稱阮種自立之後遣使啟關而昨據吉慶奏稱阮種係阮光鑽之兵部尚書將伊主阮光鑽縛送阮福映等語是阮種阮福映係屬兩人農耐國長並非阮種與孫玉庭清安泰前後所奏不符但吉慶摺內亦稱得自風聞而非確實著孫玉庭查明阮種阮福映究竟係一人兩人農耐國長究竟係何名隨時具奏將來錫封時甚有關係不可舛誤務須訪聞的確為要其阮光鑽進貢使臣現在已截回廣東有旨交瑚圖禮詢問如該貢使願回安南即聽其自便如不願出關將該貢使暫行羈禁再奏明請旨辦理將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

813 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年九月十七日奉

上諭王汝璧覆奏查勘貴池等縣被災情形一摺安
省被災各州縣前因該撫奏到於八月二十六日
始行起程查勘殊屬遲延已降旨諭令王汝璧速
查撫卹本日摺內據稱先詣池州府屬之貴池東
流建德青陽四縣察看等語該處州縣於六七月
間被旱成災今已屆九秋該撫僅止履勘四縣俟
該撫履勘完竣再行具奏小民待澤維殷未免久
延時日該撫當迅速查竣一面妥為撫卹仍遵照
前旨將應行蠲緩之處先行出示停徵即由驛奏
請加恩毋得再有稽緩以致災黎或有失所將此
諭令知之欽此遵

旨寄信前來

814 嘉慶七年九月十七日奉

旨此項歲支下救銀兩准其於永濟庫撥銀一千兩
備用欽此

馬關鎮巡兵與長泰水西內路
行宮歲修不敷措撥款

815 查七月內

啟鑾時

須發恩旨將此次巡幸木蘭蹕路所經地方本年應
徵錢糧蠲免十分之五等因欽此項據之督臣顏
檢據稱因

諭旨內係巡幸木蘭所有丫髻山等處地方尚未瞻
黃宣示等語查向來

諭旨內書寫

蹕路所經均係該括此一次

巡幸地方而言從未兩奉

恩旨今幸蒙

聖明詢及應告知督臣即將前奉

諭旨一體謄黃貼示謹

奏

九月十七日

816 嘉慶七年九月十八日內閣奉

上諭陸有仁奏遴選合例人員請補知縣一摺著照
所請劉大祺准其補授略陽縣知縣與常准其補

按山陽縣知縣又據奏原任永壽縣知縣向宗函
委赴漢省採買銅劬差次聞訃丁憂現在解銅回
陝已屆服滿該員籍隸雲南若照例回籍起復往
返需時懇請在陝具報服滿等語向宗函著准其
在陝起復候補該部知道摺併發欽此

817 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 嘉慶七年九月十

九日奉

上諭吉慶奏分兵攻勦會匪連獲勝仗情形一摺所
奏摠不明晰此次孫全謀李洪升兩路進攻雖有
斬獲尚未能直搗賊巢但既據營縣擊獲偽稱二
大王黎亞瑞並偽元帥陳年姑等十二犯自當將
如何起事及同夥匪徒詳訊供詞隨摺具奏乃僅
以訊明正法一語了事實不可解試思擊獲尋常
竊盜尚須錄供陳奏今會匪胆敢糾眾焚掠抗拒
官兵業犯尤關重大且所獲者既係偽稱大王元
帥自係賊中擊要頭目豈有不嚴訊確供即時奏
聞之理况奪獲賊眾鎗刀器械不計其數是蓄謀

已久該地方文武官弁毫無覺察真同木偶早經
降旨諭令吉慶查明嚴奏此仍未奏反可謂恣玩
之極至摺內稱俟官兵到齊安安後路即可直搗
羊原山羅漢營賊巢等語是否賊巢一破即可蕩
平而另片又稱東莞等七處均有匪徒竄擾須安
兵設卡防堵其如何派員辦理之處並未叙及尤
為含糊該督上次摺內曾奏及東莞增城龍門等
處皆有匪徒焚掠村庄此次摺片內又添入河源
歸善石龍三處此七處賊匪如果有搶劫抗拒情
事即當派兵勦辦豈祇防堵了事若不過同會之
人並未謀逆忽遣官兵紛紛防堵轉恐
激而生變所奏殊不了了至另片奏此次擊獲會
匪應擬發烏喇地方安插者多若候部覆未免稽
延應請一面具奏一面發遣等語吉慶此奏若指
前次擊獲審擬歸善會匪而言自應聽候部議若
指此後擊獲會匪而言該匪等聚眾滋擾復敢與
官兵抗拒臨陣擒獲自當立時正法其罪豈僅發
往烏喇若不過結會斂錢匪眾前已降旨令將此
次官兵進剿係誅戮謀逆匪徒並非查拏結會之

人出示曉諭又豈有將未經滋事之會匪概行查辦之理此以已行之說不辦未加之會匪以此為大也
 領該督在粵有年于地方叛案平日漫無覺察又不將該處地方員弁及早參奏已有應得之罪此時惟有速將羅漢營羊原山及東莞等七處謀逆匪徒皆同孫全謀等趁其甫經起事之時上緊撲滅尚可將功折罪若仍前憚憚率率或致該匪等稍有滋蔓即當將該督治以貽誤封疆之罪凜之慎之至現調兩粵官兵如尚有不敷吉慶即當遵照前旨于鄰近省分內酌量添調一面飛咨該省一面奏聞其帶兵人員最為緊要摺內所稱移咨據派全寧等四員來營豈此四員皆係驍勇得力之人乎恐于帶兵亦未必有濟該省如無曾經行陣之鎮將吉慶即當據實奏請裁往毋稍因循于咎再此次奏摺係九月初一日由五百里拜發至本日始行遞到甚屬遲緩吉慶現駐惠州該府所屬地方聞與江西贛州府屬接壤一踰軍門領即入江西地界何以此次奏報轉由省城遞至韶南行走至十九日之久豈因軍門領一路或亦有賊

匪阻滯耶並查吉慶據實回奏所有被賊傷斃之外委黃振陞曾揚標二員者咨部照陣亡例賜卹將此由五百里諭令知之欽此遵
 旨寄信前來

818 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 廣東巡撫瑚 廣西巡撫孫 嘉慶七年九月十九日奉

上諭吉慶奏辦理阮福映貢使進京一摺農耐請封一事前經降旨以吉慶現在惠州查拏會匪其勢不能兼顧特交瑚圖禮孫玉庭遵照辦理此時吉慶于辦理會匪一事尚茫無頭緒焉能經理及此所有農耐請封一節仍當責成瑚圖禮孫玉庭二人前據吉慶奏稱伊已知會廣西撫目令農耐請封使目由粵東行走與初次貢使鄭懷德等一同進京因思此時廣東惠州會匪滋事之處尚未辦竣瑚圖禮必須照料東莞剝辦事宜竟當令其由粵西行走瑚圖禮不特諭知該國使目鄭懷德等以廣東地方距京較遠不如由廣西行走近便且

該國請封使臣敏闕前來係由廣西進京該使臣
等前赴廣西等候正可一同行走翔國禮即將該
使臣送至桂林交孫玉庭於省地方暫為安插俟
該國請封使臣到後一同送京可也又另片奏順
德縣民人趙大任可否量加鼓勵一節趙大任係
內地民人偶因被風漂至農耐既經回至內地即
不應再令出洋吉慶于遣趙大任赴農耐並未奏明
及趙大任回至內地時又未奏及果如該督所奏
趙大任回至內地告知阮光緒當留洋盜得罪天
朝不妨進兵攻取等語是該民人尚有見解但從
前既未奏明此時又豈可忽加之鼓勵乎此奏殊屬
無謂將此由五百里各諭令知之欽此遵
旨寄信前來

819 軍機大臣 字寄

兩江總督費 江蘇巡撫岳 江南提督哈

嘉慶七年九月十九日奉

上諭據岳起等奏吳淞海口洋匪追劫商船官兵失
防一摺向來江省地方匪船在外洋遊奕從不敢

進至內洋行劫此次吳淞營汛竟有盜船入口連
劫商船該管弁所司何事實非尋常疎防可比
現據岳起等親赴海口查明被劫處所實係內洋
地面則當盜船駛近之時外洋巡哨各員何以不
併力堵截內洋哨船亦不上緊追擒兩岸設有砲
臺既稱施放鎗砲何以盜匪尚能連劫多船是日
該管弁兵是否俱在汛地防守商船舵水或被擄
去或致傷斃何以兵役並無一人受傷該撫等摺
內均未詳叙但稱於岸口要隘增設堆卡添撥兵
船嚴密防堵真所謂賊去關門亦復何益至所請
議處各員尤屬輕縱尋常盜劫案件尚有應得疎
防處分此等盜船闖入內洋行劫重案該管弁毫
無防範豈僅交部議處不足蔽辜其單開應議失
防各職名亦屬含糊商船失事地面該管弁孰為
專汛孰為兼轄孰為總巡自應分別輕重開奏內
如李起係吳淞水師營恭將陸地乃其兼轄何以
將該員職名列入陸地防查官弁之內種種均
未明晰著費淳岳起等再行詳查分別嚴奏具奏
一面督飭各鎮將上緊緝拿以靖洋面將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

820 軍機大臣 字寄

四川總督一等男勒 四川提督豐 嘉慶七年九月十九日奉

上諭本日勒保奏代提督豐紳謝恩一摺殊屬非是軍營勦捕事宜帶兵提鎮自應報明該省居首大員索齊奏報不准其紛紛其摺至於應行謝恩之實自當專摺遣人賞奏方符體制豐紳以滿洲大員擢任提督前日勒辦雷波夷匪尚為出力廷朕加恩議叙自應恭繕清字奏摺專差賚遞否上應將自繕之摺文與勒保附報奏陳乃僅將謝恩之實寄呈勒保而勒保又率行代奏以提督大員謝恩之摺必須呈明昔臣轉奏恐開專擅之漸勒保豐紳均著傳旨中飭將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

821 嘉慶七年九月十九日內閣奉

上諭勒保奏本年川省又屆大計之期請再展限一摺著照所請所有川省本年應行計典准於軍務全竣勒保回省後再行照例辦理該部知道欽此

822 嘉慶七年九月十九日內閣奉

上諭信山奏兩淮商人洪歲遠等呈稱本年江西地方被旱正需平糶以資民食該省為商人等托業之地懇請借撥倉穀十萬石運往公捐買補還倉等語該商等誼穀周急自應准其所請著信山即於倉穀內借撥十萬石運送江西省分撥各屬賑米得濟於本年秋成後買補還倉該部知道欽此

823 嘉慶七年九月二十日內閣奉

上諭朕此次秋穰回鑾

皇后因偶感風寒原定於本月二十三日自熱河啓行現在尚須調理改於十月初十日啓程回京所有沿途道路橋梁照料備治較多時日前因蹕路經過業將該州縣本年應徵錢糧蠲免十分之五茲再加恩將熱河至京一路經過地方本年錢糧再加免二分以示體恤閭閻至意欽此

824 嘉慶七年九月二十一日內閣奉

上諭給事中魯蘭枝奏謹陳籌荒一得一摺本年江

西省間被水旱收成歉薄業經加恩緩徵賑並撥
兩淮鹽義倉穀十萬石運往平糶以資接濟但此
次被荒之地較廣自需商販米運派通更有民食
有裨惟該給事中稱該省士民有願赴川買米
者請官給路票一節此不可行地方較寬之戶謹
切奏詳運買濟糶自應各從其便若令赴官領票
轉多一番擾累至沿途道柳例禁蒸葦著鈔論經
過各關口遇有運米船隻過境祇須驗明並無夾
帶私貨立即放行不得勒索分文並諭該督撫嚴
禁沿路刁民勿許強留阻奪庶商販開風踵至市
價不至增昂民食自無匱乏其有樂善措施及減
價平糶者地方官自可報明上司量予獎勵但不
必官為經理致啟胥吏勒索之弊該部遵諭速行
欽此

825 嘉慶七年九月二十一日內閣奉

上諭顏檢泰水定河道陳鳳翔懇請給假省親並請
簡員署理一摺陳鳳翔在直隸服官十有餘年伊
父在籍年老患病未赴迎養今請給假歸省著准

林

其於十月內起程來歲三月回任供職以遂其定
省之私至水定河道現雖無緊要工程而歲修料
物正在次第購辦亟須簡員署理因思王念孫曾
任水定河道辦理河務素尚認真上年直隸雨水
過多堤工漫決究屬人力難施前已加恩將王念
孫賞給六品頂戴留工効力即著督署道蒙本年
直隸收成俱尚豐稔新料登場王念孫當督率廳
汛各員將應購物料及時採買充足力致有快飲
此

826 嘉慶七年九月二十一日內閣奉

上諭前因安省各州縣間有被水被旱之區當即諭
令查明成災輕重迅速奏聞候朕加恩茲據王汝
璧親往各屬詳加履勘分別具奏著照所請所有
成災七八分應行給賑之望江宣城南陵涇縣青
池青陽石埭建德東流銅陵鳳陽壽州鳳臺定遠
懷遠等十五州縣均著提前一月於十月內即行
散放其應行蠲免之處仍著該撫照例速奏至勘
不成災之懷寧桐城潛山宿松寧國太平蕪湖繁

昌合肥廬江巢縣靈璧宿州泗州盱眙天長五河
滁洲全耕來安和州廣德等二十二州縣應徵新
舊錢糧及本年漕米俱緩至來年秋收後分別帶
徵用紓民力其坐落各該州縣境內之安慶宣州
等衛屯田六著一體辦理欽此

827 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年九月二十一日奉

上諭王汝霖奏查明被災各屬分別急賑緩徵一摺
已降旨如所請行矣至另片奏宿州東北西北兩
鄉因灘股等河湧溢水勢陡長以致前報勘不成
災各村莊及已經涸復地畝均被淹浸靈璧縣稟
報情形相同等語宿州靈璧兩處復被水災以致
涸出地畝補種雜糧均受淹浸殊堪憫念著該撫
飭屬速即設法疏濬量為撫卹並著親往履勘詳
查如有應需賑濟蠲緩之處即行奏請加恩勿以
前次已報勘不成災稍有諱飾將此諭令知之欽

此遵

旨寄信前來

828 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 嘉慶七年九月二
十三日奉

上諭前因廣東博羅縣會匪滋事即經降旨令吉慶
上緊查拿茲據吉慶奏攻得羊屎山羅溪營賊巢
擒獲偽元帥將軍軍師等一摺朕於本日廻蹕甫
至御園即得此喜音實深欣慰該處會匪聚集多
人據險抗拒經提督孫全謀總兵黃標督率將弁
兩路進剿將賊匪痛加殲戮共計擒斬三千餘人
祇有首犯陳爛履四帶領數百人竄往後山無難
併力圍拿搜捕淨盡所辦甚為妥速閱摺內所叙
情節多係孫全謀黃標身先士卒殺賊立功該提
鎮均係武臣於失察地方會匪處分較之文職本
輕今又能奮勉打仗迅搗賊巢殊屬可嘉著吉慶
查明伊二人如未經得有花翎即傳旨賞戴仍交
部從優議叙並賞給白玉搬指各一個錄嵌帶頭
各一副大荷包各一對小荷包各二個吉慶係兩
廣總督於所屬地方有匪徒糾眾謀逆不能先事
預防獲咎本重姑念此事辦理迅速功過尚足相

抵並著加恩賞給大吉玉葫蘆牌一個四喜玉徽
撥借一個黃瓣大荷包一對小荷包四個不吝予
議叙其餘出力之副將博多散陳尚德秦時唐光
茂保興原任都司殷佐良守備寧舒唐文才十總
王成佐鍾鳴貴林勝高及知縣楊桂蔭縣丞謝濤
均著交部議叙遊擊達色打仗出力所有署任內
失察千總王有高派收錢文一案應得處分著加
恩寬免並發去磁珮翎管十個大鑲包十個磁鼻
烟壺十個分賞出力員弁又一兩重銀牌二百面
五錢重銀牌二百面交與吉慶分賞出力兵丁以
示鼓勵此次勦辦羊屎山賊巢所辦固好但聲叙
情節極欠明晰如摺內稱有賊匪萬餘在柵內固
守計擒斬賊匪合計三千餘人而陳爛屐四帶同
逃竄餘匪僅止數百人其餘賊衆是否畏懼官兵
聲勢零星散去抑又竄往何處並無實在下落又
前據奏稱東莞等七處俱有匪徒均須設卡防堵而
此次摺內又並未提及七處賊匪作何辦理轉稱
羅浮山中亦有匪徒滋擾此股又從何處闖入殊多
合此倘東莞等七處匪徒本伏而未動不過聽從

入夥結會斂錢並無謀逆情事吉慶竟當出示曉
諭以利下調兵討賊原係勦除糾衆謀逆之後其
祇係持齋入會者並不概事搜求爾等毋庸過為
驚駭一面出示曉諭即一面撤兵以安衆心若該
匪等竟有焚掠抗拒等事亦不能稍事姑息即當
分兵搜捕速期蕪事前此朕頒示各賞撫邪教說
原止誅其叛逆並不究其習教吉慶等不知遵照
妥辦耶至東莞等七處情形究竟若何先行速奏
不必俟擒獲首犯始行奏聞也再此次所獲之偽
大王偽元帥偽將軍及軍師等俱係緊要逆犯何
以仍不訊供具奏現在首逆陳爛屐四率領殘匪
逃竄自可迅就擒拿捕獲後務須詳訊確供再行
凌遲處死不得仍前瀕預草率至吉慶等奏請將
原任廣東藩司常齡留營効力一節常齡業經部
議革職姑照所請准其留於軍營効力其另片奏
提督孫金謀之孫請給恩蔭之處現交兵部查辦
又羅浮山葛仙廟請賜匾額候朕御書發往將此
由六百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

829 嘉慶七年九月二十三日內閣奉

上諭惠齡奏甘肅寧夏府水利同知員缺請以候補同知陳松補授等語甘肅寧夏府水利同知係在歸部選之缺但該處現有修葺事宜陳松曾任寧夏同知於水利情形較為熟悉著照所請陳松准其補授寧夏府水利同知又另片奏丁憂同知極承裕加捐知縣翟苙縣丞袁鴻經歷孫球四員承辦軍需有年未便另易生手懇請將該員等捐足不論雙單月加捐分發及留甘補用亦著照所請松承裕翟苙袁鴻孫球俱准其留於甘省補用欽此

830 軍機大臣 字寄

都統侯森 嘉慶七年九月二十三日奉

上諭據恭阿拉奏

皇后身體漸覺復舊請於九月二十八日自熱河

起程十月初四日到圓明園等語前因

皇后身體尚需調攝是以諭令於十月初十日起

程今既據恭阿拉奏稱

硃

皇后身體大好擬請於本月二十八日起程次月初四日到園正值萬壽慶節

皇后千秋亦同在園朕心甚喜著傳諭恭阿拉即照所請按站行走於起程駐喀喇河屯日發摺一次以慰朕懷此後即無庸具奏所有隨從大臣官員兵丁人等應領幫銀路費等項著加恩按日給發至初四日到園為止將此由三百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

831 辦理軍機處為飛咨事本日欽奉

諭旨據恭阿拉奏稱

皇后身體大安現定於本月二十八日自熱河起程

按站行走十月初四日到圓明園欽此所有應行

預備事宜

貴督即速飭屬妥辦可也為此知會

右 咨

直隸總督

九月二十三日

發交_臣等帶出一兩重銀牌一千面五錢重銀牌一

千面內除七月二十六日

賞給額勒登保軍營兵勇各二百面七月二十八日

賞給勒保軍營兵勇各一百面八月二十三日

賞給德楞泰軍營兵勇各二百面九月十四日

賞給德楞泰軍營兵勇各二百面外寔尚存一兩重

銀牌三百面五錢重銀牌三百面又於九月十

五日

發出一兩重銀牌一千五百面五錢重銀牌二千面

是日

賞給古北口官兵共應用一兩重銀牌二千三百十

六面五錢重銀牌十面除用一兩重銀牌一千

三百五十面外又將五錢重銀牌抵用一千九

百三十二面寔用一兩重銀牌一千三百五十

面五錢重銀牌一千九百四十二面九月二十

三日交吉慶

賞給兵丁一兩重銀牌二百面五錢重銀牌二百面

現存一兩重銀牌二百五十面五錢重銀牌一

百五十八面謹遵

旨一併繳進謹

奏

嘉慶七年九月二十四奉

旨著交內殿欵此

833 _臣慶柱_臣董誥_臣劉權之_臣戴衢亨_臣德瑛跪

奏昨日擬寫寄信恭阿拉

諭旨內將初四日誤寫初十日荷蒙

硃筆改正竇深惶悚應請

旨將_臣等及繕寫之章京一併交部議處謹

奏

嘉慶七年九月二十四日奉

旨軍機大臣著加恩寬免其繕寫錯誤之章京著交

部察議欵此

834 軍機大臣 字寄

陝甘總督惠 嘉慶七年九月二十三日奉

上諭惠齡奏查明甘省皋蘭河州等州縣被水情形

一摺據稱蘭州涼州肅州所屬各州縣勘不成災
惟寧夏府屬一州四縣地勢最低之區秋禾淹浸
難望有收等語著惠齡即速查明應行緩徵處所
一面停徵一面具奏此外有無應行加恩之處一
併奏聞候朕降旨至另片奏甘省應需兵糧較急
自應及時採買亦著查明現在亟需採買若干需
銀若干迅速覆奏其可緩者稍遲再為買補可也
將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

835 嘉慶七年九月二十四日奉

旨著交總理工程處查勘估辦欽此

曹錕獻奏請於國子監雨下

836 嘉慶七年九月二十四日奉

旨著交刑部欽此

錢樞

西城御史

奏我福清等縣錫池等

摺二片

837 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年九月二十四日奉

上諭王汝璧奏碾撥楚省軍米已經起運請仍運六
萬石無庸再減一摺楚省請撥安徽米石前經王
汝璧奏因安徽間有被旱處酌酌碾米六萬石運
楚嗣因吳熊先奏安徽收成稍薄恐尚不敷六萬
石之數請於湖南安徽二省各撥米三萬石河南
省撥小米二萬石解楚今王汝璧請仍照前奏碾
米六萬石運往是較吳熊先所請之數已有贏餘
現在江西被旱成災新城又復被水亟須米石接
濟安徽與江西隣近易於運送著王汝璧將前撥
四萬石解楚其未批二萬石就近撥解江西交張
誠基以備賑糶之用將此由四百里傳諭王汝璧
並諭張誠基知之欽此遵

旨寄信前來

838 嘉慶七年九月二十四日內閣奉

上諭祖之望奏山東淄川等縣銜晚禾受旱懇請酌
緩漕糧一摺東省本年被蝗受旱各州縣節節降

肯分別緩徵錢漕茲擬祖之望查明滿川新城鄒縣汶上朝城利津蒲臺雷化莘縣冠縣嘉祥等縣及臨清衛因晚禾受旱收成較減且又毗連災地自應一體量為調劑著加恩將各該縣應徵本年漕糧酌緩十分之三其無漕之雷化縣臨清衛酌緩錢糧十分之三俾得從容完納至節次緩徵及此次酌緩錢漕各州縣隨漕銀米俱著加恩隨正緩徵其館陶等十一州縣上年隨蠲緩漕糧項下緩徵漕項銀米亦著加恩於本年帶徵一半其餘一半遲緩至明年秋後徵收再本年應行買補四分之一漕糧米豆亦著緩至來歲秋後再為買補以示朕軫念窮黎至意該部知道摺併祭款以

839 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 廣東巡撫瑚

嘉慶七年九月二十五日奉

上諭前據吉慶奏博羅會匪多至萬餘東莞等七處及羅浮山內均有匪徒續據奏報攻克羊屎山賊巢打仗得勝情形並未訊取賊供及餘賊尚有若

干聲敘明晰而東莞等處匪徒亦未提及業經降旨詢問本日瑚圖禮奏訊據獲賊供稱賊人男婦雖多能事者少且糧食不敷多有潛至羅浮山一帶藏匿其東莞等處皆係附近賊巢為賊人窺伺要區恐賊匪乘間剽掠是以分派員弁督率兵勇防守等語朕批閱之餘於前後賊情始覺清晰可見東莞等七處並無另起滋擾之賊即分設防兵亦係恐羊屎山賊匪竄近預為防範起見吉慶辦理此事紛紛檄調實屬過於張皇且徵措又多含糊徒亂人意今賊巢既已攻得餘匪亦屬無多吉慶竟當出示曉諭以現在設卡安兵祇須等羊屎山謀逆抗拒乘間逸出之賊並非查辦該處天地會爾等各宜安分守業不必驚疑即瑚圖禮等現因省城係水陸通衢人煙稠密恐會匪乘機生事派撫標滿營官兵設卡巡防亦當照前出示以安衆心如逆匪解該可以無虞即遵前旨將各處防兵早行裁撤免滋疑慮至陳燭岐四為起事首惡現在帶領餘匪逃竄後山必須嚴飭將弁上緊搜拏其餘潛藏羅浮山等處匪徒亦須迅就肅清為

要所有御書葛仙廟匾額著蔡文吉慶敬謹懸掛

用卷

神庥將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

840 軍機大臣 字寄

廣西提督胡 嘉慶七年九月二十五日奉

上諭本日據胡天格奏調撥廣西兵丁二千前赴惠

州勦捕一摺博羅縣會匪滋事昨據吉慶奏報攻

得羊原山賊巢痛加殲戮匪竄往後山現在併

刀圍等處情形無難迅即蕪事該提督發信時

尚未得此信刻下孫全謀所帶之兵足敷勦辦似

無須調撥廣西兵丁紛紛馳往胡天格既集官

兵分派營員管應聽候吉慶知照停止至另片奏

准督臣知會令將所調兵丁按數召募十分之四

庶況守不致單薄等語匪徒結會祇係高合之眾

辦理不致久稽時日原非如川陝楚軍營可比該

一時召募多兵即日事竣又將作何安頓耶所有

召募兵丁補額之處著不必行將此由四百里傳

諭胡天格並諭令吉慶知之欽此遵

旨寄信前來

841 軍機大臣 字寄

倉場侍郎達 鄒 嘉慶七年九月二十五日

奉

上諭前據倉場侍郎奏稱京通各倉存貯米石祇數

明歲三月支放恐四五月間新漕未到不能接續

支放等語昨吉綸署理倉場事務交卸後經朕召

見亦曾奏及朕心甚為籌慮因令戶部堂官查明

現存米數據實具奏茲據祿康等奏京通各倉陸

續呈報截至本年九月底止除業經支放外共定

存米二百七十萬餘石通盤核算所有明歲春季

俸米及本年十月起至明歲七月底甲米均足敷

支尚有盈餘等語看米現存未石儘敷明歲春夏

之用祿康等查對存米清冊即係由各倉陸續呈

報與倉場衙門諒無二致何以該侍郎等倉稱放

至三月為止四五兩月即不敷支放彼此所奏情

形不符著傳諭達慶鄒炳泰將倉場定貯數目與

戶部所聞是否相同現在存貯米石究有若干因何四五月即不能接續支放緣由詳細查明據定覆奏不得稍有含混戶部摺並著抄寄閱者將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

842 軍機大臣 字寄

盛京將軍公晉 嘉慶七年九月二十五日奉

上諭晉昌等奏廣寧等城所屬地方間被水淹一摺據稱各該處高阜平坦之地尚有收成惟沿河低窪處所積水成災等語奉省旂民地方不甚遼闊且係一隅偏災無難迅速查勘現雖於各倉米石借給一月口糧旗民生計仍恐不無拮据著晉昌等督飭各委員詳加履勘有應行蠲緩賑濟之處即速奏聞候朕降旨將此傳諭晉昌並諭成林等知之欽此遵

旨寄信前來

843 軍機大臣 字寄

廣西巡撫孫 嘉慶七年九月二十五日奉

上諭本日據公莪奏懇恩俯准陛見一摺現在該省有農耐遣使啟關入覲請封等事均需大員經理該司既具摺奏請陛見著該使臣到日即行伴送進京沿途要為照料孫玉庭即傳知公莪遵照可也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

844 軍機大臣 字寄

四川總督一等男勒 湖廣總督吳 嘉慶七

年九月二十五日奉

上諭現在

裕陵

隆恩殿更換大件木植據額勒布查奏尚需採辦楠木三十一件開單呈覽此項楠木關係緊要著將單開丈尺數目發交勒保吳熊光彼此酌商每省可辦若干先行具奏務擇木性堅實長徑傳勻者趕緊採辦一面遣委委員解京一面將起解日期具

奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

845 嘉慶七年九月二十五日奉

旨這所恭年力就衰廢弛不職之鶴峯州知州楊樹
本著勒令休致欽此

846 嘉慶七年九月二十五日內閣奉

上諭全保奏湖北被水洞出補種地方復因秋汎漫
淹及毗連受旱處所收成稍歉再請緩徵錢漕一
摺湖北省前被水早各州縣先經朕給予撫卹並
將本年及前年錢漕分別緩徵小民自可無虞失
所茲被水被旱各州縣前此補種晚稻秋糧或因
秋汎復漲仍被漫淹或未能同沾透雨一律豐稔
合計收成僅止五分至五分以上不等自應復加
體卹以紓民力所有復被水淹之公安潛江松滋
監利及被旱之漢川五縣本年應行帶徵第年漕
南二米又天門縣本年應徵及帶徵各年漕南二
米荆門縣本年應完北漕米石同隨漕各項

縣被水受旱處所本年應完錢糧通城縣帶徵第
年錢漕俱著加恩緩至米年秋後徵收又松滋江
陵監利等縣被水各都坑並著加恩賞給軍民一
月口糧至另片奏汚陽縣之潭灣等坑亦因秋汎
漲溢秋禾被淹等語所有應完本年及前年緩帶
錢漕並著一併加恩緩至米年秋後徵收以示朕
軫念災區有加無已至意該部知道摺併發欽此

847 軍機大臣 字寄

兩江總督費 河道總督吳 嘉慶七年九月

二十六日奉

上諭據費溥吳墩奏秋分後黃水異漲豐北堤工漫
水旋即搶堵得保平穩一摺此次黃沁兩河同時
並漲北岸之賈家樓一帶大堤普面過水經該督
等率領將弁馳汛各員分投竭力搶護河水跌落
二尺旋即趕築圍堰將東西進水各路一律堵閉
斷流各工均旋築穩固此皆仰賴

河神護佑感慰之餘益深軫惕著發去大小藏香各
十枝於就近

河神廟虔誠祀謝以答

靈麻其在工大小官員所辦尚屬出力統俟霜降後
奏報秋汛安瀾再降恩旨主簿張燦因在工捨護
跌折左臂着即以應陞之缺陞用効用梁燦免役
那又落水漂失均着咨部照例賜卹至賈家樓所
過之水經由豐沛等縣彼時秋稼早已收穫地畝
亦即涸出雖不致有妨民食而村庄廬舍間被淹
浸且恐低窪處所積水一時未能消退着費厚飭
屬詳悉查勘如果有成災之區據實奏聞不可稍
存諱飾將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

848 嘉慶七年九月二十六日內閣奉

上諭玉德等奏福建原任惠安縣知縣吳裕仁因經
徵不力草職嗣經全數完解例應開復部議以業
經扣缺將該員留省另行補用但惠安縣員缺緊
要寬無可調之員等語著照所請吳裕仁准其仍
留惠安縣知縣該部知道欽此

849 嘉慶七年九月二十六日奉
旨着交兵部帶領引欽此

玉德保舉堪勝水師提兵羅江太

850 嘉慶七年九月二十六日內閣奉

上諭直隸正定鎮提兵員缺著武爾察泰補授欽此

851 嘉慶七年九月二十七日奉

旨保寧管理戶部三庫甫經三月俟明年九月再行
更換董誥已屆一年期滿其所管三庫事務著戴
衢亨更換此項實存飯銀著賞董誥銀五百兩餘
著照例賞給欽此

852 嘉慶七年九月二十七日內閣奉

上諭前據王文湧奏甘肅被災州縣情形當經降旨
令該司妥為撫卹查明遠奏茲據秦寧夏等五州
縣雖被水不致成災但收成歉薄民力未免拮据
等語著加恩將寧夏縣屬之河忠寺十三堡寧朔
縣屬之宋澄等十二堡平羅縣屬之外尾岡等二

十三堡中衛縣屬之頭塘灘等三十三處靈州屬之胡家等十堡被淹地畝本年應徵新舊錢糧俱緩至來歲麥收後帶徵俾得從容完納以紓民力該部知道摺併發欽此

853 查本月二十三日惠齡奏報甘肅寧夏等屬被

灾摺內聲明飛飭藩司查明具詳再行奏請

加恩等語先經奉

旨令王文湧查明應行蠲緩之處先行出示停徵由

驛具奏今據該藩司奏到臣等謹擬

恩旨進

呈謹

奏

九月二十七日

854 嘉慶七年九月二十八日內閣奉

上諭琅玕奏豫匪戡定請將被擾處所及兵糧過境
豫役較重地方本年應征地丁錢糧分別減免一
摺本年正月間豫匪恒乍綱等在維西康普地方

滋事勾結樹苗及麗江縣屬之吉尾等處豫匪分
股焚搶經琅玕督兵勒淨其被搶民夷亦經該督
隨處安撫給予口糧不致流離失所但自春逾夏
已失耕耘之期該民夷等田畝荒蕪秋成無望殊
堪軫念所有曾經被擾之維西麗江兩廳縣本年
應徵地丁錢糧着加恩全行豁免其雖未被擾而
地界毗連之中甸劍川鶴慶雲龍四廳縣耕作亦
多失時着加恩將本年應徵地丁錢糧減免十分
之五兵糧過境之大理府屬太和趙州賓川鄧川
浪穹雲南楚雄府屬之楚雄鎮南大姚南安定遠
姚州永昌府屬之保山永平蒙化永北等各廳州
縣秋獲亦未能全收並著加恩將本年應徵地丁
錢糧減免十分之三以示朕念切民依至意該部
知道摺併發欽此

855 軍機大臣 字寄

雲貴總督琅 嘉慶七年九月二十八日奉

上諭琅玕奏江內豫匪俱經馴服現在購覓順夷過
江設法擒拿首逆官兵分別撤留各緣由一摺覽

奏俱志此次杵卜可吉利灣等處獐獍既經悔罪
出投十分畏懼賊夥旋斃茲內地地方寔已肅清琅
玕現將各寨安撫並出示曉諭夷衆所辦尚是至
恒乍網潛逃江外自不值以該犯未經弋獲重煩
兵力茲據奏稱責令頭人過江設法擒拏仍於附
近各營酌留兵弁擇隘防堵等語祇可如此辦理
該處現有提督烏大經提兵張玉龍駐彼督辦琅
玕自不必在彼駐劄該督現在前往威遠查辦標
黑滋事一案其首逆楊金等亦已竄至江外祇須
飭令該鎮道等嚴密購線查拏首犯加意防堵琅
玕仍遵照前旨回省辦事其恒乍網楊金等犯惟
當飭令上緊查拏亦不必限以時日提期悉就擒
獲不致漏網為要將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

856 嘉慶七年九月二十八日內閣奉

上諭琅玕奏順寧府屬雲州地處極邊關係緊要著維西通
判史紹登在滇年久熟悉夷情曾奏准留滇以知州陞用
堪以補授等語著照所請史紹登准其陞補雲州知州俟
辦理維西善後事竣送部引見該部知道摺併發欽此

857 軍機大臣 字寄

浙江巡撫阮 嘉慶七年九月二十八日奉
上諭據阮元奏洋盜楊謀帶同夥犯自行投首請旨
分別安插一摺該匪等在洋面聚船往來行劫今
急悔罪求生帶同夥犯一百十五名齊向同知衙
門投首自應寬其一死但此等匪徒糾眾肆劫竄
聚有年即被官兵擊剿有何情急其言未必可信
且該匪夥党有一百餘名之多阮元惟當分別安
置或令入伍或逃原籍提須將該匪等四散分處
不能復行糾聚並飭令該管員弁等留心查察如
該匪等稍有滋事即當嚴行懲治加倍治罪庶伊
等知所畏懼不致復生事端方為妥善將此諭令
知之欽此遵
旨寄信前來

858 嘉慶七年九月二十八日內閣奉

上諭前因浙省雨水不齊米糧價貴曾經降旨令阮
元查明被旱成災之處據實奏開茲據奏稱西安
龍游等二十三縣並坐落西安等衛所屯屯田均勘

不成灾毋庸撫卹但秋成未免歉薄等語西安等縣高阜田禾因得雨稍遲秋收歉薄若將應徵銀米照舊徵收民力不無拮据著加恩將西安龍游東陽浦江建德淳安桐廬金華蘭谿義烏永康武義湯溪江山常山開化遵安壽昌縉雲宣平諸暨嵎縣富陽等二十三縣及坐落西安縣之衛州所并杭嚴衛坐落桐廬縣之屯田所有高阜地畝本年應征地丁漕項等款銀米及舊欠銀米概行緩至來年秋後分年帶征用紓民力該部知道摺併發欵此

859 嘉慶七年九月二十九日內閣奉

上諭向來內閣呈進本章凡遇禮部太常寺寺衙門具題之件有關

禮

朝典禮者奏事處進呈時敬列於是日各本章之前並預備盥洗候朕洗手敬謹披閱至每日批覽奏摺奏事處先將外省所遞奏摺呈閱後始將各部院衙門事件以次進呈此內有關係

大祀典禮者亦一律照常呈遞殊不足以彰誠敬嗣後禮部太常寺及各衙門具奏事件除封奏照常呈進外其恭遇

天 地 祖

宗大祀各項典禮儀注或奏摺及綠頭牌內有稱述尊諦之處係露封陳奏者奏事處即應照進本之例先行呈遞敬候披閱以昭慎重欵此

860 嘉慶七年九月二十九日奉

旨這所派疎失餉鞘之長解官兩淮候補鹽運司經歷薛坤並僉差不慎之署桐城縣知縣試用知縣呂榮一併革職留於該處協緝欵此

861 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年九月二十九日奉
上諭據王汝璧奏疎失餉鞘一案已另降諭旨將薛坤等革職留於該處協緝矣惟摺內所稱六十

二十九十二兩邦銀鞘係車夫孫藍田推送行至桐邑之捺楓鋪車夫施藍田發痧不能前進適有不識姓名推空車經過施藍田轉僱代裝頭晚入城點收即遺失餉鞘等語此案推車人役俱應嚴行審訊而孫藍田施藍田是否一人二人究係孫姓施姓著王汝璧查明覆奏所有此次遺失餉鞘銀兩除飭令該革員照例分賠外該撫務當嚴飭地方文武各員上緊緝拿究辦將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

862 嘉慶七年九月三十日內閣奉

上諭本日正白旗滿洲副統定親王綿恩奏原任陝甘總督宜紳呈稱所欠官項除已交外尚有未完銀八百兩現已措備交納並稱蒙恩自伊犁擇回因現患腿疾不敢討賞差使另繳銀二千兩稍効涓埃等語宜紳因辦理軍務不善發往伊犁嗣經朕特恩擇放回旗其名下未完欠項自應按數完

硃 批

繳至伊既現患腿疾不能當差惟應上緊調治俟痊愈後再請差使何必復行措繳銀二千兩輕視朕的大恩呈繳銀兩遂足云可復職報効手著綿恩傳旨將宜紳嚴行申飭并將原呈擲還欽此

863 嘉慶七年九月三十日內閣奉

上諭岳起奏查明江省被水被旱各情形一摺據稱低田受淹者十一州縣高田受旱者九縣惟海州及所屬之沐陽二州縣較重等語著加恩按該二州縣成災分數分別給賑並將應徵本年地丁漕糧漕項銀米照例按分蠲免其蠲剩銀米分年帶徵此外淮安府屬之清河桃源安東徐州府屬之銅山蕭縣碭山邳州宿遷睢寧均被水淹江寧府屬之句容江浦六合淮安府屬之山陽盩城阜甯揚州府屬之東臺興化海州屬之贛榆均受旱災並坐落各縣之淮安大河徐州三衛勘不成災田地應徵本年地丁漕糧漕項銀米俱著加恩緩至來年秋成後分作二年帶徵又海州沐陽災田并清河等州縣衛勘不成災畝收田地應徵癸亥年

新賦俱緩至來年秋成後啟徵其舊欠節年本折錢糧籽粒口糧津貼河租蘆課耗羨等項并攤徵修築民捨及漕糧漕項銀米一併緩至來年秋成後分作二年遞緩徵收以示軫軫念災區至意該部即遵議行欽此

864 嘉慶七年九月三十日內閣奉

上諭初彭齡奏貴州大定府知府員缺現無合例堪調之員請將同知借補清江通判周有聲陞署等語著照所請周有聲准其陞署大定府知府該部知道欽此

865 嘉慶七年九月三十日奉

旨這所奏玩視監獄以致縱犯脫逃之確縣典史吳亮臣著革職等因交該督提同刑禁人等嚴審具奏其平日不能加意防範之確縣知縣谷先許並著照例革職留任勒限緝拏至緝犯劉太係本年秋審擬以緩決之犯今在獄逃拏獲到日即改著為情實辦理欽此

866 軍機大臣 字寄

湖南巡撫高 貴州巡撫初 嘉慶七年九月三十日奉

上諭初彭齡奏湖南移駐永綏官兵現在情形一摺前因湖南永綏一廳孤懸苗境不足以資控制經黔楚督撫會議將該廳協移駐花園茶洞業經議准行茲據初彭齡奏稱該處自建城設汛以來民苗錯處已久一旦官民內移一切食鹽衣布商販不至購買為難苗人既不願官兵移撤欲行控阻並恐該處久居之百姓亦未必盡願舍其田廬而去等語永綏一廳准其內移原係因時度地籌議變通期於苗民兩便今楚苗既欲行控阻而百姓又不樂從其中必有未盡周妥之處自須會商熟籌以為久遠之計初彭齡甫經到黔於苗地情形自未深悉即百齡亦到任未久其辦理苗疆事務自不如傳聞之熟諳但移駐一事或竟係伊一人偏見亦未可定高杞甫任湖南巡撫從前並未入議無所用其迴護著會同黔楚兩省督撫體察情形再行悉心籌議因奏准在前稍涉回護亦不

必因有此旨意存遷就總期於官民安便而黔楚苗衆亦均願從方屬可行並著繪圖貼說詳悉具奏其均田一事是否與情所願亦著一併妥議之撫按外吏之違劫不加特若無不可已之情即極五年中者軍守之人初彭齡審辦孫文煥一案已畢前已降旨令其署理貴州巡撫有承辦地方事務非欽差可比此後遇有尋常事件自應照例差人賫遞不得輕用驛遞將此傳諭高杞初彭齡並諭吳熊光琅玕知之欽此遵

旨寄信前來

867 軍機大臣 字寄

雲貴總督琅 嘉慶七年九月三十日奉

上諭初彭齡奏請查照省軍需款目摺內據稱查兵婦趙李氏曾在前撫臣琅玕任內控逆未發奪獲平隴等七案費銀一項印係孫文煥已領未發之銀當該氏等呈控時琅玕何以不行究辦僅令各該營員量為資給養贍完案又與義軍需鄉勇賞項曾奉旨交琅玕查辦續據琅玕奏將底案清查實無虛冒現在報銷正冊所載催覓探民土兵

屯練人等與鄉勇無異核對底卷數目多有不符琅玕清查時係在孫文煥上年抽匿文卷之前是批否別有報據抑或彼時卷冊業不全何以數目多有不符又嘉慶五年六月剿辦青苗軍需用款經琅玕奏明籌款辦理無庸開銷今查藩庫冊檔開有墊辦青苗軍需共用過銀一萬五千九百餘兩一欵迄今尚未歸還等語琅玕曾任黔撫又經朕特交查辦該省軍需報銷自應將各項款目清查核查卷冊明晰登記移交後任如當時果查有浮冒情弊亦應據實奏辦何以於以上各案均屬含混不清以致庫款久懸琅玕清查時是否被屬員朦混抑或另有別項批報據之處著琅玕按款明白回奏毋得稍有迴護致干咎戾初彭齡摺併著抄寄閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

868 軍機大臣 字寄

江蘇巡撫岳 嘉慶七年九月三十日奉

上諭岳起奏查勘海州沭陽等州縣被災情形已另

降恩旨分別蠲緩矣前據岳起奏請陞見當經降
旨允准但該省現在被災地方共有二十州縣之
多一切蠲緩撫卹事宜該撫俱應督率地方官妥
為經理且吳淞海口洋匪追劫商船官兵失防一
崇岳起前赴海口查辦其中情節尚須詳晰查奏
該撫俟災賑及盜案辦竣後並無地方緊要事件
方可起程來京此時不必亟亟也將此諭令知之

欽此遵

旨寄信前來

869 嘉慶七年十月初一日內閣奉

上諭據王汝壁覆奏查明宿靈等五州縣被灾分數
懇恩給賑一摺宿州靈璧泗州盱眙五河等處前
經該撫奏到勘不成灾業已降旨緩徵外茲復查
出該五州縣因河水漫溢多被淹浸所有高窪田
畝各成灾七八分不等殊堪憫念著加恩與前次
勘明成灾之望江等十五州縣一體照例給賑該
撫務須督率各屬查明應賑極次貧民戶口妥為
經理以期實惠逸民毋任吏胥徒中侵飽其應行
蠲免之處仍著該撫詳查照例查行具題欽此

870 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 嘉慶七年十月初
一日奉

上諭吉慶奏攻克羅溪營賊巢獲首犯親屬並現
在剿辦羅浮山太平山等處餘匪情形一摺此次
吉慶攻克羅溪營賊巢之後探知逆首陳爛展四
竄往范家田山內即令官兵前往搜捕拿獲匪徒
五百餘人並將陳爛展四之父母妻子擒獲錄供進

呈據陳爛展四之父陳士莊供伊子起意謀反於
八月初八日祭旗伊穿黃袍上坐多都稱為老
大王等語陳爛展四糾眾謀逆伊父或不知情或
知情而不能管束阻止尚應照謀逆緣坐之例辦
理今陳士莊身穿黃袍自稱大王竟係與伊子一
同謀逆罪大惡極陳士莊自應凌遲處死其餘家
屬應如何照例緣坐之處著吉慶分別辦理至陳
爛展四為起事渠魁必應嚴拏務據摺內稱該
逆帶同夥眾逃往羅浮山而附近之金沙洞地方
亦有匪徒恐陳爛展四潛竄前往亦未可定孫全
謀現在帶兵會同黃標前往攻捕吉慶務當督催
該提督等上緊搜勦將首逆擒拏肅清餘黨早行
歲事其博羅附近之太平山地方餘匪吉慶回縣
督兵攻捕亦當迅速辦竣毋稍延緩將此由五百
里諭令知之欽此遵

日寄信前來

871 嘉慶七年十月初三日內閣奉

上諭貴州吳璣奏秋汛安瀾一摺本年南河水旺伏

秋大汎盛漲異常經費浮等督率工負搶護要工
致放開濶得係無虞現已節文需澤河湖志慶安
濶工程一律鞏固並潛和回空亦可無誤兩辦均
屬妥協費浮吳墩先著文部議叙其餘道將以下
文武各員於盛漲時搶護出力者著費淳等查明
開單具奏再行加恩其現在應行堵閉開濶及預
籌各事宜該督等仍當悉心經理倍矢慎勤以期
河工永臻穩固用副委任欽此

872 嘉慶七年十月初三日內閣奉

工諭內閣學士明志前由鳴贊歷陞太常寺少卿一
切典禮尚為熟諳著兼管太常寺事務欽此

873 軍機大臣 字寄

刑部侍郎督署貴州巡撫初 嘉慶七年十月

初五日奉

上諭本月初彭齡由驛遞到奏摺一係謝恩一係恭
奏道員均屬尋常事件初彭齡現已署任巡撫自
應專人賫遞乃率動驛站寬屬不曉事體著傳旨
申飭至所叅道員胡鈺各款其於吏書經管銀兩

及家人擺席缺銀止係失於查察其詳委失當之
處業經該署撫撤回惟所稱胡鈺將常明玉器
朝珠等物准抵賠繳鉛本銀一萬餘兩等語常明
家產業已查抄此項玉器朝珠即係官物胡鈺欲
以之代抵官項輒向初彭齡稟商冀圖弊混此一
節乃^甚之重者至調任州縣佐貳各員其中有無
賄託情弊亦須查訊明確即著初彭齡審擬具奏
將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

874 軍機大臣 字寄

廣西巡撫孫 嘉慶七年十月初五日奉

上諭孫玉庭奏調撥粵西官兵前赴東省勦捕會匪
一摺本日據吉慶奏稱提督孫全謀帶兵進攻羅
浮山賊巢殲斃賊匪千餘名焚燒賊寨旋於九月
十九日在周山地方將陳爛履四孛獲正法餘匪
即日肅清無多兵勦辦吉慶自當就近咨會孫
玉庭將粵西兵丁停止撥調現已諭知吉慶遵照
辦理矣至邊關傳諭夷使一節吉慶現在勦捕餘

匪即事竣後亦須回省照料地方事務不復令至
西省所有宣諭夷使事宜需交孫玉庭辦理該撫
前赴太平務當持以鎮靜不必遣人探問若邊關
實無應辦之事仍遵前旨回至省城俟阮福映使
臣到時再行具奏將此由四百里諭令知之欽此
遵

旨寄信前來

875 嘉慶七年十月初五日奉

旨這所叅糊塗任性之貴州糧儲道胡鈺著革職交
初彭齡查審定擬具奏欽此

876 嘉慶七年十月初五日內閣奉

上諭貴州糧儲道員缺著伊湯安補授欽此

877 嘉慶七年十月初五日內閣奉

上諭本日據吉慶馳奏將博羅縣結會滋事之首惡
陳爛展四擒獲凌避正法餘匪即就肅清已明降
諭旨宣示矣陳爛展四在博羅地方製造兵械旗

殊

幟佔據山險特為巢穴糾衆多至萬餘其蓄謀已
非一日且該犯之父陳士莊係捐納按察司照磨
可見家道尚屬殷裕並非迫於飢寒為結會斂錢
之計竟係有心謀為不軌該地方官平日若能乘其
甫經糾集人數未多將一二為首之犯設法緝拏按
律懲治其餘黨自必聞風解散可期立即消弭即
地方官失察之咎亦不過照例叅處所保全者何
限乃外省積習遇有此等匪徒並不早為照辦又
或存化大為小之見預為屬員規避處分遂至日
久因循匪黨無所畏懼四出焚掠附近村莊既遭
荼毒迨逆蹟既彰勢不得不儆以兵威加之誅戮
其臨陣殲斃及擒捕正法者動輒數千可見平日
之姑息養奸必致釀成巨案所傷人命轉多即
以世俗陰功之說而言孰重孰輕亦不辨自明矣
著傳諭各督撫嗣後應嚴飭地方官平日務當留
心化導俾無知小民皆知安分畏法如或有不肯
匪徒倡謀滋事或有搶掠或造作逆詞該州縣
一有風聞即當赴其未經蠢動之初將為首者上
緊緝拏立時辦竣毋任彼此勾結致啟事端即如

博羅一案幸該匪等尚未肆竄蔓延得以冠期捕獲然已殲戮多人同案抵罪者亦復不少雖頑民自作不靖而朕心良用惻然該督撫等惟當勉思撫馭禁暴戢奸勿俾芑蘖潛滋以副朕諄諄教誡至意將此通諭知之欽此

878 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 嘉慶七年十月初

五日奉

上諭吉慶奏攻克羅浮山賊巢擒獲首逆陳爛展四一摺覽奏欣慰博羅賊首陳爛展四在羅浮山內威匪經提督孫全謀督率官兵將冲虛觀藍坑山兩處賊寨連次攻克並乘夜平燬首逆陳爛展四由後山潛破斃賊匪一千數百人首逆陳爛展四由後山潛逃千總鍾鳴貴在周山地方將該逆生擒經吉慶審明凌遲正法此次勦辦逆匪皆由孫全謀身先士卒奮勇殺賊故能攻得兩處緊要賊巢迅速奏捷厥功甚偉孫全謀著加恩賞騎都尉世職並賞給四喜玉搬指一個玉翎管一個花大荷包一對

殊

小荷包二個吉慶係該省總督於地方會匪滋事未能預為防範本有失察之咎是以前次奏報攻克華屏山僅賞給荷包等件未經給予議敘今擊獲賊首陳爛展四究係吉慶協辦同辦理尚為妥速吉慶亦著加恩交部議敘並賞給四喜玉搬指一個玉翎管一個黃辦大荷包一對小荷包二個千總鍾鳴貴前經該督奏陞守備茲又生擒陳爛展四實為奮勉鍾鳴貴著加恩即以都司陞用並賞戴花翎其擊獲首逆之兵丁江高葉開雲亦屬出力均著加恩以把總候補並賞戴藍翎仍各賞銀一百兩至隨同孫全謀攻打賊巢之守備寧舒唐文才著賞戴花翎知縣楊桂蔭著賞戴藍翎並發去玉搬指五個磁鼻烟壺十個火鏽包十個交吉慶等分賞出力員弁又一兩重銀牌一百面五錢重銀牌一百面分賞出力兵勇用示獎勵現在太平山匪徒業已聞風逃散其羅溪營羅浮山兩處餘匪勢極窮蹙無難迅就肅清吉慶孫全謀當乘勝搜擊務淨勿留遺孽本日又據孫全謀奏調派粵西官兵前赴粵東協勦會匪此項兵丁前經降旨

令吉慶^正其調撥此時賊首已除粵東現有官兵
八千餘名足敷搜勦更無庸粵西兵丁前來協助
如已經到彼亟應撤回倘尚在中途即速行停止
再吉慶節次奏稱賊匪到處焚掠邨庄肆行滋擾
想被賊處所受其荼毒者不少何以未據該督查
明奏請加恩著即詳晰確查將應行撫卹之處據
實奏聞至提兵黃標吉慶因羅浮事竣派令帶兵
出海所辦亦是其另片查覆馮建功並無別樣劣
蹟惟辦事軟弱不勝礪石繁劇之任等語馮建功
著該督酌量以簡缺總兵奏請調補至安南請封
一事前已有旨專交孫玉庭辦理此時吉慶摠以
搜捕餘匪為要即將餘匪辦^竣亦應回省料理地方
事務毋庸分心兼願將來該國使臣啟關來請吉
慶亦不必前往粵西照料也將此由五百里諭令
知之欽此遵

旨寄信前來

879 嘉慶七年十月初七日內閣奉

上諭浙江嘉興府知府員缺著姚鳴庭補授欽此

880 嘉慶七年十月初七日內閣奉

上諭費淳等奏勘明碭山等縣被水情形一摺據稱
碭山縣買家樓地方於本年九月初五日河水漫
隄村莊多被淹浸葦游之豐縣沛縣銅山蕭縣各
屬因地勢較低漫水下注一時宣洩不及以致各
村莊亦多被淹等語本年黃河盛漲隄水漫注該
州縣村莊猝被淹浸糧食漂失小民未免拮据殊
堪憫念所有碭山豐縣沛縣銅山蕭縣被水地方
著加恩先行賞給一月口糧以資撫卹該督等即
督率地方官妥為經理務俾民需實惠無致失所
並著查明成災分數分別應行蠲緩給賑之處迅
速^詳奏聞候朕加恩不可諱飾該部知道摺併發欽
此

881 嘉慶七年十月初七日奉

旨這所恭玩視搶案之署魯我縣事易門縣知縣袁
術誠著革職該部知道欽此

882 軍機大臣 字寄

河南巡撫馬 嘉慶七年十月十一日奉

上諭莫瞻棻奏請將陝州營都司移駐閿鄉大峪口

一摺此事前經莫瞻棻奏請移駐當交顏檢酌議

以潼關有副將駐紮為陝省東面保障即為閿鄉

西面屏障可以無庸添設今莫瞻棻以顏檢所議

專就東西而言於閿鄉大峪口為秦豫晉三省南

北要隘之處未及籌議若將陝州都司移駐大峪

口於捕務實為得力等語著交馬慧裕體察情形

悉心妥議切勿稍存遲延如果該處實係緊要自應量為移駐俾

資彈壓若大峪口地近潼關聲勢聯絡足以控馭

即遵照舊制不必輕議更張也莫瞻棻原摺著發

交閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

883 嘉慶七年十月十二日奉

旨著派侍郎姜晟內閣學士那彥成馳驛前往廣東

一帶查辦事件所有隨帶司員亦著一併馳驛欽

此

884 嘉慶七年十月十二日內閣奉

上諭前因江西南昌等十一府屬夏間雨澤愆期業

經降旨緩徵並令張誠基查明被旱較重應行蠲

免之處具奏茲據該撫奏稱九江府屬之湖口彭

澤二縣高田間成五分偏灾等語所有湖口縣被

旱較重田地一千五百四十五頃零彭澤縣被旱

較重田地一千八百三頃零本年應徵錢糧著加

息蠲免十分之一共蠲剩錢糧分作兩年帶徵俾

民力並臻寬裕以示朕軫念灾區有加無已至意

該部知道摺併發欽此

885 軍機大臣 字寄

廣東巡撫瑚 嘉慶七年十月十二日奉

上諭吉慶瑚圖禮奏安南貢使行抵粵東南雄府保

昌縣即覓堅固房屋將該貢使等拘禁等語辦理

殊未妥協阮先續貢使節經降旨諭令瑚圖禮於

該使臣撤回至粵東省城時即傳諭伊等以該國

受天朝厚恩乃阮先續窩留內地盜犯通同劫掠

封以偽職又將天朝所頒勅印遺棄爾國王負恩

背叛若使至今尚存還當治以應得之罪今已舉

殊

國為農耐所減爾國貢物業已奉旨擲還爾等現在是否願回本國看其如何登答如伊願回安南即遣令出關聽其自去倘不願出關即行羈禁奏明辦理想瑚圖禮早經接奉此旨今該貢使既行抵粵境自應飭令原派護送各員速將該貢使等送至省城遵照前旨明白宣示妥為辦理豈有該貢使行至保昌僅委之知縣在彼拘禁手吉慶現在查辦博羅餘匪著瑚圖禮於此吉到時即派員將該貢使及隨從人等押至省城另覓房屋拘禁不必置之監獄並詢問伊等如願回安南即押令出關聽其自行前往否則奏明請旨安插將此由四百里諭令瑚圖禮並諭吉慶知之欽此遵

旨寄信前來

886

查前據那啓泰奏到孛獲吉林逃遣內淮張三一犯因查原案事由未經載有免死減等字樣

旨遵行一摺當經遵

旨將是否刑部行文遺漏之處交查茲據刑部覆稱

向來辦理盜劫各案俱照律擬斬立決其情有可原者照例發遣並聲明免死減等字樣此案

淮張三一犯係聽從行劫在岸接贖之犯經兩

江總督聲明情有可原仍照同時洋盜案內丁

士隴等之例從重問擬斬監候監禁三年再行

發遣逾期滿後始據將該犯解部轉發是以原

奏及咨文內均無免死減等字樣今該犯在配

脫逃被獲自應照例正法等語臣等謹擬寫

諭旨一併進

呈恭候

欽定謹

奏

奏

十月十一日

嘉慶七年十月十二日奉

旨准張三著即處斬欽此

887 嘉慶七年十月十三日內閣奉

上諭昨據步軍統領衙門奏原任江西建昌縣知縣

劉光道子控告巡撫張誠基冒功邀恩及勒押劉

光賸補虧空一案當即降旨派令姜晟那彥成前往審辦矣從前義寧州逆匪劉聯登等聚眾滋擾曾據張誠基奏稱聞信後即親赴該處帶兵打仗勦滅完結是以加恩賞戴花翎令據劉光控告此事寔係該縣署義寧州知州任內於逆匪起事時即行募勇勦辦張誠基聞信馳抵義寧早已辦竣旋即據為已功看來張誠基捏報邀恩事所不免而劉光虧空未完銀兩若係分文無欠張誠基亦焉能指不給咨勒令賠繳但劉聯登於何日勦淨何日設撫始抵義寧州均有日月可稽詢問該處寔寔自能確實即劉光應賠銀數亦有冊檔可查無難水落石出著姜晟那彥成秉公審辦如勦辦逆匪時張誠基尚未親身到彼即經設縣辦竣而該撫匿報戰功邀邀恩賞自當治以捏奏冒功之罪姜晟那彥成即一面將張誠基奏請革職審訊其江西巡撫務著姜晟暫行署理候朕另行簡放藩司邱洪提取逆匪案卷並空白冊檔一節如果訊出扶同更改情弊亦當革職治罪所有藩司印篆即著姜晟派委委員奏請署理那彥成於審案完

竣後即將張誠基押帶回京解交刑部若該縣所控全虛即當按例治罪不得稍有瞻徇此旨著交姜晟那彥成實往遵照辦理欽此

十一月二十三日奉

堂諭不必發抄

888 十三日未刻奉

旨姜晟那彥成定於十七日起身未免過遲著於十

五日出京欽此為此知會

大人接奉後即知照

那大人可也

知會刑部侍郎姜

889 嘉慶七年十月十三日內閣奉

上諭本日吉慶等由六百里加緊遞到各摺一條劉

撫餘匪地方寧謐情形一條恭奏失察博羅會匪

各地方官一條保舉堪勝水師提兵均屬尋常事

件何致取用六百里加緊遞遞

殊

經完竣地方已就寧靜該督等奏報情形由驛馳遞亦不過四百里耳矣即如川陝楚各路軍營節次殲擒元惡巨魁及軍務全竣始用六百里加緊馳報該督何得於此等事件填寫加緊字樣駭人聽聞且吉慶昨因拿獲首犯陳爛屐四甫經加緊加快馳奏未及旬日又復加緊遞發不特朕與在廷諸臣以為詫異即沿途驛站必疑粵省又有緊要事件安生揣度吉慶何不曉事體一至於此著傳旨嚴行申飭昨因孫全謀奮勇打代攻克賊巢特賞給騎都尉世職而吉慶亦因督兵剿辦尚為迅速曾經交部議叙今伊二人所請失察嚴議之處著一體寬免惟此次輕費六百里加緊一節自係吉慶一人主見孫全謀不過於摺內聯銜吉慶仍著交部議處以為輕用急遞者戒欽此

890 軍機大臣 字寄

廣東巡撫瑚 嘉慶七年十月十三日奉

上諭瑚圖禮覆奏查辦博羅匪徒違旨出示曉諭並農耐國長請封使臣尚未到粵各摺覽奏俱悉博

羅會匪節次勦辦完竣業經吉慶奏報至所奏土瓜墟裕耆出贊募勇一千餘名探知龍華墟被賊焚掠即趕往與賊打仗二次殲斃賊匪十餘名賊即逃散等語該裕耆等並不待官為名募即自行團練預備且被賊之地並非該裕耆等所住村墟竟能不分畛域趕往勦殺甚為可嘉著瑚圖禮查明該處為首裕耆名募御勇較多及尤為出力者保奏數人候朕加恩至阮光緒貢使令保昌縣拘禁現復飛飭南雄府就近訊明一節所辦非是前曾屢降諭旨令瑚圖禮於安南使臣截回至廣東省城時傳旨拘禁並詢問伊等是否願回本國省其如何登答如伊願回即聽其自行前往如不願回國即在省城羈禁奏明請旨瑚圖禮探知該使臣行抵粵東即應飭護送各員帶至省城面為宣諭撥房拘禁何得僅委之知縣看管倘稍有疎虞成何事體且將應行宣示之旨僅令知府傳諭尤為不知輕重瑚圖禮著傳旨申飭務當遵照昨旨派員將該貢使押至省城明白宣諭妥為辦理其農耐先刺貢使鄭懷德等前因該省會匪滋事諭

今湖廣等將該使臣送至桂林令其由廣西行
走今博羅等處俱已寧謐該使臣如未起身應俟
請封貢使行抵粵東該撫仍當一全照料由該省
進京倘鄭懷德等已赴桂林其請封使臣亦續至
廣西印著孫玉庭料理進京可也將此由四百里
傳諭湖廣禮並諭孫玉庭知之欽此遵

旨寄信前來

891 嘉慶七年十月十三日內閣奉

上諭前因博羅縣會匪滋事吉慶調派駐防官兵書
敬等並不即時帶兵前往曾經降旨飭諭茲據標
書敬奏請交部議處而副都統二人竟未奏請寬
屬非是惠州距省甚近一聞有博羅縣匪徒滋事
之信該將軍及副都統內自應酌分一人挑選兵
丁帶往協剿即因吉慶未咨以滿兵暫且存省防
守不必遽行前往書敬與善保黃文燦三人內寧
不當分一人赴營幫同剿辦乎乃俱安坐省城若
無其事及經降旨飭惟書敬自請處分而善保黃
文燦仍置若罔聞殊屬玩忽書敬善保黃文燦著
交部議處欽此

892 嘉慶七年十月十三日奉

旨吏部議覆給事中恩治奏步軍統領衙門番役應
否准其出仕應試一摺番役一項專司緝捕盜犯
原與隸卒無異凡各衙門皂役人等例不准其為
官其子孫亦不准應試則番役自應比照此例以
歸畫一乃從前步軍統領衙門往往因番役孽獲
要犯輒奏請賞給頂戴如番子頭目馬凱即存賞
守備職銜且番役子孫並有應試出仕者殊不足
以別流品而重名器著步軍統領衙門查明番役
中從前得過頂戴者除馬凱業經降革外其現在
尚有頂戴之人祇准暫留頂戴不准以實缺補用
其子孫應試曾經進學及中式者留其舉貢生員
不准選用官職此後亦不准再行應考如現有出
仕者概令撤回嗣後步軍統領衙門遇番役緝捕
勦奮祇准量加獎賞即實有孽獲要犯者亦祇可
從優加賞毋許給予頂戴倘再行濫請即以違制
論餘依議欽此

893 查番于頔目馬凱於本年三月十三日經祿康

等奏緝捕不力奉

旨革去守備銜仍留千搥以觀後效嗣又因三轉橋

地方有賊匪恐嚇事主之案於五月初六日奉

旨革去千搥仍留番于頔目現在並無頂戴謹

奏

十月十三日

894 嘉慶七年十月十三日内閣奉

上諭吉慶奏失察將羅縣會匪滋事各員一摺知

縣劉嘉穎前因重犯越獄匪不詳報業經降旨革

職發往伊犁茲復於該縣會匪糾集多人毫無覺

察吉慶僅請加枷辦半年尚不足以懲儆劉嘉

穎著在省城枷稱一年滿日發往伊犁効力贖罪

以為地方官漫不經心釀成巨案者戒知府伊秉

綬亦經另案奏革即著照所請發往軍臺効力贖

罪欽此

895 嘉慶七年十月十三日内閣奉

上諭姜晟現在出差刑部漢堂官人少所有刑部右

侍郎事務著戴均元暫行署理欽此

896 嘉慶七年十月十三日奉

旨此項工頭石運通應領永定河工程銀兩現經顏

檢查明陳鳳翔陸續發完並無剋扣情弊陳鳳翔

著即回籍省城其工頭石運通仍著刑部嚴行審

辦欽此

897 嘉慶七年十月十三日奉

旨著於部庫內撥銀二十萬兩廣儲司撥銀十七萬

九十八兩零交汪承霈等以備要工支用欽此

898 嘉慶七年十月十三日奉

旨此案防禦廣德魁成添麟成善凌泰駝騎校軍泰

副駝騎校恒感岳克清阿良玉德志著一併革職

嚴審滄州城守尉兆成亦著解任解京歸案實訊

其城守尉事務不可無人管理著慶怡於伊所管

旗分奉領內遴選明幹之員奏明前往暫署俟批
成訊明後如果應奉任再行簡員補放欽此

刑部奏滄州撞騙案

899 嘉慶七年十月十三日內閣奉

上諭信山奏勘明場窳已未成灾情形一摺海州分
司所屬板浦中正臨興三場地處低窪本年夏間
雨水連綿秋禾率多傷損各灶未免生計維艱據
該該政勘明成灾七分著加恩將該三場極次貧
窳分別給予賑濟所有應徵新舊折價錢糧並著
照例分別蠲緩其泰州分司所屬丁渙草堰劉莊
伍佑新興廟灣六場田禾被旱雖勘不成灾但水
成究屬歉薄亦著加恩將本年應徵折價錢糧緩
至未歲表熟後分作二年帶徵以紓窳力該部即
遵諭行欽此

900 軍機大臣 字寄

盛京將軍 直隸江蘇安徽江西浙江福建山東
山西湖北陝西甘肅各督撫 嘉慶七年十月

十三日奉

上諭本年奉天廣寧等城所屬地方被水淹浸直隸
定興安肅清苑滿城景州交河等州縣蝗蝻滋生
收成稍減江蘇海州沭陽碭山等州縣被水被旱
秋禾失收安徽望江宣城宿州靈璧等州縣蕪被
水旱田禾受傷江西南昌瑞州等府屬水旱成灾
傷損地畝浙江西安龍游等州縣得雨稍遲秋收
歉薄福建邵武縣山水陡發衝沒低田山東德州
長清淄川新城等州縣被旱被蝗未稼受傷山西
猗六聞喜等縣及托克托城薩拉齊兩廳間被水
灾晚禾淹損湖北公安松滋江夏咸寧等州縣均
被水旱收成減少陝西涇陽三原等州縣麥收失
望甘肅寧夏寧朔等州縣被水歉收節經加恩賞
借籽種口糧分別給賑蠲緩小民自不致失所第
念各該省間被偏灾地方收成歉薄明春青黃不
接之時尚恐民力不無拮据著傳諭該將軍及各
督撫等即行體察情形如有應需展賑及量為接
濟之處據實詳查覆奏候朕於新正降旨加恩將
此各諭令知之欽此遵

旨寄信前來

901 查本年奉天直隸江蘇安徽江西浙江福建山東山西湖北陝西甘肅各省有被水旱蝗蝻歉收處所俱已奉有

恩旨分別蠲緩並酌予撫卹賑濟在案但明春是否應需接濟之處臣等謹循照向年之例擬寫詢

問該將軍及各督撫等

諭旨俟覆奏到日再行擬寫新正加恩

諭旨進

呈謹
奏

902 嘉慶七年十月十四日內閣奉

上諭任兆炯歷任江蘇府州縣朕素聞其聲名平常

即詢之在廷諸臣亦僉稱其居官不愜輿情上年

殊

辦理漕務種種不善以致物議沸騰乃該司為

其所愚不但不知參劾且於其俸滿引見時註以

端方明練上考似此不公不明何以風示屬吏但

現在未經查有該員賍私確據任兆炯著姑以六

部主事用以觀後效若仍不知悛改別經查出劣

款定當一併治罪所遺蘇州府知府員缺緊要著該督撫於通省知府內揀選一員調補所遺員缺著馮珪補授欽此

903 嘉慶七年十月十四日奉

旨孫全謀著補給恩廕欽此

904 嘉慶七年十月十六日奉

旨吳昭著照該按所請調補安陽縣知縣所遺魯山

縣知縣員缺准其以趙瑛署理其馬慧裕罰俸九

個月之處著加恩寬免欽此

吏本改簽

905 嘉慶七年十月十七日內閣奉

上諭巡視東三省事務前經議定裁汰御史五年一

次於盛京五部侍郎內奏請簡派今據晉昌奏巡

視盛京業已屆期將五部侍郎銜名開單請旨但

思吉林黑龍江兩處非盛京所屬尚可令該侍郎

等前往巡視至盛京係本管地方亦派令一體查
察究於政體未協所有此次巡視盛京事務著派
大理寺卿富星額去嗣後除吉林黑龍江屆五年
期滿仍照例將該侍郎等奏派外其盛京一省屆
期著該將軍奏請候朕於在京之滿漢三四品京
堂內簡派欽此

906 軍機大臣 字寄

盛京將軍晉 嘉慶七年十月十七日奉

上諭奉天各屬地方每年存積糧石多有盈餘因思
久貯在倉易致紅朽何如出所有餘於解運黑豆
之便由水路添運若干石一併解通存貯著傳諭
晉昌酌量該處情形除去年額支糧石外其多餘
糧米是否足敷二十萬石並能否搭運之處據實
覆奏候旨遵行將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

907 嘉慶七年十月十七日內閣奉

上諭前因廣寧等城地方間被水淹業經借給一月

口糧並令晉昌等查明應行蠲緩賑濟之處具奏
茲據該將軍等勘明通計成災五六七分不等等
語廣寧等城地方俱係旗地官莊站丁民地雜處
今成災五六七分旗民生計未免拮据所有廣寧
牛莊白旂堡小黑山遼陽巨流河承德等界沿河
窪下地畝被災正身旗人及戶部莊頭著加恩加
賑口米三四個月兵部站丁加恩加賑口米六九
個月民人分別極貧次貧加恩加賑一兩個月並
酌借來春籽種口糧該將軍等務須督率所屬按
地散賑毋任吏胥從中侵扣以副朕加惠旗民至
意其應行蠲緩及應賑戶口數目著該將軍等
即行照例具題該部知道欽此

908 遵查國倫額駙冠服會典開載與貝子同若原

係貝勒以上者各照封爵用又查戶部則例內
載在京居住國倫公主歲支俸銀四百兩俸米
二百石額駙歲支俸銀三百兩米一百五十石
等語從前豐伸殷德未管旗務以前其冠服俸
米即照此例行謹

奏

十月十七日

909 臣等遵

旨傳到倉場侍郎達慶鄒炳泰詢問京通各倉存貯
 米石是否足數支放據稱前次摺內所奏嘉慶
 八年八月起至九年四月新漕未到之前京通
 十五倉約計應放俸甲及零檔各米二百七十
 萬石又薊易滄糧並恩豐內倉應需米十餘萬
 石約共應需漕白米二百八十餘萬石曰江西
 等省各有蠲緩計到通米石恐不敷九年三四
 月支放現經籌議將行月耗米等項三十九萬
 餘石運京如屆期全數抵通約可接濟支用至
 各倉舊存米石業於本年支放完竣現在俱係
 新糧顆粒皆實貯在倉並無虧短可否請
 旨派員盤查以昭核實等語臣等詳加查對倉場侍
 郎所奏情形明歲各倉米石及現經籌議行月
 耗米等項截至嘉慶九年四月底僅堪接續新
 漕核之戶部前次開米數收放清單則九年

四月以後尚有贏餘數十萬石其中細數不甚
 符合現文戶部再行詳細核算開單具

奏 奏謹

十月十七日

910 軍機大臣 字寄

廣西巡撫孫 嘉慶七年十月十八日奉

上諭孫玉庭奏遵旨傳諭農耐使臣另具請封表文
 一摺覽奏俱悉農耐請封一事前因廣東有博羅
 會匪滋事一案派兵剿捕其請封貢使不便令其
 由廣東行走特降旨令瑚圖禮將該國初次使臣
 鄭懷德等送至廣西俟該國請封使臣到時一同
 進京昨博羅縣會匪一案已據吉慶奏到辦理完
 竣地方寧謐所有該國請封使臣仍可由粵東行
 走亦已諭知瑚圖禮遵照辦理此時孫玉庭傳知
 該使臣回國另具表文詣關候命若該國貢使由
 海道前至廣東自有瑚圖禮在彼經理若由鎮南
 關一路而來即著孫玉庭派員送至廣東三水縣

地方與該國初次使臣會齊一同詣闕仍著將該國貢使到闕日期及何時可以到京先行由驛具奏將此傳諭孫玉庭並諭瑚圖禮知之欽此遵旨寄信前來

911 嘉慶七年十月十八日內閣奉

上諭據顏檢奏密雲縣徵解木稅不敷定額懇請核定辦理一摺該縣管理古北口抽分事宜每年應解木稅原以一千一十二兩零定為歲額今據稱該處商販寥寥無人領泉辦課山場砍伐既久近年以來祇有小民在附近各山採取柴薪照例輸課每歲不過三四十兩至五六十兩等語自係定在情形除嘉慶二年至六年止應解稅銀仍在歷任知縣名下照數勒完外嗣後此項木稅自嘉慶七年為始著即照徵收雜稅之例儘收儘解不必定以額數仍著該督責成該道府等隨時稽查毋得以多報少致滋弊混密雲距京甚近倘一經查出必將該令等懲處不貸其該縣原領監督關防即著繳銷該部知道摺併葉欽此

912 嘉慶七年十月十八日奉

旨直隸督標中軍副將旨缺著照該督所請以舒和調補其所遺河間協副將旨缺著該部照例辦理欽此

913 嘉慶七年十月十八日奉

旨這所恭徇役贍贍之夏縣知縣陸錦泉著革職該部知道欽此

914 嘉慶七年十月十八日奉

旨這所恭疎脫重犯延不申報之湘鄉縣知縣陸博著解任交部嚴加議處其著銜山縣知縣黃炳奎於接逆重犯脫逃後旋即自行等覆但未能慎選差役與倉差長解不慎之宜章縣知縣冷時肅武岡州知州秦連著交部照例分別議處高杞自請議處之處著加恩寬免欽此

915 嘉慶七年十月十八日奉

旨這所奉左雲縣知縣張兆安典史李清和右玉縣

典史倪忠詔均著解任交該撫提集案內人証秉
公審擬具奏其告病離任尚未回籍之翔平府知
府章鈺亦著一併訊取確供歸案辦理該部知道
欽此

916 嘉慶七年十月十九日內閣奉

上諭本日朕御紫光閣親試中式武舉內安徽沙殿
元雲南彭萬年江蘇沈彪三名_{開手甚覺也強}俱弱不能過

面殊屬違式本應將伊等停科並將監射覆試工
大臣等多別議處但念各武舉業經欽派大臣覆
試若於殿試時又復加以駁斥轉似覆試之例徒
屬具文且此次尚未預經降旨是以姑寬仍將沙
殿元等三人用為衛守備其監射大臣弘融普福
莫瞻萊成書覆試王大臣儀親王永璇成親王永
理長麟額勒布吉綸俱從寬免其議處著傳旨申
飭嗣後殿試武舉如有似此技藝平常者經朕看
出必將該舉子停科監射覆試王大臣一併議處
欽此

917 嘉慶七年十月十九日內閣奉

上諭前經費淳等奏報霜降後南河水勢安瀾業經
降旨將費淳吳璥交部議叙並著將出力各員查
明保奏茲據費淳等奏霜降後黃水復長唐家灣
因民堰漫塌以致毛城鋪塌下過水引河頭刷寬
五十餘丈尚不致吸動大溜但未莊即時收束現
在籌辦堵閉等語看此情形唐家灣民堰于九月
初旬漫塌至此時竟尚未能堵閉費淳吳璥既知
今年黃水漲盛唐家灣漫堰未經斷流何以前次
即奏工程一律鞏固豈節屆霜降該督等竟不問
河工實在情形徒以秋汛安瀾循例具奏乎費淳
吳璥著傳旨申飭並將前次議叙撤回其自請議
處之處著加恩姑予寬免此時已交冬令水落力
綿該督等務當上緊購料相機籌辦先築挑水堤
挑溜歸河再于口門緊填攔截將唐家灣漫堰堵
閉穩固尚可將功抵過倘稍有遲延必將該督等
一併治罪至道將文武於所屬堤堰未能及早籌
辦咎是難諱所有前此在工人員無庸再行保奏
並著將該管廳營照例叅處嗣後該督等於每年

秋汛時務須查看全河水勢順軌工程志皆堅穩方可具振安瀾毋得拘泥霜降率行陳奏再唐家灣既有漫溢其下游一帶自必有被淹處所並著該督等查明是否成災據實具奏不可稍有諱飾
欵此

918 嘉慶七年十月十九日內閣奉

上諭前據陸有仁奏查明陝省尚有未竣緩徵銀糧各州縣一摺因所開州縣有與上年曾經緩徵年分款項相同者該撫摺內聲叙未明是以降旨令該撫一面飭屬緩征一面查明具奏茲據陸有仁查明分別開單呈覽所有單開之咸寧長安臨潼渭南涇陽三原富平藍田華州永壽邠州長武藍屋邠縣同官潼關大荔朝邑邠陽韓城華陰澄城白水蒲城扶風岐山鳳翔寶雞郿縣麟遊淳化三十一廳州縣六年分民欠未完地丁正耗鹽課共銀三十二萬五千五百七十八兩零本色糧四萬六千九百六十三石零常社倉糧七萬九百三十八石零又潼關華陰韓城麟遊永壽邠州長武淳

化臨潼涇陽三原富平同官大荔朝邑邠陽澄城白水蒲城鳳翔二十廳州縣五年以前民欠未完常社倉糧四萬四千八百一十三石零口糧折色銀五千五百六十四兩零又藍屋郿縣未完五年分道倉本色糧一萬一千五百三十三石零俱著加恩一體緩徵以示朕軫念窮黎恩施無已至意該部知道摺單併發欵此

919 軍機大臣 字寄

廣東巡撫瑚 嘉慶七年十月十九日奉

上諭瑚圖禮奏博羅縣會匪竄入永安縣屬地方糾合匪徒曾清浩等千餘人焚劫村墟等語博羅賊巢均經官兵勦洗此次復有匪徒竄入永安糾結滋事自仍係陳爛屨四餘黨未曾勦盡瑚禮片稱吉慶現已派委將備帶兵馳往勦捕自無難立就殲除其所需軍火糧餉瑚圖禮當妥協經理毋悞供支如得有勦淨逆匪信息即行具奏將此遇報便諭令知之欵此遵

旨寄信前來

920 軍機大臣 字寄

直隸按察司 嘉慶七年十月二十日奉

上諭朕於明年二月內啓鑾恭謁

東陵擬順道往明陵閱視因思明陵久未經臨所有殿

宇墻垣是否尚須修葺現在已交冬令天氣寒冷

著顏檢酌量情形如此時修理尚易自應妥為預

備倘應修之處較多凍工難施一時趕辦不及即

著據實奏聞明歲停止前往俟遲一二年後再往

閱視可也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

921 軍機大臣 字寄

直隸按察司 嘉慶七年十月二十日奉

上諭據巡城御史書興等奏審辦控案究出左道惑

人之陸二一犯訊據供稱本名陸興濬係直隸東

鹿縣人常替人用符水治病伊師名楊七藍子住

居東鹿縣舊城西北砲莊地方有壇一個領徒一

百多號楊七藍子之師名劉順通住居該縣舊城

正西大地名南呂村小地名郝家街也上一壇領

徒四十四人楊七藍子是他大徒弟開壇時十人

一排四十四人分四排此外設立掌壇巡壇查壇

看香各一人這四十三人手下各有多少徒弟我

不知道等語並據該御史等於該犯寓所搜獲圖

像經卷符紙並八卦木印等件業經降旨交刑部

審訊外該犯畫符念咒携有圖像等項其所供伊

師楊七藍子及劉順通在東鹿縣地方設壇聚徒

之家自非無因畿輔重地如有此等左道惑人之

事不可不嚴行查辦預檢接奉此旨著即派一二

幹練之員密赴東鹿縣地方詳細查訪如果實有

其事即當速行拿獲一面究辦一面奏聞毋致日

久聚眾益多滋生事端但須不露聲色慎密妥辦

不可稍涉驚擾為要所有書興等原奏併著抄寄

閱看將此諭令知之欽此

922 軍機大臣 字寄

兩江總督費 江蘇巡撫岳 嘉慶七年十月

二十日奉

上諭鐵保奏審明江都縣民人方南昌呈控李丹亭

等事洲斃命一案分別定擬緣由已批交刑部核擬具奏矣至另片奏稱淤出灘地給與八洲人撥補卅江與例不符請俟此案辦結後交該管道府妥為查辦等語此項淤出灘地既未便補給卅江自應令附近貧民具呈承墾報部陞科但經理稍有未周恐胥吏等從中舞弊或得受賄囑仍令豪強認佃而實在貧民轉致向隅日後必致爭端復起著傳諭該督撫嚴飭該管道府督率清查出示召佃除在官人役商人富戶及向來業戶中健訟霸佔之人概不准承佃外其餘附近貧民俱准其具呈承墾務須均勻撥給辦理公平不得抑勒偏枯高下其手並嚴禁胥吏人等藉端勒索影射弊混俾貧民得霑實惠以期永杜訟端方為妥善將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

923 嘉慶七年十月二十日內閣奉

上諭鐵保奏酌籌買補米石運通以充積貯一摺據稱明歲江西等省奉旨緩徵抵通米石較少請于

旗丁行月等米項下每船撥出三十石照原定一兩九錢價值買留在倉計得米九萬石再同倉存灑颶等米約共二十一萬石一并運通等語旗丁行月等米前因米價甚賤酌定每石以一兩九錢折給嗣經仍照舊例支給本色現在米價較昂若全照原價買留旗丁不無拮据著照鐵保所請每船酌買三十石照原價發給其餘行月米石准該丁等照現行市價在水次倍資俾資運務所有官發價值即於道庫留撥漕項內報銷其運脚即照支剩行月月例辦理此項搭解米石即責令旗丁等迅速搭運抵通不可遲悞餘著照該漕督所請行該部知道摺并發欽此

924 嘉慶七年十月二十日奉

旨交刑部審擬具奏其等獲陸二等之指揮陳理或副指揮劉寶符尚屬留心均著加恩交部議叙欽

此

東城御史書無王蘇差道惡人獲犯案

協辦大學士兩廣提督吉 嘉慶七年十月二

十一日奉

硃

上諭昨據瑚圖禮奏稱博羅會匪竄入永安地方糾眾千餘焚劫村墟吉慶現已派委將領馳往剿捕而本日吉慶六百里加緊之摺即係奏報此事又填用急遞駭人聽聞其摺內所叙情形亦屬全無把握示科吉慶遇事失指生於此極力據稱博羅匪徒曾鬼六勾結永安匪徒官粵瓏等於大鍾嶺地方湧出數千人抗拒官兵等語曾鬼六等犯是否即係陳爛履四餘黨何以甫經勾結即有數千人之多可見粵東會匪隨處皆有吉慶平日既不能督飭地方官早為查察及至歸善博羅兩處滋生事端又不能妥為辦理紛紛調兵搜拏仍未淨盡今永安地方又復糾結至數千人之多皆由吉慶措置失宜所致此時該督已馳赴該處督兵剿辦提督孫全謀亦已帶兵馳往又恐兵力不敷飛調江西兵二千名太覺張皇失措矣博羅陳爛履四夥匪前據吉慶稱賊眾共有萬餘該督所調廣西之兵尚未到彼即就廣東現有

硃

兵力尚能攻破賊巢擒獲首逆今曾鬼六夥匪祇有數千何至又調江西兵丁且摺內並未將前此調廣西官兵曾否停止之履報叙明晰殊為不解若吉慶先經行文停止即再行檄調該省不過以博羅餘匪未淨需添兵力不致驚惶且相距諒亦不遠檄調更易又昨據書敬奏曾預備滿兵一千五百名何不即行調往乃舍近圖遠轉於相隔千餘里之贛州調兵來惠豈能速至乎況江西官兵素非趨健即到粵亦不能得力何吉慶一無籌畫竟至於此著傳旨申飭吉慶此時惟當就廣東現有之兵與提督孫全謀率同將領上緊剿捕趁此處賊匪初起之時迅加剿殺諒此等烏合匪徒無難速就殄除若兵力尚覺不敷現據摺內稱博羅地方業已漸就平寧即使須兵防範酌留千餘名已足敷用何必各處設兵防守多至三千名若該處兵丁稍不安靜轉恐別滋事端吉慶當酌量情形或抽調一二千名前赴永安協剿又可稽添兵力至吉慶因帶兵乏人奏請簡派副將恭遊都守等十員前往一節亦屬緩不濟急京師離粵甚遠

即使簡派得人令其馳驛行走亦須兩月方到現在剿辦正當吃緊之時吉慶豈必俟此十人到彼始行打仗耶如果地方營伍差委乏員吉慶仍不妨具摺聲請候朕再行揀發吉慶提督曾持定見妥協剿辦不可過於張皇亦不可稍有遲延時日致賊匪蔓延為要再給事中陳昌齊奏粵省會匪素與洋匪相為狼狽水陸交通無所忌憚若將洋匪肅清會匪自可默化潛消等語該給事中籍隸粵東於本處情形自有聞見可奏諒非盡屬空言著將原摺抄寄吉慶閱看如有可採擇之處即當於辦完永安後飭屬留心俾會匪失所倚恃不特洋面可期寧謐而地方亦益臻綏靖將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

926 軍機大臣 字寄

廣西巡撫孫 嘉慶七年十月二十一日奉

上諭據部察院衙門奏廣西羅城縣民人陸士通控告該縣藉查等經卷佛像刑逼伊兄陸士乾身死

一案已降旨交孫玉庭查審具奏矣此案陸士通所呈經卷據供高祖以來家嚴誦誦百有餘年詳閱經文刊本一為護道戒經一為護道榜文似係前明沿習舊文至康熙雍正年間續行翻刻者其中字句鄙俚尚無狂悖之處諒係鄉愚無知流傳誦習若果如該犯所供該縣鎖拿多人非刑拷打致斃人命辦理實屬過當但究係一面之詞恐難憑信外省州縣官往往於真正教匪做錢聚眾等犯不行查辦而村野愚氓間有一二誦經念佛並不出外滋事者轉任聽書役等妄捏藉端擾累所有陸士通控案即著孫玉庭親提人卷秉公查辦據實具奏都察院原摺並呈出經卷均著發交閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

927 嘉慶七年十月二十一日奉

旨此案著交孫玉庭親提人卷秉公審擬具奏所有原告陸士通該部照例解往備質欽此

928 嘉慶七年十月二十一日奉

旨此案著交全保親提人証秉公審擬具奏所有原
告徐慶六該部照例解往落質欽此

929 軍機大臣 字寄

直隸江南浙江江西山東河南湖廣各督撫漕

運提督 嘉慶七年十月二十一日奉

上諭前因御史喬遠煥條奏各衛屯田請旨清查一
事曾經諭令各省有漕督撫及漕運提督即將各
衛原額屯地飭屬查明有無私行典賣並如何贖
歸原額之處會商妥辦乃數月以來僅據原任山
東巡撫和寧具摺奏請借動地丁銀兩回贖當交
部議未准遽行動款而各該省督撫漕臣並未見
詳悉深奏茲據給事中砥柱奏請將各該屯田有
從前私典于民人者盡行照例撤歸交與接運之
新丁管業毋庸動帑回贖等語此項屯田原為贖
給帑丁濟充運費而設若概將私相信典之田盡
行撤出入官恐丁民交受其累倘官為動款代贖
撤歸運丁管業又無此辦法究應如何設法贖回

以足原額而資贖運之處著交有漕省分各該督
撫及漕運提督仍照前旨即行酌量情形會同詳
議具奏砥柱摺著發交閱看將此各諭令知之欽
此遵

旨寄信前來

930 嘉慶七年十月二十一日內閣奉

上諭顏檢奏請以原任漕運通判陶嗣曾經豐潤營
田一摺陶嗣曾係因公革職既據稱該員熟悉水
利即照所請豐潤營田事務著陶嗣曾管理俟三
年後著有成效再行送部引見欽此

931 嘉慶七年十月二十一日奉

旨左翼盈餘銀兩內著交圓明園一萬九千九百五
十兩賞范建豐銀六百九十七兩零欽此

932 嘉慶七年十月二十一日奉

旨右翼盈餘銀兩著交造辦處七千一百五十兩賞
湖園靈阿三百九十三兩零欽此

933 查左翼監督應徵正額銀一萬零八兩嘉慶四

年

欽定左翼盈餘定額一萬八千兩上年監督扎郎阿

徵收除正額外盈餘銀二萬零五百六十四兩

零較

欽定盈餘額數多二千五百六十四兩零奉

旨賞扎郎阿銀六百六十四兩今左翼監督范建豐

除正額外盈餘銀二萬零六百四十七兩零較

欽定盈餘額數多二千六百四十七兩零較上屆盈

餘數日多銀八十三兩零右翼監督應徵正額

銀一萬零五兩嘉慶四年

欽定右翼盈餘定額七千三百二十一兩零上年監

督德 徵收除正額外盈餘銀七千四百九十

七兩零較

欽定盈餘額數多一百七十六兩零奉

旨賞德 三百四十七兩零右翼監督瑚圖靈阿除

正額外盈餘銀七千五百四十三兩零較

欽定盈餘額數多二百二十一兩零較上屆盈餘數

日多銀四十五兩零查左翼盈餘銀兩向例交

圓明園右翼盈餘銀兩向例交造辦處其應交若

千兩並

賞給范建豐瑚圖靈阿若干兩之處謹於擬寫

諭旨內空出恭候

欽定謹

奏

十月三日

934 軍機大臣 字寄

江西巡撫張 嘉慶七年十月二十一日奉

上諭本日據吉慶奏永安縣會匪餘亮滋事一面飛

咨張誠基調兵二千名赴粵剿捕等語該處餘匪

俱係烏合之衆無難迅就肅清吉慶所奏未免張

皇張誠基於接到吉慶奏咨後著於贛州鎮標內

挑備壯健兵丁二千名並將軍裝一切妥為預備

候旨調撥此時且不必遽行赴粵將此附報便諭

令知之欽此遵

旨寄信前來

935 軍機大臣 字寄

廣東巡撫瑚 嘉慶七年十月二十二日奉

殊殊

上諭昨日吉慶由六百里加緊遞到奏摺即係前次
 瑚圖禮奏報博羅匪徒竄入永安糾眾滋擾之事
 據稱於大鍾嶺地方湧出數千人抗拒官兵該督
 及孫全謀即馳赴剿辦並飛咨江西調派贛州鎮
 標兵二千名來惠協剿又請京派副參等官十員
 赴粵辦理甚屬張皇未始降旨中飭所有調兵派
 負之處俱不准行本日據瑚圖禮奏到之摺據稱
 書敵現帶滿兵五百名赴永安協剿並據據邱庭
 隆來稟吉慶派委游擊胡俊鴻等與孫全謀前往
 分投剿捕不日即可撲滅其博羅各路村民俱各
 安貼等語查吉慶昨日之摺係初六日拜發邱庭
 隆之稟瑚圖禮於初五日接到邱庭隆現隨吉慶
 軍營其所稟情節賊勢並無難辦何以吉慶遽爾
 倉皇失措看來吉慶辦理此事屢次奏報俱胸無
 把握而瑚圖禮前後所奏情形尚為鎮靜聞粵東
 會匪隨處皆有向來並不敢糾眾滋事或吉慶於
 辦理歸善會匪一事派兵搜拏株連人眾以致入
 會之人心生畏懼藉口起事而博羅山內遂至聚
 集萬餘及至攻破賊巢或又辦理疎漏致令夥匪

竄入永安復行勾結否則竟係吉慶等誅戮太多
 轉令會匪羣相煽動即如吉慶昨日所奏單內徒
 逆正法者有七百餘名人數過多並未訊取確供
 恐不免有濫及無辜之事且此案起衅緣由屢經
 降旨查詢總未據吉慶詳悉覆奏殊不可解瑚圖
 禮係該省巡撫見聞親切務令會匪因何起事滋
 擾吉慶孫全謀如何查拏搜勦有無辦理不善激
 成事端之處據實密奏不可稍涉迴護自干罪戾
 將此附吉慶報便諭令知之欽此遵
 旨寄信前來

936 嘉慶七年十月二十二日奉

旨書敬著加恩改為降三級從寬留任善保黃文燦均
 著加恩改為革職留任欽此

兵部謹摺

937 嘉慶七年十月二十三日奉

旨候補巡捕營都司郭起麟亦係番役之子若照新
 例祇應准其頂戴帶身不准選用官職但該員從

前帶兵赴北等處勦賊打仗一百餘次勝受石傷
曾經賞戴花翎是以該員於休致後帶領引見特
降旨以都司補用如此時遽行撤回是著有勞績
之員轉不能仰邀祿藉郭起麟著加恩仍以巡捕
營都司補用不准再行陞擢此係朕俯念勞勩格
外施恩其餘番役子孫不得援以為例欽此

938 軍機大臣 字寄

廣西巡撫孫 嘉慶七年十月二十四日奉

上諭孫玉庭覆奏查明阮福映確係農耐國長真名

一摺農耐國長前後納欵文稟均自稱阮福映從

前安南指名農耐為阮種是阮福映即阮種該撫

所查自屬有據其阮種為阮光鑽兵部尚書之語

係屬訛傳無稽此事亦不足查問摺俟其請封使

臣到闕即據表文內姓名書寫入奏至所稱兩次

使臣同由廣西伴送進京一節該撫尚係遵奉前

次諭旨嗣於本月十六日復行諭知孫玉庭農耐

請封使臣如由鎮南關一路而來著該撫派員送

至廣東三水縣地方與該國初次使臣會齊一同

詣闕並已諭知瑚圖禮一體照辦此旨孫玉庭尚
未接到該撫接奉後即遵照辦理俟該使臣到闕
先將日期由驛具奏一面知會瑚圖禮妥協照料
可也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

939 軍機大臣 字寄

駐藏大臣英 福 嘉慶七年十月二十四日

奉

上諭英善奏廓爾喀王吉爾巴納足塔畢噶爾瑪薩

野呈進例貢一摺覽奏俱悉至另片稱風聞披楞

之兵已將廓爾喀部落侵奪六處恐該國王將來

勢窮仰仗天朝威力或弄沒唐古忒境由等語該

國王此次遣使進貢之意或即為將來地步但此

等蠻觸相爭竟可不必過問倘廓爾喀地方被披

楞侵佔該國王或乞兵相救英善等惟當奏聞請

旨遵辦或情急來投英善等斷不可收邊今入境惟

令其在唐古忒境外暫行停頓一面迅速奏請訓

示可也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

940 嘉慶七年十月二十四日奉

旨苑丞六達塞係六品文職南苑總領章京係四品武職以之越級陞補未免過優六達塞著加恩賞給雲騎尉頂戴署理南苑總領章京事務著該大臣等留心察看俟數年後如果奮勉再行奏明賞授欽此

941 嘉慶七年十月二十四日奉

旨交刑部審訊具奏欽此

步軍統領衙門奏查封民人王吉員控貢生閻光壽竊傷伊之身死案

942 臣等遵

旨傳到吳俊詢問據稱添弟會起于福建漳州府平和縣江西粵東等省所在多有隨時懲辦不足為患近年以來福建人往往潛至粵東扶育盟書歌致煽惑鄉愚無籍之徒即從而附和始不過歛錢圖利及人多之後即搶劫村庄淫掠婦女地方良善畏其荼毒不得已即投入會中以

圖免害該逆等之意原非造反且亦不能造反惟在地方官耳目遠而緝捕遠將渠魁弋獲則餘黨不辭而自散蓋誅之不可勝誅而其是否實係甘心入會為匪毫無憑據僅據兵役稟報此等兵役即有入會之人伊等或將同會釋放轉致波及無辜若遽尔紛紛查拏必致激成事端我上年二月在廣東臬司任內東莞縣地方有會匪糾聚搶掠滋事經紳民控訴我因不知首逆姓名不便冒昧查拏訪知該縣武舉袁剛素屬能事我密令投入會中訪得為首之人係陳禮南由福建至粵在東莞傳習添弟會糾聚多人我即將該犯年貌服色密傳南海縣知縣唐錫選派幹役連夜前往增城乘該犯在彼聽戲立即拏獲究出同夥數十人分別辦理餘黨亦即解散此外如陽江等處亦曾有會匪滋事俱係一經發覺即密速查拏將首犯弋獲審辦詳

奏總之會匪滋事惟在地方官設法查拏首犯既獲餘黨自散若一經調兵剿捕該匪等俱係實

頑之人勢必心懷疑畏與官兵抗拒即不能迅速完結未免殃及無辜況博羅永安歸善增城龍門連平河源和平等州縣一帶大山綿亘千里處處可以藏奸斷無調集多兵逐處堵剿之理今聞吉總督辦理之始驟行調兵剿殺似未免跡涉張皇瑚巡撫靜鎮辦理似較得當此時歸善陳亞本博羅陳爛履四俱已擊獲正法永安尚有屯聚之匪若能即時完結自應迅速撤兵以安衆心倘有遷延滋蔓則毗連永安各處跬步皆山餘匪竄入其中恐非尅期所能辦竣

等語謹

奏

943 嘉慶七年十月二十五日內閣奉

上諭朕恭閱

皇考高宗純皇帝實錄內載乾隆十八年七月欽奉

諭旨滿洲習俗純樸自我朝一統以來始學漢文曾將

五經及四子通鑑等書編譯刊行近有不肖之徒不

繙譯正傳反將水滸西廂記等小說繙譯使人閱看

誘以為惡甚至以滿洲單字遠音鈔寫古詞者俱有滿洲習俗之偷皆由於此不可不嚴行禁止等因欽此仰見我

皇考崇正黜邪為風俗人心計者至深且遠從前滿洲書皆通曉清文是以尚能將小說古詞繙譯成編皇考深恐為習俗之害嚴飭禁止今滿洲

殊

非惟不能繙譯甚至不識清字其粗曉漢文

者又以經史正文詞義深奧難于誦習專取各種無稽小說日事披覽而人心漸即于偷此不獨滿洲為然即漢人亦更多蹈此陋習如經史為學問根柢自應悉心研討至諸子百家不過供文人涉獵已屬荏餘乃鄉曲小民不但經史不能領悟即子集亦束置不觀惟喜謔俗割及一切鄙俚之詞更有編造新文廣為傳播大率不外乎草竊姦究之事而愚民之好勇鬥狠者溺於邪惡轉相慕效糾夥結盟肆行淫暴概由看此等書詞所致于世道人心大有關係不可不重申嚴禁但此時若紛紛查辦未免假手吏胥轉滋擾累著在京之步軍統領順天府五城各衙門及外省各督撫通飭

地方官出示勸諭將各坊肆及家藏不經小說現已刊播者令其自行燒燬不得仍留原板此後並不准再行編造刊刻以端風化而誠詞將此通諭知之欽此

944 嘉慶七年十月二十五日內閣奉

上諭據王汝璧奏稱太湖縣東南二鄉史藍嘴等十二保處高阜晚禾受旱收成僅有五分該縣於七八月間具報尚屬七分有餘並未據實分晰遲至九月底始續行查出具稟實屬怠緩請將該府縣交部議處等語向來各督撫查辦災賑事宜於業經奏報後遇有續行查出災厄往往袒護屬員稟報遲延之咎遂將小民疾苦置之不問今王汝璧將勘報遲延之府縣據實奏所辦甚是所有勘報草率之太湖縣知縣高薰業及轉報遲延之安徽府知府樊晉均著交部議處其受旱較重之太湖縣東南兩鄉史藍嘴等十二保著加恩與前奏之懷寧等州縣應徵新舊錢糧及本年漕米一體緩徵以示朕軫念災厄至意該部知道摺併發欽此

945 嘉慶七年十月二十五日奉

旨著派兵部侍郎那彥寶馳驛前赴南河唐家灣查看漫工所有隨帶司員著一併馳驛欽此

946 嘉慶七年十月二十六日內閣奉

上諭雲南巡撫託轄邊疆事務殷繁現在又有經手軍需奏銷事件孫曰秉年力就衰未能辦理裕如著來京候旨另行簡用所有雲南巡撫員缺著初彭齡前往暫行署理現在福慶將抵黔省初彭齡接奉此旨著將貴州巡撫印務暫交百齡護理即赴雲南接印視事以便孫曰秉交卸起程欽此

947 軍機大臣 字寄

調署雲南巡撫初 嘉慶七年十月二十六日奉
上諭初彭齡奏陳督臣琅玕近日在滇辦事情形一摺據稱琅玕於上年秋冬間面委迤東迤西二道分派親信家人赴經管關稅各府抽收稅務謀提用多餘銀兩各關苦具擾累又據滇藩司陳孝昇稟稱本年辦理維西威遠兩路軍需將擴充兵

休

餉之銅本銀及捐監銀共三十五萬餘兩一併奏
 供恐涉牽混冒銷又聞人傳說道員薩榮安總理
 兵餉俱以九十兩作一百兩支費等款本年驟匪
 等滋事琅玕帶兵勦捕辦至半年有餘閱其屢次
 奏報情形朕亦以其迹涉誇張屢經訓諭該督就
 案辦結速回省城至孫曰秉本係年老藩司陳孝
 昇朕素未見其人聞其向來聲名亦屬平常此次
 初彭齡奏各款如果確實自當立行懲辦但閱
 摺內如琅玕提取開稅盈餘一款僅稱得自傳聞
朕嘗聽傳聞之言即更力總督之理也
 其所云分派親信家令前往各關之覆竟係琅玕家人抑係連
 東道西二道蒙人經琅玕偽奏其言云充公之覆究係作何動
 用有無支銷案據至陳孝昇所稟移挪銅本兵餉
 等項一款據稱恐從前盤驗時本係委員等扶同
 捏報此時不免藉名冒銷等語僅係懸揣之
 詞並未確有款証即薩榮安於總理兵餉
 時月九日支費亦稱得自傳聞說是所奏
 各款此時俱尚無確據未便即行究
 辦現已降旨令孫曰秉未京即派初彭齡前往雲
 南署理巡撫初彭齡接奉此旨著即馳赴滇省於

接印任事後將此次所奏各款詳志查明如果有
 確切憑據自當指實糾劾以便降旨辦理如所奏
 各款係傳聞之過或其中另有刑項情節亦當據
 實奏明候朕核辦此事初彭齡惟當虛衷確訪素
 公詳查不得以恭奏在先稍有迴護設琅玕等本
 無前項情弊無可指證該署撫或因伊係原奏之
 人意存刻覈必欲文致其罪務實前言經朕察出
 亦不能輕為寬貸也將此由四百里諭令知之欽
 此遵

旨寄信前來

948 軍機大臣 字寄

署廣東巡撫瑚 嘉慶七年十月二十六日奉
 上諭本日遞到瑚圖禮五百里奏報朕以為必係馳
 奏辦理永安縣會匪情形迨披閱二摺一條派員
 護送農耐使臣前赴粵西一條拏獲海洋盜犯密
 明辦理均係尋常事件殊不可解本年粵東一路
 驛站因辦博羅會匪一案吉慶等屢用急進馳奏
 較之川楚陝用兵省分奏報尤繁沿途馬力已形

廢乏且易駭人聽聞節經降旨嚴飭議處此次瑚
圖禮由驛奏報之摺尤屬無謂即使農耐請封使
臣已到先應奏聞亦祇須用四百里馳遞况請封
使臣並未到粵瑚圖禮不過飭令農耐前次貢使前
往粵西行走即奏報稍遲有何不可且前日瑚圖
禮所奏勦捕永安會匪一事尚未辨結既由驛具
摺自應將現在查辦情形詳悉奏明即使辦理已
畢地方寧謐亦應附片具奏以慰厯念乃摺內並
無一字提及何不曉事體輕重若此瑚圖禮著傳
旨申飭至農耐請封一事前此原令瑚圖禮先行
初次使臣送往廣西一同行走嗣因博羅會匪業
已辦竣復據孫玉達奏稱請俟農耐請封使臣到
時送至廣東三水地方會同該國初次使臣一同
進京並知照瑚圖禮一體辦理等語已降旨諭令
該撫等遵照妥辦今瑚圖禮已將該使臣遵照前
旨送往廣西自係未經接奉續降諭旨計該使臣
日內已可到粵西自當即由彼行走如該國請封
使臣由鎮南關前來亦即在廣西會同取道進京
倘該國請封使臣仍由海道來至廣東亦祇可續

行送往廣西一同行走瑚圖禮不可因接奉後旨
又將鄭棟德等追回廣東致使臣等跋涉往還轉
多歧誤殊非體順外遠人之意俟吉慶報便將此傳
諭瑚圖禮並諭孫玉達知之欽此遵
旨寄信前來

949 嘉慶七年十月二十六日奉

旨此案潤祥於伊族叔領催雙寧告知官學生楊
潤許賦轉求揀選外郎雙寧已當面斥絕一事自
行奏出尚屬可嘉所有官學生楊潤領催雙寧俱
著交刑部質審具奏欽此

950 嘉慶七年十月二十六日奉

旨這所奏玩視要案改易傷痕克不職之善定縣
知縣武廷選著革職其徇庇率轉之貴陽府知府
劉雲著解任均交福慶提同案內犯証嚴審定擬
具奏該部知道欽此

951 嘉慶七年十月二十六日奉

旨李家言准其借補武清縣管河縣丞欽此

952 嘉慶七年十月二十六日內閣奉

上諭御史鄭敏行奏覈實揀選武舉一摺該御史於考選武舉之法不能周知直省千總額缺營缺多而銜缺少會試下第武舉別雙單好字者俱不甚多若以雙單好者列為一二等以營千總選用而以其餘弓馬技勇合式者俱列為三等以銜千總選用則銜缺本少注選之人又多必至得缺無期於兵部選法殊覺有碍嗣後著兵部仍照定例請派大並^臣考試各武舉內原挑在雙好單好者俱列為一二等以營千總注選此外有材技較優者亦准其揀選列入二等選用營缺其次列為三等者以銜千總選用庶人材得及時自効而銓法亦無壅滯該部知道摺併發欽此

953 臣等現詢兵部每次揀選武舉內雙好單好者人數本不及半再扣除舊科曾經揀選之人若專以雙好者註選營千總缺未免人數太少即將單好者全行歸入仍屬不敷且其餘數百人俱註選銜千總得缺無期是以擬寫

諭旨內令派考大臣將雙好單好者俱列為一二等

註選營缺其餘再照例揀選分別等第選用是
否有當伏候

訓示謹

奏

十月二十六日

954 臣等遵

旨傳知戶部並倉場衙門各派司員攜帶檔冊將嘉慶八年八月起至九年四月止支放米數連日詳細對算據戶部單開各項俸甲米並麥石核放及恩豐內倉薊易兵糧等項共應支放米二百五十六萬餘石當交倉場衙門按款核算均屬相符^且等核對達慶等原奏二百八十餘萬石之數何以較^少二十餘萬石向該衙門司員等詢問據稱倉場總督所奏之數祇係約畧計算並未按款細核又將氣頭廠底遞減數目約畧開除是以較多等語再據戶部查稱來年新漕除各省業經蠲免外抵通者約計二百八十

萬石經戶部倉場衙門將俸餉等項按月核算均稱放至九年四月止連年例麥石抵放計算共約餘米四十餘萬石開放五月分尚屬有餘等語查現存米石及來年抵通新漕照常計算足敷九年四五月間支放現又欽奉

諭旨令鐵保將行月耗米等二十餘萬石解通更屬寬餘俟九年分新漕屆期抵通儘可接濟無誤至前次達慶等奏稱來年抵通米石恐不敷九年三四月支放實屬核算錯誤謹

奏

十月二十六日

955 嘉慶七年十月二十七日內閣奉

上諭吏部議殿御史王瑤臺條陳察核部員等款一摺已依議行矣向來分部學習及捐納行走人員於三年期滿後該堂官秉公覈核分別奏留及改補歸選原有舊定章程該御史所請凡遇學習人員報滿時宜令各堂官詳加甄別不得一概奏留之慮尚屬申明舊例邇來各部院衙門奏留者本覺

米

太多自應核寔分別辦理其虧稱未補寔缺主事請以散州同知保送一節官員陞遷調補俱以實俸核計豈有未經得缺遽行選用丞牧之理所奏已不可行至欲將京察未經記名人員概請選用簡缺道府尤屬非是京察為激揚大典並非專為保舉外任而設其一等人員內經朕察看才具有宜於外任者酌量記名簡放其內留亦准其加級註冊原不必全予記名外用若如該御史所請以未經記名之員均得外用則奔競之徒必致百計鑽營希冀保列一等即未蒙記名一經選用簡缺到任後又可營求調繁顯開俸進之門且外省應行陞用人員必因此多有抑滯實於銓政有碍該御史必係受人慫恿率行陳奏冒昧已甚著將序嚴緣由通諭知之欽此

956 軍機大臣 字寄

協辦大學士兩廣總督吉 嘉慶七年十月二
十七日奉
上諭本日吉慶由六百里奏報勦撫永安匪徒並打

殊

仗得勝情形一摺此事前據吉慶奏永安匪徒有數千人在大鍾嶺地方抗拒官兵今摺內稱官專龍曾清浩等陸續糾夥祇共有數百人等語以數千之衆今忽減為數百可見吉慶前奏竟係驚惶失措朕早經看出批諭今果不出所料彼時吉慶並未親赴永安僅據遊擊胡俊鴻稟報賊數千即冒昧入奏並檄調江西官兵奏請揀發帶兵各員頌形焦急之狀此次打仗殺賊亦屬無多即稱易於勤捕不致蔓延是吉慶胸中毫無把握若照伊前奏准其檄調江西官兵揀選帶兵之員紛紛發往成何事体乎且伊在朕前陳奏尚如此張皇則在該處督辦一切勤捕事宜更不知如何紛擾總督為統轄大員既不能持以鎮靜地方員弁尚何所稟承必致妄多誅戮不可問矣通此等事因應迅速辦理據獲犯供稱官專龍曾清浩等於本年四月十五日糾約拜會等語若彼時地方官即能留心稽察于伊等糾約之初將為首者迅速訪拏餘黨自必潛行解散何至釀成事端勞師動衆今據稱天字嶂屯聚匪徒有三四千人看來亦屬不確此次該督奏始

斬百數十名現在賊夥已投出千餘人此外屯聚者大半脅從之人其中老幼亦必不少何致匪徒即有三四千之多至首逆曾鬼六官專龍曾清浩三人為起事要犯必當嚴拏務獲其餘原不必多有株連吉慶應一面集兵剿捕一面于投首千餘人中擇其明白能事者遣令仍回賊寨轉相勸諭伊夥黨中如能縛獻首犯三人固屬甚善否則告以我等自行投首即俱蒙免罪凡係脅從入夥之人與其陷身賊隊將來大兵搜剿駢首就戮何如及早投出必邀寬宥仍得各安生業如此惶切開導匪黨自必聞風解散即所遣之人去而不返亦無閑緊要總之首犯既獲其餘夥黨皆可不煩兵力廣為安撫吉慶當相機速辦不可再有遲悞再聞該處兵役即有入會之人伊等查拏時或將全會釋放轉致波及無辜此等情形自所不免並著吉慶飭屬留心不可盡聽兵役之言濫殺多人激成事端為要此時吉慶已於十三日起程赴永安督捕當會同孫全謀妥速籌辦勿任滋蔓至書敬前因伊係該省將軍安坐省城是以降旨飭諭今已帶兵五

百名前抵惠州著吉慶酌量情形如可無需此項兵力即令其仍行帶回書敬年力就衰恐尚被帶兵亦不能得力也此後奏報勒辦會匪情形祇准用五百里馳遞即全行轉竣亦祇應用六百里不得輕填加緊字樣又另片奏接到阮福映遞呈稟文各情節聲叙亦未明晰前此該國長遣令使臣鄭懷德等呈請進貢節絀降旨諭令吉慶等傳諭該國長將稱兵得國納款輸誠各緣由虔修表文另行遣使賫到再為呈奏吉慶等自應早為宣示今阮福映具稟請問進止如何或係該督前此竟未照會此次自應將前旨詳悉諭知俾有遵循該國係新附外藩若不將往其遣使納款各情節一宣諭恐該國長轉多疑慮著吉慶即行照會該國長以從前阮光縱窩苗內地盜犯表裏為奸該國長節次擒捕道盜具見惻忱業已奏聞大皇帝深為獎許俟該國表文續到優加恩賚今初次使臣鄭懷德等已在粵西守候該國續遣使臣到時如有懇請表文即可同前使一路進京仰邀天眷該督即迅速傳知該國長敬謹遵照可也將此

由五百里諭令知之欵此遵
旨寄信前來

957 嘉慶七年十月二十八日內閣奉

上諭左都御史員缺著恭阿拉補授達慶現穿父孝其倉場侍郎事務著吉綸署理吉綸所管錢法堂事務著蘇楞額署理欵此

958 嘉慶七年十月二十八日內閣奉

上諭前因吳俊在廣東臬司任內得受贓罰銀兩革職解京治罪昨據刑部審明照律問擬滿徒但念此項贓罰銀兩係粵東相沿陋規並非始自吳俊任內且伊所得銀兩多為地方辦公之用尚無婪索入己情事吳俊在粵東服官有年於該省地方情形熟悉著加恩免其充徒自備資斧前往廣東交與吉慶等差遣委用効力贖罪欵此

959 旨將革職山東布政使吳俊傳到宣示

恩旨赫吳俊伏地碰頭流涕跪稱吳俊因在粵東臬

司任內收受賍罰銀兩荷蒙

聖主恩慈不加重謹僅予滿徒已屬格外
矜全今又蒙

恩上加恩免其徒罪並予自効之路感激媿勵莫知

所云現在趕緊料理起身俟到粵後惟有信大

天良於地方緝捕撫輯事宜隨同吉慶等盡心

經理以期仰報再造

鴻慈不敢因革職人員稍存諉卸等語謹

奏

十月二十八日

960 軍機大臣 字寄

直隸總督顏 嘉慶七年十月二十八日奉

上諭顏檢覆奏查勘明陵工程一摺據另片稱明陵

殿宇雖尚完好然牆垣傾地處甚多若一律修理

驟難趕辦等語此時天氣已寒難以施工且該省

尚需籌款恐難辦理亦不無拮据顏檢即飭知委員

等停止勘辦俟一二年後再降旨前往朕明春詠

吉登鑾由湯山前往恭謁

東陵後駐蹕盤山再由南苑回京所有應行預備之處

該督妥協辦理可也將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

961 嘉慶七年十月二十九日內閣奉

上諭近來臣工等遇有派令兼署部務事務或其摺

謝恩或僅在道旁叩頭不復繕摺陳謝即如弘勳

於昨日派署都統成寬玉麟奏署副都統弘勳成寬

玉麟俱經叩頭而^{其摺}具摺謝恩者祇成寬玉麟二人弘勳竟

未遑摺前日御前侍衛阿哈保乾清門侍衛富勒

渾同係補授公中佐領伊二人均未叩頭謝恩而

富勒渾曾^{其摺}經奏謝阿哈保並未具摺似此任意奏

差殊屬非體前經降旨令滿漢文武大臣有派令

兼署部務事務僅在一月以內者不必專摺謝恩

此時弘勳所署額勒登保都統之缺雖大功指日

告歲尚需經理善後事宜豈一月之內即能回京

交卸阿哈保係簡放實缺更非署事可比乃均未

奏謝實屬不合弘勳阿哈保俱著傳旨申飭嗣後

滿漢文武大臣仍遵前旨於署缺在一月以外者

均具摺陳謝以符體制欽此

殊殊

962 恭查嘉慶五年七月內曾奉

上諭派令文武大臣兼署部旗事務僅在一月以內者著不必專摺謝恩是以日等於本日所奉

諭旨內仍遵前

旨令文武滿漢大臣如署缺在一月以外者俱專摺

奏謝

天恩以昭畫一並擬繕清漢合璧

諭旨進

呈以便通行滿漢大臣一體遵照謹

奏

十月二十九日

963 嘉慶七年十月二十九日奉

旨此案已革恩騎尉百寧前赴香山探親未遇在雙

全舖管看伊祖墳唐八家住歇嗣因患病令唐八

進城報信唐八未經赴百寧家告知該佐領等以

百寧出外無踪恐係私逃隨呈明都統將百寧奏

請革職適百寧即於是日投回咨送到部百寧出

城探親寔因患病未能回家並非托故私出且即

在伊墳園內住宿本可無須向該旗告假惟因送信之唐八不即到伊家告知而該佐領等又未查詢明確率行報逃辦理本覺過當今據刑部訊明百寧委無私逃情事其世襲恩騎尉^著加恩賞還所有文部察議之處亦著寬免至唐八不即赴城報信固有不合但年逾八十並著從寬免議嗣後各該旗遇有報逃之案俱當詳細訪查本家及墳園果無著落方行具報不得似此率意奏章致有屈抑餘依議欽此

964 軍機大臣 字寄

盛京吉林將軍 直隸河南山東江蘇浙江各督

撫 嘉慶七年十一月初二日奉

上諭秀林奏逆犯崔用旺陳武康王紅義在配脫逃一摺崔用旺等俱係穩從行劫案內免死減等之犯膽敢在配脫逃情殊可惡其脫逃後或潛回本籍或在途遇過均未定著該將軍督撫等一體飭屬嚴密查拿毋任遠颺漏網所有各該犯年貌清單一併抄寄將此各諭令知之欽此遵旨寄信前來

965 嘉慶七年十一月初二日奉

旨前任福寧鎮總兵劉景昌現已病痊著交軍機處記名遇有提兵缺出即行提奏欽此

966 軍機大臣 字寄

兩廣總督吉 嘉慶七年十一月初三日奉

工諭吉慶奏賊首曾清浩等及附近義容墟八寨賊匪投誠一摺所奏全不明晰據稱匪首曾清浩帶

領八寨賊匪及脅從者四千餘人來營投首並繳

器械前來當將匪首曾清浩等留營其餘分別安

插等語該匪等既被官兵攻勦情急投誠吉慶自

應向該匪訊取供詞將賊匪及脅從人數繳出器

械等件分別查明並將如何安插之處詳悉具奏

候旨定奪乃率以數語籠統聲叙究竟曾清浩如

何投首伊帶出四千餘人是否均經從逆各有器

械何以遽肯投出所繳器械共若干件均未叙明

且所稱將曾清浩等留營一語更不可解該匪等

聚眾謀逆令畏懼投出不過貸其一死足矣乃該

督輒將伊等留營豈欲藉為差遣之用乎抑竟令

該匪率其夥黨自立為一營乎至所稱孫全謀派

委將弁搜山拏獲偽稱大元帥薛文勝薛成甫偽

官共二十三名分別審訊其餘匪夥四百五十四

名均經正法等語薛文勝等偽稱元帥在賊中自

較兇悍經官兵搜山時曾否抗拒打仗官兵如何

拏獲就獲之後自應一一詳悉訊供其匪夥四百

五十餘人曾否抗拒官兵亦應詳訊明確乃僅以

均經正法一語了事難保此數百人內竟無有濫

殊

殊

殊

殺之人朕將從何批示耶又據稱天字嶂及附近永安等處尚有官粵瓏賴東保兩起共有二三千人等語前據該督奏稱博羅縣匪徒曾鬼六勾結永安匪徒官粵瓏等糾眾滋事又稱官粵瓏曾清浩於本年四月內糾夥數百人等語元既同起事何以一降不降豈不應其詳降耶本日摺內並未將曾鬼六下落提及其賴東保一起前奏未有其人又係何處匪犯何以又共有二三千人之多合之投首之四十餘人正法之四百餘人統計幾及萬人何以該督前次摺內祇稱數千數後稱百豈非自相矛盾耶至另片奏將天字嶂攻得後即飛咨江西將所調兵二千名停止等語可見吉慶前次奏調江西兵實屬張皇失措今伊亦自覺錯誤是以復奏請停止幸而前次該督奏到時朕即降止不准撤調否則忽調忽止成何事體且吉慶前奏並請簡發副參等十員赴粵帶兵朕亦未經准行今伊摺內並未叙及帶兵是否需人若朕前次即照所請簡員前往豈不徒駭聽聞乎再書敬昨已奏到帶領滿兵前往協剿此時業經到彼而吉慶摺內亦未將書敬在何處剿捕是否尚需滿兵幫

殊

剿或令其帶回省城之處附摺聲叙至廣西兵曾否到營或業已停調並無一字提及疎畧已極吉慶辦理此案以來屢次摺奏前後不相符合種種張皇冒昧草率糊塗不一而足朕不科其全不懂事一至於此著傳旨嚴行申飭現已將吉慶革去協辦大學士仍暫留兩廣總督之任該督當痛自愧奮將永安餘匪妥速辦竣靖地方果能經理無悞勉贖前愆尚可姑留原任倘再漫無把握措置失宜必當一併治罪不能再為寬貸並著吉慶將訊出曾清浩供詞現在如何辦理及投出之四千人作何安置之處及本日諭旨所屬各情第一詳晰具奏勿再含混干咎將此由五百里諭令知之欽此遵旨寄信前來

967 軍機大臣 字寄

雲貴總督張 嘉慶七年十一月初三日奉

上諭琅玕奏遵旨轉飭提鎮辦理維西沿江一帶逃竄傑匪並馳抵威遠設法查拿傑匪首犯各摺覽奏俱悉滇省沿邊一帶夷眾倘有搶掠等事本屬

夷地常情即人數稍衆一經懾以兵威再懸膏腴
 緣擒獲首犯即可完局琅玕接奉前旨已起程回
 省料理地方公事早應如此辦理其所稱於維西
 江內留憲兵三千名增卡堵禦之處仍未免太多
 恒卡網逃竄江外未必能勾結游擾此三千留防
 兵內尚可酌量裁減即威遠把一弁一帶據稱探
 匪自逐出江外以後數月來地方極為寧謐現當
 收獲之時該匪並無竄入搶掠之事是添設防兵
 亦屬無謂况沿江岔口水土惡劣瘴氣盛時官兵
 既不能存駐目下增添兵練卡座徒多糜費糧餉
 且官兵一日不撤則夷人亦必心生疑懼聚眾防
 探轉於腦線擒拏之事無益刻下四處要犯惟恒
 乍網楊金羅小二三名未獲其羅小二一犯未知
 曾否擊斃琅玕惟當持以鎮靜時刻留意督催該
 提鎮道將等上緊設法查拏務將首犯弋獲勿任
 漏網以期早靖邊疆為要將此諭令知之欽此遵
 旨寄信前來

968 嘉慶七年十一月初三日內閣奉

上諭陸有仁外任有年辦理地方事件俱能認真出
 力前歲簡放陝西巡撫於軍需糧餉經理無悞又
 摺節者支用不致冒濫前據奏患病情形朕念其
 因勞成疾即令回省調養冀其速就痊癒俟大功
 告厥後尚當溥沛恩施茲聞溘逝深為軫惜所有
 應得卹典著該部察例具奏其任內降罰處分悉
 予開復伊嗣子廕生陸繼祖著加恩俟服闋後以
 主事即用嗣子陸冠宗俟及歲時給咨送部引見
 再降是旨欽此

969 嘉慶七年十一月初三日內閣奉

上諭陝西巡撫員缺著祖之望調補即馳驛前赴新
 任陸什布著加恩以三品頂戴補授山東巡撫伊
 甫經陞見亦不必來京請訓其山東布政使員缺
 著陳鍾琛補授仍帶革職留任所遺山東按察使
 員缺著金光梯補授欽此

970 嘉慶七年十一月初三日內閣奉

上諭吉慶辦理博羅會匪一案節次奏報種種張皇冒昧糊塗草率不勝恇贊論靡之任吉慶著革去協辦大學士仍暫留兩廣總督以觀後效欽此

971 嘉慶七年十一月初三日內閣奉

上諭琅玕奏遵旨查明勒辦威遠探匪在事出力人員懇請加恩一摺除總兵書成業經加恩議叙外迺南道春貴思茅同知王述炳署遊擊都司王天賦千總李春蔭陳士林猛班土千總周朝經均著加恩交部議叙該部知道摺併發欽此

972 嘉慶七年十一月初三日內閣奉

上諭孫曰東奏滇省鄧川州地方前因大雨連綿山水下注高阜田禾並無傷損但依窪處所間被淹浸等語該州被水地方附近田廬沖沒秋成失望民力不無拮据除該州本年除公等銀前於維西軍務業內業經加恩蠲免十分之三亦其餘應徵七分銀一百兩六錢七分零並全徵秋糧未一百一

十石二斗零著再加恩全行豁免俾閭閻生計並臻寬裕以示朕軫念災區至意該部知道欽此

973 嘉慶七年十一月初三日奉

旨鍾德溥陳錄李鶴年呂燮鮑圻俱著准其捐復張溥路元錫韓慎謹爾昌俱不准捐復欽此

974 軍機大臣 字寄

欽差刑部侍郎姜 內閣學士那 嘉慶七年十一

月初三日奉

上諭前令姜晟那彥成馳赴江西查審張誠基冒功邀恩一案現已將次到彼此事現有該處官吏民人可訊無難查問得實如訊係劉士珍所控虛誣張誠基自應留任姜晟即來京復命若審明冒功屬實即將張誠基奏請革職治罪姜晟遵照前旨暫署江西巡撫另委委員押解張誠基進京現派那彥成馳赴粵東有密查事件那彥成接奉後即馳赴前往所有江西查審之案交姜晟一人辦理可也將此由五百諭令知之欽此遵

旨寄信前來

欽差內閣學士那 嘉慶七年十一月初三日奉

上諭粵東惠州府屬歸善地方有添弟會滋事一案

先於八月二十二日吉慶奏到行抵該處陸續等

獲首夥四十餘名投出脅從者一百九十餘名分

別辦理並稱會匪等聞總督到彼即紛紛解散投

首地方業已寧謐二十九日奏到摺內忽稱歸善

博羅共有會匪一二萬人歸善雖經安貼而博羅

羊屎山內匪徒藏匿甚多此二摺所叙情形互異

該會匪等既經製有器械糾眾搶掠何以一聞吉

慶前撫歸善並不抗拒即肯自行投首情節已覺

可疑嗣後所奏各摺始則稱東莞增城龍門等四

處均有匪徒既復添入河源歸善石龍三處皆須

派兵防堵而湖圍禮所奏東莞等六處並無會匪

滋事不過預為防範吉慶紛派兵設卡轉令該

處百姓驚疑更屬錯悞及至攻克羊屎山羅漢營

賊巢後據稱賊匪共有萬餘擒斬者僅止三千餘

人其餘賊眾並未聲明竄往何處而東莞等處賊

匪作何辦理亦未提及轉稱羅浮山中亦有匪徒

殊

滋擾是否即係羊屎山內逸出之賊始終未經叙

明迨攻克羅浮山擊獲首逆陳爛屐四後突于十

月二十一日奏到博羅匪徒曾鬼六勾結永安匪

曾清浩官粵瓏茅于大鐘嶺地方擁出數千人抗

拒官兵吉慶遂請調江西兵二千名請簡發副恭

等官十員赴粵帶兵而二十七日奏到之摺祇稱

永安匪徒曾清浩等陸續糾夥共有數百人忽多

忽少自相矛盾本日奏到摺內又稱曾清浩率領

匪夥投出四千餘人此四千餘人作何安置之處並未及官粵瓏茅保兩起尚有二

三千人合計賊數又復增多且於曾鬼六一犯並

未提及下落而所稱賴東保一起前奏未見其名

並請停止前調江西之兵種種歧異不面呈廣東惠潮一

帶添弟會匪各處皆有吉慶至歸善地方驟爾調

兵查李張皇失措屢次攻得賊巢未將獲賊訊

明寔在供詞遽行誅戮請善博羅永安三處前後

正法者幾及數千人其中必多濫殺且三月以來

奏到各摺概未將因何起事緣由一一聲叙而於

官兵忽調忽撤漫無把握種種冒昧糊塗而奏報

之摺不過寥寥數語草率已極現已將伊革去協

辦大學士暫留提督此案始末緣由必當查訊明
確那彥成抵粵後即將指出吉慶陳奏不符之處
容為查訪務將此案究竟因何起衅是否吉慶濫
殺激變據實密陳不必心存避嫌之見以恭勅吉
慶後伊即可希冀簡任兩廣總督稍涉含糊亦不
得因吉慶現已革去協辦大學士有意苛求提督
自矢天良秉公查辦那彥成到彼不可稍有洩漏
如到粵時會匪尚未辦竣祇稱奉旨前來幫辦搜
剿如業已辦完即稱奉命赴粵與同經理善後無
經事宜務當留心慎密將此由五百里密諭知之
欽此遵

旨寄信前來

976 軍機大臣 字寄

陝西巡撫祖 嘉慶七年十一月初四日奉
上諭昨已降旨將祖之望調任陝西巡撫并諭令不
必來京請訓該省現有應辦軍需及一切地方善
後事宜均關緊要祖之望接奉此旨即將山東巡
撫印務交倭什布接收任事伊即迅速由驛馳赴

陝西新任認真辦理以副委任將此諭令知之欽
此遵

旨寄信前來

977 嘉慶七年十一月初四日内閣奉

上諭祿康前因陡發腿疾懇請賞假十日調治當即
允准茲復據奏稱近日腿疾尚未減除周身骨節
疼痛恐十日之內難以就愈懇將伊所管戶部尚
書廂藍旗漢軍都統步軍統領事務派員署理等語
祿康所患祇係末疾在家靜養尚不難調愈所管
部旗事件儘可照常閱看俟所患稍愈再補行畫
稿其戶部尚書並都統事務不必派人署理惟現
屆冬令步軍統領有稽查京城內外之責關係緊
要所有步軍統領事務着恭阿拉暫行署理欽此

978 軍機大臣 字寄

湖南巡撫高 嘉慶七年十一月初四日奉
上諭前因初彭齡奏稱移駐湖南永綏廳協一事楚
苗不願官兵移撤欲行控阻等情是以特降諭旨
令楚苗兩省督撫悉心會議具奏想高杞等尚未

據奉此旨前據高祀奏現將該廳所有兵民及軍
裝火藥等項次第移出逐程轉運苗弁等無不踴
躍出力遠近苗情俱甚寧信等語看此情形苗民
於移駐一事均屬樂從此時該廳既已內移若再
有吏張特屬不成事體該撫惟當查照奏定章程
妥為經理以期苗民永遠相安立移撤官兵經由
燕境找點苗有無不便之處仍著會同燕撫詳悉
具奏將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

979 軍機大臣 字寄

江西巡撫張 嘉慶七年十一月初四日奉

上諭張誠基奏調兵赴粵協勦一摺前於十月二十

一日經旨慶具奏咨調江西兵二十名赴粵當即
降旨諭知張誠基以粵省餘匪無難迅速肅清該
撫接到旨慶來咨祇須挑備二十名候旨調撥不
必遽行赴粵張誠基于二十四日發摺請旨尚未
接奉此旨昨據旨慶奏廣東匪首曾清浩等率領
匪徒四千餘人來營投首其餘未淨形勢尚不可指

日掃除五有飛渡江西將所調兵二十名停止之
語是粵省可以無虞此項兵丁著張誠基即行停
止調遣各令歸伍並該省與粵東邊界毗連恐有
匪徒被粵省搜捕緊急乘間逃至江西地界惟當
督飭文武員弁嚴密稽查巡緝亦不必調派兵丁
前往防堵轉致人心疑懼張誠基閱兵事畢即行
回省可也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

980 嘉慶七年十一月初四日內閣奉

上諭孫曰秉奏徽州府屬之新興州被水情形一摺

據稱該州地處低窪本年夏間山水驟發以致滿
家屯等處田廬俱被冲淹等語該州被水地處雖
經該撫量加撫卹其衝倒房屋墻垣亦俱照例給
予修葺銀兩小民已無虞矣所但秋成業已無望
若將應徵條糧照舊徵收民力未免拮据着加恩
將新興州本年被淹田畝應徵秋糧米三百一十
八石九斗三升零條公銀二百八十六兩零均全
行豁免以示朕軫念災區至意該部知道欽此

981 本月初四日兵部將保舉堪勝陸路總兵之甘肅安西協副將德成額一員帶領引

見奉
旨交軍機處記名

982 軍機大臣 字寄

兩廣總督善嘉慶七年十一月初六日奉

上諭吉慶奏永安首匪官粵瓏賴東保率眾投誠一摺此次官粵瓏賴東保率領夥匪一千餘人來營投首據吉慶稱現擬將首匪曾清浩等三名酌量地方妥為安插其夥匪及脅從者查明安插釋寧等語曾清浩等胆敢糾眾滋事擾害地方抗拒官兵此等倡亂匪徒罪不容誅若經官兵擊獲應即請王命分別凌遲斬決即因曾清浩等係屬自行投首量予末減吉慶亦當認明情節將該犯等應得罪名定擬具奏候朕施恩豈有違請妥為安插之理試思尋常盜犯於緝獲後尚將為首者定擬斬決其在外把風者亦擬斬罪今曾清浩等謀為不軌更非盜案可比若但以其自首即予免罪並

妥為安插則不逞之後尚復何所畏懼且該犯等肆行焚掠各村墟均遭蹂躪如將該犯等赦免則受其荼毒者何辜况被擾地方百姓銜恨者多設遇該犯等安插到彼心懷報復豈不又滋事端乎其另舉開列各寨賊目陳有達等二十一各亦並未訊取口供及有無得受偽騙曾否抗拒官兵之處詳悉聲叙何從定為賊目耶前次吉慶奏擊獲博羅頭目等四百六十五名又擊獲義容山內夥匪四百五十四名均經正法而此次首犯起意謀逆其情罪較夥黨為尤重何得因其投首概請妥為安插再該犯等供稱於七月間起意糾結何以至九月滋事時遠有二三千人之多殊不可解又該督行抵義容即據官粵瓏等率領夥匪投誠似係不煩兵力望風偃伏而摺內稱官兵剿捕賊匪連獲賊仗及層層攻剿之語究於河處接辦仗如何得勝又未一一詳叙且官粵瓏等志夥來投則永安自己寧謐何以又稱防守縣城可保無虞且該縣既已無虞而塘田地方又稱尚有餘匪又係何人為首至該督與孫全謀酌商於永安縣城員

撤汛等四處分派官兵一千一百名巡防彈壓一節前此該督於博羅之派尾羅溪營等六處各分設兵五百名曾經降旨令其酌量抽撤今又於永安等處安設多名合之博羅所派防兵竟有四十餘名是否即係抽調博羅之兵前來分駐巡防抑又另為派撥吉慶久任封疆於辦理會匪毫無把握而本日奏報賊匪投誠又輕用六百里加緊急遞種種糊塗錯繆著傳旨嚴行申飭此時天字峰一帶業已肅清即有殘剩餘匪無難剋期殄滅該督將滿兵五百名令書敬帶回省城此一節所見尚是其江西兵二千名朕已不待吉慶奏撤早經降旨令張誠基停止調遣矣所有廣東現在征兵吉慶當察看情形陸續裁撤其曾兇六一犯係起事首逆必當嚴拏務獲毋任漏網並將曹清浩官粵瓏賴東保三犯及為從之陳有達一併審訊分別定擬具奏再前據吉慶奏等獲偽元帥薛文勝等二十三名現在管押鞫訊何以此次未結提及並著訊明附奏將此由五百里諭令知之欽此遵旨寄信前來

983 嘉慶七年十一月初六日內閣奉

上諭王德奏福建汀漳龍道員缺緊要有候補道員程國璽係奏明留閩浙二省遇缺即用之員堪以補授等語著照所請程國璽准其補授汀漳龍道欽此

984 嘉慶七年十一月初六日奉閣奉

上諭費淳等奏准徐道回日福患病未痊懇請解任就近調理並遠員陞署各款一摺准徐河務緊要該道病軀難以供職著照所請回日福准其解任就近調治俟病痊之日仍由江省遇有相當道員缺出奏請引見另候升補用其所遺准徐道缺據該督等奏稱准安府知府徐瑞久任河工勤能幹練每遇調辦搶險要工不辭勞瘁亦照所請以徐瑞陞署准徐道逾俟三年後再行送部引見其所遺准安府知府員缺著候補知府曹恒補授該部知道欽此

985 軍機大臣 字寄

浙江巡撫阮 嘉慶七年十一月初六日奉

上諭前任直隸總督陳大文於本年四月患病懇請
解任曾^嘗經准其回籍調理督撫大吏因病回籍朕
時為軫念伊等亦應仰體朕心將病狀隨時奏聞
乃迄今數月從未見陳大文差人來京齎遞奏摺
殊屬非是著阮元查明該督近日情形或尚在患病
或業經痊愈即行據定具奏將此諭令知之欽此
遵

旨寄信前來

986 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年十一月初六日奉

上諭前任福建巡撫汪志伊於上年冬間患病懇請
解任曾^嘗經准其回籍調理督撫大吏因病回籍朕
時為軫念伊等亦應仰體朕心將病狀隨時奏聞
乃迄今將及一載從未見汪志伊差人來京齎遞
奏摺殊屬非是著王汝璽查明該撫近日情形或
尚在患病或業已痊愈即行據實具奏將此諭令

知之欽此遵

旨寄信前來

987 軍機大臣 字寄

欽差內閣學士那 嘉慶七年十一月初六日奉

上諭前因吉慶勦辦歸善博羅永安會匪滋事一案
節次奏到各摺摠未將起事緣由詳晰聲叙且前
後陳奏多有不符之處特降旨令那彥成前赴粵
東密為查訪本日又據吉慶奏報內稱官兵勦賊
連次獲有勝仗義容墟首匪官粵龍賴東保率領
夥匪一千餘人來營投首天字嶂地方派令將弁
層層攻勦永安縣匪可保無虞惟塘田一帶尚有
餘匪未淨等語所奏仍不明晰官兵既稱得勝究
係何人帶兵在何處打仗首匪等既疑畏懼陸續
投出何以天字嶂地方又須官兵攻勦其如何攻
勦情形亦未陳明且永安已無賊匪何僅云縣城
可保無虞至塘田地方又係何處餘匪係何人為
首在彼潛匿其前次摺內所稱將偽元帥薛文勝
等二十三名分別審訊此時作何辦法又未提及

至現獲賊目陳有達等二十一人內有無得受傷封亦未叙明看此案始末緣由吉慶所奏多不確實該匪官粵瓏等既經蓄意謀逆聚集多人劫掠村庄豈有一聞官兵到彼並未接救即肯自行投首之理且該匪等雖經交出亦應將為首各犯按律重懲乃吉慶竟將投首之犯藥行妥為安插並不定擬罪名即所開供單亦經朕日前降旨飭責令其訊取確供詳晰具奏始行遵辦今據閱單內僅將賊首曾清浩官粵瓏賴東保三人問取供詞據供熱掠村庄謀逆顯然何以概行免罪且該犯曾清浩等供稱於七月間起意糾結何以至九月滋事時連有二三千人之多至各寨現已投誠賊目陳有達等僅開載名姓並未將如何投首及有何口供逐一陳奏種種糊塗紕繆定不可解吉慶係久任封疆之人不應如此或竟係吉慶始而飛皇欺變繼而有意消弭因將起釁緣由微醜粉飾皆未可知那彥成接奉此旨即迅速馳赴廣東將前後指出各情節秉公查辦現在會匪將次辦竣無須兵力勦捕那彥成到粵時祇稱奉旨前來會

審此案務將案內首夥各犯嚴訊明確應定擬者

按例定擬應安插者分別安插據實詳悉具奏不可稍有含糊瞻徇將此由五百里諭令知之欽此

連

旨寄信前來

988 軍機大臣 字寄

雲貴總督琅 雲南巡撫烏 嘉慶七年十一

月初七日奉

上諭本日烏大經奏江外野標復行渡江滋擾一摺

據稱標匪探知官兵已撤乘江水淺洄復行渡過

江勾結江內降標搶割稻穀劫奪牲畜守備鮑友

信帶兵前往遇賊陣亡經官兵奮勇擊斃二十餘

名現在相機堵剿等語維西一帶標匪前據琅玕

奏稱經官兵屢次痛剿之後業已畏懼乞降其首

逆恒乍緇一犯逃匿江外亦不難設法弋擒並留

兵二千名分派將弁於沿江扼要之處分別防堵

自應布置周密何至又有渡江滋擾之事該匪等

偷渡之處係何江岸何人汛地所謂防堵者何事

著琅玕即行查明據實奏奏其守備鮑友信陣亡

一節如賊匪偷渡之處本非該守備所轄汛地自應遵照硃批與同時陣亡兵丁一體咨部賜卹如即係該守備汛地則鮑友信疎防之罪甚重此時即遇賊陣亡亦祇可贖其應得之罪毋庸再行議卹所有此次查明陣亡兵丁照例咨部可也據匪係邊外野勇前次琅玕等即次痛加剝辦畏懼逃至江外此時官兵甫經裁撤即又偷渡過江肆其搶劫並將官弁兵丁傷害似此反覆無常豈不畏死若不大加懲創該匪何所忌憚著琅玕等即將前此奏撤各兵仍行截回嚴飭將備兵勇迅速剝辦俾知畏懼至琅玕前據奏報已回省城此時該匪等渡江滋擾自係前此辦理草率之故琅玕此時仍應轉回維西背同剝辦務臻完善此次渡江賊匪自仍係恒乍綱往來勾結該賊逆前因逃往江外難于捕拏今正可乘其偷渡過江之時設法擒獲琅玕等當家飭各將弁沿江堵截上緊搜擒以期必獲勿令仍行偷渡江外若將該首逆擒獲後其餘散匪望風奔潰自不難迅就戢事矣又據烏大經另片奏該提督現在酌調提標等營兵五百

名親赴巨甸搜剿等語該提督前往巨甸搜捕止帶兵五百名兵力尚覺不敷著再于就近各營內酌量添派帶往俾軍威威懾盛上緊辦竣為要將此由五百里諭令知之欽此遵旨寄信前來

989 嘉慶七年十一月初七日內閣奉

上諭吳熙光等奏現任松滋縣知縣沈堂係湖北臬司喬人傑子婦親允例應迴避等語沈堂前因軍務出力經德楞泰保奏以同知直隸州陞用茲懇請迴避著准其開缺遇有湖南省同知直隸州缺出儘先補用仍俟經手軍務完竣再飭赴任該部知道摺併發欽此

990 嘉慶七年十一月初七日奉

旨依議陳文在廣東臬司任內計九個月收受賊贖銀一千九百餘兩津貼公用核之向來每年奏准報銷二千二百兩之數尚未違逾至博羅縣監犯越獄一案經該府伊秉綬向陳大臬知陳文不即

按例恭辦固屬扶同拘隱但伊秉綬於此案僅止
草職陳文係屬臬司其咎充比知府較輕業經早
職免其治罪著加恩令其自備資斧前往湖廣交
與吳熊光差遣委用効力贖罪欽此

991 昨據

武英殿送到

欽定滿洲源流考二十部奏明文筆機處擬

賞日等謹擬開單進

呈恭候

欽定謹

奏

二阿哥

三阿哥

儀親王永璇

成親王永理

慶郡王永璘

定親王綿恩

榮郡王綿億

大學士保寧

慶柱

劉墉

董誥

協辦大學士朱珪

予告大學士王志

御前大臣拉旺多爾濟

軍機大臣劉權之

戴衢亨

德瑛

南書房彭元瑞

英和

趙秉冲

992 嘉慶七年十一月初八日內閣奉

上諭禮部等衙門奏陣亡官兵例應拊祀昭忠祠因
現在軍營陸續咨報人數衆多祠內所設牌位龕
座不敷安設請另為籌辦等語隨任官員兵丁等
為國宣勞捐軀天節我

皇祖世宗憲皇帝憫念忠勤特于雍正二年建立昭忠祠春秋從祀實屬酬庸曠典近來勦辦教匪已屆七年官兵等無不齊心敵愾其間効命疆場者亦復不少現當大功告成宜報祀酬勲風勵蓋節茲據禮部等衙門稱昭忠祠內配室兩廡不敷安設即另為添蓋祠宇亦事屬可行但念陣亡官兵等撤調各省者居多且有各處召募鄉勇非盡係八旗及順天府屬之人莫若于外省各府城內如闕帝廟城隍廟地址有可展拓者附祠從祀既足安妥忠魂令其各依故土又可使其鄉閭親屬共觀共聞互知感發亦足以昭激勸其應如何籌辦之之奏著大學士九卿妥議具奏欽此

993 臣慶 等謹

奏為請

旨事竊照向來

廟大祀 郊

皇上親詣行禮若齋戒期內恭遇

忌辰嘗奉

諭旨以

天

祖為重均御常服謹查正月初三日恭值

高宗純皇帝忌辰

皇上御青袍青褂今嘉慶八年正月初六日孟春時享

太廟齋戒三日係自初三日為始等伏思孟春時享

太廟向係

遣員恭代行禮原典

親詣行禮者不同但究在齋戒期內仰維

皇上尊

祖敬

宗為心以禮協義是日所

御服色似應量為區別等公同酌議嘉慶八年正

月初三日應請

皇上御藍袍青褂其陪祀及執事之王公大臣官員

穿貂褂紅青褂掛朝珠其無執事及不陪祀之

王公大臣官員等俱穿紅青褂不掛朝珠是否

有當伏候

皇上訓示遵行謹

奏

嘉慶七年十一月初八日奉

旨依議欽此

十一月初八日

994 嘉慶七年十一月初九日內閣奉

工諭本年五月內據廣東肇羅道孫燕翼奏報到任

指內夾片密陳博羅縣有監犯越獄旋經拏獲伊

見該縣劉嘉穎向臬司陳文鼎求陳文令其押回

審鞫不必通報人見陳文向藩司常齡說博羅縣

典史聲稱若恭伊一人伊即將全案和盤托出甚

為可惡藩司回說前感恩縣典史陳華因挾制工

司將他調烟瘴的現在出缺可即將該典史調往

示罰等語又稱粵東贓罰銀兩竟按州縣缺之大

小分派按季批解臬司以為出息陸任臬司吳俊

素日得此陋規及陸任山東藩司時又派賦罰以

作路費各等語朕當經親書密諭令吉慶瑚圖禮

確查覆奏嗣據該督撫奏明二案皆實有其事業

經督帶吳俊陳文等革職分別懲辦嗣於八月

間據吉慶等奏稱孫燕翼於委審鄭大牲翻控伊

子鄭梓蔭被學徒岑德勝等用藥毒死一案並不

秉公研鞠輒行詳請消釋又於陽江縣縣丞王辛

接訊交代短少未石向藩司代求寬免又將高明

縣緝犯脫逃一案向臬司央求免恭並於到任時

索取陋規等情請將孫燕翼革職審辦等語其密

陳夾片內有不避嫌怨之語彼時軍機大臣以吉

慶等或因孫燕翼係巡撫孫曰秉之子故有此語

而朕心早覺孫燕翼舉發越獄贓罰兩案或被吉

慶等知覺是以將不避嫌怨一語隱躍其詞迨至

瑚圖禮等密報此案除孫燕翼狗庇屬員短發修理衙署價

銀輕罪不議外即於鄭大牲誣告謀命故出流罪

一案按律罪祇總徒該撫以孫燕翼係巡撫大員

之子擬請發往伊犁効力贖罪內外問刑衙門審

辦案件俱應遵照本律問擬罪名不得率用從重

字樣早經降旨申諭今瑚圖禮於孫燕翼一案將

徒罪改擬伊犁顯係有意加重本日刑部具奏俱

照該撫所擬定案朕思孫燕翼之舉發博羅等案

因伊在任時有索取陋規等事被督撫查知恐其
參劾為先發制人之舉否則即係吉慶等知孫燕
翼有密陳一事挾嫌參劾從重問擬以為報復之
計二者必居一於此地方大吏具摺奏奏之果總
當據實持平若彼此各挾私心互相傾軋此風斷
不可長孫燕翼著瑚圖禮派員解京交軍機大臣
會同刑部詳細審訊另行定擬具奏餘著照刑部
所擬完結摺併發欽此

995 嘉慶七年十一月初九日內閣奉

上諭據順天府尹奏廣寧門普濟堂貧民數因上
年給賑寬裕就食者多今歲收成雖屬豐稔貧民
聚集如前人數比較往年增多等語普濟堂地方
為京城往來通衢今就食人數較多恐經費或有
不繼著加恩賞撥銀五十兩交順天府酌量生息
永遠作為經費以資接濟欽此

996 查上年捐賑銀兩除五城順天府支用外現在
內閣庫內計存貯銀五千二百八十餘兩其餘

工部等衙門分存銀一千九百四十餘兩錢八
百八十餘兩除現在奉

恩旨撥銀五十兩交順天府作為普濟堂經費外尚
存銀二千二百三十餘兩錢八百八十餘兩謹
分晰開單進

呈請

奉

十一月初九日

997 上年各衙門捐賑銀兩餘存款目

內閣存銀五千二百八十餘兩

工部存銀三百八十一兩

錢八百八十七兩

翰林院存銀五百五十一兩

都察院
太僕寺
共餘銀十五兩

太常寺存銀四百兩

國子監存銀六百十兩

以上各項現遵

旨撥給順天府經費銀五千兩尚存銀二千二百餘

兩錢八百餘兩

998 嘉慶七年十一月初十日內閣奉

上諭廣東肇慶府知府員缺著陳鴻漸補授欽此

999 嘉慶七年十一月初十日內閣奉

上諭本日綿謀等奏

裕陵聖德神功碑樓石料採運工價及純斤銀兩請援

各工二八加價之例核給一摺已交總管內務府

大臣等核議具奏矣上年因雨水較大食物昂貴

石作商人無負累曾准綿謀等將運工石料未

經到工者比照各工二八加價之例酌增錢糧此

係為一時積潦泥濘採運維艱是以暫行恩准而

彼時綿謀等摺內即未將加價一節聲明何日停

止本年夏秋雨水調勻非如上年霖潦可比茲綿

謀等又以地土潮濕載重道軌行車員累請加石

料採運工價並純斤銀兩工程例價自有定額若

以此逐年遞加並無限制將何所底止凡既加則不

能再遞加稱今冬程運明春暨立即可告成等語明知

裕陵聖德神功碑樓事關重大朕必亟恩瞻仰早望告

成故為此奏以冀必邀恩准即綿謀等因工程緊

要實有必須加增之處亦當親往確勘再行奏請

試思萬年吉地工程前派汪承霈范建豐顧勒布

管理伊三人尚輪流前往不時查察今

裕陵聖德神功碑樓較之萬年吉地尤應慎重何以綿

謀等於查看則並未親往於工價則屢請加增在

伊等未必於此中有意浮開莫圖沾潤亦斷不能

出此而監督等員則難保無此種情弊如內米指珠

到工即成款後用故智請共信工員懲惡冒昧奏請殊屬非是均著傳旨申飭

綿謀本非內廷行走諸王又不兼管旗務著於一

二日內即行收拾起程前赴

裕陵常川在彼督辦俟工竣再行回京綿億緞布各有

應管事務亦著輪替前往隨時查察以昭敬慎欽

此

1000 嘉慶七年十一月初十日內閣奉

上諭台費蔭奏查勘園場以外奴克齊堪等處店座

一摺據稱此項店座係屬通衢若概行擇逐於行

旅殊有未便惟眾店戶內有曾經未案治罪之素

祥德肥弟素福德原開之德隆店尚存應行折令

其拆毀等語上年審辦袁祥德等私入園場偷砍木植一案因袁福德並未知情是以未將伊一體治罪此時查勘店座袁福德所開之店原可聽其開設若查出袁福德係知情忌其容留匪徒情事亦祇須將袁福德驅逐給他人開設何必將該處店房竟行拆毀乎至所稱奴克齊堪一帶應設立保甲諭令該店民等隨同嚴拏竊匪之處自應行知口北道妥為辦理但近年拏獲私入園場各犯多係該兵丁等得錢賣放惟在該管副都統等飭令員弁隨時嚴密稽查卡倫及附近居住之兵勿任伊等婪索錢文私行偷放以杜藥源欽此

1001 嘉慶七年十一月初十日內閣奉

上諭馬慧裕奏查明軍營撤回之原配河南省蒙古遣犯拍勒泰等二十一名犯罪事由開單請旨一摺此項隨征蒙古遣犯出力數年自應量予矜恤且該遣犯等原犯罪名亦僅止尋常偷竊之案所有拍勒泰等二十名俱著加恩釋放派送來京即由京送回原遊牧處其先經脫逃之吹勒黨即車

爾登一名仍著該撫照例緝拏俟獲犯時奏明請旨該部知道摺單併發欽此

1002 嘉慶七年十一月初十日奉

旨這所奏交代逾限虧缺不完之捐陞知州前任太平縣知縣杜開元於應交款項至七千餘兩之多延不完解該員既有捐陞知州何以應交銀兩不能完解明係即以庫項自行報捐不可不澈底根究杜開元著即革職交該撫提同應訊人証嚴審定擬具奏欽此

十四日撤回

1003 嘉慶七年十一月十一日內閣奉

上諭四川阜和協副將員缺著何君佐補授欽此

1004 嘉慶七年十一月十二日內閣奉

上諭琅玕履奏黔省征兵賞銀並勸辦青苗軍需用欸一摺琅玕前任黔撫時孫文煥將征兵賞項領而未發那移冒銷既經兵婦趙李氏等先後具控琅玕即應據寔奏辦乃祇以庫項不敷咨請部撥有案率行完結此即係琅玕有心迴護至青苗軍

需動用銀一萬五千九百餘兩曾議於巡撫司道
養廉內分別指補今復自請賠繳一節軍需支用
自應查明寔用數目按款報銷從前勦辦青苗何
止動款一萬五千九百餘兩若果係寔用何以前
派司道各員捐補經又自認賠交著交戶部詳查
此一萬五千九百餘兩係何款項據寔具奏所有
琅玕自請嚴議及賠繳銀兩之處均俟查明後再
降諭旨摺併發欽此

1005 軍機大臣 字寄

欽差兵部侍郎那 嘉慶七年十一月十二日奉

上諭本日嘗淳吳璥奏唐家灣引河現在趕築挑水
堤挑位溜勢大局已無妨礙東西兩堤共築成三
十二丈金門尚存二十五丈水深三丈餘尺復於
大堤之下添築二堤以資掣托約計本月望間即
可竣工等語那彥寶自前月二十五日派赴唐家
灣工次計此時當已到彼該處工程現據嘗淳等
奏望前可以竣工如此旨到時口門業經堵合那
彥寶當詳細履勘溜勢有無妨礙工程是否一律

鞏固勿任草率完事如尚未堵合那彥寶即協同
嘗淳等趕緊辦理務期妥速合龍以紓懸厓至唐
家灣下游一帶被淹處所據嘗淳吳璥奏場蕭兩
縣境內成災重者僅止六分七分不等餘俱勘不
成災現在分別蠲緩給賑並著那彥寶留心查察
該處下游被灾分數果否與嘗淳等所奏相符一
併附摺具奏將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

1006 軍機大臣 字寄

雲貴總督琅 嘉慶七年十一月十二日奉

上諭琅玕奏回至省城接准提督烏大經咨會江外
獠獠現復偷渡滋事飛飭將弁辦理情形一摺前
因提督烏大經奏稱江外野獠復行渡江滋擾當
即降旨諭令琅玕由省城轉回維西督同勦辦茲
據琅玕奏稱甫經回省若即因此復任未免事涉
驚張是以在省料理一切應辦事件一面札飭烏
大經等嚴密防守等語此次渡江賊匪肆行搶掠
抗拒官兵皆由琅玕前在維西未能辦理妥協所

致此時應即探明維西一路高太經等近日勦辦情形若何如已將該匪等痛加剿戮並能擒等首逆恒乍綱等餘竟望風逃散則此事無難迅就完結該督即可仍駐省城不必馳赴該處或尚未辦竣而賊匪又已截回江外時值隆冬大雪封山官兵勢難進剿賊匪亦不能仍前出沒琅玕祇當嚴飭鎮守將弁密為防範俟來歲春融再行酌辦亦無庸即赴維西倘太經等在彼剿辦一時尚未得手而該匪等仍敢在江內肆出搶劫該督即當遵照前旨速往相機督勦務將恒乍綱該法拏獲俾餘黨咸知震懼不敢復行勾結方為完善惟在該督酌量情形妥協籌辦至所稱於要隘處所安設大營分派防堵自應如此辦理再此大賊匪究由何處偷渡過江其疎防各員即著查明參奏至另片奏移設湖南永綏廳一節所奏不甚明白此事前據初彭齡奏楚苗不願遷移欲行控阻而移撤官兵經由黔境於黔苗亦多擾累是以諭令黔楚督撫會同籌議旋據高杞奏到該廳業已內移楚苗均屬樂從今又據琅玕奏談處苗弁人等自

九月十二日起將軍火器械逐日搬移於十九日全數運竣等語該處苗民既於八月之內全行移出並無安土重遷不願移撤情事則初彭齡前奏所稱擾累黔苗之語究屬何意且初彭齡係由四百里馳奏此事竟似該廳一經移撤苗民必滋事端摺內稱係詢之藩司百齡該司何所見而云然今高杞與琅玕先後奏到情形又稱苗民無不踴躍出力究竟此事於黔苗有無未須替敘殊詳晰著琅玕查明一併據實具奏再黔省苗地逼近永綏廳亦祇須飭令沿邊各汛弁兵照常慎密巡邏不必添設多兵轉致該處苗民心生疑駭將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1007 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年十一月十三日奉

上諭王汝璧奏宿州等州縣衛嘉慶二年春借口糧未完銀兩懇請加恩一摺安徽省州縣本年間被水旱業經蠲賑兼施今據奏宿州靈璧泗州並所屬

盱眙五河州縣及鳳陽長淮泗州三衛坐落該五州縣地方地處窪下連年積歉所有嘉慶二年春借口糧未完銀二十四萬八千餘兩自應加恩豁免但現距新正不遠已令軍機大臣存記屆時再行書諭領著傳諭該撫先行飭屬停徵毋使胥役追呼俾該州縣定黎得以安心待澤用副朕軫念民艱至意將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1008 臣等遵

旨將兩淮商捐項下現存銀兩交戶部詳查應如何酌撥甘肅例餉之處俟戶部查覆到時再行擬

寫

諭旨謹

奏

1009

臣慶桂等謹
劉權
戴衛
臣德琬

奏據軍機處該班章京稟稱本月十一日四川阜

和協副將一缺奉

旨著何君佐補授欽此查何君佐一員先於七月內

補授軍營所出南雄協副將昨呈遍空名時未

經檢查舊檔以致重複謹據實檢舉等語應請

旨將該章京等交部議等語未詳細查出勝惶

悚並請一體交部議處所有四川阜和協副將

一缺將何君佐補放

諭旨應請撤回現在軍機處並無

記名人員此缺應俟額勒登保奏報到時擬

旨令於軍營出力人員揀選補授謹

奏

嘉慶七年十一月十三日奉

旨知道了慶桂等著從寬改為交部察議欽此

1010 嘉慶七年十一月十四日奉

上諭昨據佶山奏兩淮商捐等款現存銀六十五萬

四千餘兩應否解部及留存運庫等語此項銀兩

著佶山暫行存貯運庫聽候撥用此時且不必解

京將此傳諭知之欽此

軍機大臣遵

旨傳諭兩淮鹽政佶山

兩廣總督吉 嘉慶七年十一月十四日奉

上諭吉慶奏永安匪徒滋事勦蕪蕪施地方漸次寧靜及現在辦理情形一摺據稱連日親赴永安之義容等處查看民房間有被匪焚劫即督飭弁兵搜捕餘匪安撫難民百姓多有回鄉收割其投首者亦皆回家不敢滋事等語所奏總未明晰前據吉慶奏匪首曾清浩官粵瓏賴東保三人及首匪陳有達等二十一人兩次率領夥黨投出奏請妥為安插釋放當即降旨飭諭並令將曾清浩等首從各犯一併審訊分別定擬具奏此次吉慶摺內並未提及曾清浩等如何辦法但云投首者亦皆回家是否匪犯投出後該督竟概行釋放回家其首逆曾清浩官粵瓏賴東保及賊目陳有達等豈亦在釋回之內耶該督此時如僅將夥黨散回而首逆賊目現在候旨辦理尚未大錯倘將首夥各犯盡行釋回又因接奉前旨祇設法誘出首犯數人按律懲治猶不至激成事端若將已釋之犯紛紛查拿匪徒等豈肯束手就縛必致又滋事變則吉慶獲戾更重矣至曾鬼六條起事首犯必應嚴拿

殊

務獲何以摺內亦未聲明下落是否即在塘田餘匪之中抑或潛藏別處山內自應飭令將弁上緊搜拿勿任漏網再前此擒獲之偽元帥薛文勝等二十三人曾據稱管押鞫訊何至今尚未審明具奏又摺內稱地方甫經寧靜匪徒狡詐不測應行防範派兵設卡一節該處會匪滋事不過內地烏合之衆非邊徼外夷可比一經寧濫即應撤兵以安衆心何以地方綏靜又須防範且防兵一日不撤則民心一日不寧吉慶久任封疆何種種糊塗錯謬至此著傳旨申飭仍逐一明白回奏再據吉慶等奏兵餉不敷曾於藩庫撥用銀二十三萬兩零今請於粵海關征存稅銀內動撥五十萬兩解司還款備用等語著即准其動撥此次惠州剿辦會匪為時無幾所有動用軍需款項吉慶等當督飭屬員得節供支核實報銷毋任稍有冒濫將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1012 嘉慶七年十一月十四日內閣奉

上諭吉慶等奏請以南海縣縣丞謝濟陞補永安縣知縣一摺永安縣員缺例歸部選茲據稱謝濟陞營出力現辦拊事宜該縣四面皆山地方甫經寧靜必得明幹之員方足以資彈壓著照所請謝濟准其陞補永安縣知縣俟軍務完竣後送部引見該部知道欽此

1013 嘉慶七年十一月十四日內閣奉

上諭吉慶奏查明博羅永安被賊各村莊情形一摺本年博羅永安二縣匪徒糾眾滋事業經吉慶調兵剿除地方已就寧謐但念被賊處所田禾多有損傷收成完屬歉薄着加恩將博羅永安二縣被擾各村莊在本年錢糧暫緩征收自嘉慶八年起分作三年帶征俾得從容完納以示朕軫念窮黎至意該部知道欽此

1014 臣慶桂 臣董誥 臣劉權之 臣戴衢亨 臣德瑛跪奏本月十一日四川阜和協副將缺出 臣等未

詳查致將業經補授副將之何君佐一員呈遞

實屬疎忽昨經奏明請

旨交部議處咎有應得仰蒙

皇上天恩將臣等改為察議開

命之下感愧交并嗣後惟有一切應辦事件倍加

謹凜詳悉核對冀免愆尤以期仰報

高厚鴻慈於萬一理合繕摺叩謝

天恩伏乞

齋鑒謹

奏

十一月十四日

1015 軍機大臣 字寄

欽差內閣學士那 嘉慶七年十一月十四日奉

上諭本日據吉慶奏稱親赴永安所屬之義容一帶

察看被難民人多有回鄉收割晚禾其技首者亦

皆回家不敢滋事等語所奏仍未明晰前因該處

首犯曾清浩官粵瓏賴東保三人率領餘匪技首

吉慶並未定擬罪名當即降旨令那彥成赴粵會審

此案將曾清浩等及賊目二十一人按律分別懲辦

今據吉慶奏到所有技出人犯任令散回各歸本業殊不可解或竟係吉慶因技出匪徒人數眾多並不候旨遵辦率將肆行兇惡各犯概行縱放則該督辦理錯謬之咎已屬不輕那彥成即當嚴行奏奉倘業經放回之後吉慶因接奉前旨又復派兵紛紛查拏必致激生事端吉慶之罪更難曲貸矣且前此擒獲之偽元帥薛文勝等二十三名尚未據吉慶審訊具奏又永安地方既稱寧帖有何防範何以尚須分設營卡至曾鬼六一犯摺內未經聲叙下落是否即在塘田餘匪之內抑或潛匿深山均須切實查明朕詳閱節次奏報情形與廷臣等議及此事必係吉慶會匪起釁之初張皇失措濫殺無辜及至勢難散手又復茫無主見希圖將首夥各犯全行放回顯預子事是始則失之過嚴繼則失之輕縱二者均屬非是然究係懸揣之詞恐未能得其確實那彥成接奉此旨即遂到彼東公嚴密查訪將前後指出各情節一併據實直陳固不可稍涉瞻徇亦不可心存迎合又二慶另片奏永安縣知縣蒲心浩於會匪滋事不能預為防範請旨

殊

革職一節該處地方有會匪勾結之事該縣漫無覺察以致釀成大案其咎甚重非僅革職所可蔽辜但該縣或先經稟知督撫查辦而督撫竟置之不問則吉慶糊塗禮均難辭咎其該失察處分轉可照例革職著那彥成將蒲心浩親提審訊如果該縣有稟報情事必當查對年月確據方足憑信倘未經稟報仍將該縣嚴恭辦理並將失察之督撫等一併附參可也將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1016 本月十四日兵部將病痊之原任恭將候陞副

將馬為錦及補行引

見之奏補恭將張雲奏著遊擊李景三員帶領引

見奉

旨馬為錦著以副將補用 交軍機處記名張雲李

景著交軍機處記名

十一月十五日

1017 嘉慶七年十一月十五日內閣奉

上諭興肇等奏稱此次和闐採辦白玉二十七斤次

白玉二十四斤各一塊請將回子伯克伊斯瑪伊

勒受瑪爾霍卓二人賞戴花翎回子愛瑪沙等七

人賞戴翎頂等語所奏殊屬非是和闐為產玉之

區該處伯克等率領回民撈採玉石每年解運至

京祇係任土作貢之意今興肇因伊斯瑪伊勒等

採獲白玉二塊勅數較重擬請賞給翎頂何不曉

事若此翎枝頂戴為國家名器所關該伯克及回

子等如果奮勉勤能於防卡屯田一切差使辦理

妥協該大臣等據實奏聞自當照所請加恩用示

獎勵豈得以採獲玉石較重遂為伊等之功濫行

懇請乎朕數年以來節經降旨停止中外臣工貢

獻凡金玉珠寶等物概不准呈進前葉爾羌採得

數百觔成塊大玉業已運送起程曹降旨即於所

至地方截留棄置興肇等寧不知之況此區區數

十觔之玉塊又何足為貴乎朕所寶者惟在時和

年豐民安物阜一切耳目玩好之物素性寔所鄙

棄若如興肇等所奏獲一玉塊即錫以翎頂之榮

殊 殊

殊

則伯克回子等勢必爭相慕效專心搜採大玉希

冀邀恩而外間無識之徒或因此妄生揣摹此則

甚有關係興肇額勒金布均著傳旨申飭其所請

賞給翎頂之伊斯瑪伊勒等俱不准賞給並著曉

諭各伯克回子等嗣後惟當實力當差如有出力

之處該大臣等奏聞時必當加恩賞賚至此次該

回子等因未得大玉誦經祈求此語如果屬實更

覺無謂豈採得大玉即為伊等報効乎所有現獲

大玉二塊如可越例貢之便送京方准其附帶若

沿途運送稍有不便即留於該處不必呈進將此

通諭知之欽此

殊

1018 嘉慶七年十一月十五日內閣奉

上諭興肇等奏請調劑四色糧石搭放官兵口糧一

摺和闐官兵口糧向來于每月內支放小麥十日

稞糧二十日因節年稞糧不敷支放在于備貯項

下動用現已虧至五百餘石而額徵小麥有餘自

應酌量調劑著照所請將嘉慶八年應放之糧每

月支放小麥二十五日稞糧五日所有前此借動

襟糧于明年先歸還五百五十餘石其尚短二十餘石在于次年撥補足數自嘉慶九年一起供著每月支放小麥十三日襟糧十七日俾均勻配搭無虞朕之倉儲永臻豐裕該部知道欽此

1019 軍機大臣 字寄

欽差兵部侍郎那 嘉慶七年十一月十七日奉

上諭那彥寶奏查看唐家灣漫工情形一摺所奏尚屬明晰據稱搶辦東西兩壩已築成四十九丈尚存寬七丈餘計日即可堵合等語該處壩工金門祇存七丈有餘現在水力綿弱天氣未尚融和既可即日堵合那彥寶 在工多住數日會同該堵等飭將壩工趕緊堵閉務使工臻穩固不可稍有草率俟合龍堅實後那彥寶即遵照前旨前赴蕭碭一帶被淹處所詳悉履勘成災分數是否與費淳等前奏六七分之處相符據實具奏即行來京復命其所稱賈家樓漫口之處原堤地處窪下今就堤南高灘築成土堰現擬加高培厚改作直隄等語著文與費淳吳璣等按照妥辦以期堤工

單固為要至費淳等歷次奏報情形據那彥寶奏稱查詢居民察看水痕核之均屬相符等語前因該督於唐家灣漫堰未經斷流輒行奏報致訊其濶業將前次議叙撤回今既查無隱飾朦混情弊自可無庸再議也將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

1020 嘉慶七年十一月十八日奉

旨百齡於平任巡撫常明欠繳鉛本銀兩等項既經查出並不據實奏實屬徇隱本應照部議降二級調出用但念伊到任後即將孫文燠挪移軍需之事秉公查辦尚為認真百齡著改為降三級從寬留任勒保著銷去軍功加一級仍給還軍功紀錄二次餘依議欽此

1021 嘉慶七年十一月十九日內閣奉

上諭昨據御史施履亨奏吏部捐納漢司務孔毓璠奏陞主事與例不符一摺當交該部明白迴奏茲據慶桂等覆奏孔毓璠係捐納人員原與定例不

符特因該員在部年久熟悉例案查照雍正乾隆年間張宗純方觀承之例專摺奏請仍聲明嗣後不得援以為例是該部辦理此事俱經於奏請時詳晰聲叙並無不合孔毓璠仍照前旨准其在吏部額外主事上行走遇缺即補但嗣後必須在部實在年久練習部務者方准專摺保留其餘概不得援以為例欽此

1022 軍機大臣 字寄

欽差內閣學士那 嘉慶七年十一月十九日奉
上諭那彥成奏遵旨馳赴粵東查核剿辦會匪實在情形一摺吉慶歷任封疆操守素稱廉潔平日亦尚能辦事是以加恩擢用協辦大學士此次辦理會匪一事茫無主見種種謬誤前後奏摺遺漏并錯之處不一而足已降旨革退協辦大學士此缺尚未另行簡放有人現派那彥成前往查辦此次博羅會匪究竟因何起衅是否因吉慶查拏會匪辦理不善激成事端或於剿辦陳爛廢四時濫殺無辜以致永安會匪驚疑續起及至勢難歇手又

復希圖懺悔了事將首從各犯全行釋放看來吉慶始則失之過嚴繼又失之輕縱辦理此案胸中全無把握但究係就伊節次奏報情形懸揣而知其是否確係如此必須查核的實那彥成到彼後諒餘賊早已平定即將地方實在情形迅速奏聞並將前後指出各情節詳密查訪秉公直陳不可因吉慶革退協辦大學士有心周內其罪亦不可因有此旨曲為開脫至吉慶辦理錯誤之處其最要者尤在曾否將首犯曾清浩官粵瓏賴東保三人擅行放回一節如吉慶但將為從匪眾遣散仍將首犯羈禁候旨祇係前摺聲叙不明尚非大錯若竟將賊首全行釋放此時又不能設法誘出則吉慶之罪已無可遁那彥成即當據實嚴恭勿稍徇隱若吉慶接奉後旨又紛紛查拏以致復滋事端則獲戾更重矣再聞吉慶平日一切奏摺事件不用幕友現在究係何人代伊擬稿一併查奏又博羅永安被擾村莊安撫難民之處並著那彥成詳悉查勘是否撫卹得宜有無遺漏地方曾否寧謐據實奏聞又書敬年已就衰善保黃文燦二人亦屬無能

其在粵居官聲名若何是否能勝將軍副都統之任並著查明附奏將此由四百里諭令知之欽此
遵

旨寄信前來

1023 軍機大臣 字寄

欽差刑部侍郎姜 嘉慶七年十一月十九日奉

上諭據姜晟等奏馳抵江西省城查辦知州劉光遠

子劉士珍控案一摺現在那彥成有交查事件業

已前赴廣東所有江省控案專交姜晟一人審辦

姜晟惟當秉公研究不可稍有偏倚此時張誠基

自己回省姜晟即傳集人証核對案卷分別詳訊

將劉士珍控告之處詳細質對張誠基如尚無冒

功情事或有應得之咎不至革職姜晟俟審案完

竣即回京復命若張誠基實係捏奏冒功衆証確

鑿則獲罪甚重姜晟一面奏聞一面傳旨將伊革

職審訊並將江西巡撫印務暫行接署仍將張誠

基按律問擬派委委員押解來京將此由四百里

諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1024 嘉慶七年十一月十九日內閣奉

上諭勒保奏雷波廳屬東寧廣餘二鄉與夷地連界

本年夏秋間百姓移居避賊農業未免失時等語

該二鄉前被夷匪滋擾甫經安輯若令其竭力輸

將殊堪軫念著加恩將雷波廳屬東寧廣餘二鄉

本年應徵秋糧三十石二斗四升九合六勺三抄

得糧六十石六斗全行豁免以紓民力該部知道

欽此

1025 嘉慶七年十一月二十一日奉

旨已革陰陽生臧顯名著交部治罪博士李祖泌高

錦均著交部議處該堂官等自請察議之處除索

德超湯士選福文高三人加恩寬免外餘俱著交

部察議欽此

欽天監奏偷與方斗量儀器案

1026 辦理軍機處為核查報銷事照得本年二月間

奉

旨在於盧溝橋等處添設飯廠五座并派出監賑卿
員所有一切設廠賑事宜係由順天府訪交
大興宛平兩縣承辦查此項賑廠需用銀錢係
由本處共交

貴衙門在各衙門捐賑項下動用在案本年五
月據

貴衙門咨送到大興宛平兩縣承辦五處飯廠
用過銀錢各數清冊前來當經本處將該兩縣
造送清冊轉交各廠監賑卿員詳加察核去後
旋據監賑卿員咨稱廠中所用米石前據大興
縣面稟此次所用係屬細米與向來粗米不同
每石須價銀四兩二三錢方可購買等語今查
冊內所開米石價值多有浮增又鍋廠木桶等
項及一切雜費據大興縣縣丞孫際面稟摠共
需銀三百兩從前屢經飭查未據詳報今查冊
內所開各款亦屬浮增又水火雜夫煮飯人役
燈油煤燭粗茶等項查五城飯廠俱係在柴薪
項下給發今冊內既開柴薪一項復又另開水
火雜夫等項明係浮開相應據實覆覆等語并

據監賑卿員大理寺卿窩 等面稱即如東
壩一廠其內院煮飯棚一座及外院柵木前在
廠監賑時詢明係大錢十三吊又內院放飯棚
一座及內院柵木前在廠監賑時詢明係大錢
十三吊俱在錫子坊王姓舖內賃用今大興縣
所開東壩飯廠清冊內飯棚涼棚三座項下開
大錢一百三十四百文零又搭棚柵索項
下開大錢三十九千文亦與監賑卿員所言未
符今本處據監放卿員來文將大興宛平兩縣
清冊詳加核對將應行減銷之處開列清單咨
交
貴衙門希即轉詢該縣等申覆核實辦理為要
須至咨者

1027
核減大興縣飯廠三座用過銀錢各數開清單
大興縣飯廠三座共用京平紋銀一萬六千一百
四十五兩七錢八分又用大錢一千八百千文
東壩飯廠用銀五千一百二十一兩零九分用
大錢九百二十八十五百八十三文

大興飯廠三座核減細數清單

東壩

浮開銀一百九十九兩四錢六分
 浮開大錢二百二十九千一百五十三文
 采育飯廠用銀五千二百三十八兩八錢三分
 用大錢一千四百一十九千一百零八文
 浮開銀二百十九兩一錢
 浮開大錢四百七十三千零八十八文
 黃村飯廠用銀三千七百五十三兩四錢三分
 用大錢九百三十三千五百六十六文
 浮開銀一百四十三兩七錢
 浮開大錢二百九十九千六百四十文
 三共計浮開銀五百六十二兩二錢六分
 浮開大錢一千串零一千八百一十一文

米九百九十八石據開四千四百九十九兩八錢
 六分照四兩三錢合算止應銷銀四千二百
 九十一兩四錢計浮開銀一百九十九兩四
 錢六分

鍋灶木桶飯蓮席片柵木水桶柳筐繩斤竹箴

采育

等項及一切雜費二十九款據開大錢四百
 七十三千零六百三十三文照監賑員來
 文面詢大興縣縣丞孫濂稱約計共需銀三
 百兩合算應銷大錢三百千文計浮開一百
 七十三千六百三十三文
 水火雜夫煮飯人役燈油煤燭粗茶等據開共
 用大錢五十五千五百二十文照監賑員
 來文五城飯廠俱係在柴薪銀兩內給發今
 大興縣已開柴薪銀四百四十九兩所有此
 項大錢五十五千五百二十文俱係浮開
 以上三項共浮開銀一百九十九兩四錢
 六分浮開大錢二百二十九千一百五十
 三文

米一千零四十五石據開四千六百九十一兩
 一錢照每石四兩三錢合算止應銷銀四千
 四百七十二兩計浮開二百十九兩一錢
 蒲棚鍋灶木桶繩斤鐵杓巨籬桌椅等三十款
 據開用大錢六百五十四千四百五十八文

照東填核減准銷大錢三百千外計浮開大錢三百五十四千四百五十八文

水火雜夫煮飯人役燈油煤燭粗茶等項據開

一百十八千五百六十六文照五城飯廠例應

歸入柴薪項內給發今大興縣已開柴薪銀

五百二十兩此項大錢一百十八千五百六

十文俱係浮開

以上二項共浮開銀二百十九兩一錢浮

開大錢四百七十三千零八十八文

黃村

米七百二十石據開銀三千二百三十九兩

七錢照每石四兩三錢合算止應銷三千零

九十六兩浮開一百四十三兩七錢

蒹蓬鍋灶木桶繩斤鐵杓巨籬等三十款據開

五百三十六千零九十文照東填核減應銷

大錢三百千外計浮開大錢二百三十六千

零九十文

水火雜夫煮飯人役燈油煤燭粗茶等項據開

六十三千五百五十文照五城飯廠例應歸

入柴薪項內給發今大興縣已開柴薪銀三

百六十兩此項大錢六十三千五百五十文

均係浮開

以上二項共浮開銀一百四十三兩七錢

浮開大錢二百九十九千六百四十文

總共浮開銀五百六十二兩二錢六分

浮開大錢一千串零一千八百一十一文

1029

核減宛平縣飯廠二座用過銀數簡清單

宛平縣飯廠兩座共用京平紋銀四千八百九十

九兩四錢一分四釐一毫

盧溝橋興隆寺飯廠用銀二千七百零五兩八

錢三分四厘一毫

浮開銀一百五十二兩零八分

大井村飯廠用銀二千一百九十三兩五錢八

分

浮開銀一百零五兩七錢四分八厘四毫

二共浮開銀二千五十七兩八錢二分八厘

四毫

宛平縣飯廠二座核減細數清單

盧溝橋

未四百二十石據開一千九百三十五兩二錢

照每石四兩三錢合算止應銷銀一千八百

零六兩計浮開一百二十九兩二錢

水火雜夫等據開二十二兩八錢八分照五城

飯廠俱係在柴薪銀兩內給發今宛平縣已

開柴薪銀二百十兩所有此項銀二十二兩

八錢八分均係浮開

大井

米三百五十四石一斗八升二合據開銀一千

六百十一兩一錢五分三厘照每石四兩三

錢合算止應一千五百二十二兩九錢八分

二厘六毫計浮開八十八兩一錢七分零四

毫

水火雜夫等據開銀十七兩五錢七分八厘照

五城飯廠俱係在柴薪銀兩內給發今宛平

縣已開柴薪銀一百七十七兩零所有此項

銀十七兩五錢七分八厘均屬浮開

二共浮開銀二百五十七兩八錢二分八

厘四毫

1031 嘉慶七年十一月二十二日內閣奉

上諭惠齡奏請以候補同知李受曾借補階州直隸

州知州一摺階州知州員缺例歸部選茲據稱該

州毗連川陝一切撫字巡防必資熟手經理同知

李受曾曾署階州印務著照所請李受曾准其借

補階州直隸州知州照例送部引見欽此

1032 臣慶柱 臣董誥 臣劉權之 臣戴衢亨 臣德瑛 跪

奏據軍機章京票稱本月十九日欽奉

諭旨將吉蘭泰常費英阿二員加恩釋柙免其發往

伊犁回旗作為披甲欽此覆查上年六月內經畧

額勒登保奏稱該二員枷號已逾一年且俱年近

七十帶兵受傷仰懇

皇上施恩當經奉

旨將該二員釋柙發往吉林作為披甲兵丁欽此前

此亦經詳細檢查開註明晰實屬疎忽等語除

將十九日所奉

諭旨撤回另行請

旨外所有不行詳查之章京請

旨交部議處日等未經查出應請一併交部議處謹

奏

嘉慶七年十一月二十二日奉

旨知道了慶桂等著寬改為交部察議欽此

1033 臣慶桂 臣董誥 臣劉權 之 臣戴衢亨 臣德瑛 跪

奏竊臣等於吉蘭泰索費英阿二員上年六月內

業經奉

旨釋枷發往吉林作為披甲之處未能詳查開註明

晰寔屬疎忽當經奏明請

旨交部議處各應得仰蒙

皇上天恩屢加寬宥改為察議開

命之下感愧交并嗣後惟有倍加謹凜詳細查對_核異

免愆尤以期仰報

高厚鴻慈於萬一理合繕摺叩謝

天恩伏乞

詹鑒謹

奏

十一月二十二日

1034 嘉慶七年十一月二十三日內閣奉

上諭吏部尚書琳寧著協辦大學士加太子少保銜

永慶著補授禮部尚書兼管太常寺鴻臚寺事務

英和著補授翰林院掌院學士欽此

1035 嘉慶七年十一月二十三日內閣奉

上諭永保著加恩以三品頂戴補授雲南巡撫即馳

驛來京請訓後再赴新任欽此

1036 嘉慶七年十一月二十三日內閣奉

上諭嘉慶三年江西義寧州逆匪劉聯登等聚眾滋

擾一業曾據張誠基奏稱親自帶兵打仗勦滅完

茲當將張誠基賞戴花翎即風聞此事奏報不

實但未得有確據本年十月內步軍統領衙門奏

原任江西建昌縣知縣劉光遠子控告張誠基冒

功邀恩等情一案當經降旨派令侍郎姜晟前往
審辦茲據姜晟奏到查審大概情形一摺訊問張
誠基據稱此事原奏實有飾數年來疚心未釋
當日實因地方有反叛之事雖經辦竣恐干重罪
是以將八月初二日復捕完竣作為帶兵打仗全
竣之日其實並未親自臨陣等語并將張誠基繕
具親供呈覽是張誠基於義寧州勦辦逆匪一案
其徑飾具報之處業據自行供認張誠基以巡撫
大員於地方逆匪滋事之案平日不能留心查察
及破案之後尚不將辦理情形據實陳奏又復粉
飾情節令據供稱希冀輕減罪責試思失察逆匪
之罪較之徑飾具奏之罪孰重孰輕耶張誠基著
革職解京交軍機大臣會同刑部治罪審批秦承恩著
加恩以三品頂戴補授江西巡撫秦承恩未到任
之先著姜晟暫行署理欽此

殊

1037 嘉慶七年十一月二十三日內閣奉

上諭吉慶辦理持羅會匪一事節次奏報張皇冒昧
革率糊塗前已降旨革退協辦大學士本日奏報

永安全境平寧一摺聲叙仍不明晰據稱勦獲賊
匪甚多並未奏明人數投首匪眾亦無名姓供辭
所稱妥為安插之處亦未將如何辦理緣由詳悉
具奏但云博羅匪徒勒斃居多投首較少永安匪
徒投首居多不得不慮其反側俱應留兵防範等
語博羅永安二處地方如果寧謐何以復須多撤
兵丁防守是所稱辦理完竣之處竟係顛倒結局
吉慶於此事先既失之濫殺繼又失之疎縱伊摺
內情形已大畧可見封疆大吏平日不能先事預
防致有匪徒滋事本有應得之咎即使辦理妥善
功過僅足相抵今吉慶既已失察於前又復錯認
於後豈可復膺提督之任吉慶著即辭任革去雙
眼花翎暫留頂戴交與瑚圖禮那彥成會同審訊
所有兩廣提督員缺著長麟補授加恩賞戴花翎
長麟未到任以前著瑚圖禮暫行署理廣東巡撫
印務著那彥成暫行署理俟長麟到粵後瑚圖禮
仍回巡撫本任那彥成即未京供職欽此

1038 嘉慶七年十一月二十三日內閣奉

上諭直隸通水道員缺著勞樹棠補授欽此

1039 嘉慶七年十一月二十三日奉

旨吉慶於辦理博羅永安會匪滋事之案種種謬誤現已降旨解任著不必給予議叙欽此

兵本改簽

1040 本月十七日發

發下兵部議叙吉慶本一件奉

旨俟那彥成查覆到日再降諭旨欽此今吉慶業經

奉

旨解任所有兵部議叙之本臣等謹擬寫改簽進

蒙呈伏候

訓示謹

奏

十一月二十三日

1041 嘉慶七年十一月二十三日奉

旨軍犯馮曙先經扶制本官嚇詐得贓緝復扶嫌

越訴誣捏多人係屬積慣訟棍伊若念家有老親

即應守分畏法伊父平日若能嚴訓其子亦不至

怙惡不悛今已陷于罪戾乃以恩子情切托辭請贖難以原免馮曙先着不准其贖罪欽此

1042 軍機大臣 字寄

暫署西廣總督廣東巡撫瑚 暫署廣東巡撫

內閣學士那 嘉慶七年十一月二十三日奉

上諭前因吉慶辦理博羅等縣會匪歷次奏報各摺

摺未將因何起事情由並訊取獲犯供詞詳悉具

奏而於奏報賊數忽多忽少撤調官兵旋調旋撤

及辦理永安會匪又將投出各犯等率行釋放種

種認誤不可枚舉明係濫殺于前又復疎縱于後

已節次將吉慶辦理此案糊塗草率之處逐一指

出交那彥成查詢參辦本日又據吉慶奏到永安

全境平安摺摺內據稱孫全謀帶兵於大鐘嶺義容

壩等處殲獲賊匪甚多直拉縣城該匪正在圍攻

官兵痛加勦殺大獲勝仗各處匪徒聞風畏懼紛

紛投首妥為安插其陸續等獲各匪徒亦已審明

辦理塘田地方匪徒亦已四散並搜拏餘匪數名

訊辦其越營投首者亦經分別安插釋放等語

所奏仍不明晰該匪等既經官兵痛勦畏懼投首自應將辦理情形及投首姓名人數訊取各犯供詞並如何按律定擬分別安插之處一一聲叙乃僅以紛紛投首妥為安插二語了事其首犯曾鬼六是否亦在投首之內既云永安全境寧靜何以又稱于博羅留兵一千名永安留兵二千名巡守地方可見投首之人仍未能安插妥協而吉慶先稱良民與投首之人俱回鄉收割田禾恐有械鬥仇殺之事預為地步名為全境寧靜其定並未完局至前次摺內所稱首犯曾清浩官卑職輕係保三人是否擅行放回並審訊之偽元帥薛文勝等二十三名究竟作何辦法全未提及且據摺內稱博羅縣匪徒勒戮居多投首較少永安匪徒投首居多等語是言慶林查拿會匪一事辦理不善始則盜殺無辜激成事端及至勢難啟手又復顛覆了事將首從各犯全行釋放情節顯然非朕懸揣慮度即伊摺內所陳二語已覺歷歷如繪又另片奏李復接濟逆匪確確之林亞毛賴重憲二犯據林亞毛供曾拜陳爛版四為大哥封伊為三王爺等語此等得受偽封匪

徒自應按律即行辦理何待請旨此亦吉慶辦事姑息之一端本日已另降諭旨將吉慶革去雙眼花翎督帶頂戴解任質審瑚圖禮身任巡撫失察地方會匪滋事原有應得之咎但未經帶兵勦辦在省辦理一切尚無不合已令伊暫署兩廣提督其巡撫印務即令那彥成暫署著將吉慶交與伊二人秉公審訊遵照節次諭旨及本日所諭情節向吉慶逐一訊問令其明白登答其最要者在曾否將曾清浩官卑職輕東保三人放回一節如吉慶竟將該犯等釋放即當據實嚴奏若釋放後續奏諭旨又復四處查拿致滋事端並或查出實有濫殺激變各情節即當一面具奏一面將吉慶革職等因解京治罪至會匪滋事始末孫全謀在彼勦辦必知其詳細圖禮等不妨傳到該提督官面詢問會匪究竟因何起事吉慶在博羅勦辦時是否濫行誅戮殃及無辜及永安又如何將首犯等稟行釋放希圖將就完結之處令其詳悉備陳並諭以爾係武職大員分祇帶兵勦賊其擒獲後原係交吉慶辦理與伊無涉不必心存畏懼代為諱

飭孫全謀自必據實說出更無難得其確據再言首犯曾清法官粵琉賴東保三人如吉慶已請經亨獲即著瑚圖禮等按律定罪仍候旨辦理如尚未就獲即著瑚圖禮那齊成將該三犯設法緝獲但不可紛紛查拿致滋事端其曾鬼六一名係為首要犯吉慶屢次摺內未將該犯下落聲叙或在板首之內抑尚潛匿他處並著瑚圖禮等留心訪拏一律辦理為要將此由五百里諭令知之欽此

旨寄信前來

1043 軍機大臣 字寄

欽差刑部侍郎暫署江西巡撫姜 嘉慶七年十一月二十三日奉

上諭姜成奏查甯劉光控案大概情形一摺覽奏俱悉義寧州勦辦逆匪一案既據張誠基供稱此事寔有粉飾因地方有反叛之事雖經辦竣恐干重罪是以將八月初二日搜捕完竣作為帶兵打仗全竣之日其寔並未親自臨陣等語并將張誠基

結具親供呈覽是張誠基於此案捏飾具報之處俱經供認不諱現已明降諭旨將伊革職解京治罪其巡撫負缺著姜晟暫行署理俟新任巡撫奉承恩到任之後再行回京復命姜晟接奉此旨即派委委員將張誠基押解來京治罪至義寧州知州劉光於該州境內逆匪滋擾之時不過在城防護並未隨同官兵出城打仗並無出眾勞績彼時張誠基奏請給予二等議叙尚無不公此時伊所控張誠基捏報一節雖已屬寔但據姜晟奏稱查得劉光任內未充銀兩自虧著賠兩項俱有是以離任之後經該撫扣留著追等語是劉光原控張誠基將伊無故稽留之語顯屬挾私訐告姜晟仍當將該負任內應追各款項徹底查明著落追繳仍按律定擬具奏將此由粵東報使諭令知之欽

旨寄信前來

1044 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年十一月二十三日奉

上諭據王汝璧覆奏汪志伊病勢秋冬以來聞已就
痊容俟再行密訪極寔具奏等語汪志伊於上年
冬間患病回籍調理一載以來從未將病狀是否
痊愈奏聞伊曾任巡撫大員受恩深重本年七月
間朕自熱河迴幸木蘭十月間朕萬壽慶辰汪志
伊即在籍抱病未痊亦應差人至哨門遊摺請安
回京後亦應遵摺慶祝朕即可就近傳伊賫摺家
人詢問病狀乃汪志伊並未差人前來亦太覺漠
不相聞矣至王汝璧既聞其病已就痊自應囑其
來省面見催令作速赴京倘伊或託故遲延即當
具摺奏奏乃以未經見面為詞殊屬非是該撫接
奉此旨著即親赴汪志伊家察驗是否寔已痊愈
如舊病或又復發即當據寔奏聞仍將此次朕巡
幸木蘭及萬壽慶辰伊未經差人遊摺請安慶祝
之處傳旨申飭令其明白迴奏如伊病實在痊愈
尚未就道或又以料理俸喪為詞該撫即當據寔
奏候朕再降諭旨將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

1046 軍機大臣 字寄

欽差兵部侍郎那 嘉慶七年十一月二十三日奉
上諭那考寶奏唐家灣漫工於本月十七十八兩日
正填二填俱已次第合龍等語覽奏欣慰此皆仰
賴

天

神垂佑已頒發藏香交費淳等祀謝其所稱唐家灣
引河頭地方涵勢愈趨愈下將來或漲時不免一
發難收請於該處左近相度情形另擇一可以啓
放之處作為引河等語所議亦是已有旨諭令費
淳等會同妥辦矣此時那考寶前赴下游各屬查
勘災區務將各該處成災分數詳志勘明如果成
災分數不止六七分撫卹未能周妥與費淳等前
奏不符即應據實具奏一面督率地方官核實辦
理如所查災分情形與費淳等前奏相符那考寶
於查勘明確後即行回京復命可也將此諭令知
之欽此遵

旨寄信前來

1045 軍機大臣 字寄

兩江總督費 江南河道總督吳 嘉慶七年

十一月二十三日奉

上諭據那彥寶等奏唐家灣引河頭填工于十七日將正填堵合斷流二填亦即堵竣水勢全歸正河寔已穩固無虞等語此皆仰賴

上天垂慈

河神默佑欣慰之餘尤深欽感茲議去歲香二十枝着費淳吳敬祖謝各處

河神用卷靈貺該督等辦理此次填工尚為妥速惟

另片奏借撥河南藩庫銀二十萬兩現餘八萬兩

解還外其已用銀十二萬兩在于江省藩庫撥還歸款等語向來河工

漫口堵築工程艱兩該河督等例應分別銷賠

此次唐家灣雖祇係引河頭刷寬滂水下溢究因

該督等開放時未能妥協所致即不照向例銷六

賠四亦應酌賠三成乃僅稱將動用銀兩由藩庫

撥解歸款而於伊等如何分賠之處並未聲叙殊

屬非是著費淳等即公同酌核分別賠銷各議具

奏又據那彥寶奏唐家灣引河頭本年開放時既

經大水刷深將來盛漲時恐溜勢愈趨愈下一發難收應於該處左近另擇一可以啓放之處作為引河曾與費淳等面商意見相同等語所奏甚是費淳等與那彥寶既屬意見相同自當妥為辦理以資宣洩但事屬更張不可不倍加慎重仍著費淳吳敬祖及熟諳河工之員相度該處形勢熟籌妥酌應於何地改易引河之處先行繪圖貼說奏明辦理不可稍有遷就草率將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

1047 臣等遵

旨將本日兵部呈遞稽察齋戒武職大員綠頭牌因何將奇臣列入之處向兵部查詢據稱寔係兵部辦理錯誤該旂營內並未漏註等語相應請旨將兵部堂司各員交部分別議處謹

奏

十月十三日

奏為遵

旨審訊具奏事本月二十二日都察院具奏原任廣西懷集縣典史毛達呈控請平鹽價一案奉

旨著交軍機大臣會同刑部審訊具奏欽此臣等遵即提到該典史毛達公同審訊據供現年五十一歲係江蘇吳縣人由戶部役滿吏捐納分發廣西補懷集縣典史緣懷集縣鹽價向係總埠零賣鹽斤每斤花邊銀一分三厘紋銀一分一厘並無青鹽白鹽之分嘉慶五六兩年懷集縣知縣蔣煥抄貼總督告示總埠青鹽一分三厘白鹽一分五厘子埠青鹽一分五厘白鹽一分七厘各鄉子店以路之遠近進加至青鹽一分七厘白鹽一分九厘不等又總埠不賣零鹽均係子埠出賣典史自嘉慶元年至四年俱係鹽埠送鹽食用因五年典史曾向知縣勸阻鹽斤增價鹽埠因此怪我不送食鹽典史即自買食曾在總埠旁金煥子店內用大錢二百文買鹽九斤十二兩用銀二錢買鹽十斤曾經把商夥

掌責嘴巴又在吳志翰子店內買鹽每斤合銀二分一厘將吳志翰罰鹽一百斤給養濟院其領有遵結領紙可驗至闔境民買鹽價若干我不能知道後經商人陳御李將典史誣控說典史內商人借銀五百兩不遂奉提至省委員審訊並未斷結其借銀不遂情由止令案內無名之高燕賢審亦無憑據典史因鹽價不平又不能回任就告病出省赴都察院具呈懇求轉奏清獎再我上年十一月告病今年五月領咨九月回籍在吳縣報文後起身進京等語查該典史所供該縣鹽價詳載明每斤一分一釐又據呈出乾隆五十九年碑文所定鹽價花銀一分三釐紋銀仍係一分一釐嘉慶五六兩年該縣發貼印示係奉總督吉慶批准分別總埠子埠酌按道路遠近青鹽白鹽自一分三五釐至一分九釐不等是該縣鹽價每斤一分一釐之數係舊定章程現在續增數目既經出示曉諭自非虛捏惟該督曾否奏明咨部現據都察院行查戶部並無案據等亦無覓查必至該典

史係專管監獄之員不應干預詞訟乃因商人向係送給伊監片迨後未經送給該典史自買食監出銀二分一釐報行濫差傳訊將商影字責罰監其所稱買監每斤二分一釐之數雖據呈出商夥遺結為憑惟詰以該縣圍境民買價值若干該典史又在能指証查該省商人曾控稱該典史借銀五百兩不遂以致挾嫌尋釁此案是否該典史訛索致訟抑係地方官及商夥私增價值且該省既經將該典史提省審辦何又久未斷結任聽該典史告病了事若僅據該典史一面供詞礙難定案相應請

旨發交瑚圖禮那彥成提集人証卷宗秉公詳訊並將告示所定鹽價與舊價較增何以未經奏咨之處一併查明審擬具奏其原告典史毛達交兵部照例解往備質謹會同繕摺具奏伏乞

皇上睿鑒

訓示遵行謹

奏

嘉慶七年十一月二十四日奉

旨依議欽此

臣慶柱

董誥

劉權之

戴衢亨

德瑛

熊枚

瑚圖靈阿

賡音

戴均元

1049 嘉慶七年十一月二十四日內閣奉

上諭長麟前在陝甘辦理軍務尚無貽誤特因伊母年逾八旬是以加恩令其回京就近奉養長麟自管理部祈事務以來一切尚屬優為昨因兩廣總督缺出一時簡放之人降旨將伊補授並派軍機章京傳諭伊母伊母能知大義勸令伊子為國宣勞及時報効本日長麟具摺謝恩名見時並不放在朕前懇辭而依懇伊母之忱辭淚俱下即朕為之垂涕如長麟現在派赴軍營及任新疆辦事尚或疑其有心規避茲兩廣總督廉俸俸厚職任

秋

優隆長麟竟以伊母年老不忍遠離可見其孝思
實不至性朕以孝治天下凡過臣二陳情入告顯
終養者無不俯俞所請以遂其烏哺之私此特若
若必令長麟前赴新任伊亦萬不敢辭但母子
地相懸戀恐其分心內顧於公事或致有悞古未
求志臣必於孝子之門長麟每_德覺_德因克盡子
道股於嘉獎之餘益深憐念長麟竟無庸前赴兩
廣提督之任著留京著理部統仍戴用花翎俾得
有祿藉以供侍養用示朕勸孝作忠之至意欽此

1050 嘉慶七年十一月二十四日內閣奉

上諭長麟現已有旨令其不必前赴兩廣新任所有
兩廣總督員缺即著瑚圖禮署理其廣東巡撫員
缺著鐵保補授所遺漕運總督員缺著吉綸補授
即赴新任鐵保於交代後速往廣東接印任事不
必來京請訓那彥寶著兼著倉場侍郎伊現在江
南查工未回此時該衙門亦無允漕事件無庸又
派人署理其_{吉綸}遺_{那彥寶}侍郎員缺著明德補授欽此

1051 軍機大臣 字寄

署雲南巡撫初 嘉慶七年十一月二十四日
奉

上諭初彭齡奏貴州軍需各款一摺已交軍機大
臣會同戶部詳核具奏俟查明後再降諭旨前已
有旨令初彭齡署理雲南巡撫此時福慶可抵貴
州新任初彭齡遵前旨即赴雲南接印任事可也
將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

1052 軍機大臣 字寄

署兩廣總督瑚 暫署廣東巡撫內閣學士那
嘉慶七年十一月二十四日
日奉

上諭昨都察院奏原任廣西懷集縣典史毛達呈控
請平盜價一案當交軍機大臣會同刑部審訊茲
據復奏該典史供稱該縣盜價向係一分一厘嘉
慶五六年總督吉慶發貼告示分別總單子埠
道路遠近遞加至一分九厘等語該縣盜斤自有

部領定價即有必須加增之處亦當奏明核辦豈得擅發告示頃將鹽價私行加增該典史所供如渠屬實則又係吉慶辦理不善之一端所有原告典史毛達著解文翔圖禮那考成提集人証卷宗秉公詳訊如實有私增鹽價情節即將吉慶據實奏奏倘係毛達誣控亦即按律定擬將此諭令知之欽遵
旨寄信前來

1053 嘉慶七年十一月二十五日內閣奉

上諭每年冬間于直隸解到旗租銀兩內普賞八旗兵丁一月錢糧本年此項銀兩尚未解到該兵丁等寒冬歲暮生計孔殷若俟該省解到再行給發未免遲緩著加恩在于部庫節年賞剩旗租銀兩項下先行撥給普賞八旗兵丁一月錢糧俟直隸省將本年旗租銀兩解到後再行歸款以示朕軫念旗人恩膏速沛至意該部知道欽此

1054 嘉慶七年十一月二十五日奉

旨戶部議覆湖北軍需章程一摺分別准駁列款進

呈朕詳加披閱內蘇營兵丁分別支給鹽糧一欵楚省施鄖宜等處與川省仰崗等處毗連前由川赴楚官兵既經加給銀四錢其楚省官兵行抵施鄖宜三府所屬軍營之後自亦未便獨減著加恩准其一律加給餘依議欽此

1055 嘉慶七年十一月二十五日奉

旨戶部議駁全保請截留湖北漕糧一摺漕糧為天庾正供每年額運到通預備一切支放經費有常豈容稍有短缺前經降旨令各督撫等務于倉儲根本悉心講求勿徒以截漕為事今湖北巡撫全保因湖北各屬偶過偏災江夏等州縣緩徵漕南等未^共有五萬六千三百有零起來歲兵米不敷輒請在于帶徵漕南正耗及起運漕米內如數找截殊屬非是該省寔存常平倉穀現據戶部查奏應有一百一十五萬餘石又有未五萬九千餘石此時籌補兵米所需無幾祇將常平倉穀零數撥取已足敷用該撫何計不及此動思截留漕糧豈該省常平倉貯米石竟有名無寔耶全保著傳旨申

飭所有湖北省來歲不敷兵米五萬六千三百四十九石零著照部議在該省常平倉貯寔存米內動給欵此

1056 嘉慶七年十一月二十五日內閣奉

上諭向來在京文武官員遇有降級革職留任處分俱將應得俸銀俸米一律停減乾隆五十一年欵奉

諭旨令將降革留任人員止分別停減俸銀其俸米仍

准照原品支領所以體恤臣工尤為徭至因念

陵寢及廬京官員與在京各官事同一體嗣後遇有降

革留任處分准照在京文武官員之例祇分別停

減俸銀仍准支食俸米以昭平允而示體卹著為

令所有戶部現在奏請之郎中雙林寺降級留任

一宗即著照此辦理欵此

1057 嘉慶七年十一月二十五日內閣奉

上諭據阮元奏藩司劉斌患病難痊懇請辭任等語劉斌著加恩准其辭任回籍調理俟病痊未

殊

京另候簡用所遺浙江布政使員缺著廣西布政使清泰調補所遺廣西布政使員缺著安徽按察使恩長補授欵此後所遺安徽按察使員缺著廣西按察使恩長補授

1058 嘉慶七年十一月二十五日內閣奉

上諭安徽廬鳳道員缺著德慶補授欵此

1059 軍機大臣 字寄

閩浙總督王 福建巡撫李 嘉慶七年十一月二十五日奉

月二十五日奉

上諭王德等奏擊獲在洋行劫各盜犯審明分別辦理一摺已批交刑部核擬具奏矣據摺內稱總兵羅江太督率兵船搜捕望見浮鷹洋面有匪船游奕當即進擒開放鎗炮盜匪中傷落水身死者不計其數又崇武洋面盜船經總兵何定江督兵追捕併力勒擒盜匪中傷落水者甚多等語盜首蔡牽船隻竄入浙洋經該督等分飭追捕此次鎮將等既將盜船用鎗炮轟擊盜匪等中傷落水者甚多其蔡牽一犯據稱已竄往浙洋應即跟踪追捕務得定在下落以期必獲為要再守備許廷進因攻捕

盜匪猝遇颶風落水被船釘穿透左脚受傷較重尚屬出力如自傷重身故即著照陣亡例咨部賜卹卹若傷已漸愈著於平復後送部引見又另片奏護游擊陳振元遇見盜船返蓬來攻即首先趕到施放連環大砲將盜船轟裂擒獲盜匪多名亦屬出力著該督等於審結此案時將該遊擊保奏此外尚有出力員弁亦著查明一併保奏候朕加恩至另片奏漳泉二府兩年以來經玉德等嚴行查辦泉州各屬械鬥無聞漳州尚未能一律丕變此次玉德駐彼二十餘日傳齊各稟正等剴切曉諭隨據各鄉繳出鎗刀藤牌器械二千餘件等語該二府民風犷悍械鬥頻聞自應隨時化導今泉州各屬已知安分守法而今漳州地方經玉德駐彼曉諭即有繳出器械二千餘件之多可見該處殊繳器械尚復不少該督撫等遠駐省城亦豈能常時赴彼面行宣諭惟當嚴飭該地方官勤加教導俾知守法如過有械鬥等案即當嚴行辦理不可姑息存代為之說先將該處民人等查悉勸日久自當默化潛移地方自可漸就寧謐矣將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

殊

1060 本月二十五日兵部將調補陝西慶陽營參將馬斌奏署直隸天津城守營都司李應祥二員補行帶領引

見奉

旨馬斌李應祥著交軍機處記名

十一月二十六日

1061 軍機大臣 字寄

直隸總督顏 嘉慶七年十一月二十六日奉上諭內例每年冬間于隸直省祈租銀兩解到後善賞八旂兵丁一月錢糧本年已屆應行加賞之期詢之戶部此項銀兩屢經該部行催迄今尚未解到上年直隸水州縣地方較多收成歉薄尚解按期徵解現值寒冬歲暮該兵丁等望澤甚殷且該省于應解之項何以遲被不解本日已降旨在于部庫節年存利項下先行賞給著傳諭顏檢即飭審司將本年直隸省應解祈租銀兩迅速起解報部歸款仍一面先行奏開無許再有延緩將此

諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1062 查直隸省應解旗租銀兩臣等昨日復查查戶

部據稱曾經屢催數日以來尚未據該督咨到
起解日期謹擬寫寄信顏檢

諭旨進

呈謹

奏

十一月二十六日

1063 嘉慶七年十一月二十六日奉

旨諭勒登保著准其照例承襲餘依議欽此

1064 嘉慶七年十一月二十九日內閣奉

上諭初彭齡奏玩縱行劫重案之署開州事下江
通判劉若璠請旨革審一摺據稱羅士潮等糾眾
行劫周添春家衣物經該府劉雲飭差將羅士潮
擊獲破廬老二等中途奪回仇殺事主該署牧劉

若璠將奪犯重情刑改捏添強姦一節難保無授

意諱飾情弊等語劉若璠著革職劉雲前因另案

解任亦著一併革職交福慶提同案內人証秉公

審訊至劉若璠於行劫致斃事主重案即無任姦

情事罪名亦難輕擬何以復行捏添強姦一節其

初報內未經聲叙奪犯情由是否有心諱飾劉若

璠徐尚書劉權之之子該撫等審辦此案不可意

存瞻徇亦不可有心周內以博公正之名總當持

平辦理據實具奏欽此

1065 嘉慶七年十一月二十九日奉

旨此案檢驗不實失出死罪之雲南澂江府知府前

任文水縣知縣金國寶著革職其太原府知府慶

格能究出十年前人命重案尚屬留心著加恩送

部引見餘著該部核擬具奏欽此

1066 嘉慶七年十一月二十九日內閣奉

上諭信山奏淮南引鹽因本年揚州一帶雨澤稀少
場河乾涸趕運稍遲而湖廣江西等省收成歉薄

未能暢銷淮北引益亦因夏秋亢旱場河淺阻是以發運較少請將奏銷展限等語該處綱鹽壅積納課維艱自係實在情形著加恩將壬戌綱來年二月奏銷展限半年仍照例自癸亥綱起每年提上一月至戊辰綱復歸二月原限俾得從容轉輸以示體卹該鹽政務須設法督商趕運勿令稽遲該部知道欽此

1067 嘉慶七年十一月三十日內閣奉

上諭大學士保寧等議奏籌辦外省祀從祀陣亡官員兵丁請嗣後凡應入祀昭忠祠者文職三品以上武職二品以上以及八旗官員兵丁仍於京師入祠致祭其四品以下文職三品以下武職及兵丁鄉勇各在本籍地方擇廟屋之旁蓋屋致祭至人數較多之處或百人或數十人合一牌位鐫刻名姓等語一摺官兵等効命疆場捐軀殉節國家報祀之典原以風勵臣民俾知觀感所有在各該原籍地方擇地致祭之處若僅將四品以下文職三品以下武職及兵丁鄉勇歸于原籍致祭其

職分較大各員因設位京師不復于原籍致祭恐鄉愚等不諳例義妄譏同一陣亡而徽末弁員尚遞入祀其官階較崇者轉不獲預未免滋釁國家辦理章程焉能一一家喻戶曉朕意外省文職三品以上武職二品以上各大員除照大學士等所議在於京師入祠致祭外其原籍地方仍著一體設位致祭不特忠魂咸依故土亦使其鄉閭親屬激勅至牌位鐫刻名姓若不酌定人數則辦理紛歧亦于體制未協嗣後著以五十人合一牌位設龕致祭以昭畫一此係國家酬庸懋典各該省性應實力經理迅速奉行不可稍有延擱該督撫于奉到諭旨後著即照現定章程妥為籌辦將省城及各外府如何辦理之處每一處辦竣即先行詳細造冊陸續報部查核仍俟該省統行辦竣後具摺奏聞倘地方官吏視為具文任情延緩或辦理未能妥協著該督撫查明奏辦如該督撫籌辦不力任聽屬員等托故稽遲亦著該部據實奏將此通諭各省知之欽此

1068 嘉慶七年十一月三十日內閣奉

上諭前因場山等五縣河水漫淹當經降旨先行撫卹賞給一月口糧並諭令費淳岳超等查明成災分數由驛覆奏茲據該督撫查明奏到著照所請將勘實成災之豐縣沛縣銅山碭山蕭縣等五縣七分極貧民加恩給賑兩個月七分次貧併六分極貧民加恩給賑一個月概行散放折色以資口食其例不給賑之六分災次貧併五分災及勘不成災田地應徵本年地漕等項銀米加恩緩至來年秋成後分作二年帶徵至應徵來年新賦併緩至秋成後改徵其舊欠節年地漕等項銀米加恩緩至來年秋成後分作二年遞緩徵收用紓民力仍於來年察看情形酌借籽種口糧以資接濟所有衝屯田地均著加恩按照坐落各縣災分輕重一律辦理該部知道摺併發欽此

1069 嘉慶七年十一月三日內閣奉

上諭向來昭忠賢良祠及功臣各專祠承祭官俱穿朝服將事定例原未允協王公百官恭遇

壇

廟大祀陪位行禮方用朝服致敬昭忠各祠列祀諸人皆係本朝臣工士卒若以朝服致敬祭實與體不合嗣後承祭官著改穿蟒袍補服其例應陪祀後裔中有職官者亦均穿蟒袍補服謝恩時仍穿朝服著會典館禮部即改定儀注纂入成書欽此

1070 嘉慶七年十一月三十日內閣奉

上諭據禮部奏昭忠祠入祀諸臣內原任貴州巡撫曹申吉曾經從逆應請撤毀等語曹申吉當吳逆背叛時從賊不知所終從前考查未確以致濫膺祀典實屬舛誤曹申吉著即撤出昭忠祠將牌座銷毀並行文山東巡撫將該省志書內曹申吉本傳刪除以昭核實欽此

1071 嘉慶七年十一月三十日內閣奉

上諭貴州貴陽府知府負缺緊要著該督撫於通省知府內揀選一員調補所遺負缺著瑯祿補授欽此

軍機大臣 字寄

雲貴總督琅 嘉慶七年十二月初一日奉

上諭據琅奏維西近日賊匪情形一摺維西康普

一帶標匪前已剿捕肅清今復敢乘江水淺涸之

時偷渡勾結滋擾並聚集二三百人攻圍杆達營

卡抵先抗拒經官兵會合夾擊始向山梁逃遁寔

屬兇狡恒乍緹一犯為前次啟事首逆此時既潛

匿江州似非恒乍緹從中糾結但此等野夷肆行

兇暴傷及官兵不可不痛加懲創前曾降旨令琅

玕酌量情形親赴該處督辦此次標匪既有偷渡

滋擾之事琅玕接據稟報自應前往籌劃何以僅

派藩司陳孝昇往查營卡該司係屬文員豈能帶

兵打仗耶前因巡撫孫曰秉年老令其來京其員

缺先經令初彭齡署理續經補放永保尚未到任

現在孫曰秉業已病故省垣現無大員駐劄琅玕

尚可暫留省城一俟署撫初彭齡到時即當迅速

起程馳赴維西率同烏大經等相機勦辦即首犯

先恒乍緹嚴拿執獲亦須將現在滋事夷人緊搜

等嚴加懲辦俾該夷眾等知所畏懼以靖邊圉所

有打仗陣亡之把提羅得超運糧被傷身故之經
歷陳炳灼著咨部賜卹將此由四百里諭令知之

欽此遵

旨寄信前來

1073 嘉慶七年十二月初一日內閣奉

上諭翰林院學院學士例應滿員在前現在彭元瑞

以尚書兼充英和係屬侍郎其班次在彭元瑞之

後嗣後該衙門一切應奏事件彭元瑞著列銜在

英和之前遇有引見人員專著英和帶領彭元瑞

年逾七十兼有腿疾者不必帶領欽此

1074 嘉慶七年十二月初一日奉

旨官犯林朝相係隨同遊擊楊天相巡緝安等張芳

等誣指為盜擬絞減流此事究屬疑案林朝相著

加恩准其援減其官犯王敏曾等六名情節較重

均不准援減餘依議單併發欽此

1075 嘉慶七年十二月初二日內閣奉

上諭初彭齡奏查明貴東道所屬虧缺常平穀石請勒限分賠彌補一摺所辦甚是常平存貯穀石儲備攸關宜容稍有虧缺今貴東道所屬倉穀虧至八萬餘石之多歷任督撫司道等官于清查結報之時俱不核實辦理顛預已極自應勒限分賠以示懲儆所有貴東道屬各府廳州縣等處虧缺常平倉穀價銀四萬三千九百一十八兩零著照初彭齡所議自乾隆六十年起至嘉慶六年七月底止按照經管各官在任月日並拘情失察之督撫司道府名下攤賠勒令分限完繳並查明各該員在任在籍分別著追俱繳還點省司庫責成貴東道分年買補以實倉儲仍查取職名交部照例分別議處該部知道摺單并發欽此

1076 軍機大臣 字寄

直隸提督特 嘉慶七年十二月初二日奉
上諭據順天府尹奏接據容雲縣典史稟報奉提督札飭以宣化鎮新河口新任守備倭星額赴口考

驗住宿古北口韓姓店內該守備自行抹牌傷不甚重詢問該守備稱因宣化鎮字識張繼美不睦該守備於十一月十三日到宣化鎮投文候至三日該鎮並未傳見考驗文赴口該守備恐張繼美朦混舞弊羞惱交集故自戕飭令本縣赴口驗詳詳報等語該守備倭星額赴鎮驗看候至三日並未傳見給文即云與該鎮字識張繼美不睦恐其朦混舞弊亦何至遽尔自戕其中難保無別項情弊該守備傷既不重特清額自當就近驗明將陰何自戕緣由詳晰訊取生供具奏並著察看該守備傷痕如果輕減即一面派員會同順天府委員將該守備送交刑部聽候審辦倘受傷較重即飭令該守備在彼調治候傷痊後再送刑部仍將訊取供詞先行具奏將此諭令知之欽此遵旨寄信前來

1077 嘉慶七年十二月初二日奉

旨知道了著順天府尹派員將該備倭星額帶同赴京交與刑部審訊具奏欽此

順天府奉據容雲縣典史稟報該守備在古北口韓姓店內抹牌事由

1078 臣等遵

旨將雍正年間怡賢親王允祥蒙

恩加封一子為郡王節次所奉

諭旨四道恭錄進

呈至怡賢親王允祥交查

國史館並未立傳謹將宗室王公表粘發一併恭

呈

御覽謹

奏

十二月初二日

1079 嘉慶七年十二月初三日內閣奉

上諭董誥等查議給事中魯蘭枝等奏吏部將領

外司務吳侍曾越次撓補並將司務孔毓璠違例

保陞等情請將該部堂司各官分別議處一摺此

案該堂官於吳侍曾報滿時先經奏留至減奎相

到部日期比吳侍曾較早一月該堂官既未與吳侍曾

一全保留當照例歸還乃未及數月請將減奎

相奏留摺內又未將該員期滿在前因請行試看

緣由明白聲叙致啓浮議辦理失當定在於此其

奏陞孔毓璠摺內援引張宗純方觀承成案又未將履歷

查核詳晰亦有不合既詢據原奏科道等稱並無營求聽

囑之事所有吏部堂官著加恩改為察議至

司員等承辦稿件自應詳查例案辦理若稍有

不合即應向該堂官據實稟明乃掌選郎中和精額

貴徵於續留減奎相時未將該員等到部月日先

後叙明及奏陞孔毓璠時於方觀承曾經加賞

閣中書一節遺漏叙入寔屬疎率考功司郎中寧

泰不俟各堂看定考語遽將減奎相付送選司辦

稿奏留均著交都察院議處所有吳侍曾減奎相

奏留之處俱著註銷歸原班銓選孔毓璠仍以吏

部主事用此係朕特旨嗣後不得援以為例該員

未經得缺以前仍在司務本缺行走至該給事

中等稱吳侍曾係尚書劉權之在山東學政任

內務進入學係屬師生來往情容外間實有煩言

等語向未各部院堂司原無師生迴避之例蓋緣

部院事務均係各堂官公同商辦本非一人專主

且司員之由科甲出身者其鄉會試取中考官大

率多係部院大員若必盡行迴避紛紛更調殊非

政體况堂司官有無情弊亦不必定在師生即如
復前和坤管理部院時納賄營私意係保伊何嘗
獲揭鄉會文衡有師生之誼耶今摺內既有往來
甚密噴有煩言之語應即令原派之大學士尚書
侍郎等傳到魯蘭枝施履亨吳侍曾劉權之當面
質對並著該給事中等將如何往來甚密之處確
切指出據實登答欽此

1080 嘉慶七年十二月初四日內閣奉

上諭昨據董誥等查議給事中魯蘭枝奏吏部將
額外司務吳侍曾越次撓補等因一事已降旨將
該堂司官分別察議議處矣惟據該給事中等稱
吳侍曾係尚書劉權之取進入學誼屬師生來往
甚密外間噴有煩言一節不可不詳詢明確復令
董誥等傳到魯蘭枝施履亨吳侍曾與劉權之當
面質對茲據奏稱詢知該給事中等均稱外間係
何人所說不能指出姓名等語科道等職司糾劾
原許聞風言事其奏不寔者亦有應得處分今魯
蘭枝施履亨奏劾吏部堂司官其疎漏之處已查

殊殊

詢明確該給事中等原奏或因該部辦理未協致
滋浮議據以入奏既經公同詢問並無他弊該給
事中等所奏已非虛妄何必務求其人以實懲此
風影無據之談藉以塞責乎劉權之身任吏部尚
書居六曹之首苟非寔有款蹟豈可任情汙織至
六部堂司各官原無師生迴避之例如果堂官有
意徇私即其門生之不在本部所屬者亦可展轉
情託若竟係營私受賄又豈必誼屬師生始有情
弊耶朕召見吏部各堂官時曾詢及此事余稱奏
吳侍曾實係意見相同豈有劉權之因係師生
轉行迴避之理該給事中等所稱來往甚密噴有
煩言全屬懸揣虛詞毫無指實若如此任意摭
甚或有交通賄囑等語即請嚴辦白已成服玷科
道為朝廷耳目之官如大臣中實有營私舞弊確
據原應列入彈章以儆有位焉即該有失德亦可化謂
直諫朕必樂從若託空言汙人
名節以自見其風屬豈簡用言官之意耶魯蘭枝
施履亨均著傳旨申飭欽此

1081 軍機大臣 字寄

浙江巡撫阮 嘉慶七年十二月初四日奉

上諭阮元奏報十月分海塘沙水情形一摺覽奏俱

悉本年潮勢平穩漲沙多有增長一切塘坦工程

得資鞏固此皆仰賴

天后

海神靈佑著發去藏香二十枝交阮元敬謹祀謝並

默申祈禱以期永慶安瀾至阮元前經奏請陛見

已經降旨允准令其于年內來京現在藩司劉斌

業已告病新任藩司清安奏尚未到任著阮元暫

緩起程俟清安奏到浙後詳悉告知地方情形將

巡撫印篆交令護理再行來京此時且無庸亟亟

如按奉此旨已經起程仍回杭州候清安奏可

也又據奏陳大文病勢較愈情形一摺內所稱本

月初旬有伊家人由省進京呈遞奏摺之語日內

尚未見到既據阮元奏稱陳大文面色黃瘦行動

未能息病體實未愈爾應隨時遣員探問囑安心調養

如陳大文病體全愈後尚無做裝北上之信即催

令起程來京候旨簡用可也將此諭令知之欽此

遵

旨寄信前來

1082 嘉慶七年十二月初四日內閣奉

上諭據福昌等奏巡江哨船遭風浪斃防禦一員等

因一摺防禦哲克東額等帶領兵船出哨巡江陟

遇風電舡歌落水事屬因公均堪憫惻所有被淹

身故之防禦哲克東額落水救護得生之防禦善

佈領催喀寧阿俱著照臺灣官兵換班渡洋遠回

之例給予卹賞該部知道摺併發欽此

1083 嘉慶七年十二月初四日奉

旨嗣後雲南貴州四川廣西四省都司病故者俱照

守備以下之例一體給予勸合資送回籍以示體

卹餘依議欽此

1084 嘉慶七年十二月初四日奉

旨戶部會同倉場侍郎議奏欽此

御史赫霖奏調倉米摺

1085 同日奉
旨准其分別給予優叙欽此

恭進聖恩紀事刊本請給不哈館供事謹啟

1086 遵

旨將發往新疆之曾任二品以上大員現在未經

賞給頂戴者共有幾員交查兵刑二部茲據覆到尚

有員謹開繕名單並各摘叙案由進

呈謹

奏

十二月初四日

1087 阿玉什

原任京口副都統因與家奴王忝幅之妻喬氏

通姦致王忝幅扎傷喬氏身死因姦贖命有玷

官箴於嘉慶七年四月十八日奉

旨發往新疆効力贖罪

烏蘭保

原任福建總兵因遺失礮位案內該員不能預

行防範復將堵緝兵丁撤回操演未經先事的
撥以致礮位被失請發伊犁當差奉

旨先在該處加號一年於嘉慶二年九月內發往

張廷彥

原任湖北總兵因帶兵防堵被賊竄入境內又

不能約束兵丁於嘉慶三年七月內發往新疆

効力贖罪

四達色

原署山東副將因帶兵赴陝開村莊點放爆竹

疑為賊至施放排鎗次早復派兵查探以致妄

擊行人戮傷驛夫及永保行查又復捏詞詭辯

於嘉慶五年正月經松筠審擬加號三個月滿

日發往伊犁効力贖罪

七格

原任四川副將因帶兵勦賊受有毆傷並不稟

明經畧自往保寧調養於嘉慶五年閏四月內

奉

旨發往伊犁効力贖罪

1088 臣等遵

旨酌擬

賞給工賑紀事一百分名單進

呈恭候

欽定俟

發下後臣等仍行文各府尹將軍督撫等令於祇領

後歸入永遠交代再此內應

賞江西巡撫秦承恩一分臣等已先行傳

旨賞給合併陳明謹

奏

十二月初五日

1089 二阿哥

三阿哥

儀親王永璇

成親王永理

慶郡王永璘

定親王綿恩

榮郡王綿億

大學士保寧

慶桂

劉墉

董誥

琳寧

朱珪

予告大學士王杰

尚書劉權之

祿康

永慶

紀昀

豐仲濟倫

戴衢亨

德瑛

熊枚

縵布

彭元瑞

博典

左都御史恭阿拉

侍

郎文寧

汪承霖

曹城

范建豐

李鈞簡

英和

平恕

額勒布

錢樾

達慶

鄒炳泰

扎郎阿

莫瞻棗

恩普

闊槐

成書

劉鑠之

那彥寶

潘世恩

瑚圖靈阿

初彭齡

賡音

姜晟

蘇楞額

劉躍雲

明德

蔣曰綸

署侍郎戴均元

內務府大臣巴寧阿

左副都御史舒聘

萬寧

陳霞蔚

陳嗣龍

順天府尹閻泰和

盛京侍郎德文

多慶

花尚阿

穆克登額

薩敏

奉天府良貴

將軍晉昌

秀林

那奇泰

松筠

都統明亮

總督顏檢

費淳

惠齡

玉德

吳熊光

勒保

琅玕

署總督瑚圖禮

河道總督吳璥

署道總督嵇承志

漕運總督吉綸

巡撫岳起

王汝璧

倭什布

伯麟

馬慧裕

祖之望

阮元

李殿圖

秦承恩

全保

高杞

鐵保

孫玉庭

永保

福慶

政估山

延豐

賽尚阿

藍

1090 軍機大臣 字寄

雲南巡撫初 嘉慶七年十二月初五日奉

上諭據原任雲南巡撫孫曰秉奏大理府知府張度染患日疾懇恩給假調理一摺向來知府等官並無具摺奏請賞給暫假調治之例今張度染患日疾奏懇賞假百日辦理殊屬非是著初彭齡察着該員如日疾現已就愈仍令其照常供職倘一時未能速痊即照例題請告病開缺可也將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1091 臣等遵

旨傳到吉慶貴摺把總徐祖亮詳加詢問據稱吉從督于十月二十五日由永安回至惠州二十七日拜發奏摺我即於是日起身彼時蹄善博羅永安俱無賊匪惟永安所屬之塘田地方尚有餘匪孫提督帶兵在彼搜捕我起身時尚未知吉提督革去協辦大學士之信亦並無另賞呈遞之摺等語 等查十一月初三日欽奉

諭旨將吉慶革去協辦大學士由五百里發往該摺差於十月二十七日起身自尚未聞知此信謹奏
十二月初五日

1092 嘉慶七年十二月初六日奉

旨整圖准其調補蘇州府知府西道徐州府知府員缺著即以瑪珏補授欽此

1093 嘉慶七年十二月初六日內閣奉

上諭據吉慶等奏請將剿捕博羅永安匪徒案內出力武職人員懇恩量加鼓勵等語恭將唐光茂保興遊擊胡俊鴻王鵬都司德昌守備關瑞龍魏定揚董定銓金浦均著加恩交部議叙水師都司許廷貴任內降級留任之案加恩准予寬免欽此

1094 嘉慶七年十二月初六日內閣奉

上諭博羅會匪滋事前經瑚圖禮奏附近之土水堆於耆等出資募勇嚴懲賊匪防護村莊當即諭令

瑚圖禮查明為首出力之人保奏候旨加恩茲據
 瑚圖禮覆奏候補監經歷李楓當匪徒初起時首
 先捐資購買糧石復會同武舉朱有翰監生譚衛
 清李瓊瑞及書吏陳芝^等雇募鄉勇多名隨同地方
 官奮勇剿賊等語該紳士急公向義實屬可嘉李
 楓朱有翰譚衛清李瓊瑞均著加恩於現有頂戴
 上加一等賞給書吏陳芝^等著賞給八品頂戴以示
 獎勵摺併發欽此

1095 軍機大臣 字寄

署兩廣總督瑚 署廣東巡撫那 嘉慶七年

十二月初六日奉

上諭前經降旨令瑚圖禮密查吉慶辦理博羅永安
 會匪有無激變溢殺情事茲據奏稱粵東地方結
 黨拜會者各處多有其初不過糾約無業之徒希
 圖搶劫惟陳爛^履四家頗殷實平日雇人潛買硝
 磺打造兵器一節廣東民情獷悍此等游民糾約
 結會之初如果隨時懲辦其風自可漸戢至陳爛
 履四竟敢配造火藥製辦器械府縣等若早行覺

休

察立時嚴辦亦何至釀成事端殃及無辜該處地
 方官豈非形同木偶即瑚圖禮亦不能諱失察之
 咎究竟該府縣等曾否將陳爛^履四謀逆之事具
 稟上司何以遷延不辦著瑚圖禮那彥成據實查
 奏至所稱吉慶辦理此案時將捕獲之犯正法七
 百餘人俱未訊錄確供等語是吉慶之濫殺於前果
 不出朕所料又據稱逃竄餘匪藏匿深山窮谷所
 在尚多吉慶現於博羅縣屬留兵一千名永安縣
 屬留兵二十名分段彈壓等語可見吉慶所奏永
 安全境寧謐之語仍屬^{草率}未了該匪等逃竄深
 山若任其日久藏匿勢必搶掠口食則山內居民
 豈不遭其蹂躪自應派員帶兵入山將實在謀逆
 之賊搜捕淨盡其餘脅從者不妨量加安撫方為
 正辦今但設兵於山外巡查待賊出山始行擒
 捕則守株待兔何日始能完事著瑚圖禮那彥成
 體察情形妥為籌辦勿任久匿蔓延為要本日又
 據吉慶奏到永安地方寧靜情形一摺不過寥寥
 數語仍未將曾清浩官粵瓏賴東保三人是否尚
 在監禁抑或竟已釋放之處據實具奏而摺尾又

稱於拜摺後即起程回省是吉慶之意以此事業
經辦竣曾清浩等三犯諒必早經釋放其為踈縱
無疑至曾鬼六一犯亦未提及實在下落自係逃
匿入山著瑚圖禮等遵照前旨查明妥辦又據吉
慶另片奏歸善會匪聚聚滋事時提臣將兵安
於城上營汛砲位收回城鄉人心惶恐等語而瑚
圖禮奏片內又有孫全謀於辦理永安會匪專主
招安並不剿捕之語從前吉慶屢次摺內均稱孫
全謀帶兵打仗甚屬奮勇今此次奏片內竟似奉
勅該提督前後自相矛盾孫全謀係武職大員剿
賊乃其專責豈有轉主招安之理况隨同提督帶
兵諸事自由吉慶調度孫全謀安兵城上收回營
汛砲位種種情事吉慶既早有見聞彼時若吉慶
以其所辦非是即當嚴行參奏何待此時始行奏
出竟係吉慶知朕降旨查辦輒思諂過他人自佔
地步故為此奏又吉慶摺片內稱瑚圖禮因太平關盈
餘歸公深恨吉慶南韶道朱棟諫言以致辦軍務之人觀望等語
關稅歸公事與軍務毫無關涉朱棟究係作何諫言何致
辦理軍務之人因此觀望言慶所稱瑚圖禮因此深恨之語著

那彥成傳諭吉慶令其據實指出又稱伊患病月
餘現在誠恐瑚圖禮作賤惟願病不能痊等語尤
不成話吉慶現患何病其所稱恐被瑚圖禮作賤
之憂著那彥成令吉慶當面指出據實具奏至吉
慶保奏軍營出力文武各員紳士一摺除武員唐
光茂等已降旨加恩外其文職卸庭濬等各員及
紳士名單均著發交瑚圖禮那彥成覆加查核其
中如有冒濫者即行刪去有遺漏者查明添入另
行具奏候朕再降恩旨又據奏博羅永安二縣酌
添兵丁防守一摺著瑚圖禮那彥成查看該處地
方情形再行妥議具奏又吉慶另片覆奏博羅永
安二縣會匪滋事並非勾通洋盜現飭緝淨盡
等語博羅永安距跌較遠此次會匪滋事自未必
勾通洋盜但欲緝拿淨盡諒何容易著瑚圖禮那
彥成飭令員弁實力查拏務使匪徒絕跡以期緘
靖地方吉慶各原奏並摺片均著發交瑚圖禮那
彥成閱看將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1096 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年十二月初六日奉

上諭本日汪志伊奏到患病情形一摺據稱伊於八
月內氣體雖未復元精神頗可支持擬定九月十
二日起程詎因赴墓祭掃秋高氣涼感冒風寒疾
又大作現在上紫設法調理等語前於十一月二
十三日據王汝壁奏稱汪志伊病勢秋冬以來聞
已就痊等語今甫閱旬餘而汪志伊又以胃痛甚
劇自行具奏或竟係聞知朕降旨查詢故爾裝點
病狀則其咎更重著王汝壁即派遣府人員密赴
汪志伊家察看其精神狀態是否實係患病其所
稱掃墓感冒現在延醫調治之處無難訪詢而知
且有醫生藥方俱可查問得實如果汪志伊實在
舊病復發竟將伊力疾解京或行至中途稍有事
故轉覺不成事體王汝壁即當令其安心調理俟
痊愈後再行進京如驗得汪志伊實係捏病飾奏
則是辜負厚恩無可寬恕即著王汝壁據寔奏
並遵前旨派員將汪志伊押送至京候朕再降諭
旨將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1097 嘉慶七年十二月初六日內閣奉

上諭刑部題駁奉天省問擬斬候淫兇不法之吳老
屋請改為斬決一本所駁甚是已依議行矣此案
吳老屋與張智氏通姦後復將其女六姐八姐先
後誘姦嗣因圖娶其幼女三姐不遂輒同張智氏
將三姐按炕強行成姦仍欲逼成親事其兇淫情
狀已屬可惡迨張進寶將伊妹三姐帶往藏避該
犯又主令六姐持刀往殺張進寶之妻何氏並咬
令張智氏誣告伊子忤逆種種奸惡實為兇棍之
尤情罪重大自應依例問擬斬決該侍郎等于辦
理此案時曾經咨請部示經刑部咨覆甚明自當
妥協定擬乃該侍郎等仍僅照姦夫教令姦婦誣
告其子不孝依謀殺人造意律擬斬監候具題辦
理實屬寬縱穆克登額等著傳旨申飭欽此

1098 軍機大臣 字寄

署廣東巡撫那 嘉慶七年十二月初七日奉

上諭據那彥成奏稱十一月二十二日行至清遠縣
地方風聞吉慶回省病故隨於是日申刻據瑚圖

禮差人報知吉慶於二十日已刻病故屬寔等語
 那彥成奏報到時適吉慶亦有四百里奏到之摺
 即係二十日拜發是日發摺時至早想亦不過卯
 辰之間且閱其摺內所叙情節較之往常奏報轉
 為明晰豈早刻尚能照常辦事不逾時旋即身故
 耶昨日吉慶摺內片稱患病月餘未敢具奏並有
 恐糊罔禮作賤惟願病不能痊之語即不成話伊
 此次發摺時如果病勢沉重自必隨摺聲叙何以
 以轉無一字提及即糊罔禮同在省城並不將吉
 慶身故之處專摺馳奏僅差人知照那彥成又未
 將吉慶所患何病詳志報知事屬可疑其中恐有
 別項情節必須確切查明前因吉慶於會匪一案
 種種辦理不善是以降旨將伊革去協辦大學士
 解任交那彥成等秉公查辦伊現在業已身故即
 著那彥成就近訪查如果吉慶剿辦博羅永安會
 匪寔有張皇濫殺激成事端等情或伊夙聞現派
 欽差赴粵查辦此事恐獲重罪或另有別項方款
 慮其舉發自尋短見則吉慶死有餘辜倘吉慶寔
 因督兵剿捕積勞成疾而其辦理會匪一事尚無

殊

濫殺激變等情即有未能妥協之處咎止於罷斥
 尚當宥其前愆加以恩卹那彥成不可以吉慶已
 故將辦理種種舛錯歸罪吉慶一人而置孫全謀
 等於不問藉此含糊完結亦不可憐其身故曲為
 開脫那彥成^{一乘至公}摺當持平核辦據實直陳不得一字
 稍涉欺飾將此由五百里諭令知之欽此遵
 旨寄信前來

1099 軍機大臣 字寄

署兩廣總督瑚 署廣東巡撫那 嘉慶七年

十二月初七日奉

上諭據吉慶覆奏將投出首匪曾清浩等遵旨審辦
 各摺前因吉慶於首匪曾清浩官勇隴額東保等
 投出後速請安插辦理失當曾降旨令其訊明定
 擬此時既將該犯等提至省中即著瑚圖禮那彥
 成詳加研鞠如寔係被官兵擊獲並非自首即應
 立正刑誅倘曾清浩等三名及陳有達等二十一
 名均係悔罪率眾投出當訊明情節將該犯等應
 得罪名照例定擬具奏候旨遵行不必遽請王命

正法至曾鬼六一托尚無寔在下落總須嚴飭將
弁各地方官上緊搜拏毋使漏網再永安山內之
賊若聽其日久潛藏勢必搶掠口食甚至復出滋
擾居民多受其累亦應遵照昨旨妥為籌辦以期
綏靖地方勿任久匿蔓延為要將此由五百里諭
全知之欽此遵
旨寄信前來

1100 臣等遵

旨將平定湖南苗疆戰圖平定貴州犉苗戰圖各八

十分酌擬

賞給名單進

呈恭候

欽定謹

奏

嘉慶七年十二月初七日奉

旨知道了欽此

1101 擬

賞圖冊十五分

二阿哥

三阿哥

儀親王永璇

成親王永理

慶郡王永璘

定親王綿恩

榮郡王綿德

大學士保寧

慶桂

劉墉

董誥

予告大學士王杰

御前大臣拉旺多爾濟

經畧大臣額勒登保

叅贊大臣德楞泰

擬

賞圖冊六十五分

協辦李萬霖等

朱桂

尚書劉權之

祿康

永慶

紀昀

豐仲濟倫

戴衢亨

德瑛

熊枚

縕布

彭元瑞

博興

左都御史赫阿拉

汪承霈

侍郎曹城

范建璽

英和

額勒布

錢樾

達慶

鄒炳泰

札郎阿

莫騰萊

關槐

成書

劉錄之

那彥寶

潘世思

瑚圖靈阿

初彭齡

賡音

姜晟

蘇楞額

劉躍雲

明德

蔣曰綸

署侍郎戴均元

總督顏檢

費淳

惠齡

玉德

吳燕光

勒保

琅玕

署總督瑚圖禮

河道總督吳璣

嵇承志

漕運總督吉綸

巡撫岳起

王汝璧

倭什布

伯麟

馬慧裕

祖之望

阮元

李殿圖

秦承恩

全保

高杞

鐵保

孫玉庭

永保

福慶

衍聖公孔慶鎔

1102 軍機大臣 字寄

署兩廣總督瑚 署廣東巡撫那 嘉慶七年

十二月初九日奉

上諭瑚圖禮奏吉慶身故緣由並現在派員分投安撫永安百姓各情形等摺吉慶竟係自戕身死寔屬大奇之事殊駭聽聞此時傅羅等處百姓均已復業自可放心惟摺內稱永安百姓因匪徒放火搶掠投首釋放安然無事未免積起難平等語此種情形朕早經料及亟宜妥為撫卹以安人心瑚圖禮前已有旨令其署理兩廣總督此時自應留

殊

省生鎮那彥成現署撫蒙該處民情既未盡寧帖
 即應親赴永安認真緝緝妥為辦理如曹清浩官
 粵瓏賴東保等果係畏死率眾投出吉慶業經釋
 放今復挈回著遵照前諭將該犯等定擬具奏候
 旨遵行倘其中^{有餘伴}係保^匪並非自行投首者訊明
 後即應將該犯帶赴永安於犯事處^{今與民親者}正法示眾
 並明白曉諭永安百姓以永安會匪胆敢倡亂謀
 逆擾害良民原屬罪在不赦爾百姓無辜受其荼
 毒吉提督速將伊等釋放皇上早因其辦理失當
 已降旨將伊革去協辦大學士並解兩廣提督之
 任伊亦自知獲咎甚重現已身故今遵旨將^伊獲
 匪犯於犯事地方明正典刑以洩眾憤其自行投
 出者定罪請旨辦理爾百姓積忿已紓各宜安靜
 守法復歸舊業倘有不安本分甚或私相仇殺滋
 生事端則爾等目無法紀竟同謀逆必當一併嚴
 加懲辦以儆頑不能稍為寬貸如此惟切宣諭
 庶可以服衆心而安良善至被害地方有應須賑
 卹之處瑚圖禮等應督飭派出各員上緊妥辦以
 期地方速就寧謐將此由五百里諭令知之欽此

遵

旨寄信前來

1103 軍機大臣 密寄

署廣東巡撫那 嘉慶七年十二月初九日奉

上諭前日據那彥成奏報吉慶病故並未將伊所患

病勢情形聲叙朕即以其事屬可疑當經降旨交

那彥成密為查辦本日瑚圖禮報到片稱吉慶是

係自戕身死實屬大奇之事^{人絕不愛主惡死吉慶有恙不得已}前此吉慶摺片內有

伊患病月餘恐瑚圖禮作賤惟願病不能痊並有

瑚圖禮回太平間盈餘歸公深恨吉慶南韶道朱

棟謠言以致辦理軍務之人觀望等語吉慶與瑚

圖禮近在同城如有將提督作賤之實自必人所

共見共聞可以甘心詢訪至吉慶署內現有親丁

家屬亦可擇其明白曉事者詳加詢問吉慶患病

係何症候曾服何藥平日曹否有受屈不平之事

無難得其確據其太平間盈餘歸公後吉慶有無

從中侵蝕之虞瑚圖禮是否因此歸怨吉慶有何

憑據道負朱棟究係作何謠言何以辦理軍務之

殊

人心存觀望著那彥成訪查明確秉公據實具奏
如吉慶竟係心虛畏罪或尚有別項劣款自尋短
見則吉慶死有餘辜倘另有別情瑚圖禮所奏未
寔朕豈肯令搢督大負抱屈而死搢之那彥成查
辦此事惟當一秉至公毫無瞻顧不可因瑚圖禮
現署搢督若將伊恭劾即臨觀覲此缺之嫌設此
事果與瑚圖禮干涉亦不將那彥成補放搢督不
必預存避嫌之見至吉慶前奏歸善會匪聚眾時
提臣孫全謀將兵安於城上營汛砲位收回瑚圖
禮又奏稱孫全謀辦理永安會匪專主招安並不
勦捕是此案辦理不善自應查明貽誤確情專摺
恭奏不可因吉慶已故歸罪伊一人而置孫全謀
等於不問也將此由五百里諭令知之欽此遵
旨寄信前來

1104 軍機大臣 字寄

管理圍場副都統台 嘉慶七年十二月初九日奉

上諭台費蔭奏解任翼長圖勒棍趁空自戕請俟傷
愈送部並自請議處一摺此案圖勒棍前曾供稱

收過走車票錢七十餘千今因怕進刑部趁空自
戕自係畏罪情虛或所得贓私尚不止此數亦未
可定現在傷重未愈此時且不必解送刑部圖勒
棍係緊要人犯著上緊醫治痊愈後即行送部至
解任人員例本不上刑具台費蔭疎於防範之咎
尚有可原其自請議處之處且無庸交議將此諭
令知之欽此遵

旨寄信前來

1105 嘉慶七年十二月初九日奉

旨知道了其遺漏送冊之提督王柄提兵富志那魁
保署提兵納爾松阿俱著交部照例察議欽此

1106 嘉慶七年十二月初九日奉

旨內務府廂黃旗護軍統領艾坤年逾九十著以原
品休致其員缺著該衙門照例請補餘著照舊供
職欽此

1107 嘉慶七年十二月初九日內閣奉

工諭昨據初彭齡覆奏審訊已革道員胡鈺失察家人等款懇請免其治罪一摺朕詳閱情節胡鈺並無營私婪賄等弊初彭齡前次遽請革審本覺過當此次審明後又不來奏請開復辦理亦屬未合倚之見朕未明降諭旨仍交部臣核議茲據該部奏稱胡鈺于原察各款均已審虛並無罪名可擬其誤行詳委及失察家人犯贓自有應得處分請照例開復原職交部議處所議甚是前此初彭齡奏奏胡鈺各款內惟欲以常明查抄玉器朝珠等物代抵官項一節是其咎之重者必須查訊明確今據初彭齡查奏胡鈺向伊面稟代常明變抵什物係在八月中旬而常明任所家財於八月二十三日始奉到諭旨查抄是胡鈺稟請售變在前豈能逆料常明必有籍沒之事且胡鈺稟商售變其時並未先行初彭齡以胡鈺于常明既奏之後即不計及將來查對家產亦不應聽其託售此未免深文周内其于屬員委署吏調一節並未有所請情弊其咎止于草率至伊家人楊裕求索書吏銀

兩亦止係失于覺察胡鈺係原任總督胡季堂之子朕于大臣子嗣遇有忝劾事件固不肯意存寬縱亦豈肯因係大臣之子有意從嚴辦理惟視其獲咎之重輕初無偏倚之見胡鈺著加恩開復原官仍交部議處以昭平允餘依議欽此

1108 臣等前在熱河面奉

諭旨令將陳設之萬年國寶冊一冊增入嘉慶通寶

錢圖說臣等當即請出回京後復蒙

諭旨令於

乾清宮陳設冊匣內一併添入茲將戶工二局暨

各省錢樣繪出並查明戶部增減爐座鼓鑄外

期各緣由擬繕說帖粘貼進

呈恭候

欽定發下後臣等當先將熱河一分照式繕就裝裱

冊頁呈

覽以便俟熱河年班摠管進京時交令帶回其

乾清宮陳設冊本係有樣錢陳設今亦已交寶泉

局鑄出各省樣錢統容再行裝潢進

呈惟西藏銀錢查戶部及錢局並未有呈進樣錢
現已行文咨取復到尚需時日是以臣等干樣
本內留出空白俟西藏銀錢送到時繪出樣本
進

呈再將原錢補入

乾清宮陳設冊內其熱河陳設冊內亦另行繪樣

寄交該處提管補粘于空白處所謹

奏

1109 軍機大臣 字寄

盛京將軍 直隸總督 山西巡撫 綏遠城將

軍 嘉慶七年十二月初十日奉

上諭秀林奏吉林遣犯奇明阿在配脫逃一摺該犯
係綏遠城錄黃旗閩散因脫逃投回不服管束發
遣吉林隨旗當差今敢在配脫逃非潛回本城即
係沿途逗遛著傳諭盛京將軍直隸總督山西巡
撫綏遠城將軍飭為一體嚴拿務獲毋任遠颺所
有該犯年貌單著抄寄閱看將此諭令知之欽此

遵

旨寄信前來

1110 嘉慶七年十二月十一日內閣奉

上諭琅玕等奏麗江府屬礦廠益井額課銅餉短缺
及稅秋等米不能完交情形一摺本年麗江維西
等處廠井因被豫匪滋擾課項墮悞尚屬實在情
形所有維西廳屬之紅坡吉咱廠年課銀一百四
十七兩零又迴龍廠缺額銅二萬一千六百八兩
零及短少年額銅撤課銀三千二百四十餘兩又
高軒井缺額益七萬一千一百兩該課產等銀七
百十兩零又維西通判年抽阿墩子進口沙鹽變
價銀五十二兩零俱著加恩概行豁免其高軒井
尚未趨補清查案內墮煎益三千五百三十兩著
緩俟嘉慶八年起分作二年趨煎歸補再維西廳
麗江縣地丁錢糧前經降旨加恩蠲免其應徵秋
米若令照舊完納民力尚形拮据並著加恩將維
西廳本年應徵稅秋等米一百五十石零麗江縣
應徵秋米一千五百四十一石零折徵米六百九
十五石零及麗江府應徵官庄租米一千三百八
十五石零一併蠲免以示朕軫念邊徼窮黎至意

該部知道欽此

1111 嘉慶七年十二月十一日奉

旨瞻柱於董邦安等借捕獲民刑訊致斃未能查察
固有應得之咎但其事究屬因公瞻柱級不敷抵
其應定降一級之處著加恩改為降二級從寬留
任王德著降一級留任汪志著於補官日降一級
留任餘依議欽此

1112 軍機大臣 字寄

安徽巡撫王 嘉慶七年十二月十二日奉

上諭王汝璧奏報宿州賊匪放火戕官帶兵馳往撲
捕一摺看乘此事自由該署州平日有擾累地方
取怨百姓之事本係此次放賊有剋減情弊以致
匪徒糾約擁入衙署燒燬房屋殺害全家與從前
直隸大名府之段文經山東德平縣之楊壇戕官
滋事相仿該匪犯等胆敢殺害知州目無法紀自
應上緊拿獲嚴行懲辦現據王汝璧帶兵五百名
馳往查辦並飛咨撥兵王集帶兵馳赴會同擒捕
該處有巡撫撥兵在彼督率自已足資辦理該匪
等無難剋期就獲此事務當照戕官之案辦理斷

不可視為叛逆大案過涉張皇目前先以安撫百

姓為要王汝璧即當出示曉諭以該匪犯等戕害
官長燒燬衙署寔為法所必誅此次帶兵前來專
為擒捕戕官首從各犯與安分良民豪無干涉爾
等當各照常執業切勿稍有驚疑如此先行通諭
俾該處百姓等廬井相安不致心生駭懼方為妥
善至該署州平日居官如寔有殃民激變情事不
妨續行叅辦其案內擒獲各犯詳悉鞠訊後有應
行凌遲斬梟者即一面錄供奏聞一面分別辦理
以儆兇頑再該撫此次發摺時係初得該撫府等
稟報自未能詳悉情形嗣後自必續接稟報務將因
何起衅緣由並該匪等共有若干人數為首係屬
何人戕官後是否各行散去抑尚在何處聚集據
實速奏以慰廛注將此由五百里諭令知之欽此

旨寄信前來

1113 軍機大臣 字寄

直隸總督顏 嘉慶七年十二月十二日奉

上諭晉昌等奏籌撥旗民各倉米二十萬石解通存貯等語此項米石經由海道必須堅固船隻運載方為穩妥著傳諭顏檢核定足敷二十萬石米數船隻于明年春間分往各海口裝運毋稍遲悞所需席片秫稻運脚盤費等項照例動用部核銷將此傳諭顏檢並諭晉昌知之欽此遵旨寄信前來

1114 嘉慶七年十二月十二日奉

旨此案慶徠濫開軍需銀兩為數最多情節較重著即解任開缺交玉德泳員解往貴州交與福慶督同藩臬司秉公審訊據實具奏琅玕兩案嚴加議處之處著交部分別辦理至成寧呈送琅玕銀貳千兩是否帶兵之需抑係私行餽送并著交福慶確查具奏餘依議欽此

1115 嘉慶七年十二月十二日奉

旨全德應繳銀五十四萬四千兩業據繳過銀三十萬兩並免繳銀十五萬兩祇欠繳銀八萬四千

兩所有未完銀兩均係全德名下應交之款伊兄明德不過代認完繳著加恩寬免四萬兩其餘銀四萬四千兩並著在明德及全德火子筆帖式康寶休應每年扣繳一半不必按年全扣用示體卹俟全德長子候選直隸州晉寶三子候補騰錄官陞寶選補得缺後將俸應一體照此扣繳清完官項欽此

1116 嘉慶七年十二月十二日內閣奉

上諭都察院奏議處吏部堂司各官越次保留吳侍曾等因一案請將掌選郎中和精頭翁徵照朦朧稟說公事律謀以革職一摺所奏殊未平允各部院衙門保留題陞等事均由堂官酌定具奏其承辦司員祇係檢查例案繕辦稿件此案該部將到署在後之吳侍曾先行奏留後將臧奎相試着數月續行留部及將孔毓璠奏陞本部主事均係該堂官主見該郎中等於辦稿時未將吳侍曾臧奎相到署先後日期據實聲叙而於保留孔毓璠摺內按照張宗純方觀泳之處又未將成案隨事詳

陳固有應得處分但其答止於查察未能詳晰並
非有心朦混今都察院議以革職設過司員等寔
有朦混壹官情事又將如何議處耶辦理寔屬過
當和積頌貴微均着加恩降補吏部主事至考功
司郎中寧泰於奏留臧奎相時並未將考語向各
堂回定即移付選司辦稿跡涉專擅今都察院於
應行察議之吏部堂官議以罰俸一年而於該郎
中轉議以罰俸六個月亦未允協寧泰著罰俸一
年其吏部堂官着依議均罰俸一年欽此

1117 嘉慶七年十二月十二日內閣奉

上諭福建興泉永道員缺著朱理補授欽此

1118 嘉慶七年十二月十三日內閣奉

上諭浙江衢州府知府員缺著那英補授欽此

1119 臣慶 臣董 謹

奏遵

旨恭查嘉慶八年正月二十九日

孝儀純皇后忌辰

遣員行禮一本因何不恭照

忌辰日期先後依次呈進詢據太常寺官覆稱准掌儀

司知會本年十一月二十五日業經奉

旨派二阿哥前往行禮欽此當經行文各該處照例

預備是以未經再行進本謹

奏

十二月十三日

臣慶 等謹

1120 奏為遵

旨具奏事本月十二日太常寺所進本章未將

孝儀純皇后忌辰

遣員行禮本章先期呈進一事奉

旨交軍機大臣查明具奏欽此臣等恭查十一月初

三日總管張進喜等所奉明年正月二十九日

孝儀純皇后忌辰派二阿哥致祭

諭旨原令該總管等屆期撰奏乃張進喜誤傳內務

府大臣記載其時豐仲濟倫英和額勒布在彼

聽聞亦不應傳知掌儀司以致該司等率行移
咨各處及太常寺衙門一體遵辦俱屬錯悞至

太常寺承辦祭祀大典恭遇

孝儀純皇后忌辰自應按照日期依次進本恭請

遣員即因掌儀司行文知會業經

派二阿哥前往行禮亦應照例遞本附片聲明乃

竟未呈進尤屬疎漏所有總管太監張進喜等

諭旨應請罰月銀三個月其總管內務府大臣豐仲

濟倫英和額勒布及掌儀司承辦司員應請交

內務府分別議處太常寺衙門于關係祭祀大

典本章不照例呈進應請將堂司各官交部分

別嚴加議處其正月二十九日

孝儀純皇后忌辰

遣員行禮本章即遵

旨令太常寺於一二日內補行呈

進所有臣等查議緣由理合繕摺具

奏伏候

訓示遵行謹

奏

再恭查

孝儀純皇后忌辰題請

遣員行禮本章上三屆俱於十二月初七十一等

日呈

進兼管太常寺事務永慶於十一月二十五日到

任此次未曾進本係永慶任內之事理合附片

奏

聞

十二月十三日

嘉慶七年十二月十三日奉

旨依議欽此

1121 嘉慶七年十二月十三日內閣奉

上諭明年正月初六日孟春時享

太廟遣官致祭自初三日為始齋戒三日是日因恭值

皇考高宗純皇帝忌辰前已令軍機大臣會同禮部將

朕所御服色恣心的議旋據慶桂等奏稱是日究

在齋戒期內懇請御藍袍青褂其陪祀及執事之

王公大臣官員穿貂褂紅青褂掛朝珠其無執事

人員穿貂褂紅青褂掛朝珠其無執事

及不陪祀之王公大臣官員俱穿紅青褂不掛朝珠所議固是但思孟春時享係遣員恭代行禮與親詣行禮者不同所謂吾不與祭如不祭朕端處宮中若究御藍袍於心究有未安來年正月初三日朕仍御青袍青褂用展慕思其有執事及無執事之王公大臣等應用服色均著照議行欽此

1122 軍機大臣 字寄

貴州巡撫福 嘉慶七年十二月十三日奉

上諭初彭齡奏查明鉛廠虧缺情形請分攤賠補一摺據稱軍興時借用鉛餉工脚銀六十二萬八千餘兩除撥還外尚有未運銀三十六萬五千餘兩等語此項借用銀兩曾否奏咨有案現在查出虧短鉛餉按照例價及核計運脚銀四十三萬三千六百餘兩是否又在軍需借用銀兩之外初彭齡摺內未經聲敘明晰如實係軍需借用報部有案則非盡廠員虧缺之款若全係廠員等虧短無著自當查明經手各員嚴參懲辦現已降旨交戶部核議著侍諭福慶督同百齡將以上款項逐一查

明並將如何著賠補之處開列清單詳晰具奏將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

1123 嘉慶七年十二月十三日奉

旨初彭齡奏查明鉛廠虧缺情形請著落歷任廠員並該管上司分攤賠補一摺此項軍需借用鉛餉工脚銀兩曾否奏咨有案現在查出虧缺鉛餉按照例價及核計運脚共銀四十三萬三千六百三十七兩零是否又在軍需借用尚未撥還銀三十六萬五千餘兩之外其應如何著落歸款之處著戶部查明核議具奏欽此

1124 軍機大臣 字寄

廣東巡撫鐵 嘉慶七年十二月十三日奉

上諭鈇保奏探聞宿州匪徒聚眾戕官酌量派兵協同堵禦一摺覽奏俱悉宿州地方匪徒胆敢潛入州城戕害文武各員鈇保接到准徐道徐端稟報即於漕標內撥兵二百名飭委中軍副將五十三

帶領馳往接近宿州之要隘各處密為巡緝所辦甚足缺保前已簡放廣東巡撫其漕督印篆將次交卸缺保一聞稟報即遴派官兵趕往協緝甚屬急公可嘉惟粵東永安會匪辦竣後尚須妥為緝輯關係緊要其宿州匪徒滋擾之事昨據王汝璧奏稱帶兵五百名馳往查辦並飛咨總兵王集帶兵前赴會同擒捕此時費淳亦由江寧親赴督剿該處有總督巡撫撥兵在彼督拏自無難尅期完事缺保於吉綸抵任時將一切漕務應辦事宜詳悉告知即行起程前赴廣東新任不可稍有耽延至吉綸接印任事後亦不必馳赴宿州惟應於毗連該州之淮屬山清桃一帶派兵堵緝倘有匪徒竄入立時拏獲該處為宿州頭二兩幫水次應嚴飭派兵出之備弁等協同地方官留心防範勿稍疎忽將此傳諭缺保並諭吉綸知之欽此遵

旨寄信前來

1125 軍機大臣 字寄

兩江總督費

江南河道總督吳

江蘇巡撫吳

安徽巡撫王 嘉慶七年十二月十三日奉

上諭據吳璣岳起等奏安徽宿州匪徒聚眾戕官酌派官兵協同堵緝並馳赴徐州查辦一摺此事昨已據王汝璧奏到當即降旨令其妥為查辦該匪犯等胆敢糾眾擁入衙署燒燬房屋戕害官員定屬目無法紀吳璣岳起等一聞稟報即馳赴徐州察看辦理所見甚是但王汝璧現已帶兵五百名馳往宿州壽春鎮總兵王集並會同擒拏且費淳亦已檄調附近官兵由浦口前往督辦日內亦必奏到該處有總督巡撫撥兵三人在彼督拏自己足資辦理吳璣岳起等俱不必親赴宿州祇須酌派兵役於該州接壤地方各要隘渡口嚴密防堵倘匪徒等乘間竄入即應上緊截拏毋任漏網如探得近日該處情形竟須多兵搜捕則吳璣岳起於防堵兵役內的撥前往幫同協緝自更易於得手至摺內稱傳聞宿州匪徒係該州東鄉民人於初一日潛入州城戕官焚掠城外有義民鄉勇圍守看此情形是該匪等均在城中聚集一處非同散竄城外現已調齊兵力無難立就擒獲著先傳

諭該擲勇等此時不必急於攻城俟大兵到齊後
 併力勦辦自可一鼓集事惟聞鐵保摺內稱匪徒
 等有白布纏頭纏腰號稱教匪之語此等宵小之
 徒糾約滋事其意不過假充教匪恐嚇愚民况現
 在川陝楚三省勦辦股匪將次剋絕根株大功指
 日告成豈得因該匪等假借教匪名目稍涉張皇
 致該處百姓紛紛疑駭摠之不必論其是否教匪
 惟當照賊官滋事之案妥速辦理不可稍有延緩
 再鐵保摺內有宿州匪徒戕害文武官員之語而
 王汝璧昨奏祇稱戕害該署州及其家口情節未
 甚相符該督等此次發摺時恐初得該地方官稟
 報自未能詳悉情形此案寔係因何啓祥摺內所
 稱匪徒多人究有若干為首之犯係何姓名必須
 查究明白吳璣等續接稟報後務將此事始末
 緣由先由五百里速奏以慰塵注將此由五百里
 諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1126 嘉慶七年十二月十三日內閣奉
 上諭耳霖宣化鎮總兵員缺著劉景昌補授欽此

1127 本日額勒登保等奏到摺內稱現在軍營帶兵

之直隸宣化鎮總兵富蘭接破兵部咨文該鎮
 之母在京病故現已飭令回旗其所遺員缺請
 旨簡員補放等語臣等謹將額勒登保前次保奏軍

營堪勝總兵人員及

記名應用總兵各員開具簽單繕寫空名恭候

簡放謹

奏

十二月十三日

1128 軍機大臣 字寄

兩江總督費 安徽巡撫王 嘉慶七年十二

月十四日奉

上諭本日據費淳奏到安徽省宿州被賊進署戕害官飛
 調鎮將帶兵剿捕並即親往督辦各緣由一摺此
 事業經王汝璧於十二日奏報昨又據吳璣岳起

鐵保等將派兵防堵情形奏到業經降旨諭令該
督等妥速辦理費淳之摺直至今日遲到未免稍
遲且較之吳璣岳起鐵保奏報之摺釐叙更屬寥
寥自係接到該府等初次稟報尚未能詳悉前據
王汝璧奏稱該匪等燒燬衙署殺害署知州章鼎
全家而鐵保摺內又稱將文武官員戕害吳璣等
摺內又稱戕官焚掠所奏不甚符合究竟該匪等
滋事時是否祇將該署州一家戕害抑並戕及在
城武員曾否傷害百姓燒燬民房該匪等共有若
干人數為首者係何姓名究竟因何起畔是否因
該署州殃民激變抑或另有別情現在該匪等是
否尚在州城屯聚抑已分竄何處昨吳璣等摺內
稱該匪等係該州東鄉民人城外有義民鄉勇圍
守等語該匪等驟然起事何以城外即有義民鄉
勇現在是否圍住不能遠逸又據鐵保奏稱該匪
以白布纏頭纏腰自稱教匪等語該匪等是否實
係教匪抑係假充名目希圖恐嚇百姓有無將白
布纏頭纏腰之事該督等現在所調各路官兵實
有若干前據王汝璧奏稱業已帶兵五百名前往

硃

王集六已帶兵馳赴會稽徐州一帶又經吳璣岳
起派兵堵緝鐵保六於漕標內撥兵二百名令副
將五十三帶領馳往接近宿州之各要隘巡緝是
四路均有官兵聲勢聯絡該匪等是否即時可以
撲滅抑人數較多竟須大加剿辦著費淳王汝璧
遵照指出各情節先由五百里據實馳奏不必俟
得有剿捕情形始行發摺致有稽遲也至費淳等
到彼後當妥速辦理不可過涉張皇亦不可視為
易辦心存疎備若可集之兵至用則已若賊多決少迭進
處百姓妥為安撫毋使稍有驚疑昨降諭旨甚明
其奏即開五百里六百里限可
該督等務須於迅速之中持以鎮靜將戕官首夥
各要犯上緊擒獲勿使一名漏網為要將此由五
百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1129 嘉慶七年十二月十四日奉

旨明年係屆滿詳會試之期雖應試舉人不足六十
名之數但自乾隆五十三年以後日久未經舉行
著加恩於明年舉行滿詳會試欽此

1130 嘉慶七年十二月十四日奉

旨太常寺色克族兵應役勒索錢文之民人李裕著
交刑部查訊治罪餘著軍機大臣議奏欽此

廣興奏案

1131 軍機大臣 密寄

河南巡撫馬 嘉慶七年十二月十四日奉

上諭安徽省宿州本月初一夜有賊匪多人突入
州署放火戕官之事節據該督撫等奏報現已帶
兵前往檢捕因思豫省與安徽額臺一帶在在毗
連安省兵丁素不得力著馬慧裕即密派明幹精
細員弁就近前往探聽刻下該處實在情形若何
應否需用多兵勒捕聞從前豫省林嵐管帶鄉勇
約有二千人訓練頗為認真現已歸入撫標馬慧
裕即將此項標兵密為預備並選擇得力將備一
有需用之信即可迅速帶領前往林嵐素為該兵
丁等信服即派令管帶同往自更得力不但安省
藉資協助即所以保護豫省但此時提項不動聲
色先事密為佈置切不可令員弁兵丁等遽知有

安省之事馬慧裕一保探有確音先由五百里奏

聞以便降旨遵辦如日內安省業已將賊匪首夥
全數擒捕地方寧謐即當諭知馬慧裕停止預備
將此由五百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1132 嘉慶七年十二月十五日內閣奉

上諭昨軍機大臣查議太常寺未將

孝儀純皇后忌辰違負行禮本章照例呈進請將該堂
司各官交部分別嚴議一摺已依議行矣但念永
慶兼攝太常寺事務到任未久一切典禮尚未能
諳悉自係誤聽司員之言以致將應遵本章遺漏
呈進所有永慶交部嚴加議處之處著加恩改為
議處永慶現已年逾七十其兼管之太常寺各衙
門一切禮儀及帶領引見等事恐未能辦理裕如
永慶著專管禮部事務所有太常寺鴻臚寺樂部
仍著長麟即以都統兼攝欽此

1133 嘉慶七年十二月十五日內閣奉

上諭據費淳王汝望奏勒捕宿州戕官賊匪現已獲

擊淨盡等摺此事節據該督撫等奏報本月初一
 日匪徒糾眾潛入州城戕害文武各員現在帶兵
 馳往督辦情形朕心正為懸厯茲據奏稱陞任臬
 司珠隆阿一聞稟報即於初五日馳赴宿州探得
 賊匪欲逃窺出城先經鄉勇等在城外圍守四晝
 夜當派令鳳陽府知府楊廷瑛督率義民鄉勇分
 投堵禦並親自率同守備劉連陞等帶兵由西門
 攻進賊匪胆敢放鎗拒捕珠隆阿被賊刀傷併力
 勦殺賊擒賊匪十數人旋經總兵王集帶領官兵
 於初八日趕到督同遊擊舒凌阿等攻圍州署奮
 勇進內將該匪徒等全行剿滅生擒二十名民情
 現俱安貼所辦甚屬妥速珠隆阿係屬文員經伊
 首先帶領兵勇前往圍擊致匪犯無從逃逸得以
 迅就擒獲且珠隆阿兩手頭面俱被刀傷甚屬能
 事有良心著加恩賞戴花翎交部從優議叙並賞給玉
 指一個花大荷包一對小荷包二個王集督兵趕
 辦將該匪等悉數殲除著加賞提督銜交部從優
 議叙並賞給玉指一個花大荷包一對小荷包
 二個知府楊廷瑛於該州匪徒滋擾本有失察之

殊

咎但究能率領兵勇晝夜堵禦著與此次剿捕出
 力之遊擊舒凌阿守備劉連陞艾鳳翔一併交部
 議叙並發去一兩重銀牌一百面五錢重銀牌一
 百面分賞出力兵勇以示鼓勵王集珠隆阿二人
 如另有奮勉出力之處仍著毋庸等查明據實具
 奏不可因朕業已施恩不行詳悉聲叙此外官兵
 義民鄉勇等擇其尤為出力者列名保奏候朕另
 降恩旨欽此

1134 軍機大臣 字寄

兩江總督費 安徽巡撫王 嘉慶七年十二

月十五日奉

上諭貴淳王汝璧同日奏報宿州戕官賊匪現在已
 勦辦淨盡一摺覽奏欣慰叩感

天恩

考佑不盡已明降諭旨將出力各員分別加恩矣前此
 賊匪滋事時突入宿州官署將該署州章昂戕殺
 並全家親屬亦均被害此事如果該署州平日擾
 累地方取怨百姓以致激而生變則章昂本有應

殊 殊

殊 殊

得罪名其死固不足惜若竟係亂民自作不靖該
 州既被戕害家屬又全遭慘殺情殊可憫即當加
 以恩卹著費淳等詳悉查明具奏候朕降旨並將
 該署州被害情形及家口被難幾人一併查奏至
 都司楊荃衛守備金振把總胡王賈沛均係武職
 人員並不管理民事地方官即有辦理失當之處
 與伊^等無涉初一日夜間一聞匪徒戕害州官即親
 自往捕以致受傷身死^{殊堪憐}著咨部照陣亡例賜卹
 並將如何被害之處據實查奏再該匪等在城內
 放火劫獄該督等應查明州獄內重犯幾名尋常
 案犯幾人其中如有從賊滋擾乘間脫逃者自應
 上緊查拏或有自行投到之犯亦即照例辦理至
 此事畧詳錄由及匪徒首犯姓名現有擒獲活賊
 二十餘名無難向其根究盡得確情此內如有為
 首^者不必株連^治以^殺官^{拒捕}之罪
 首要尤該督等於訊明後即一面奏聞一面分別
 凌遲斬決並查賊夥男婦三四百名內是否係匪
 徒家屬抑係無辜被害之人分別辦理其傷亡兵
 勇及紳士居民被賊戕害者查明咨部卹賞該處

被燬房舍被傷男婦均應醫飭局員認真撫卹現
 在匪徒業經辦淨王汝璧將本標後起兵三百名
 先行撤回歸伍所辦甚是其餘各處兵勇亦應酌
 量情形以次撤回並著咨會吳璣鐵保岳起將所
 撥兵役一體撤回並令各回本任辦事將此由五
 百里諭令知之欽此遵
 旨寄信前來

1135 軍機大臣 字寄

河南巡撫馬 嘉慶七年十二月十五日奉

上諭昨因安徽宿州地方有賊匪多人突入州署放
 火戕官之事曾降旨令馬慧裕將林嶺原帶鄉勇
 歸入撫標兵丁二千名密為預備本日據費淳王
 汝璧等奏報經該處鎮道等督兵剿捕將宿州賊
 官賊匪搜拏淨盡全行肅清所有豫省兵丁馬慧
 裕可無庸預備也將此由五百里諭令知之欽此
 遵

旨寄信前來

嘉慶七年十二月十六日內閣奉

上諭原任兩廣總督吉慶平日居官恭守廉潔辦理地方公事尚無貽誤前因查辦歸善博羅永安等縣添弟會匪一事節次奏摺俱係寥寥數語聲叙摠不明晰其前後自相矛盾之處甚多朕恐其有濫殺激變及有心疎縱情事諭令那彥成於江西審案之後就近赴粵查訊復因永安首匪曾清濤等三犯投出後吉慶不行定擬輒奏請安神辦理謬誤特將伊革去協辦大學士拔去雙眼花翎並解兩廣總督之任旋據瑚圖禮奏稱吉慶自戕身故更堪駭異恐其中必另有別情茲據那彥成查奏歸善博羅會匪實係叛逆吉慶帶兵攻勦殲厥渠魁餘黨瓦解地方遂得平靜吉慶辦理此案並非濫殺激變惟曾清浩等祇各帶百餘人投首而吉慶則奏稱曾清浩率夥投出四千餘人官粵瓏賴東保率夥投出一千餘人其官兵攻勦天字嶂賊匪一節並無其事吉慶率聽員弁稟報虛詞遽爾入奏並將永安投首賊目概予宥釋加以賞賚以致民心不服紛紛控訴吉慶慚畏文并因病後糊

塗自尋短見等語吉慶辦理疎縱種種錯誤之處固有應得之咎設曾清浩等三犯竟已釋放則獲罪甚重今據那彥成奏稱首犯曾清浩官粵瓏賴東保三人俱在監禁現經審明正法是吉慶之罪斷不至於死且吉慶平日素有廉名即此次獲咎亦不過革職或發往新疆効力將來尚可用為巡撫何至遽爾輕生況身為封疆大臣即罪在不赦亦當靜以待命豈得私行自盡效匹夫溝瀆之為是其自戕一節即吉慶之罪實無足惜豈尚可復邀恩卹至吉慶辦理疎縱之處既經那彥成查明委無別項情事亦不必再行追論著那彥成傳知伊家屬扶柩回旗並將吉慶前後獲罪及身故緣由通諭知之欽此

1137 軍機大臣 字寄

署兩廣總督瑚 署廣東巡撫那 嘉慶七年

十二月十六日奉

上諭那彥成奏查明博羅永安等縣會匪滋事緣由及吉慶辦理此事顛末覽奏俱悉已有明降諭旨

矣又據另卷審明永安滋事首匪先行正法一摺
 曾清浩官粵瓏賴東保三犯因挾積拳溫登元之
 撫膽敢分糾黨與至二三千人之多焚殺村莊肆
 行不法兇惡已極寔難曲邀寬貸即因其自首免
 其凌遲緣坐已屬法外施仁豈得賞其死罪瑯圃
 禮那彥成于審訊明確後將該三犯斬決臬示
 辦理尚是其在逃之曾鬼六等犯均係緊要頭
 目務須嚴拏弋獲按律辦理不可任令漏網此外
 零星逃竄之犯潛匿深山亦祇須購線躡緝自可
 無庸復資兵力至摺內所稱現在與賊相仇之人
 亦立有牛頭會名目等語此項牛頭會民人于添
 弟會匪滋事之初先將首犯溫登元擒拏送官本
 無不合但愚民糾眾立會同干例禁不但添弟會
 滋事之犯必須嚴辦即牛頭會之名目亦不可有
 糊圖禮那彥成當詳悉出示曉諭以現在歸善博
 羅永安等處添弟會滋事匪徒糾眾焚掠不法已
 極經官兵大加剿殺明示創懲其永安首犯曾清
 浩等三名官摺皆未經定擬今已奏明正法臬示
 爾等公憤已洩至糾眾立會大干例禁爾等本

殊殊

徐良善之人自應凜遵王法現在幫同剿賊惟當
 稱為鄉勇義民若設為牛頭會名目則一稱牛頭
 會一稱添弟會均干法紀無功而反有罪矣始容所有牛頭會
 名目爾等惟當永遠革除不可再有糾結倘經此
 次曉諭之後尚不知悔改仍前邀結多人設立會
 名甚至藉眾滋事則又與添弟會何異王章具在
 決不輕貸如此剴切曉諭庶該省民人漸知斂戢
 自不致復蹈糾眾結會惡習至曾鬼六等犯此時
 既尚未就獲亦可責令伊等幫同訪拏更易踪跡
 至惠州現有善後事宜應行經理那彥成馳赴該
 處惟當察者情形妥為籌辦其前此留防即可陸續
 撤回原伍再那彥成摺內稱孫全謀自受恩之
 後稍生滿假往往將殺人放火之犯一經投首即
 寧釋回家等語前此永安會匪投首到官紛紛釋
 放朕即以此事係恣蓄吉慶主見而孫全謀係提
 督大員亦有應得之咎續據吉慶奏稱歸善會匪
 聚眾時提臣孫全謀將兵安於城上營汛砲位收
 回等語糊圖禮摺內亦有孫全謀辦理永安會匪
 專主招安之語本日那彥成摺內亦云孫全謀於

投首之人遽行釋放以致受害之家怨氣沸騰是
孫全謀竟有辦理不善之虞不可不查辦示儆並
著瑚圖禮那彥成再行秉公詳查如孫全謀釋放
之犯祇得脅從移賊其容尚在可原若竟將為首
之偽控兵等概行釋放甚至現在逃匿未獲之
鬼六等亦係曾經釋放之犯則其咎甚重即當據
實奏奉候朕酌辦不可因孫全謀於鞫辦會匪一
事曾經降旨加恩稍存贖徇之見前因吉慶奏稱
有恐瑚圖禮將伊作賤之言曾降旨令那彥成查
明具奏此時那彥成既查明吉慶竟係畏罪自盡
與瑚圖禮無涉其所稱作賤之虞自係病中妄語
無庸再行查奏惟所稱道員朱棟播造謠言一節
有無憑據仍當查明據實奏聞此時新任巡撫鐵
保已有旨令其即赴廣東那彥成於鐵保到後即
將惠州現在應行經理之虞及查拿逸匪等事交
令接辦那彥成即來京復命可也將此由四百里
諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1138 軍機大臣 字寄

署江西巡撫姜 嘉慶七年十二月十六日奉
上諭本日姜晟附報使遞到具奏押解張誠基起程
並江省地方得雨情形一摺姜晟現在署理江西
巡撫印務該省今冬缺雨茲連沛甘霖該署撫具
摺奏報自應專差賁遞何必附報馳奏設此數日
內適無報便豈遂因此專發驛遞乎殊屬非是張
誠基現已押解來京其劉元虧短官項既經查訊
得實即行定擬具奏姜晟供奏承恩行抵江西交
代後即來京供職可也將此附廣東報便諭令知
之欽此遵

旨寄信前來

1139 軍機大臣 字寄

湖南巡撫高 嘉慶七年十二月十六日奉
上諭前因初彭齡奏湖南永綏廳協移駐花園茶洞
一節苗人欲行控阻百姓亦不樂從恐其中有未
盡周妥之處特降旨諭令高杞會同吳熊光並黔
省督撫體察情形悉心籌議具奏旋據高杞奏已

全行移撤復降旨諭令不必更張茲該撫接奉初次諭旨覆奏據稱從前設立永綏原以疏通道路彈壓苗巢迨後苗地歸苗全撤營汛而使一城孤懸於四面皆苗之地不惟無以制苗且反為苗制今將該廳協分駐於茶洞花園兩處與各鎮營協環峙包羅更於扼要之處加設汛卡使其靜不失所動而有制揆之理勢自較妥協等語永綏廳協孤懸苗巢既不能設堡也勇而居民亦机梗難安是移駐一事於楚省實有必不可已之勢况現已全行移撤自無庸另議至所稱痞苗等拆毀房屋爭佔逞兇一節該廳業已移撤所存空房苗人等彼此佔奪不過鬻觸相爭原無庸官為致詰惟當於扼要處所加設汛卡官兵等聲勢聯絡設遇苗人等出沒窺伺即當立時懲辦使知畏懼地方自可永臻寧謐著該撫等將如何加設卡座嚴密巡防之處仍會同黔省督撫妥議章程具奏將此傳諭高杞並諭吳熊光知之欽此遵

旨寄信前來

1140 嘉慶七年十二月十六日奉

旨這所奉散放賑票通同舞樂之南陵縣知縣石國傳縣丞劉蘭謝均著革職交該督撫提同革生高標及承辦書役人等嚴審定擬具奏現在費淳王汝璧均在宿州查辦事件如回省尚需時日即將案犯提往訊辦欽此

1141 嘉慶七年十二月十六日奉

旨黃鳴岐著准其調補祥符縣知縣欽此

1142 嘉慶七年十二月十七日內閣奉

上諭費淳等奏本年黃水過大南北兩岸堤工請分別如培以資防守一摺江境黃河本年盛漲非常墊塌蒲鋼邛昨等汛處處漫灘積淤較厚兩岸堤工卑薄難資捍衛該督等奏請酌量加培以為攔束漲水之計自屬寔在情形著照所請於應信增培處所飭令道府廳等確切勘估分段備辦俾堤工均臻鞏固其需用銀兩應於何項動支奏明請旨聽候酌撥該督等務須督率工員撙節辦理勿稍浮員欽此

1143 軍機大臣 字寄

江南河道總督吳 江蘇巡撫岳 嘉慶七年

十二月十八日奉

上諭吳璣岳起奏安徽宿州賊匪業經剿除伊等赴
徐宿交界一帶巡查即回本境緣由一摺覽奏俱
悉前因宿州匪徒戕官滋事該河督等一聞稟報
即馳赴交界處所飛檄官兵前往防堵嗣於十五
日據費淳王汝璧奏到該州匪徒業經珠隆阿王
集等先後帶兵搜捕悉數殲擒民情現俱寧謐當
經降旨將珠隆阿等分別加恩諭令費淳王汝璧
將兵勇等以次撤歸並令咨會吳璣鐵保岳起將
所撥兵役一體撤回茲據奏稱預備聽調官兵一
面飭令停止吳璣岳起親赴邊境巡閱順抵宿州
查看民情寧貼伊等即回徐州分投勘工查賑等
語所辦尚是惟所稱密訪該府縣及營員等於毗
連安省各屬地方加意巡緝一節此可不必巡緝
之事全在文武官員平日留心俾奸宄無由潛匿
地方自可肅清今因鄰境匪徒滋事之後始行巡
緝恐兵役等奉行不善或致跡涉張皇驚擾閭閻

轉辦緝地方之道况該處匪徒業已盡數斬獲
並無逸犯何必紛紛查緝吳璣岳起竟當各回本
任辦事可也將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

1144 軍機大臣 字寄

廣西巡撫孫 嘉慶七年十二月十八日奉

上諭孫玉庭奏恭進阮福映請封表文一摺阮福映
現已遴選陪价恭齋表文請封該使臣進關後即
令前赴省與前次使臣鄭懷德等會齊交臬司公
我安協伴送詣關約計何日可以到京於該使臣
由廣西省城起程時先行具摺奏聞至該國長表
文內請以南越錫封名國之處現交大學士會同
六部尚書議奏孫玉庭傳見該國使臣時且不必
提及一面遣送來京俟定議後酌辦可也將此諭
令知之欽此遵
旨寄信前來

1145 嘉慶七年十二月十九日內閣奉

上諭安南國為南徼藩服前此黎維祁與阮光平搆

兵光經率屬內投繼復棄國潛遁

皇考高宗純皇帝以黎維祁吳懦無能不能自振

天厭黎氏不宜復加扶植惟念其流離失所將黎維祁

送京入旗授職養贍其時阮光平修表效閩願求

內附並請親詣闕廷祝

釐瞻覲

皇考高宗純皇帝鑒其誠悃

錫之勅印封阮光平為安南國王阮光平受封之後時

修職貢終其身祇承

恩眷及伊子阮光鑽嗣封比年來閩粵洋面屢有劫盜

經疆吏訪聞入告該國竟有潛通窩納之事朕

以信懷遠人尚謂事涉疑似祇令飭知該國一體

查緝旋據阮光鑽自陳惶悚堅稱寔不知情本年

八月吉慶奏到農耐國長阮福映遣使賞進表貢

縛送盜犯莫觀扶等三名係內地奸民經安南招

往投以偽職並給與印劄行劫內洋審訊明確已

報厥辜是阮光鑽奏養盜賊通同劫掠負恩背叛

情跡顯然實為王章所不宥設阮光鑽此時尚膺

封土必應聲討以懲兇詐乃伊國連年與農耐

戰攻上年阮福映拔取富春時阮光鑽輒將天朝

預 勅 印 遺棄潛逃其罪更無可逭阮光鑽不念

皇考高宗純皇帝覆憐深息又不能繼伊父之志于臣

為不忠于子為不孝今己自取滅亡益見傾覆之

理昭然不矣阮福映能為天朝緝捕逃逆縛獻請

旨定奪並將安南舊額

勅印遣使呈繳深為恭順茲表陳稱兵額未本係為伊

先世復僻雖撫有國邑不敢擅專虔遣陪价納貢

請封除將表文請賜建國名號之處交大學士會

同六部尚書議奏外所有安南阮光鑽獲罪覆滅

及阮福映恭順出力緣由先行通諭中外知之欽

此

1146 軍機大臣 字寄

雲貴總督琅 嘉慶七年十二月十九日奉

上諭琅玕奏仍赴軍營督辦夷匪並近日連得勝仗

情形一摺據稱獨村坪一帶及康普小維西均有

餘匪勾結出沒滋擾其獨村坪地方經泰將成文將七聚安邦吉那兩寨賊人痛加剿殺並經烏大經督兵進剿康普小維西等處亦據張玉龍具報得有勝仗等語琅玕甫經回省月餘該逆等復行渡江滋擾實由伊前此辦理未能妥協所致且琅玕于經理興義青苗軍需等事諸多含混現已交部嚴議琅玕此時仍赴軍營務應勉力妥辦迅速嚴事尚可稍贖前愆該逆等俱屬江外標匪始則畏懼潛逃繼復偷渡勾結以致江內降夷又生反復看此情形非獨恒乍綱一人從中煽誘竟係江外夷匪指稱恒乍綱乘間滋擾殊為可惡不可不大加懲創琅玕當督率將領將該匪痛剿一二仗俾該夷等知所畏懼堅其懼伏之心然後設法解散撫緝俾永遠不生反側方為妥善現據摺內稱尚未據報大雪封山必須趕緊辦理等語該雲山深林密如遇雪封瘴氣自應暫止進兵現在雪未封山正應迅速進剿倘稍稽時日既恐為雪所阻如俟至春融雪化瘴氣又必漸盛輾轉稽延何時始能辦竣琅玕提當趁此可以進兵之時安速剿

捕勿稍遊玩為要至所林遠調官兵緩不濟急不若就近雇用夷勇村民一節該夷民等路途熟悉登山涉險素為慣習且以夷攻夷事更有潛將未辦竣後遣散歸農亦不致有糜費事屬可行至恒乍綱為前此起事首犯此特雖非伊在內勾結亦不可任其漏網既據該地方官探有踪跡自應購線緝務期弋獲至總兵張玉龍於賊匪偷渡過江疎於防範該督奏請交部議處自屬咎所應得但張玉龍現在康普小維西等處帶兵打仗所有該鎮議處之處著俟標匪勒竣後再行奏明核辦此後如有打仗得勝情形方可由驛發摺亦祇須用四五百里不得輕用急遞將此由四百里諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1147 本日琅玕摺內稱前此標匪偷渡過江係由未經設卡之處寔不能指西何營卡地但總兵張玉龍係督防之員即難辭咎請將該鎮交部議處等語臣等查張玉龍現在康普小維西等處帶

1148 兵打仗可否俟勦捕獲匪完竣後再為核辦抑先

行文部核處伏候

訓示遵照擬寫謹

奏

十九日

1149 嘉慶七年十二月十九日奉

旨喀喇沙爾印房主事職銜鐸明兼辦印房管理糧餉主事職銜伊精額兩次錯擬罪名本應照例各降三級調用再降一級留任今據明與奏鐸明伊精額在該處年久於夷情尚為熟悉著加恩改為革職留任以觀後效餘依議欽此

1150 臣等謹將工賑紀事

御製序一篇補行刊刻冠于簡端又

御製詩內蒙

皇上指出錯誤二處並據英和趙秉冲等校出應改各處俱敬謹改刻裝釘完竣將預備陳設之二十分恭呈

御覽其

頒賞書一百部一體照改發給謹

奏

十二月十九日

遵

旨詢問噶爾丹錫勒圖呼土克圖據稱謹擇於十二

月二十二日起二十四日止噶爾丹錫勒圖呼

土克圖咱雅班第達呼土克圖帶全扎薩兒刺

嘛等一百五十名在

弘仁寺念誦毘羅經藥師經羅漢經等語謹

奏

十二月十九日

1151 嘉慶七年十二月二十日內閣奉

上諭御史朱紱奏請寬地方官去思碑例禁一摺所見甚屬非是守令職司民牧分應廉潔自矢樞宇為懷果有善政及民自必口碑載道聞久派傳原不假區區製衣勒碣矜飾虛聲

世宗憲皇帝

高宗純皇帝屢申飭禁意在崇實無浮使人皆盡心實政勉效循良若如該御史所奏專以外飾之繁文驗在官之賢否如從前甘肅即有抑勒部民製造衣傘之事亦豈盡足憑耶摠之地方官惟在個幅無華實至者名自歸上年直隸省知縣朱杰錢桂盡心賑務悉遠閭閻及錄事去官百姓等愛戴戴留奏聞後均經格外加恩朕亦何嘗不以輿論之公獎循良之績但不必特寬例禁政開沽名釣譽之端且各省從前去惡德政等碑俱經仆毀又豈有復令建立之理朱斌不曉事體著飭行原摺撤還欽此

1152 嘉慶七年十二月二十日奉

旨談祖蘭彭大修羅有尚毛敬昭牛曾若均著准其捐復盧溶黃聘三張文策均不准其捐復欽此

1153 嘉慶七年十二月二十日內閣奉

上諭現在恭慕

高宗純皇帝實錄已進至乾隆二十年所有在館官員及謄錄供事等俱著交部照例議叙欽此

1154 嘉慶七年十二月二十日內閣奉

上諭惠齡奏請銷部駁西寧軍需銀兩一摺前此西寧官兵調往貴德循化邊界塔剌野番共動用銀兩經戶部議以事竣未即報銷且未經出境與例不符所駁固是今該督查明此項官兵出口較遠難照內地檢捕盜賊之例且銀兩業已支用共報銷送亦因案件繁多挨年辦理尚係實在情形所有此案動用銀五萬餘里兩著加恩准其據實咨部分款報銷不可稍有冒濫欽此

1155 軍機大臣 字寄

河東河道總督裕 嘉慶七年十二月二十日奉
上諭本日嵇承志由驛遞到恭報瑞雪一摺各省地方如遇望孔譯殷之時經將旨詢問原准由驛馳奏以慰塵注本年東省並未缺雨而冬月曾否得雪亦未降旨垂詢今濟寧一帶于臘月中旬得雪三

寸儘可再差齎奏何必由驛馳報即摺內運河挑
淺工程亦祇係尋常事件濟寧距京不遠不過數
日即可到京乃輕用驛遞特致咎人猜疑殊屬非
是祗承志者傳旨申飭將此侯祗承志摺便諭令
令知之欽此遵

旨寄信前來

1156 軍機大臣 字寄

廣西巡撫孫 嘉慶七年十二月二十日奉

上諭昨據孫玉庭奏進阮福映請封表文一摺已降
旨諭令該撫約計該貢使何日可以到京先行具
奏茲朕復將阮福映所進表文詳加披閱其所請
以南越二字錫封一節斷不可行南越之名所包
甚廣考之前史今廣東廣西地界亦在其內阮福
映邊徼小夷此時即全有安南亦不過交趾故地
安得遽稱南越安知非阮福映欲以此誇示外夷
以請易國號先為嘗試或該國長日荒陋無聞委
行牽引亦不可知自應加以駁斥已令軍機處代
擬撤諭一道並將原表二函裝交孫玉庭該撫接

奉後即照向來所用撤諭式樣騰寫裝給其額懇
請封表一道尚可暫留至請錫封南越名國表一
道即同撤諭一併裝回看其接奉之後如何稟覆
如果阮福映自認錯誤恭謹謝過具稟該撫或續
有表文該撫即一面奏聞一面即同請封表貢令
該貢使一併資進朕自當加恩封為安南國王優
加賞著該阮福映必欲遂其所欲再行請續有
稟像著該撫先行據實陳奏其原遣使臣及所進
表貢仍留粵西候朕另降諭辦至阮福映求封南
越顯有特功要請情事恐其心存叵測所有廣東
廣西一帶海道邊關俱著密飭地方文武各官留
心防備不可稍涉疎懈是為至要再臬司公我原
因陛見之便派令伴該貢使進京此時該貢使不
即起程自應稍為停待毋庸先行來京也將此由
五百里傳諭孫玉庭並諭瑚圖禮知之欽此遵

旨寄信前來

1157

廣西巡撫全銜 為照會事照得本年秋間據
貴國長稟稱遣使賞表恭謝

天恩呈繳

天朝頒賜阮光纘敕印並將洋盜莫觀扶等縛獻復

據稟湖^註六月十七日攻破昇隆城擒獲阮光纘

弟兄並已伏誅各情由本部院已一一具

奏

大皇帝以阮光平從前臣事

天朝尚為恭順是以

高宗純皇帝錫之敕命備位藩封終其身得膺

恩眷若阮光纘果能祇承世守虔共服事自當長被

恩施今阮光纘寓留內地盜匪肆劫商旅屢經奉

旨飭禁阮光纘不但不遵照查拏且招納遁逃竄以

官職負

恩反噬實與洋盜無異該阮光纘此時尚膺封守必

當聲罪致討以儆兇詐今貴國長業將阮光纘

擒殺並將盜匪莫觀扶等縛獻為

天朝綏靖海疆具見恭順之忱深蒙

嘉獎是以本部院前曾面諭陪介告知貴國長將稱

兵得國納款輸誠各緣由遣^度具表文遣使恭賀

到關本部院當代為呈

奏

大皇帝自必

俯鑒惻忱

寵加恩錫今據貴國長寄到稟函並呈遞

表文二件其請

封進

貢一表尚為合式至懇求

賜封國錦南越一表於義殊有未協南越之名始於

漢^書彼時中朝未立郡縣尉佗竊據海濱自為

雄^{尊大}長考其封域今之廣東廣西各郡亦在境內

今

天朝撫有四海兩廣地方久屬內地版圖貴國僻在

徼外中畫郊圻祇係南越一隅從前貴國長據

用舊名或即^因國籍無聞未經深考今既臣事

天朝籲求

錫命自當考訂疆域定號稱藩豈得藉謬沿訛漫瀆

天聽况安南國自宋元明以來代易數姓均^因未受^{則一}

貴國長此時請

封自應仍以安南二字另頒

錫稱其所請

賜稱南越一節斷不可行本部院未敢遽行呈

奏特將此件

表文寄回惟貴國長裁酌遵照飭知使臣將請

封南越國號一表撤下詳悉具覆本部院接到回音

即當飭令使臣將前件求

封表文恭賞詣

關自必蒙

大皇帝恩允貴國長得備藩封撫有疆土從此長承

天眷茅社永寧是所欣企須至照會者

1158 臣等將阮福映恭進

表文二件詳細閱看其請

封進貢表內有正名定分統攝有邦字樣措詞過當

但並未提及南越封號之語至請

封南越一節係屬另

表專奏現在擬寫檄諭可否依將請

封南越一表令孫玉庭等遵照駁回其請

封進貢一表或交孫玉庭暫存俟其稟復如將請易

國號一表撤去仍准令該貢使恭賞前來京

似較直捷伏候

訓示遵行謹

奏

1159 嘉慶七年十二月二十一日內閣奉

上諭盛京工部侍郎員缺著巴寧阿補授欽此

1160 軍機大臣 字寄

江南提督哈 嘉慶七年十二月二十一日奉

上諭據哈豐阿奏帶領官兵趕赴宿州剿擊匪犯一

摺此事前據費淳等奏到宿州匪徒經新陞臬司

珠隆阿會同總兵王集賢率兵勇圍攻州署於本

月初八日將該匪等全數殲獲民情現俱安帖該

提督儘可毋庸帶兵前往轉致該處民心生疑

駭並不必因該處有經寧輯在彼彈壓搜緝該提

督若於途次聞知宿州寧謐之信業經回至松江

則已倘尚未接到費淳等知會不拘行抵何處接

奉此旨即著回任並將所調鎮江兵丁各令歸伍

現在江省洋面雅安靜仍須督率勇弁加意巡防
防勿稍疎懈為要將此諭令知之欽此遵
旨寄信前來

1161 查本年朝鮮國遣使進貢所有例

賞該國王及使臣等物件應照向例由禮部具

奏辦理至使臣等於新正在

山高水長筵宴例有

加賞物件及該使臣在

圓明園恭和

御製詩亦例有

持賞國王使臣等級及福方緞箋等件屆期照例頒

給臣等謹查明向例分別擬

賞物件開單進

呈謹

奏

嘉慶七年十二月二十二日奉

旨知道了欽此

1162 朝鮮國使臣三員

正使青城尉沈能建

副使禮曹判書韓晚裕

書狀官司憲府並執義閔命琳

1163 山高水長筵宴例

加賞朝鮮使臣物件清單

正使一員

錦三疋 漳絨三疋

大卷八絲緞四疋 小卷五絲緞四疋

大荷包一對 小荷包四個

副使一員書狀官一員

錦各二疋 漳絨各三疋

大卷八絲緞各疋 小卷五絲緞各三疋

大荷包各一對 小荷包各四個

1164 朝鮮使臣恭和

御製詩擬

賞該國王物件清單

蟒緞二疋 福字方一百幅

雕漆器四件 大小絹箋四卷

墨四匣 筆四匣

硯二方 玻璃器四件

擬

賞朝鮮使臣物件清單

正副使書狀官三員

大緞各一疋 筆各二匣

墨各二匣 箋紙各二卷

1165 嘉慶七年十二月二十二日奉

旨德楞額奉候爵勒保伯爵均著照例按次承襲賽沖阿揚遇春均著作為二等輕車都尉其勒保伯爵名號著仍用原定威勤字樣餘依議欽此

1166 嘉慶七年十二月二十二日奉

旨韓永德著交該督查明前在軍營如果實在出力准其入伍効用照例拔補欽此

陸守備謝錫永德懇求効用

1167 嘉慶七年十二月二十三日內閣奉

上諭江西九江鎮總兵員缺著德成額補授欽此

1168 軍機大臣 字寄

巡視東漕御史博 嘉慶七年十二月二十三日奉

上諭據博慶額由驛遞到恭報瑞雪及督備挑工一摺東省查看河道係該御史分內專管之事祇須將工次情形照例差人彙呈即因濟寧一帶得有雪澤亦儘可隨摺附奏何必輕動郵遞致勞駑站博慶額著傳旨申飭將此遇有東省摺便諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1169 嘉慶七年十二月二十四日內閣奉

上諭據費淳王汝璧奏審明宿州戕官放火劫庫劫囚首從各犯分別辦理一摺已交三法司核擬具奏矣此案當費淳等初次奏到時朕以該處百姓戕官放火必係該署州平日居官有取怨於民之

處或此次辦理賑務有剋減侵漁等弊以致釀成
事端特降旨諭令貴溥等詳細確查如查明該署
州果有殃民激變情事則貪劣之員法所不貸雖
本身即已被戕尚當將其家屬治罪以儆官邪並
不因恐遂置之不辦長百姓口風今據貴溥等奏
稱該署州章鼎平時官聲尚好本年辦賑亦俱妥
協惟於該匪等十月間收徒演習私造刀鎗未能
查辦其咎止於失察該匪王湖名等皆係本地民
人膽敢捏造咒語託名邪教糾約徒黨戕官滋事
劫庫劫囚以食毛踐土之民公然肆其暴撓戕害
官長滋擾鄉里寔屬罪不容誅章鼎平日居官既
無飲怨召衅方蹟^今慘遭戕害殊堪憫惻著加恩照
陣亡例賜卹伊妻許氏見人眾勢克遂懷印信躲
避不致遺失尚屬晚事並被賊鎗傷其目著費洋
千汝壁傳旨酌給盤費銀兩賞令回籍並咨查
章鼎原籍如尚有子嗣即將應得世職令其承襲
仍俟服滿後帶領引見如無子嗣即令伊親姪章
嵩襲職承嗣把總胡五一聞州庫被劫首先前往
救護中身身故把總費沛外委張永清均以殺賊

陣亡俱著咨部加一等賜卹其被戕之都司楊荃
守格金振兵丁宋山萬玉春曾文華張成志宋元
該署州親屬華友章龍部泳沈以懋陳震宋太和
范屏亭陣亡紳士秦攀元兵丁趙永俊徐得明熊
山曾尚友張志邦馬得忠童有年吳註鄉弟杜如
山陳如玉劉懷信陳大有周四海許添五劉岳均
著咨部賜卹至單開勦堵出力文武各員除鳳陽
府知府楊廷瑛遊擊舒凌阿守格艾鳳翹業經降
旨議叙外其試用直隸州州判張尚勳試用縣丞
李佑民黃光裕方宗毅千總武韓貴占魁俱著交
部議叙至該處紳士等聞知該匪滋事之信莫不
志切同仇不待官為勸諭即已願募鄉勇二千餘
人不分晝夜堵在四門使該匪等不能竄出官兵
使^始得入城搜捕且能殺賊多人急公奮勉寔屬可
嘉休致遊擊徐大鵬著加恩起用並賞戴花翎即
送部引見武舉強彩堂著以千總補用武生強治
平秦攀魁秦攀等邱惠玲潘經明趙辛遠呂元剛
均著以把總補用監生單佐商著以佐雜補用以
示獎勵摺單併發欵此

1170 軍機大臣 字寄

丙江總督費 安徽巡撫王 嘉慶七年十二

月二十四日奉

上諭費淳等奏審明宿州戕官劫獄一案其在事出力之文武官員紳士及被戕之官兵等均明降諭旨分別加恩矣此案現在辦結地方業經寧謐費淳等在彼別無應辦之件惟當曉諭居民以此次皆係刁民滋事數日內即經官兵圍捕將首犯王潮名劉屍鼎示黨惡助勢各犯亦俱按律正法其帶頭義民在事出力之紳士等業經分別加恩爾等妥分良民惟慮彼此勸戒奉公守法永安生計費淳於曉諭後暫駐一二日即回江寧辦理本任事務王汝璧係本省巡撫自履多任數自察看情形俱臻安貼亦著即回本任辦事至被劫監犯未經投首者尚有三十三名仍著嚴飭所屬迅速查拏其業經投首者分別減等辦理將此諭令知之欽此

1171 嘉慶七年十二月二十四日內閣奉

上諭授初彭齡奏滇省辦理維西軍務動用司庫銀兩布政使陳孝昇返西道薩榮安通同樊混並提存閩稅私支養廉及管理關廠縱僕橫行促漁肥己各款必須徹底跟究除陳孝昇薩榮安俱著解任開缺派兵部侍郎那彥寶大理寺少卿章煦馳驛前往查辦那彥寶即著署理雲南巡撫印務初彭齡著俟那彥寶到後即行來京供職欽此

1172 軍機大臣 字寄

刑部侍郎著雲南巡撫初 嘉慶七年十二月

二十四日奉

上諭初彭齡奏查明維西軍務動用銀兩數目及現在辦理地方各情形一摺已明降諭旨令侍郎那彥寶署理雲南巡撫同大理寺少卿章煦馳驛前往審辦此案並將藩司陳孝昇道員薩榮安俱著解任候質矣初彭齡接奉此旨即著派委委員將陳孝昇薩榮安妥為看守靜候那彥寶等到彼查辦初彭齡俟那彥寶到滇交卸後即行回京供職

可也將此諭令知之欵此遵
旨寄信前來

1173 嘉慶七年十二月二十四日內閣奉

上諭那彥寶現在出差所有兵部右侍郎事務著貢
楚克扎布署理其那彥寶所署達慶倉場侍郎事
務著額勒布暫署欵此

1174 嘉慶七年十二月二十四日內閣奉

上諭百齡著調補雲南布政使所遺貴州布政使員
缺著公我補授欵此

1175 嘉慶七年十二月二十四日內閣奉

上諭雲南迤西道員缺著吳民系補授欵此

1176 嘉慶七年十二月二十五日內閣奉

上諭玉德等奏福建台灣縣知縣係海疆要缺現在
合例可調之員難期勝任請將松溪縣知縣薛志
亮調補等語閩省漳泉台灣等府所屬知縣缺出

如實無合例堪調之員原准該督撫於不合制人
員內揀選專摺請調今台灣縣知縣員缺既據該
督撫聲明並無合例勝任之員可以陞調著照五
德等所請准以薛志亮調補欵此

1177 嘉慶七年十二月二十五日奉

旨景燭應交銀兩於一年限外如數全完著准其減
等仍交宗人府照例圈禁俟限滿之日再行奏明
請旨餘依議欵此

1178 嘉慶七年十二月二十五日內閣奉

上諭琅玕奏請將傷病未痊之遊擊德英額准予休
致所遺之缺有候補遊擊國中堪以補授等語著
照所請德英額准其休致回籍國中現隨提督張
玉龍在康普一帶防堵所有提標右營遊擊員缺
即著國中補授欵此

1179 嘉慶七年十二月二十五日奉

旨知道了其四次不到之補國將軍亮鳳著照例察

議欽此

陪祀不到

1180 嘉慶七年十二月二十五日內閣奉

上諭據盛住等奏承辦八旗營房監督候選州同洪廷裕呈請降改京職等語洪廷裕派辦工程既有經手錢糧事件著加恩以七品小京官即用欽此

1181 嘉慶七年十二月二十五日奉

旨著於廣儲司庫內撥銀二十萬兩部庫內撥銀十九萬六千四百四十兩零交盛住等收貯以備要工需用欽此

1182 嘉慶七年十二月二十五日奉

旨此案前任徐溝縣知縣楊廷瑛於夏承基殿凡李超凡一案未能驗出生傷率准保結本應交部嚴議但念楊廷瑛現在鳳陽府知府任內辦理宿州匪犯尚為出力楊廷瑛著加恩改為交部議處餘依議欽此

1183 嘉慶七年十二月二十五日內閣奉

上諭廣西按察使員缺著齊布森補授欽此

1184 臣等查昨日

簡放迤西道之吳氏秉所遺貴州都勻府知府一缺

係屬

題缺是以未經擬馮空名

諭旨進

呈謹

奏

三月二十五日

1185 嘉慶七年十二月二十六日內閣奉

上諭前因恭纂

高宗純皇帝實錄已進至乾隆二十年時降旨將在館

官員及捲錄供事等交部議叙茲據該總裁等將

在館官員等分列等第開單具奏並聲明總裁擬

纂官不敢仰邀議叙敬念

皇考高宗純皇帝享國久長

功德昭垂超越前古恭纂

實錄卷帙繁多該總裁總纂等盡心編輯闡釋

前謨料來全書告成日當一體給予議叙至尚書彭元

瑞專勸纂本尤為出力著先先行交部議叙其在館

奮勉列為超等之提調官員外郎玉寧著照所請

以四品京堂阻用遇有缺出開列請旨沈馬施均

著加恩遇有應行開列之處開列在前請旨阻用

仍將該二員交部議叙纂修官侍讀學士法式善

著交部議叙校對官候選郎中謝瑪鎮候選知縣

朱振聲朱景華候選鹽大使孫鑄候選七品小京

官曹江均著加恩各照本職即用餘依議該部知

道摺單並發欽此

1186 嘉慶七年十二月二十七日內閣奉

上諭昨因恭纂

皇考高宗純皇帝實錄已進至二十年特降旨將在館

人員分別賞給議叙並以總裁彭元瑞專勸纂本

尤為出力祝著交部議叙茲據彭元瑞具摺懇辭

且聲明從前雍正年間恭纂

聖祖仁皇帝實錄監修總裁張廷玉等俱懇辭議叙曾

蒙

勅下諸王九卿議准等語此次彭元瑞澄情懇辭若仍

文諸王九卿議奏亦必援成例議准轉涉繁文著

即照所請將彭元瑞交部議叙之處暫行停止統

俟將來

實錄全部告成再行給予優叙欽此

1187 軍機大臣 字寄

江南河道總督吳 嘉慶七年十二月二十七

日奉

上諭吳璥奏江南徐鳳等所地廣兵卑必得鎮以重

兵請密訪督撫等設法整頓一摺該河督所奏意

在添兵以為地方彈壓但國家兵額有定經費有

常若因一隅偶有事端輒欲議增兵數則川陝楚

三省被賊蹂躪州縣非止一處又豈能盡議添兵

乎兵不在多而在精提鎮地方大吏就現有之兵

隨時訓練實力整頓以期緩急可恃即如江南兵

丁素非趨健而前日宿州匪犯滋事經粵春鎮王

集帶兵前往立就滅除可見該鎮標兵平日尚能訓練可資得力即河標額設兵丁該河督如果勤令將弁認真操演亦可備捍衛之用又何恙存城兵少不足以資鎮懾耶特此附伊摺便諭令知之

欽此遵

旨寄信前來

1188 嘉慶七年十二月二十八日內閣奉

上諭本日遞到全保由驛馳奏之摺當加披閱祇係奏報該省得雪情形及糧價清單別無緊要事件督撫等身任封疆於地方應行陳奏之事自當差人責摺恭遞乃近來各督撫等往往於尋常照例事件輒用由驛馳奏殊屬無謂朕念切民依外省雨雪情形時深縈慮如果該省待澤稍殷或經待旨垂詢自不得不由驛奏報若雨_澤調勻循例奏聞又豈得輕用馬遞徒勞驛站耶除全保原摺存俟該省摺差之便再行發還外將此通諭各省知之欽此

1189 軍機大臣 字寄

吉林將軍

威京將軍 直隸山東江蘇浙江福建各督撫

嘉慶七年十二月二十八日奉

上諭秀林奏吉林遣犯蔡晚在配脫逃一摺蔡晚係聽從行劫斃傷事主之犯因免死減等發遣吉林為奴膽敢在配脫逃情殊可惡該犯籍隸福建脫逃後非潛回本籍即沿途逗遛著傳諭威京將軍直隸山東江蘇浙江福建各督撫飭屬一體嚴拿務獲毋任逃颺所有該犯年貌單著抄寄閱看將此諭令知之欽此遵

旨寄信前來

1190 臣等查新正應行

加恩各省除山東浙江二省現尚未被覆奏外其餘

直隸江蘇安徽江西湖北陝甘六省已據各該

督撫陸續奏到奉

硃批候旨行欽此 臣等謹擬寫

諭旨六道恭候

欽定批下日期以便新正遵照頒發謹

奏

十二月二十八日

1191 嘉慶七年十二月二十八日奉

旨知道了這所得盈餘銀兩著交圓明園三萬九千零兩
其餘二百二十九兩零著賞給成熙欽此

1192 臣等查張家口稅務上屆兆傑任內實存盈餘

銀四萬六百六十八兩零內交

圓明園四萬三百兩其餘三百六十八兩

賞給兆傑此次成熙一年期滿實存盈餘銀三萬九

千六百七十九兩零較上屆少收銀九百八十

九兩零應交

圓明園若干兩

賞給該監督若干兩之處謹於擬寫

諭旨內空出銀數伏候

欽定謹

奏

1193 查向例軍機處所奉

硃批改定

諭旨及各該處繳到

硃筆均於年底恭繳本年除十一月以前軍機處所

奉

硃筆其緊要者日等均已先經檢出按月恭繳外所

有十二月分緊要

硃筆謹另為一束同本年清漢尋常事件所奉

硃筆彙齊繳進又各該處陸續繳到

硃筆一併開列清單恭繳謹

奏

十二月二十八日

1194 恭繳清字

硃批二十三封

保寧一封

晉昌一封

秀林一封

那奇奏一封

松筠一封
 綿佐一封
 蘊端多爾濟一封
 富俊一封
 貢楚克扎布一封
 官明等一封
 永保一封
 策拔克一封
 明興一封
 全福一封
 富種阿一封
 果勒明阿一封
 永懋一封
 伊冲阿一封
 綳武布一封
 吉祿一封
 都爾嘉一封
 興肇一封
 阿爾塔錫第一封

1195 恭繳漢字
 硃批二十四封
 德瑛一封
 費淳一封
 五德二封
 錢樾一封
 潘世恩一封
 那彥寶一封
 吉綸一封
 祖之望一封
 曹振鏞一封
 梁上國一封
 多隆武一封
 徐如澍一封
 錢楷一封
 周錫一封
 百貴一封
 文霽一封
 汪志伊一封

秦瀛一封

曾文埴一封

普福一封

圖桑阿一封

伊桑阿一封

兆傑一封